

新宿区高齢者の保健と福祉に関する 調査報告書



令和8年(2026年)3月

新宿区

目次

調査概要

調査の目的.....	3
調査の種類.....	3
調査の方法.....	4
この報告書の留意点.....	6

集計結果

1 一般高齢者調査.....	11
1. あなた自身のことについて.....	11
2. あなたのご家族や生活状況について.....	13
3. からだを動かすことについて.....	15
4. 食べることについて.....	22
5. 日ごろの生活について.....	30
6. 日ごろの活動について.....	35
7. たすけあいについて.....	39
8. 健康状態について.....	43
9. 介護予防について.....	50
10. かかりつけの医療機関について.....	51
11. 在宅療養等について.....	53
12. ACP（人生会議）について.....	55
13. 認知症について.....	56
14. 権利擁護について.....	58
15. 災害時要援護者対策について.....	58
16. 健康・福祉サービスの情報や相談窓口について.....	59
17. 介護保険制度について.....	61
自由記述.....	62
2 要支援・要介護認定者調査.....	65
1. あなた自身のことについて.....	65
2. あなたのご家族や生活状況について.....	70
3. 食べることについて.....	72
4. 日ごろの活動について.....	73
5. たすけあいについて.....	76
6. 健康状態について.....	78
7. かかりつけの医療機関について.....	79
8. 在宅療養等について.....	80

9. ACP（人生会議）について.....	81
10. 権利擁護について.....	82
11. 災害時要援護者対策について.....	82
12. 健康・福祉サービスの情報や相談窓口について.....	83
13. 介護保険サービスの利用状況と利用意向について.....	85
自由記述.....	89
3 第2号被保険者調査.....	91
1. あなた自身のことについて.....	91
2. あなたのご家族や生活状況について.....	93
3. 日ごろの活動について.....	94
4. たすけあいについて.....	97
5. 健康状態や健康づくりについて.....	99
6. 若年性認知症について.....	105
7. 在宅療養等について.....	106
8. ACP（人生会議）について.....	107
9. 権利擁護について.....	108
10. 災害時要援護者対策について.....	108
11. 健康・福祉サービスの相談窓口について.....	109
12. 介護保険制度について.....	110
自由記述.....	111
4-1 ケアマネジャー調査.....	113
1. 勤務先の事業所の概要について.....	113
2. あなた自身のことについて.....	115
3. ケアマネジメントの状況について.....	117
4. 高齢者総合相談センターのケアマネジャーへの支援について.....	119
5. 各種連携の状況について.....	121
6. 在宅医療への対応について.....	125
7. ケアプランへの組み込みについて.....	126
8. 在宅高齢者に必要な支援について.....	129
9. 認知症について.....	131
10. ACP（人生会議）について.....	132
11. ケアマネジャーの仕事について.....	133
12. スキルアップについて.....	133
13. 今後の意向について.....	135
14. 新宿区への要望について.....	136
自由記述.....	139

4-2 ケアマネジャー 聞き取り調査	140
1. 実施概要.....	140
2. 実施結果.....	140
3. まとめ.....	143
5-1 介護保険サービス事業所調査	145
1. 貴事業所の概要について.....	145
2. 収支状況・処遇改善の状況について.....	147
3. 今後の参入意向について.....	152
4. 総合事業(介護予防・生活支援サービス事業)について.....	153
5. 人材の確保・定着・育成について.....	153
6. 高齢者総合相談センターの事業所への支援について.....	159
7. 各種連携の状況について.....	162
8. 地域貢献活動について.....	164
9. 在宅医療への対応について.....	166
10. ACP(人生会議)について.....	167
11. 尊厳の保持について.....	168
12. 前年度(令和6年度)の報酬改定について.....	169
13. 新宿区への要望について.....	170
自由記述.....	172
5-2 介護保険サービス事業所 聞き取り調査	173
1. 実施概要.....	173
2. 実施結果.....	173
3. まとめ.....	175
6 在宅介護実態調査	177
1. 対象者の属性について.....	177
2. ご家族等介護者の状況について.....	179
3. 認知症について.....	186
自由回答.....	188
【参考】在宅介護実態調査(厚生労働省 在宅介護実態調査自動集計分析ソフト による集計分析結果)	189

参考資料

調査票.....	255
----------	-----

調査概要

調査の目的

本調査は、高齢者が住み慣れた地域の中でその人らしく安心して心豊かに暮らし続けることができるよう、区民の健康や日ごろの生活状態、介護保険サービスの利用状況や利用意向及びケアマネジャーや介護保険サービス事業所の実態を把握し、令和9年度を初年度とする「新宿区高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画」策定のための基礎資料とする。

調査の種類

調査にあたっては、次の8種類の調査を実施した。

調査名	調査対象	調査対象数
1. 一般高齢者調査	要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者	4,000人
2. 要支援・要介護認定者調査	要支援・要介護認定を受けている65歳以上の高齢者	1,500人
3. 第2号被保険者調査	要支援・要介護認定を受けていない第2号被保険者（40～64歳）	1,500人
4-1. ケアマネジャー調査	区内の居宅介護支援事業所に勤務するケアマネジャー	209人
4-2. ケアマネジャー 聞き取り調査	ケアマネジャーネットワーク新宿連絡会（ケアマネット新宿）に所属するケアマネジャー	78人
5-1. 介護保険サービス事業所調査	区内の介護保険サービス事業所	306所
5-2. 介護保険サービス事業所 聞き取り調査	新宿区介護サービス事業者協議会に参加している区内介護保険サービス事業所の職員	41人
6. 在宅介護実態調査	区内で在宅生活をしている要支援・要介護認定者（もしくはその介護者）	611人

調査の方法

○調査方法：

調査名	調査方法
1. 一般高齢者調査	郵送による発送・回収（礼状兼督促はがきを1回発送）及びWEB回答併用
2. 要支援・要介護認定者調査	
3. 第2号被保険者調査	
4-1. ケアマネジャー調査	
4-2. ケアマネジャー 聞き取り調査	グループ形式による聞き取り調査
5-1. 介護保険サービス事業所調査	郵送による発送・回収（礼状兼督促はがきを1回発送）及びWEB回答併用
5-2. 介護保険サービス事業所 聞き取り調査	グループ形式による聞き取り調査
6. 在宅介護実態調査	ケアマネジャーによる聞き取り調査

○調査期間/調査日：

調査名	調査期間/調査日
1. 一般高齢者調査	令和7年10月1日（水）から10月22日（水）まで
2. 要支援・要介護認定者調査	
3. 第2号被保険者調査	
4-1. ケアマネジャー調査	令和7年9月17日（水）から10月8日（水）まで
4-2. ケアマネジャー 聞き取り調査	令和7年10月16日（木）
5-1. 介護保険サービス事業所調査	令和7年9月17日（水）から10月8日（水）まで
5-2. 介護保険サービス事業所 聞き取り調査	令和7年9月17日（水）
6. 在宅介護実態調査	令和7年5月12日（月）から10月2日（木）まで

○回収状況：

調査名	調査対象数	有効回収数	有効回収率
1. 一般高齢者調査	4,000人	2,679	67.0%
2. 要支援・要介護認定者調査	1,500人	919	61.3%
3. 第2号被保険者調査	1,500人	625	41.7%
4-1. ケアマネジャー調査	209人	141	67.5%
5-1. 介護保険サービス事業所調査	306所	171	55.9%
6. 在宅介護実態調査	611人	611	100%

○回答者に占めるWEB回答の割合：

調査名	有効回収数	WEB回答数	WEB回答率
1. 一般高齢者調査	2,679人	341人	12.7%
2. 要支援・要介護認定者調査	919人	87人	9.5%
3. 第2号被保険者調査	625人	274人	43.8%
4-1. ケアマネジャー調査	141人	38人	27.0%
5-1. 介護保険サービス事業所調査	171所	76所	44.4%

この報告書の留意点

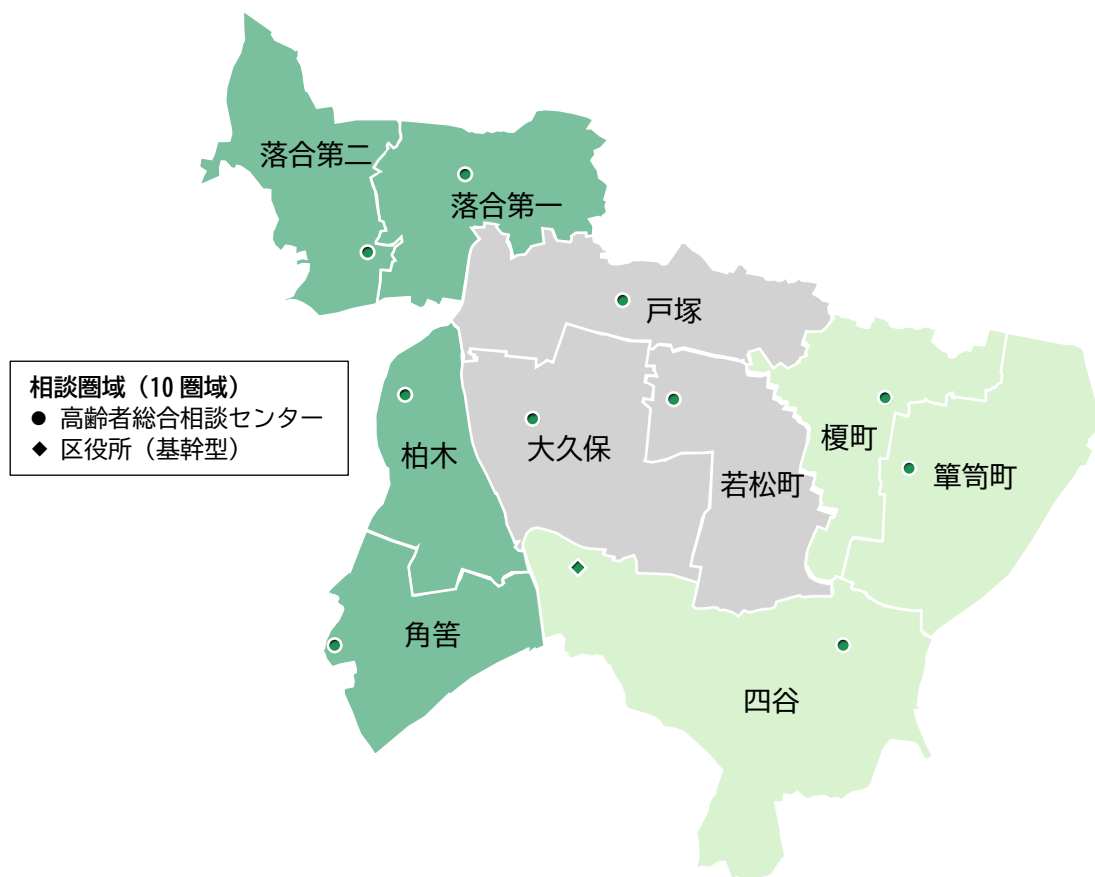
調査結果の表示方法

- 図表中の「n」は各設問に該当する回答者の総数であり、回答率（%）の母数をあらわしています。
- 回答率は小数点第2位を四捨五入して掲載しているため、合計が100%にならないことがあります。また、複数の選択肢の回答率を合計した場合、小数点第2位を四捨五入しているため一致しないことがあります。
- 回答者が2つ以上回答することができる質問（複数回答）の場合、その回答率の合計は100%を超えることがあります。
- 複数回答の図表においては、傾向をよりわかりやすくするために、「その他」「無回答」などを除き、選択肢を回答率（%）の高いものから低いものへと並び替えて表示している場合があります。
- クロス集計については、分析の柱となる項目（属性）の「無回答」は掲載を省略しています。ただし、「全体」は集計対象の全数を表示しているため、分析の柱となる選択肢の回答者数を合計しても必ずしも全体の数値とは一致しません。
- 無回答のもの、単数回答の設問において複数回答したもの、選択の判別がつかないものについてはいずれも「無回答」として集計しています。
- 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合があります。
- 選択肢「その他」の回答割合が10%を超えるものについては、代表的な意見や内容を記しています。ただし、調査票で記入欄を設けていない場合や、回答者数が少数のため分類が困難な場合は記載していません。
- 前回調査があり比較可能な設問・選択肢については、傾向分析のため表示しています。図表において、前回調査に相当する選択肢がない場合には「-」で表記しています。

圏域について

○ 報告書に記載されている「圏域」は、特別出張所管轄 10 区域で構成している「日常生活圏域」（四谷、箆笥町、榎町、若松町、大久保、戸塚、落合第一、落合第二、柏木、角筈）であり、以下のとおりである。

※日常生活圏域は東圏域（四谷、箆笥町、榎町）、中央圏域（若松町、大久保、戸塚）、西圏域（落合第一、落合第二、柏木、角筈）の3つの圏域に分けている。



集計結果

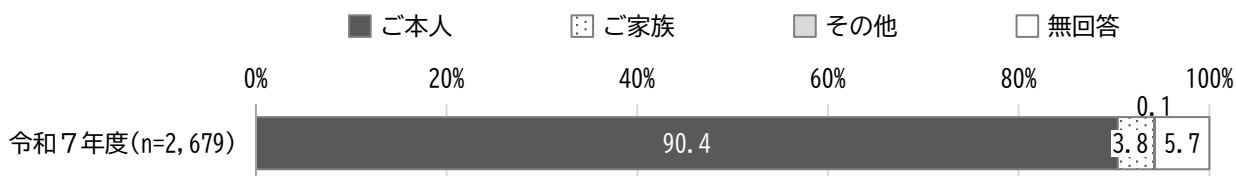
※各調査の集計表は新宿区のホームページに掲載しています。

1 一般高齢者調査

1. あなた自身のことについて

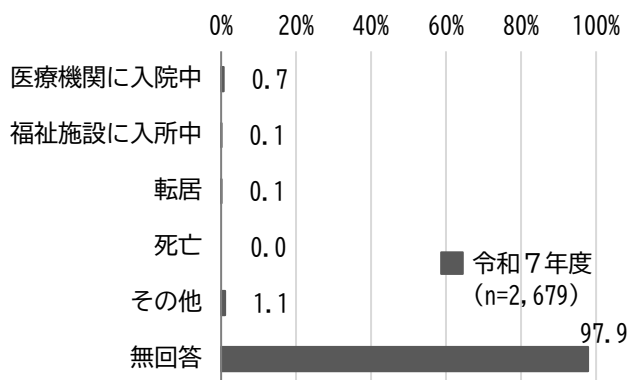
調査票を記入した人（単数回答）

【図表 1】 調査票の記入者



ご本人が何らかの事情によりご不在の場合（単数回答）

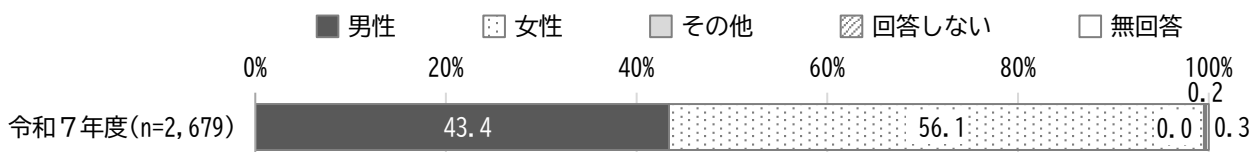
【図表 2】 不在の事情



不在の事情	人数
医療機関に入院中	20
福祉施設に入所中	2
転居	4
死亡	1
その他	30
上記に該当しない	2,622
合計	2,679

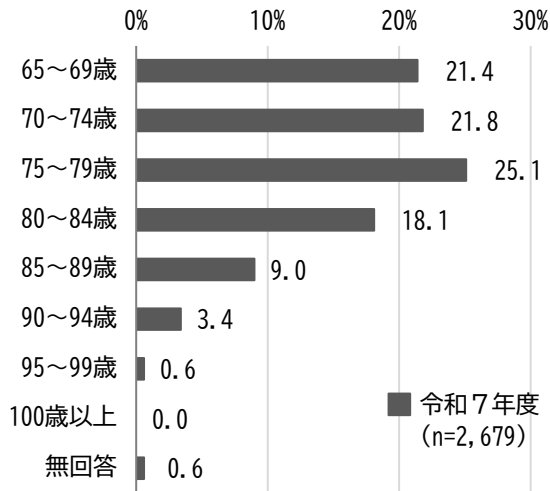
問1 性別を教えてください。（単数回答）

【図表 3】 性別



問2 年齢をご記入ください。(単数回答)

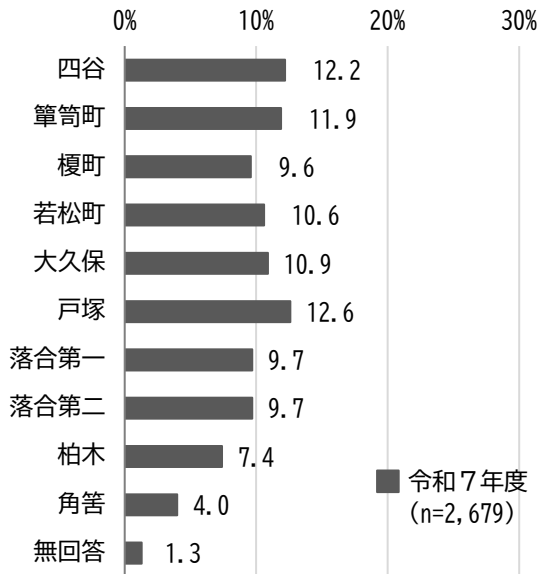
【図表 4】年齢



年齢	人数
65～69歳	573
70～74歳	585
75～79歳	673
80～84歳	486
85～89歳	241
90～94歳	90
95～99歳	16
100歳以上	0
無回答	15
合計	2,679

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか。(単数回答)

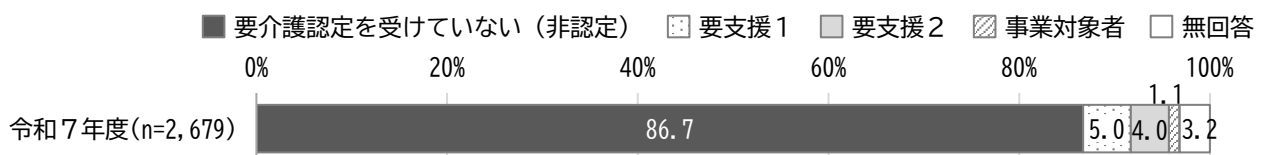
【図表 5】居住地域



居住地域	人数
四谷	327
簞笥町	319
榎町	258
若松町	284
大久保	293
戸塚	338
落合第一	259
落合第二	261
柏木	198
角筈	106
無回答	36
合計	2,679

問4 あなたの現在の状態は、次のうちどれですか。(単数回答)

【図表 6】現在の状態

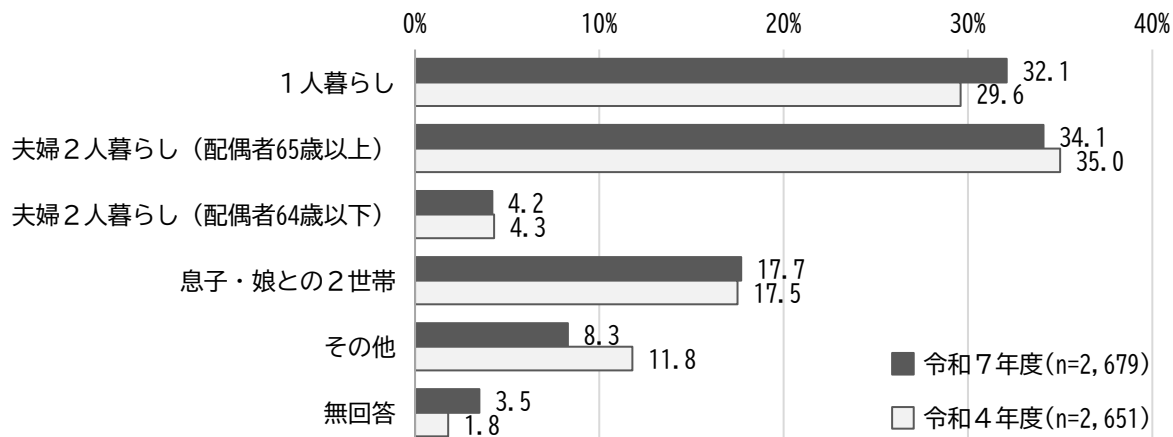


2. あなたのご家族や生活状況について

問5 家族構成を教えてください。(単数回答)

「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が34.1%で最も多く、次いで、「1人暮らし」が32.1%、「息子・娘との2世帯」が17.7%となっている。

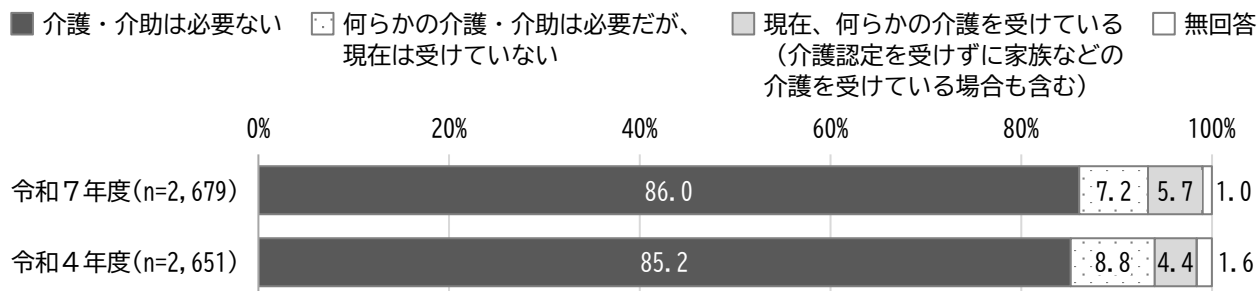
【図表 7】 家族構成〈前回比較〉



問6 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(単数回答)

「介護・介助は必要ない」が86.0%で最も多く、次いで、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が7.2%、「現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」が5.7%となっている。

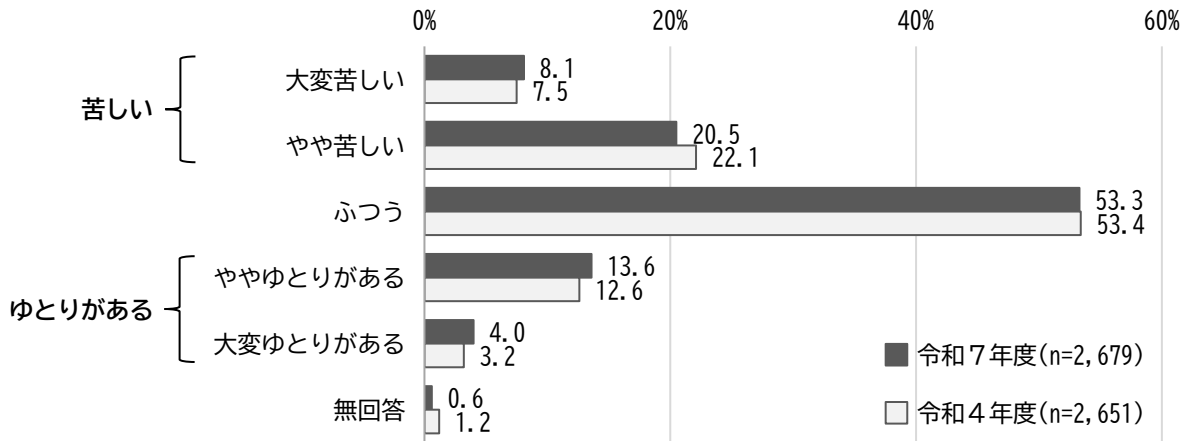
【図表 8】 普段の生活での介護・介助の必要性〈前回比較〉



問7 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(単数回答)

「ふつう」が53.3%で最も多く、次いで、「やや苦しい」が20.5%、「ややゆとりがある」が13.6%となっている。「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた「苦しい」は28.6%となっている。一方、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」を合わせた「ゆとりがある」は17.6%となっている。

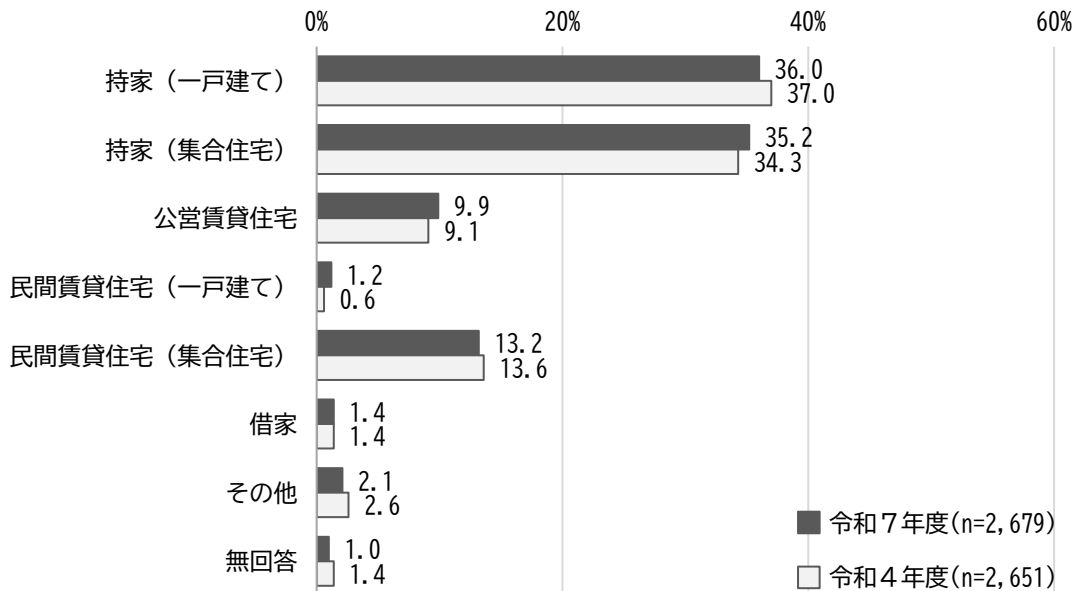
【図表 9】現在の暮らし向き〈前回比較〉



問8 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(単数回答)

「持家（一戸建て）」が36.0%で最も多く、次いで、「持家（集合住宅）」が35.2%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が13.2%となっている。

【図表 10】住居の形態〈前回比較〉

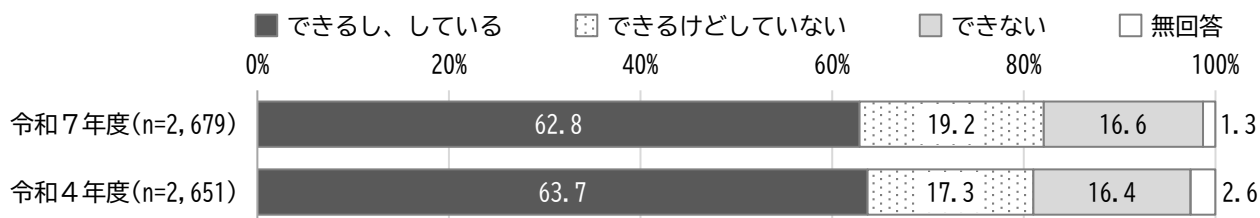


3. からだを動かすことについて

問9 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(単数回答)

「できるし、している」が62.8%で最も多く、次いで、「できるけどしていない」が19.2%、「できない」が16.6%となっている。

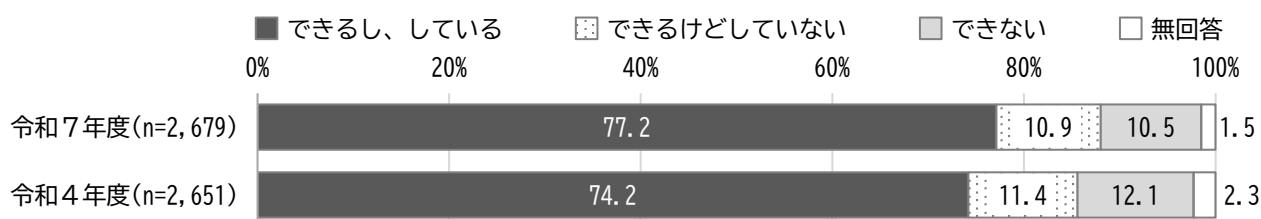
【図表 11】 階段を昇る状況〈前回比較〉



問10 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(単数回答)

「できるし、している」が77.2%で最も多く、次いで、「できるけどしていない」が10.9%、「できない」が10.5%となっている。

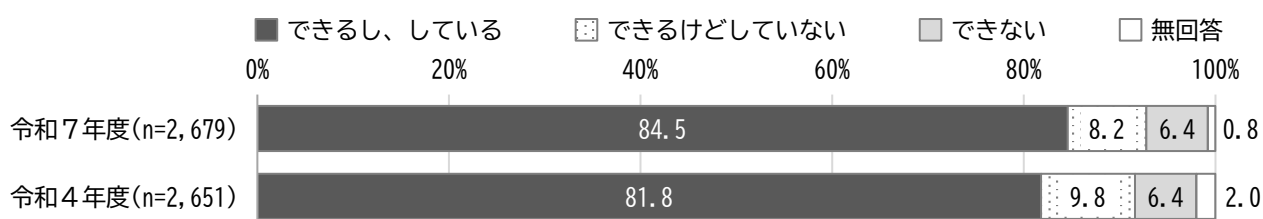
【図表 12】 立ち上がりの状況〈前回比較〉



問11 15分位続けて歩いていますか。(単数回答)

「できるし、している」が84.5%で最も多く、次いで、「できるけどしていない」が8.2%、「できない」が6.4%となっている。

【図表 13】 歩行の状況〈前回比較〉



◆各種リスクの状況

厚生労働省の『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き』において、リスク把握の考え方を示された項目について、各種リスクの状況を以下に示す。

なお、各種リスクの状況については、標本数の多寡があるため、参考としての掲載とする。

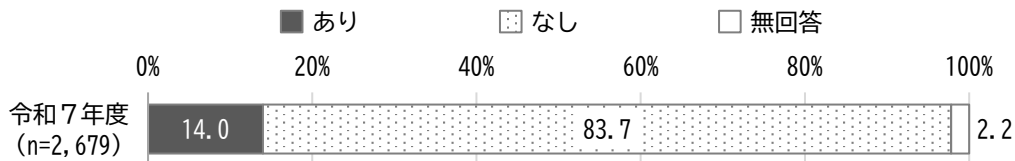
■運動器機能の低下している高齢者割合

- 問9 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(「できない」)
 問10 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(「できない」)
 問11 15分位続けて歩いていますか。(「できない」)
 問12 過去1年間に転んだ経験がありますか。(「何度もある」「1度ある」)
 問13 転倒に対する不安は大きいですか。(「とても不安である」「やや不安である」)
 ※上記5つの設問のうち、3問以上で機能低下に該当する選択肢(上記のカッコ内部分の選択肢)と回答している場合に「運動器機能の低下あり」と判定。

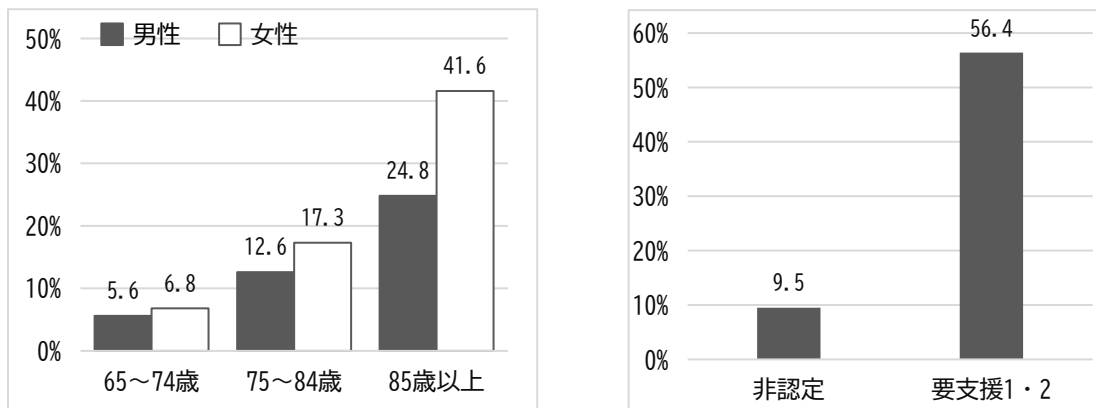
運動器機能の低下している高齢者割合の全体平均は14.0%で、性・年齢別でみると、「65～74歳」では性別に大きな差異はみられないが、「75～84歳」と「85歳以上」では女性が男性よりもポイントが高く、男性・女性ともに、「75～84歳」と「85歳以上」間の増加の度合いが大きい。

認定状況別でみると、「非認定」で9.5%、「要支援1・2」で56.4%となっている。

【図表 14】運動器機能の低下している高齢者割合



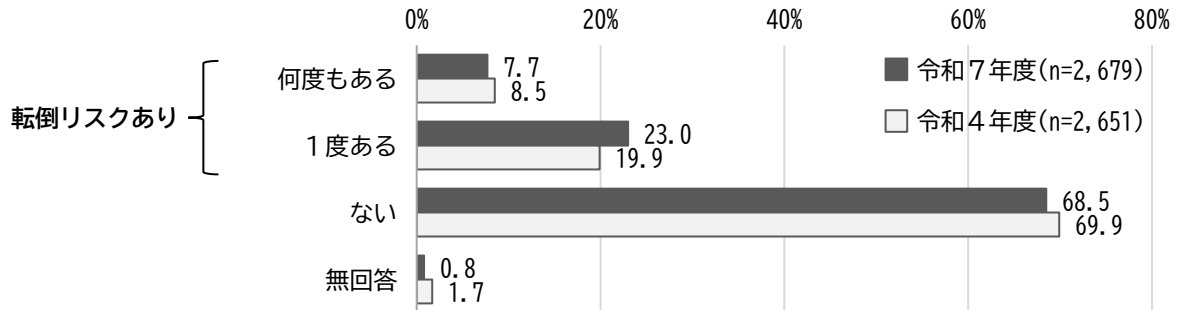
【図表 15】運動器機能の低下している高齢者割合〈性・年齢階層別／認定状況別〉



問12 過去1年間に転んだ経験がありますか。(単数回答)

「ない」が68.5%で最も多く、次いで、「1度ある」が23.0%、「何でもある」が7.7%となっている。

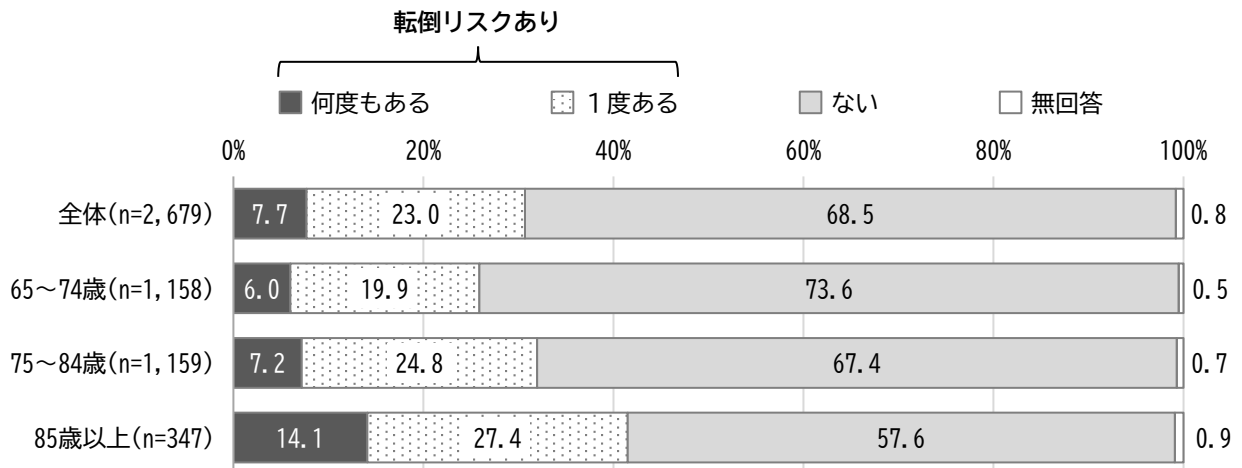
【図表16】過去1年間に転んだ経験〈前回比較〉



■過去1年間に転んだ経験〈年齢階層別〉

過去1年間に転んだ経験について、年齢階層別で見ると年齢階層が上がるにつれて、「何でもある」と「1度ある」を合わせた“転倒リスクあり”の割合が高くなっている。

【図表17】過去1年間に転んだ経験〈年齢階層別〉



◆各種リスクの状況

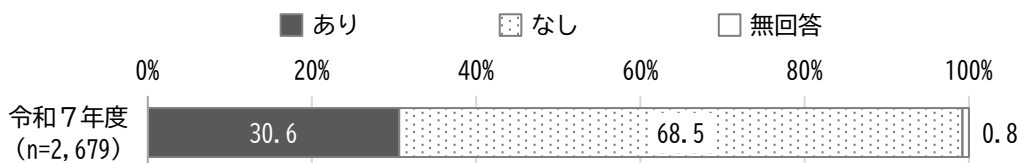
■転倒リスクのある高齢者割合

問 12 過去1年間に転んだ経験がありますか。(「何度もある」「1度ある」)
 ※過去1年間の転倒経験で、「何度もある」、「1度ある」と回答している場合、転倒リスクのある高齢者と判定。

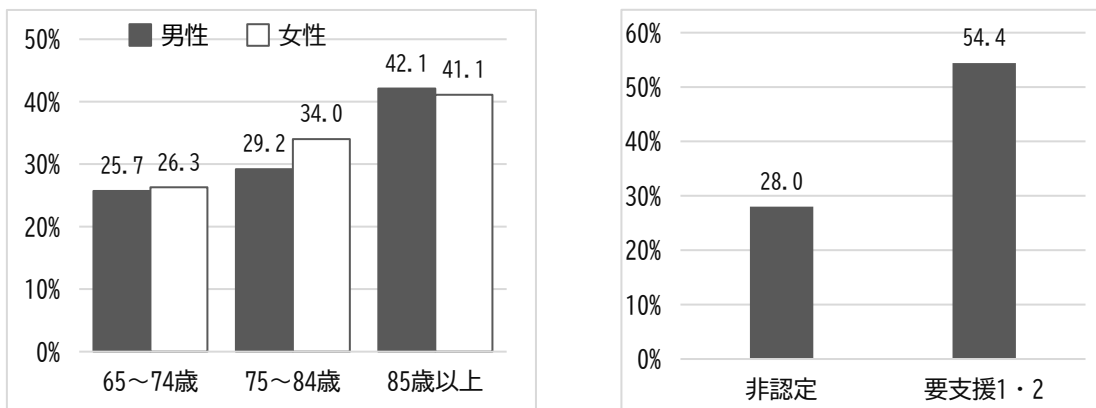
転倒リスクのある高齢者割合の全体平均は30.6%で、性・年齢別で見ると、「75～84歳」では女性が男性よりも高くなっている。男性は「75～84歳」と「85歳以上」間で、増加の割合が大きくなっている。

認定状況別で見ると、「非認定」で28.0%、「要支援1・2」で54.4%となっている。

【図表 18】 転倒リスクのある高齢者割合



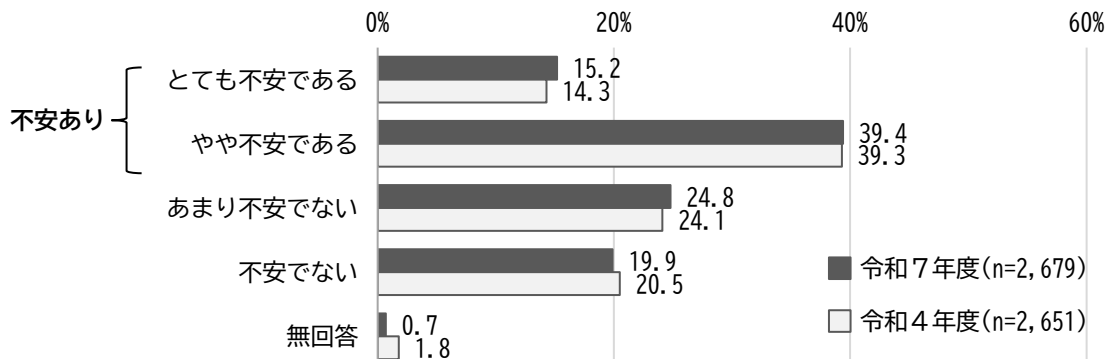
【図表 19】 転倒リスクのある高齢者割合〈性・年齢階層別／認定状況別〉



問 13 転倒に対する不安は大きいですか。(単数回答)

「やや不安である」が 39.4%で最も多く、「とても不安である」(15.2%) と合わせた“不安あり”は 54.6%となっている。

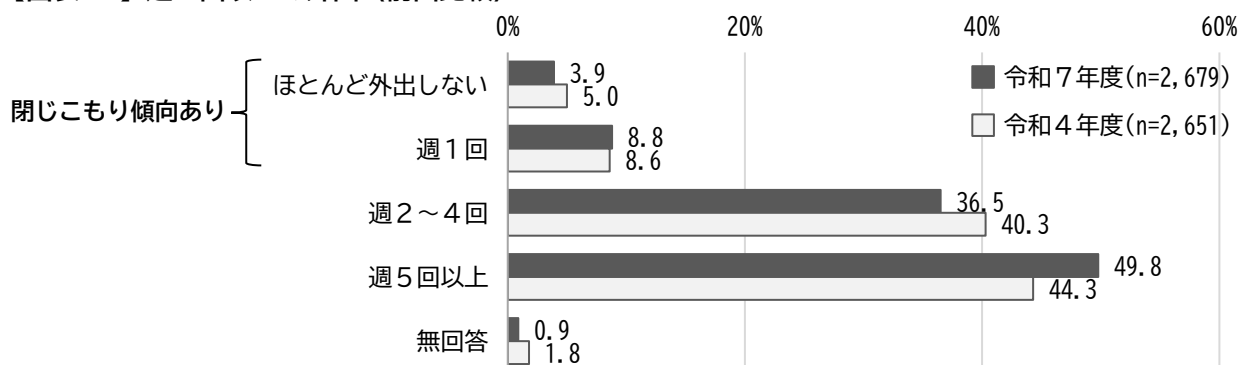
【図表 20】 転倒に対する不安〈前回比較〉



問 14 週に1回以上は外出していますか。(単数回答)

「週5回以上」が 49.8%で最も多く、次いで、「週2～4回」が 36.5%、「週1回」が 8.8%となっている。

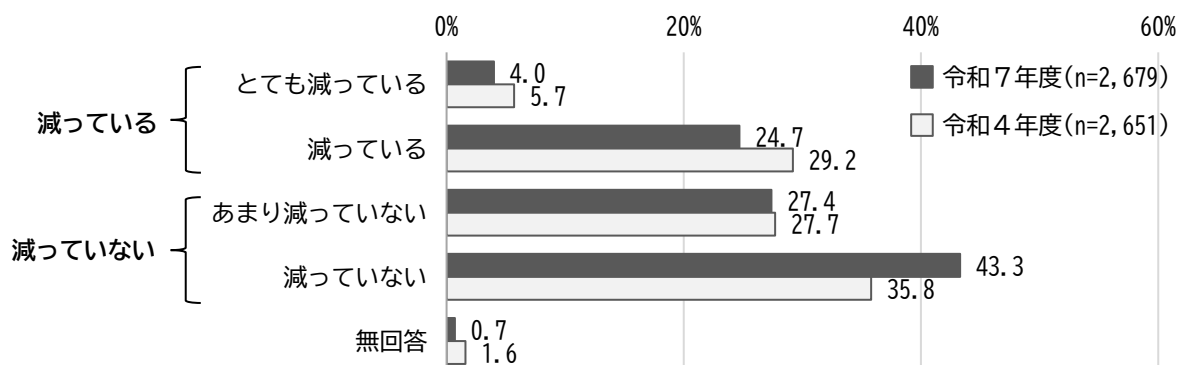
【図表 21】 週1回以上の外出〈前回比較〉



問 15 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(単数回答)

「とても減っている」(4.0%)と「減っている」(24.7%)を合わせた“減っている”は 28.7%となっている。一方、「あまり減っていない」(27.4%)と「減っていない」(43.3%)を合わせた“減っていない”は 70.7%となっている。

【図表 22】 昨年と比較した外出回数〈前回比較〉



◆各種リスクの状況

■閉じこもり傾向のある高齢者割合

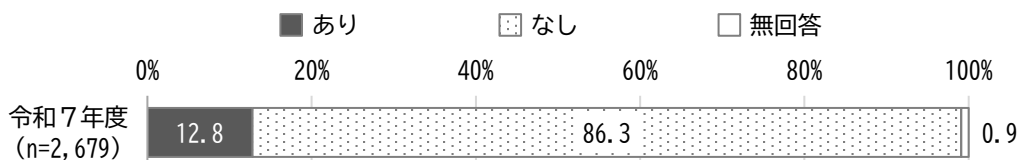
問 14 週に1回以上は外出していますか。(「ほとんど外出しない」「週1回」)

※1週間の外出状況で「ほとんど外出しない」、「週1回」と回答している場合、閉じこもり傾向のある高齢者と判定。

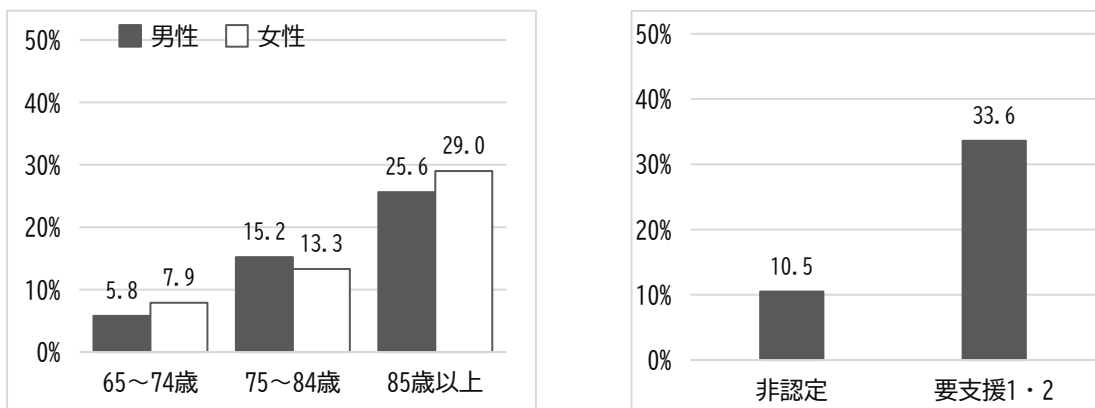
閉じこもり傾向のある高齢者割合の全体平均は12.8%で、性・年齢別で見ると、「65～74歳」と「85歳以上」では女性が男性よりも高く、「75～84歳」では男性が女性よりも高くなっている。女性は「75～84歳」と「85歳以上」間の増加の割合が大きくなっている。

認定状況別で見ると、「非認定」で10.5%、「要支援1・2」で33.6%となっている。

【図表 23】閉じこもり傾向のある高齢者割合



【図表 24】閉じこもり傾向のある高齢者割合〈性・年齢階層別／認定状況別〉

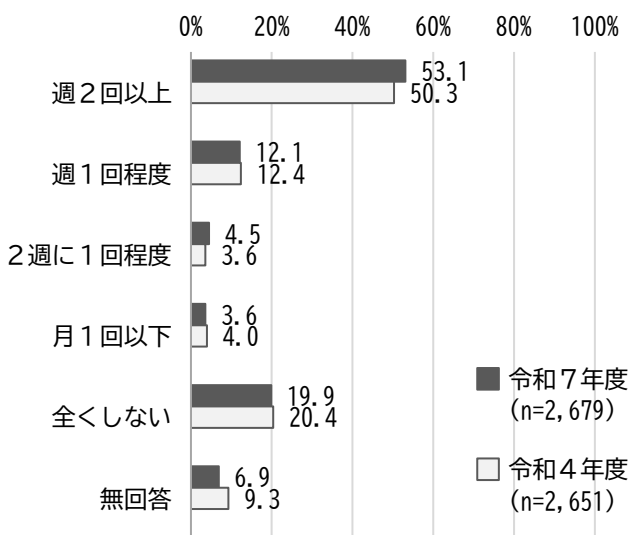


問 16 あなたは以下の運動（ウォーキング、体操、筋力トレーニング）を、それぞれどれくらいの頻度でしていますか。（単数回答）

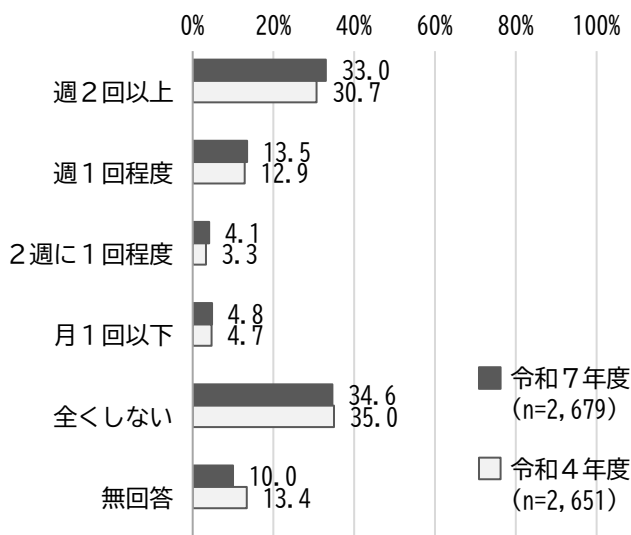
ア.ウォーキングでは、「週2回以上」が53.1%で最も多くなっている。イ.体操では、「週2回以上」が33.0%となっており、「全くしない」が34.6%となっている。ウ.筋力トレーニングでは、「週2回以上」が24.7%となっており、「全くしない」が43.0%となっている。

【図表 25】運動の頻度〈前回比較〉

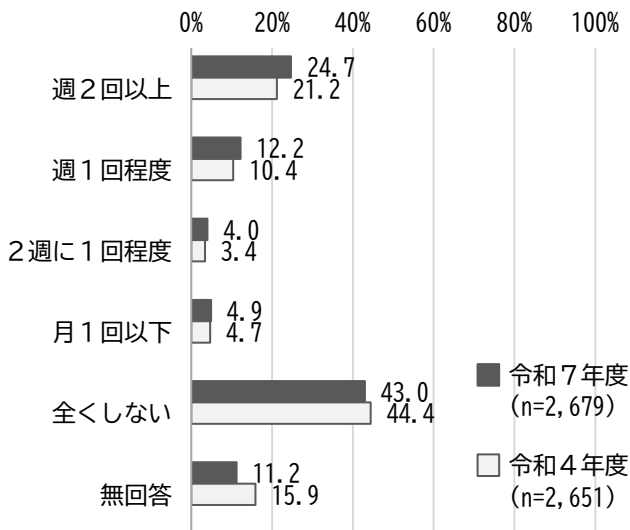
ア. ウォーキング



イ. 体操



ウ. 筋力トレーニング



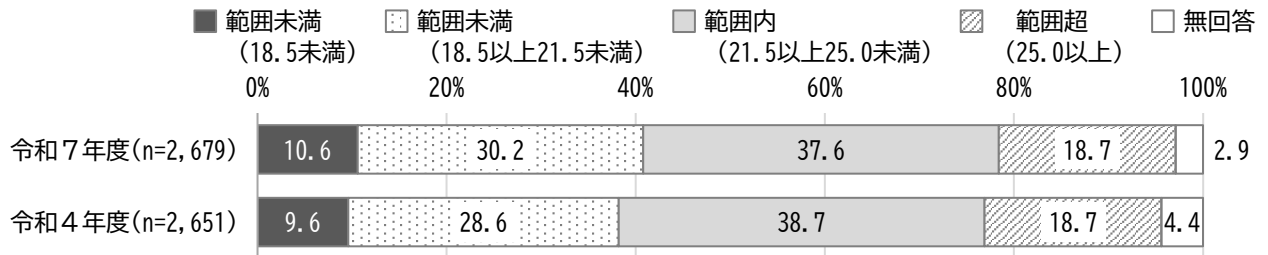
4. 食べることについて

問 17 身長・体重を教えてください。(数量回答) < BMI >

身長と体重からBMIを算出し目標とするBMIの範囲の分布をみると、「範囲内(21.5以上25.0未満)」が37.6%で最も多く、次いで、「範囲未満(18.5以上21.5未満)」が30.2%、「範囲超(25.0以上)」が18.7%となっている。

■ BMI 国基準(65歳以上)〈前回比較〉

【図表 26】 BMI 国基準(65歳以上)〈前回比較〉

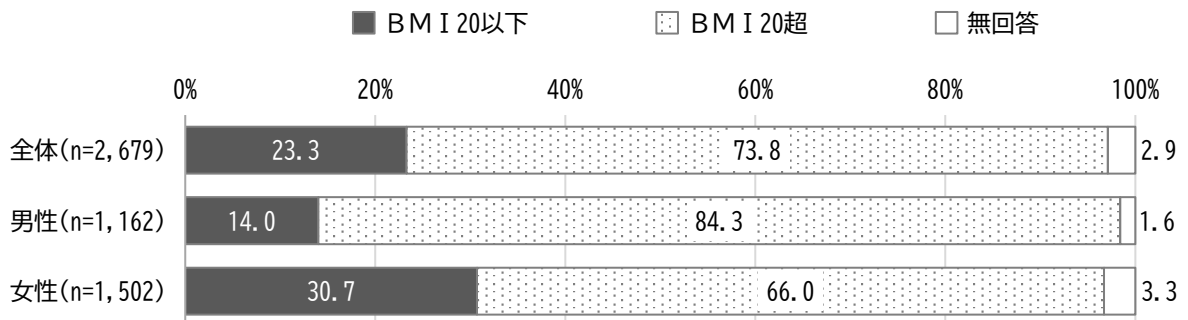


※BMIは体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で算出される体重(体格)の指標であり、厚生労働省「日本人の食事摂取基準(2025年版)」策定検討会報告書では、65歳以上の目標とするBMIの範囲を21.5~24.9kg/m²としている。

■ BMI (低栄養傾向BMI ≤ 20) 〈性別〉

低栄養傾向と考えられる「BMI 20以下」は全体で23.3%となっている。性別で見ると、「BMI 20以下」(男性:14.0%・女性:30.7%)は、女性の方が男性よりも16.7ポイント高くなっている。

【図表 27】 BMI (低栄養傾向BMI ≤ 20) 〈性別〉

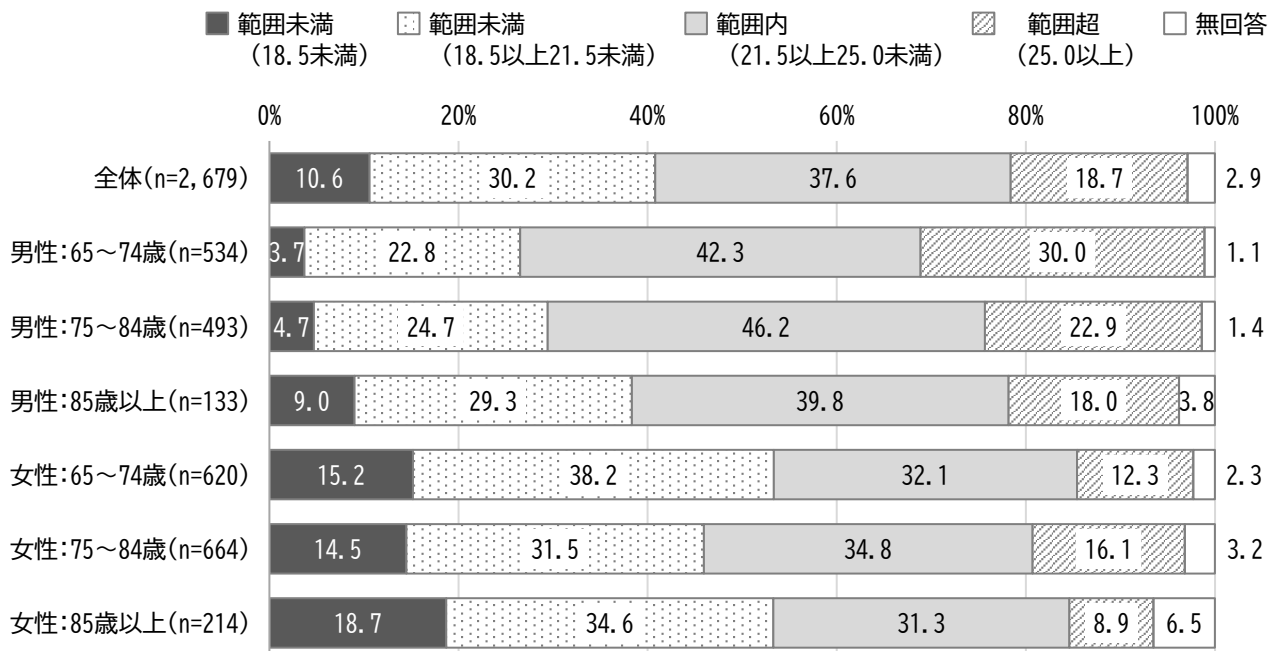


※厚生労働省「健康日本 21(第三次)」では、低栄養傾向の基準を、要介護や総死亡リスクが統計学的に優位に高くなるポイントとして示されている「BMI 20以下」とし、その割合の増加の抑制を指標として設定している。

■BMI（目標とするBMIの範囲）〈性・年齢階層別〉

BMIを性・年齢階層別で見ると、年齢にかかわらず「範囲未満（18.5未満）」と「範囲未満（18.5以上21.5未満）」を合わせた割合は男性よりも女性の方が高く、「範囲超（25.0以上）」の割合は女性よりも男性の方が高い。

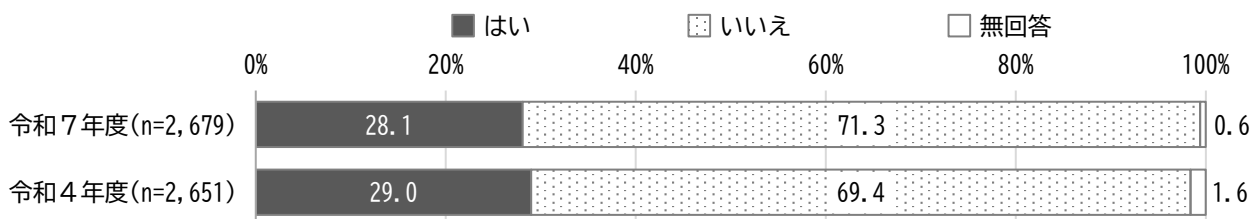
【図表 28】BMI（目標とするBMIの範囲）〈性・年齢階層別〉



問 18 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(単数回答)

「はい」が28.1%、「いいえ」が71.3%となっている。

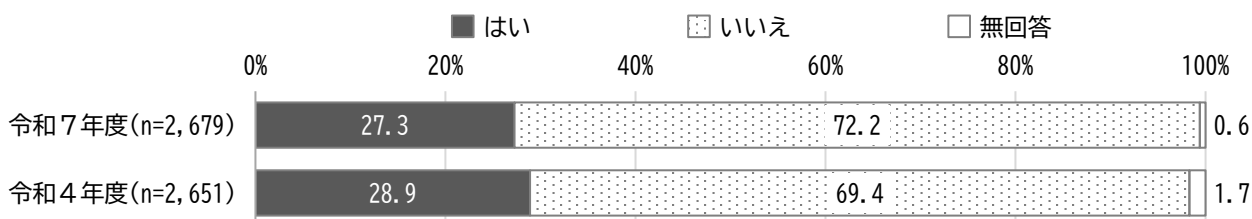
【図表 29】固いものの食べにくさの有無〈前回比較〉



問 19 お茶や汁物等でむせることがありますか。(単数回答)

「はい」が27.3%「いいえ」が72.2%となっている。

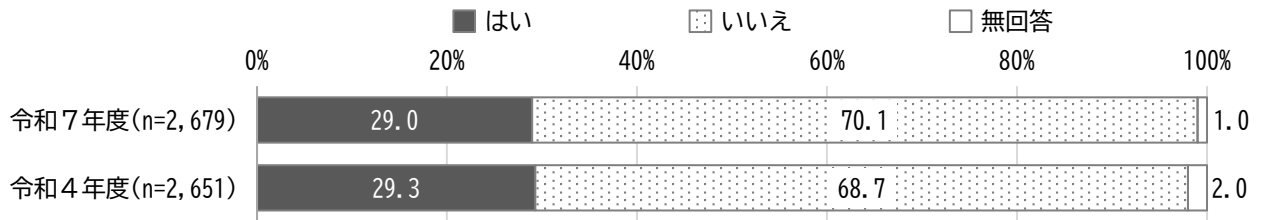
【図表 30】むせこみの有無〈前回比較〉



問 20 口の渇きが気になりますか。(単数回答)

「はい」が29.0%、「いいえ」が70.1%となっている。

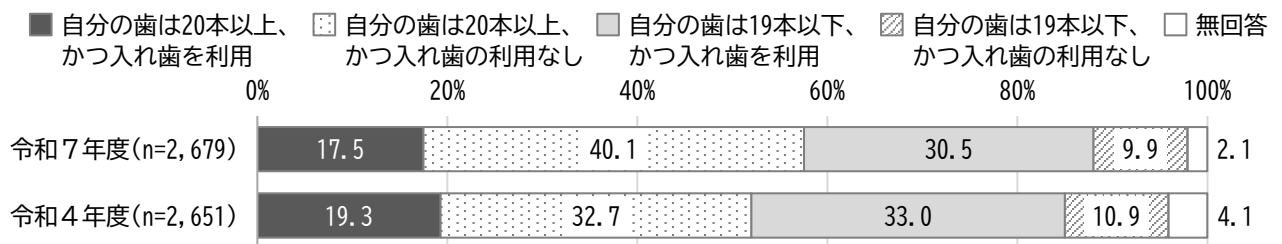
【図表 31】口の渇きの有無〈前回比較〉



問 21 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。(単数回答)

「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯の利用なし」が40.1%で最も多く、次いで、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が30.5%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が17.5%となっている。

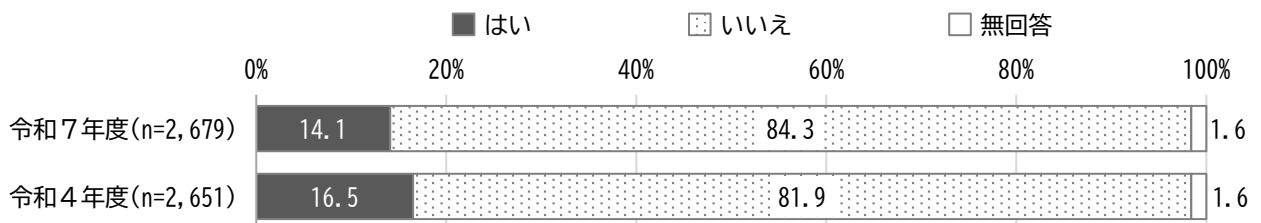
【図表 32】歯の数と入れ歯の利用状況〈前回比較〉



問 22 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(単数回答)

「はい」が14.1%、「いいえ」が84.3%となっている。

【図表 33】6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか〈前回比較〉



◆各種リスクの状況

■口腔機能の低下している高齢者割合

問 18 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(「はい」)

問 19 お茶や汁物等でむせることがありますか。(「はい」)

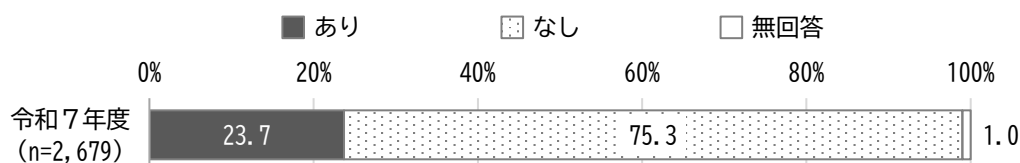
問 20 口の渇きが気になりますか。(「はい」)

※「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」の設問で「はい」と回答した場合に、「咀嚼機能の低下が疑われる高齢者」と判定。さらに「お茶や汁物等でむせることがありますか」と「口の渇きが気になりますか」を加えた3設問のうち2設問で「はい」と回答した場合に、「口腔機能の低下あり」と判定。

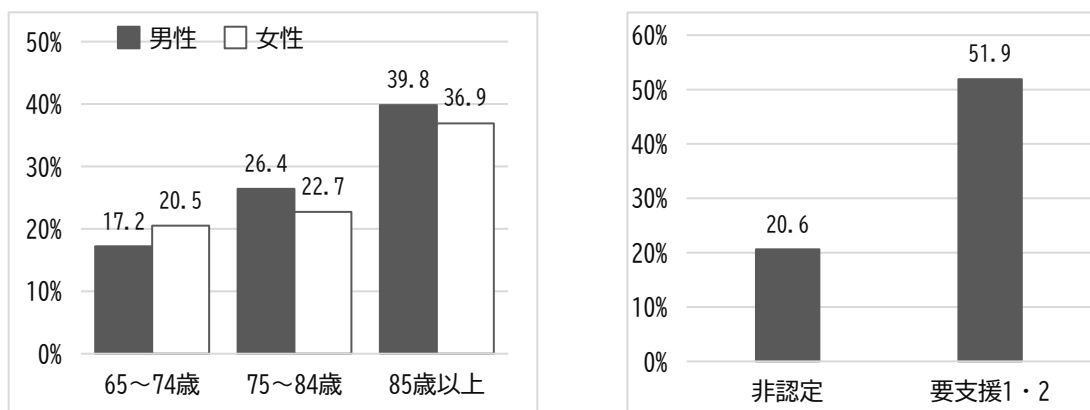
口腔機能が低下している高齢者割合の全体平均は 23.7%で、性・年齢別でみると、「65～74歳」では女性が男性よりも高いが、「75～84歳」と「85歳以上」では男性が女性よりも高くなっている。男性は「65～74歳」と「75～84歳」間で女性よりも増加の割合が大きい。

認定状況別でみると、「非認定」で 20.6%、「要支援1・2」で 51.9%となっている。

【図表 34】口腔機能が低下している高齢者割合



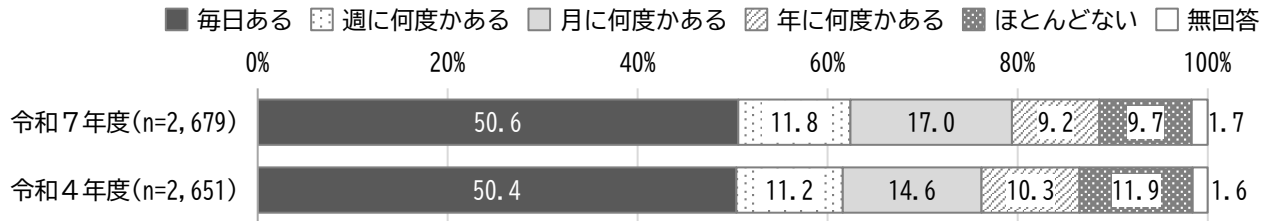
【図表 35】口腔機能が低下している高齢者割合〈性・年齢階層別／認定状況別〉



問 23 どなたかと食事をとる機会がありますか。(単数回答)

「毎日ある」が 50.6%で最も多く、次いで、「月に何度かある」が 17.0%、「週に何度かある」が 11.8%となっている。

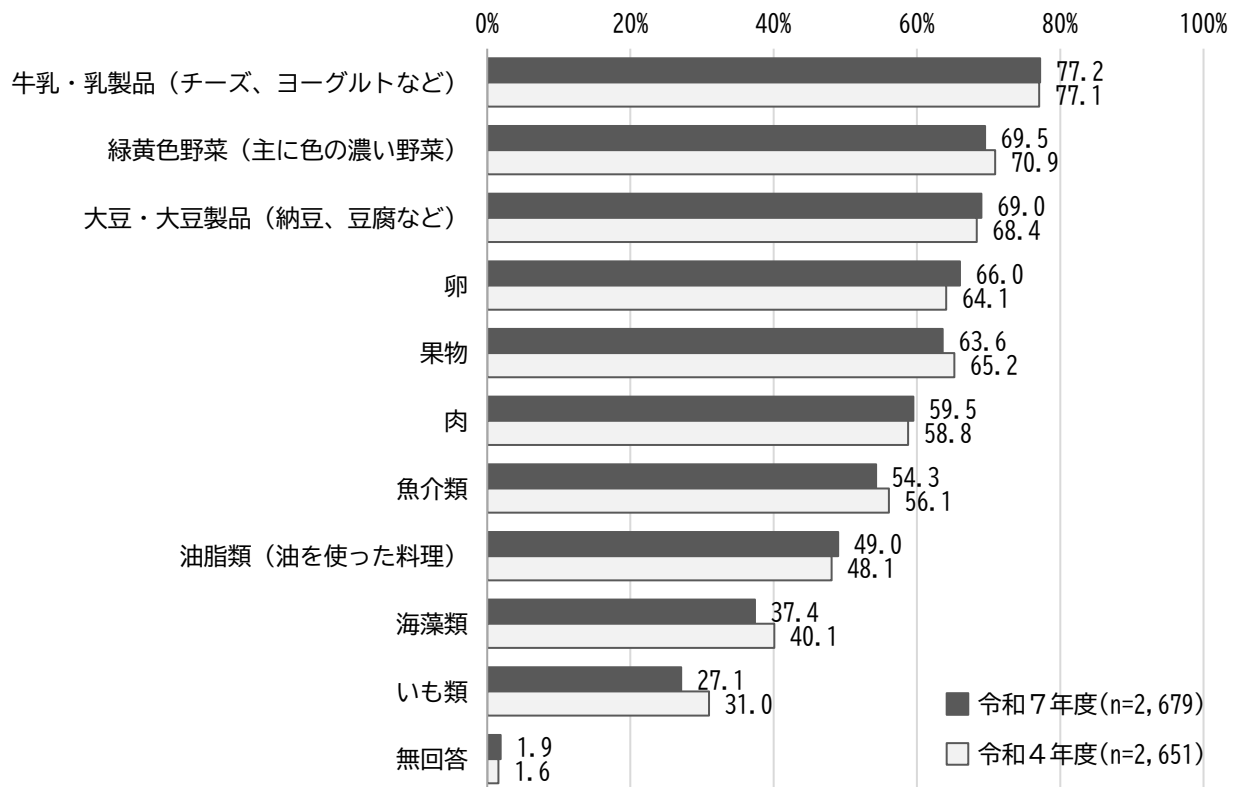
【図表 36】食事をとる機会の有無〈前回比較〉



問 24 最近一週間のうち、ほぼ毎日食べている食品に○をしてください。(複数回答)

「牛乳・乳製品（チーズ、ヨーグルトなど）」が 77.2%で最も多く、次いで、「緑黄色野菜（主に色の濃い野菜）」が 69.5%、「大豆・大豆製品（納豆、豆腐など）」が 69.0%となっている。

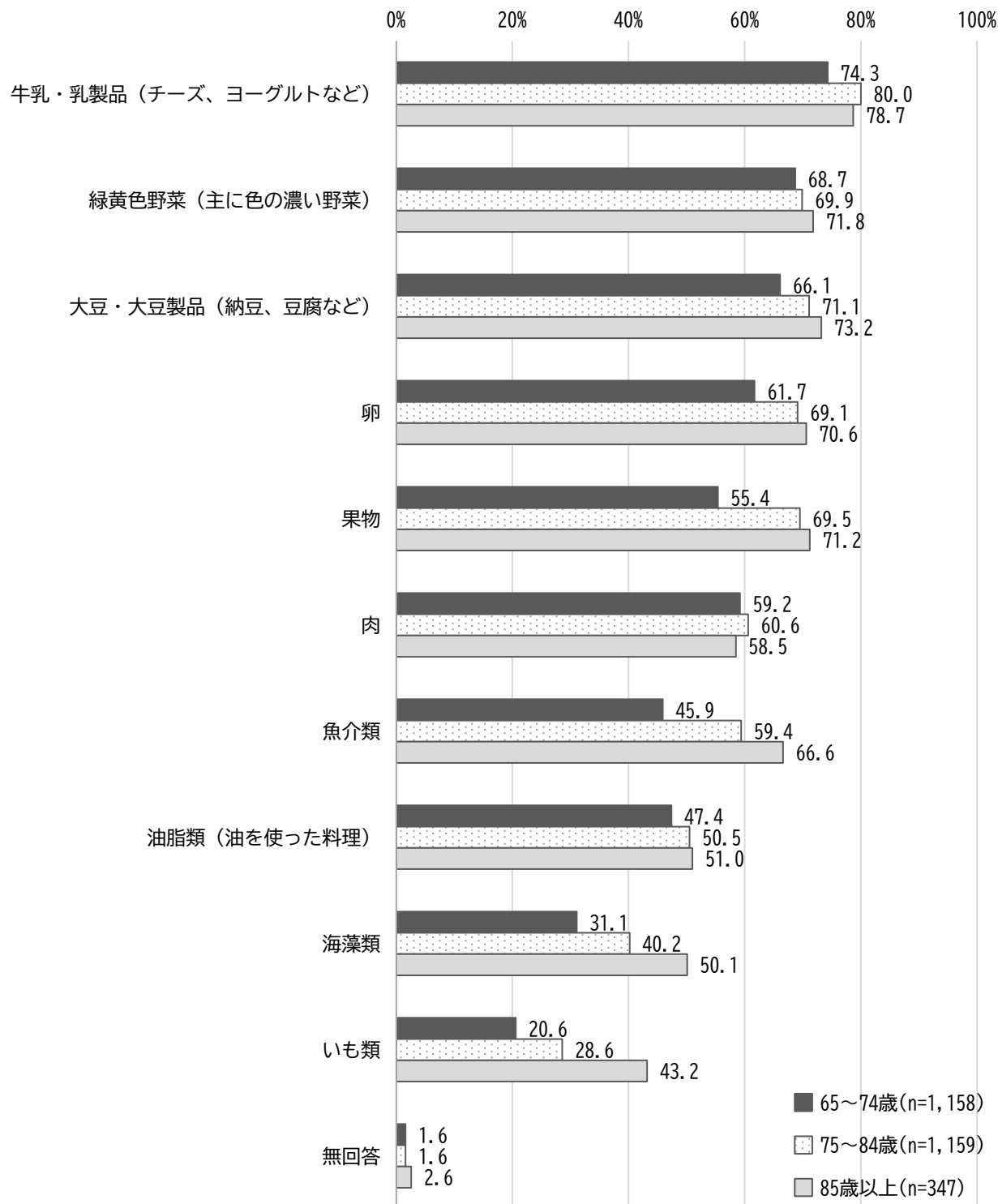
【図表 37】最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品〈前回比較〉



■最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品〈年齢階層別〉

年齢階層別でみると、「牛乳・乳製品」は年齢階層にかかわらず7割台半ば近くから8割近くが摂取している。

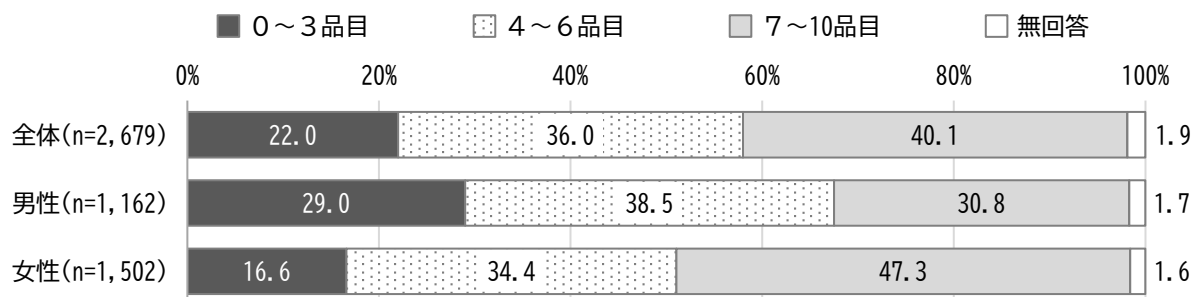
【図表 38】最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品〈年齢階層別〉



■最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品数〈性別〉

性別でみると、「7～10品目」の割合は女性の方が男性より高くなっている。

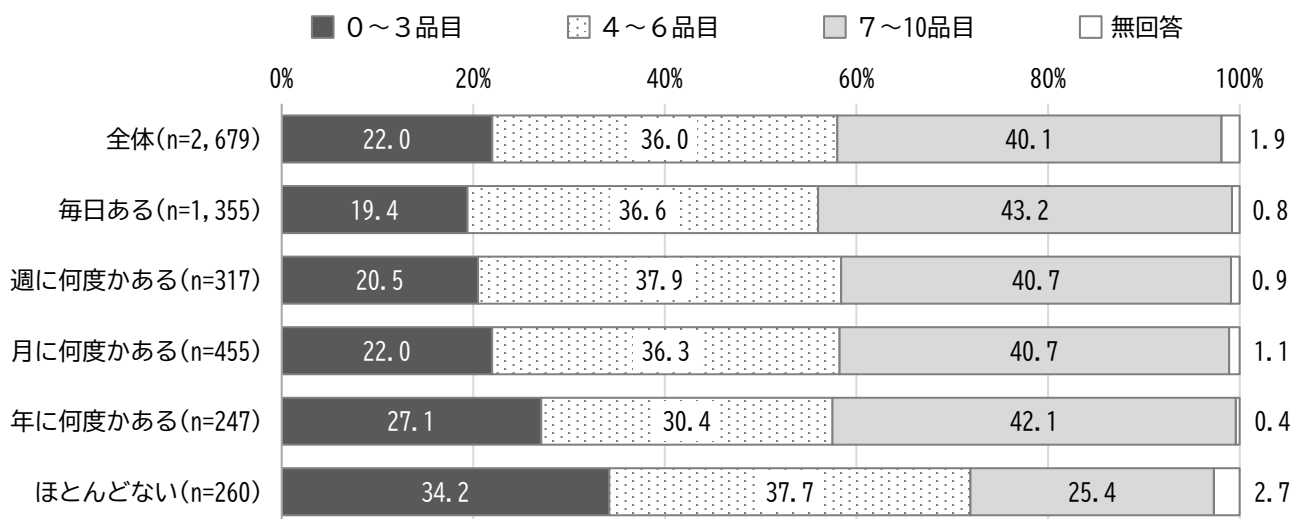
【図表 39】最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品数〈性別〉



■最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品数〈食事をとともにする機会の有無別〉

食事をとともにする機会の有無別でみると、だれかと食事をとともにする機会が少ない人ほど「0～3品目」を摂取している割合が高くなっている。

【図表 40】最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品数〈問 23 食事をとともにする機会の有無別〉



◆各種リスクの状況

■直近6か月間に体重減少を認め、低栄養状態にある高齢者割合

問 17 身長・体重を教えてください。(BMIが18.5未満)

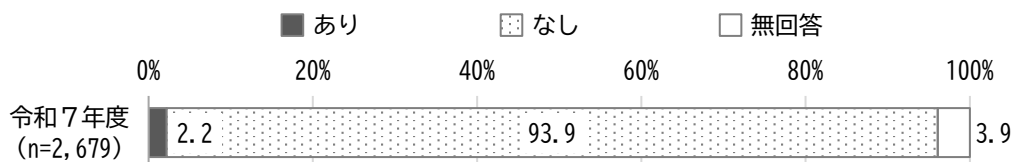
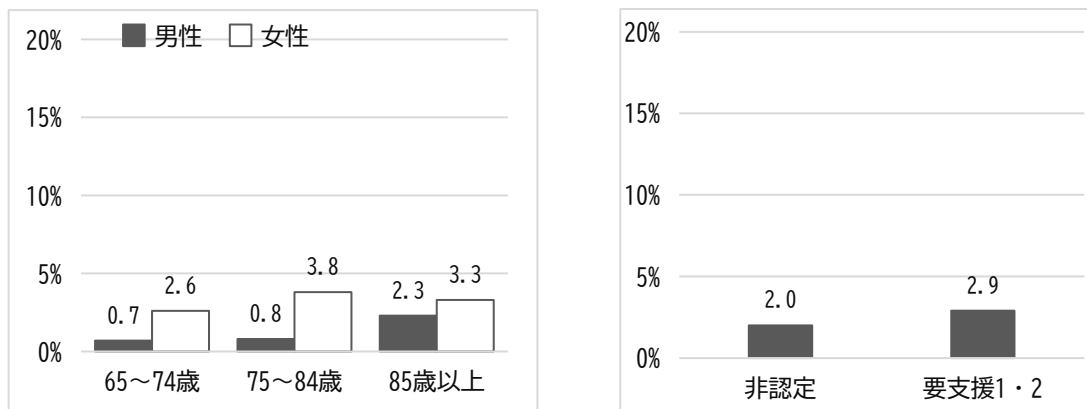
問 22 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(「はい」)

※身長と体重から算出されるBMIが、18.5未満の場合に低栄養が疑われる高齢者となり、かつ、直近の6か月間に2～3kg以上の体重減少があった場合に、「直近6か月間に体重減少を認め、低栄養状態にある」と判定。

直近6か月間に体重減少を認め、低栄養状態にある高齢者割合の全体平均は2.2%で、性・年齢別でみると、いずれの年齢階層でも女性が男性よりも高くなっている。男性は「75～84歳」と「85歳以上」間で増加の度合いが大きくなっているが、女性は「75～84歳」と「85歳以上」間で減少している。

認定状況別でみると、「非認定」で2.0%、「要支援1・2」で2.9%となっている。

【図表 41】直近6か月間に体重減少を認め、低栄養状態にある高齢者割合

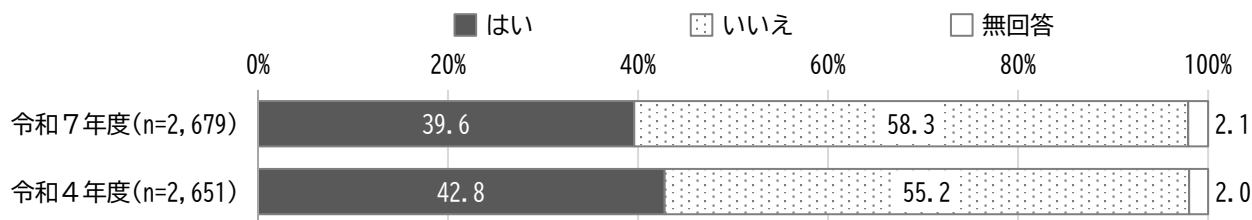
【図表 42】直近6か月間に体重減少を認め、低栄養状態にある高齢者割合
〈性・年齢階層別／認定状況別〉

5. 日ごろの生活について

問 25 もの忘れが多いと感じますか。(単数回答)

「はい」が39.6%、「いいえ」が58.3%となっている。

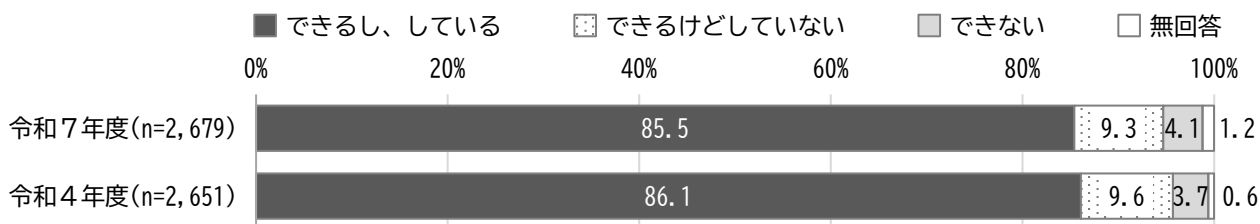
【図表 43】認知機能について〈前回比較〉



問 26 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可) (単数回答)

「できるし、している」が85.5%で最も多く、次いで、「できるけどしていない」が9.3%、「できない」が4.1%となっている。

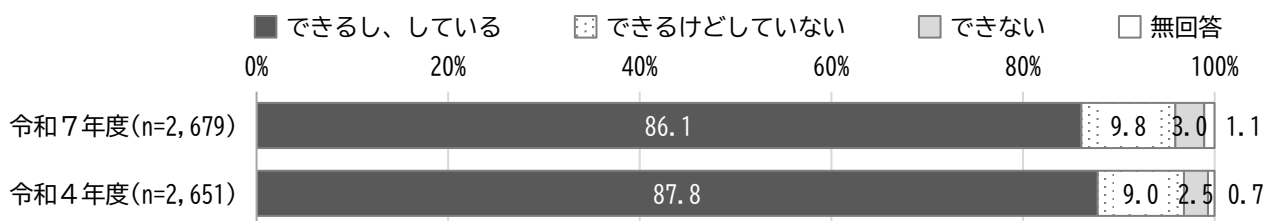
【図表 44】バスや電車を使っての1人での外出状況〈前回比較〉



問 27 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(単数回答)

「できるし、している」が86.1%で最も多く、次いで、「できるけどしていない」が9.8%、「できない」が3.0%となっている。

【図表 45】自分で食品・日用品の買物をしているか〈前回比較〉



◆各種リスクの状況

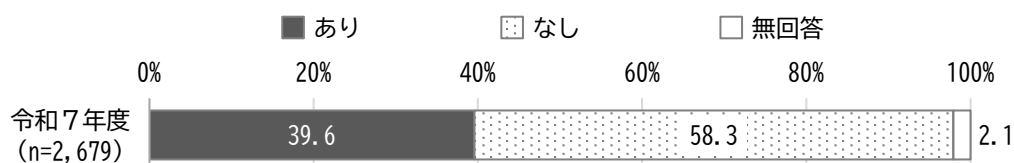
■認知機能が低下している高齢者割合

問 25 もの忘れが多いと感じますか。(「はい」)

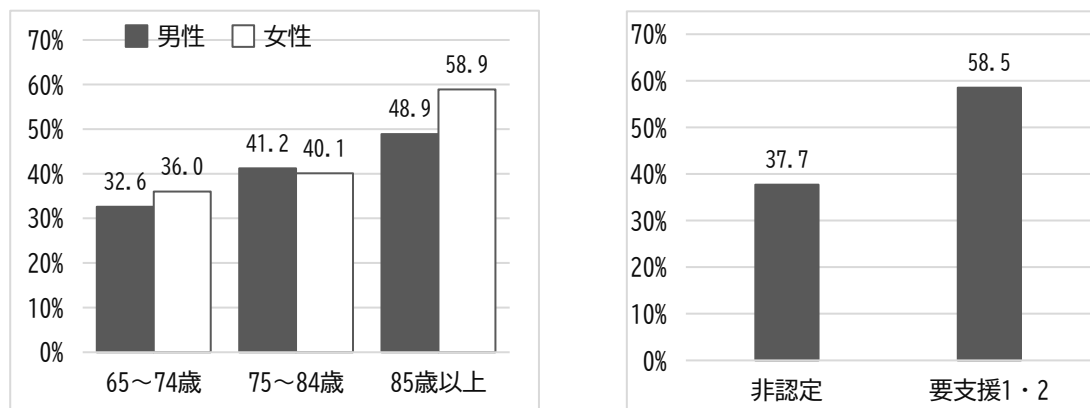
※認知機能については、「はい」と回答している場合に、「認知機能の低下あり」と判定。

認知機能が低下している高齢者割合の全体平均は 39.6% で、性・年齢別でみると、女性は「65～74 歳」と「85 歳以上」では男性よりも高いが、「75～84 歳」では大きな差異はみられない。また、女性は「75～84 歳」と「85 歳以上」間の増加の度合いが男性よりも大きい。認定状況別でみると、「非認定」で 37.7%、「要支援 1・2」で 58.5% となっている。

【図表 46】認知機能が低下している高齢者割合



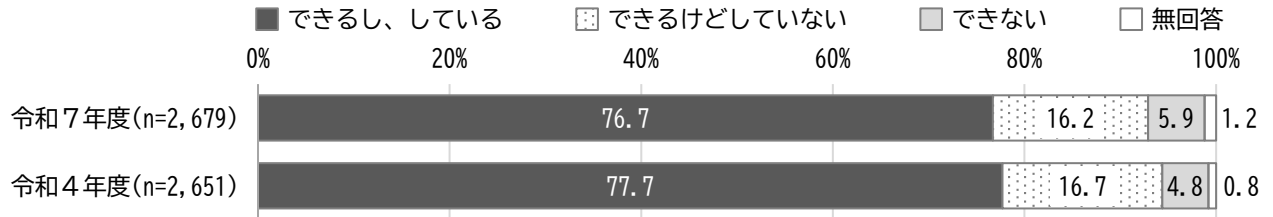
【図表 47】認知機能が低下している高齢者割合〈性・年齢別／認定状況別〉



問 28 自分で食事の用意をしていますか。(単数回答)

「できるし、している」が76.7%で最も多く、次いで、「できるけどしていない」が16.2%、「できない」が5.9%となっている。

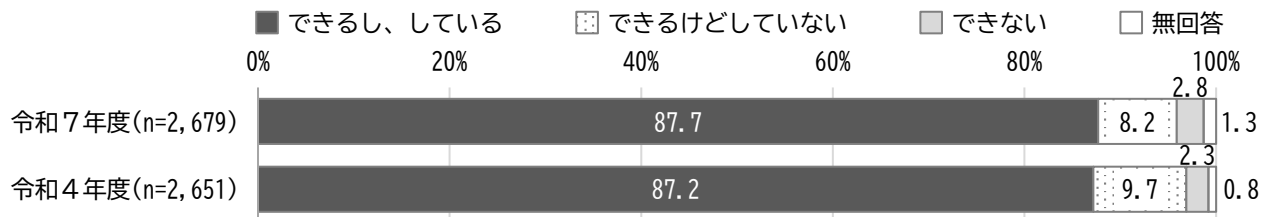
【図表 48】 食事の用意状況〈前回比較〉



問 29 自分で請求書の支払いをしていますか。(単数回答)

「できるし、している」が87.7%で最も多く、次いで、「できるけどしていない」が8.2%、「できない」が2.8%となっている。

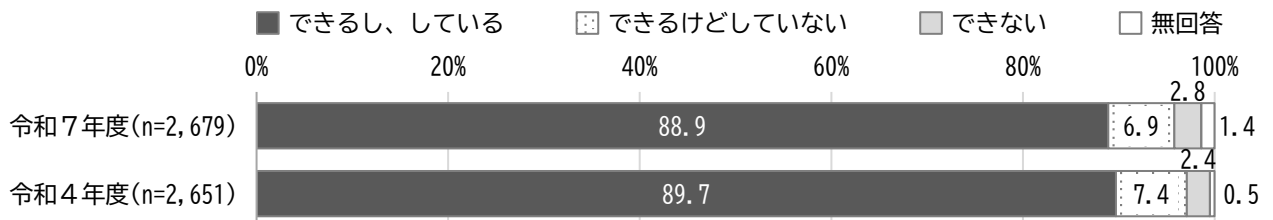
【図表 49】 請求書の支払い状況〈前回比較〉



問 30 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(単数回答)

「できるし、している」が88.9%で最も多く、次いで、「できるけどしていない」が6.9%、「できない」が2.8%となっている。

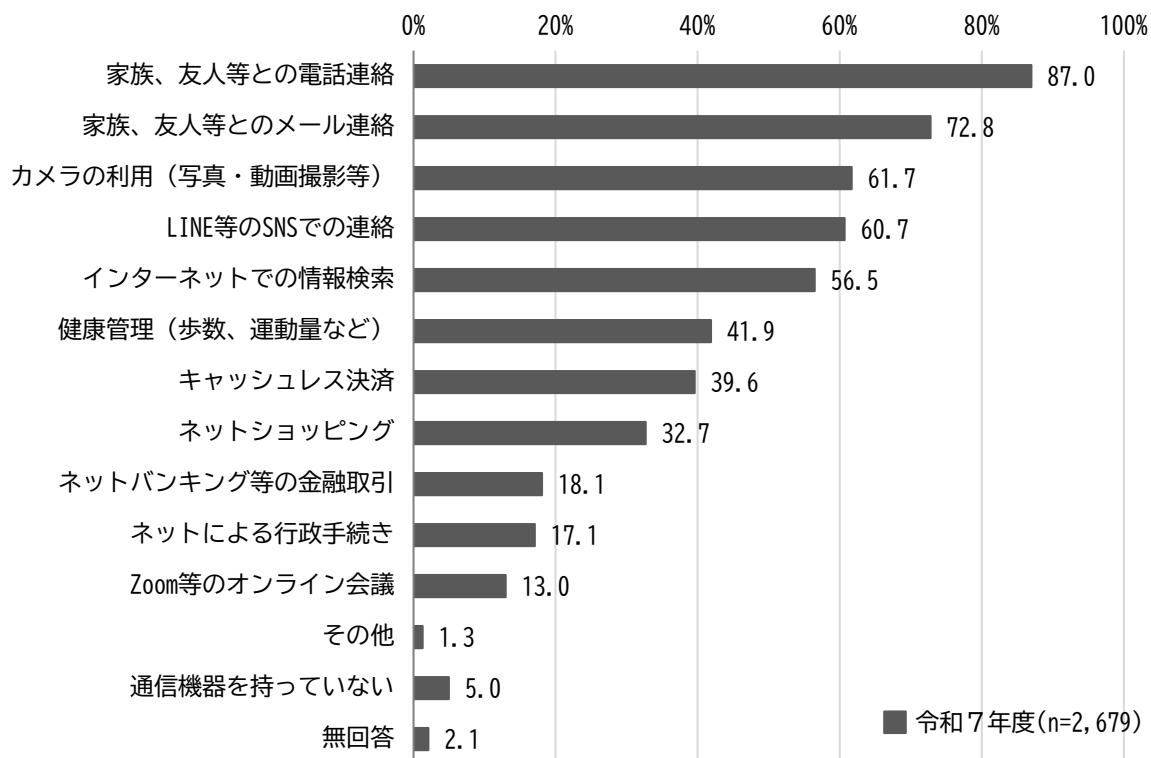
【図表 50】 預貯金の出し入れ状況〈前回比較〉



問 31 過去1年間に利用した通信機器（スマートフォンやパソコンなど）を使った機能・サービスはどれですか。（複数回答）

「家族、友人等との電話連絡」が 87.0%で最も多く、次いで、「家族、友人等とのメール連絡」が 72.8%、「カメラの利用（写真・動画撮影等）」が 61.7%、「LINE等のSNSでの連絡」が 60.7%となっている。

【図表 51】最近1年間に利用した通信機器を使った機能・サービス



◆各種リスクの状況

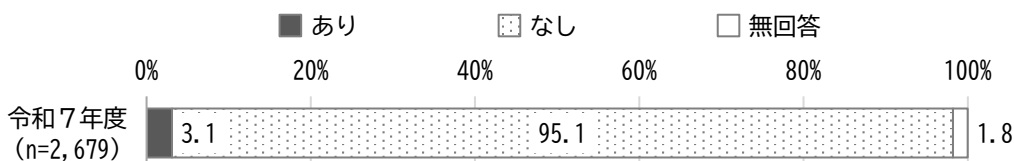
■手段的日常生活動作（IADL）が低下している高齢者割合

- 問 26 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可) (「できるし、している」「できるけどしていない」)
- 問 27 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(「できるし、している」「できるけどしていない」)
- 問 28 自分で食事の用意をしていますか。(「できるし、している」「できるけどしていない」)
- 問 29 自分で請求書の支払いをしていますか。(「できるし、している」「できるけどしていない」)
- 問 30 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(「できるし、している」「できるけどしていない」)
- ※各設問について、「できるし、している」か「できるけどしていない」を1点、「できない」を0点と点数化し、5つの設問の合計を判定。判定の区分は5点が「高い」、4点が「やや低い」、0～3点が「低い」となり、「3点以下」は『IADLが低下している高齢者』と判定。

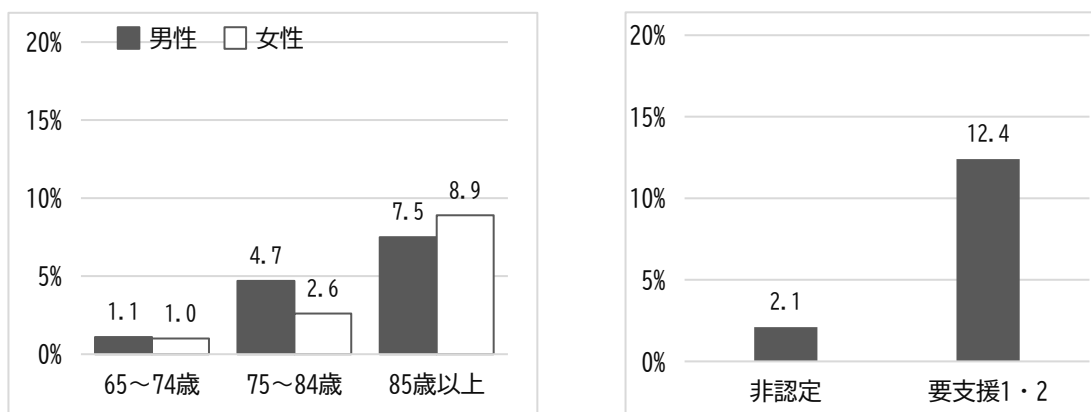
手段的日常生活動作(IADL)が低下している高齢者割合の全体平均は3.1%で、性・年齢別でみると、男性は「75～84歳」で女性よりも高く、女性は「85歳以上」で男性よりも高くなっている。また、女性は「75～84歳」と「85歳以上」間で男性よりも増加の度合いが大きくなっている。

認定状況別でみると、「非認定」で2.1%、「要支援1・2」で12.4%となっている。

【図表 52】手段的日常生活動作（IADL）が低下している高齢者割合



【図表 53】手段的日常生活動作(IADL)が低下している高齢者割合〈性・年齢階層別／認定状況別〉



6. 日ごろの活動について

問 32 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。(単数回答)

会・グループ等への参加頻度については、「⑧収入のある仕事」の「週4回以上」が20.5%で最も多くなっている。

「週4回以上」から「年に数回」までを合わせた“参加している”は①ボランティアのグループで11.9%、②スポーツ関係のグループで24.0%、③趣味関係のグループで28.6%、④学習・教養サークルで11.0%、⑤介護予防のための通いの場で6.2%、⑥高齢者クラブで5.5%、⑦町会・自治会で15.1%、⑧収入のある仕事で34.7%となっている。

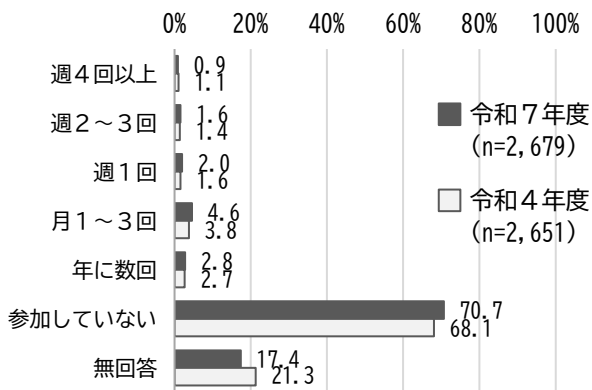
【図表 54】 会・グループへの参加頻度

会・グループ名等	n (回答数)	参加している					参加して いない	無回答	(%)	
		週4回 以上	週2～ 3回	週1回	月1～ 3回	年に 数回			(R7) 参加 している	(R4) 参加 している
①ボランティアのグループ	2,679	0.9	1.6	2.0	4.6	2.8	70.7	17.4	11.9	10.6
②スポーツ関係のグループ	2,679	3.3	6.6	7.4	4.2	2.5	60.8	15.2	24.0	19.9
③趣味関係のグループ	2,679	1.3	4.1	5.9	11.3	6.0	56.4	15.0	28.6	22.0
④学習・教養サークル	2,679	0.6	0.8	2.1	4.5	3.1	69.8	19.1	11.0	10.1
⑤介護予防のための通いの場※	2,679	0.7	1.3	2.4	0.9	0.7	74.7	19.1	6.2	4.6
⑥高齢者クラブ	2,679	0.3	1.0	0.8	1.9	1.5	75.9	18.6	5.5	5.9
⑦町会・自治会	2,679	0.4	0.7	0.9	4.9	8.2	67.2	17.7	15.1	13.1
⑧収入のある仕事	2,679	20.5	8.1	1.7	2.5	1.9	51.0	14.4	34.7	28.2

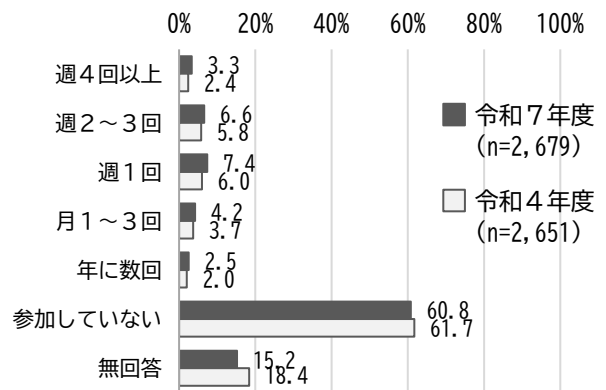
※通いの場：身近な場所で体操や趣味活動など介護予防のための活動をする「新宿いきいき体操」、「しんじゅく100トレに取り組むグループ」、「地域安心カフェ」、「ふれあい・いきいきサロン」などを指します。

【図表 55】会・グループへの参加頻度〈前回比較〉

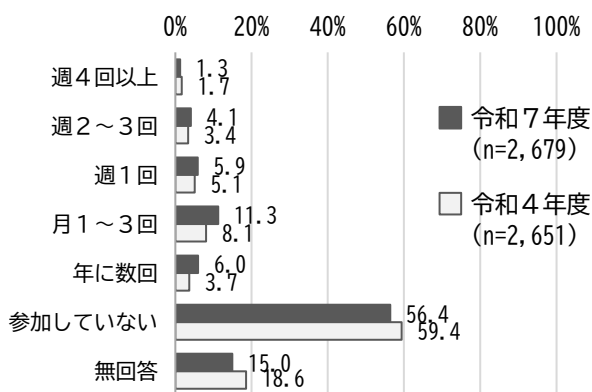
① ボランティアのグループ



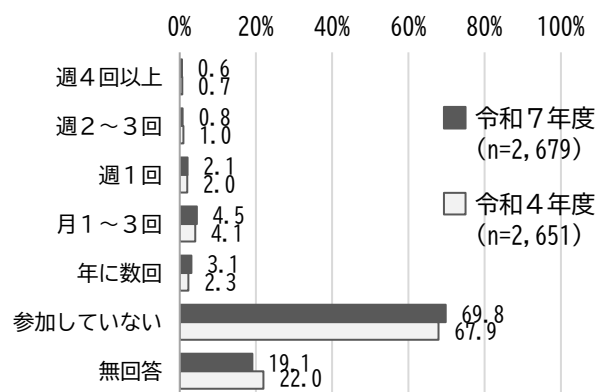
② スポーツ関係のグループ



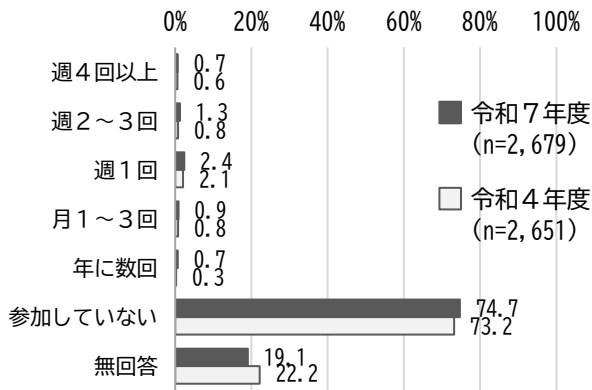
③ 趣味関係のグループ



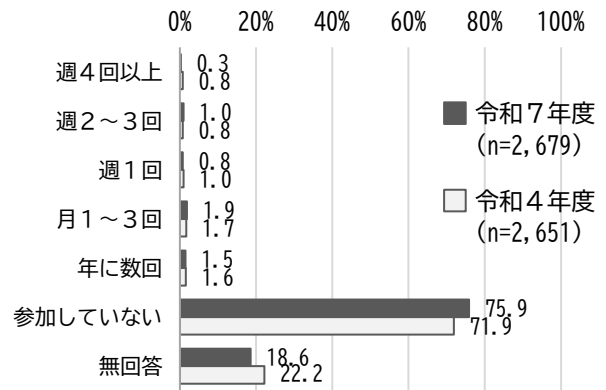
④ 学習・教養サークル



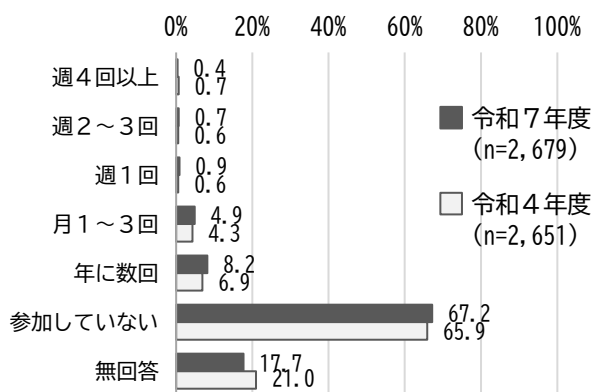
⑤ 介護予防のための通いの場



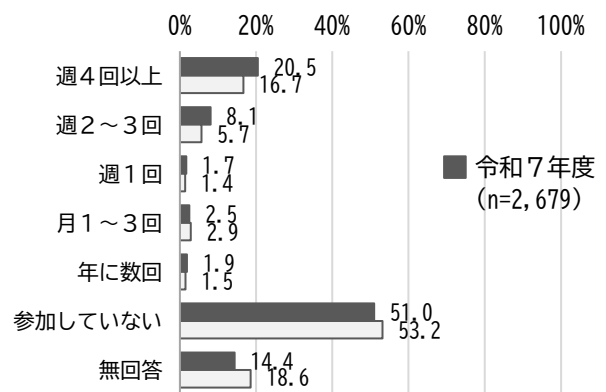
⑥ 高齢者クラブ



⑦ 町会・自治会



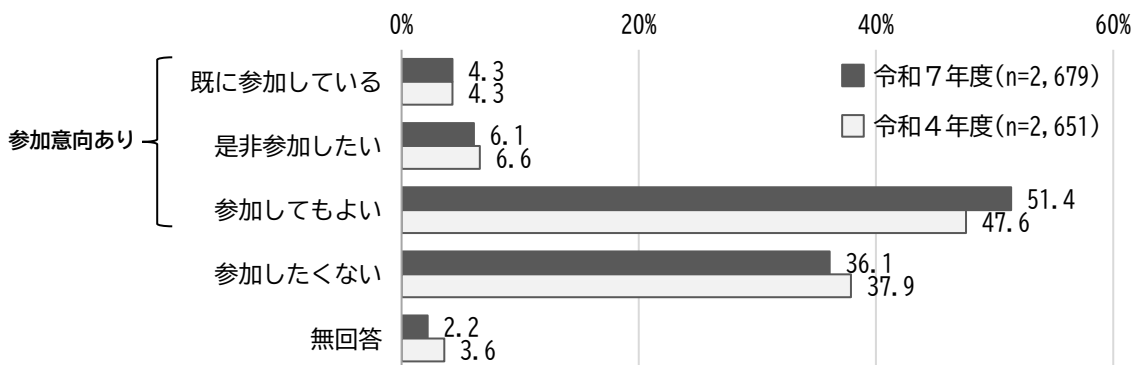
⑧ 収入のある仕事



問 33 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(単数回答)

「既に参加している」が4.3%、「是非参加したい」が6.1%、「参加してもよい」が51.4%となっており、これらを合わせた“参加意向あり”は61.8%となっている。

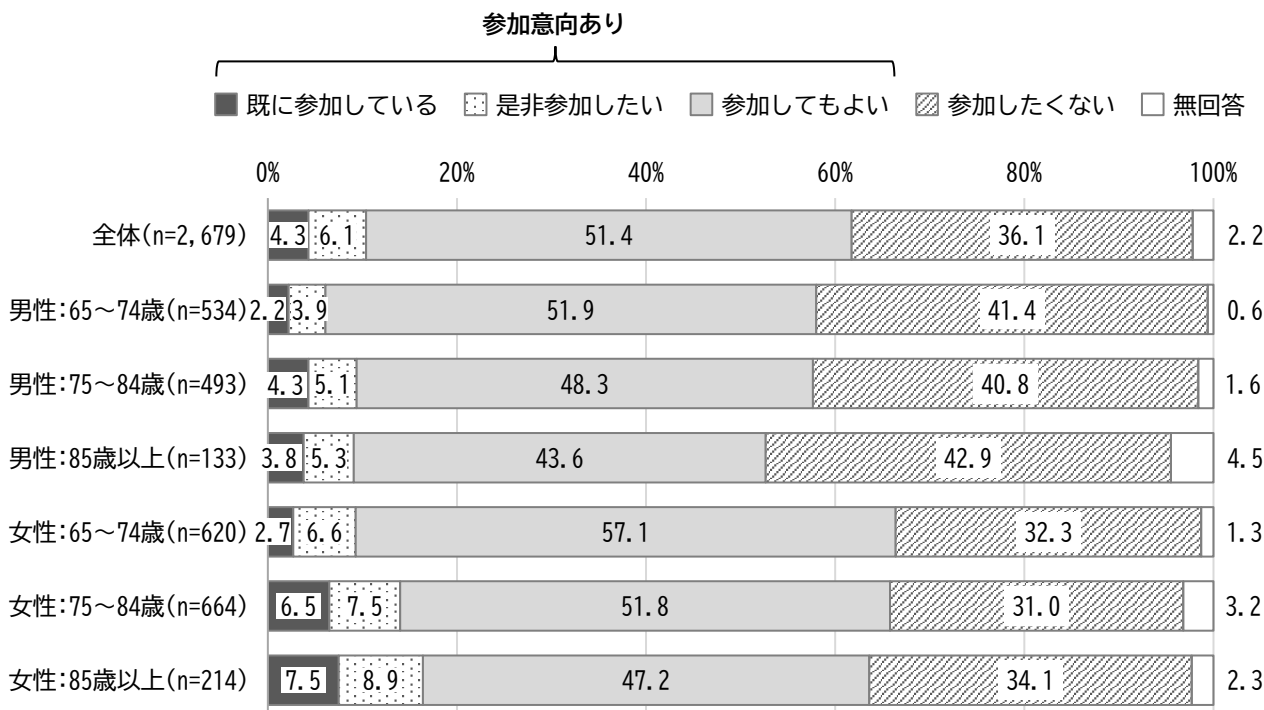
【図表 56】 地域づくりへの参加者としての参加意向〈前回比較〉



■ 地域づくりへの参加者としての参加意向〈性・年齢階層別〉

性・年齢階層別でみると、男女ともに年齢が上がるにつれて“参加意向あり”の割合が低くなる傾向がみられる。一方で、女性は「既に参加している」と「是非参加したい」の割合は年齢が上がるにつれて高くなっている。

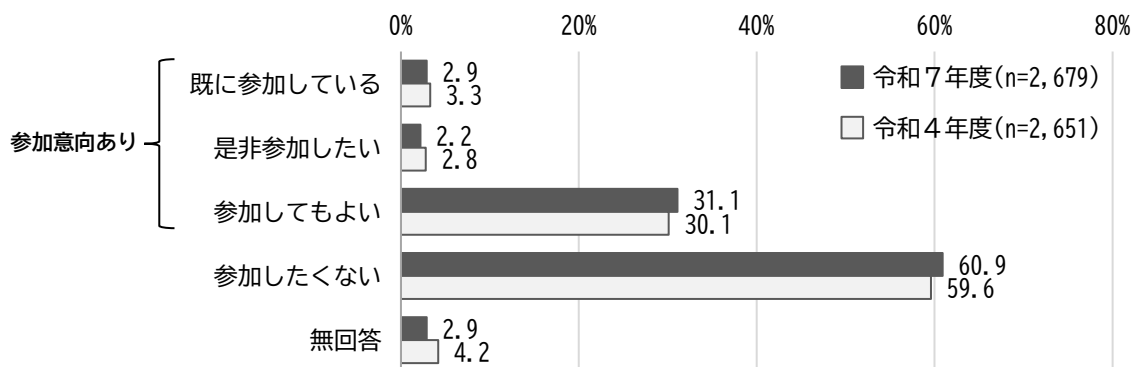
【図表 57】 地域づくりへの参加者としての参加意向〈性・年齢階層別〉



問 34 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（単数回答）

「既に参加している」が2.9%、「是非参加したい」が2.2%、「参加してもよい」が31.1%となっており、これらを合わせた“参加意向あり”は36.2%となっている。

【図表 58】 地域づくりへの企画・運営としての参加意向〈前回比較〉



◆地域参加活動（就労を含む）をしている高齢者の割合

会・グループへの参加頻度のうち、地域参加活動（①「ボランティアのグループ」から⑧「収入のある仕事」）のいずれかに「週4日以上」から「年に数回」までを合わせた“参加している”と回答した人は68.8%となっている。

【図表 59】 地域参加活動（就労を含む）をしている高齢者の割合

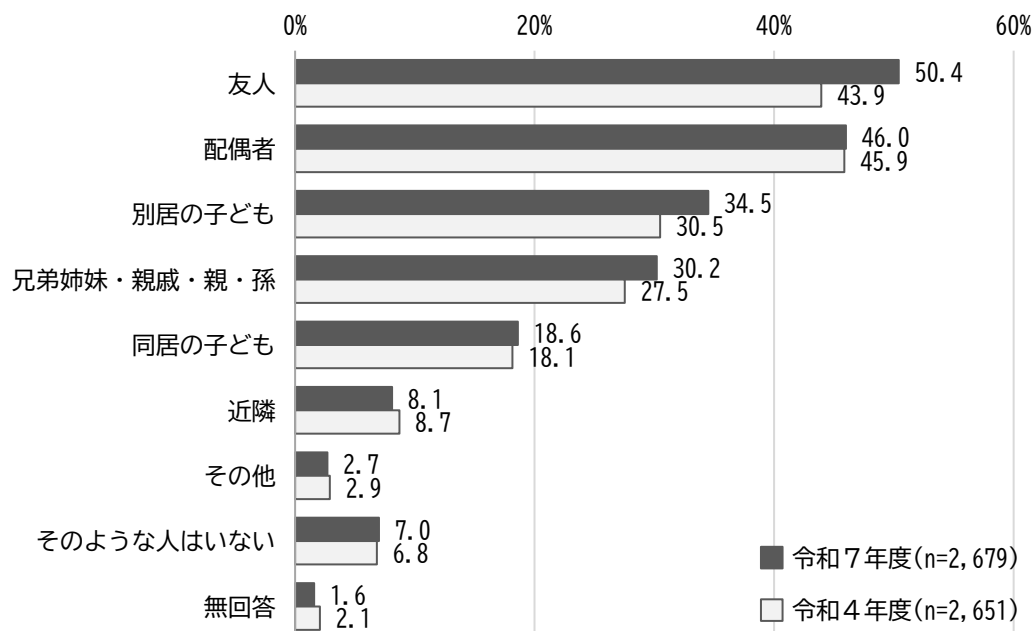
地域参加活動	人数	割合
①ボランティアのグループに参加	318人	11.9%
②スポーツ関係のグループに参加	643人	24.0%
③趣味関係のグループに参加	767人	28.6%
④学習・教養サークルに参加	296人	11.0%
⑤介護予防のための通いの場に参加	166人	6.2%
⑥高齢者クラブに参加	147人	5.5%
⑦町会・自治会に参加	405人	15.1%
⑧収入のある仕事に参加	929人	34.7%
①～⑧のいずれかに参加	1,834人	68.8%

7. たすけあいについて

問 35 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人。(複数回答)

「友人」が50.4%で最も多く、次いで、「配偶者」が46.0%、「別居の子ども」が34.5%となっている。

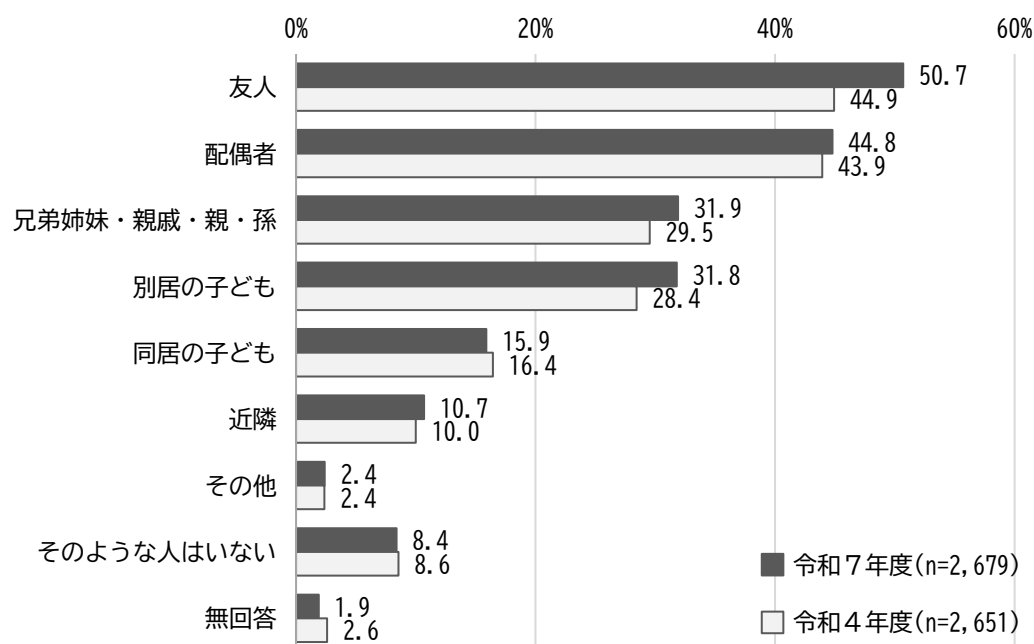
【図表 60】心配事や愚痴を聞いてくれる人〈前回比較〉



問 36 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人。(複数回答)

「友人」が50.7%で最も多く、次いで、「配偶者」が44.8%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が31.9%となっている。

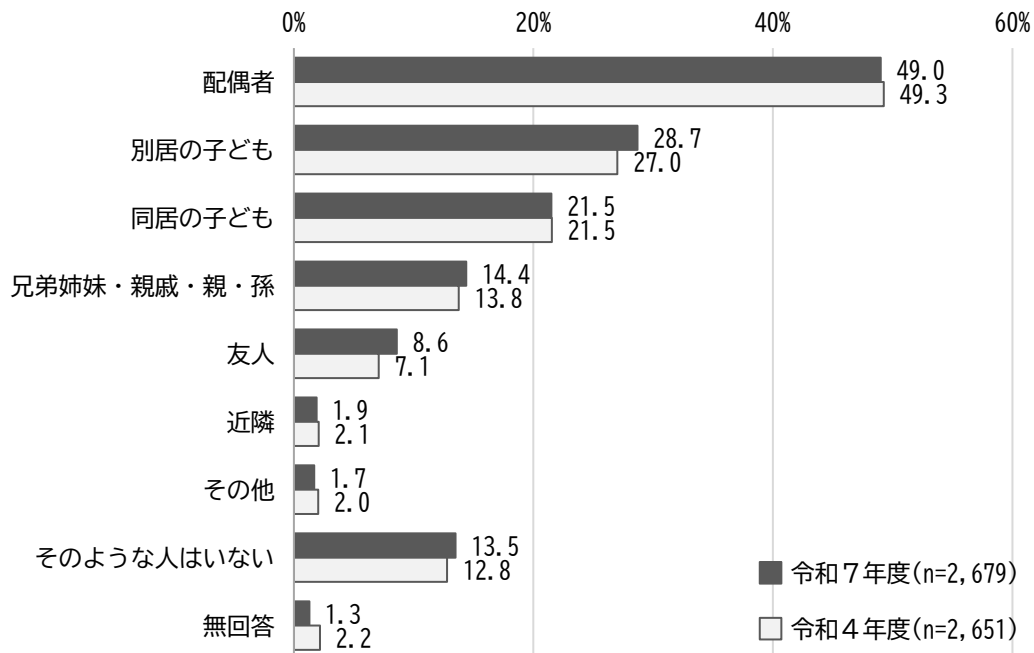
【図表 61】心配事や愚痴を聞いてあげる人〈前回比較〉



問 37 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。(複数回答)

「配偶者」が49.0%で最も多く、次いで、「別居の子ども」が28.7%、「同居の子ども」が21.5%となっている。

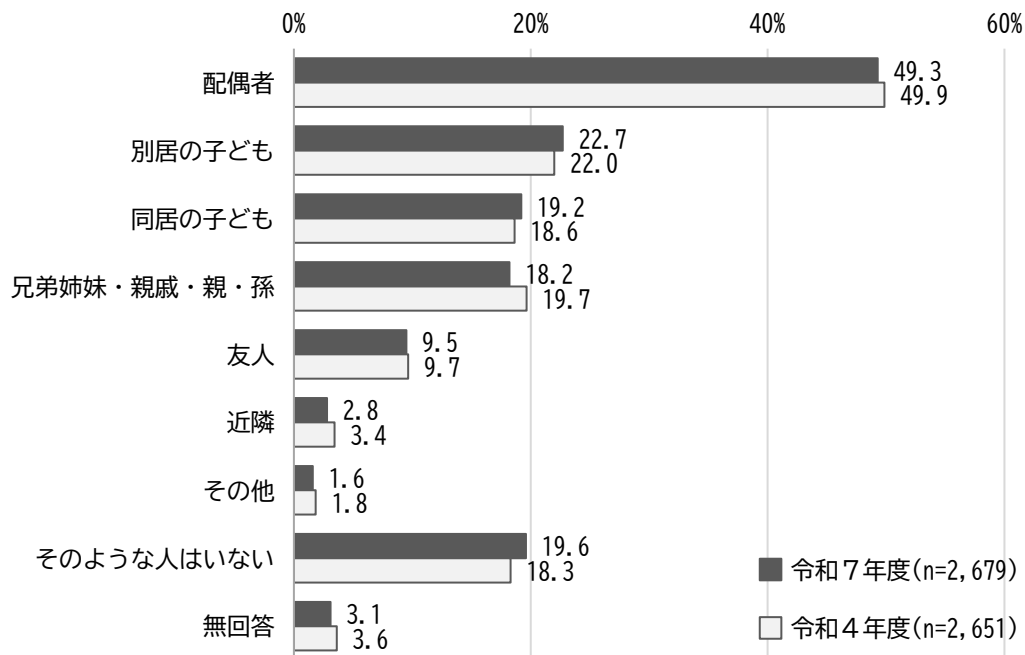
【図表 62】病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人〈前回比較〉



問 38 反対に、看病や世話をしてあげる人。(複数回答)

「配偶者」が49.3%で最も多く、次いで、「別居の子ども」が22.7%、「そのような人はいない」が19.6%となっている。

【図表 63】看病や世話をしてあげる人〈前回比較〉

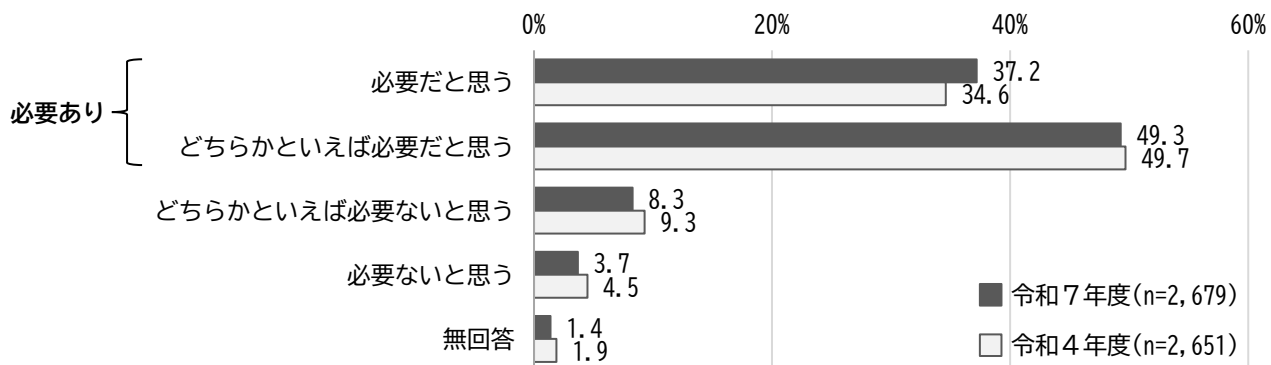


問 39 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）についておたずねします。（単数回答）

（1）地域のつながりの必要性

地域のつながりの必要性については、「必要だと思う」（37.2%）と「どちらかといえば必要だと思う」（49.3%）を合わせた“必要あり”は86.5%となっている。

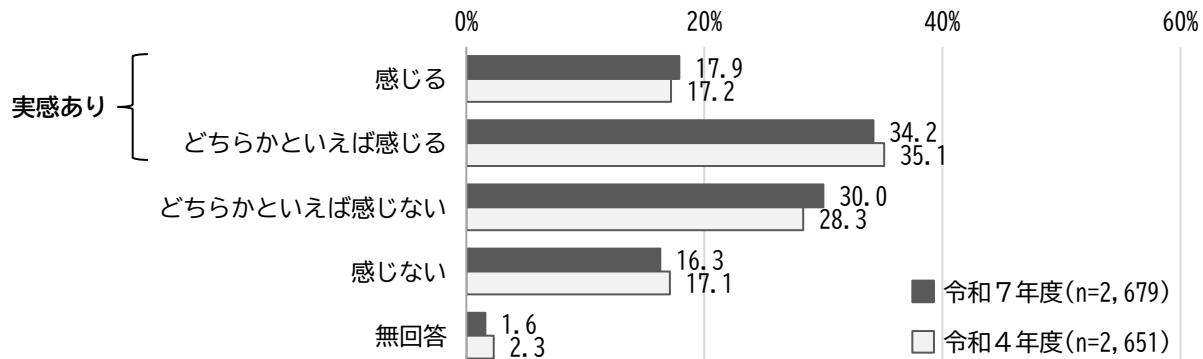
【図表 64】地域のつながりの必要性〈前回比較〉



（2）地域のつながりの実感

地域のつながりの実感については、「感じる」（17.9%）と「どちらかといえば感じる」（34.2%）を合わせた“実感あり”は52.1%となっている。

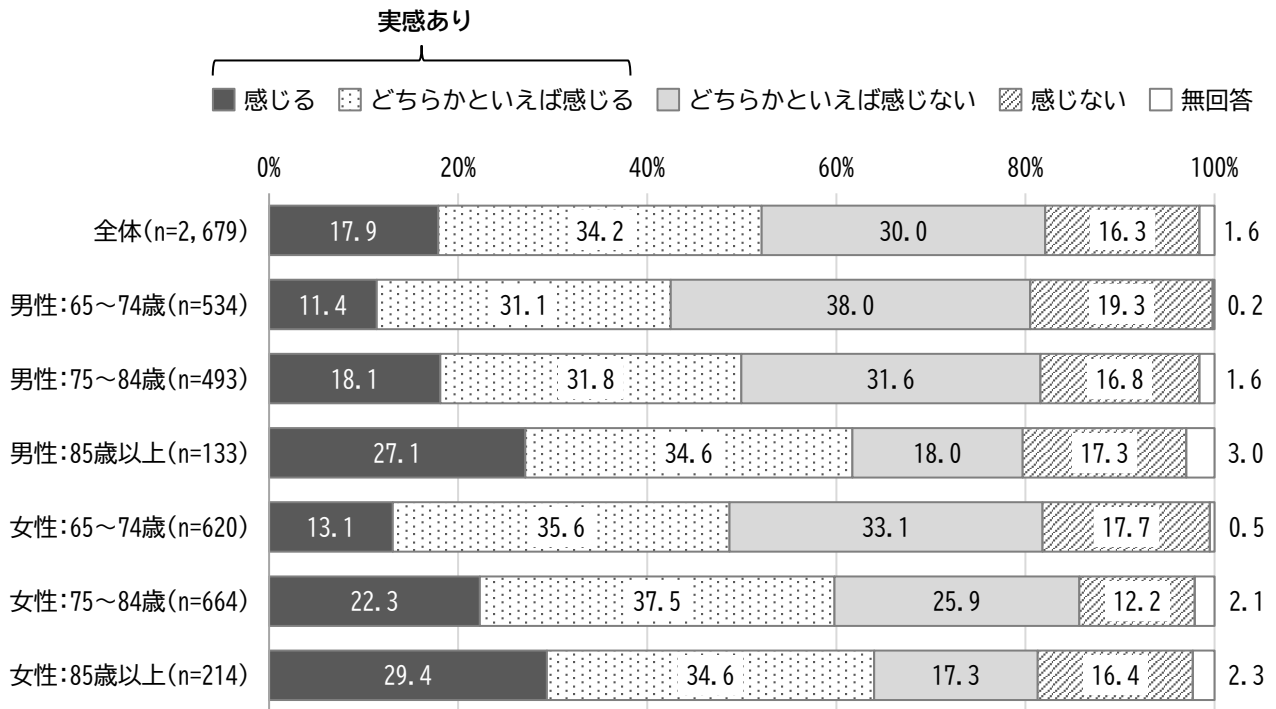
【図表 65】地域のつながりの実感〈前回比較〉



■地域のつながりの実感〈性・年齢階層別〉

性・年齢階層別で見ると、“実感ありは”男女ともに年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

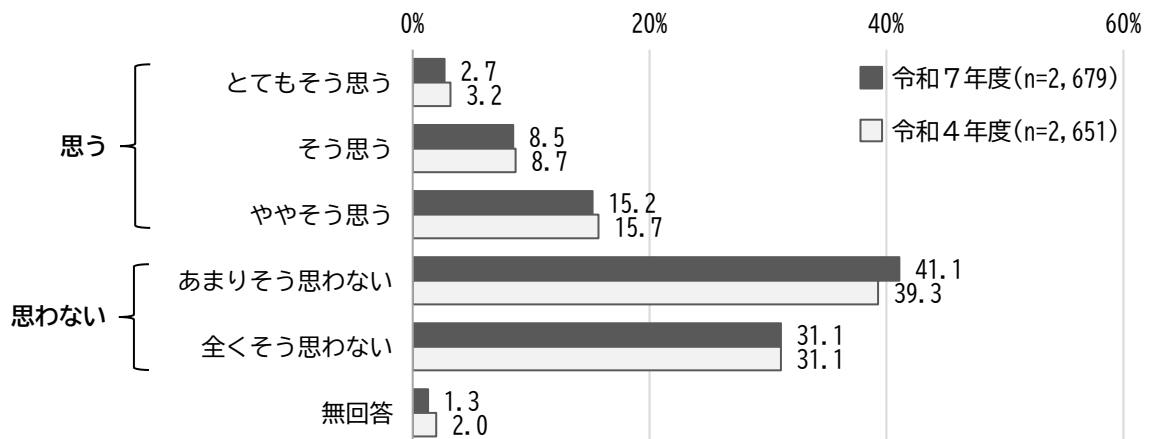
【図表 66】地域のつながりの実感〈性・年齢階層別〉



問 40 あなたは、お住まいの地域の人から何らかの役割を期待されたり、頼りにされていると思いますか。(単数回答)

「とてもそう思う」(2.7%)、「そう思う」(8.5%)、「ややそう思う」(15.2%)を合わせた“思う”は26.4%となっている。一方、「あまりそう思わない」(41.1%)と「全くそう思わない」(31.1%)を合わせた“思わない”は72.2%となっている。

【図表 67】地域の人から期待、頼りにされていると思うか〈前回比較〉

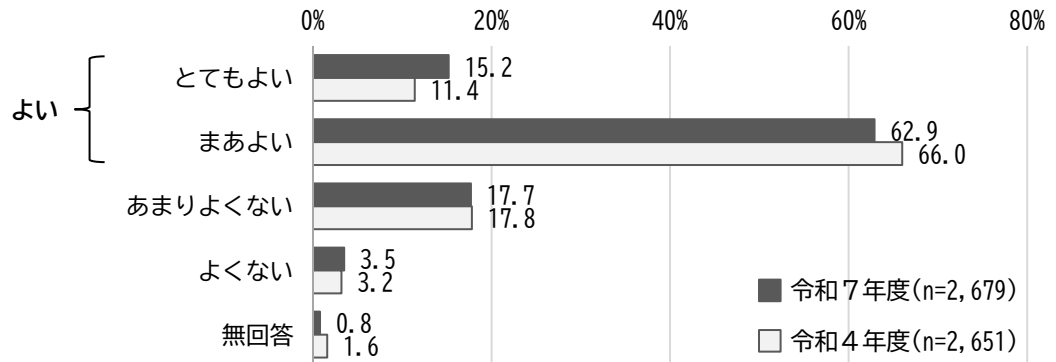


8. 健康状態について

問 41 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(単数回答)

「とてもよい」(15.2%)と「まあよい」(62.9%)を合わせた“よい”は78.1%となっている。

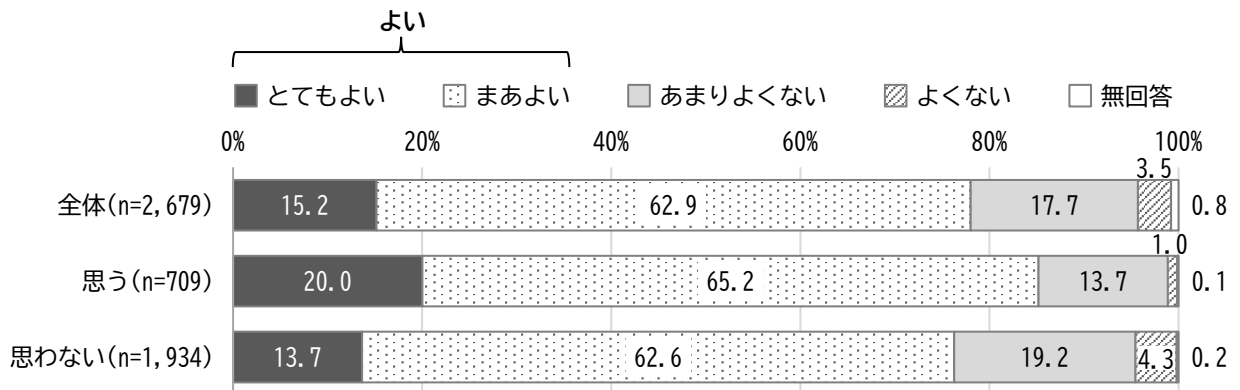
【図表 68】現在の健康状態〈前回比較〉



■現在の健康状態〈地域からの役割期待別〉

現在の健康状態を地域からの役割期待別にみると、「思う」の方が「思わない」と比較して、健康状態が“よい”と回答する割合が高くなっている。

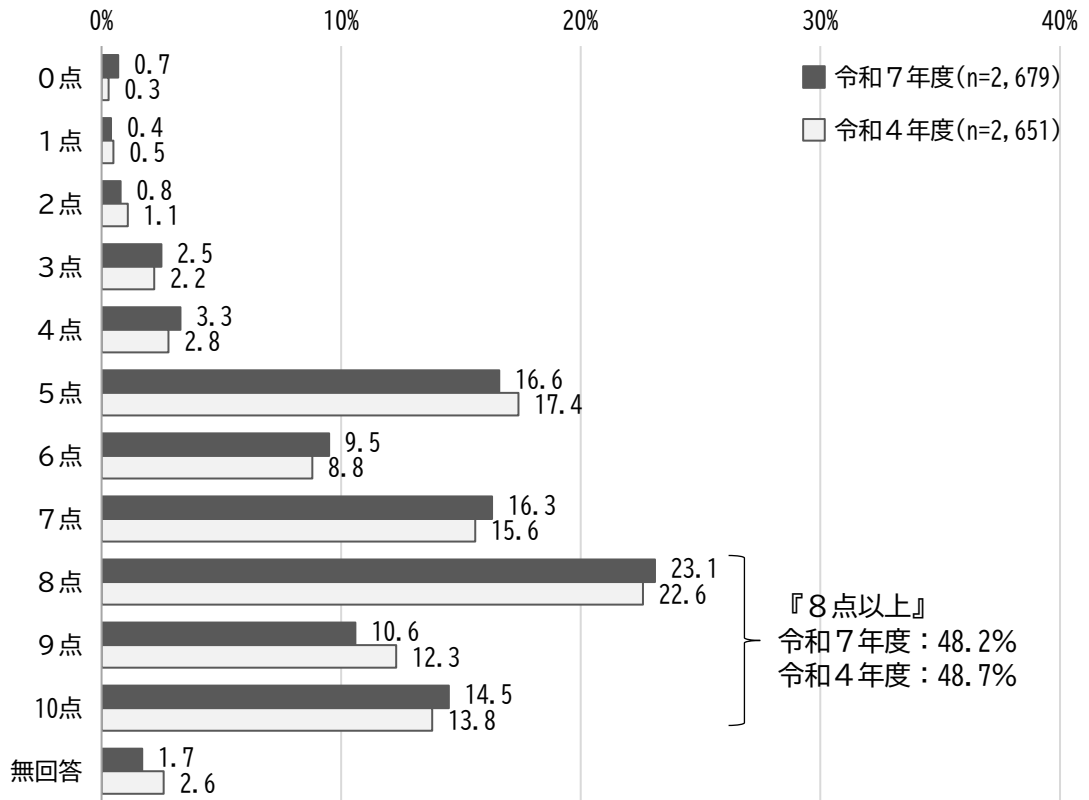
【図表 69】現在の健康状態〈地域からの役割期待別〉



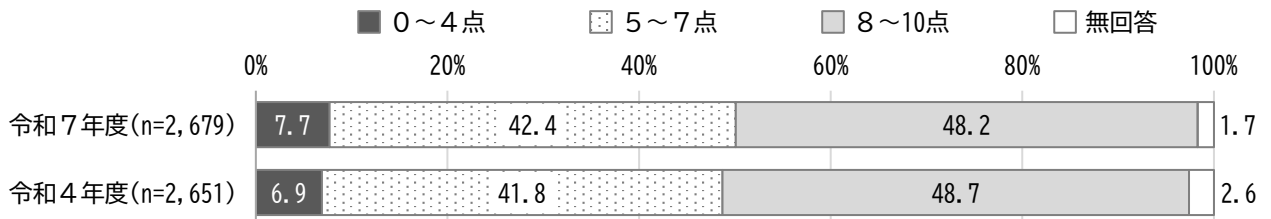
問 42 あなたは、現在どの程度幸せですか。(単数回答)

「8点」が23.1%で最も多く、次いで、「5点」が16.6%、「7点」が16.3%となっている。「8～10点」を合わせた「8点以上」は48.2%となっている。

【図表 70】現在の幸福度〈前回比較〉



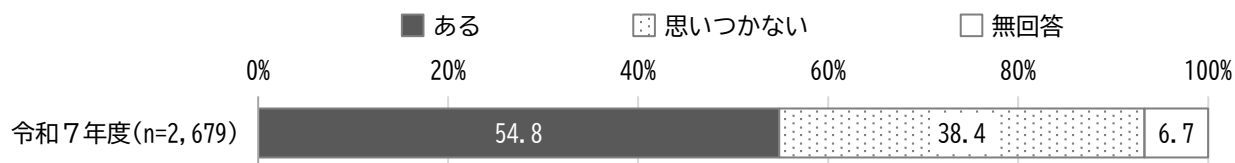
【図表 71】現在の幸福度3区分別〈前回比較〉



問 43 生きがいがありますか。(単数回答)

「ある」が54.8%、「思いつかない」が38.4%となっている。

【図表 72】 生きがいの有無



■問 43 で「ある」と回答した方の具体的な生きがいの記載内容

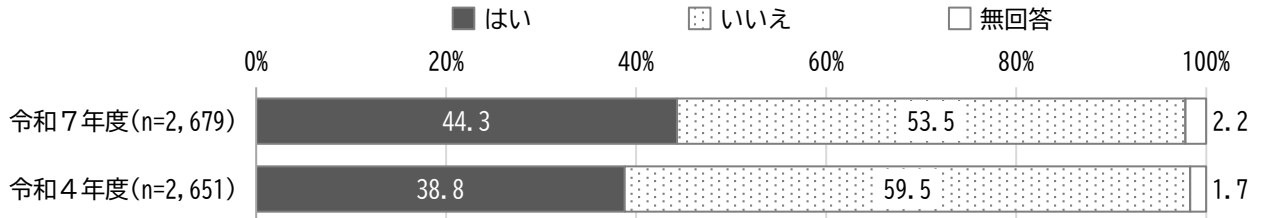
生きがいが「ある」と回答した方に具体的な内容を聞いたところ、1,220 件の回答があった。12 の項目にまとめた各項目の主な内容は以下のとおり。

家族	275 件	健康	50 件
・孫の成長 ・子ども		・健康な生活 ・健康維持	
仕事	219 件	友人・知人との交流	49 件
・働けること ・会社経営		・友人とのつきあい ・友人との集まり	
趣味	194 件	勉強・読書	47 件
・テレビ、動画鑑賞 ・手芸		・語学、数学 ・本を読む	
運動	88 件	ボランティア	23 件
・ゴルフ ・運動		・ボランティア活動 ・地域ボランティア	
旅行	74 件	ペット	20 件
・旅をすること ・家族旅行		・犬 ・猫の世話	
音楽・絵画	60 件	その他	121 件
・ピアノ、歌、コーラス ・絵を描く		・日々の生活 ・毎日を楽しむ	
		合計	1,220 件

問 44 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。
(単数回答)

「はい」が44.3%、「いいえ」が53.5%となっている。

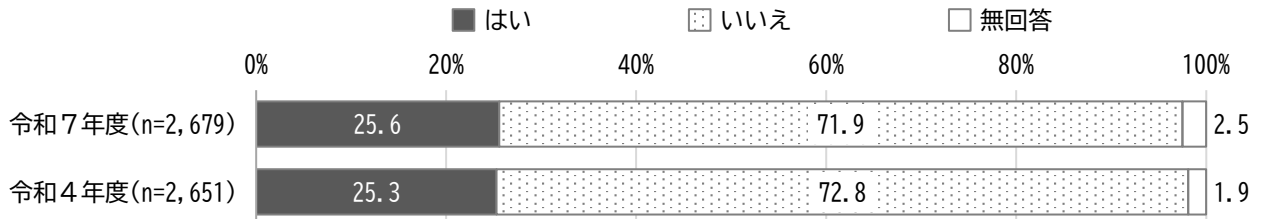
【図表 73】この1か月間の気持ちについて〈前回比較〉



問 45 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(単数回答)

「はい」が25.6%、「いいえ」が71.9%となっている。

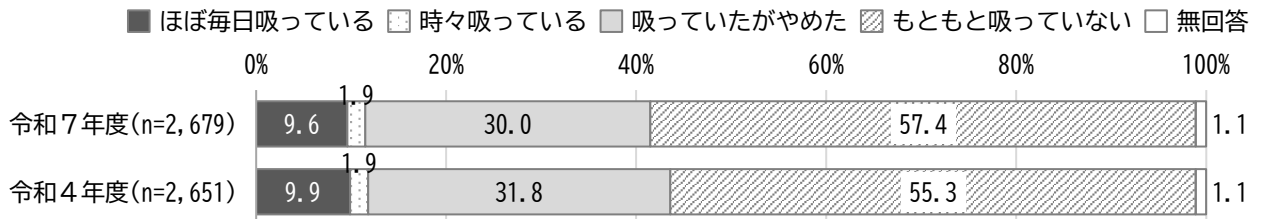
【図表 74】この1か月間のどうしても興味がわかないことや楽しめない感じの有無〈前回比較〉



問 46 タバコは吸っていますか。(単数回答)

「もともと吸っていない」が57.4%で最も多く、次いで、「吸っていたがやめた」が30.0%、「ほぼ毎日吸っている」が9.6%となっている。

【図表 75】喫煙頻度〈前回比較〉



◆各種リスクの状況

■うつ傾向の高齢者割合

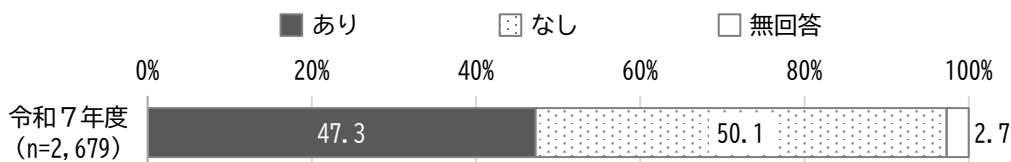
問 44 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(「はい」)

問 45 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(「はい」)

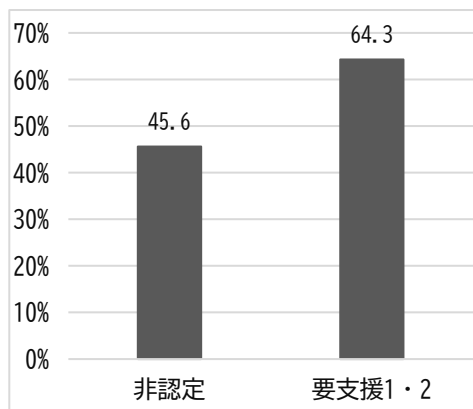
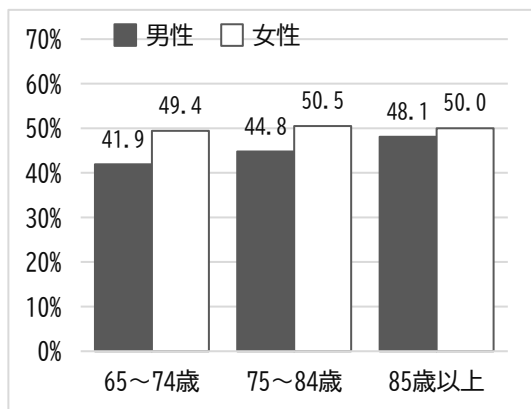
※うつ傾向については、2つの設問でいずれか1つでも「はい」が回答された場合、「うつ傾向あり」と判定。

うつ傾向の高齢者割合の全体平均は47.3%で、性・年齢別で見ると、女性は「65～74歳」と「75～84歳」で男性よりも高くなっており、「85歳以上」では大きな差異はみられない。認定状況別で見ると、「非認定」で45.6%、「要支援1・2」で64.3%となっている。

【図表 76】うつ傾向の高齢者割合



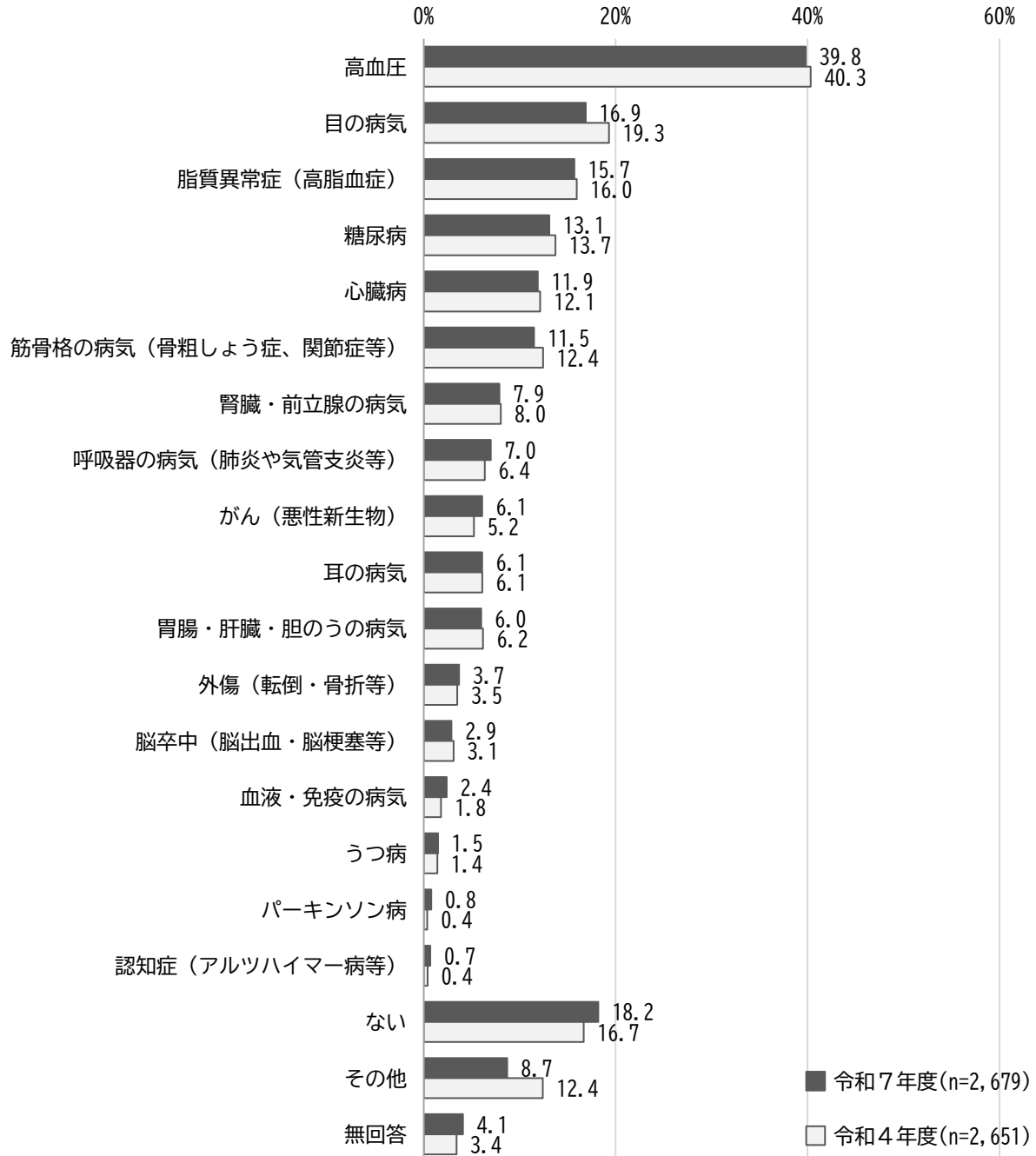
【図表 77】うつ傾向の高齢者割合〈性・年齢階層別／認定状況別〉



問 47 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(複数回答)

「高血圧」が 39.8%で最も多く、次いで、「目の病気」が 16.9%、「脂質異常症（高脂血症）」が 15.7%となっている。一方、「ない」は 18.2%となっている。

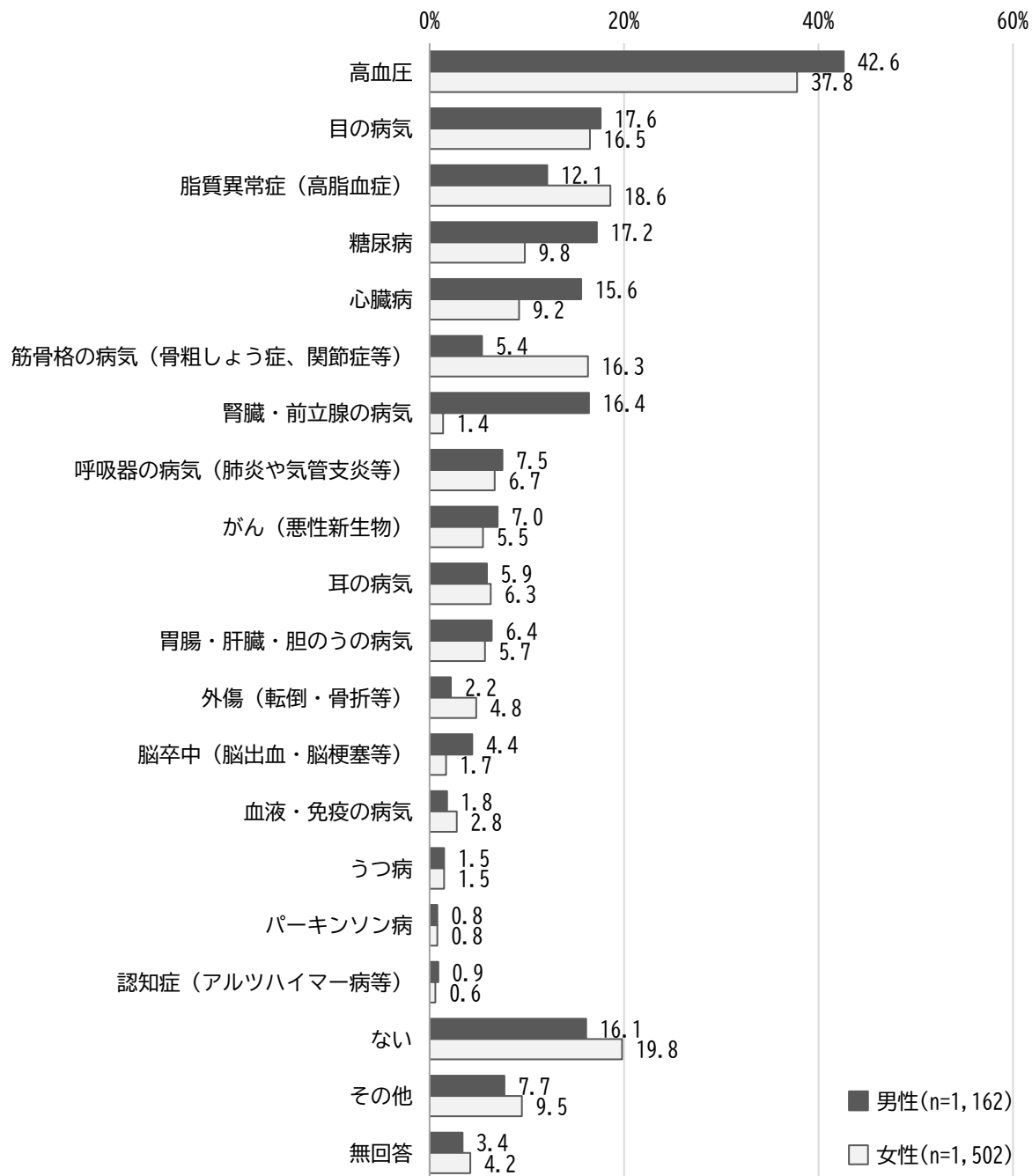
【図表 78】現在治療中、または後遺症のある病気（前回比較）



■現在治療中、または後遺症のある病気〈性別〉

現在治療中、または後遺症のある病気を性別にみると、「高血圧」、「糖尿病」、「心臓病」、「腎臓・前立腺の病気」は男性の方が女性より割合が高く、「脂質異常症（高脂血症）」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」は女性の方が男性より割合が高くなっている。

【図表 79】現在治療中、または後遺症のある病気 〈性別〉

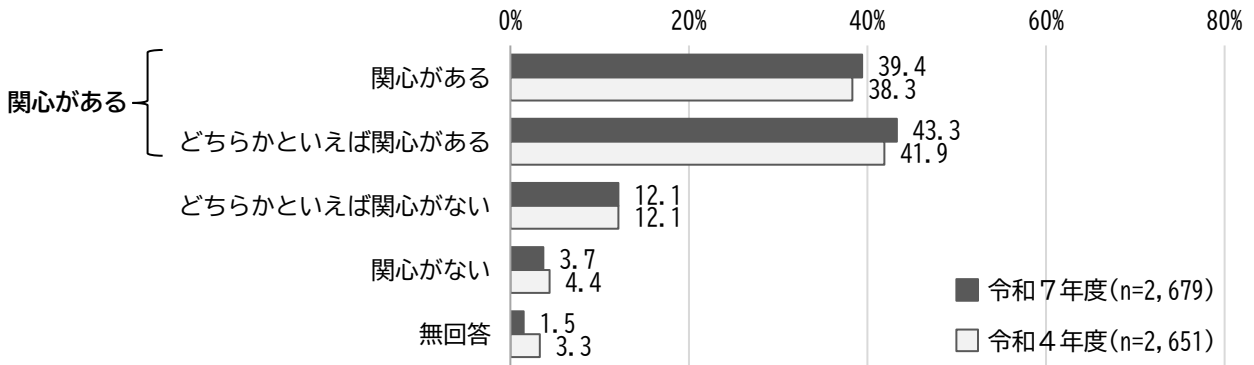


9. 介護予防について

問 48 あなたは、「介護予防」について関心がありますか。(単数回答)

「関心がある」(39.4%)と「どちらかといえば関心がある」(43.3%)を合わせた“関心がある”は82.7%となっている。

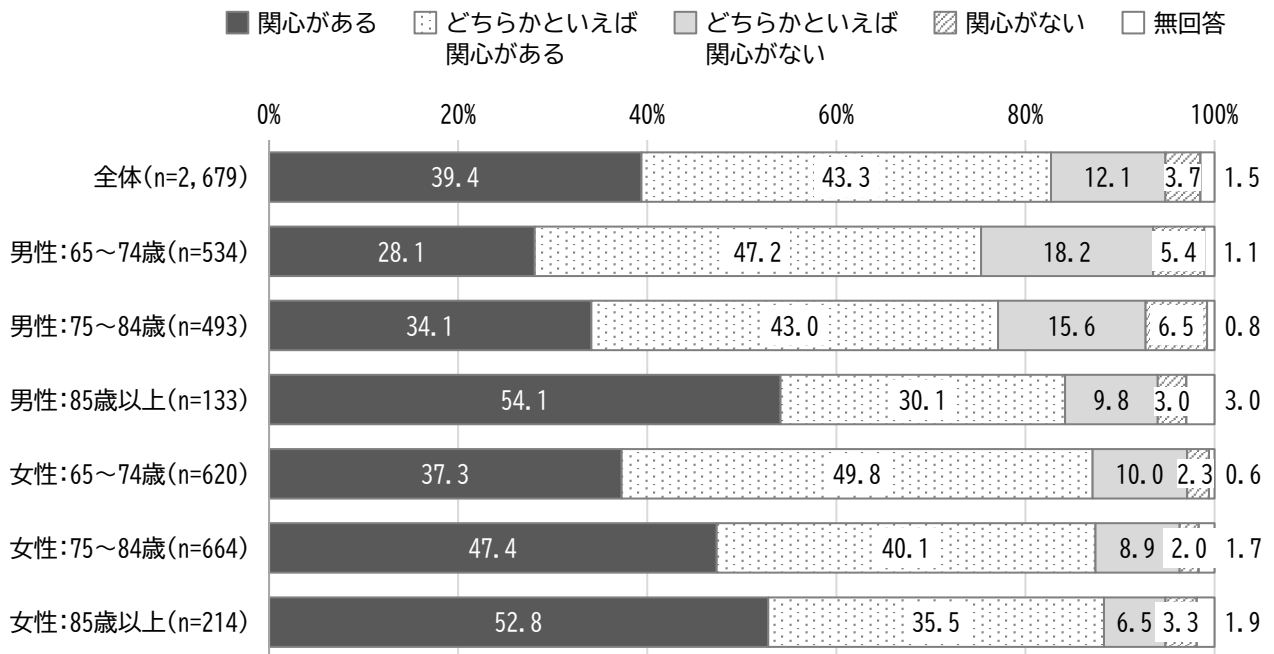
【図表 80】 介護予防への関心の有無〈前回比較〉



■ 介護予防への関心の有無〈性・年齢階層別〉

介護予防への関心の有無を性・年齢階層別にみると、男女ともに年齢が上がるにつれて“関心がある”の割合が高くなっている。

【図表 81】 介護予防への関心の有無〈性・年齢階層別〉



10. かかりつけの医療機関について

問 49 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。(単数回答)

「いる」が81.3%、「いない」が17.3%となっている。

【図表 82】 かかりつけ医の有無〈前回比較〉

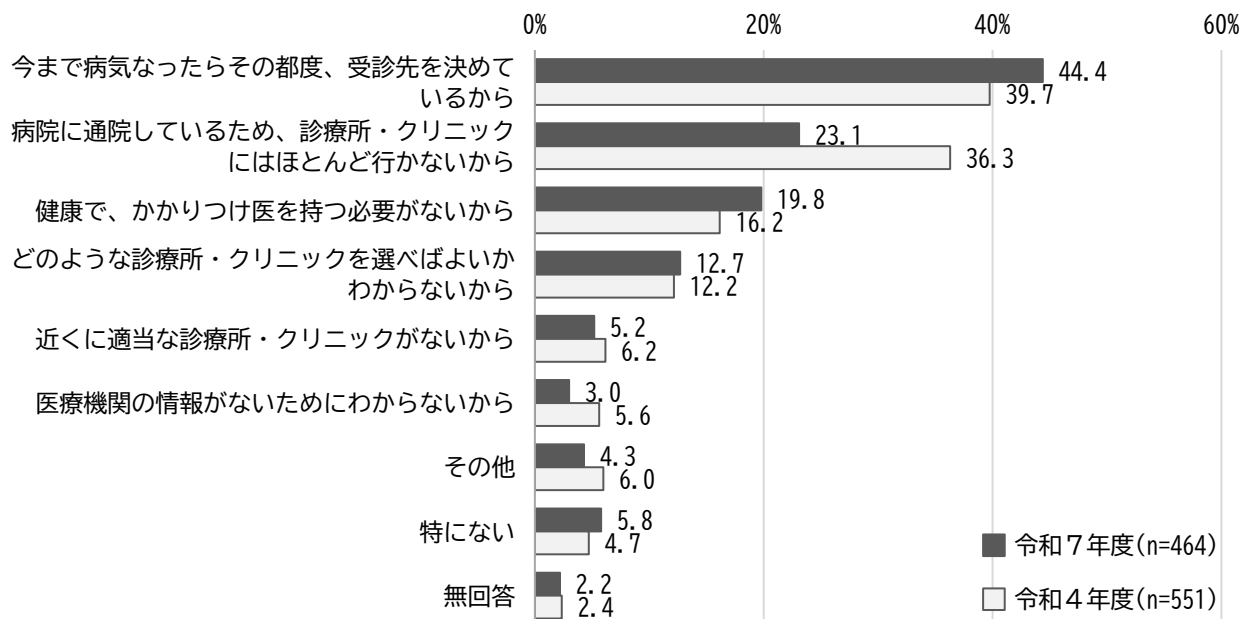


【問 49 で「いない」と回答した方】

問 49-1 かかりつけ医がいない理由は、次のうちどれですか。(複数回答)

「今まで病気になったらその都度、受診先を決めているから」が44.4%で最も多く、次いで、「病院に通院しているため、診療所・クリニックにはほとんど行かないから」が23.1%、「健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから」が19.8%となっている。

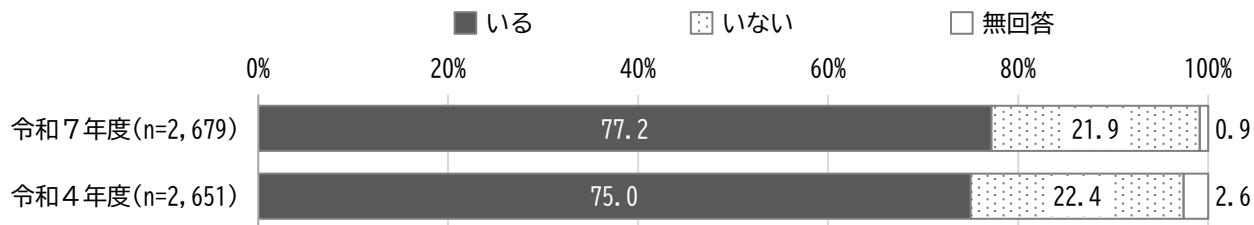
【図表 83】 かかりつけ医がいない理由〈前回比較〉



問 50 あなたは、治療や予防のために定期的に受診している「かかりつけ歯科医」がいますか。
(単数回答)

「いる」が77.2%、「いない」が21.9%となっている。

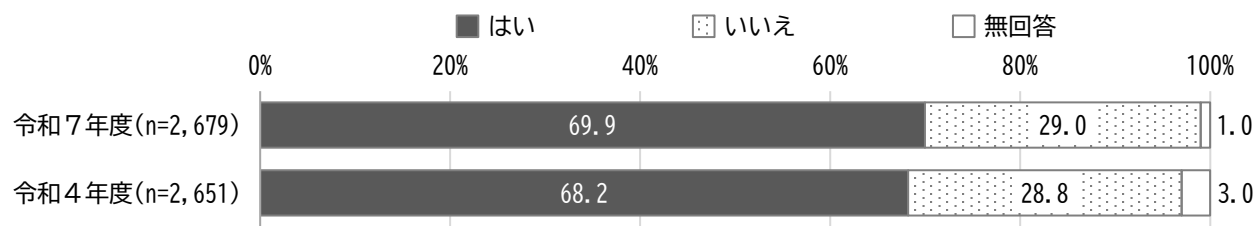
【図表 84】かかりつけ歯科医の有無〈前回比較〉



問 51 あなたは、病院・診療所から処方された薬について相談できる「かかりつけ薬局」がありますか。(単数回答)

「はい」が69.9%、「いいえ」が29.0%となっている。

【図表 85】かかりつけ薬局の有無〈前回比較〉

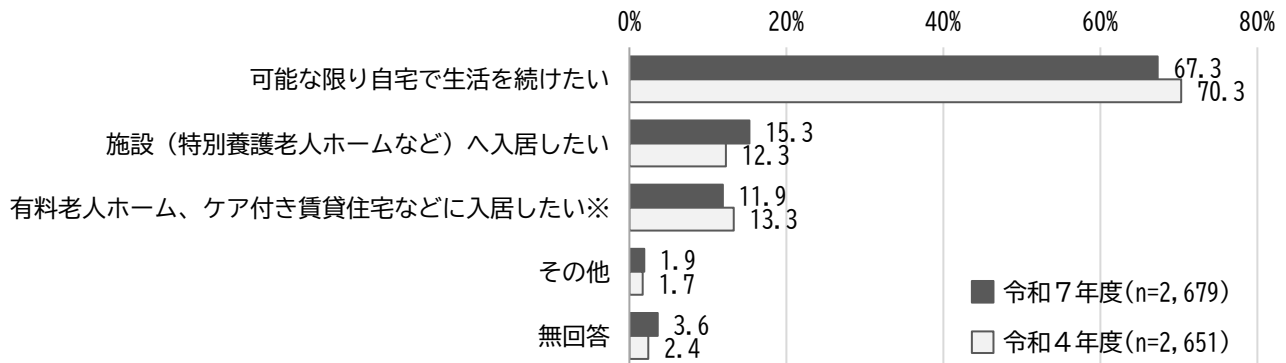


11. 在宅療養等について

問 52 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。(単数回答)

「可能な限り自宅で生活を続けたい」が 67.3%で最も多く、次いで、「施設（特別養護老人ホームなど）へ入居したい」が 15.3%、「有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅などに入居したい」が 11.9%となっている。

【図表 86】 介護が必要になった場合の生活を続けたい場所〈前回比較〉

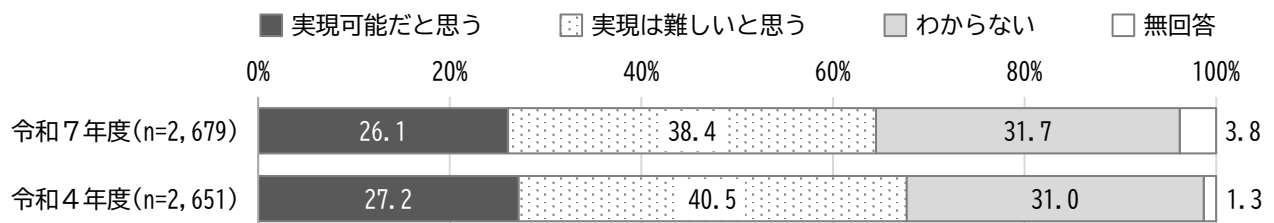


※令和4年度調査の選択肢は「介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居（有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など）に入居したい」となっている。

問 53 ご自宅での療養は実現可能だと思いますか。(単数回答)

「実現は難しいと思う」が 38.4%で最も多く、次いで、「わからない」が 31.7%、「実現可能だと思う」が 26.1%となっている。

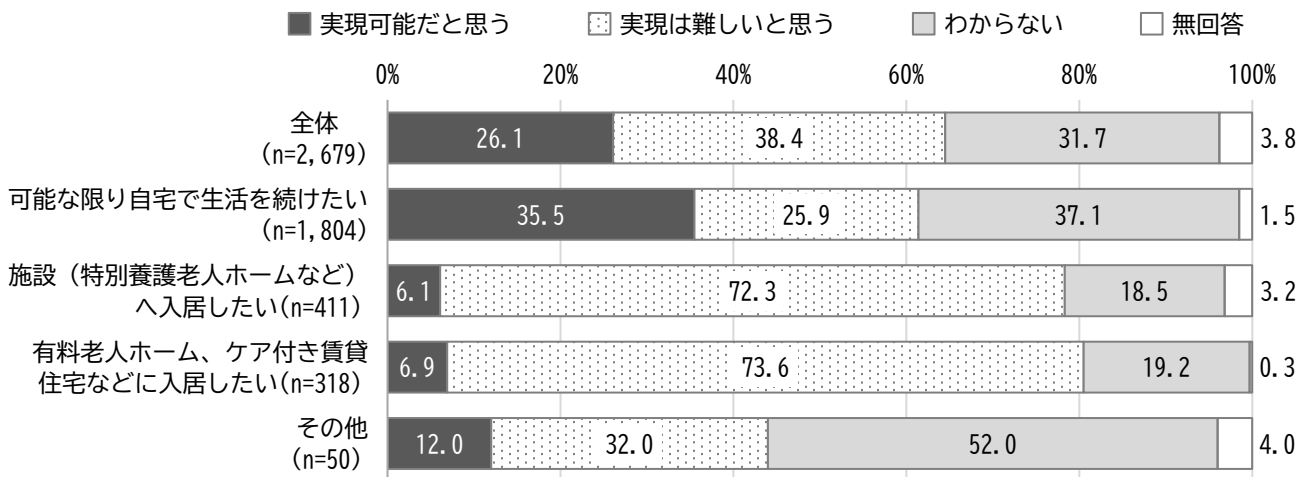
【図表 87】 在宅療養の可能性〈前回比較〉



■在宅療養の可能性〈介護が必要になった場合の希望する生活場所別〉

「可能な限り自宅で生活を続けたい」と回答した人のうち、「実現可能だと思う」は35.5%となっている。

【図表 88】在宅療養の可能性〈問 52 介護が必要になった場合の生活場所別〉

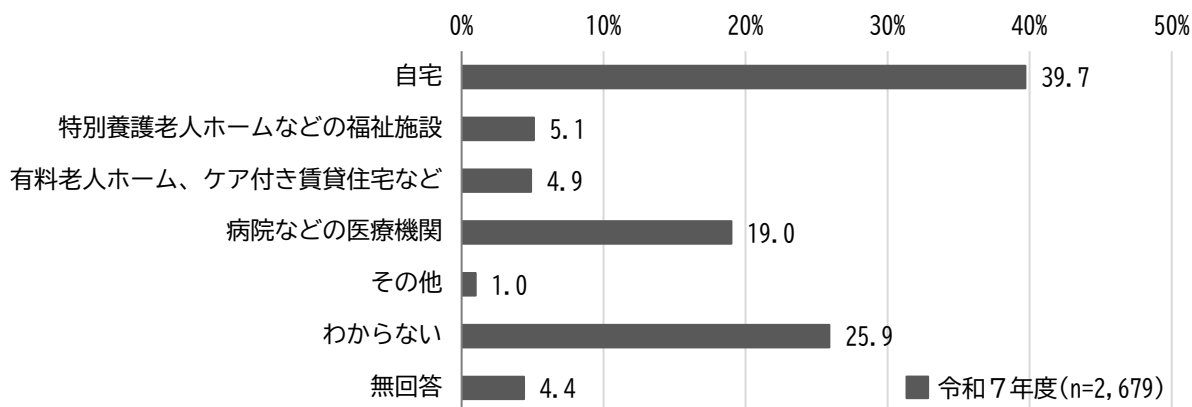


12. ACP（人生会議）について

問 54 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。（単数回答）

「自宅」が 39.7%で最も多く、次いで、「わからない」が 25.9%、「病院などの医療機関」が 19.0%となっている。

【図表 89】最期を迎えたい場所

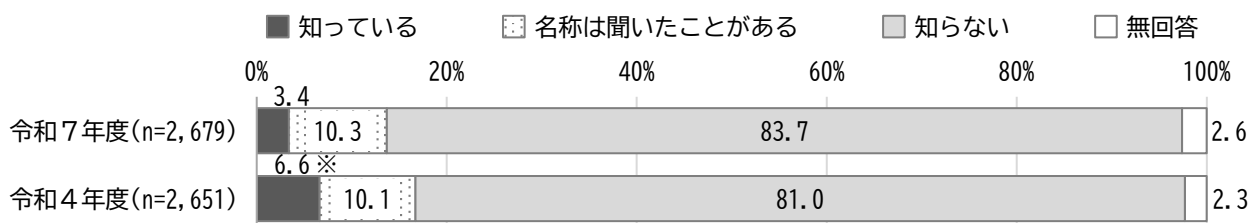


問 55 ACP（人生会議）についておたずねします。（単数回答）

(1) あなたは、ACP（人生会議）について知っていますか。

「知らない」が 83.7%で最も多く、次いで、「名称は聞いたことがある」が 10.3%、「知っている」が 3.4%となっている。

【図表 90】ACP（人生会議）の認知度〈前回比較〉

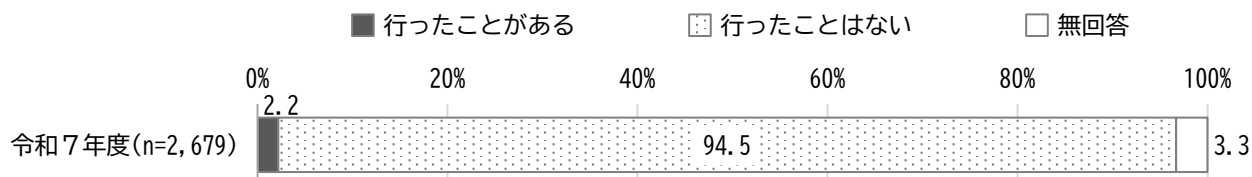


※令和4年度調査については、選択肢「知っている（話し合ったことがある）」(2.7%)と「知っている（話し合ったことはない）」(3.9%)を合わせて、「知っている」(6.6%)としている。

(2) あなたは、ACP（人生会議）を行ったことがありますか。

「行ったことがある」が 2.2%、「行ったことはない」が 94.5%となっている。

【図表 91】ACP（人生会議）を行ったことの有無

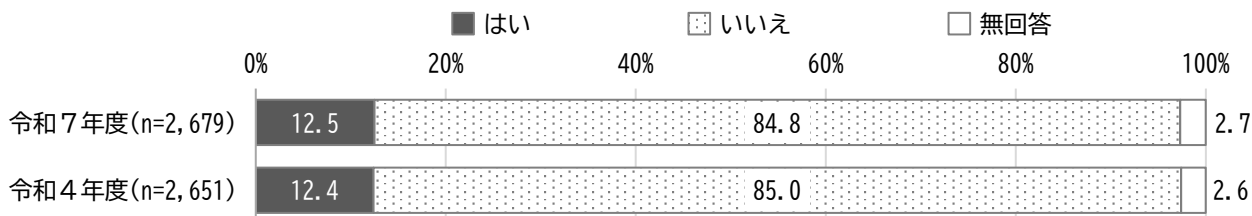


13. 認知症について

問 56 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいますか。(単数回答)

「はい」が12.5%、「いいえ」が84.8%となっている。

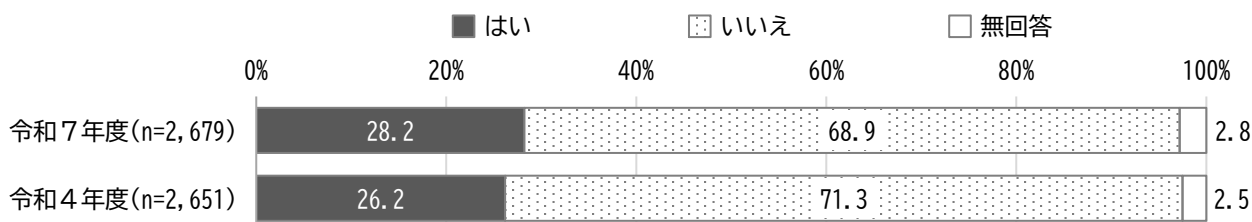
【図表 92】 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいるか〈前回比較〉



問 57 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(単数回答)

「はい」が28.2%、「いいえ」が68.9%となっている。

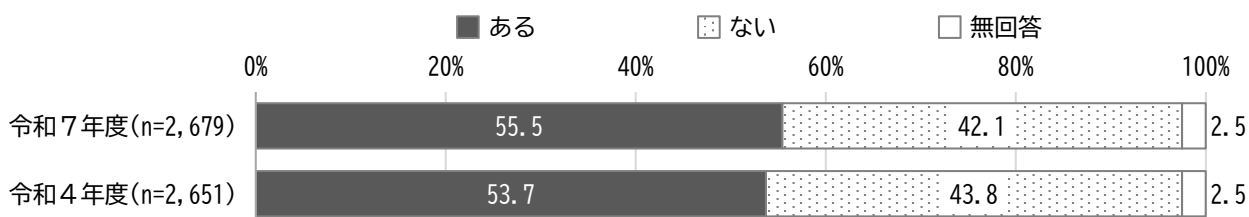
【図表 93】 認知症に関する相談窓口の認知度〈前回比較〉



問 58 あなたは今までに、自身や家族等が認知症になったときのことについて、考えたことがありますか。(単数回答)

「ある」が55.5%、「ない」が42.1%となっている。

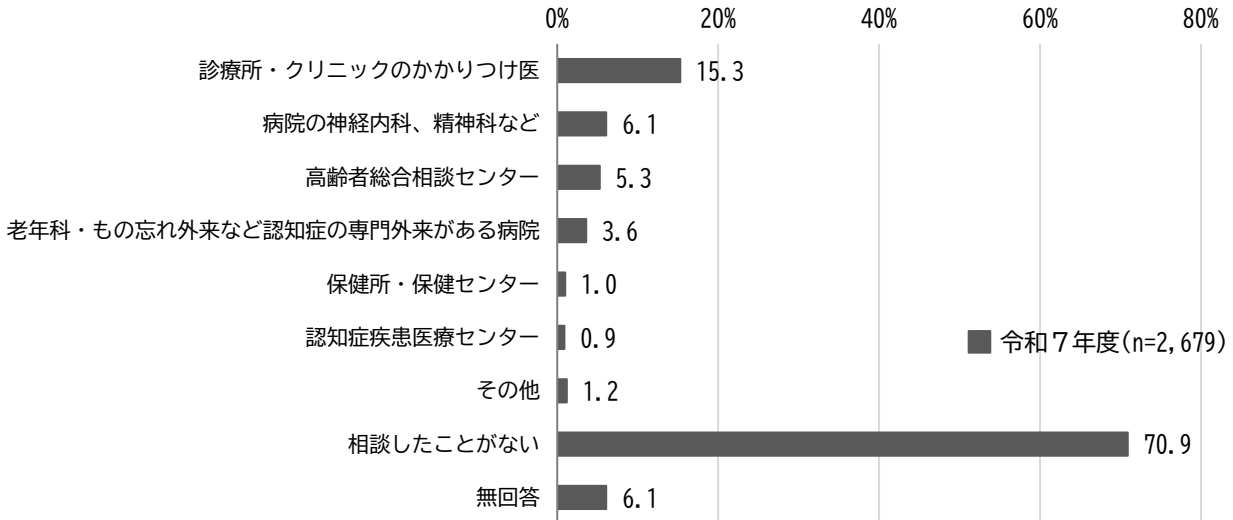
【図表 94】 自身や家族が認知症になったときのことについて、考えたことの有無〈前回比較〉



問 59 もの忘れや認知症に関して、どちらに相談しましたか。(複数回答)

「相談したことがない」が 70.9%で最も多く、次いで、「診療所・クリニックのかかりつけ医」が 15.3%、「病院の神経内科、精神科など」が 6.1%となっている。

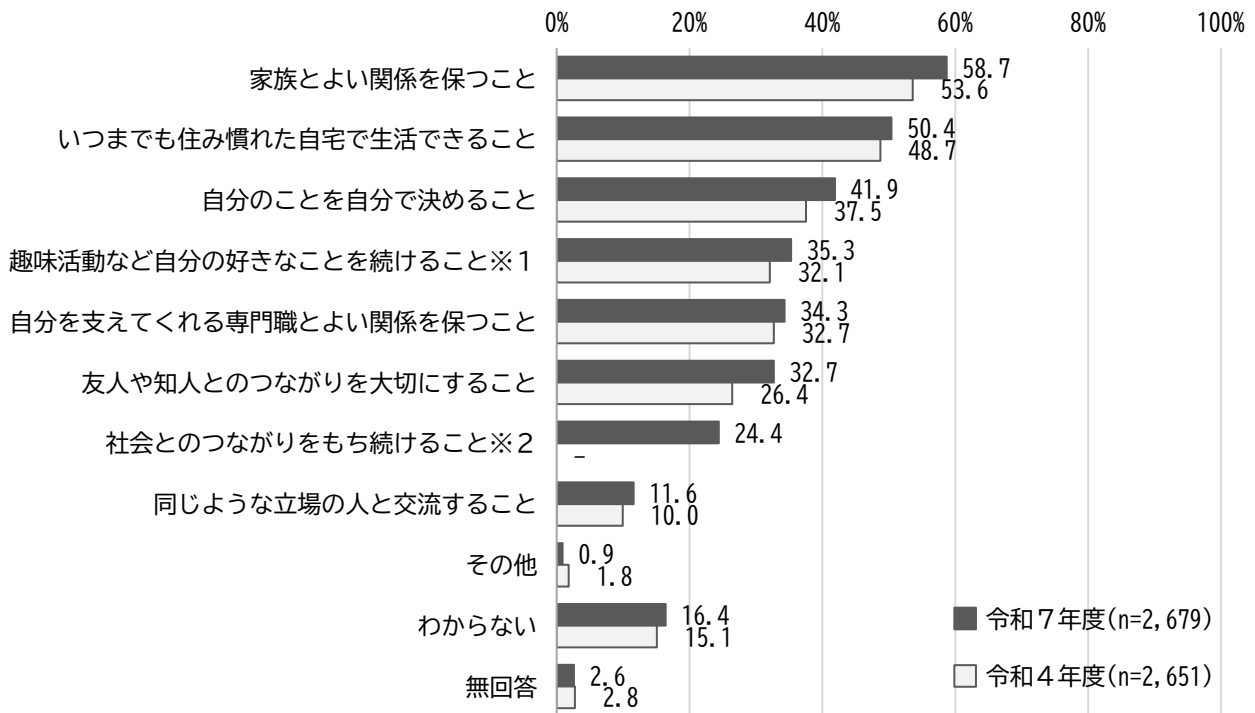
【図表 95】もの忘れや認知症に関する相談先



問 60 もしあなたが認知症になった場合、大切にしたいことは何ですか。(複数回答)

「家族とよい関係を保つこと」が 58.7%で最も多く、次いで、「いつまでも住み慣れた自宅で生活できること」が 50.4%、「自分のことを自分で決めること」が 41.9%となっている。

【図表 96】認知症になった場合に大切にしたいこと〈前回比較〉



※1 令和4年度調査の選択肢は「趣味や料理など自分の好きなことを続けること」となっている。

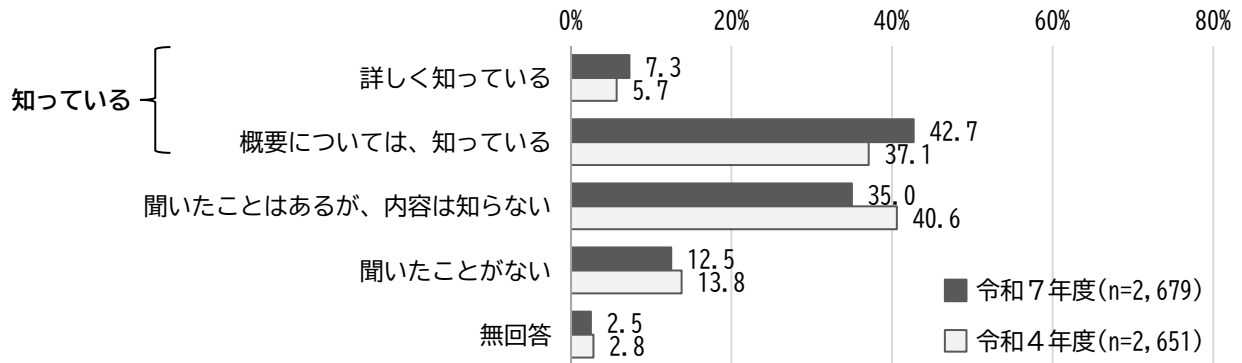
※2 令和4年度調査では選択肢「社会とのつながりをもち続けること」はない。

14. 権利擁護について

問 61 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(単数回答)

「概要については、知っている」が 42.7%で最も多く、次いで、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が 35.0%、「聞いたことがない」が 12.5%となっている。「詳しく知っている」(7.3%)と「概要については、知っている」(42.7%)を合わせた“知っている”は 50.0%となっている。

【図表 97】成年後見制度の認知度〈前回比較〉

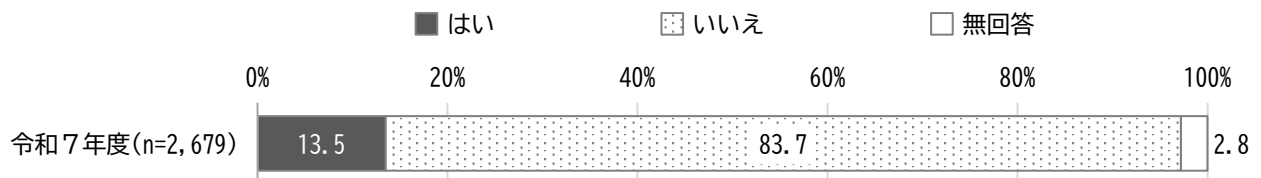


15. 災害時要援護者対策について

問 62 あなたは、「災害時要援護者名簿」について知っていますか。(単数回答)

「はい」が 13.5%、「いいえ」が 83.7%となっている。

【図表 98】災害時要援護者名簿の認知度

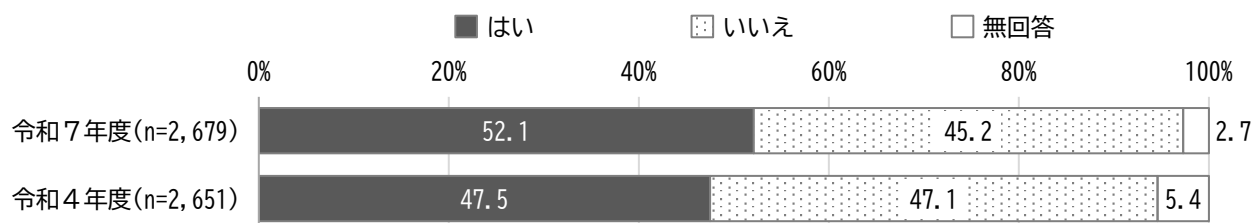


16. 健康・福祉サービスの情報や相談窓口について

問 63 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称を知っていますか。(単数回答)

「はい」が52.1%、「いいえ」が45.2%となっている。

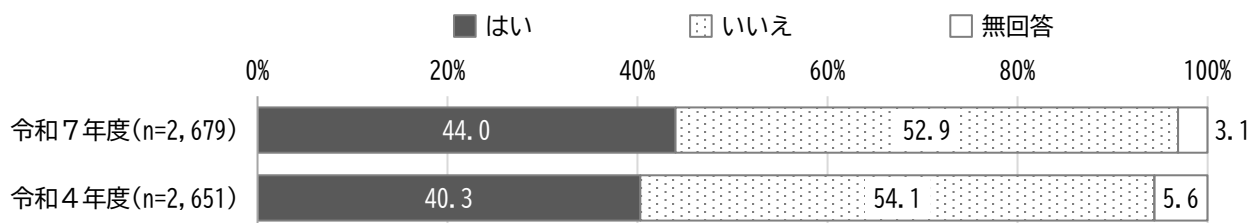
【図表 99】 高齢者総合相談センターの名称の認知度〈前回比較〉



問 64 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関か知っていますか。(単数回答)

「はい」が44.0%、「いいえ」が52.9%となっている。

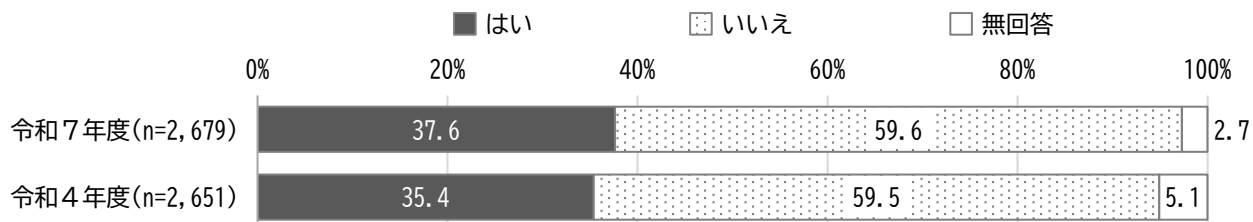
【図表 100】 高齢者総合相談センターの機能の認知度〈前回比較〉



問 65 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるか知っていますか。(単数回答)

「はい」が37.6%、「いいえ」が59.6%となっている。

【図表 101】 高齢者総合相談センターの所在地の認知度〈前回比較〉

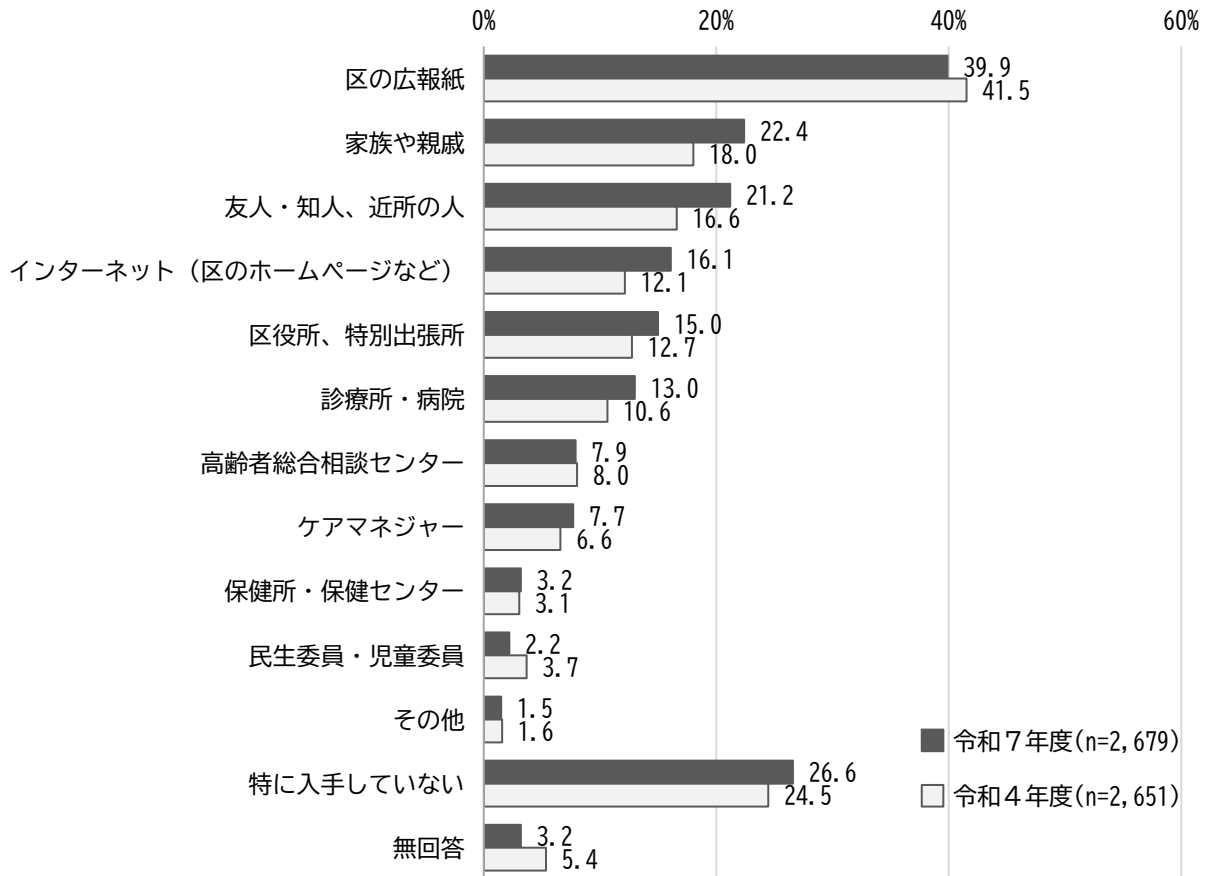


問 66 健康や福祉サービスに関する情報についてうかがいます。(複数回答)

(1) あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか。

「区の広報紙」が 39.9%で最も多く、次いで、「特に入手していない」が 26.6%、「家族や親戚」が 22.4%となっている。

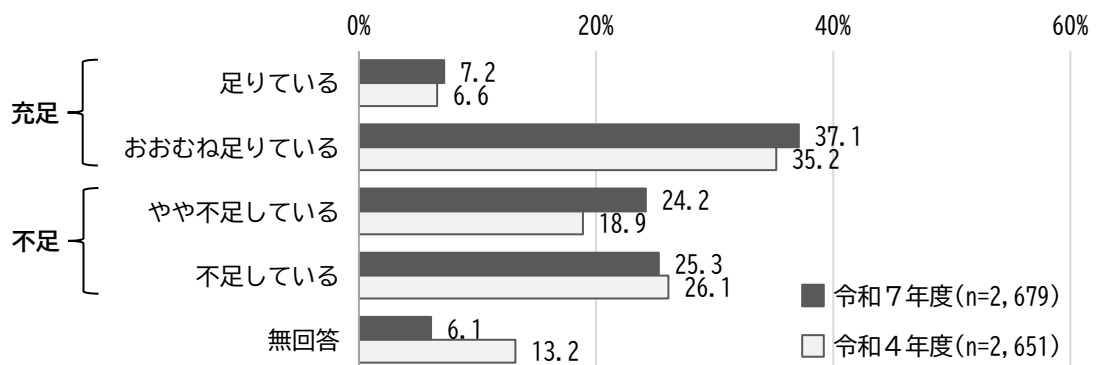
【図表 102】健康や福祉サービスに関する情報の入手手段〈前回比較〉



(2) あなたの入手している健康や福祉サービスに関する情報量は足りていると思いますか。

「おおむね足りている」が 37.1%で最も多く、「足りている」(7.2%)を合わせた“充足”は 44.3%となっている。一方、「不足している」(25.3%)と「やや不足している」(24.2%)を合わせた“不足”は 49.5%となっている。

【図表 103】健康や福祉サービスに関する情報量の充足度〈前回比較〉

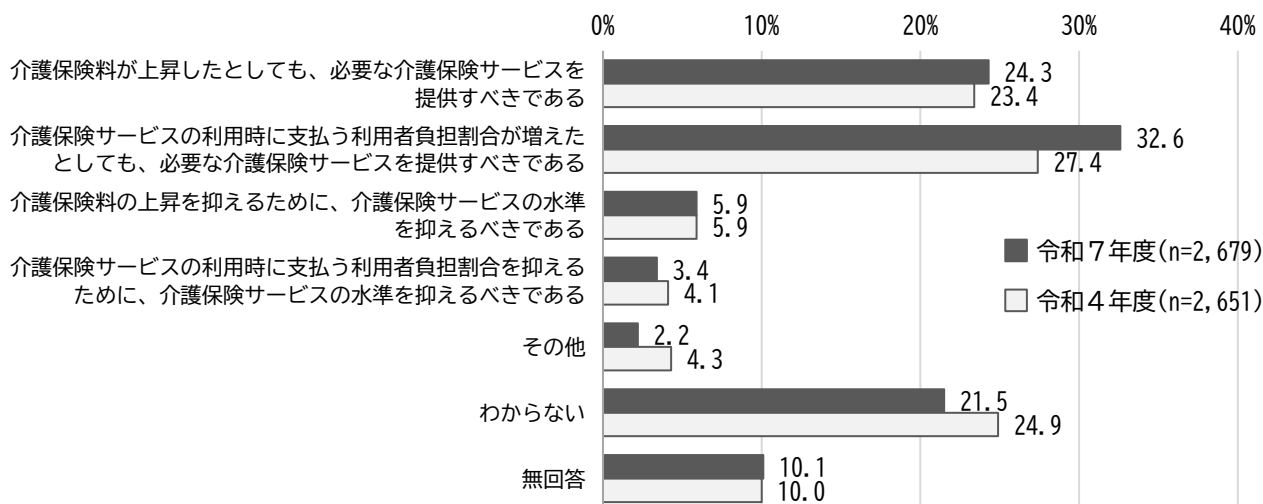


17. 介護保険制度について

問 67 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。
(単数回答)

「介護保険サービスの利用時に支払う利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」が 32.6%で最も多く、次いで、「介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」が 24.3%、「わからない」が 21.5%となっている。

【図表 104】 介護保険のサービスと費用負担 〈前回比較〉



自由記述

問 68 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、663 件の回答があった。13 の項目にまとめた各項目の主な意見は以下のとおり。(その他を除く)

介護保険・保険料について	129 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険料をもっと抑えてほしい。 ・ 年金に対して介護保険料が高い。 ・ 介護保険は利用者負担増となっても維持すべき。 ・ 少子化で若い人の負担を考えると、サービスを受ける人が負担増になってもしかたない。 	
高齢者施策について	69 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 区営住宅をもっと多くしてほしい。 ・ ふれあいクーポンはありがたいので続けてほしい。 ・ 高齢者の生活がより良くなるようにお願いしたい。 ・ ボランティアに参加してくれる方を増やし、サービスにかかる費用を軽減できると良い。 ・ いきいきした地域づくりを進めるための趣味等のグループ活動について、もっと知的な分野があれば参加したい。 	
サービスについて	61 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の福祉や介護に携わる方々の待遇にも配慮すべき。 ・ ケアマネジャーが相談に乗ってくれて助かった。 ・ 高齢者の困りごとに細やかな配慮がほしい。 ・ 高齢者総合相談センターの更なる充実と職員の人材確保を希望する。 	
行政への要望について	58 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人暮らしの高齢者には手続きが難しすぎる。 ・ 車いす利用者や高齢者等が、安全に移動できるよう横断歩道等の歩車道段差整備をお願いしたい。 ・ 助けが必要な人を助けることができる区政をお願いしたい。 	
情報提供相談について	54 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ どんな福祉施策や介護保険があるのか、まとめた資料がほしい。 ・ 「災害時要援護者名簿」および「高齢者総合相談センター」について、もっと知りたい。 ・ 区の広報紙を充実してほしい。 	
高齢者向け施設について	39 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ これから高齢者が増加してくるので、老人ホームなどの介護施設を増やしてほしい。 ・ 費用負担の少ない介護施設が必要。 ・ 住み慣れた地域に入所できる施設がほしい。 	
アンケートについて	38 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの質問項目が多すぎる。 ・ 回答しにくい質問があったので、改善してほしい。 ・ 今回のアンケートで今の自分に必要な情報関係機関などがよくわかった。 	

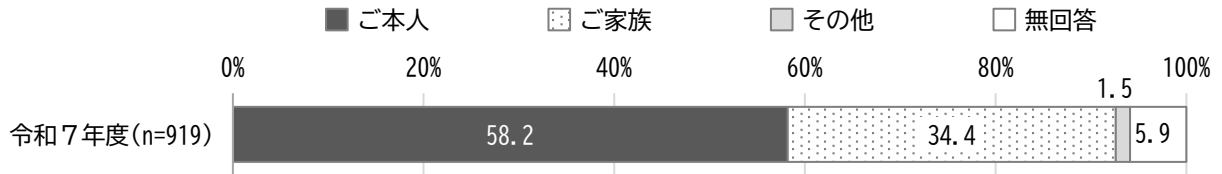
健康・介護予防について	29 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護予防へ注力してほしい。 ・ 高齢者の健康促進の為にスポーツジム等の参加費用の補助等を検討してほしい。 ・ 健康寿命の維持する方法を教えてください。 	
生活不安・将来不安について	17 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 物価高に伴いますサービスに係わる費用も増大が予想される中、年金生活者としてこれ以上の負担増は深刻な問題。無駄を省いて負担を抑えてほしい。 ・ 介護を受けるようになる事を考えると不安。 	
国民健康保険・後期高齢者医療制度について	14 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国民健康保険と後期高齢者医療保険の保険料が高い。 ・ 「後期高齢者医療資格確認書」を後期高齢者全員に配布していただきありがたい。 	
独居高齢者について	7 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人暮らし高齢者の増加について、対策や必要なサービスの検討を早目にしてほしい。 ・ 一人暮らしだが蛍光灯の交換が大変。気楽に頼めるところがほしい。 	
認知症について	6 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の家族を介護しているときに、周囲の無理解により追いつめられた。 ・ 認知症のパートナーを見送ったが、専門医に辿りついたことで人間としての尊厳を損なう事なく過ごせて幸運だった。 	
その他	142 件

2 要支援・要介護認定者調査

1. あなた自身のことについて

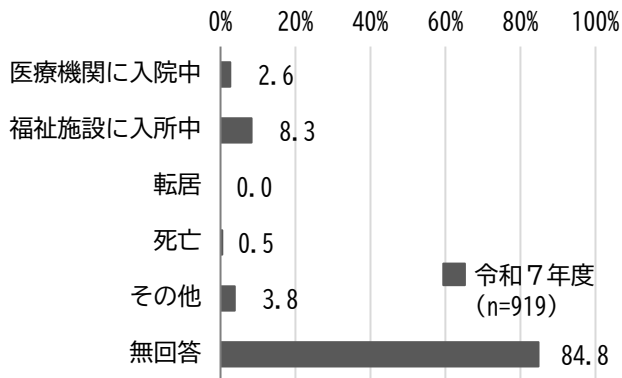
調査票を記入した人（単数回答）

【図表 105】 調査票の記入者



ご本人が何らかの事情によりご不在の場合（単数回答）

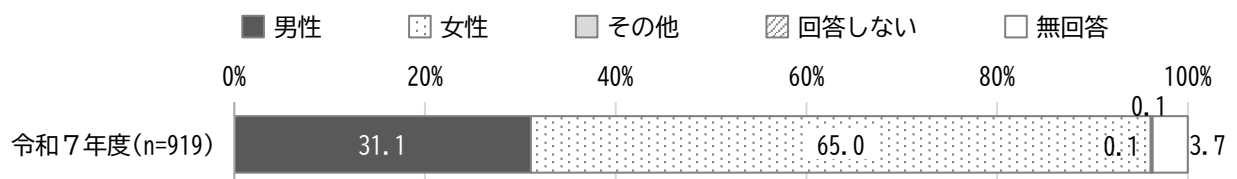
【図表 106】 不在の事情



不在の事情	人数
医療機関に入院中	24
福祉施設に入所中	76
転居	0
死亡	5
その他	35
上記に該当しない	779
合計	919

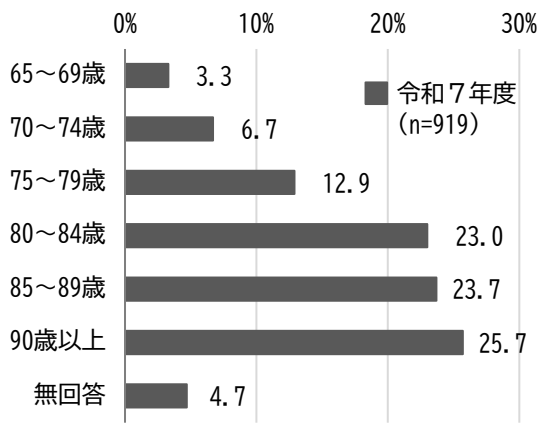
問1 性別を教えてください。（単数回答）

【図表 107】 性別



問2 年齢をご記入ください。(単数回答)

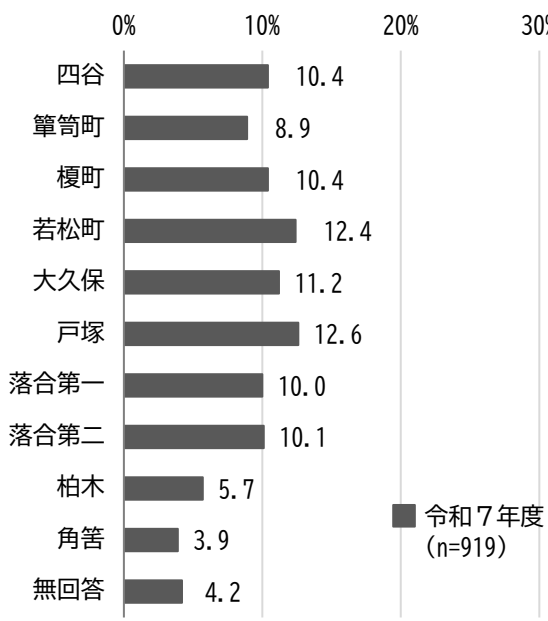
【図表 108】年齢



年齢	人数
65～69歳	30
70～74歳	62
75～79歳	119
80～84歳	211
85～89歳	218
90歳以上	236
無回答	43
合計	919

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか。(単数回答)

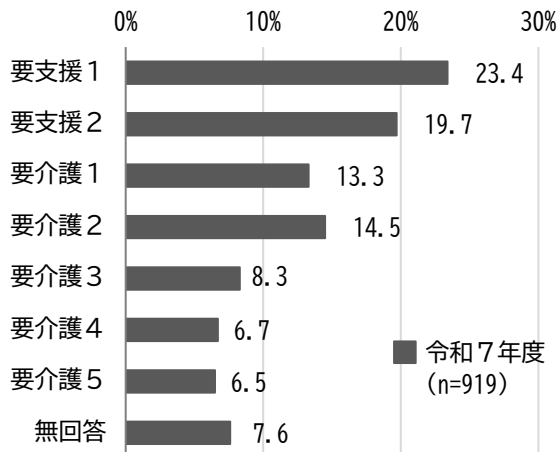
【図表 109】居住地域



居住地域	人数
四谷	96
簞笥町	82
榎町	96
若松町	114
大久保	103
戸塚	116
落合第一	92
落合第二	93
柏木	52
角筈	36
無回答	39
合計	919

問4 あなたの現在の要介護度は、次のうちどれですか。(単数回答)

【図表 110】現在の要介護度

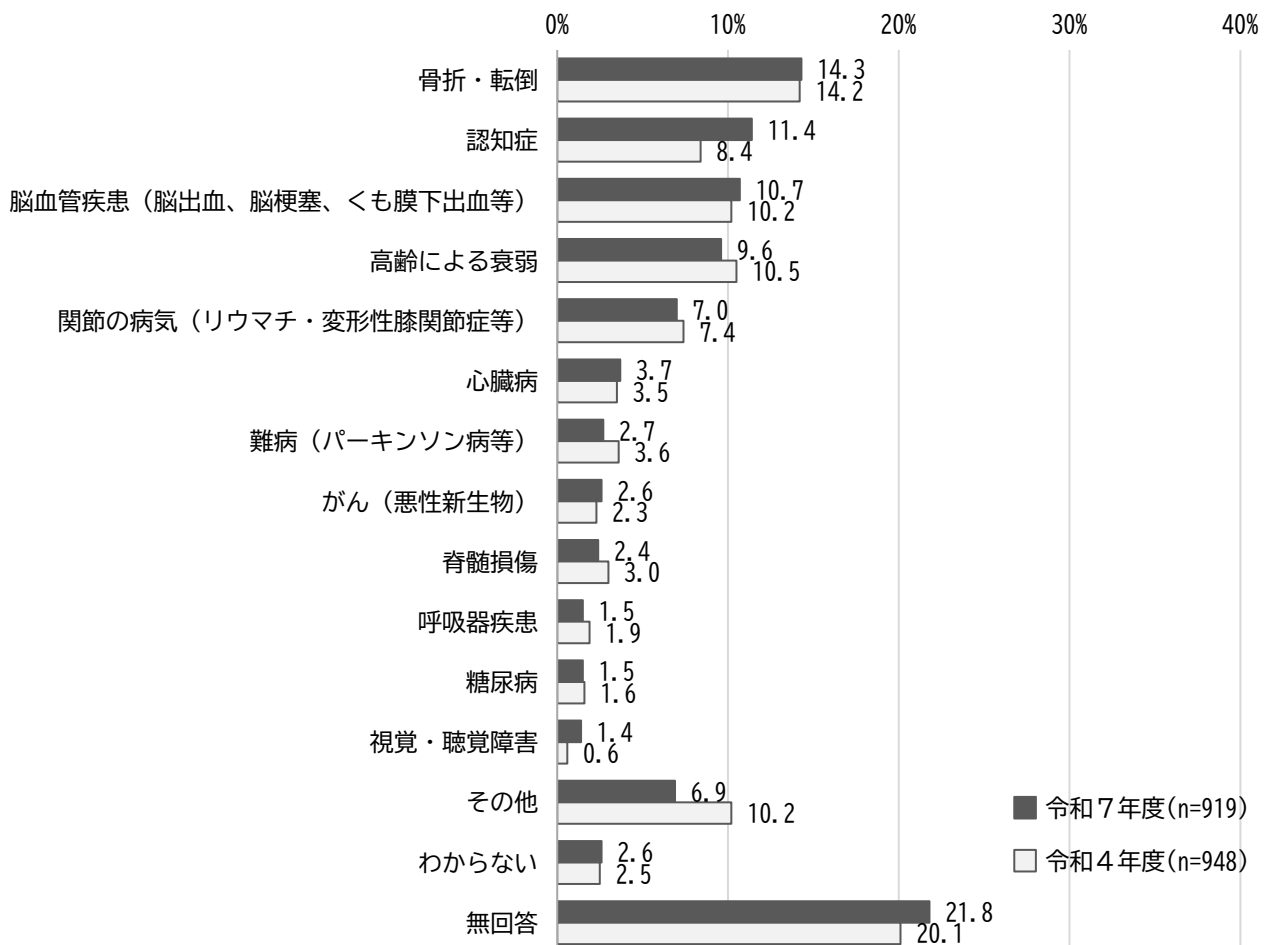


現在の要介護度	人数
要支援1	215
要支援2	181
要介護1	122
要介護2	133
要介護3	76
要介護4	62
要介護5	60
無回答	70
合計	919

問5 あなたが、介護を必要とするようになった主な原因は、次のうちどれですか。(単数回答)

「骨折・転倒」が 14.3%で最も多く、次いで、「認知症」が 11.4%、「脳血管疾患（脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等）」が 10.7%となっている。

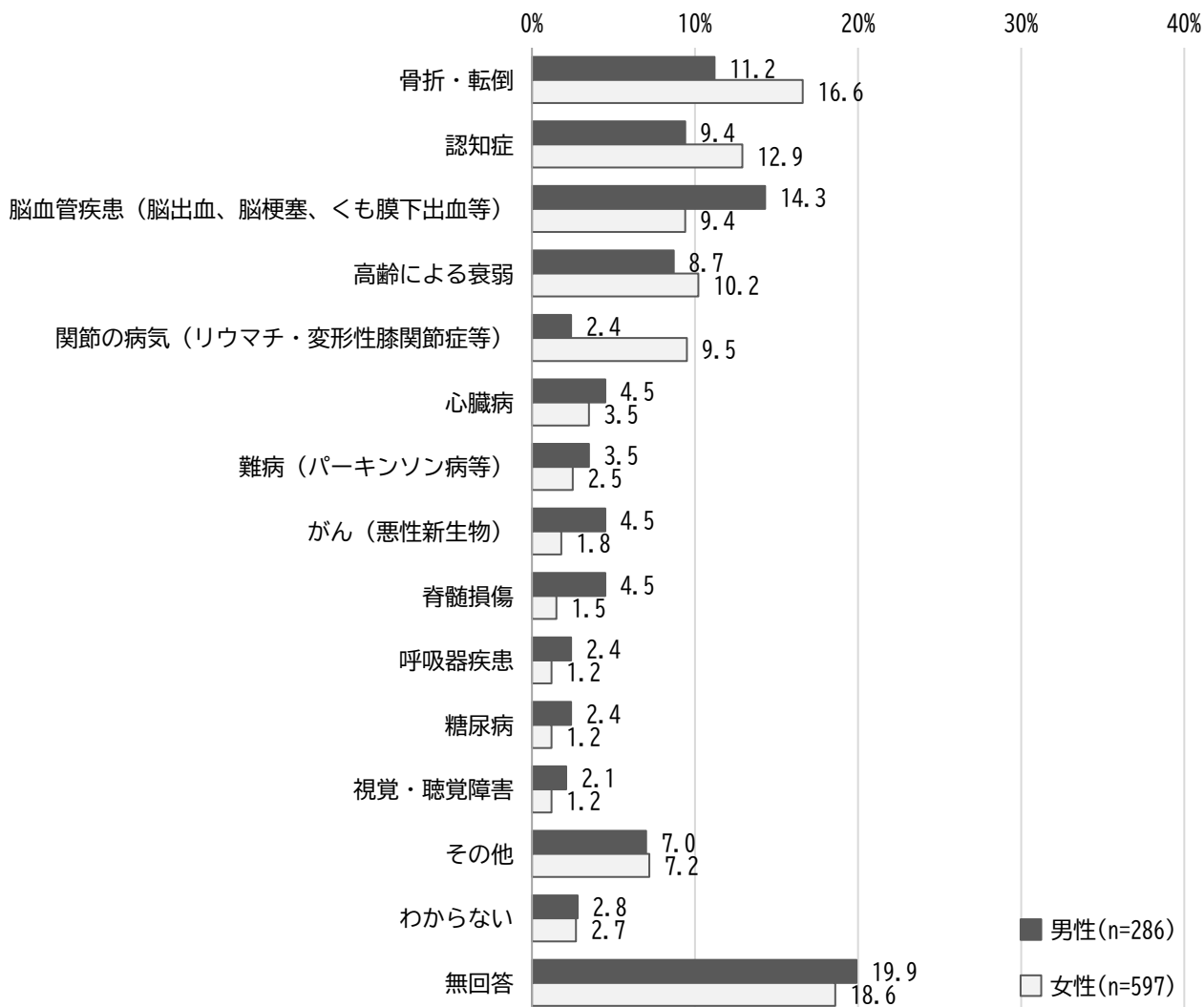
【図表 111】介護が必要になった主な原因〈前回比較〉



■介護が必要になった主な原因〈性別〉

介護が必要になった主な原因について性別にみると、「脳血管疾患（脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等）」は男性の方が女性より4.9ポイント高く、「関節の病気」は女性の方が男性より7.1ポイント高くなっている。

【図表 112】介護が必要になった主な原因〈性別〉



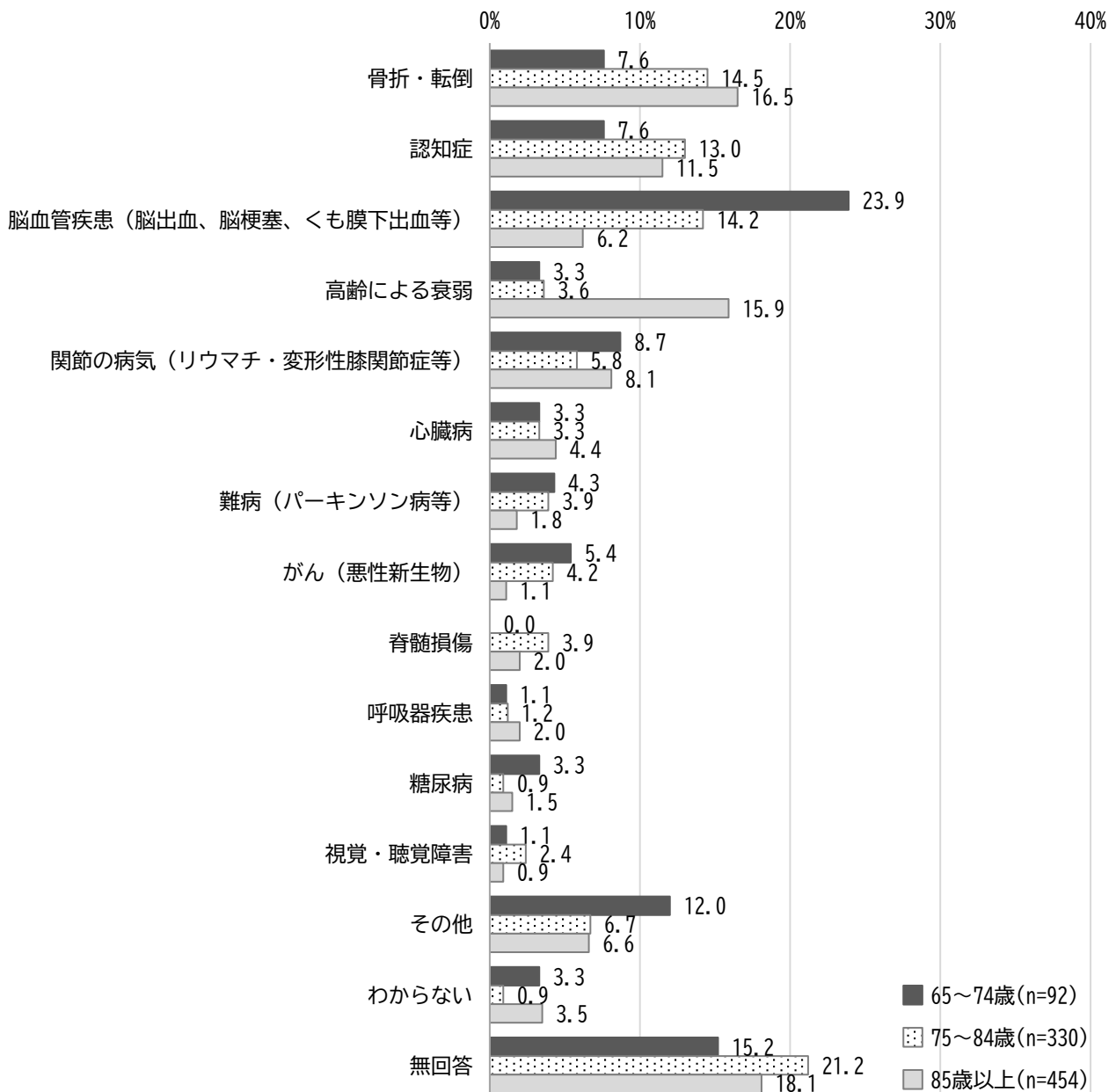
■介護が必要になった主な原因〈年齢階層別〉

介護が必要になった主な原因について年齢階層別で見ると、「65～74 歳」では「脳血管疾患（脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等）」が 23.9%で最も多く、次いで「その他」が 12.0%、「骨折・転倒」及び「認知症」が同率で 7.6%となっている。

「75～84 歳」では「骨折・転倒」が 14.5%で最も多く、次いで「脳血管疾患（脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等）」が 14.2%、「認知症」が 13.0%となっている。

「85 歳以上」では「骨折・転倒」が 16.5%で最も多く、次いで「高齢による衰弱」が 15.9%、「認知症」が 11.5%となっている。

【図表 113】 介護が必要になった主な原因〈年齢階層別〉

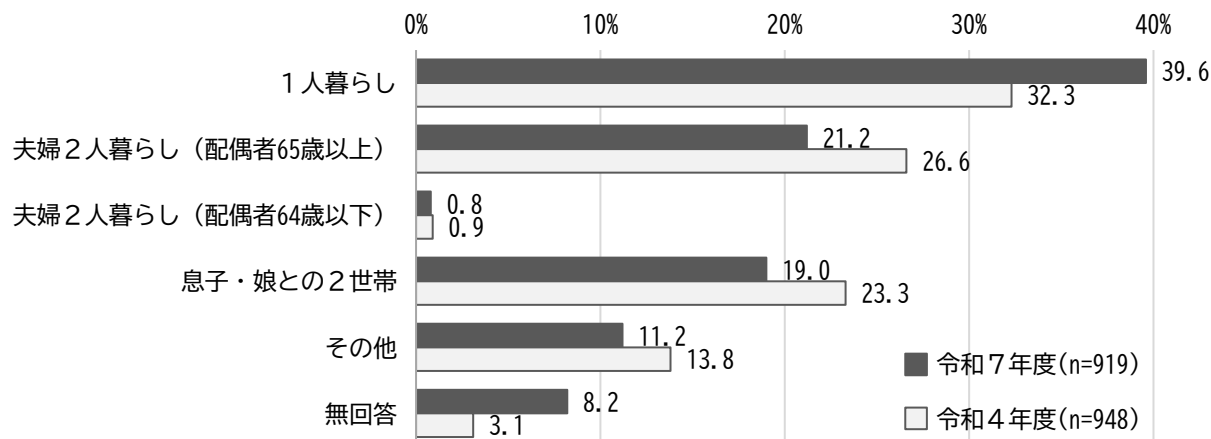


2. あなたのご家族や生活状況について

問6 家族構成を教えてください。(単数回答)

「1人暮らし」が39.6%で最も多く、次いで、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が21.2%、「息子・娘との2世帯」が19.0%となっている。「その他」(11.2%)では、「孫を含む3世帯」との回答が最も多くみられている。

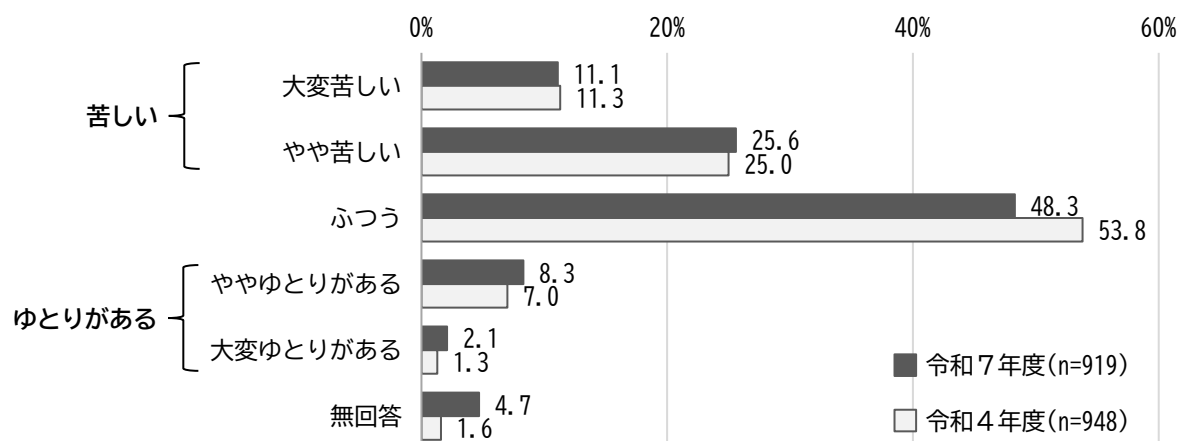
【図表 114】 家族構成〈前回比較〉



問7 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(単数回答)

「ふつう」が48.3%で最も多く、「大変苦しい」(11.1%)と「やや苦しい」(25.6%)を合わせた“苦しい”は36.7%となっている。一方、「ややゆとりがある」(8.3%)と「大変ゆとりがある」(2.1%)を合わせた“ゆとりがある”は10.4%となっている。

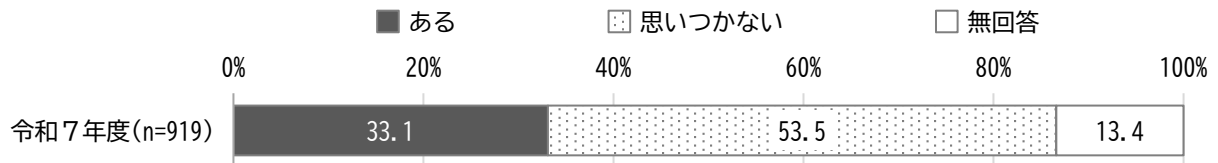
【図表 115】 現在の暮らし向き〈前回比較〉



問8 生きがいがありますか。(単数回答)

「ある」が33.1%、「思いつかない」が53.5%となっている。

【図表 116】生きがいの有無



■問8で「ある」と回答した方の具体的な生きがいの記載内容

生きがいが「ある」と回答した方に具体的な内容を聞いたところ、273件の回答があった。12の項目にまとめた各項目の主な内容は以下のとおり。

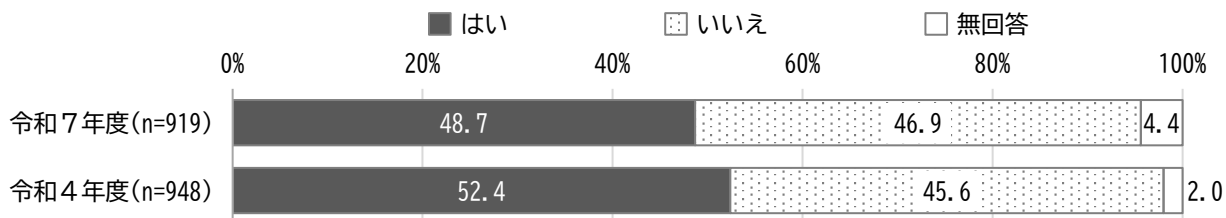
家族	70件	運動	11件
・孫の成長 ・家族に会うこと		・散歩、歩く ・プール	
趣味	62件	デイサービスやリハビリ	10件
・テレビ ・美味しいものを食べる		・デイサービスに通うこと ・リハビリをすること	
友人・知人との交流	18件	旅行	9件
・友人と話す ・人との交流		・家族旅行 ・色々なところに行くこと	
健康	13件	勉強・読書	6件
・元気で過ごせること ・健康維持		・研究会に参加する事 ・本を読むこと	
音楽・絵画	12件	ボランティア	3件
・コーラス ・絵を教えること		・ボランティア活動 ・地域ボランティア	
仕事	11件	その他	48件
・働く場所があること ・自営業を続けること		・平穏な暮らし ・ネコの世話	
		合計	273件

3. 食べることについて

問9 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(単数回答)

「はい」が48.7%、「いいえ」が46.9%となっている。

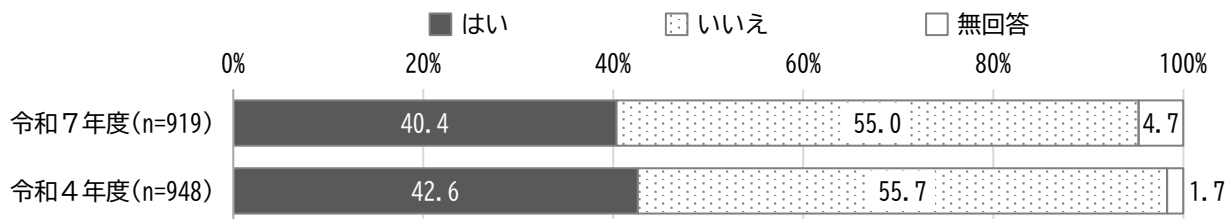
【図表 117】 固いものの食べにくさの有無〈前回比較〉



問10 お茶や汁物等でむせることがありますか。(単数回答)

「はい」が40.4%、「いいえ」が55.0%となっている。

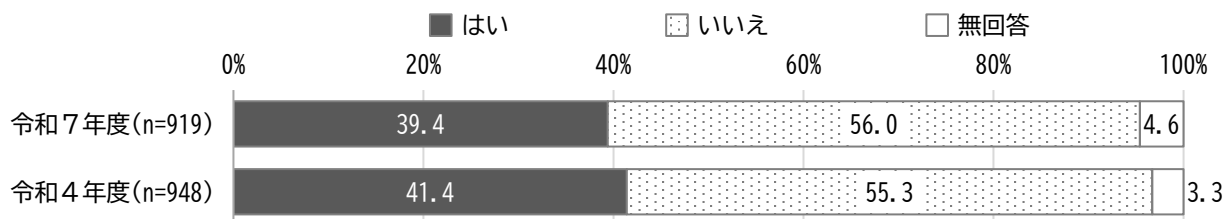
【図表 118】 むせこみの有無〈前回比較〉



問11 口の渇きが気になりますか。(単数回答)

「はい」が39.4%、「いいえ」が56.0%となっている。

【図表 119】 口の渇きの有無〈前回比較〉



4. 日ごろの活動について

問12 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。(単数回答)

「週4回以上」から「年に数回」までを合わせた“参加している”は①ボランティアのグループで2.8%、②スポーツ関係のグループで7.9%、③趣味関係のグループで10.7%、④学習・教養サークルで4.0%、⑤介護予防のための通いの場で17.3%、⑥高齢者クラブで5.6%、⑦町会・自治会で6.6%、⑧収入のある仕事で4.5%となっている。

【図表 120】 会・グループへの参加頻度

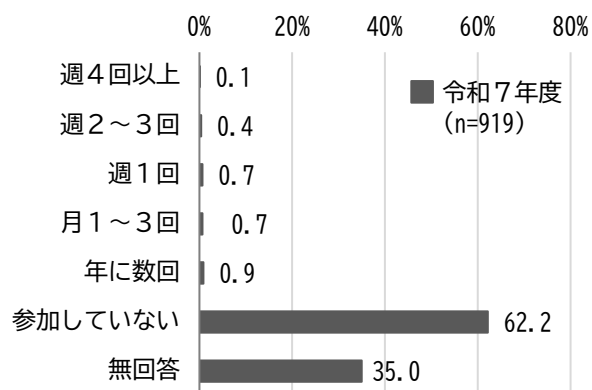
会・グループ名等	n (回答数)	参加している					年に 数回	参加して いない	無回答	(R7) 参加 している
		週4回 以上	週2～ 3回	週1回	月1～ 3回	(%)				
①ボランティアのグループ	919	0.1	0.4	0.7	0.7	0.9	62.2	35.0	2.8	
②スポーツ関係のグループ	919	1.0	2.5	3.0	1.1	0.3	59.2	32.9	7.9	
③趣味関係のグループ	919	0.3	1.7	2.4	3.9	2.4	56.7	32.5	10.7	
④学習・教養サークル	919	0.0	0.4	0.9	1.1	1.6	60.6	35.4	4.0	
⑤介護予防のための通いの場	919	2.0	6.0	8.1	1.1	0.1	54.3	28.5	17.3	
⑥高齢者クラブ	919	0.5	1.3	0.8	1.6	1.4	60.7	33.6	5.6	
⑦町会・自治会	919	0.1	0.8	0.7	1.2	3.8	59.7	33.7	6.6	
⑧収入のある仕事	919	1.4	1.4	0.4	0.4	0.9	60.6	34.8	4.5	

※通いの場：身近な場所で体操や趣味活動など介護予防のための活動をする「新宿いきいき体操」、「しんじゅく100トレに取り組むグループ」、「地域安心カフェ」、「ふれあい・いきいきサロン」などを指します。

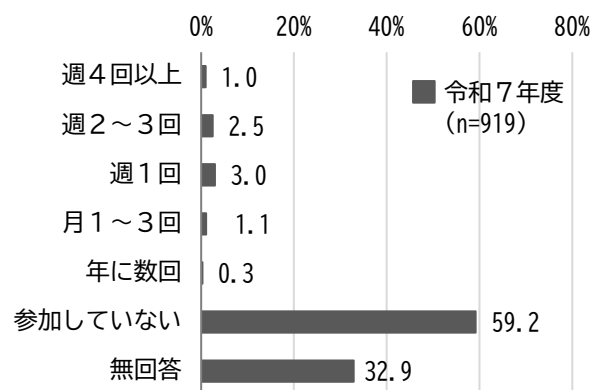
2 要支援・要介護認定者調査

【図表 121】会・グループへの参加頻度〈個別〉

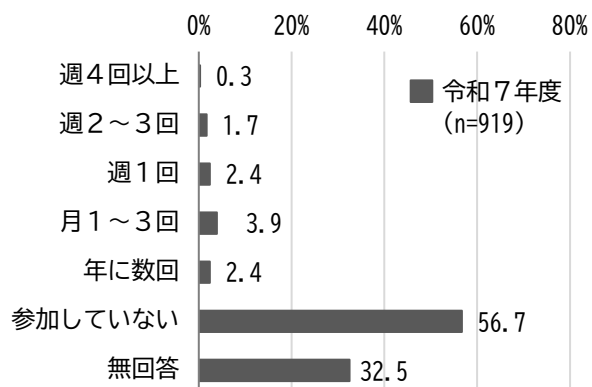
①ボランティアのグループ



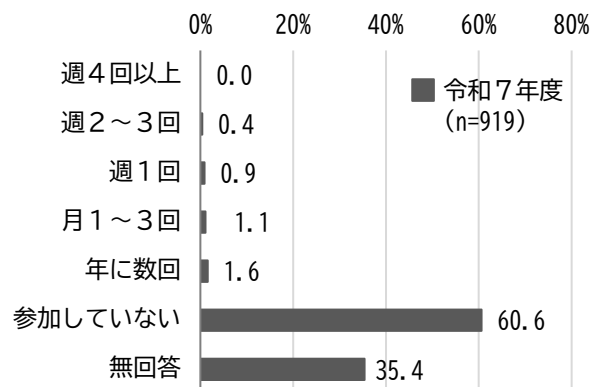
②スポーツ関係のグループ



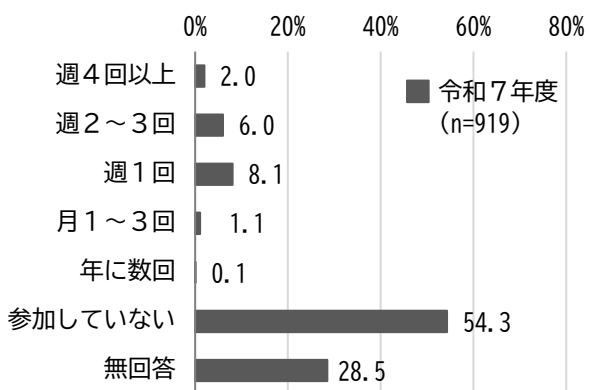
③趣味関係のグループ



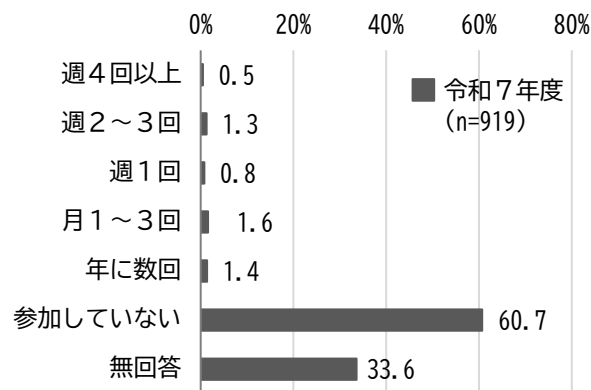
④学習・教養サークル



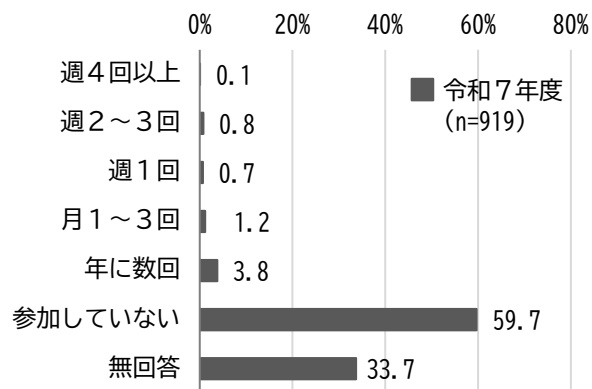
⑤介護予防のための通いの場



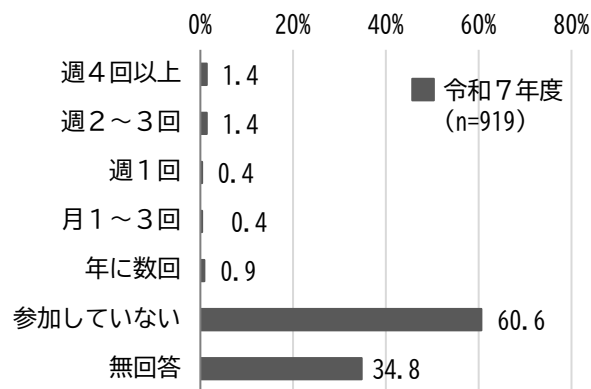
⑥高齢者クラブ



⑦町会・自治会



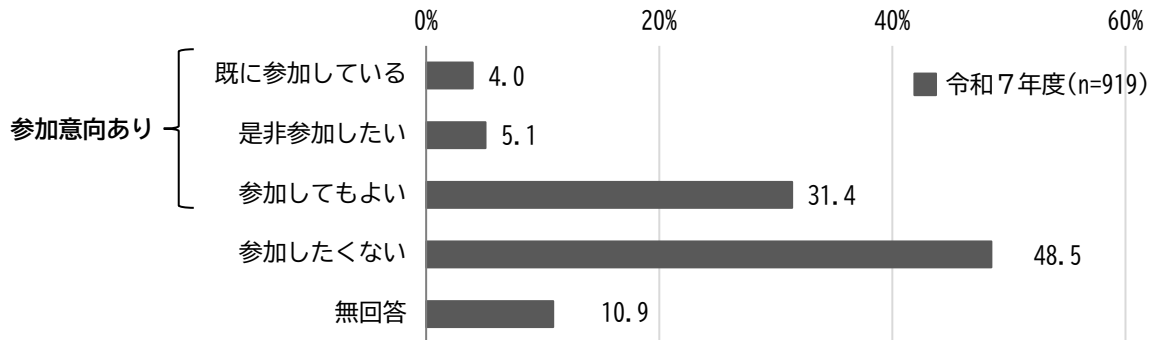
⑧収入のある仕事



問 13 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。
(単数回答)

「既に参加している」が 4.0%、「是非参加したい」が 5.1%、「参加してもよい」が 31.4%となっており、これらを合わせた“参加意向あり”は 40.5%となっている。

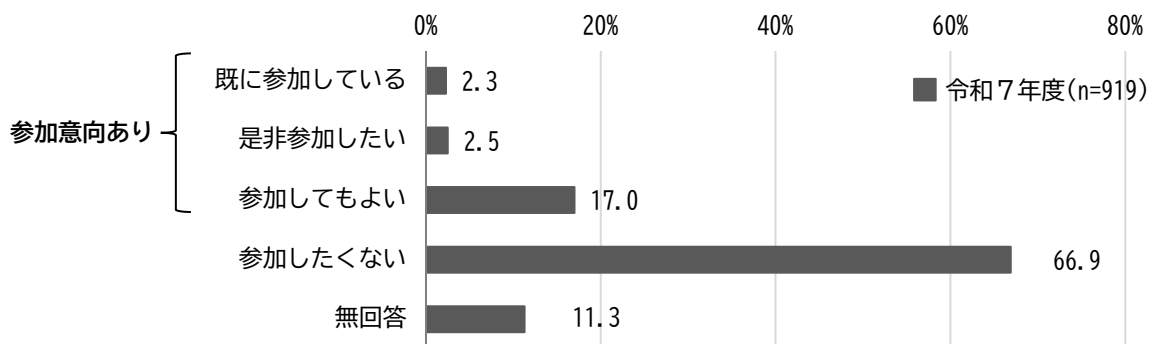
【図表 122】地域づくりへの参加者としての参加意向



問 14 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。(単数回答)

「既に参加している」が 2.3%、「是非参加したい」が 2.5%、「参加してもよい」が 17.0%となっており、これらを合わせた“参加意向あり”は 21.8%となっている。

【図表 123】地域づくりへの企画・運営としての参加意向



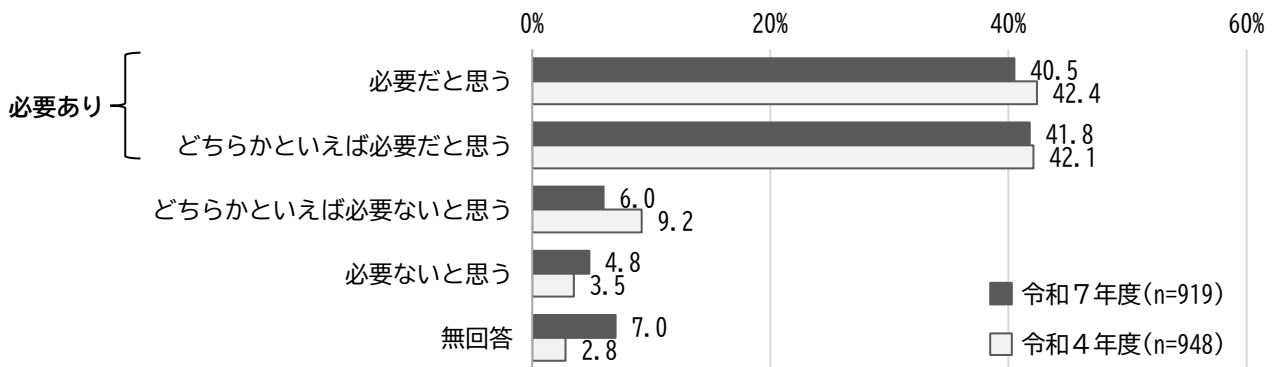
5. たすけあいについて

問 15 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）についておたずねします。（単数回答）

（1）地域のつながりの必要性

地域のつながりの必要性については、「必要だと思う」（40.5%）と「どちらかといえば必要だと思う」（41.8%）を合わせた“必要あり”は82.3%となっている。

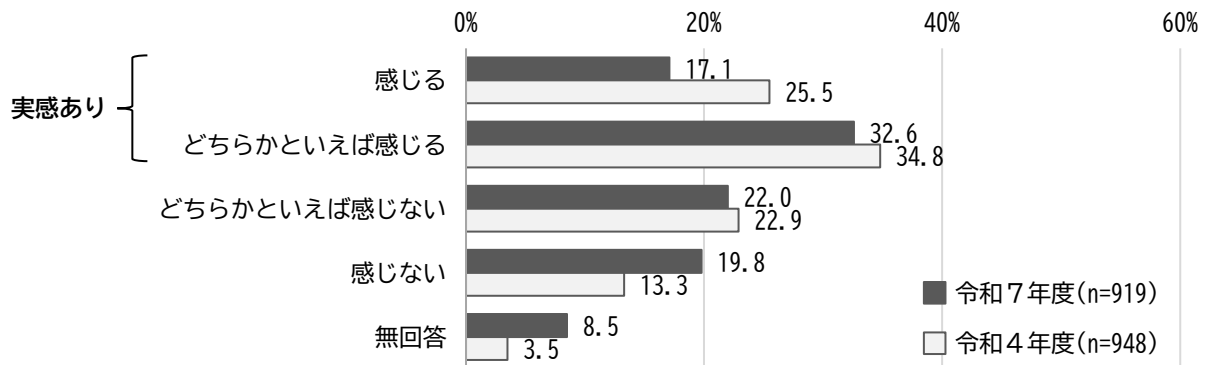
【図表 124】地域のつながりの必要性〈前回比較〉



（2）地域のつながりの実感

地域のつながりの実感については、「感じる」（17.1%）と「どちらかといえば感じる」（32.6%）を合わせた“実感あり”は49.7%となっている。

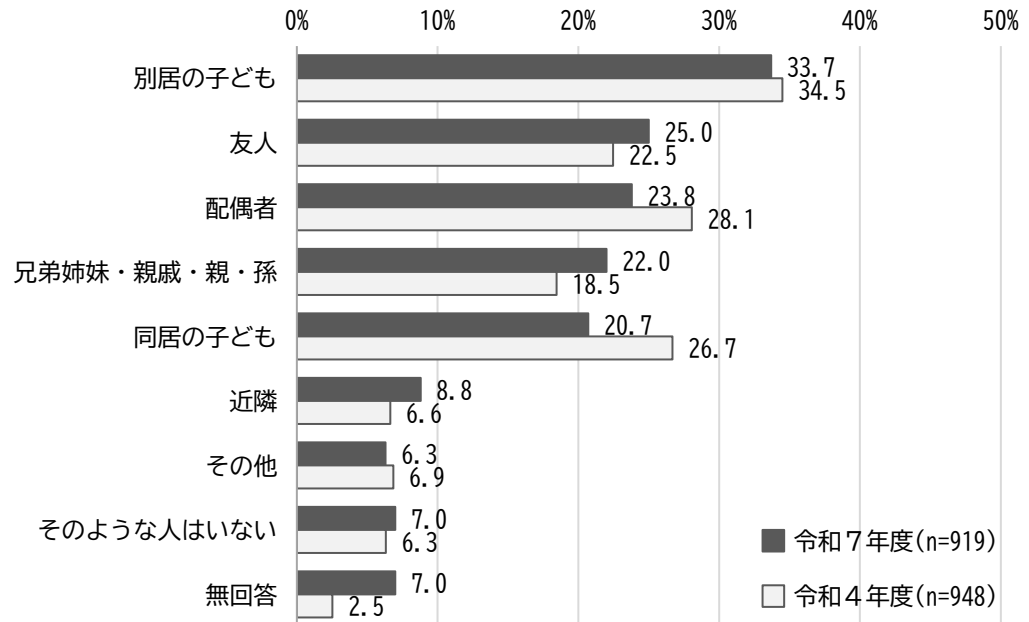
【図表 125】地域のつながりの実感〈前回比較〉



問 16 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人。(複数回答)

「別居の子ども」が 33.7%で最も多く、次いで、「友人」が 25.0%、「配偶者」が 23.8%となっている。

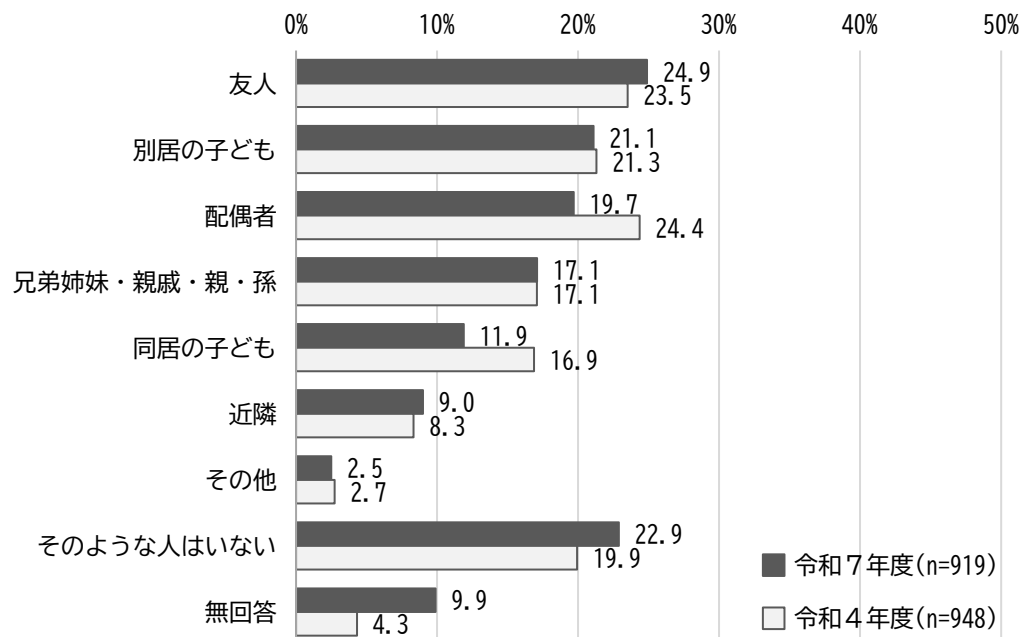
【図表 126】心配事や愚痴を聞いてくれる人〈前回比較〉



問 17 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人。(複数回答)

「友人」が 24.9%で最も多く、次いで、「そのような人はいない」が 22.9%、「別居の子ども」が 21.1%となっている。

【図表 127】心配事や愚痴を聞いてあげる人〈前回比較〉

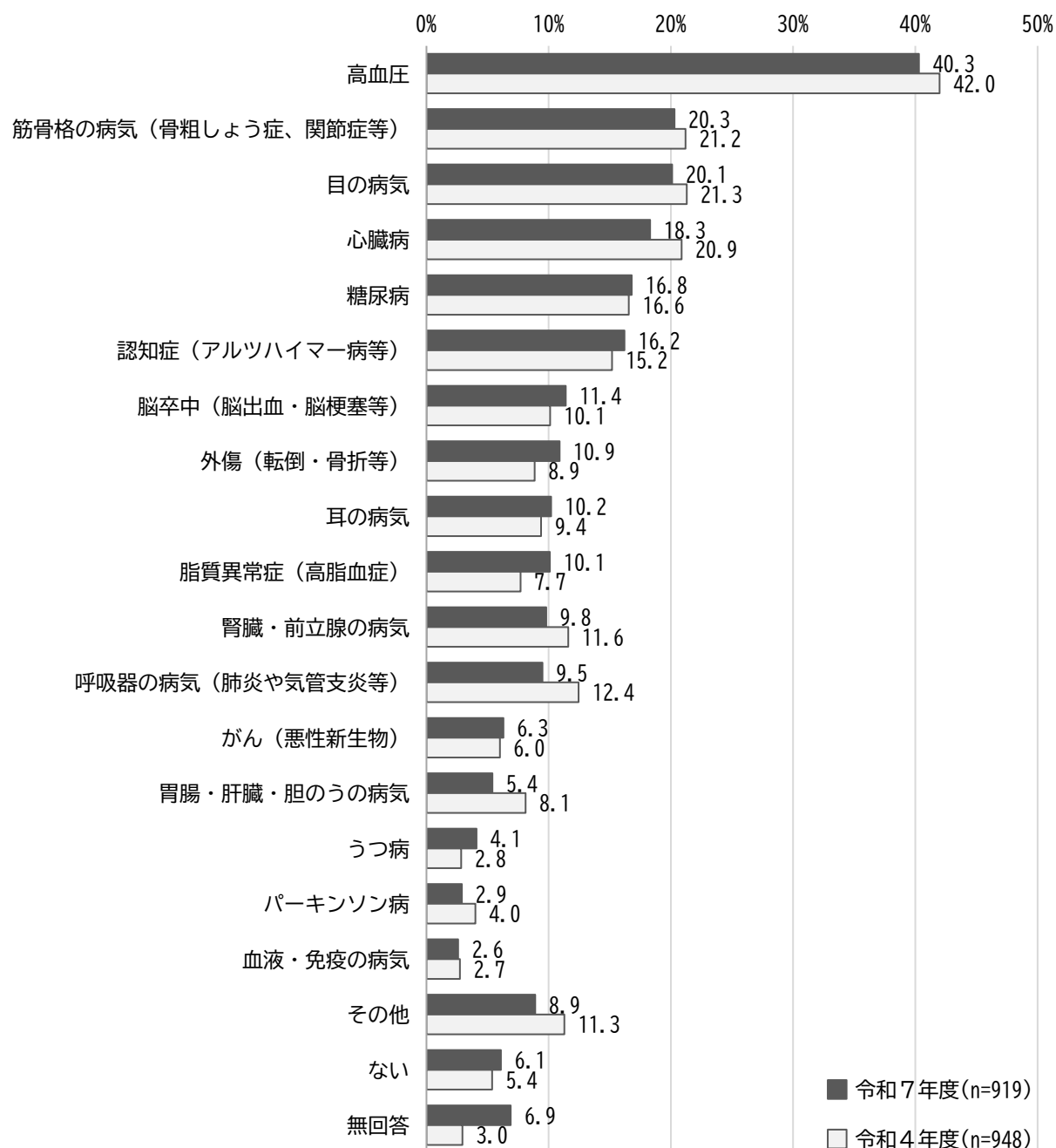


6. 健康状態について

問 18 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(複数回答)

「高血圧」が 40.3%で最も多く、次いで、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」が 20.3%、「目の病気」が 20.1%となっている。

【図表 128】現在治療中、または後遺症のある病気〈前回比較〉

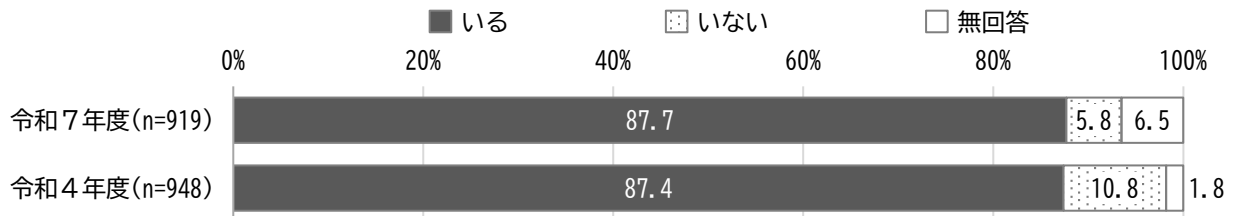


7. かかりつけの医療機関について

問 19 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。(単数回答)

「いる」が87.7%、「いない」が5.8%となっている。

【図表 129】かかりつけ医の有無〈前回比較〉

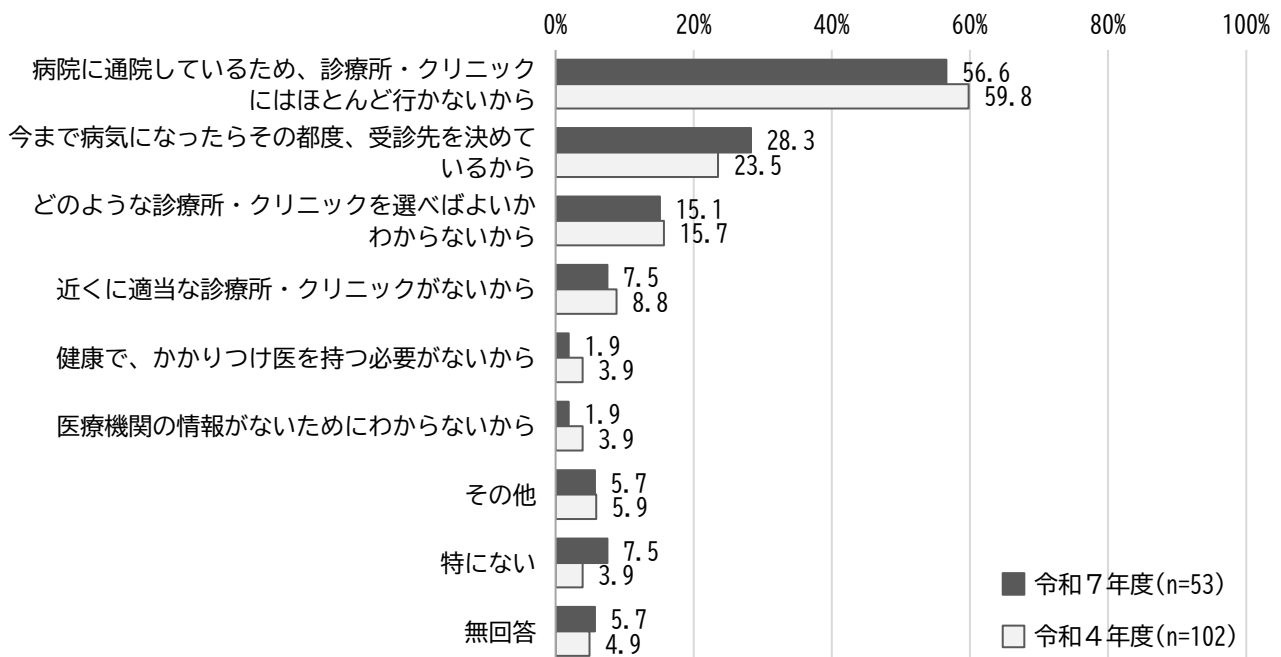


【問 19 で「いない」と回答した方】

問 19-1 かかりつけ医がいない理由は、次のうちどれですか。(複数回答)

「病院に通院しているため、診療所・クリニックにはほとんど行かないから」が56.6%で最も多く、次いで、「今まで病気になったらその都度、受診先を決めているから」が28.3%、「どのような診療所・クリニックを選べばよいかわからないから」が15.1%となっている。

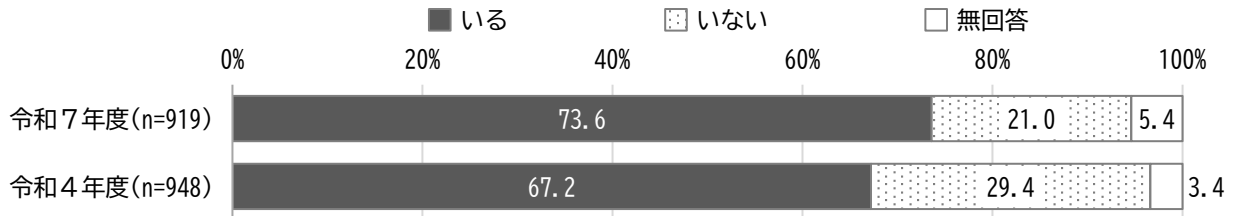
【図表 130】かかりつけ医がいない理由〈前回比較〉



問 20 あなたは、治療や予防のために定期的に受診している「かかりつけ歯科医」がいますか。
(単数回答)

「いる」が73.6%、「いない」が21.0%となっている。

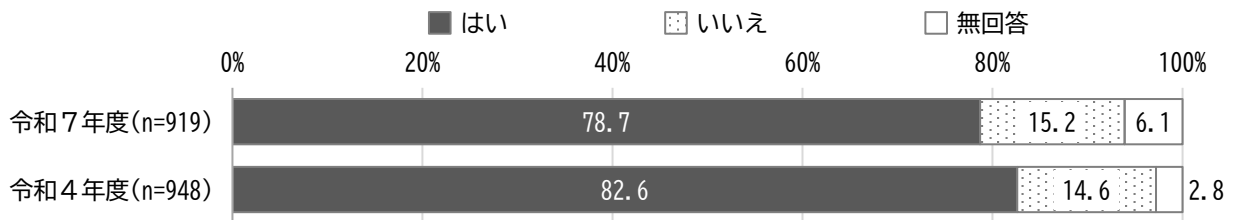
【図表 131】かかりつけ歯科医の有無〈前回比較〉



問 21 あなたは、病院・診療所から処方された薬について相談できる「かかりつけ薬局」がありますか。
(単数回答)

「はい」が78.7%、「いいえ」が15.2%となっている。

【図表 132】かかりつけ薬局の有無〈前回比較〉

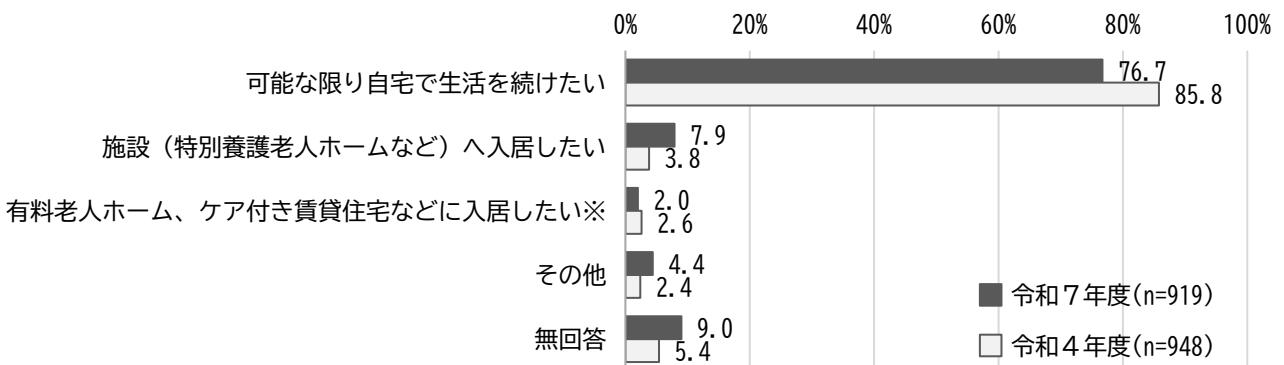


8. 在宅療養等について

問 22 あなたは、これからも今のお住まい（自宅等）で生活を続けたいと思いますか。(単数回答)

「可能な限り自宅で生活を続けたい」が76.7%で最も多く、次いで、「施設（特別養護老人ホームなど）へ入居したい」が7.9%、「その他」が4.4%となっている。

【図表 133】今の住まいで生活を続けたいと思うか〈前回比較〉



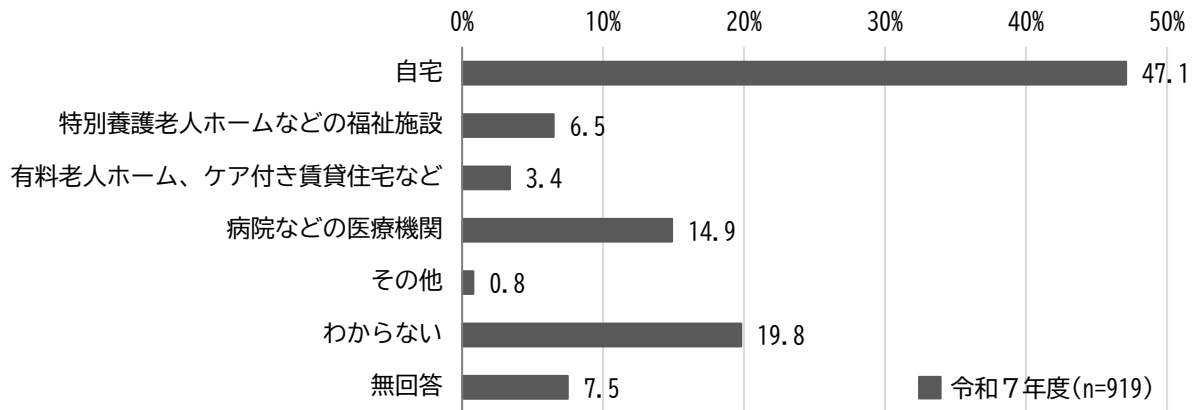
※令和4年度調査の選択肢は「介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居（有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など）に入居したい」となっている。

9. ACP（人生会議）について

問 23 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。（単数回答）

「自宅」が 47.1%で最も多く、次いで、「わからない」が 19.8%、「病院などの医療機関」が 14.9%となっている。

【図表 134】最期を迎えたい場所

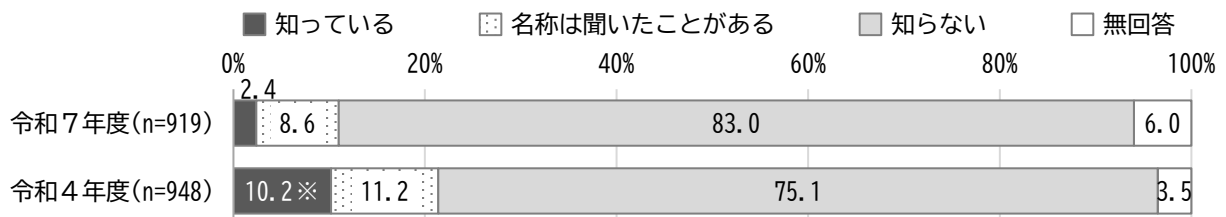


問 24 ACP（人生会議）についておたずねします。（単数回答）

(1) あなたは、ACP（人生会議）について知っていますか。

「知らない」が 83.0%で最も多く、次いで、「名称は聞いたことがある」が 8.6%、「知っている」が 2.4%となっている。

【図表 135】ACP（人生会議）の認知度〈前回比較〉

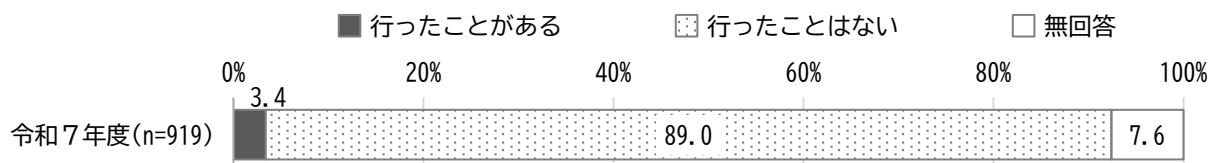


※令和4年度調査については、選択肢「知っている（話し合ったことがある）」(5.8%)と「知っている（話し合ったことはない）」(4.4%)を合わせて、「知っている」(10.2%)としている。

(2) あなたは、ACP（人生会議）を行ったことがありますか。

「行ったことがある」が 3.4%、「行ったことはない」が 89.0%となっている。

【図表 136】ACP（人生会議）を行ったことの有無

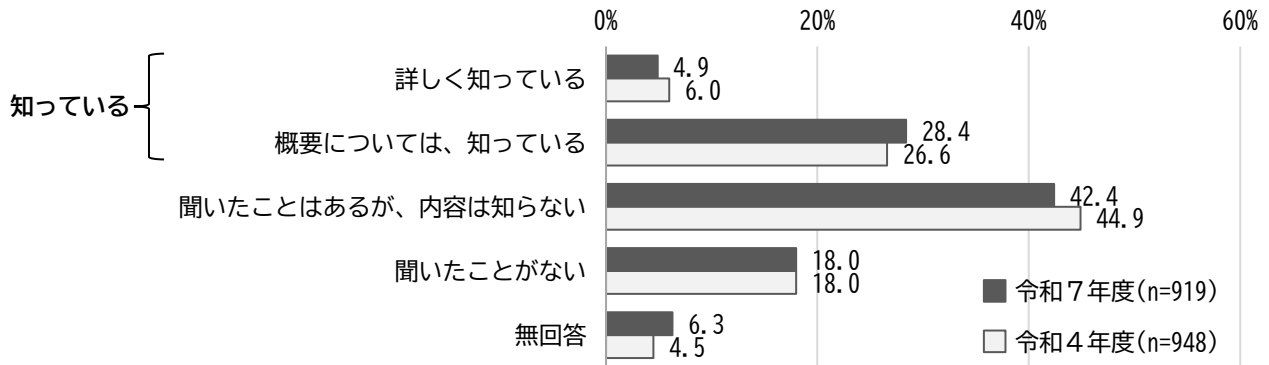


10. 権利擁護について

問 25 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(単数回答)

「聞いたことはあるが、内容は知らない」が 42.4%で最も多く、次いで、「概要については、知っている」が 28.4%、「聞いたことがない」が 18.0%となっている。「詳しく知っている」(4.9%)と「概要については、知っている」(28.4%)を合わせた“知っている”は 33.3%となっている。

【図表 137】 成年後見制度の認知度〈前回比較〉

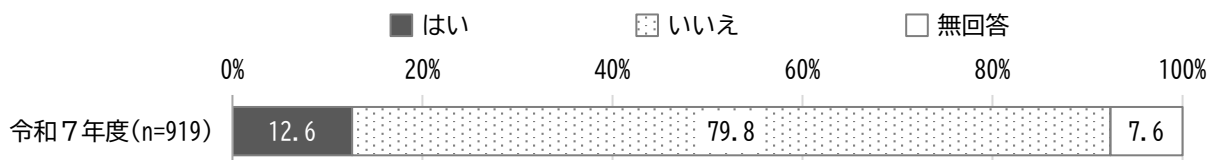


11. 災害時要援護者対策について

問 26 あなたは、「災害時要援護者名簿」について知っていますか。(単数回答)

「はい」が 12.6%、「いいえ」が 79.8%となっている。

【図表 138】 災害時要援護者名簿の認知度

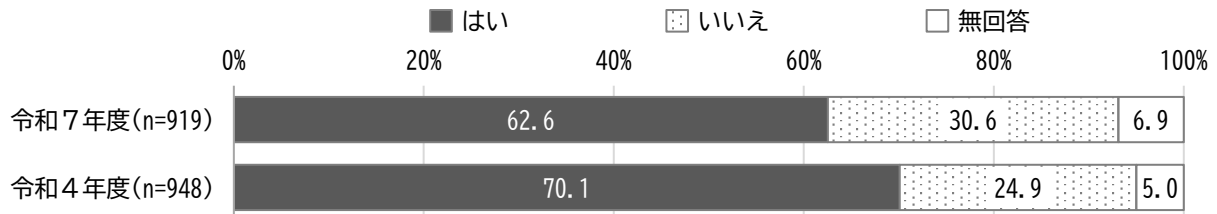


12. 健康・福祉サービスの情報や相談窓口について

問 27 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称を知っていますか。(単数回答)

「はい」が62.6%、「いいえ」が30.6%となっている。

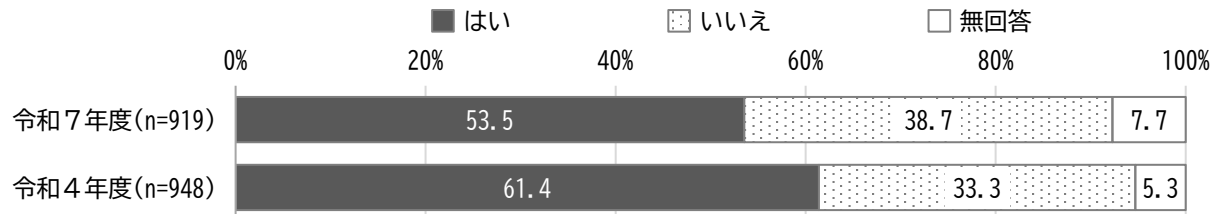
【図表 139】 高齢者総合相談センターの名称の認知度〈前回比較〉



問 28 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関か知っていますか。(単数回答)

「はい」が53.5%、「いいえ」が38.7%となっている。

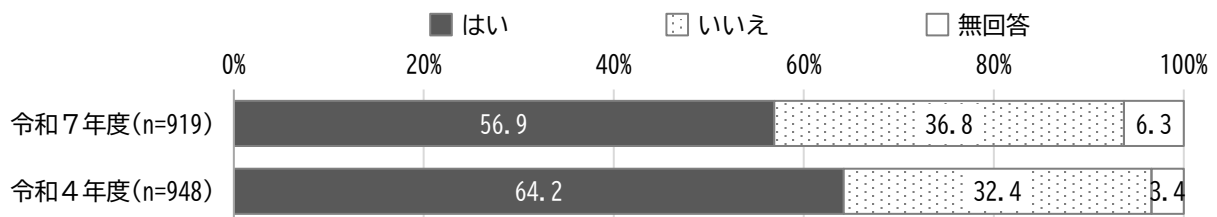
【図表 140】 高齢者総合相談センターの機能の認知度〈前回比較〉



問 29 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるか知っていますか。(単数回答)

「はい」が56.9%、「いいえ」が36.8%となっている。

【図表 141】 高齢者総合相談センターの所在地の認知度〈前回比較〉

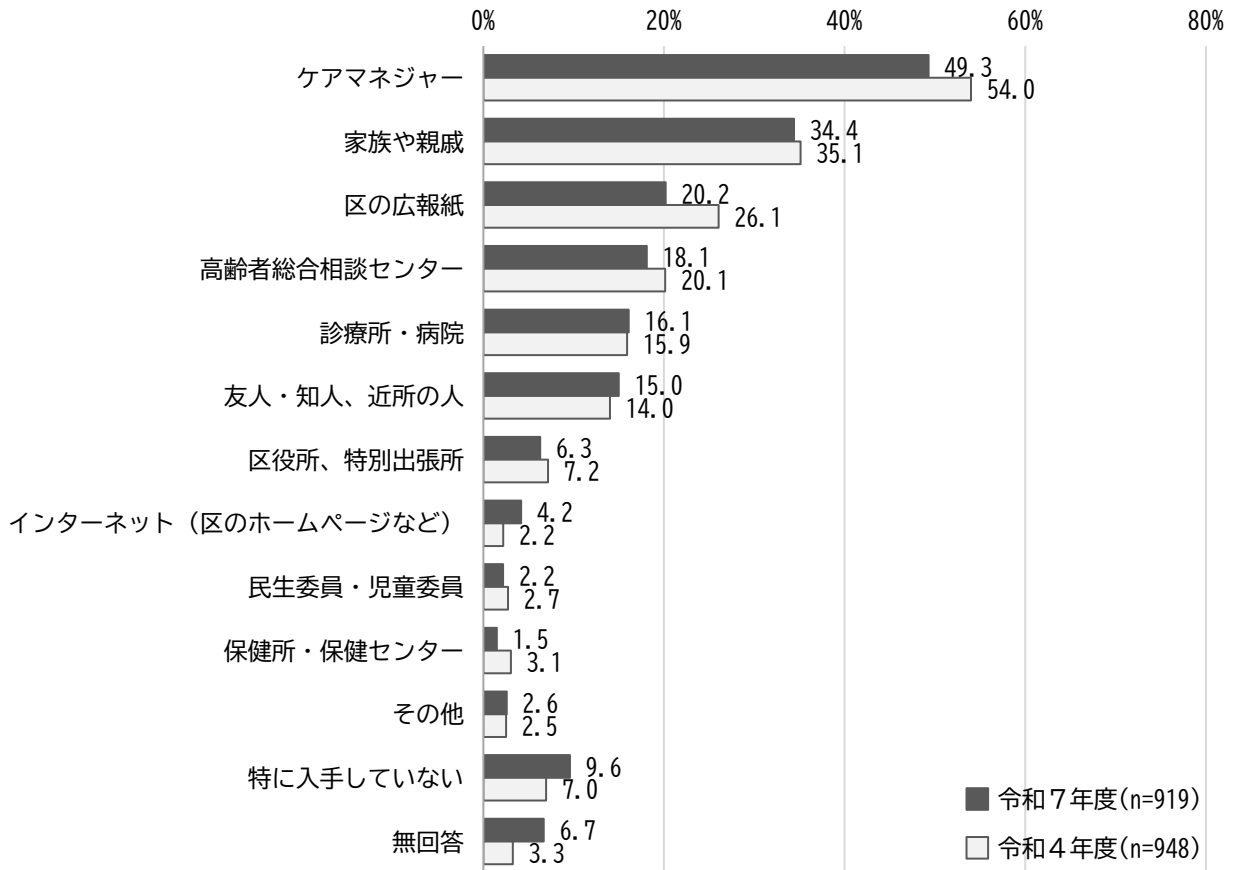


問 30 健康や福祉サービスに関する情報についてうかがいます。(複数回答)

(1) あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか。

「ケアマネジャー」が 49.3%で最も多く、次いで、「家族や親戚」が 34.4%、「区の広報紙」が 20.2%となっている。

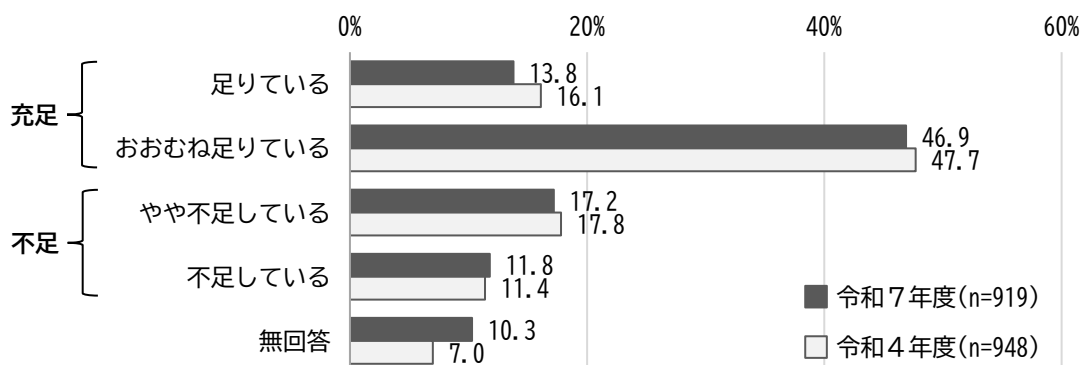
【図表 142】健康や福祉サービスに関する情報の入手手段〈前回比較〉



(2) あなたの入手している健康や福祉サービスに関する情報量は足りていると思いますか。

「おおむね足りている」が 46.9%で最も多く、「足りている」(13.8%)を合わせた“充足”は 60.7%となっている。一方、「不足している」(11.8%)と「やや不足している」(17.2%)を合わせた“不足”は 29.0%となっている。

【図表 143】健康や福祉サービスに関する情報量の充足度〈前回比較〉

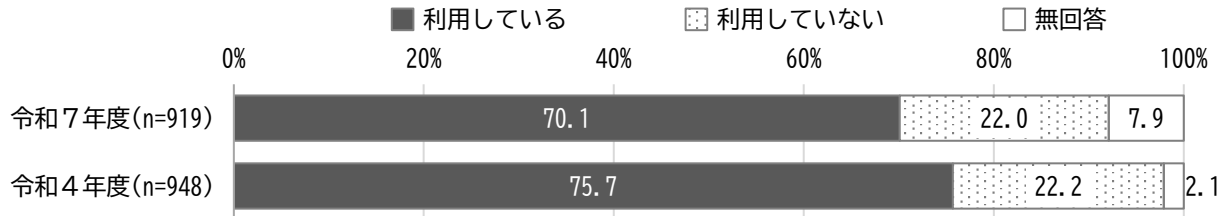


13. 介護保険サービスの利用状況と利用意向について

問 31 あなたは、現在介護保険サービスを利用していますか。(単数回答)

「利用している」が70.1%、「利用していない」が22.0%となっている。

【図表 144】 介護保険サービスの利用の有無〈前回比較〉

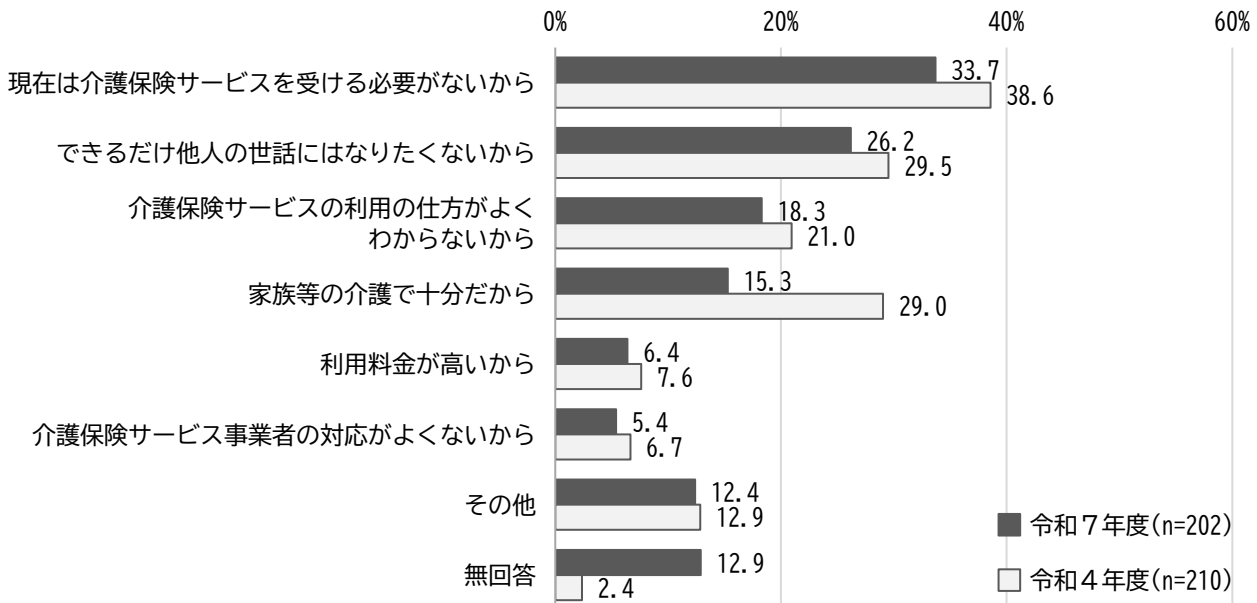


【問 31 で「利用していない」と回答した方】

問 31-1 介護保険サービスを利用していない理由は、次のうちどれですか。(複数回答)

「現在は介護保険サービスを受ける必要がないから」が33.7%で最も多く、次いで、「できるだけ他人の世話にはなりたくないから」が26.2%、「介護保険サービスの利用の仕方がよくわからないから」が18.3%となっている。

【図表 145】 介護保険サービスを利用していない理由〈前回比較〉

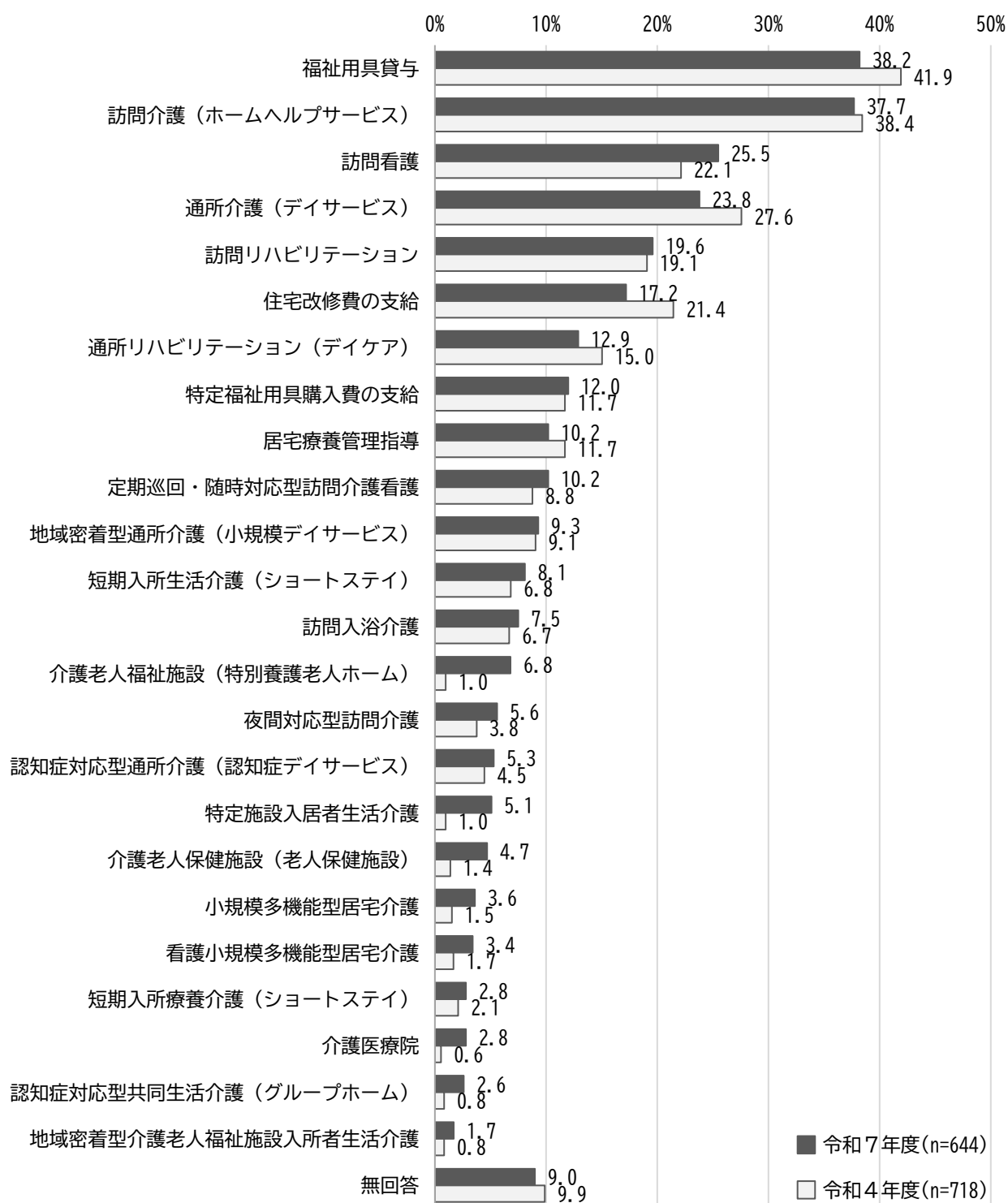


【問 31 で「利用している」と回答した方】
 問 31-2 現在ご利用の介護保険サービスと利用満足度についておたずねします。(複数回答)

現在介護保険サービスを「利用している」と回答した方に、現在利用しているサービスを聞いたところ、「福祉用具貸与」が 38.2%で最も多く、次いで、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が 37.7%、「訪問看護」が 25.5%となっている。

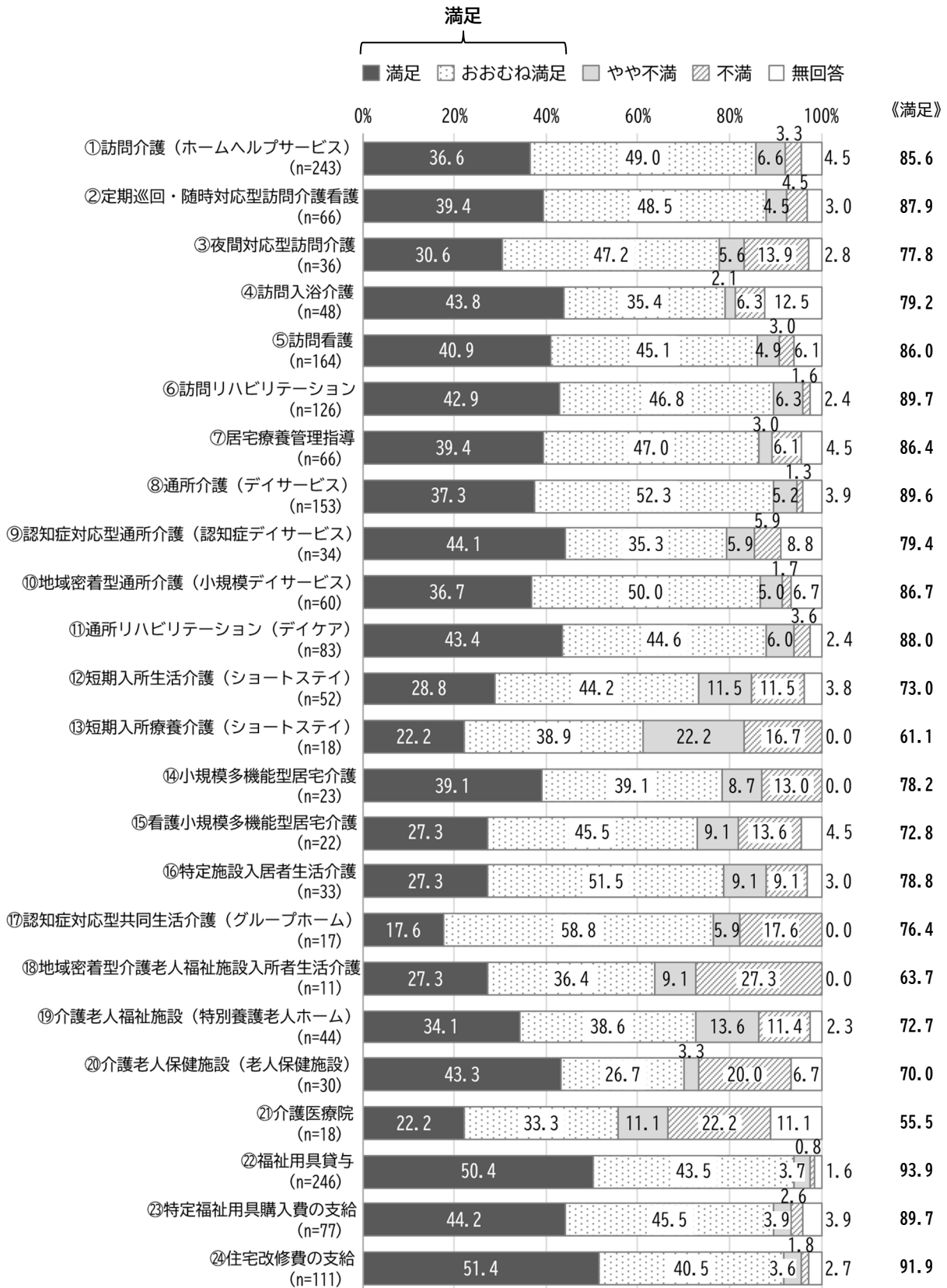
(1) 現在利用しているサービス

【図表 146】現在利用しているサービス〈前回比較〉



(2) 現在利用しているサービスの満足度

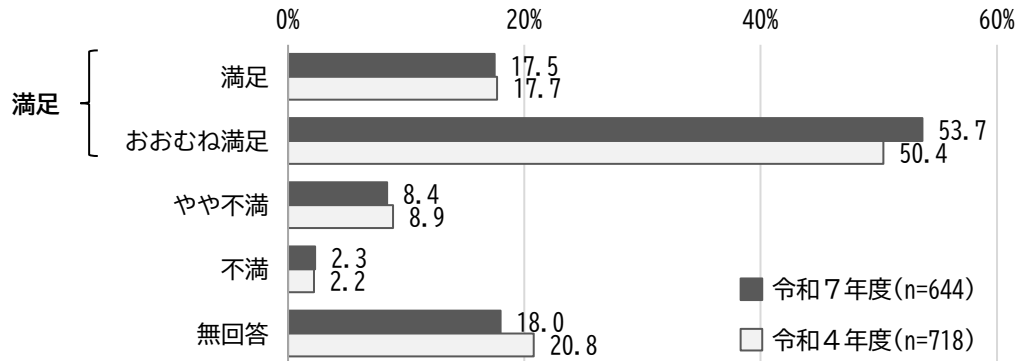
【図表 147】 現在利用しているすべてのサービスの満足度



【問 31 で「利用している」と回答した方】
 問 31-3 介護保険サービスの総合的な満足度は、次のうちどれですか。(単数回答)

現在介護保険サービスを「利用している」と回答した方に、利用しているサービスの総合的な満足度を聞いたところ、「おおむね満足」が 53.7%と最も多く、「満足」(17.5%)を合わせた“満足”は 71.2%となっている。

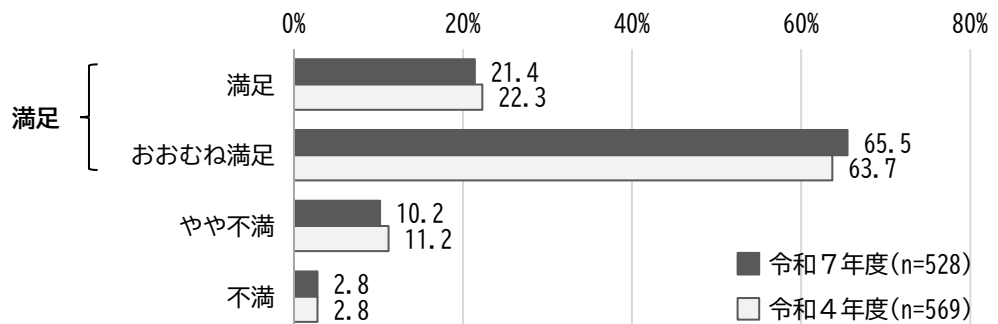
【図表 148】 介護保険サービスの総合的な満足度〈前回比較〉



<介護保険サービスの総合的な満足度（無回答を除いた集計）>

介護保険サービスの総合的な満足度について、無回答を除いた「満足」と「おおむね満足」を合わせた“満足”は 86.9%となっている。

【図表 149】 介護保険サービスの総合的な満足度（無回答を除いた集計）〈前回比較〉



自由記述

問 32 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、233件の回答があった。10の項目にまとめた各項目の主な意見は以下のとおり。(その他を除く)

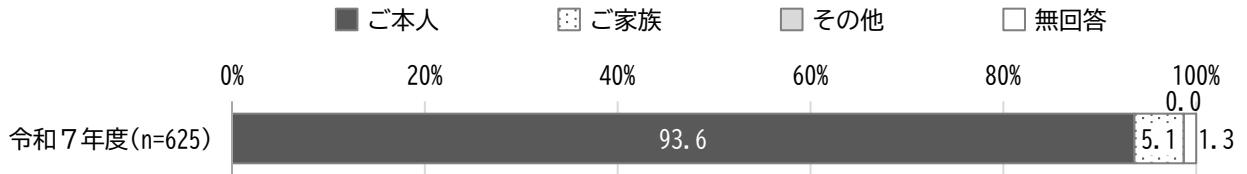
サービスについて	61件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問介護を利用しているが、一人暮らしのため身体的にも精神的にも大変助かっている。 ・ 土日朝など訪問看護や訪問介護の担当者が見つからず家族の負担になっている。 ・ 通所リハビリテーションが少なく、空きがなかなかなくて困っている。 ・ ケアマネジャーや見守りの方のおかげで安心して暮らせている。 	
行政への要望について	27件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 出さなければならない書類が多すぎるため、簡略化してほしい。 ・ 歩行器を使用しているため、区道の歩道に切り下げを多く設けてほしい。 	
高齢者施策について	21件
<ul style="list-style-type: none"> ・ おむつの助成の限度額を増やしてほしい。また、選べる種類を増やしてほしい。 ・ 選挙など外出する時に送迎車を出してほしい。 	
高齢者向け施設について	21件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新宿区の特別養護老人ホームの数を増やしてほしい。 ・ 施設の数が区内に少なく、希望しても入所が極めて困難である。 	
介護保険・保険料について	19件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険料が高すぎる。 ・ 保険料が上がってもいいので、ヘルパーさんの処遇を改善してほしい。 	
情報提供相談について	16件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用できる制度や施設などについて具体的な情報が欲しい。 ・ 高齢者や福祉に関する相談窓口の受付時間を増やしてほしい。 	
アンケートについて	13件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目が見えづらく誰かに読んでもらわなければならないため、このようなアンケートに回答することは負担。 ・ このアンケートを受けて災害時要援護者名簿のことを知った。 	
独居高齢者について	4件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体介護については、充分満足しているが、今後の死後の整理について一人暮らしのため不安。 ・ 高齢者で一人暮らしは不安。困った時に助けを求める機能のスイッチをネックレス形式で区から提供してほしい。 	
認知症高齢者について	3件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の症状が進行して一人で食事をとる事も難しい状態になった場合は、安価な介護施設に入所できるようにしてほしい。 	
その他	49件

3 第2号被保険者調査

1. あなた自身のことについて

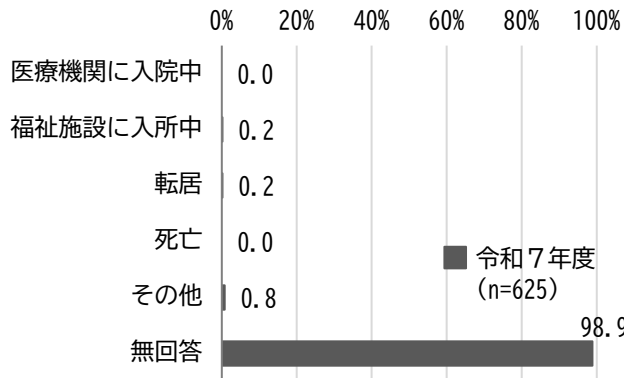
調査票を記入した人（単数回答）

【図表 150】 調査票の記入者



ご本人が何らかの事情によりご不在の場合（単数回答）

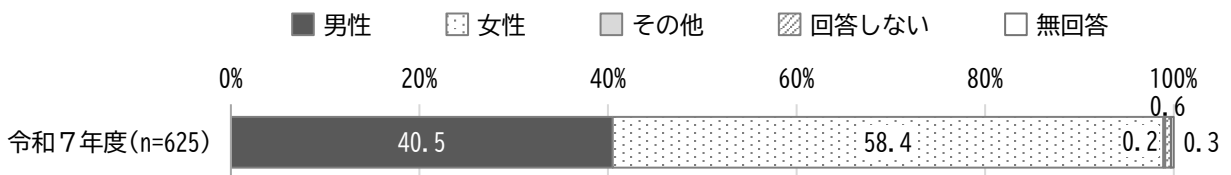
【図表 151】 不在の事情



不在の事情	人数
医療機関に入院中	0
福祉施設に入所中	1
転居	1
死亡	0
その他	5
上記に該当しない	618
合計	625

問1 性別を教えてください。（単数回答）

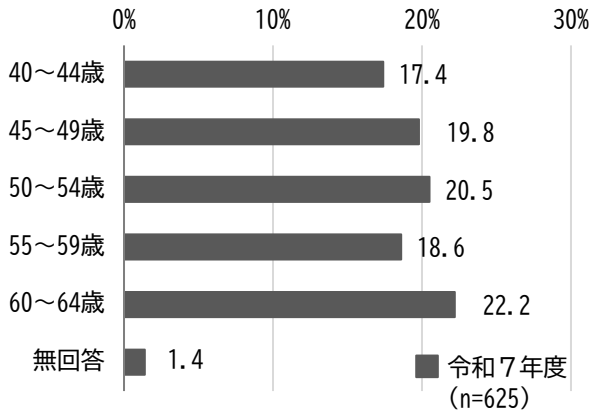
【図表 152】 性別



3 第2号被保険者調査

問2 年齢をご記入ください。(単数回答)

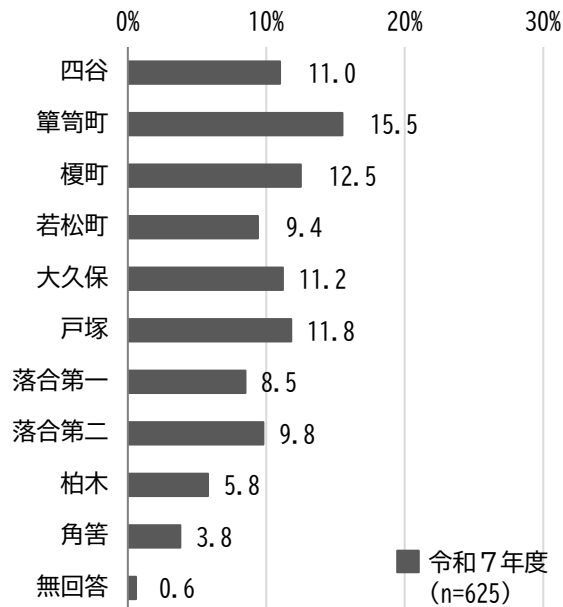
【図表 153】年齢



年齢	人数
40～44歳	109
45～49歳	124
50～54歳	128
55～59歳	116
60～64歳	139
無回答	9
合計	625

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか。(単数回答)

【図表 154】居住地域



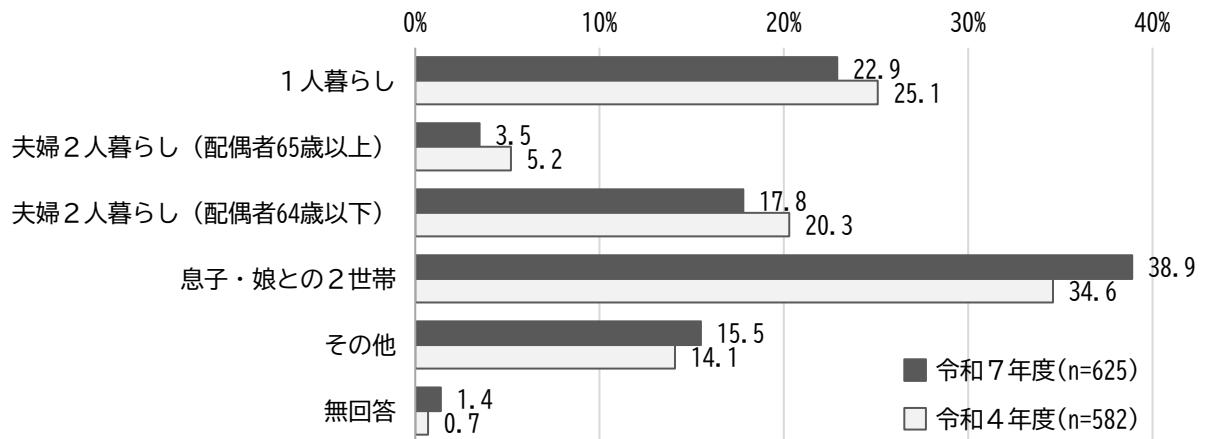
居住地域	人数
四谷	69
簞笥町	97
榎町	78
若松町	59
大久保	70
戸塚	74
落合第一	53
落合第二	61
柏木	36
角筈	24
無回答	4
合計	625

2. あなたのご家族や生活状況について

問4 家族構成を教えてください。(単数回答)

「息子・娘との2世帯」が38.9%で最も多く、次いで、「1人暮らし」が22.9%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が17.8%となっている。「その他」（15.5%）では、「両親と同居」との回答が最も多い。

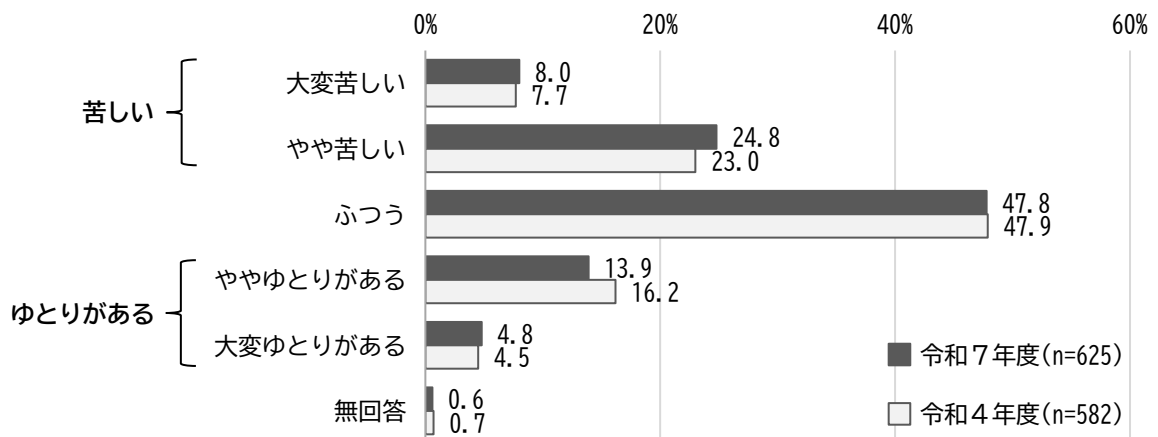
【図表 155】家族構成〈前回比較〉



問5 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(単数回答)

「ふつう」が47.8%で最も多く、「大変苦しい」（8.0%）と「やや苦しい」（24.8%）を合わせた“苦しい”は32.8%となっている。一方、「ややゆとりがある」（13.9%）と「大変ゆとりがある」（4.8%）を合わせた“ゆとりがある”は18.7%となっている。

【図表 156】現在の暮らし向き〈前回比較〉



3. 日ごろの活動について

問6 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。(単数回答)

会・グループ等への参加頻度については、「⑥収入のある仕事」の「週4回以上」が64.3%で最も多くなっている。

「週4回以上」から「年に数回」までを合わせた“参加している”は①ボランティアのグループで6.4%、②スポーツ関係のグループで19.1%、③趣味関係のグループで23.5%、④学習・教養サークルで11.1%、⑤町会・自治会で10.1%、⑥収入のある仕事で76.0%となっている。

【図表 157】 会・グループ等への参加頻度

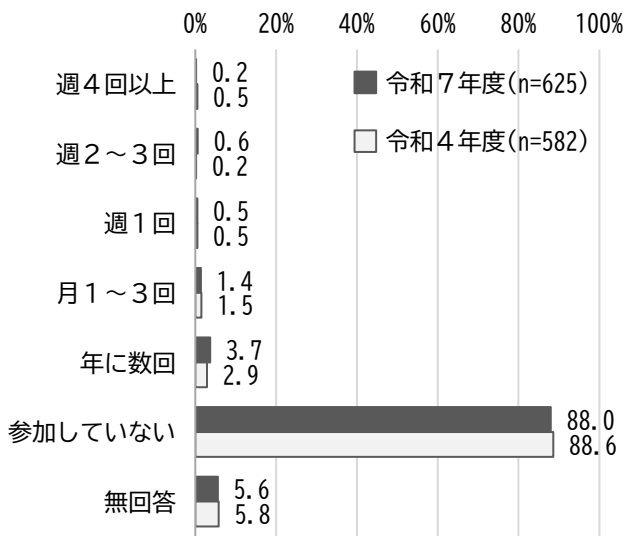
参加している

(%)

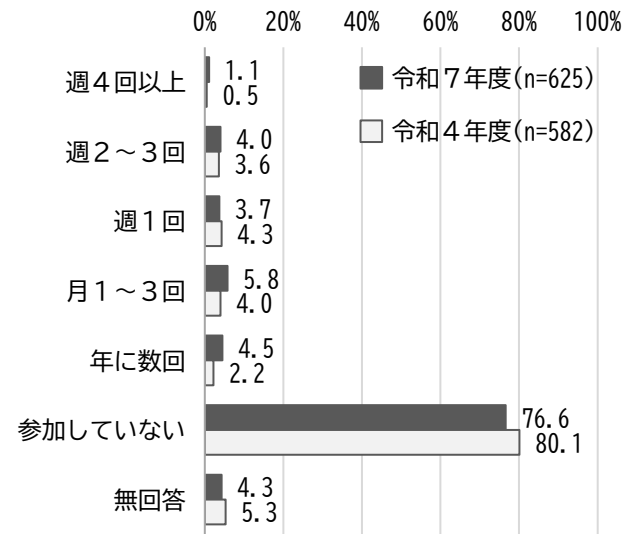
会・グループ名等	n (回答数)	週4回 以上	週2～ 3回	週1回	月1～ 3回	年に 数回	参加して いない	無回答	(R7) 参加 している	(R4) 参加 している
①ボランティアのグループ	625	0.2	0.6	0.5	1.4	3.7	88.0	5.6	6.4	5.6
②スポーツ関係のグループ	625	1.1	4.0	3.7	5.8	4.5	76.6	4.3	19.1	14.6
③趣味関係のグループ	625	0.5	2.2	3.5	9.9	7.4	71.8	4.6	23.5	13.4
④学習・教養サークル	625	0.5	0.3	1.8	3.5	5.0	83.4	5.6	11.1	5.9
⑤町会・自治会	625	0.2	0.0	0.3	1.3	8.3	84.0	5.9	10.1	7.7
⑥収入のある仕事	625	64.3	7.2	1.8	2.1	0.6	21.8	2.2	76.0	49.9

【図表 158】会・グループ等への参加頻度〈個別〉〈前回比較〉

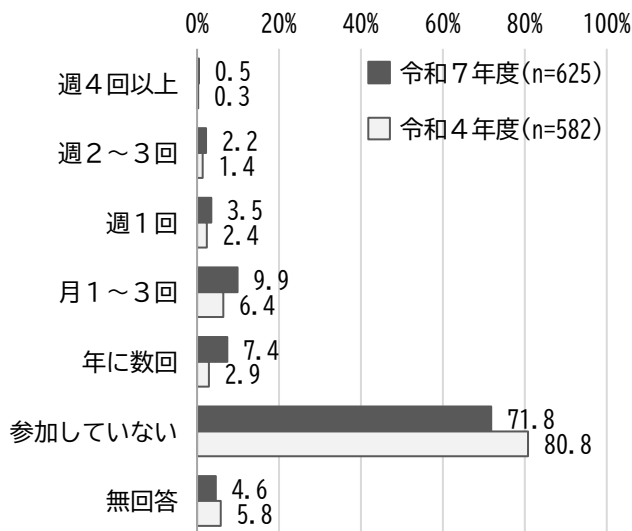
①ボランティアのグループ



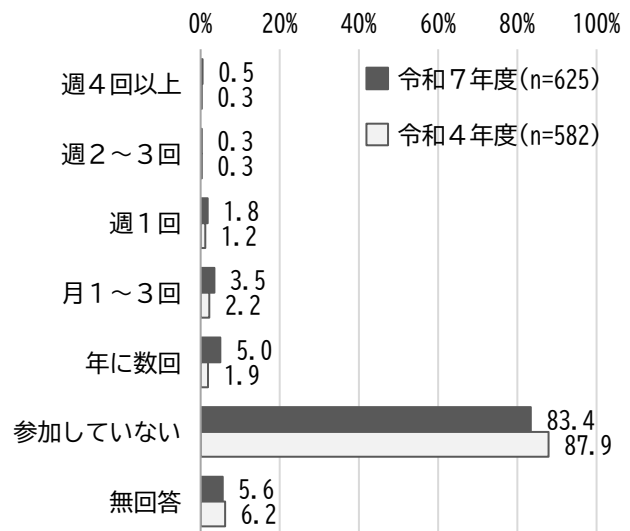
②スポーツ関係のグループ



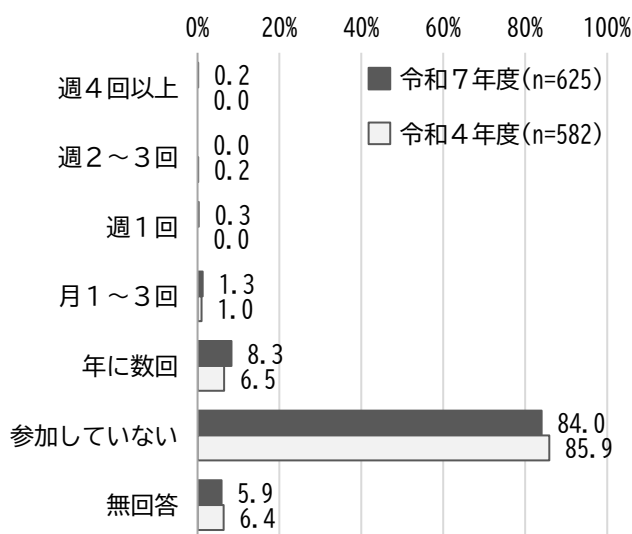
③趣味関係のグループ



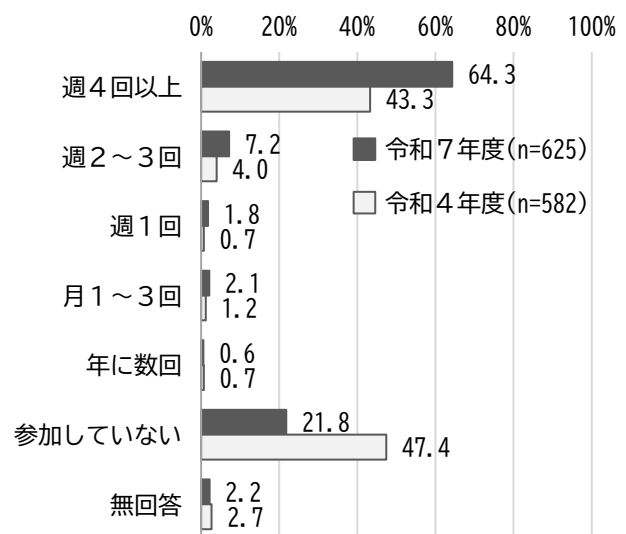
④学習・教養サークル



⑤町会・自治会



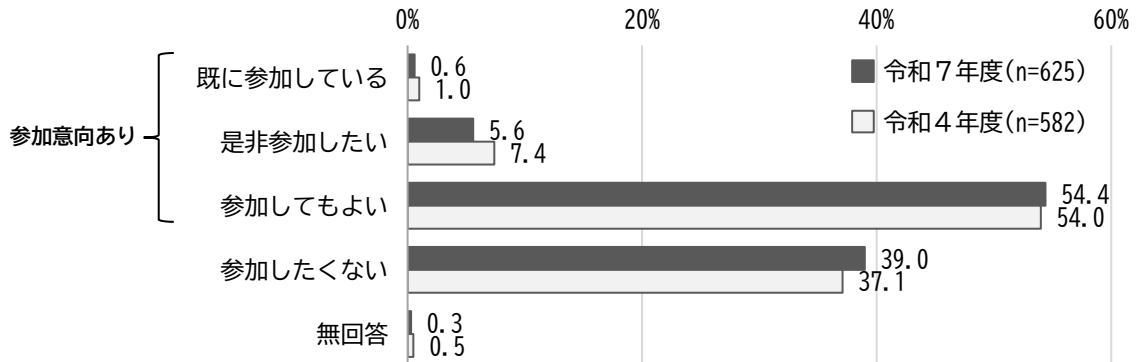
⑥収入のある仕事



問7 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。
(単数回答)

「既に参加している」が0.6%、「是非参加したい」が5.6%、「参加してもよい」が54.4%となっており、これらを合わせた“参加意向あり”は60.6%となっている。

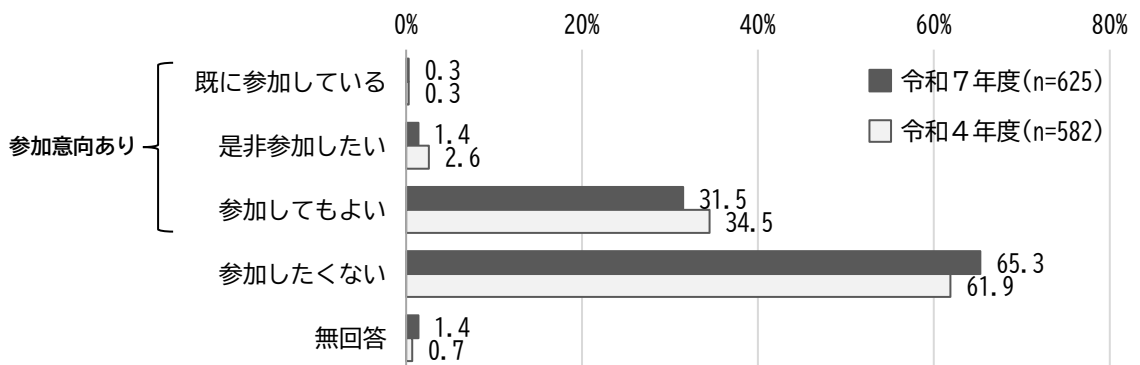
【図表 159】地域づくりへの参加者としての参加意向〈前回比較〉



問8 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。(単数回答)

「既に参加している」が0.3%、「是非参加したい」が1.4%、「参加してもよい」が31.5%となっており、これらを合わせた“参加意向あり”は33.2%となっている。

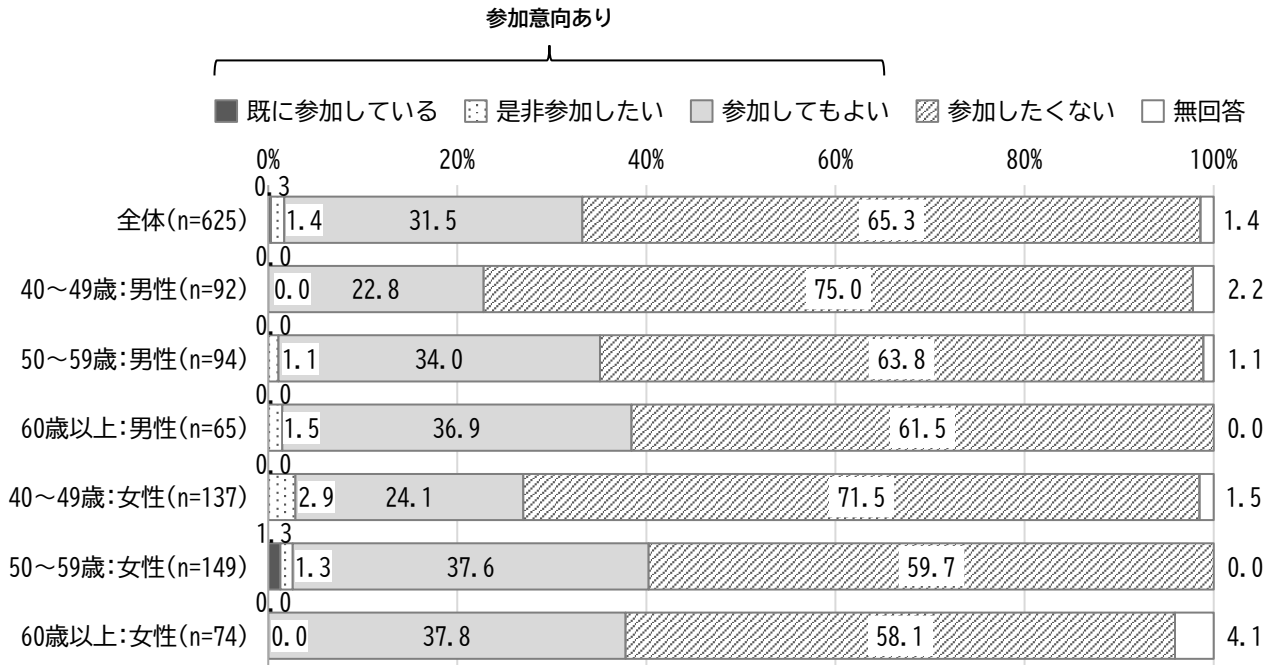
【図表 160】地域づくりへの企画・運営としての参加意向〈前回比較〉



■地域づくりへの企画・運営としての参加意向〈性・年齢階層別〉

性・年齢階層別にみると、“参加意向あり”と回答している割合は、男性では年齢階層が上がるにつれ高くなる傾向がみられている。

【図表 161】 地域づくりへの企画・運営としての参加意向〈性・年齢階層別〉



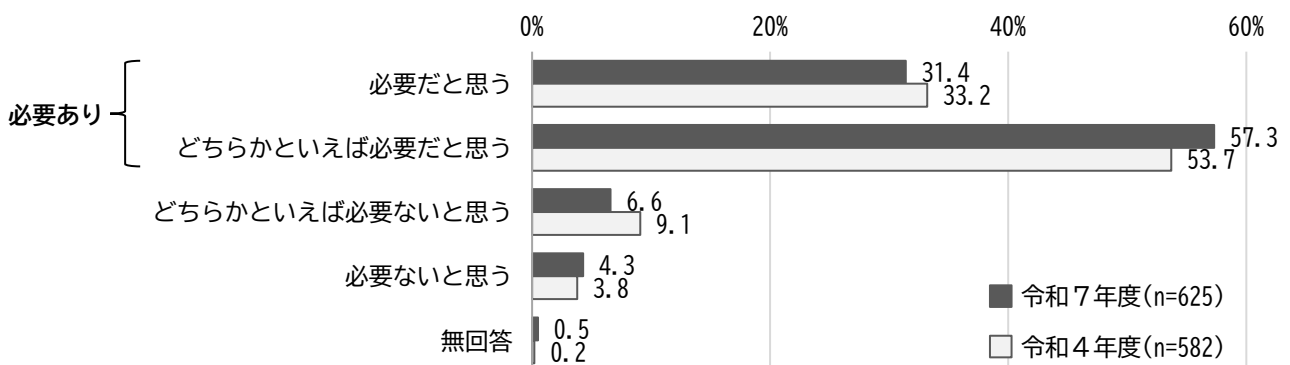
4. たすけあいについて

問9 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）についておたずねします。（単数回答）

(1) 地域のつながりの必要性

地域のつながりの必要性については、「必要だと思う」（31.4%）と「どちらかといえば必要だと思う」（57.3%）を合わせた“必要あり”は88.7%となっている。

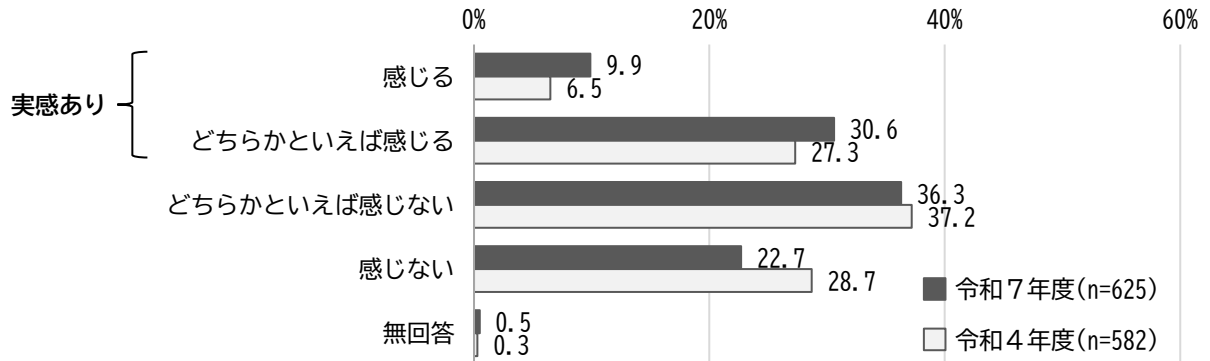
【図表 162】 地域のつながりの必要性〈前回比較〉



(2) 地域のつながりの実感

地域のつながりの実感については、「感じる」(9.9%)と「どちらからといえば感じる」(30.6%)を合わせた“実感あり”40.5%となっている。

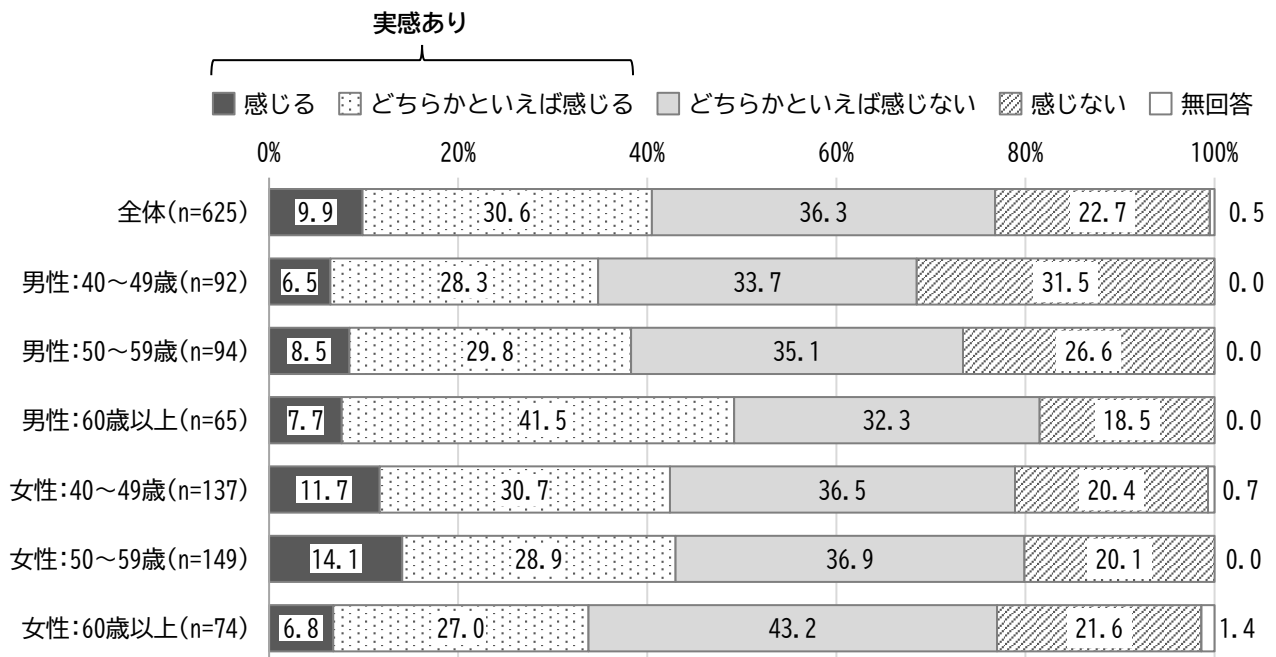
【図表 163】地域のつながりの実感〈前回比較〉



■地域のつながりの実感〈性・年齢階層別〉

性・年齢階層別にみると、“実感あり”と回答している割合は、男性では年齢階層が上がるにつれ高くなる傾向がみられている。

【図表 164】地域のつながりの実感〈性・年齢階層別〉

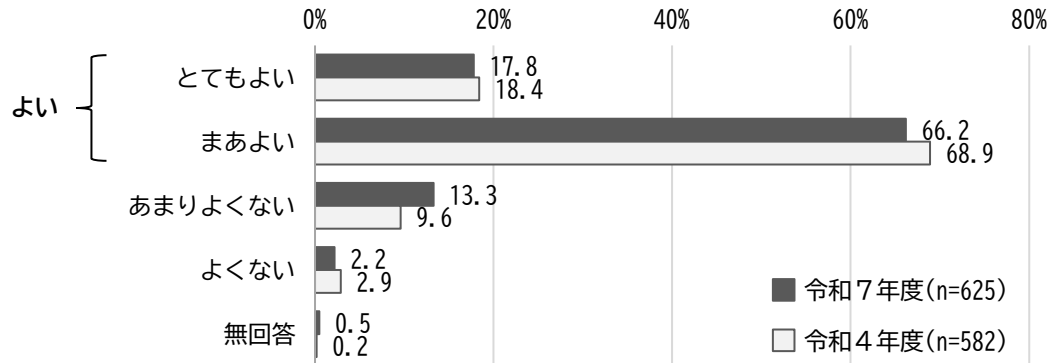


5. 健康状態や健康づくりについて

問10 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(単数回答)

「まあよい」が66.2%と最も多く、「とてもよい」(17.8%)と合わせた“よい”は、84.0%となっている。

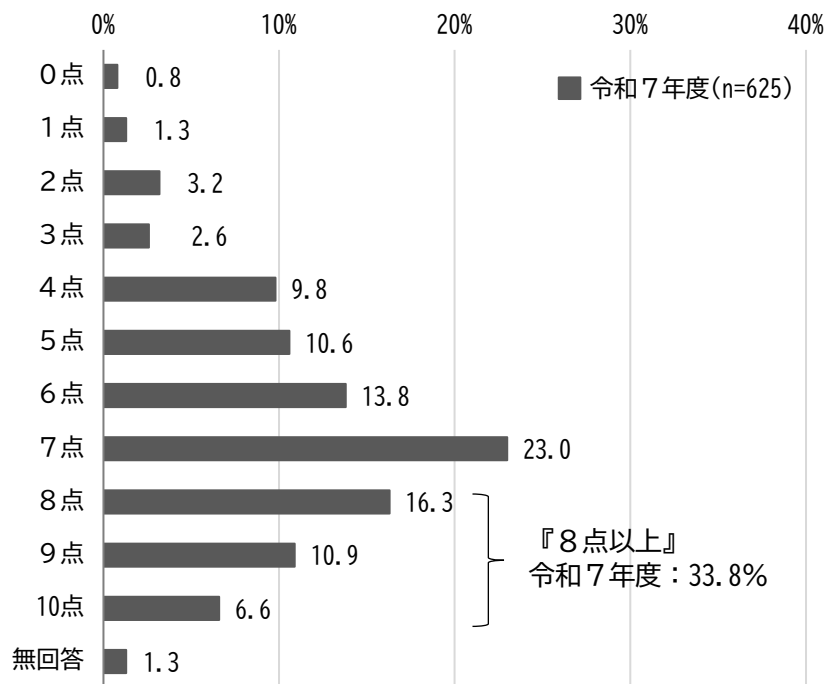
【図表 165】現在の健康状態〈前回比較〉



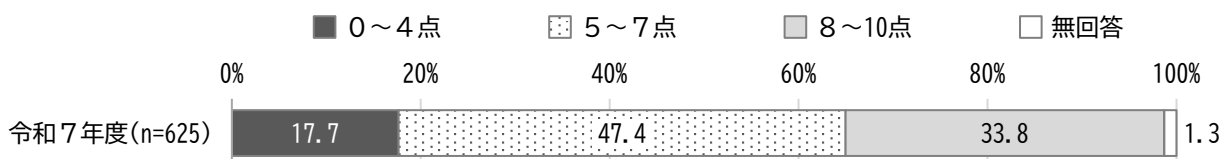
問11 あなたは、現在どの程度幸せですか。(単数回答)

「7点」が23.0%で最も多く、次いで、「8点」が16.3%、「6点」が13.8%となっている。「8～10点」を合わせた“8点以上”は33.8%となっている。

【図表 166】現在の幸福度



【図表 167】現在の幸福度3区分別



3 第2号被保険者調査

問12 生きがいがありますか。(単数回答)

「ある」が64.6%、「思いつかない」が33.8%となっている。

【図表 168】生きがいの有無



■問12で「ある」と回答した方の具体的な生きがいの記載内容

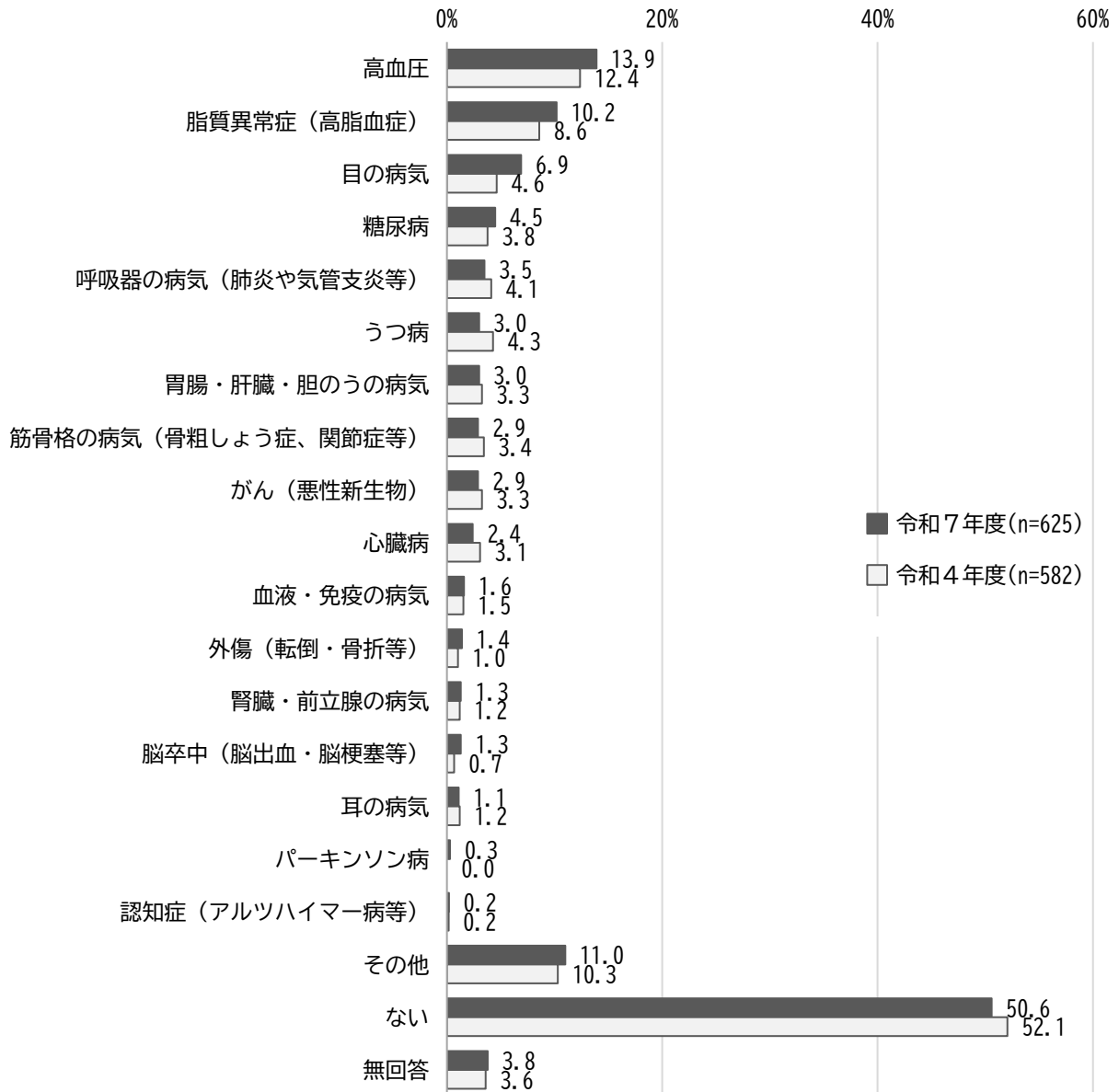
生きがいが「ある」と回答した方に具体的な内容を聞いたところ、366件の回答があった。12の項目にまとめた各項目の主な内容は以下のとおり。

家族	137件	旅行	7件
・子育て ・家族の幸せ		・旅行	
仕事	83件	友人・知人との交流	7件
・仕事があること ・自分の会社		・仲間との交流 ・友達	
趣味	63件	ペット	7件
・推し活 ・食事、食べ歩き		・ネコ ・ペットを通じた交流	
運動	18件	健康	5件
・ランニング、マラソン ・ウォーキング、散歩		・健康でいられること	
勉強・読書	12件	ボランティア	1件
・学ぶこと ・本を読む		・社会的活動	
音楽・芝居	8件	その他	18件
・バンド活動、楽器演奏 ・芝居		・日々の生活 ・生きていること、それ自体	
		合計	366件

問13 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(複数回答)

「高血圧」が13.9%で最も多く、次いで、「脂質異常症(高脂血症)」が10.2%、「目の病気」が6.9%となっている。一方、「ない」は50.6%となっている。「その他」(11.0%)では、「甲状腺の病気」が最も多い。

【図表 169】 現在治療中、または後遺症のある病気(前回比較)



問 14 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。(単数回答)

「いる」が60.6%、「いない」が38.6%となっている。

【図表 170】かかりつけ医の有無〈前回比較〉

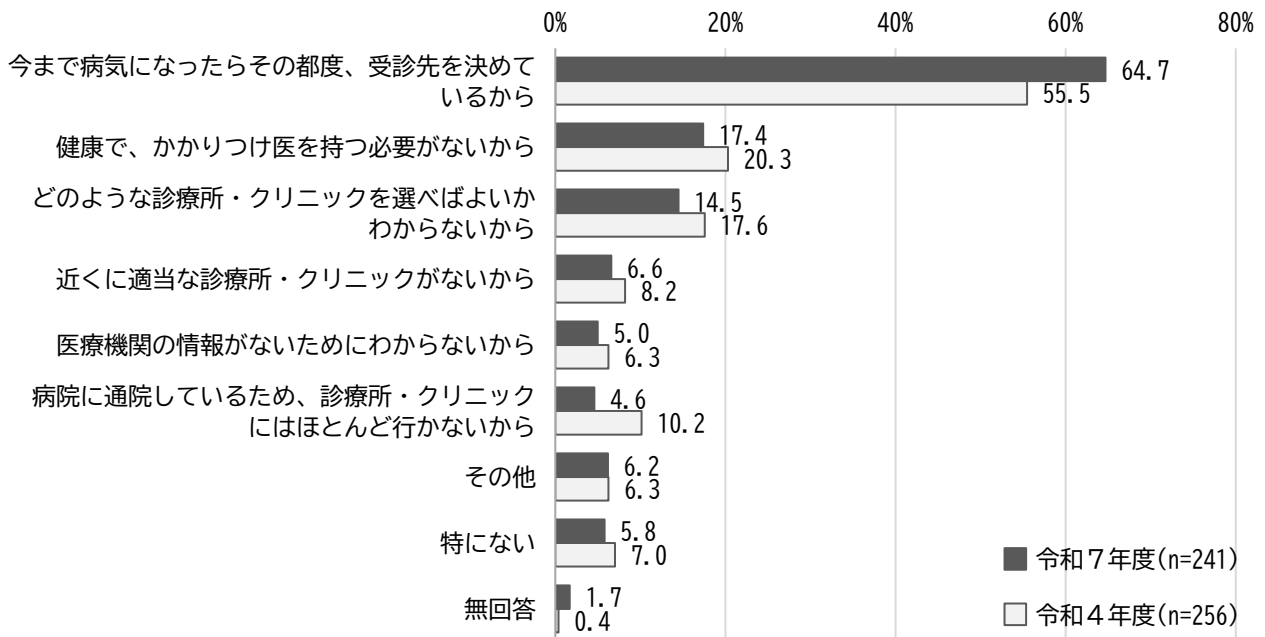


【問 14 で「いない」と回答した方】

問 14-1 かかりつけ医がない理由は、次のうちどれですか。(複数回答)

「今まで病気になったらその都度、受診先を決めているから」が64.7%で最も多く、次いで、「健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから」が17.4%、「どのような診療所・クリニックを選べばよいかわからないから」が14.5%となっている。

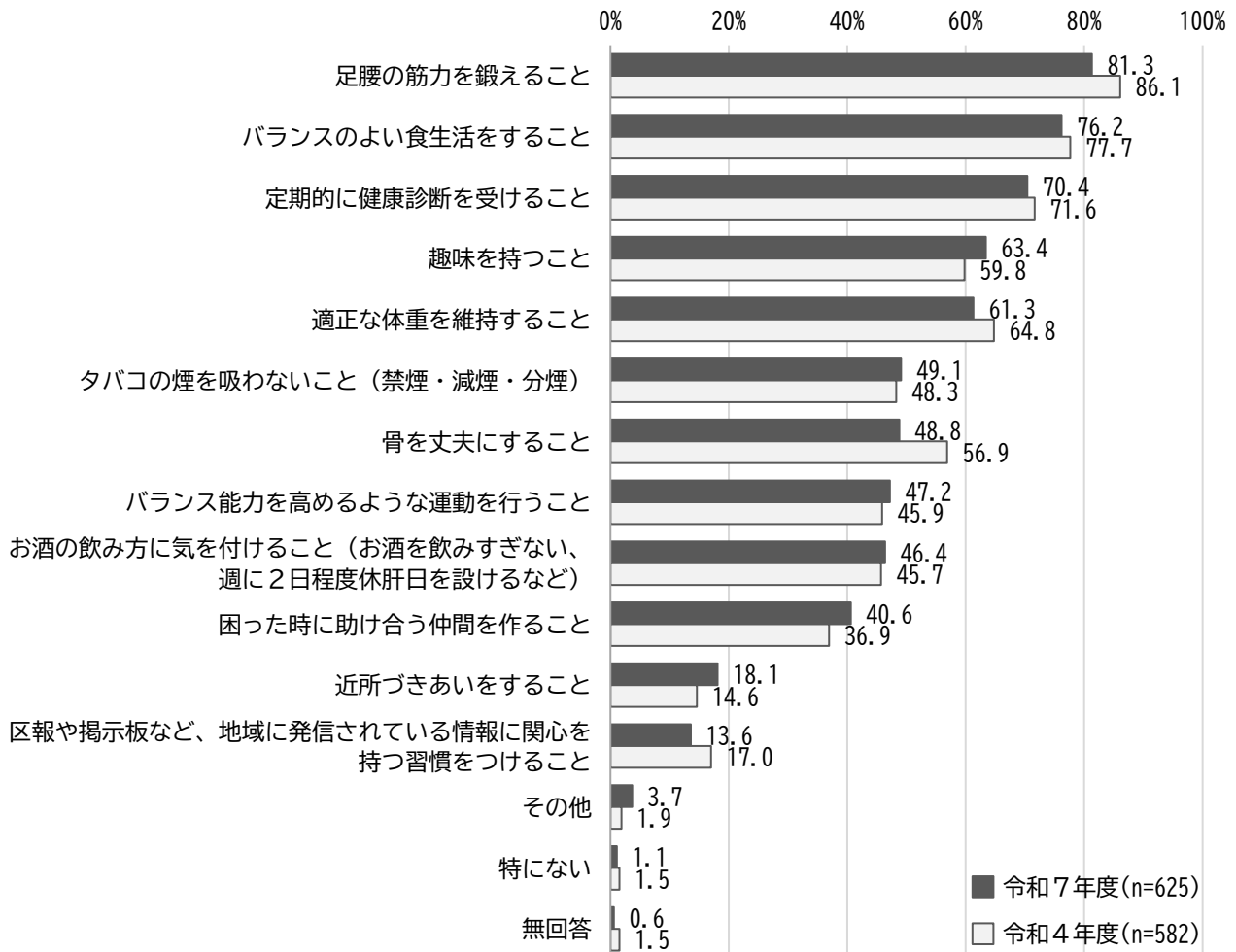
【図表 171】かかりつけ医がない理由〈前回比較〉



問 15 いきいきと充実した活動的な高齢期を実現するために、40代から取り組んだほうがよいことは何だと思いませんか。(複数回答)

「足腰の筋力を鍛えること」が81.3%で最も多く、次いで、「バランスのよい食生活をするこ
と」が76.2%、「定期的に健康診断を受けること」が70.4%となっている。

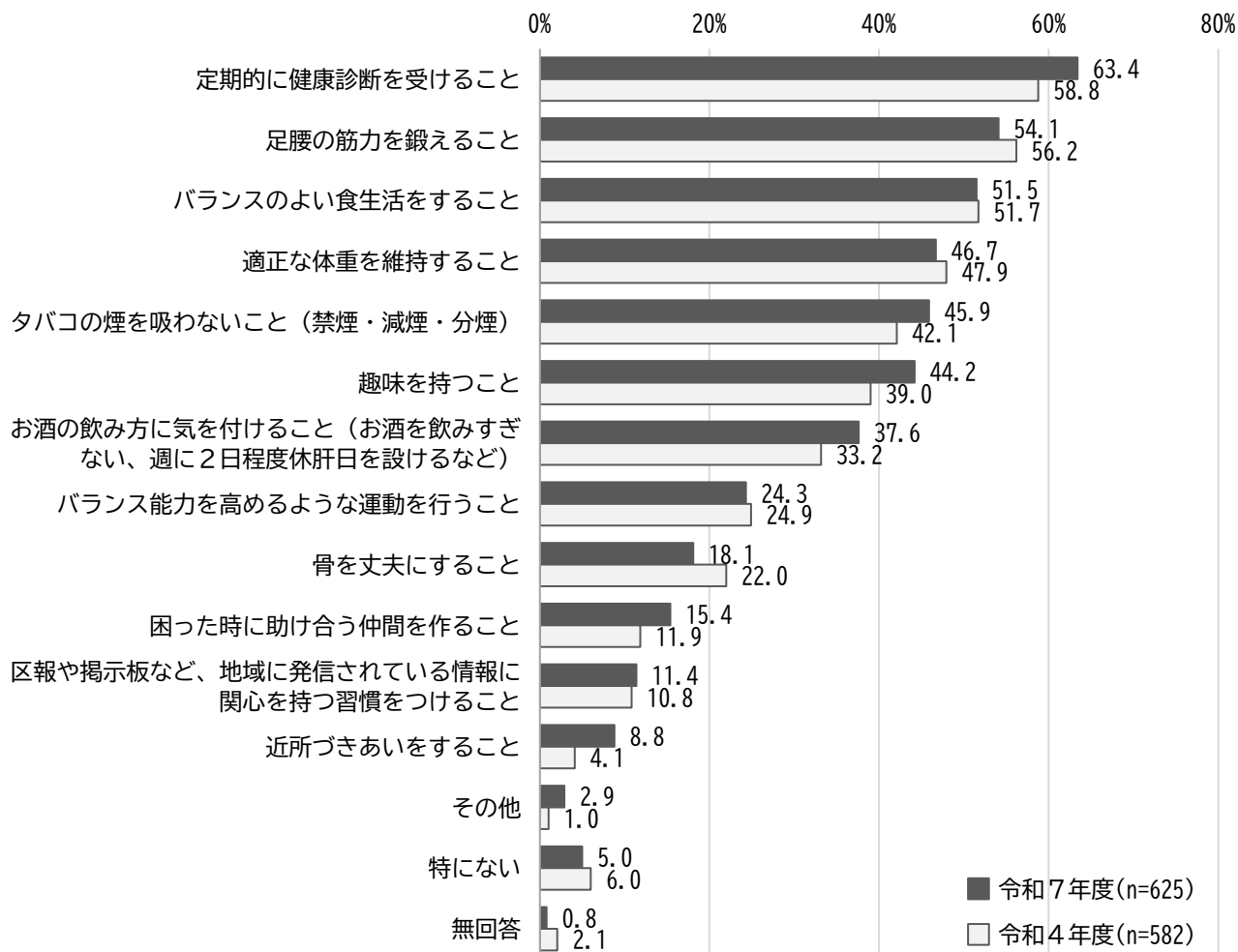
【図表 172】40代から取り組んだほうがよいこと〈前回比較〉



問 16 あなたが現在、実践していることはありますか。(複数回答)

「定期的に健康診断を受けること」が 63.4%で最も多く、次いで、「足腰の筋力を鍛えること」が 54.1%、「バランスのよい食生活をする事」が 51.5%となっている。

【図表 173】 現在、実践していること〈前回比較〉

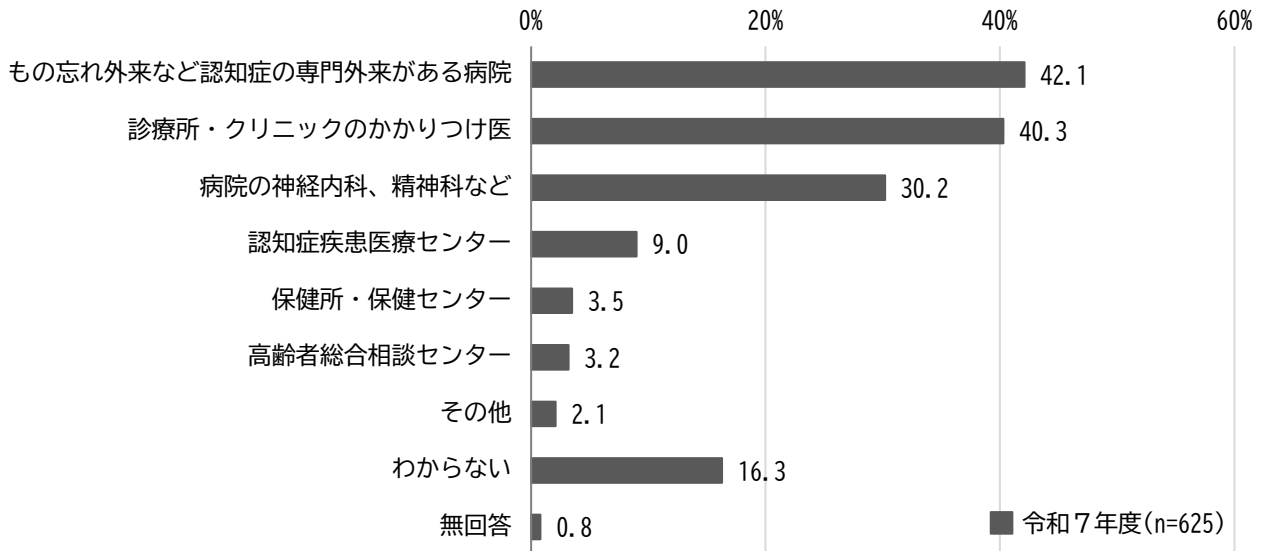


6. 若年性認知症について

問 17 あなたは、もの忘れや理解・判断力の低下、そのことによる仕事上のトラブルなど気になる症状があったとき、どちらに相談しようと思いますか。(複数回答)

「もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院」が42.1%で最も多く、次いで、「診療所・クリニックのかかりつけ医」が40.3%、「病院の神経内科、精神科など」が30.2%となっている。

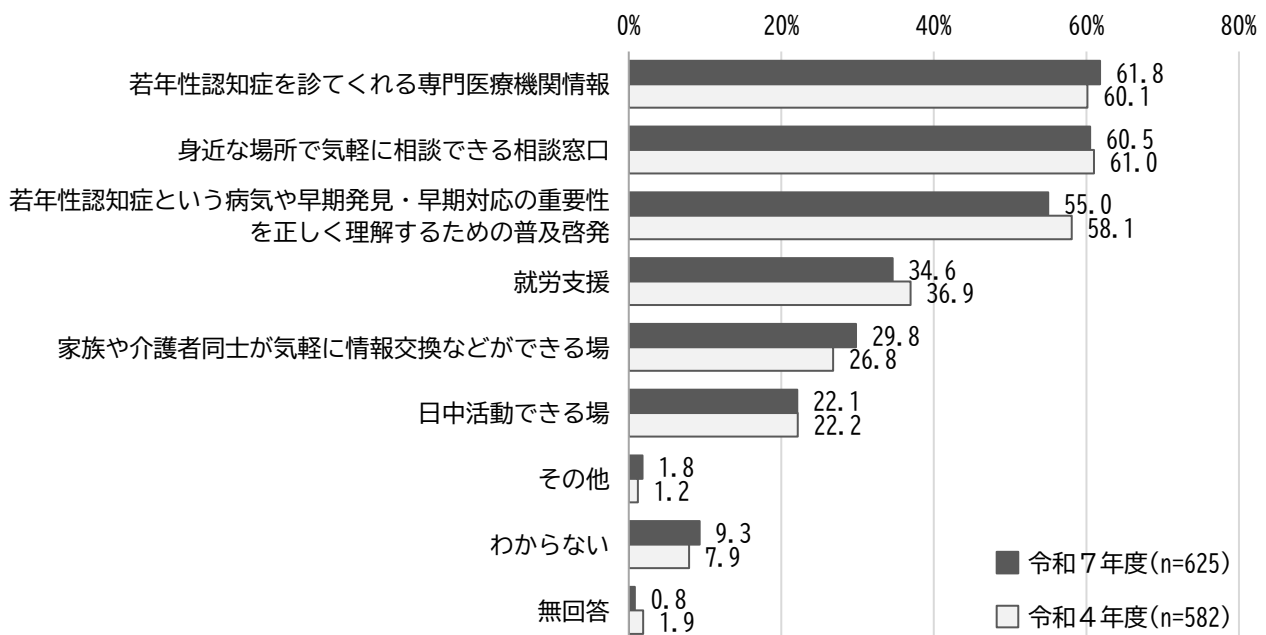
【図表 174】もの忘れ等気になる症状があったときの相談先



問 18 あなたは、若年性認知症の支援には何が必要だと思いますか。(複数回答)

「若年性認知症を診てくれる専門医療機関情報」が61.8%で最も多く、次いで、「身近な場所で気軽に相談できる相談窓口」が60.5%、「若年性認知症という病気や早期発見・早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発」が55.0%となっている。

【図表 175】若年性認知症に対して必要な支援〈前回比較〉

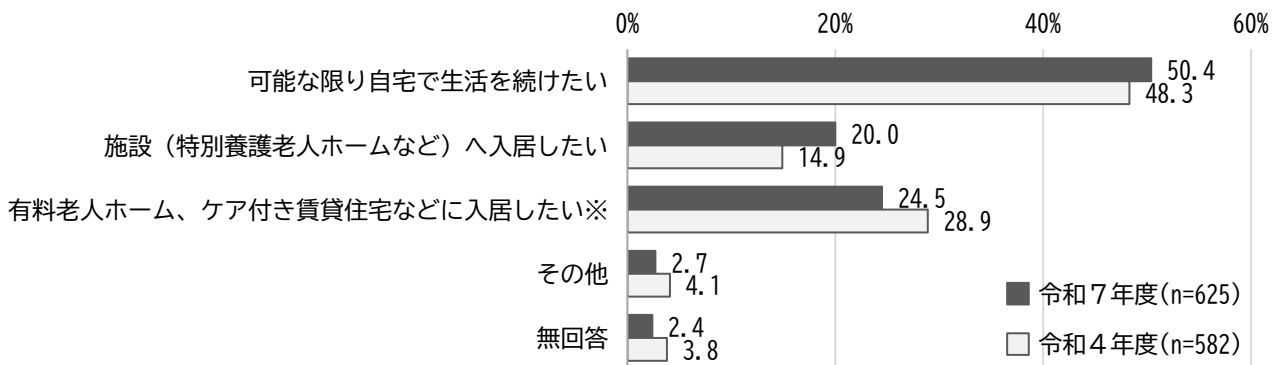


7. 在宅療養等について

問 19 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。(単数回答)

「可能な限り自宅で生活を続けたい」が 50.4%で最も多く、次いで、「有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅などに入居したい」が 24.5%、「施設（特別養護老人ホームなど）へ入居したい」が 20.0%となっている。

【図表 176】 介護が必要になった場合の生活を続けたい場所（前回比較）

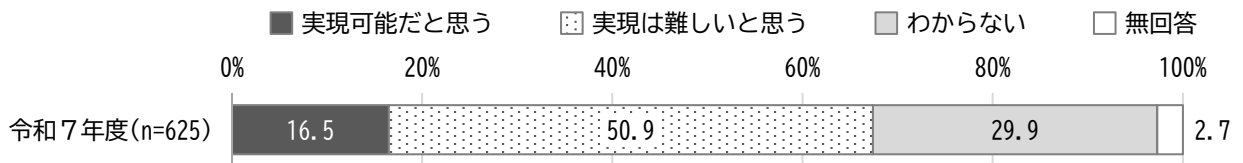


※令和4年度調査の選択肢は「介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居（有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など）に入居したい」となっている。

問 20 ご自宅での療養は実現可能だと思いますか。(単数回答)

「実現は難しいと思う」が 50.9%で最も多く、次いで、「わからない」が 29.9%、「実現可能だと思う」が 16.5%となっている。

【図表 177】 在宅療養の可能性

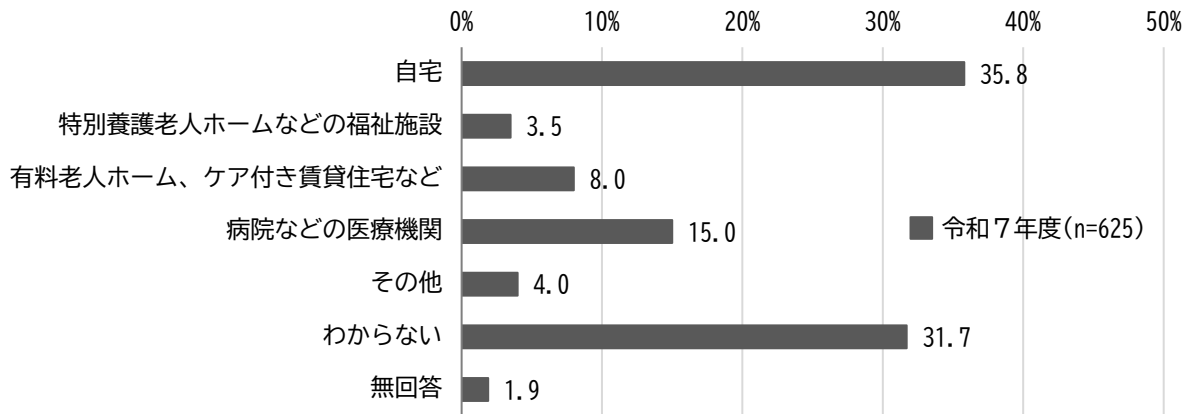


8. ACP（人生会議）について

問21 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。（単数回答）

「自宅」が35.8%で最も多く、次いで、「わからない」が31.7%、「病院などの医療機関」が15.0%となっている。

【図表 178】最期を迎えたい場所

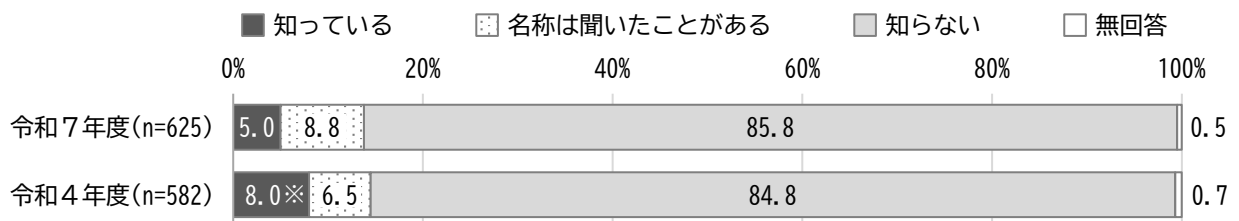


問22 ACP（人生会議）についておたずねします。（単数回答）

(1) あなたは、ACP（人生会議）について知っていますか。

「知らない」が85.8%で最も多く、次いで、「名称は聞いたことがある」が8.8%、「知っている」が5.0%となっている。

【図表 179】ACP（人生会議）の認知度〈前回比較〉

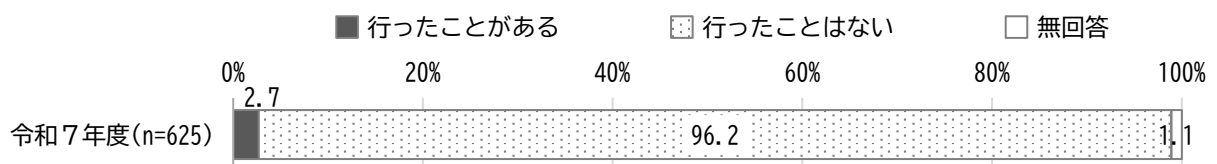


※令和4年度調査については、選択肢「知っている（話し合ったことがある）」と「知っている（話し合ったことはない）」を合わせて、「知っている」としている。

(2) あなたは、ACP（人生会議）を行ったことがありますか。

「行ったことがある」が2.7%、「行ったことはない」が96.2%となっている。

【図表 180】ACP（人生会議）を行ったことの有無

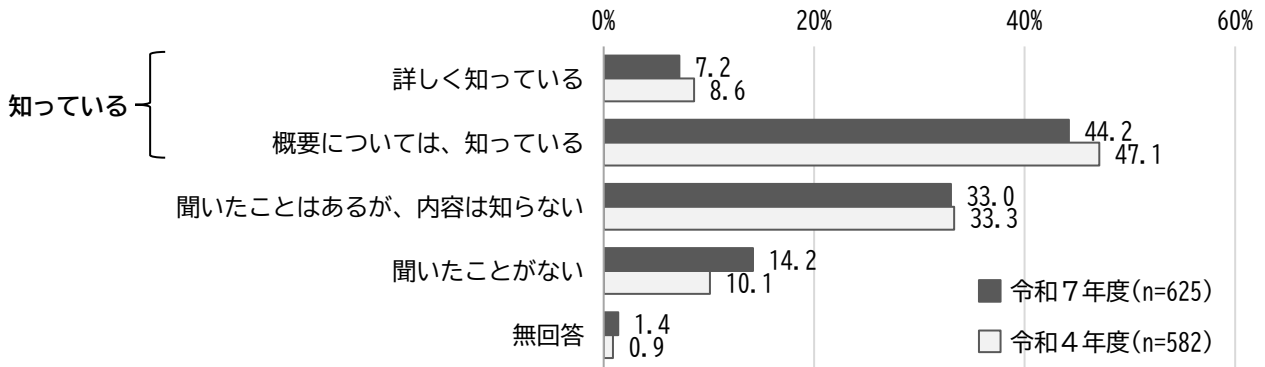


9. 権利擁護について

問 23 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(単数回答)

「概要については、知っている」が 44.2%で最も多く、次いで、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が 33.0%、「聞いたことがない」が 14.2%となっている。「詳しく知っている」(7.2%)と「概要については、知っている」(44.2%)を合わせた“知っている”は 51.4%となっている。

【図表 181】成年後見制度の認知度〈前回比較〉

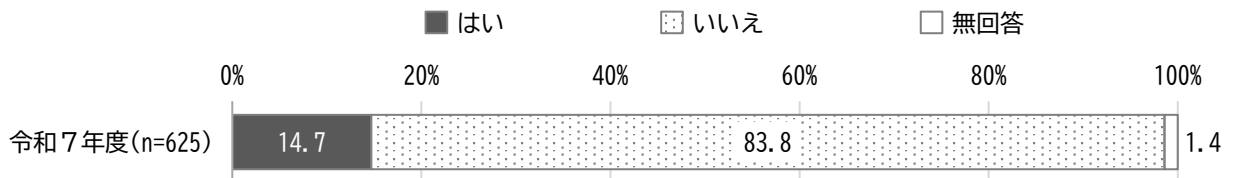


10. 災害時要援護者対策について

問 24 あなたは、「災害時要援護者名簿」について知っていますか。(単数回答)

「はい」が 14.7%、「いいえ」が 83.8%となっている。

【図表 182】災害時要援護者名簿の認知度

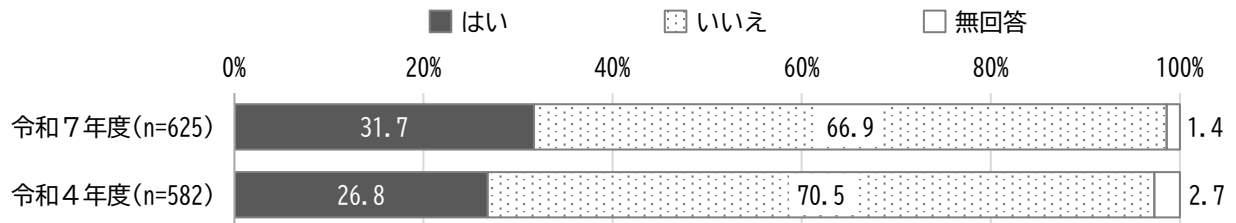


11. 健康・福祉サービスの相談窓口について

問 25 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称を知っていますか。(単数回答)

「はい」が31.7%、「いいえ」が66.9%となっている。

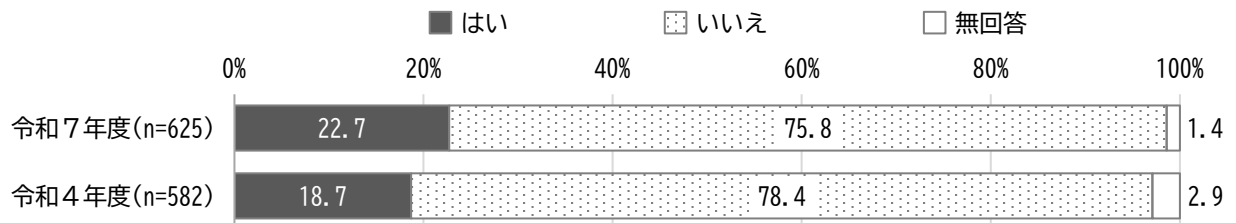
【図表 183】 高齢者総合相談センターの名称の認知度〈前回比較〉



問 26 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関か知っていますか。(単数回答)

「はい」が22.7%、「いいえ」が75.8%となっている。

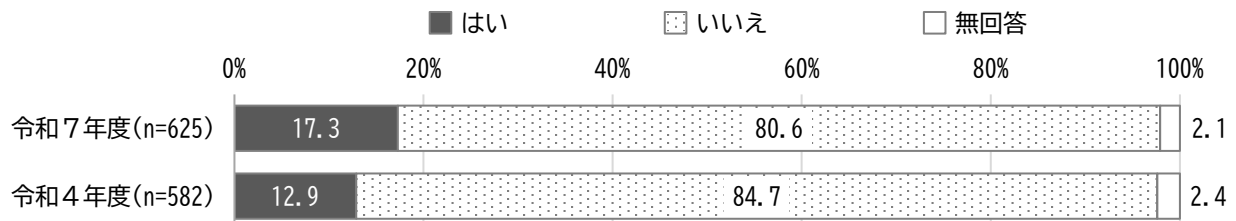
【図表 184】 高齢者総合相談センターの機能の認知度〈前回比較〉



問 27 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるか知っていますか。(単数回答)

「はい」が17.3%、「いいえ」が80.6%となっている。

【図表 185】 高齢者総合相談センターの所在地の認知度〈前回比較〉

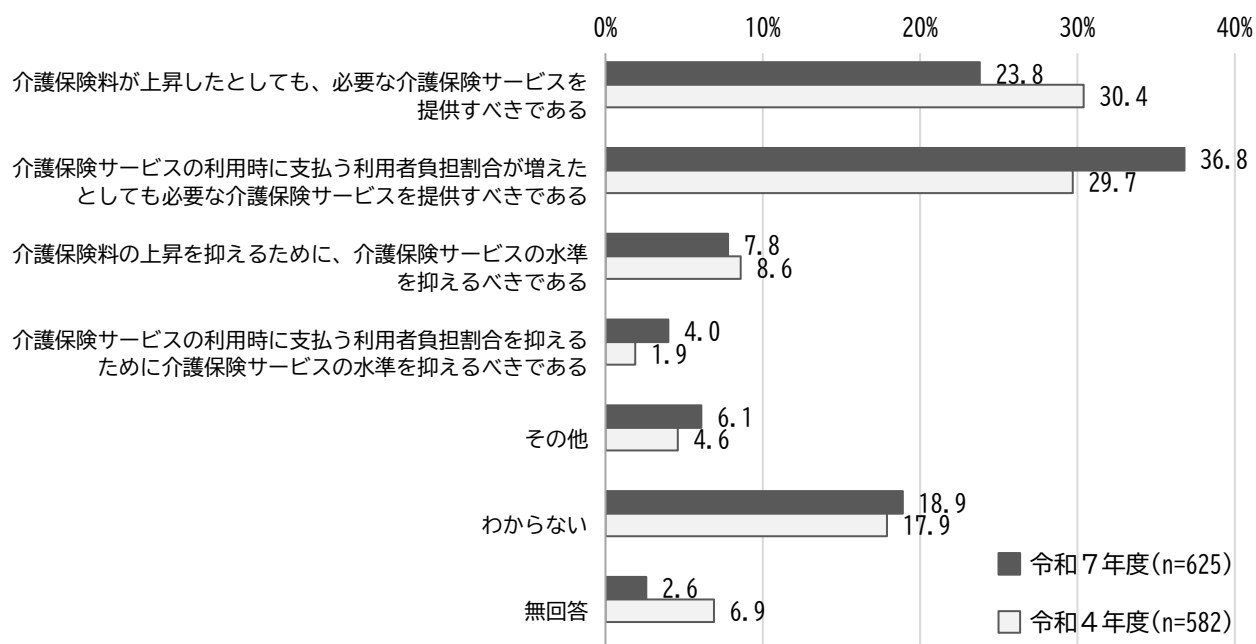


12. 介護保険制度について

問 28 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。
(単数回答)

「介護保険サービスの利用時に支払う利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」が 36.8%で最も多く、次いで、「介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」が 23.8%、「わからない」が 18.9%となっている。

【図表 186】 介護保険のサービスと費用負担 〈前回比較〉



自由記述

問 29 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、115 件の回答があった。9 項目にまとめた各項目の主な意見は以下のとおり。(その他を除く)

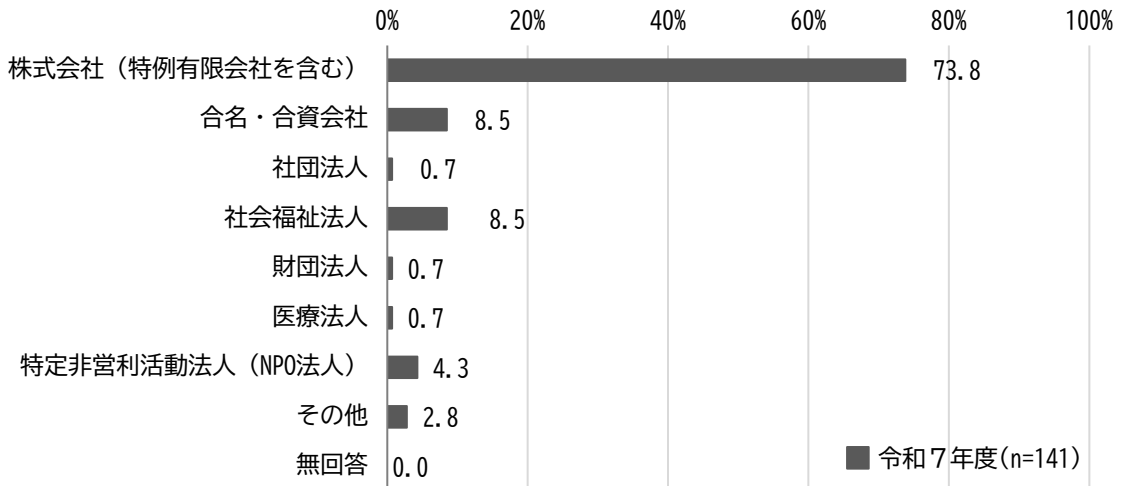
高齢者施策について	23 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者だけの世帯だとサービスに繋がれない方がいると思うので、区の働きかけで必要な方に必要なサービスが届くようにしてほしい。 ・ 区独自の制度があってもいいが、現役世代にも配慮してほしい。 ・ 高齢者の増加に対する対応として、介護以外の高齢者の保健（病気にならないための予防）や、高齢者の孤立防止（居場所作りなど）のための取り組みを行ってほしい。 	
情報提供相談について	21 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 分かりやすいリーフレットなどを定期的に配布して欲しい。 ・ 介護保険に関する勉強会などをやってほしい。 	
サービスについて	13 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者総合相談センターの場所が行きにくい。駅近の場所などがあると、介護に疲れている人も気軽に相談に行けると思う。 ・ 介護従事者が安定して気持ちよく働ける環境づくりに力を入れてほしい。 ・ ケアマネジャーの不足により、介護を受けるハードルが上がってしまうと危惧しており、対策をしてほしい。 	
介護保険保険料について	11 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在は多少の収入があり保険料を払うことができるが、年金生活になると保険料の負担はかなり大きい額に感じると思う。 ・ 介護度の認定に日数がかかりすぎると思う。 	
行政への要望について	10 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 弱者がサポートを身近に受けられ、社会と交われる環境を東京都と共に整えてほしい。 ・ 公共の福祉は大事だが、持続不能な方向に進まないように十分配慮すべき。 	
健康介護予防について	9 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生きがいを持って健康寿命を延ばせる施策をお願いしたい。 ・ 高齢者が安心して健やかに自立して暮らせるよう、まずは中高年の健康プログラム（スポーツセンターでの体操、フレイル予防、ダンス、ヨガストレッチ等）の拡充が必要だと思います。 	
アンケートについて	6 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの内容をわかりやすくしてほしい。 ・ アンケートで広く声を集め、行政の施策に反映してほしい。 	
高齢者向け施設について	5 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 区外に住む親の介護を区内で受けさせたいと思うが、老人ホームの費用が高く驚いている。手ごろな施設があればありがたい。 	
その他	17 件

4-1 ケアマネジャー調査

1. 勤務先の事業所の概要について

問1 あなたの所属する事業所の組織（法人格）は、次のうちどれですか。（単数回答）

【図表 187】事業所の組織（法人格）

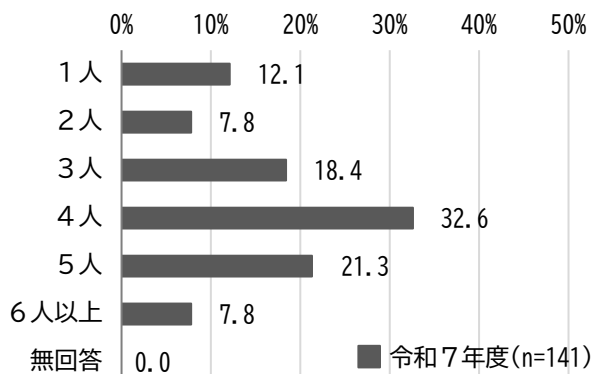


問2 あなたの居宅介護支援事業所のケアマネジャーは、あなたも含めて何人ですか。そのうち、主任ケアマネジャーは何人ですか。（単数回答）

ケアマネジャーの人数については、「4人」が32.6%で最も多く、次いで、「5人」が21.3%、「3人」が18.4%となっている。主任ケアマネジャーの人数については、「1人」が42.6%で最も多くなっている。

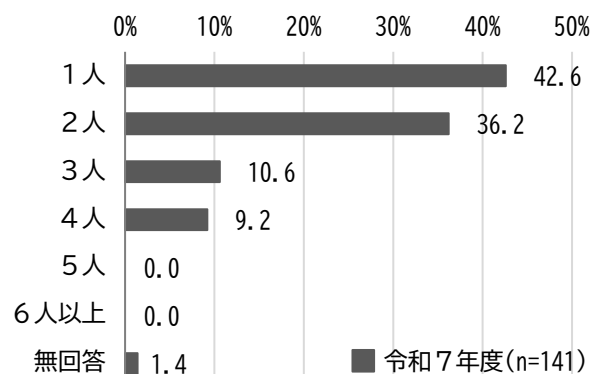
■ケアマネジャーの人数

【図表 188】居宅介護支援事業所のケアマネジャーの人数



■主任ケアマネジャーの人数

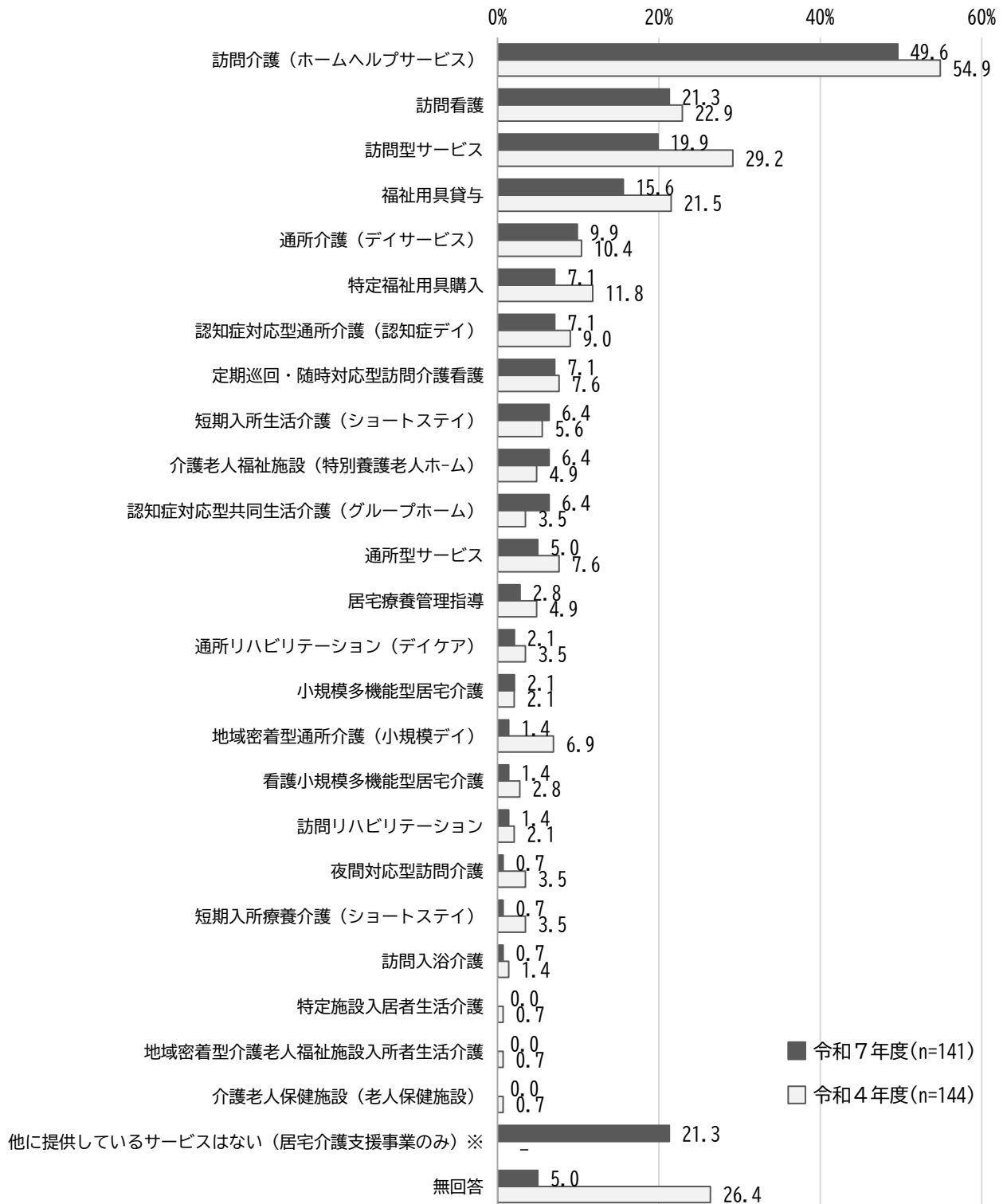
【図表 189】主任ケアマネジャーの人数



問3 あなたの所属する事業所が、居宅介護支援事業の他に提供しているサービスはどれですか。
(複数回答)

「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が49.6%で最も多く、次いで、「訪問看護」が21.3%、「訪問型サービス」が19.9%となっている。

【図表 190】居宅介護支援事業の他に提供しているサービス（前回比較）

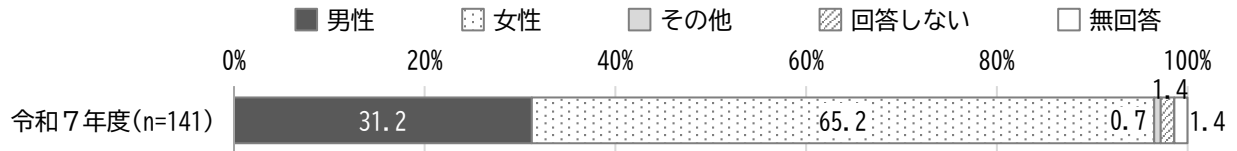


※令和4年度調査では、選択肢「他に提供しているサービスはない（居宅介護支援事業のみ）」はない。

2. あなた自身のことについて

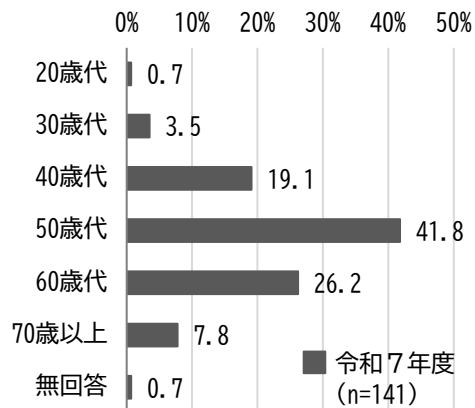
問4 あなたの性別をお選びください。(単数回答)

【図表 191】性別



問5 あなたの年齢をお選びください。(単数回答)

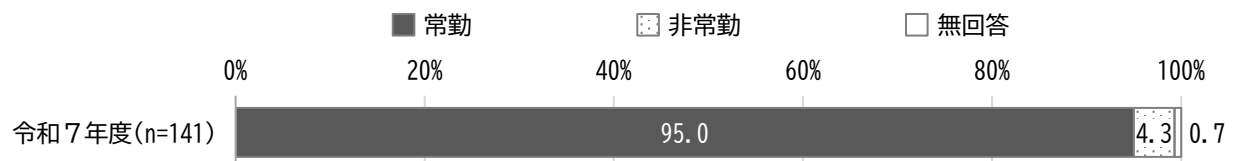
【図表 192】年齢



年齢	人数
20歳代	1
30歳代	5
40歳代	27
50歳代	59
60歳代	37
70歳以上	11
無回答	1
合計	141

問6 あなたの勤務形態をお選びください。(単数回答)

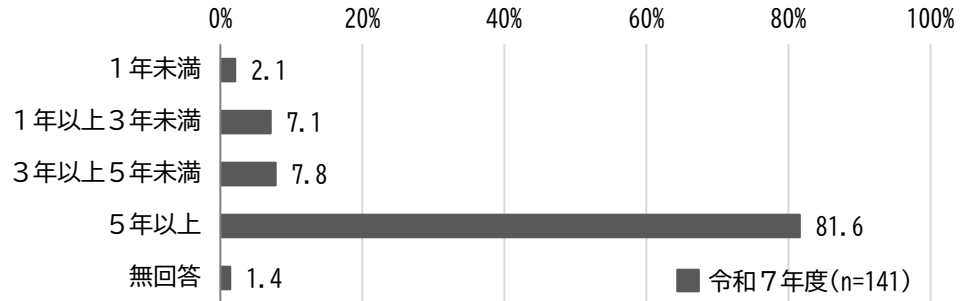
【図表 193】勤務形態



問7 あなたのケアマネジャーの経験年数をお選びください。(単数回答)

「5年以上」が81.6%で最も多く、次いで、「3年以上5年未満」が7.8%、「1年以上3年未満」が7.1%となっている。

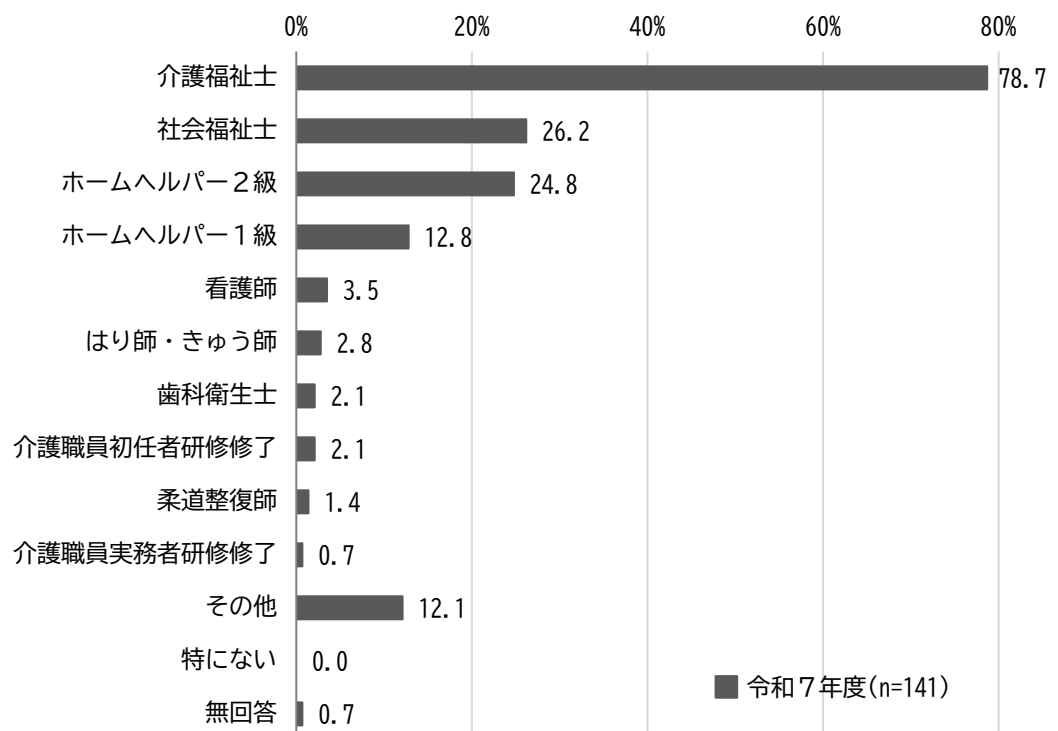
【図表 194】 経験年数



問8 あなたは、介護支援専門員以外にどのような資格をお持ちですか。(複数回答)

「介護福祉士」が78.7%で最も多く、次いで、「社会福祉士」が26.2%、「ホームヘルパー2級」が24.8%となっている。「その他」(12.1%)では「精神保健福祉士」との回答が最も多い。

【図表 195】 介護支援専門員以外に 所有している資格



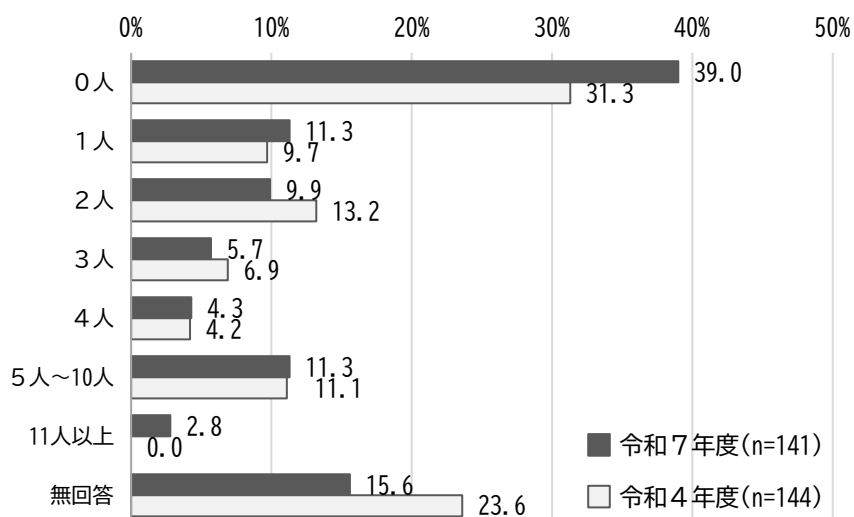
3. ケアマネジメントの状況について

問9 あなたが令和7年9月1日現在、担当している人数を教えてください。(単数回答)

担当している予防支援者の人数については、「0人」が39.0%で最も多く、次いで、「1人」が11.3%、「5人～10人」が11.3%となっている。担当している介護支援者の人数については、「30～39人」が40.4%で最も多く、次いで、「40～49人」が17.0%、「25～29人」が12.8%となっている。

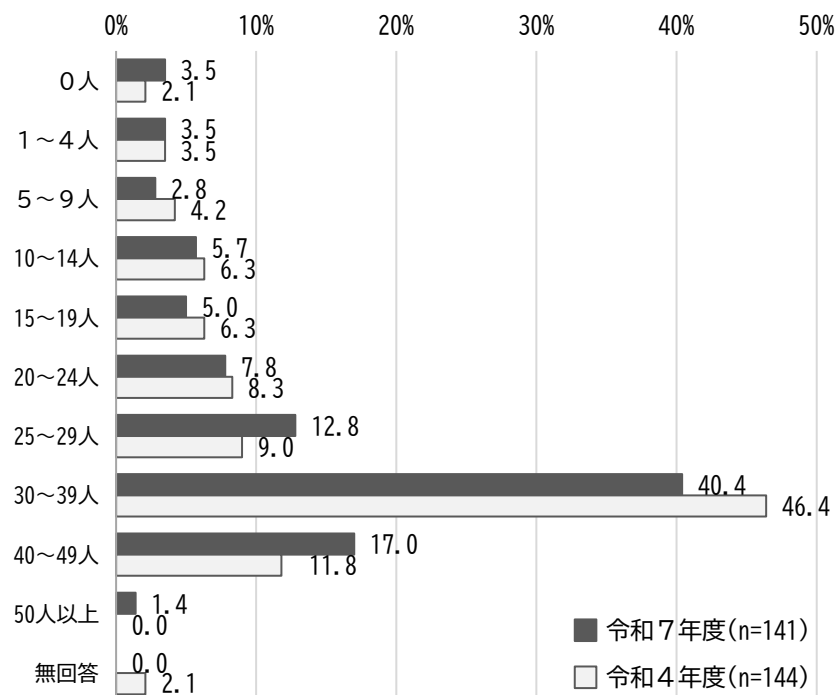
■担当している予防支援者の人数

【図表 196】 担当している予防支援者数〈前回比較〉



■担当している介護支援者の人数

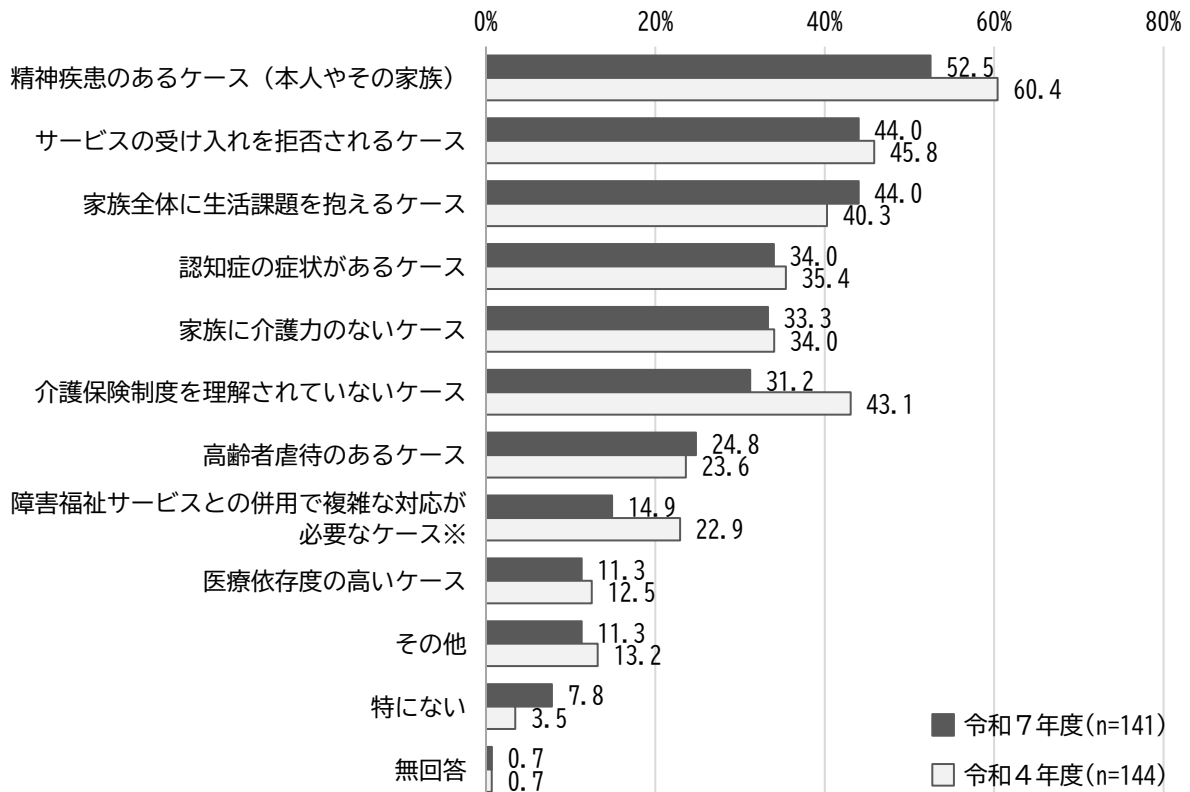
【図表 197】 担当している介護支援者数〈前回比較〉



問 10 過去1年間で、あなたが支援困難と感じたケースは、次のうちどれですか。(複数回答)

「精神疾患のあるケース(本人やその家族)」が52.5%で最も多く、次いで、「サービスの受け入れを拒否されるケース」が44.0%、「家族全体に生活課題を抱えるケース」が44.0%となっている。「その他」(11.3%)では、ハラスメントに関する内容が最も多い。

【図表 198】 過去1年間で、支援困難と感じたケース(前回比較)

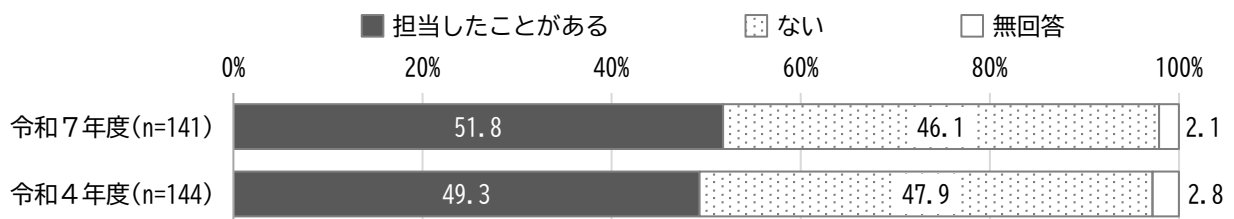


※令和4年度調査の選択肢は「障害施策との併用で複雑な対応が必要なケース」となっている。

問 11 あなたは、過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当したことがありますか。(単数回答)

「担当したことがある」が51.8%、「ない」が46.1%となっている。

【図表 199】 過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当したことの有無(前回比較)

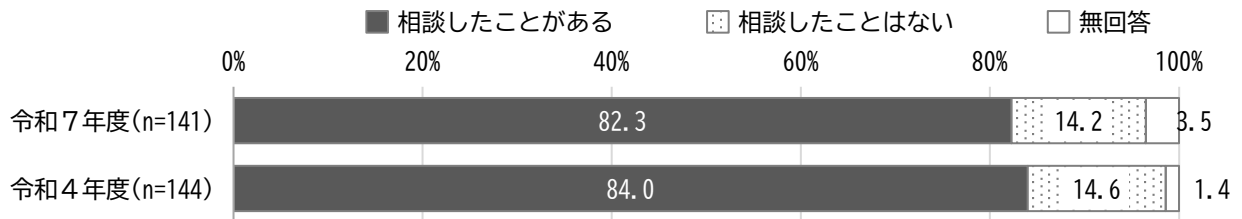


4. 高齢者総合相談センターのケアマネジャーへの支援について

問 12 過去1年間で、あなたは、利用者に関して高齢者総合相談センターへ相談したことがありますか。(単数回答)

「相談したことがある」が82.3%、「相談したことはない」が14.2%となっている。

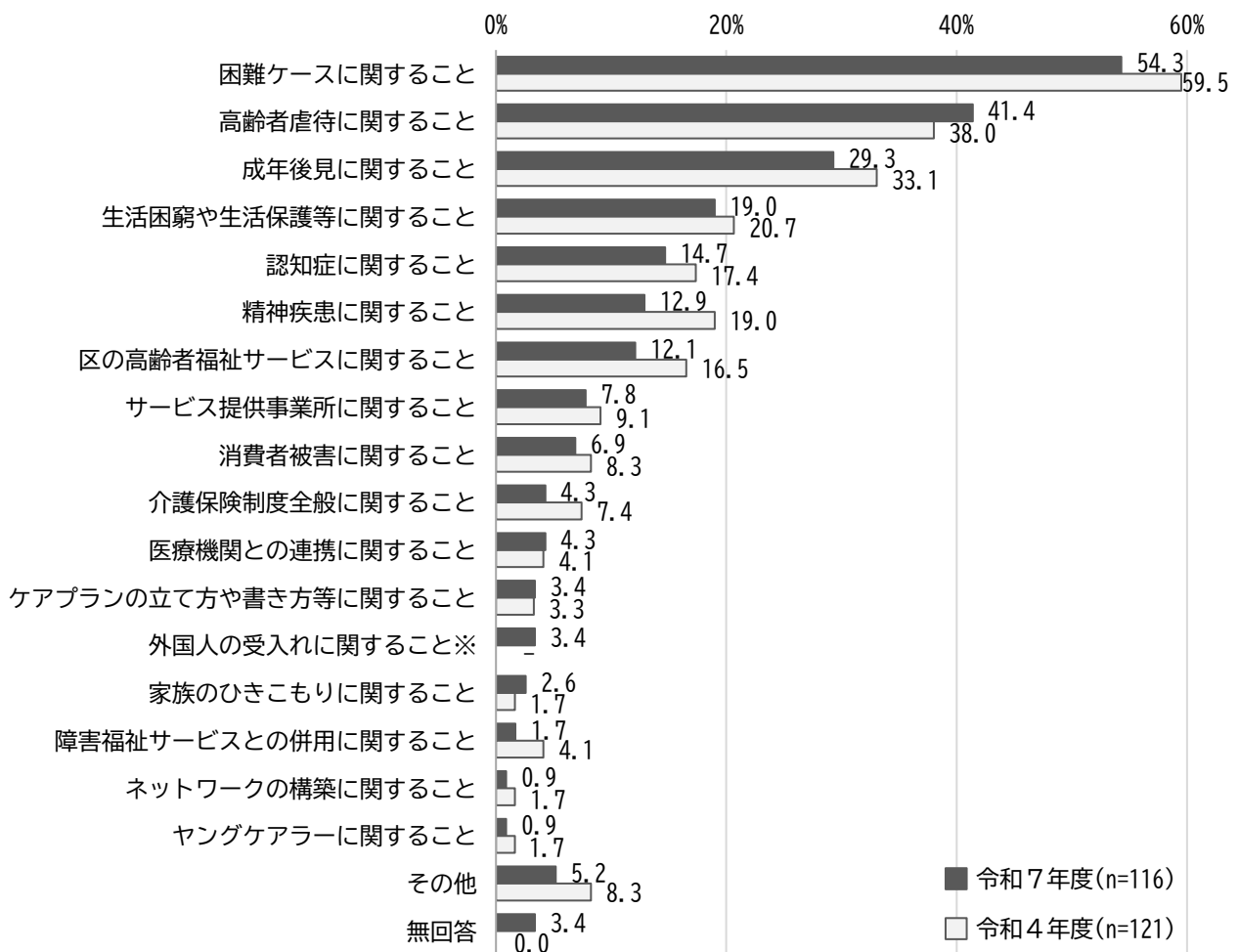
【図表 200】 過去1年間の高齢者総合相談センターの相談状況〈前回比較〉



【問 12 で「相談したことがある」と回答した方】
問 12-1 相談した分野は、次のうちどれですか。(複数回答)

「困難ケースに関すること」が54.3%で最も多く、次いで、「高齢者虐待に関すること」が41.4%、「成年後見に関すること」が29.3%となっている。

【図表 201】 高齢者総合相談センターに相談した分野〈前回比較〉



※令和4年度調査では、選択肢「外国人の受入れに関すること」はない。

【問 12 で「相談したことがある」と回答した方】
 問 12-2 高齢者総合相談センターへ相談した際の全般的な評価は、次のうちどれですか。(単数回答)

「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた“思う”は、『ア. すぐに対応してくれた』が 81.1%で最も多く、次いで『ウ. 利用者の支援や対応について確認できた』が 75.9%、『イ. 問題解決への方向性を確認できた』が 75.0%となっている。

【図表 202】 高齢者総合相談センターに対する評価

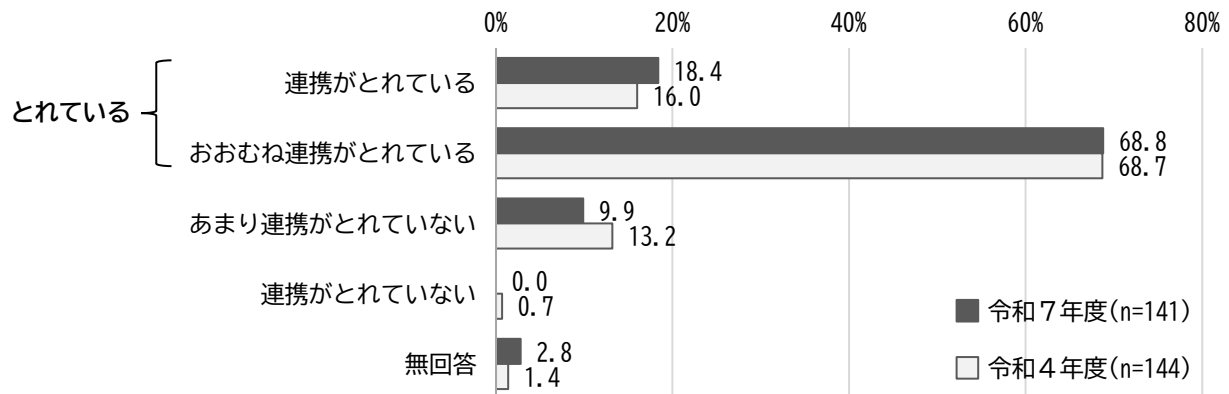
評価項目	n (回答数)	思う						(%)	
		そう思う	まあ そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	わから ない	無回答	(R7) 思う	(R4) 思う
ア. すぐに対応してくれた	116	39.7	41.4	11.2	5.2	0.9	1.7	81.1	83.5
イ. 問題解決への方向性を確認できた	116	24.1	50.9	11.2	11.2	0.9	1.7	75.0	64.5
ウ. 利用者の支援や対応について確認 できた	116	27.6	48.3	15.5	6.0	0.9	1.7	75.9	67.7
エ. 新たな知識や情報を得ることが できた	116	22.4	35.3	27.6	11.2	0.9	2.6	57.7	57.0
オ. 利用者本人や家族との調整がとれ た	116	22.4	37.1	24.1	8.6	5.2	2.6	59.5	59.5
カ. 関係機関との連携がとれた	116	25.9	40.5	17.2	9.5	2.6	4.3	66.4	62.8
キ. 問題の解決に役立った	116	19.8	44.8	18.1	11.2	3.4	2.6	64.6	63.6

5. 各種連携の状況について

問13 あなたはケアマネジャーとして、主治医（かかりつけ診療所・クリニック）との連携はとれていますか。（単数回答）

「おおむね連携がとれている」が68.8%で最も多く、「連携がとれている」（18.4%）と合わせた“とれている”は87.2%となっている。

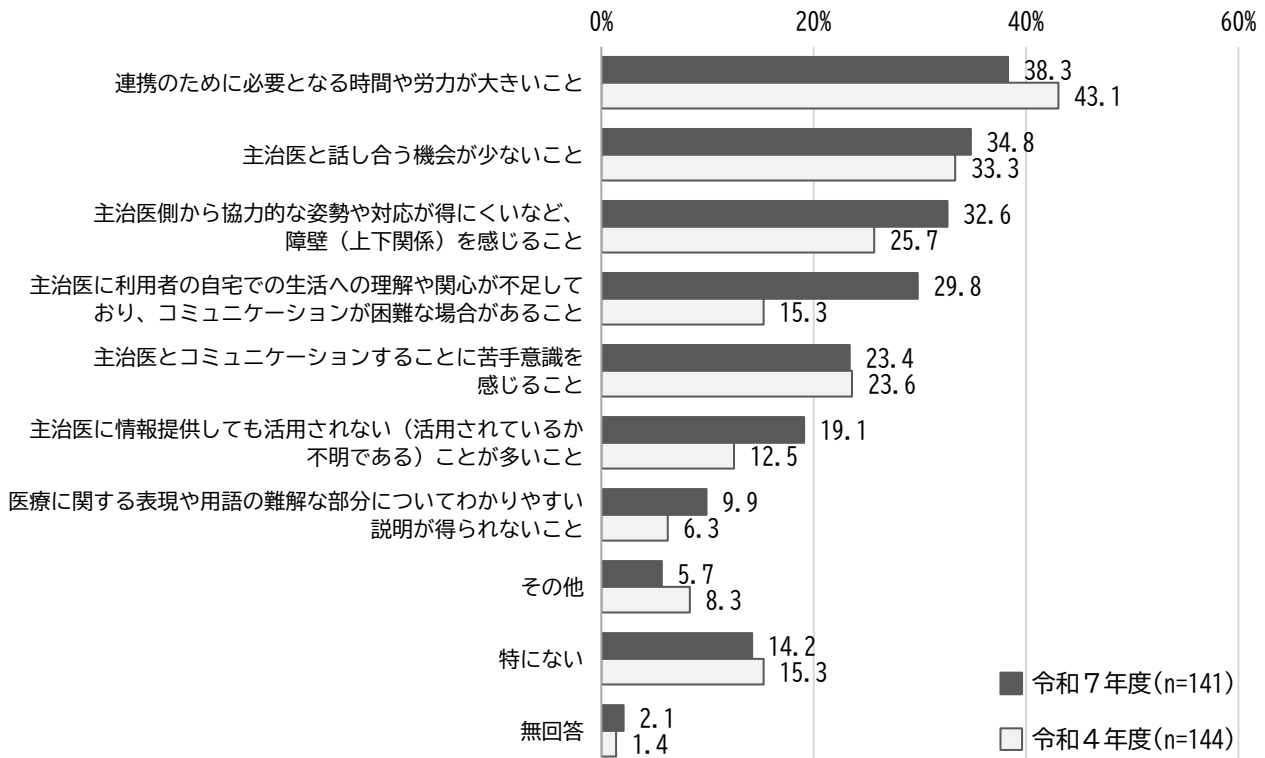
【図表 203】主治医との連携状況〈前回比較〉



問14 あなた自身の、主治医（かかりつけ診療所・クリニック）との連携における課題は何だと思いますか。（複数回答）

「連携のために必要となる時間や労力が大きいこと」が38.3%で最も多く、次いで、「主治医と話し合う機会が少ないこと」が34.8%、「主治医側から協力的な姿勢や対応が得にくいなど、障壁（上下関係）を感じる」が32.6%となっている。

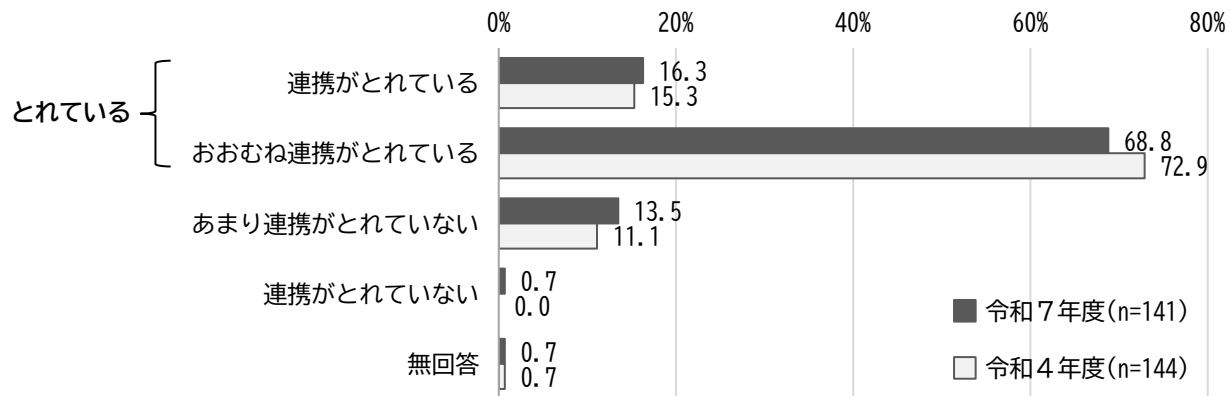
【図表 204】主治医との連携における課題〈前回比較〉



問 15 あなたはケアマネジャーとして、病院（医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）との連携はとれていますか。（単数回答）

「おおむね連携がとれている」が 68.8%で最も多く、「連携がとれている」（16.3%）と合わせた“とれている”は 85.1%となっている。

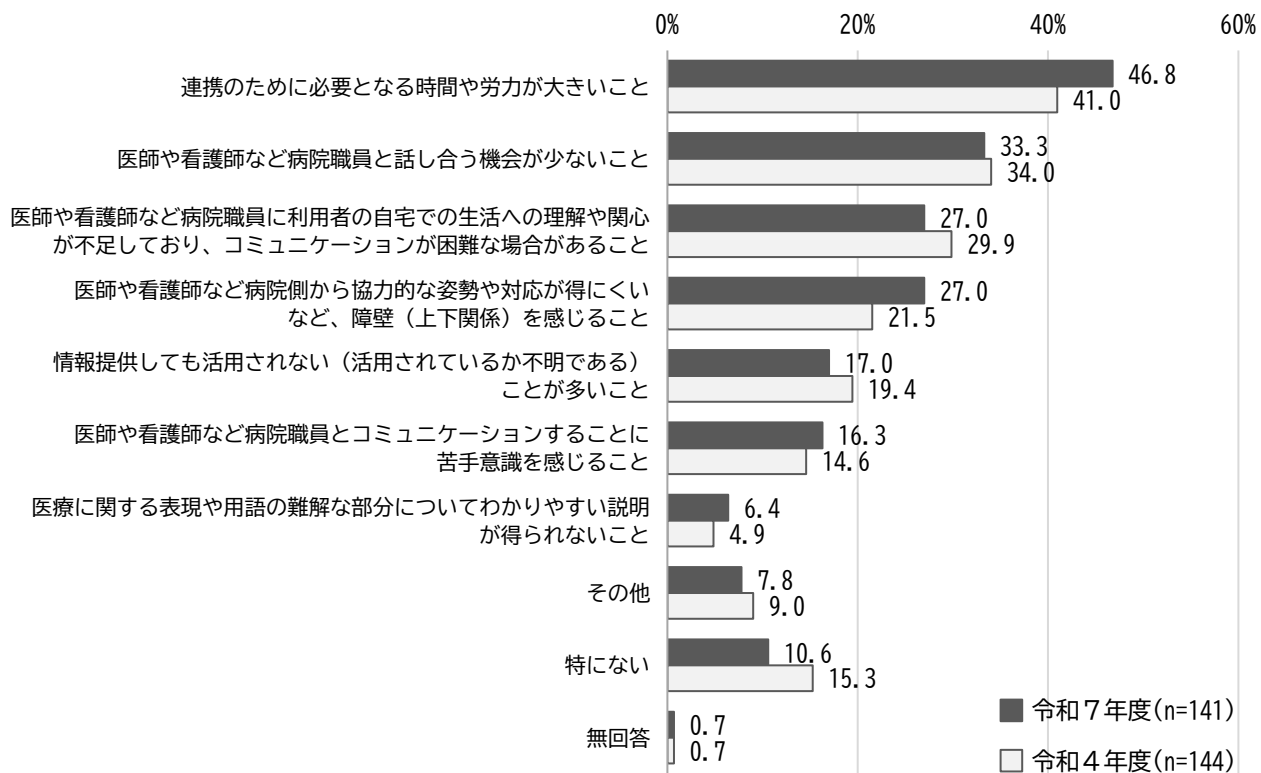
【図表 205】 病院との連携状況（前回比較）



問 16 あなた自身の、病院（医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）との連携における課題は何だと思いますか。（複数回答）

「連携のために必要となる時間や労力が大きいこと」が 46.8%で最も多く、次いで、「医師や看護師など病院職員と話し合う機会が少ないこと」が 33.3%、「医師や看護師など病院側から協力的な姿勢や対応が得にくいなど、障壁（上下関係）を感じる事」及び「医師や看護師など病院側から協力的な姿勢や対応が得にくいなど、障壁（上下関係）を感じる事」が 27.0%となっている。

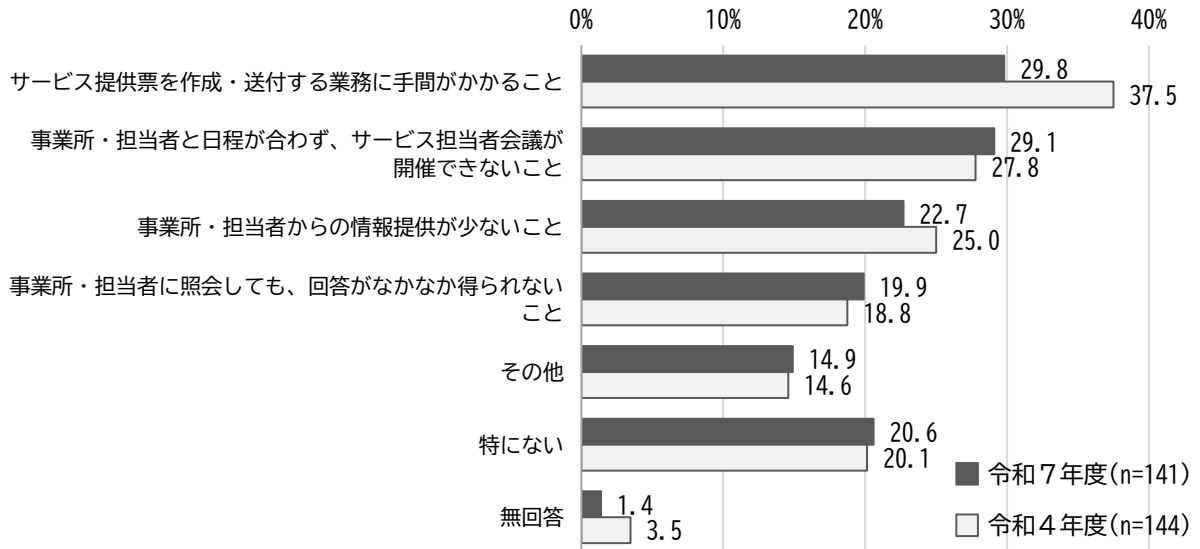
【図表 206】 病院との連携における課題（前回比較）



問 17 あなた自身の、介護保険サービス事業所との連携における課題は何だと思いますか。
(複数回答)

「サービス提供票を作成・送付する業務に手間がかかること」が 29.8%で最も多く、次いで、「事業所・担当者と日程が合わず、サービス担当者会議が開催できないこと」が 29.1%、「事業所・担当者からの情報提供が少ないこと」が 22.7%となっている。

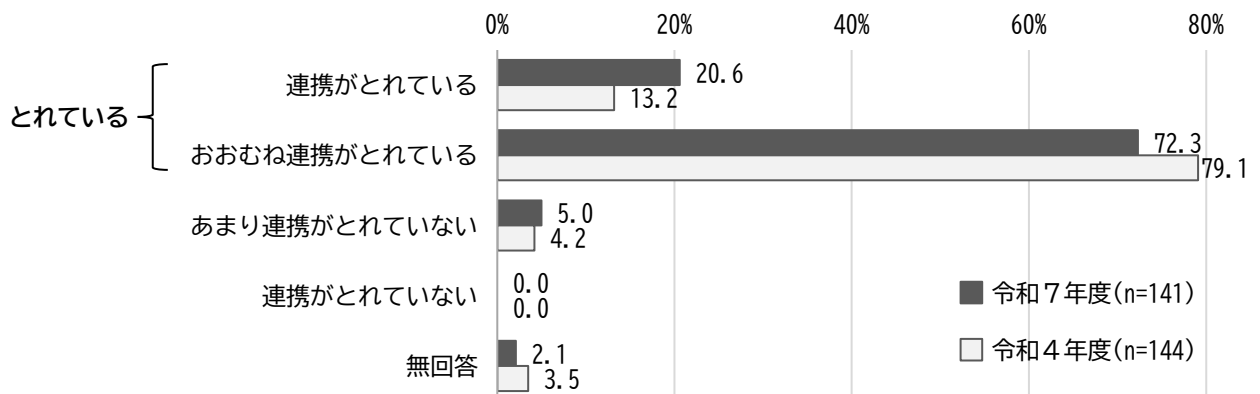
【図表 207】 介護保険サービス事業所との連携における課題〈前回比較〉



問 18 あなたからみて、新宿区内の在宅医療・介護連携の状況について、どのように思いますか。
(単数回答)

「おおむね連携がとれている」が 72.3%で最も多く、「連携がとれている」(20.6%)と合わせた“とれている”は 92.9%となっている。

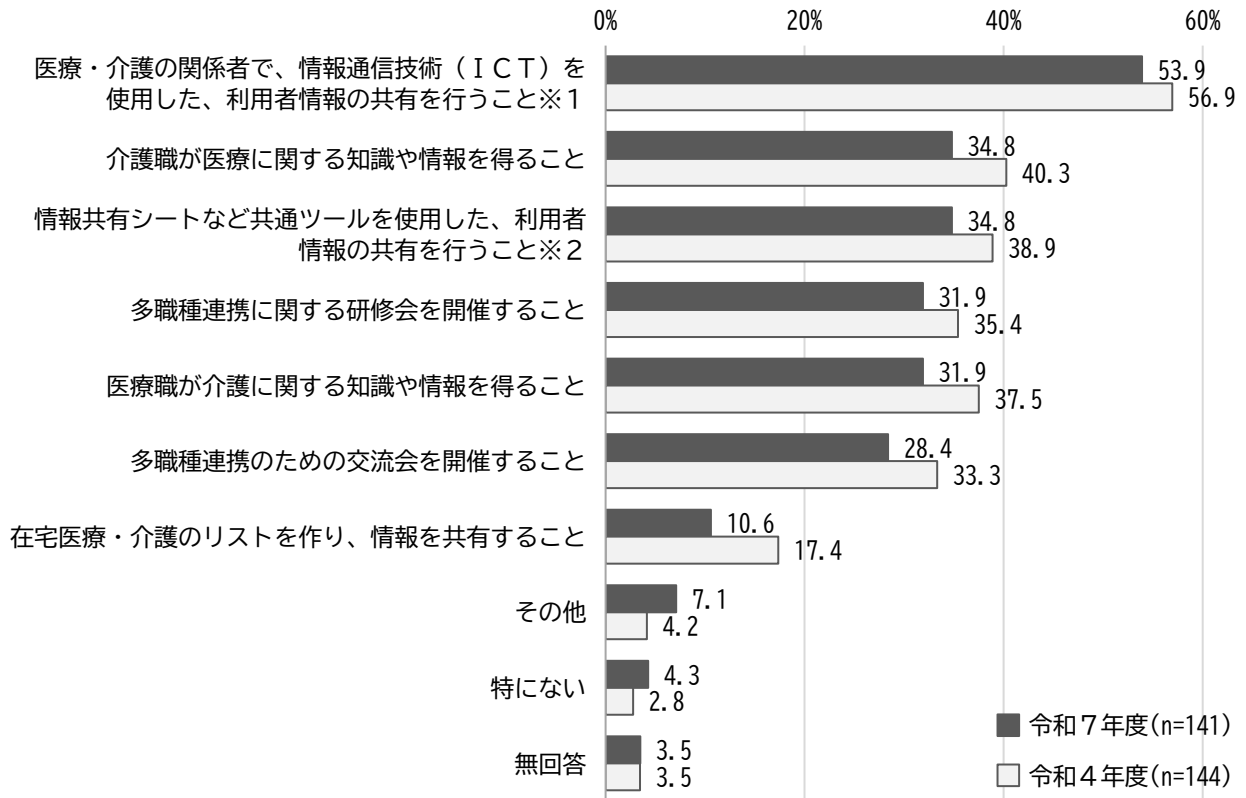
【図表 208】 新宿区内の在宅医療・介護連携の状況〈前回比較〉



問 19 あなたからみて、新宿区内の在宅医療・介護連携を推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

「医療・介護の関係者で、情報通信技術（ICT）を使用した、利用者情報の共有を行うこと」が53.9%で最も多く、次いで、「介護職が医療に関する知識や情報を得ること」及び「情報共有シートなど共通ツールを使用した、利用者情報の共有を行うこと」が同率で34.8%となっている。

【図表 209】在宅医療・介護連携を推進するために必要なこと〈前回比較〉



※1 令和4年度調査の選択肢は「医療・介護の関係者で、情報通信技術（ICT）を使用した、患者情報の共有を行うこと」となっている。

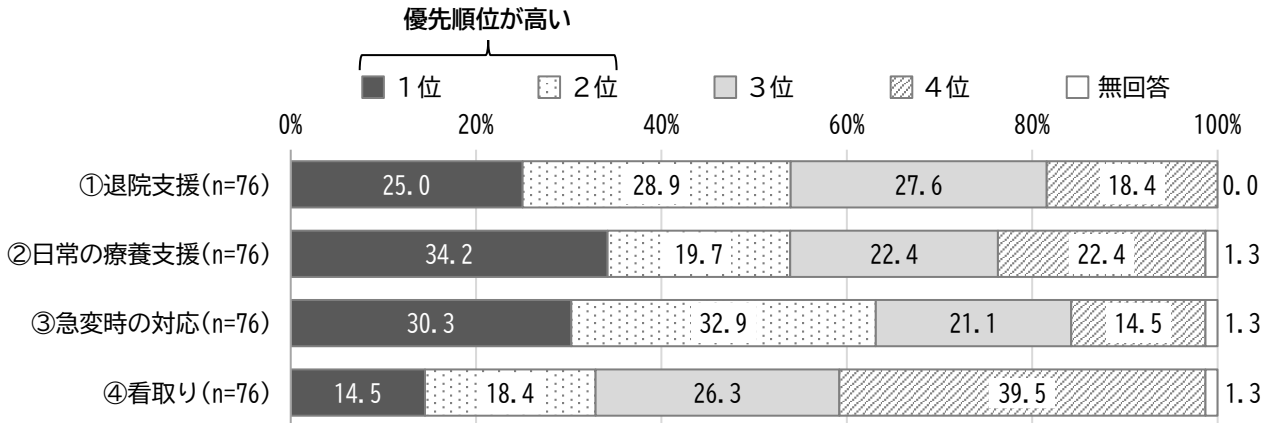
※2 令和4年度調査の選択肢は「情報共有シートなど共通ツールを使用した、患者情報の共有を行うこと」となっている。

【問 19 で「医療・介護の関係者で、情報通信技術（ICT）を使用した、利用者情報の共有を行うこと」と回答した方】

問 19-1 利用者情報の共有を行いたいと思うのは、どのような場面ですか。（単数回答）

「1位」と「2位」を合わせた“優先順位が高い”は『③急変時の対応』が 63.2%と最も多く、『①退院支援』及び『②日常の療養支援』が同率で 53.9%となっている。

【図表 210】利用者情報の共有を行いたい場面



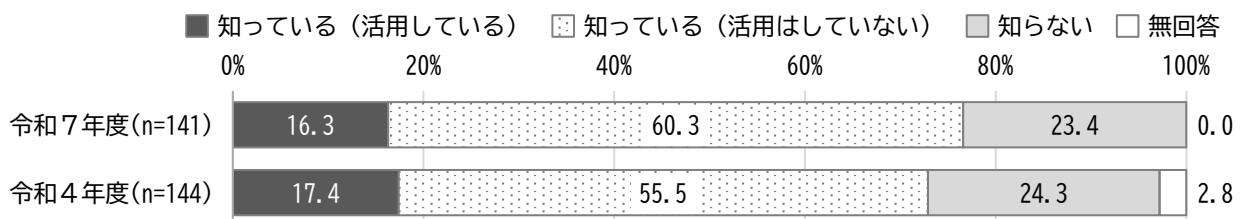
6. 在宅医療への対応について

問 20 あなたは、区の「在宅医療相談窓口」や「がん療養相談窓口」で相談を受けられるということを知っていますか。（単数回答）

（1）在宅医療相談窓口について

「知っている（活用はしていない）」が 60.3%で最も多く、次いで「知らない」が 23.4%、「知っている（活用している）」が 16.3%となっている。

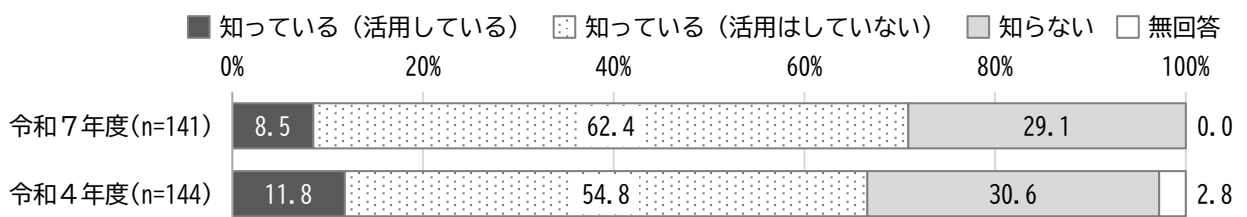
【図表 211】在宅医療相談窓口の活用状況〈前回比較〉



（2）がん療養相談窓口について

「知っている（活用はしていない）」が 62.4%で最も多く、次いで「知らない」が 29.1%、「知っている（活用している）」が 8.5%となっている。

【図表 212】がん療養相談窓口の活用状況〈前回比較〉



7. ケアプランへの組み込みについて

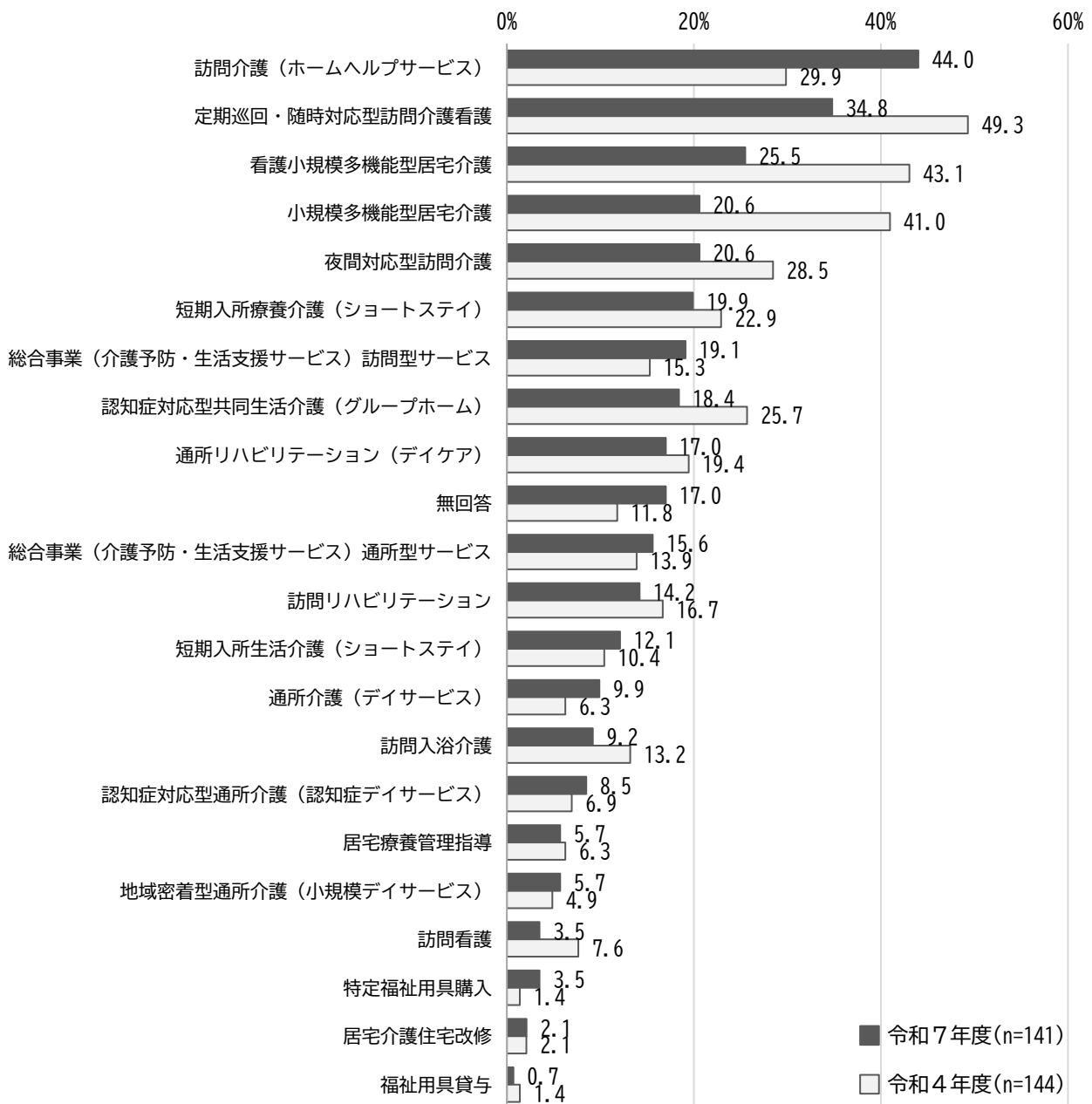
問 21 あなたは、ケアプランの作成にあたって、(ア) 組み込みにくいと思う介護保険のサービスはありますか。ある場合は、(イ) その理由をお答えください。(複数回答)

組み込みにくいと思う介護保険サービスについては、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が44.0%で最も多く、次いで、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が34.8%、「看護小規模多機能型居宅介護」が25.5%となっている。

組み込みにくいと思う理由については、回答者が多かったサービス順にみると、『訪問介護』の88.7%と『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』の32.7%で「サービスが不足している」となっている。

(ア) 組み込みにくいと思う介護保険サービス

【図表 213】 ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思うサービス〈前回比較〉



(イ) その理由

【図表 214】ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思う理由

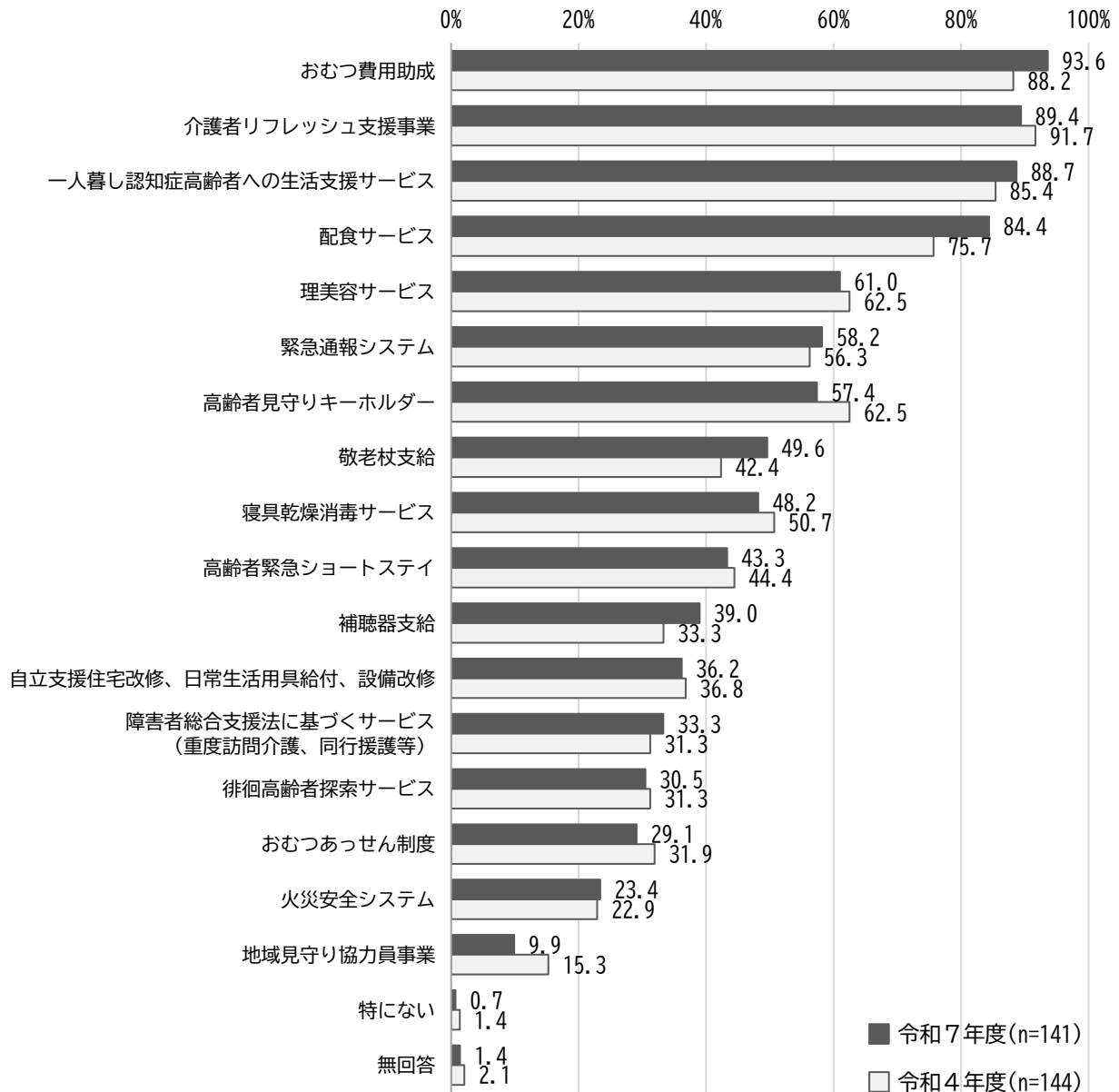
(%)

サービス名	n (回答数)	サービスが 不足して いる	サービス内 容に関する 自身の知識 が不足して いる	今まで利用 していたサ ービス事業 所との連携 が困難に なる	利用者やそ の家族等が 望まない	費用面	その他	無回答
訪問介護（ホームヘルプサービス）	62	88.7	4.8	8.1	4.8	1.6	6.5	3.2
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	49	32.7	18.4	26.5	10.2	22.4	12.2	8.2
看護小規模多機能型居宅介護	36	36.1	38.9	38.9	13.9	13.9	5.6	2.8
夜間対応型訪問介護	29	44.8	24.1	3.4	10.3	27.6	6.9	6.9
小規模多機能型居宅介護	29	37.9	34.5	44.8	13.8	13.8	6.9	3.4
短期入所療養介護（ショートステイ）	28	50.0	7.1	7.1	14.3	17.9	28.6	0.0
総合事業（介護予防・生活支援サービス） 訪問型サービス	27	59.3	33.3	11.1	3.7	3.7	0.0	3.7
認知症対応型共同生活介護 （グループホーム）	26	38.5	19.2	30.8	11.5	38.5	0.0	3.8
通所リハビリテーション（デイケア）	24	62.5	4.2	4.2	16.7	16.7	37.5	0.0
総合事業（介護予防・生活支援サービス） 通所型サービス	22	50.0	36.4	4.5	13.6	4.5	0.0	4.5
訪問リハビリテーション	20	40.0	30.0	0.0	5.0	15.0	40.0	0.0
短期入所生活介護（ショートステイ）	17	64.7	0.0	0.0	11.8	11.8	17.6	5.9
通所介護（デイサービス）	14	85.7	0.0	7.1	7.1	0.0	21.4	0.0
訪問入浴介護	13	76.9	0.0	7.7	30.8	7.7	0.0	0.0
認知症対応型通所介護（認知症デイサービス）	12	33.3	16.7	0.0	41.7	25.0	16.7	0.0
居宅療養管理指導	8	0.0	62.5	12.5	37.5	25.0	50.0	0.0
地域密着型通所介護（小規模デイサービス）	8	87.5	0.0	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0
訪問看護	5	0.0	0.0	0.0	60.0	60.0	0.0	0.0
特定福祉用具購入	5	0.0	60.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0
居宅介護住宅改修	3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
福祉用具貸与	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

問 22 区などが提供している介護保険外の高齢者福祉サービス等で、あなたがケアプランの作成にあたり、検討するものは、次のうちどれですか。(複数回答)

「おむつ費用助成」が 93.6%で最も多く、次いで、「介護者リフレッシュ支援事業」が 89.4%、「一人暮らし認知症高齢者への生活支援サービス」が 88.7%となっている。

【図表 215】 ケアプラン作成時に検討する介護保険以外の高齢者福祉サービス〈前回比較〉

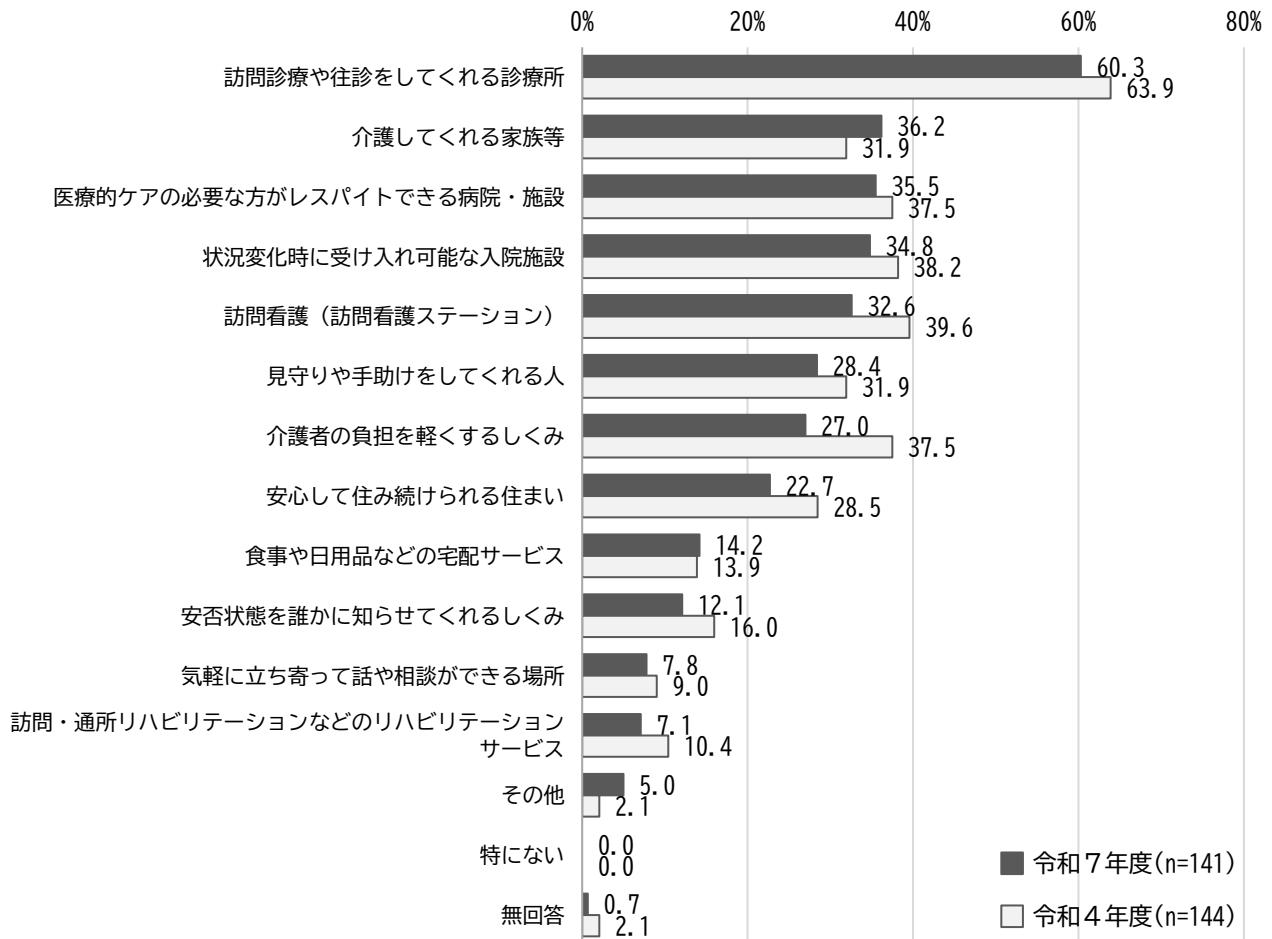


8. 在宅高齢者に必要な支援について

問 23 介護や医療が必要になっても、高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うものは何ですか。(複数回答)

「訪問診療や往診をしてくれる診療所」が 60.3%で最も多く、次いで、「介護してくれる家族等」が 36.2%、「医療的ケアの必要な方がレスパイトできる病院・施設」が 35.5%となっている。

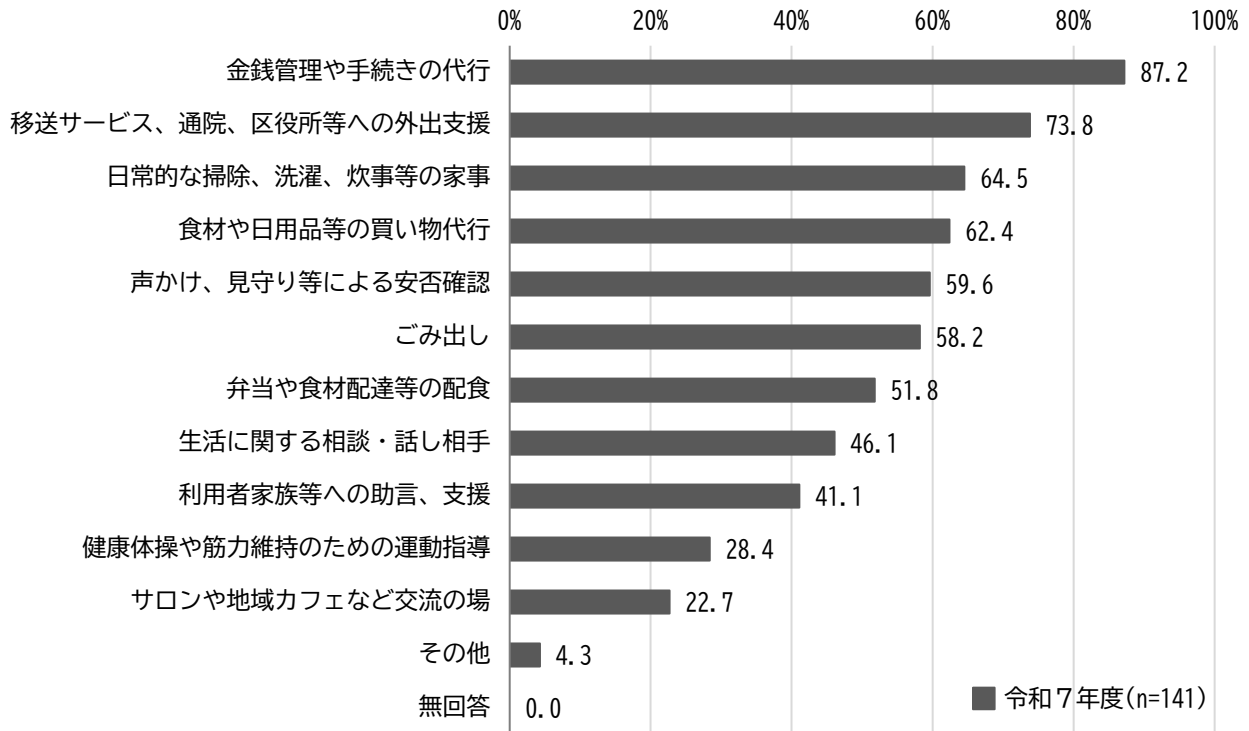
【図表 216】 高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うもの〈前回比較〉



問 24 要介護者等（特に、一人暮らしの高齢者）が、在宅で暮らし続けるために、今後必要なサービスとして、どのようなものが考えられますか。（複数回答）

「金銭管理や手続きの代行」が 87.2%で最も多く、次いで、「移送サービス、通院、区役所等への外出支援」が 73.8%、「日常的な掃除、洗濯、炊事等の家事」が 64.5%となっている。

【図表 217】 要介護者等が在宅で暮らし続けるために、今後必要なサービス

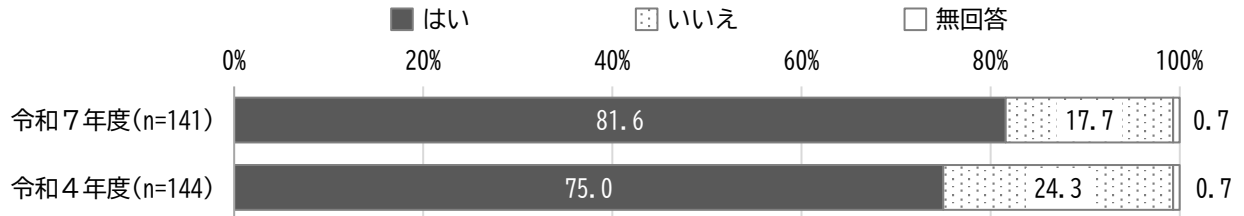


9. 認知症について

問 25 あなたには、認知症に関して相談のできる機関がありますか。(単数回答)

「はい」が81.6%、「いいえ」が17.7%となっている。

【図表 218】 認知症に関して相談のできる機関の有無〈前回比較〉

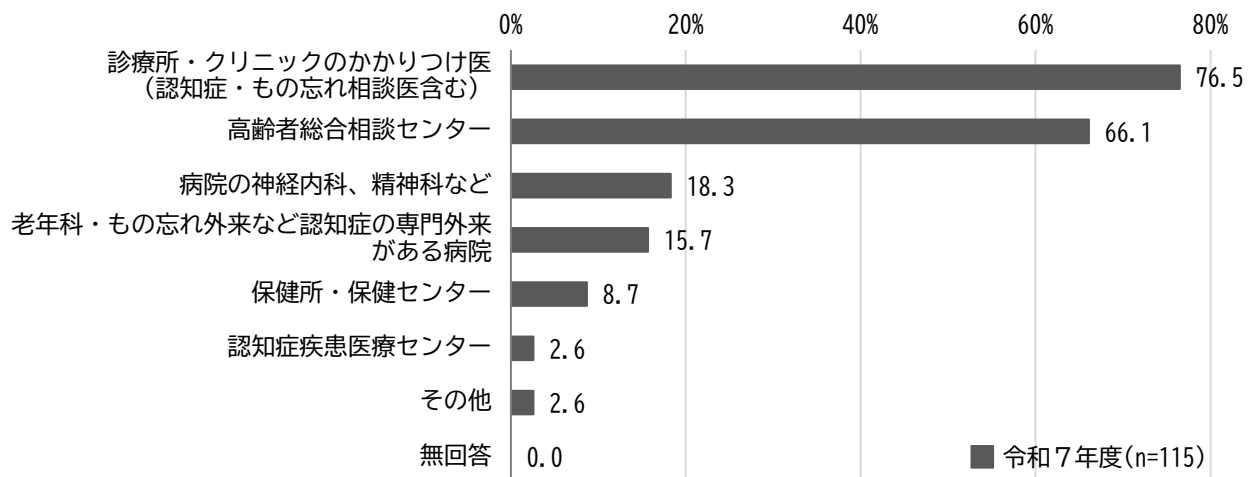


【問 25 で「はい」と回答した方】

問 25-1 どちらに相談していますか。(複数回答)

「診療所・クリニックのかかりつけ医（認知症・もの忘れ相談医含む）」が76.5%で最も多く、次いで、「高齢者総合相談センター」が66.1%、「病院の神経内科、精神科など」が18.3%となっている。

【図表 219】 認知症に関する相談先

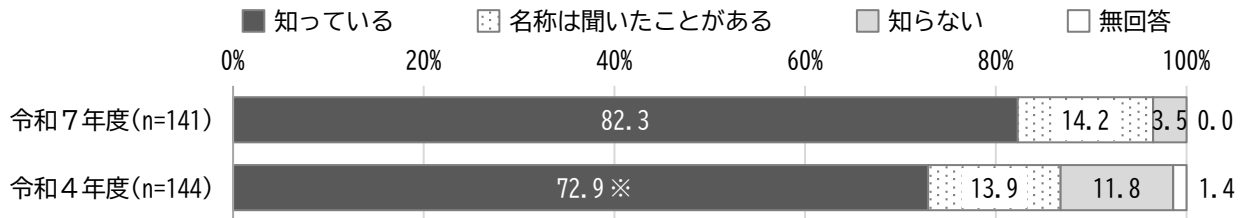


10. ACP（人生会議）について

問 26（1） あなたは、ACP（人生会議）について知っていますか。（単数回答）

「知っている」が82.3%で最も多く、次いで、「名称は聞いたことがある」が14.2%、「知らない」が3.5%となっている。

【図表 220】 ACP（人生会議）の認知度（前回比較）

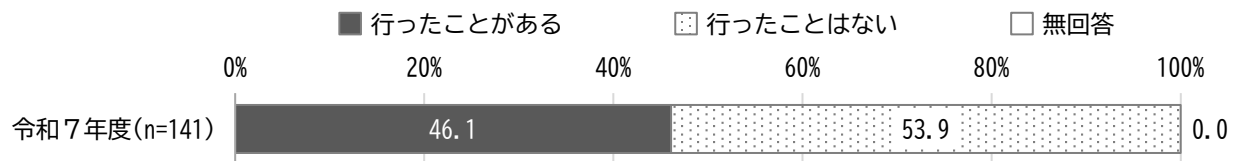


※令和4年度調査については、選択肢「知っている（関わったことがある）」と「知っている（関わったことはない）」を合わせて「知っている」としている。

問 26（2） あなたは、ACP（人生会議）を行ったことがありますか。（単数回答）

「行ったことがある」が46.1%、「行ったことはない」が53.9%となっている。

【図表 221】 ACP（人生会議）を行ったことの有無

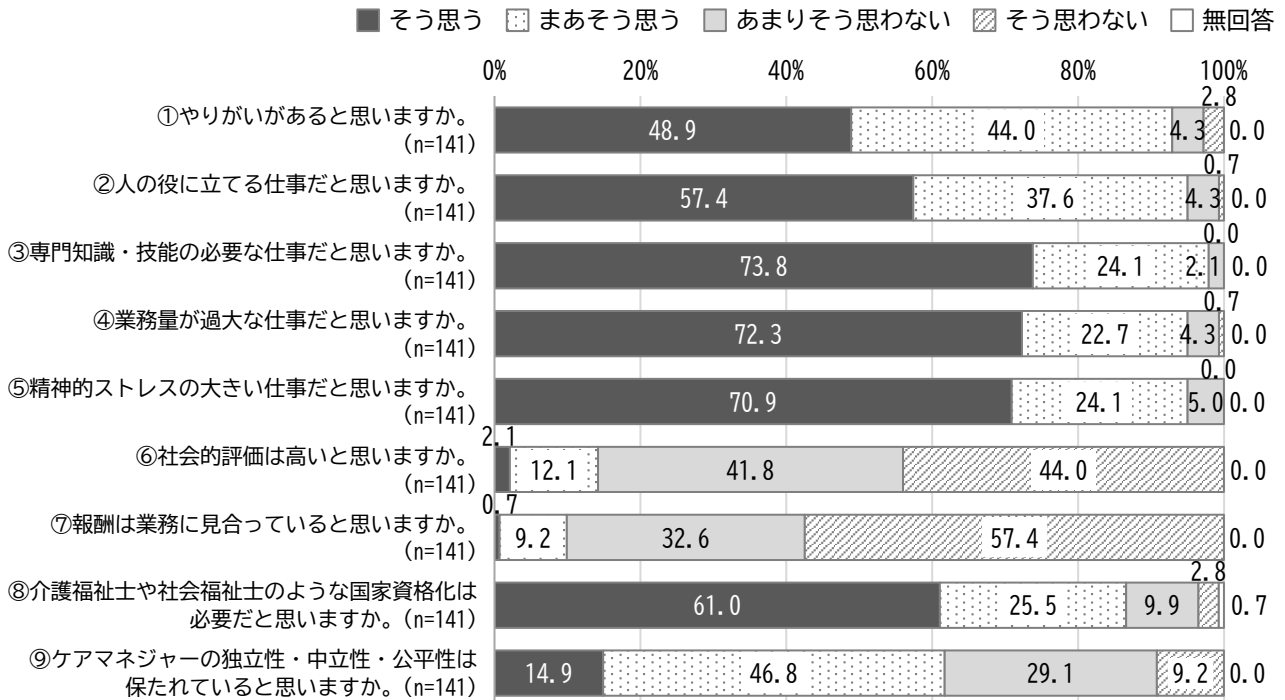


11. ケアマネジャーの仕事について

問 27 あなたは、ケアマネジャーの仕事について、どのようにお考えですか。(単数回答)

「そう思う」との回答が多かったものは、『③専門知識・技能の必要な仕事だと思いますか』が73.8%、次いで『④業務量が過大な仕事だと思いますか』が72.3%、『⑤精神的ストレスの大きい仕事だと思いますか』が70.9%となっている。一方、「そう思わない」との回答が多かったものは、『⑦報酬は業務に見合っていると思いますか』が57.4%、『⑥社会的評価は高いと思いますか』が44.0%となっている。

【図表 222】 ケアマネジャーの仕事について

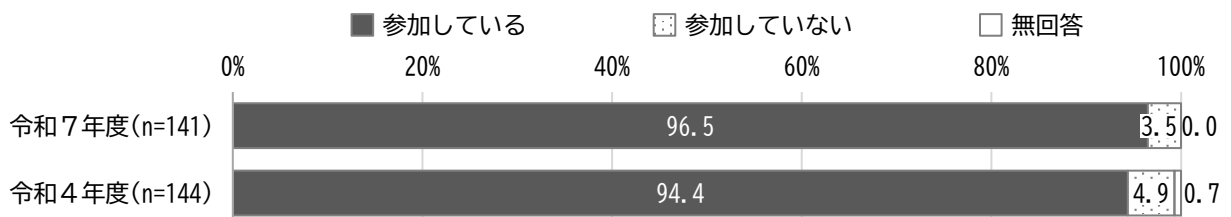


12. スキルアップについて

問 28 あなたは、研修に参加していますか。(単数回答)

「参加している」が96.5%、「参加していない」が3.5%となっている。

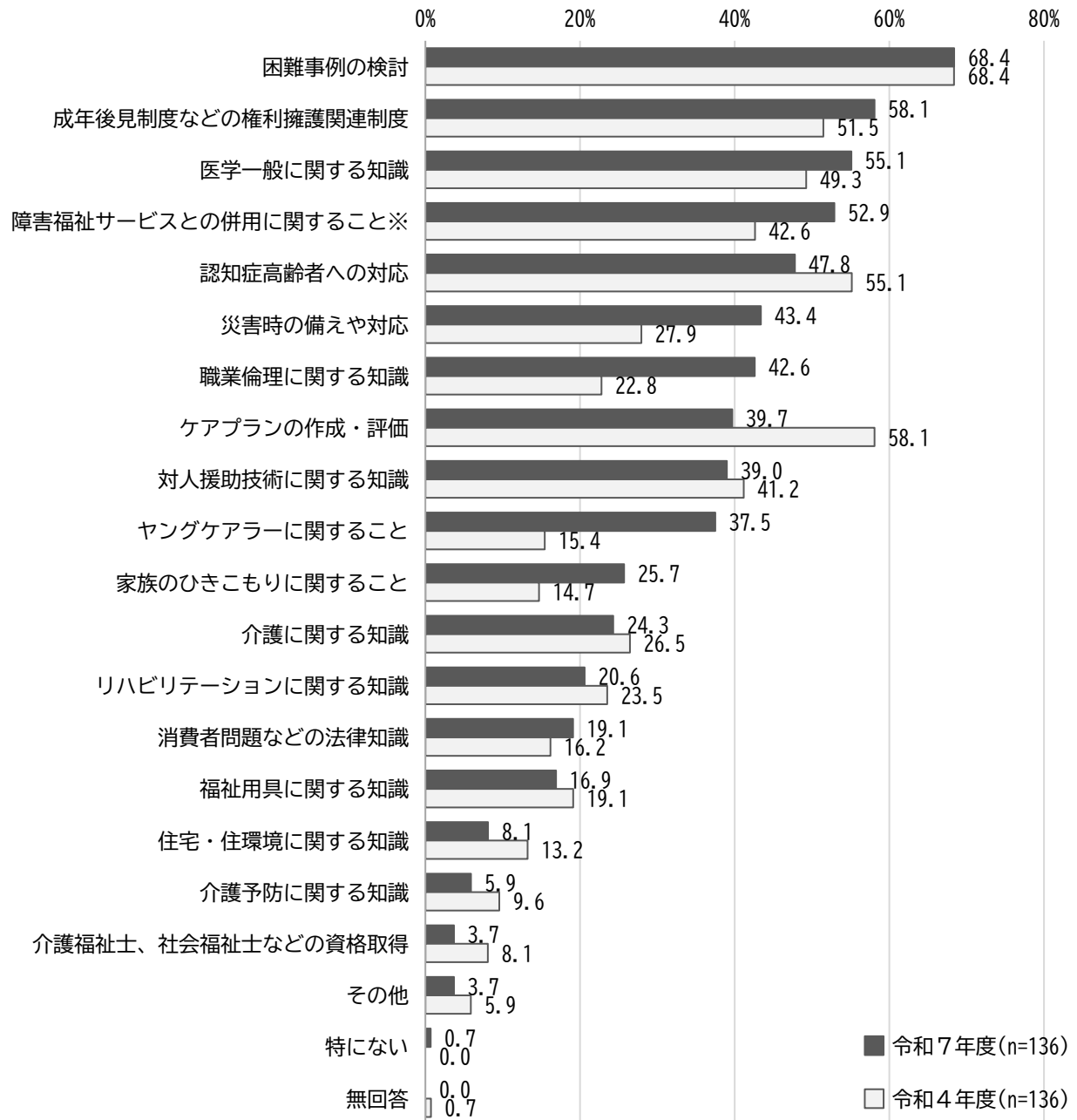
【図表 223】 研修への参加状況〈前回比較〉



【問 28 で「参加している」と回答した方】
 問 28-1 どのような研修内容が、あなたのスキルアップにつながりましたか。(複数回答)

「困難事例の検討」が 68.4%で最も多く、次いで、「成年後見制度などの権利擁護関連制度」が 58.1%、「医学一般に関する知識」が 55.1%となっている。

【図表 224】スキルアップにつながった研修内容〈前回比較〉



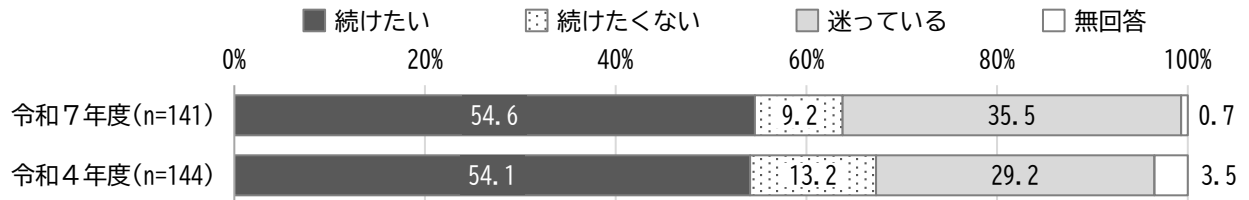
※令和4年度調査の選択肢は「障害施策との併用に関すること」となっている。

13. 今後の意向について

問 29 あなたは、これからもケアマネジャーを続けたいと思いますか。(単数回答)

「続けたい」が54.6%で最も多く、次いで、「迷っている」が35.5%、「続けたくない」が9.2%となっている。

【図表 225】ケアマネジャーの継続意向〈前回比較〉

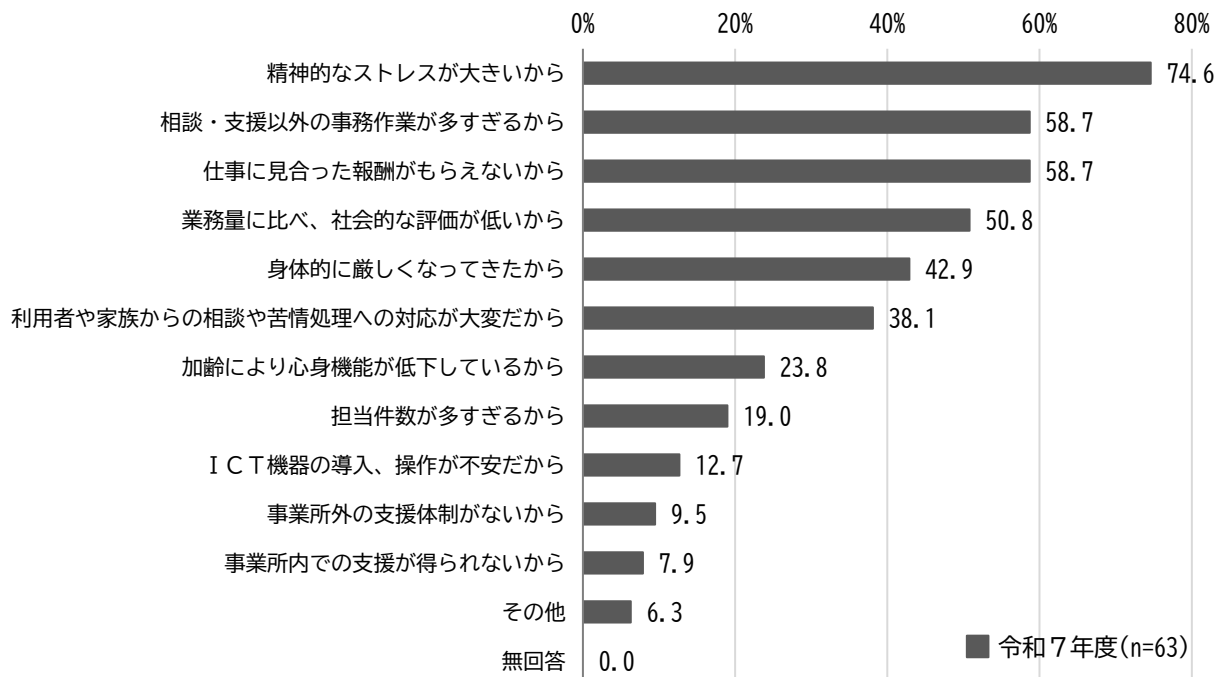


【問 29 で「続けたくない」または「迷っている」と回答した方】

問 29-1 ケアマネジャーを続けたくない（または迷っている）と思う理由は、次のうちどれですか。(複数回答)

「精神的なストレスが大きいから」が74.6%で最も多く、次いで、「相談・支援以外の事務作業が多すぎるから」が58.7%、「仕事に見合った報酬がもらえないから」が58.7%となっている。

【図表 226】ケアマネジャーの仕事が続けたくない（または迷っている）理由

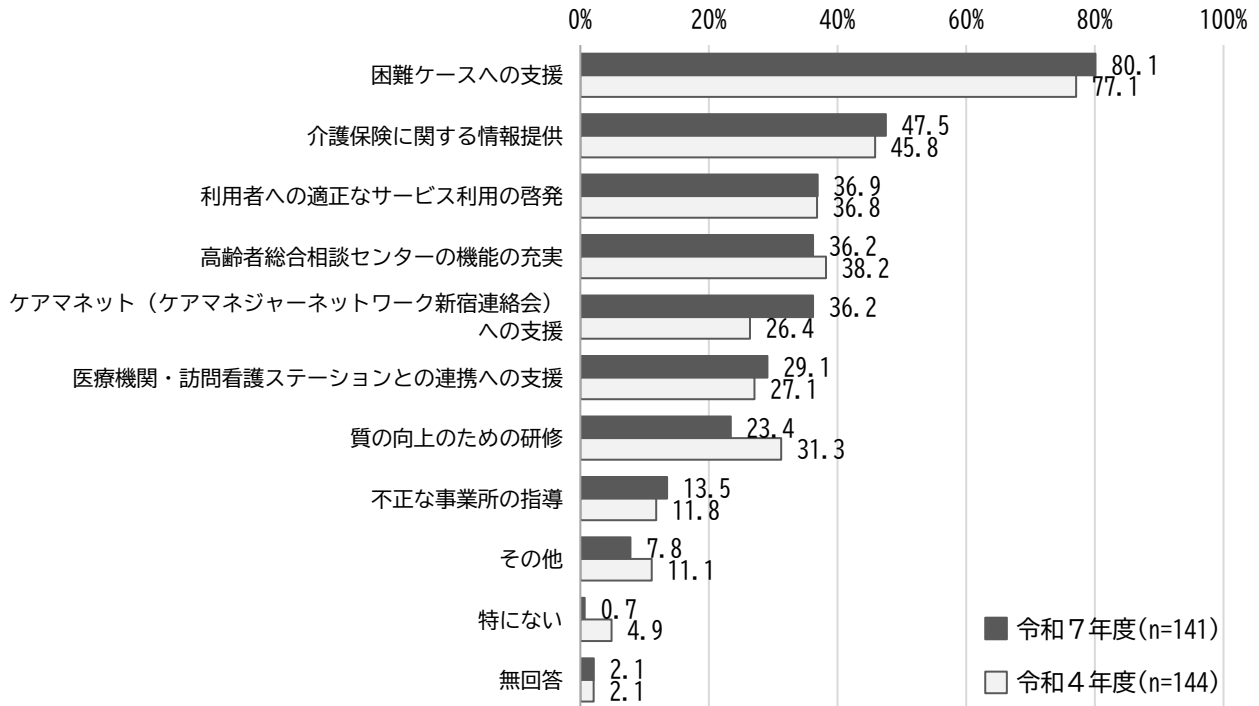


14. 新宿区への要望について

問 30 ケアマネジャーの立場からみて、保険者である区に対して、何を望みますか。(複数回答)

「困難ケースへの支援」が80.1%で最も多く、次いで、「介護保険に関する情報提供」が47.5%、「利用者への適正なサービス利用の啓発」が36.9%となっている。

【図表 227】 ケアマネジャーの立場から区に対して望むこと〈前回比較〉



問 31 ケアマネジャーの立場からみて、区の高齢者の支援状況をどうお考えですか。(単数回答)

「充実している」と「まあ充実している」を合わせた“充実している”は『ア. 健康づくりと介護予防・フレイル予防の推進による健康寿命の延伸』が 66.7%と最も多く、次いで『コ. 在宅療養支援体制の充実』が 61.0%、『ク. 介護保険サービスの提供と基盤整備』及び『ケ. 自立生活への支援（介護保険外サービス）』が同率で 60.2%となっている。一方「やや不足している」と「不足している」を合わせた“不足している”は『エ. 地域で支え合うしくみづくりの推進』が 39.0%で最も多く、次いで『オ. 介護者への支援』が 36.9%、『カ. 認知症高齢者への支援体制の充実』が 34.7%となっている。

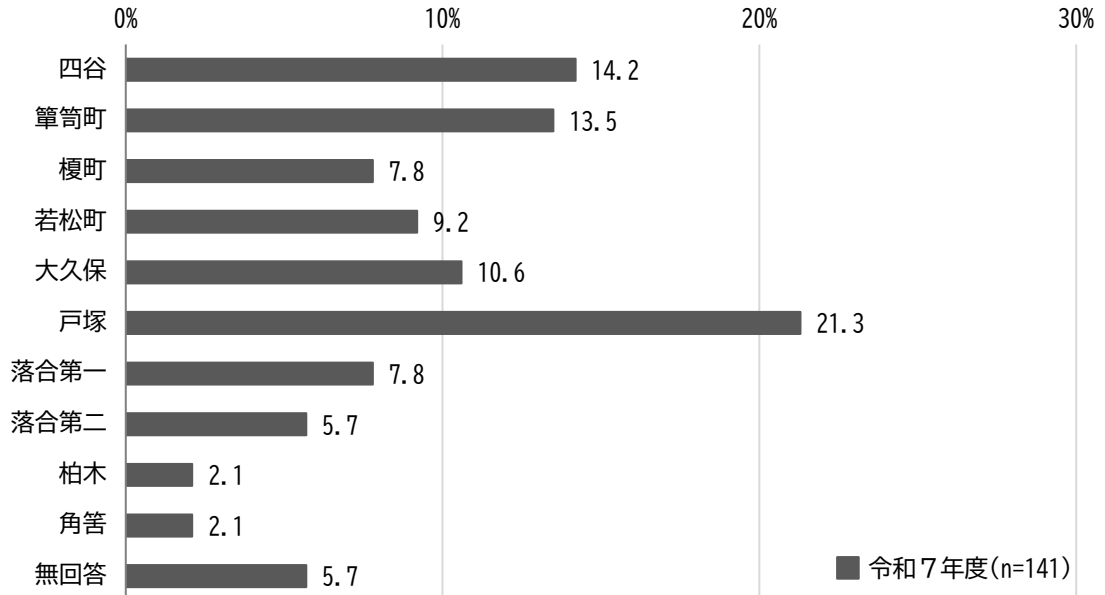
【図表 228】ケアマネジャーの立場からみた、区の高齢者支援の状況

区の高齢者支援	n (回答数)	充実している				不足している				(%)
		充実 している	まあ充実 している	やや不足 している	不足 している	わから ない	無回答	充実 している	不足 している	
ア. 健康づくりと介護予防・フレイル予防の推進による健康寿命の延伸	141	14.2	52.5	12.8	2.1	15.6	2.8	66.7	14.9	
イ. いきがいのある暮らしへの支援	141	9.9	42.6	19.1	5.0	20.6	2.8	52.5	24.1	
ウ. 就業等の支援	141	2.8	26.2	21.3	8.5	38.3	2.8	29.0	29.8	
エ. 地域で支え合うしくみづくりの推進	141	8.5	29.8	29.8	9.2	19.9	2.8	38.3	39.0	
オ. 介護者への支援	141	8.5	46.8	27.7	9.2	5.0	2.8	55.3	36.9	
カ. 認知症高齢者への支援体制の充実	141	4.3	46.8	24.1	10.6	11.3	2.8	51.1	34.7	
キ. 高齢者総合相談センターの機能の充実	141	8.5	48.9	22.7	11.3	5.7	2.8	57.4	34.0	
ク. 介護保険サービスの提供と基盤整備	141	10.6	49.6	22.0	6.4	8.5	2.8	60.2	28.4	
ケ. 自立生活への支援（介護保険外サービス）	141	19.1	41.1	20.6	9.2	7.1	2.8	60.2	29.8	
コ. 在宅療養支援体制の充実	141	14.9	46.1	16.3	5.0	13.5	4.3	61.0	21.3	
サ. 高齢者の権利擁護の推進（成年後見制度の利用促進を含む）	141	7.8	46.8	18.4	7.8	16.3	2.8	54.6	26.2	
シ. 安全で暮らしやすいまちづくりと住まいへの支援	141	5.0	39.0	22.0	10.6	20.6	2.8	44.0	32.6	

問 32 あなたが日頃、利用者や介護事業者等の関係機関と接している中で、関わりの一番深い特別出張所管轄をお選びください。(単数回答)

「戸塚」が21.3%で最も多く、次いで、「四谷」が14.2%、「簞笥町」が13.5%となっている。

【図表 229】最も関わりの深い特別出張所管轄



問 32-1 当該の管轄地域について、どのように思われますか。(単数回答)

管轄地域についての評価は、「充実している」と「まあ充実している」を合わせた“充実している”は『⑤在宅医療・介護の連絡体制』が77.3%で最も多く、次いで『①介護サービス基盤』が63.1%、『④相談支援のネットワーク』が57.4%となっている。

【図表 230】管轄地域についての評価

評価項目	n (回答数)	充実している				不足している		(%)	
		充実 している	まあ充実 している	やや不足 している	不足 している	わから ない	無回答	充実 している	不足 している
①介護サービス基盤	141	16.3	46.8	22.7	6.4	5.7	2.1	63.1	29.1
②地域活動・ボランティア活動	141	14.9	34.8	22.0	6.4	19.9	2.1	49.7	28.4
③見守り・地域のつながり	141	15.6	37.6	24.8	5.7	14.2	2.1	53.2	30.5
④相談支援のネットワーク	141	19.1	38.3	24.1	5.0	11.3	2.1	57.4	29.1
⑤在宅医療・介護の連絡体制	141	21.3	56.0	11.3	2.1	6.4	2.8	77.3	13.4

自由記述

問 33 在宅介護に関して気になっている点など、ご自由にお書きください。

在宅介護に関して気になっている点について、57 件の回答があった。10 の項目にまとめた各項目の主な意見は以下のとおり。(その他を除く)

在宅介護・サービスに関すること	12 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問介護事業所が減り、必要なサービスを提供できなくなっていること。 ・ 老々介護で共倒れしてしまうことを心配していること。 	
介護人材に関すること	11 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ ヘルパーを筆頭に介護人材の人員が減少していること。 ・ ケアマネジャーが減少していること。 	
ケアマネジャーの業務に関すること	9 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 困難事例の具体的な解決手段について。 ・ 金銭に余裕のない方に対する支援のあり方。 	
独居高齢者に関すること	8 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人暮らし認知症高齢者の生活支援サービスの利用について対象者の要件緩和を希望。 ・ 身寄りのない方の在宅介護や死後事務。 	
高齢者施策に関すること	7 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の住まいのことについて。 ・ 救急搬送される時に自身の情報を伝えるための緊急時医療情報キットを作ってほしい。 	
病院医療に関すること	3 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者家族の意向も踏まえた訪問診療の選び方の難しさについて。 	
情報提供相談に関すること	3 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保険外の様々なサービスが本人や家族に知られていないこと。 	
認知症に関すること	2 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症サポーター養成講座を開催し、その後どの様に活用されているか実情を知りたい。 	
高齢者向け施設について	1 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別養護老人ホームについて、最近ユニット個室が多くなり、個別性を重視しているが、部屋の料金が高くなってしまっており、困っている人が多い。 	
その他	1 件

4-2 ケアマネジャー 聞き取り調査

1. 実施概要

実施日時	令和7年10月16日(木) 18:40~20:20
場 所	新宿区立産業会館(BIZ新宿)
対 象	ケアマネジャーネットワーク新宿連絡会(ケアマネット新宿)に所属するケアマネジャー
参加人数	78人
目 的	質問紙調査の数値的な結果だけでは捉えにくい内容について、グループインタビューとして掘り下げて聞き取りを行うことで、現場の様々な声を区の施策に反映すること
テ ー マ	(1) 過去1年間で、支援困難と感じたケースについて (2) 高齢者総合相談センターへ相談した内容や高齢者総合相談センターとの連携について (3) ケアマネジャーの立場から、保険者である区に対して、望むことについて
内 容	上記3つのテーマについて、グループ形式での聞き取りと発表



2. 実施結果

テーマ(1) 過去1年間で、支援困難と感じたケースについて

認知症に関するケース

- 本人がキャッシュカードの暗証番号を忘れてしまい、生活費がなくなってしまう。
- 独居の利用者について、義理の子が自分のお金をねらっている、と本人が拒否するため、成年後見制度の利用ができない。

精神疾患や発達障害に関するケース

- 本人や家族に精神疾患があり、精神的に不安定のため対応が難しい。

経済的虐待に関するケース

- 生計を同一にしている同居家族からの経済的虐待が疑われる。

金銭管理に課題があるケース

- 生活費以外で多くのお金を使い、生活困窮に陥り、サービス利用料金を滞納してしまう。

療養環境、衛生環境の悪化に関するケース

- 生活保護を受給している利用者が酷暑で入院し、退院する際に、生活環境の整備についてケースワーカーや高齢者総合相談センターに相談したが、改善が困難だった。

介護保険サービスの受け入れ拒否や手続きが進まないケース

- 必要な支援について、本人に受け入れを拒否されてしまう。
- キーパーソンがいるが、サービスに関する手続きが進まない。

カスタマーハラスメントに関するケース

- 支払い能力があるにもかかわらず、サービス内容に対する不満等を理由に、費用を支払わない。
- 本人や家族からケアマネジャーや事業所に対しての暴言が多い。

ケアマネジャーのシャドーワークが多いケース

- 水道光熱水費の支払い等、生命に関わることでやむを得ずケアマネジャーによる対応が必要になる等、シャドーワークが多くある。
- 難病のある利用者の不定期受診について、通院同行の対応ができる事業所が見つからず、長時間の対応が必要となる。
- 生活保護を受給している身寄りのない利用者について、死後の対応が必要。

その他

- がん末期の利用者について、本人の病識が薄く、支援の受け入れが難しい。
- 外国人の利用者について、言葉が通じないためコミュニケーションが取れない。

テーマ（２）高齢者総合相談センターへ相談した内容や高齢者総合相談センターとの連携について**相談して良かったこと****困難ケースへの対応**

- 虐待ケースや金銭管理に課題のあるケース、ケアマネジャー交代を繰り返している利用者等の困難ケースについて、同行し対応してもらった。

関係機関との連携

- 介護老人保健施設から特別養護老人ホームへの入所について、相談に乗り一緒に対応してもらった。
- 地域ケア会議を開いてもらい、関係機関と情報共有することができた。

ケアマネジャーへの情報提供

- 地域の社会資源や予防対応の介護事業所などの有益な地域情報が得られた。
- 新人ケアマネジャーへ勉強の場を提供してもらった。

療養環境、衛生環境の悪化への対応

- 療養環境・衛生環境に悪化があるケースに対して、環境整備を一緒にできた。
- 猛暑の際に、電気が止まってしまっている利用者の安否確認等の対応ができた。

その他

- 訪問介護事業所と利用者の中で物損事故の損害賠償の話になった際に、高齢者総合相談センターより法テラスを案内してもらい、利用者も納得いくような形で話がまとまった。

改善してほしいことや課題**相談時の対応に関すること**

- 窓口に行って相談してもなかなか親身になってもらえなかった。

高齢者総合相談センター間での差異について

- 高齢者総合相談センター間で対応が違うことがあるため、対応を統一してほしい。

生活困窮への対応に関すること

- 生活困窮のケースで、ケアマネジャーの業務範囲外の業務が発生したときに相談したが、対応に時間を要した。

本人が支援を望んでいないケースへの対応

- 本人は支援を望んでいないが、要介護が出ているから何とか支援に繋がりたい、と高齢者総合相談センターから新規依頼され、対応に苦慮した。

その他

会議スペースの提供について

- ・高齢者総合相談センターのスペース等、利用者宅の近くで気軽に使える会議スペースがあるといいのではないか。

テーマ（3）ケアマネジャーの立場から、保険者である区に対して、望むことについて

申請等の手続きについて

- ・電子申請やペーパーレス化、業務負担軽減・効率化のためのICT化を推進してほしい。
- ・申請書の窓口への持参や認知症の利用者の書類の管理等が難しく、業務負担となっているため、改善してほしい。
- ・認定結果が出るのが遅れる場合があり、結果がわからないとプランも立てにくいいため、改善してほしい。
- ・主治医意見書の開示について、開庁時間内でも請求できない時間帯があるため、柔軟に対応してほしい。

区の窓口や相談等の支援体制について

- ・生活保護のケースワーカーが頻繁に変わるにより、相談対応の継続が困難となることや、担当者会議への参加について、配慮してほしい。

介護保険サービスについて

- ・デイサービスについて、医療依存度の高い方向けのものや入浴だけに対応するもの、若い利用者も利用したくなるアクティビティのあるもの等を整備してほしい。
- ・訪問介護や居宅介護支援等について、供給不足・人材不足のため利用者が利用できない状況があるため、区が補助金を出す等の対応をしてほしい。
- ・要支援の利用者について、訪問介護を引き受けてくれる事業所が少ないこと、居宅介護支援事業所の委託費が安すぎることを改善してほしい。

介護保険外サービスについて

- ・高齢者おむつ費用助成について、在庫管理や返品できるようなシステムにしてほしい。
- ・介護者リフレッシュ支援事業や一人暮らし認知症高齢者への生活支援サービス、介護予防サービスは受けていない介護サービス事業所があるため、改善してほしい。
- ・第2号被保険者も高齢者と同じく介護保険外サービスを利用できるようにしてほしい。
- ・配食サービスについて、複数のサービス事業所を選べるような仕組みにしてほしい。
- ・通院支援に特化した区のサービスがほしい。
- ・英語・中国語・韓国語以外の言語の外国人利用者が、各種案内がわかるような仕組みをつくってほしい。

介護者リフレッシュ支援事業について

- ・利用者がリフレッシュ券を紛失してしまうことも多いので、別の方法を検討してほしい。
- ・年24時間までの利用となっているが、時間数を増やしてほしい。
- ・自己負担額の支払いについて、コンビニエンスストアで支払うことができるようにしてほしい。

住まいの支援について

- ・高齢者の引っ越し、住まい探しが困難なため、改善する施策がほしい。

ケアマネジャーの処遇改善や各種手当について

- ・ケアマネジャーの処遇改善を検討してほしい。また区独自の評価を加えて実施してほしい。
- ・ケアマネジャーへ試験の費用補助や緊急時の通院同行の手当がほしい。

ケアマネジャーの業務負担について

- シェドワークが非常に増えていることを、区にも知ってもらい対策してほしい。
- サービス利用料の未払い等の対応が大変なので、事業所が負担なく利用料が受け取れる仕組みがほしい。
- ケアマネジャーが少ない状況もあるため、区からセルフプランについての認知に努めてほしい。

その他

- カスタマーハラスメント対策を、区として更に強く打ち出してほしい。
- 車椅子で入れるお店やトイレの場所等を記載した社会資源マップを作って、定期的に更新してほしい。
- 重要なメールについてはわかるようにタイトル等をつけてほしい。
- 身元保証サービス等の会社について、グレーな事業者も多くあるため、善し悪しが分かるような情報がほしい。

3. まとめ

今回のインタビューで、虐待が疑われるケースや支援を拒否する方への対応、金銭管理不十分による生活困窮、ケアマネジャーのシェドワークによる負担の増加等、厳しい現状と課題が共有された。

また、高齢者総合相談センターとの連携では、支援困難なケースへの同行訪問や地域資源の情報提供などにより効果的な連携の具体例の報告があった一方で、ケアマネジャーに対する窓口対応やセンター間での対応の差異等の改善すべき課題が挙げられた。

区への要望としては、各種手続きのICT化の推進、介護サービス事業所の供給不足・人材不足への対応、介護保険外サービスの拡充、カスタマー・ハラスメント対策など、利用者の利便性の向上及びケアマネジャーの負担軽減のための多岐にわたる要望が挙げられた。

なお、今回挙げられた課題や要望については、改善や検討をしていくと共に、今後も定期的な情報提供やケアマネジャーへの意見聴取を行い、引き続きケアマネジャー支援を実施していく。

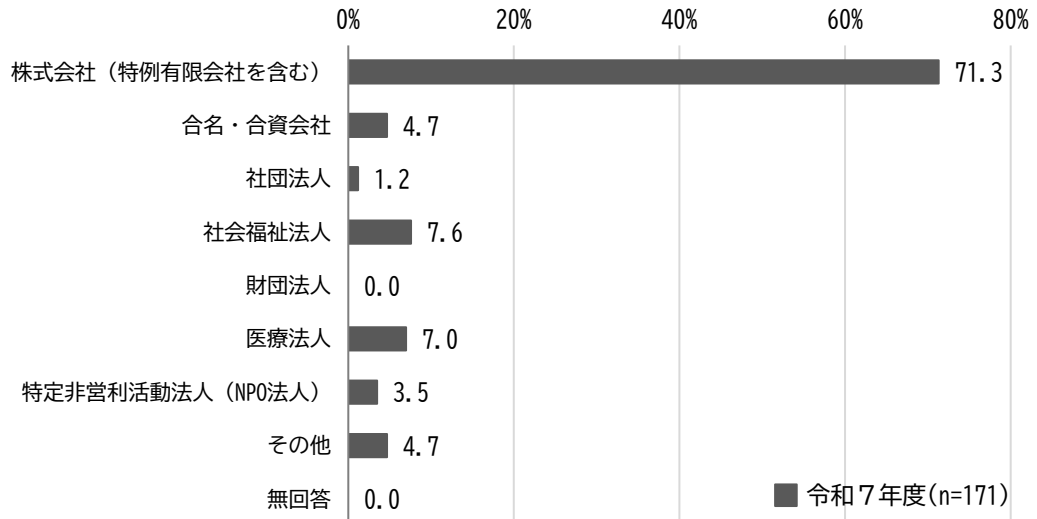
5-1 介護保険サービス事業所調査

1. 貴事業所の概要について

問1 (1) 貴事業所の組織（法人格）は、次のうちどれですか。（単数回答）

「株式会社（特例有限会社を含む）」が 71.3%で最も多く、次いで、「社会福祉法人」が 7.6%、「医療法人」が 7.0%となっている。

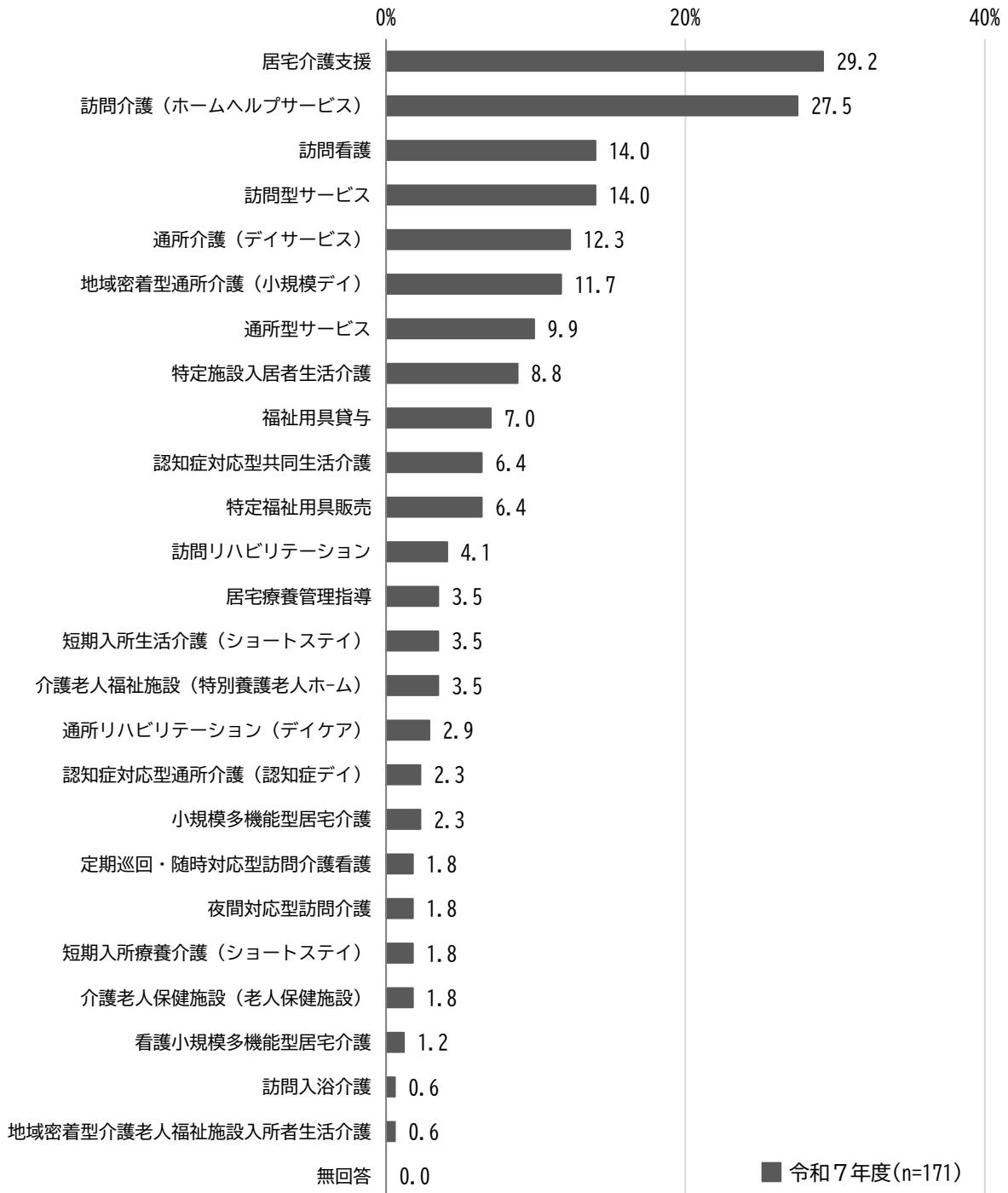
【図表 231】事業所の組織（法人格）



問1 (2) 貴事業所が提供しているサービスはどれですか。(複数回答)

「居宅介護支援」が 29.2%で最も多く、次いで、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が 27.5%、「訪問看護」及び「訪問型サービス」が同率で 14.0%となっている。

【図表 232】 現在提供しているサービスの種類

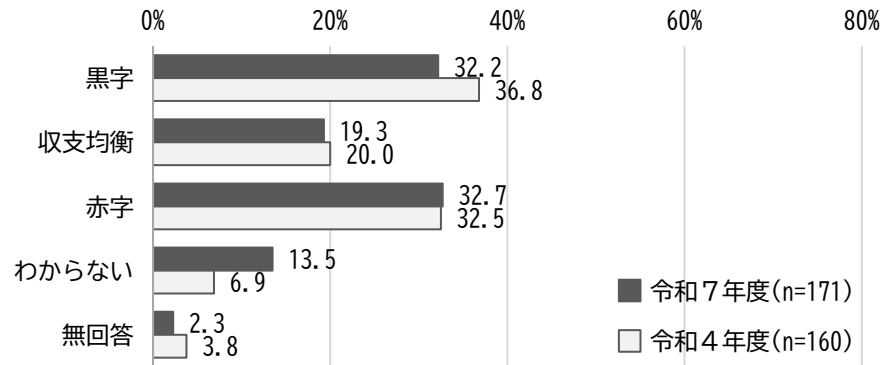


2. 収支状況・処遇改善の状況について

問2 貴事業所の、前年度の収支状況はどうでしたか。(単数回答)

「赤字」が32.7%で最も多く、次いで「黒字」が32.2%、「収支均衡」が19.3%となっている。

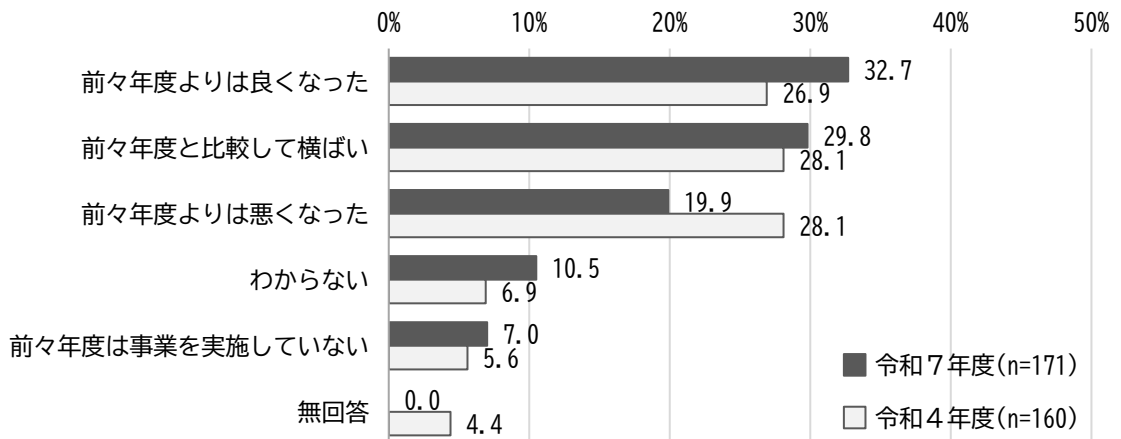
【図表 233】前年度の収支状況〈前回比較〉



問3 貴事業所の、前年度と前々年度を比較した収支状況はどうでしたか。(単数回答)

「前々年度よりは良くなった」が32.7%で最も多く、次いで「前々年度と比較して横ばい」が29.8%、「前々年度よりは悪くなった」が19.9%となっている。

【図表 234】前年度と前々年度を比較した収支状況〈前回比較〉

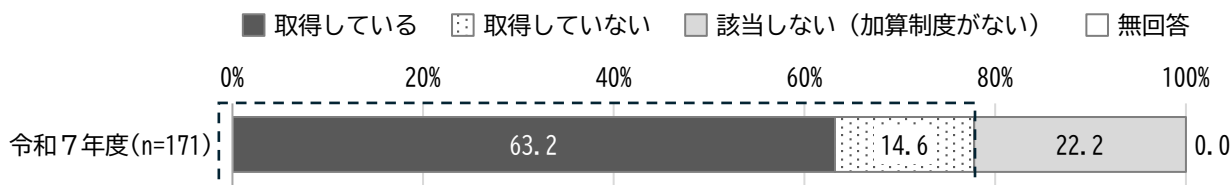


問4 貴事業所では処遇改善加算を取得していますか。(単数回答)

「取得している」が63.2%で最も多く、次いで、「該当しない(加算制度がない)」が22.2%、「取得していない」が14.6%となっている。

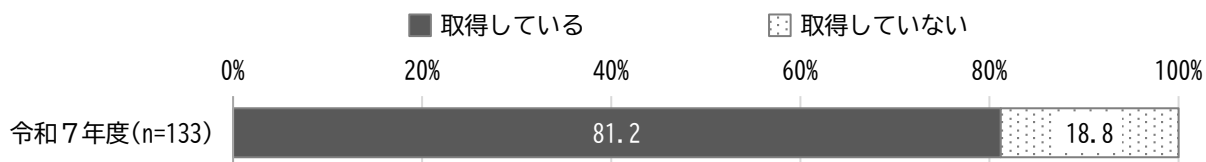
「該当しない(加算制度がない)」を除いた処遇改善加算の取得状況では、「取得している」が81.2%、「取得していない」が18.8%となっている。

【図表 235】 処遇改善加算の取得の有無



【「該当しない(加算制度がない)」を除いた処遇改善加算の取得状況】

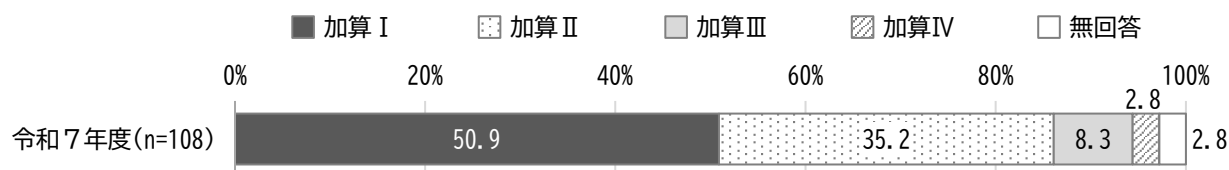
【図表 236】 無回答を除いた処遇改善加算の取得の有無



【問4で「取得している」と回答した方】
問4-1 処遇改善加算のI~IVのどれを取得していますか。(単数回答)

「加算I」が50.9%で最も多く、次いで、「加算II」が35.2%、「加算III」が8.3%となっている。

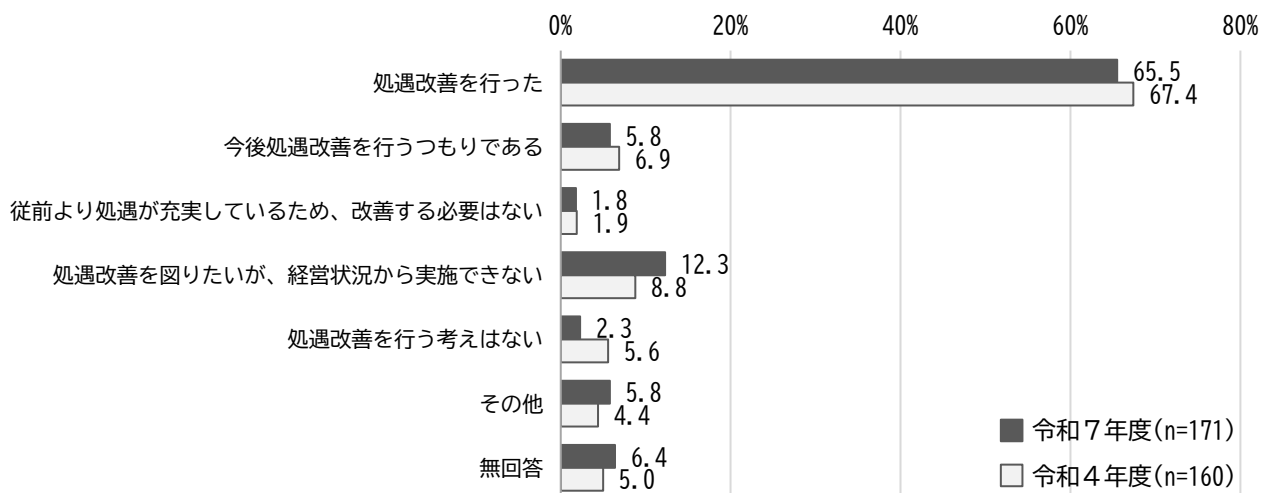
【図表 237】 処遇改善加算の取得状況



問5 貴事業所では前年度、処遇改善（給与や時給単価のアップなど）を行いましたか。
（単数回答）

「処遇改善を行った」が65.5%で最も多く、次いで、「処遇改善を図りたいが、経営状況から実施できない」が12.3%、「今後処遇改善を行うつもりである」が5.8%となっている。

【図表 238】前年度の処遇改善の実施状況（前回比較）

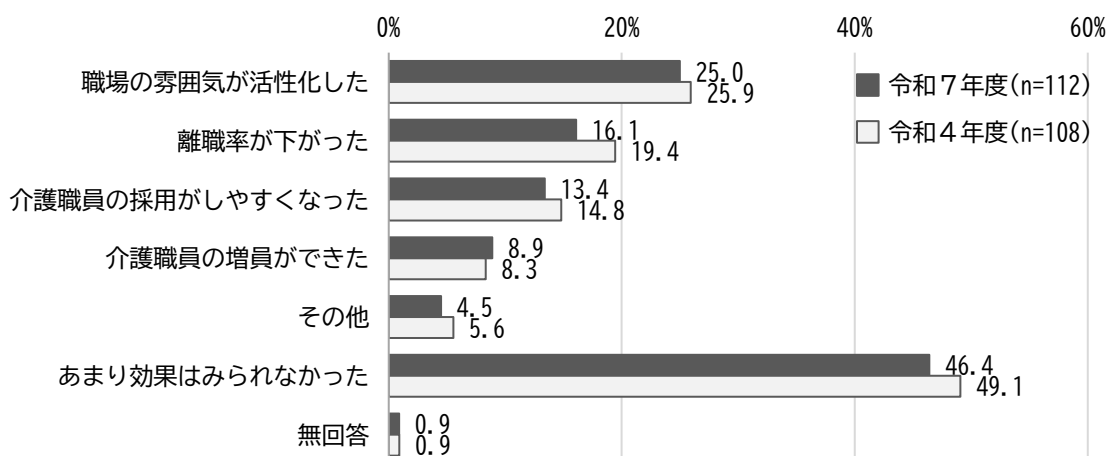


【問5で「処遇改善を行った」と回答した方】

問5-1 処遇改善を行ったことにより貴事業所の従業員にどのような効果があったと思いますか。
（複数回答）

「あまり効果はみられなかった」が46.4%で最も多く、次いで、「職場の雰囲気が活性化した」が25.0%、「離職率が下がった」が16.1%となっている。

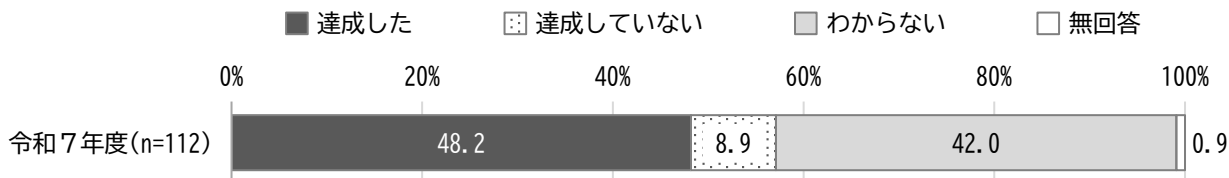
【図表 239】処遇改善の効果（前回比較）



【問5で「処遇改善を行った」と回答した方】
 問5-2 今回の報酬改定では介護報酬の引き上げや処遇改善加算の一本化による効果等を活用して、介護職員等の給与を前年度（令和6年度）に2.5%、今年度（令和7年度）に2%のベースアップへ繋げるよう示されています。前年度（令和6年度）において、貴事業所は2.5%のベースアップを達成していますか。（単数回答）

「達成した」が48.2%で最も多く、次いで、「わからない」が42.0%、「達成していない」が8.9%となっている。

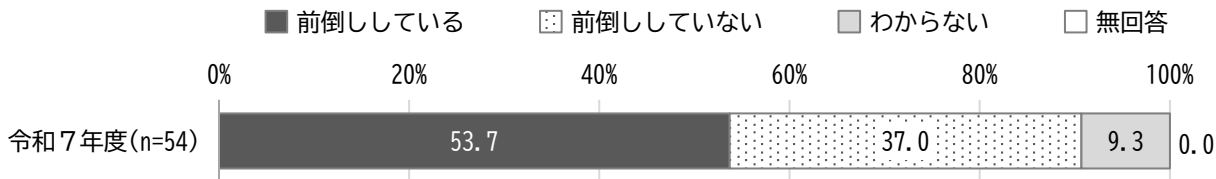
【図表 240】 ベースアップ達成の状況



【問5-2で「達成した」と回答した方】
 問5-3 今年度（令和7年度）分を前倒ししてベースアップしていますか。（単数回答）

「前倒ししている」が53.7%で最も多く、次いで、「前倒ししていない」が37.0%、「わからない」が9.3%となっている。

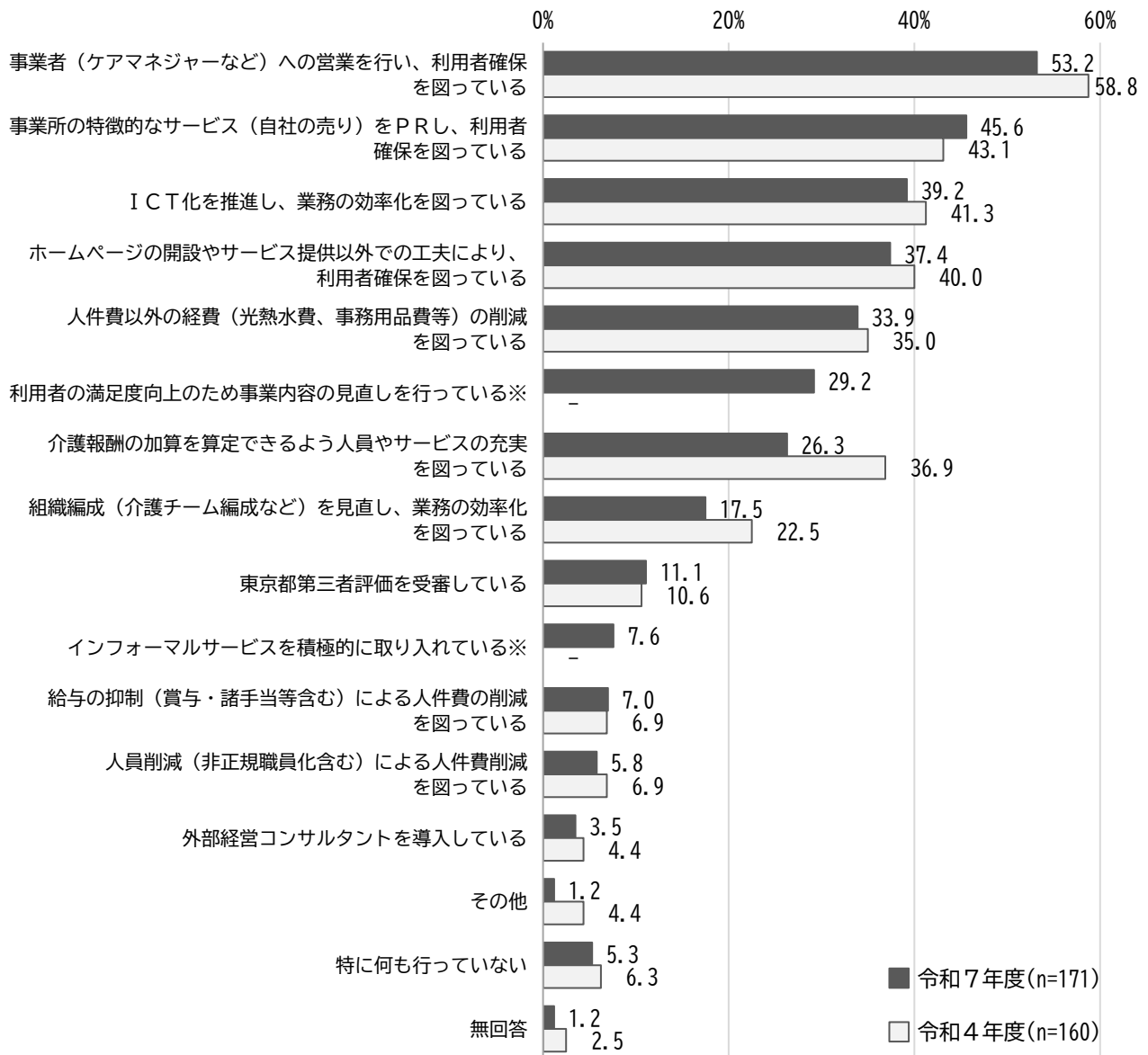
【図表 241】 ベースアップ前倒しの状況



問6 貴事業所では、収支の向上や改善に向けて、どのような取り組みを行っていますか。
(複数回答)

「事業者（ケアマネジャーなど）への営業を行い、利用者確保を図っている」が 53.2%で最も多く、次いで「事業所の特徴的なサービス（自社の売り）をPRし、利用者確保を図っている」が 45.6%、「ICT化を推進し、業務の効率化を図っている」が 39.2%となっている。

【図表 242】収支の向上や改善に向け 行っている取り組み（前回比較）



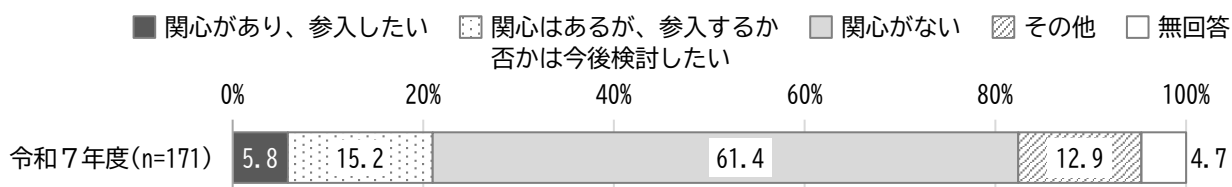
※令和4年度調査では選択肢「利用者の満足度向上のため事業内容の見直しを行っている」と「インフォーマルサービスを積極的に取り入れている」はない。

3. 今後の参入意向について

問7 貴事業所では、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）への参入についてどのようにお考えですか。（単数回答）

「関心がない」が61.4%で最も多く、次いで「関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい」が15.2%、「その他」が12.9%となっている。

【図表 243】 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）への参入意向

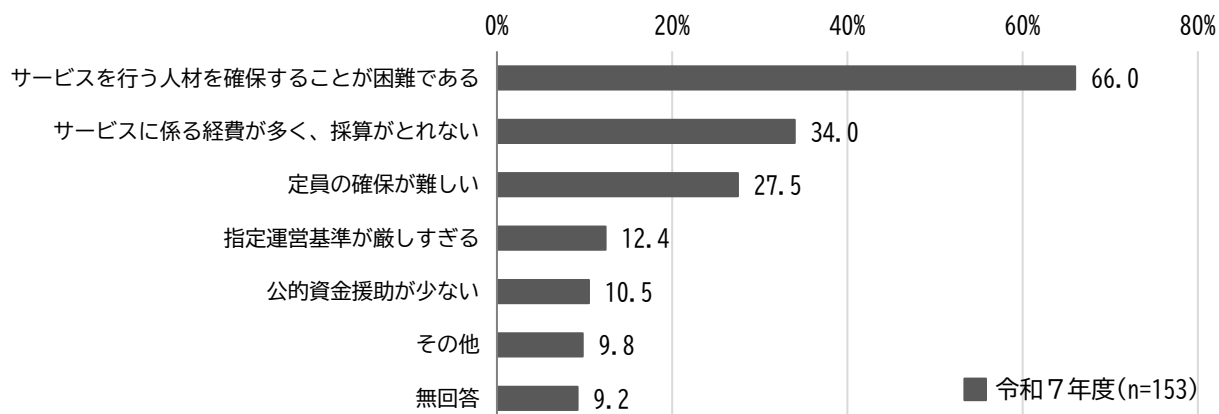


【問7で「関心があり、参入したい」以外を回答した方】

問7-1 貴事業所では、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）への参入課題をどのようにお考えですか。（複数回答）

「サービスを行う人材を確保することが困難である」が66.0%で最も多く、次いで「サービスに係る経費が多く、採算がとれない」が34.0%、「定員の確保が難しい」が27.5%となっている。

【図表 244】 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）への参入課題

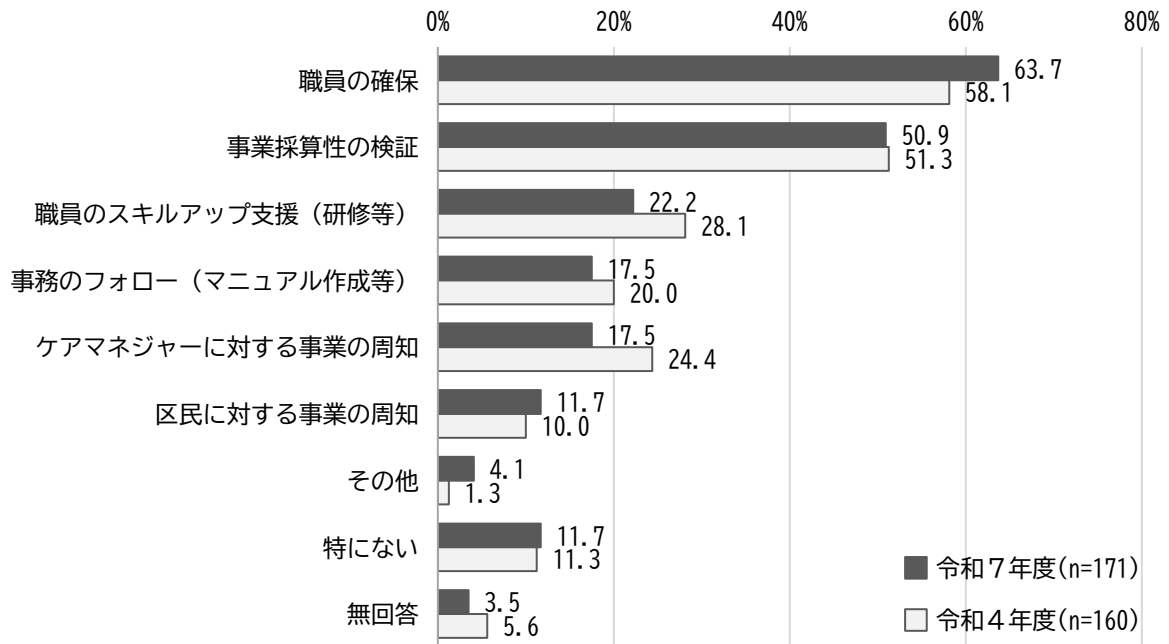


4. 総合事業(介護予防・生活支援サービス事業)について

問8 貴事業所が、今後、継続して総合事業に取り組むために必要なことは、次のうちどれですか。
(複数回答)

「職員の確保」が63.7%で最も多く、次いで「事業採算性の検証」が50.9%、「職員のスキルアップ支援（研修等）」が22.2%となっている。

【図表 245】 継続して総合事業に取り組むために必要なこと〈前回比較〉

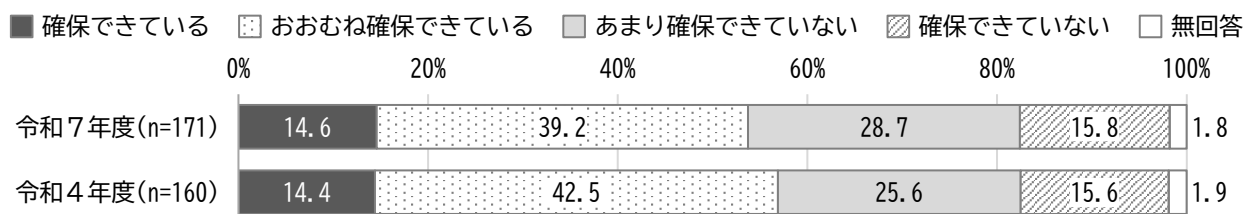


5. 人材の確保・定着・育成について

問9 この1年間、貴事業所の人材の確保の状況はどうか。(単数回答)

「おおむね確保できている」が39.2%で最も多く、次いで「あまり確保できていない」が28.7%、「確保できていない」が15.8%となっている。

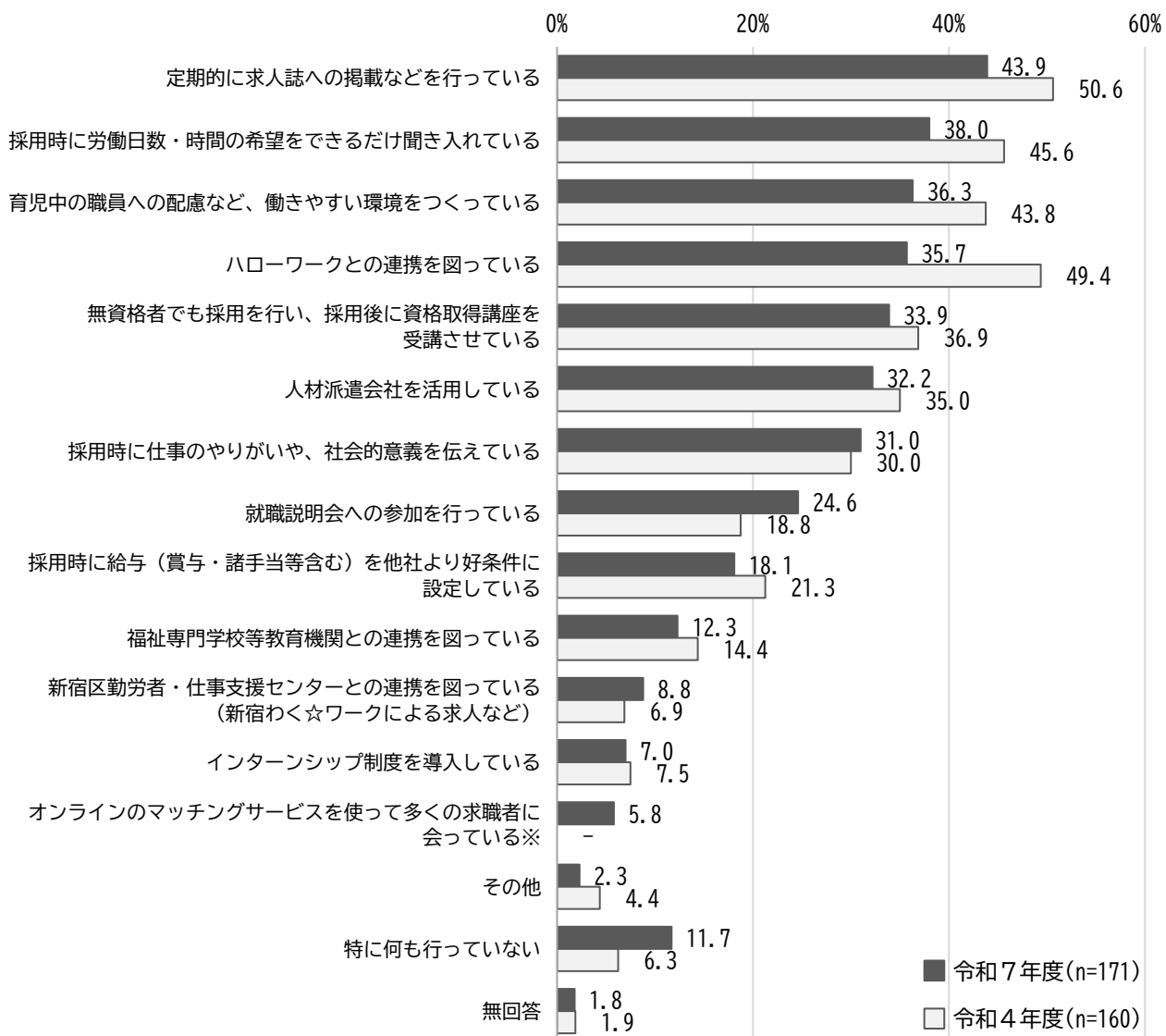
【図表 246】 人材の確保の状況〈前回比較〉



問10 貴事業所では、人材の確保について、どのような取り組みを行っていますか。(複数回答)

「定期的に求人誌への掲載などを行っている」が43.9%で最も多く、次いで「採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている」が38.0%、「育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている」が36.3%となっている。

【図表 247】人材の確保について行っている取り組みの内容〈前回比較〉

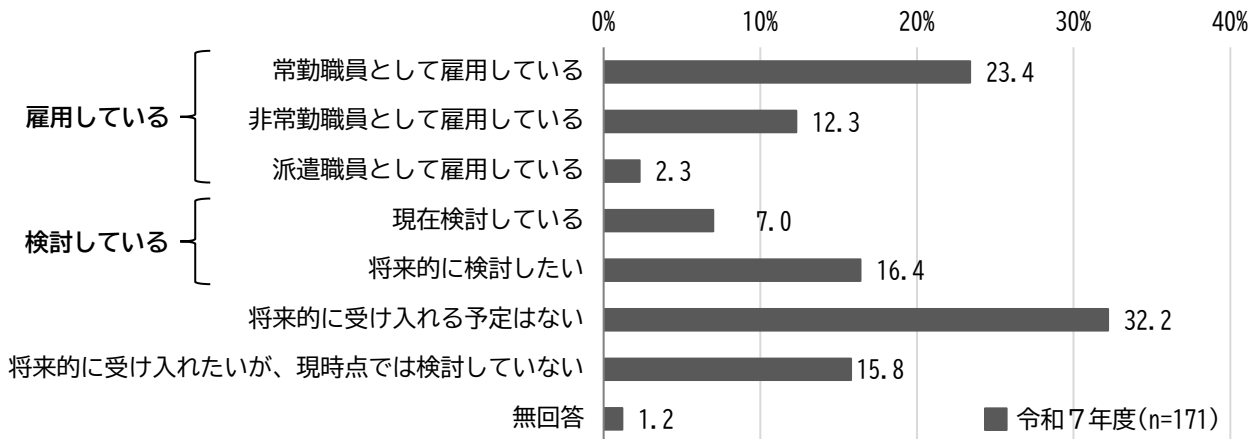


※令和4年度調査では上記の選択肢のほか、「外国人を雇用しているまたは検討している（13.1%）」がある。また、令和4年度調査では選択肢「オンラインのマッチングサービスを使って多くの求職者に会っている」はない。

問 11 貴事業所では、外国人労働者を雇用していますか。(複数回答)

「常勤職員として雇用している」(23.4%)、「非常勤職員として雇用している」(12.3%)、「派遣職員として雇用している」(2.3%)を合わせた“雇用している”は38.0%となっており、「現在検討している」及び「将来的に検討したい」を合わせた“検討している”は23.4%となっている。

【図表 248】外国人労働者の雇用の有無

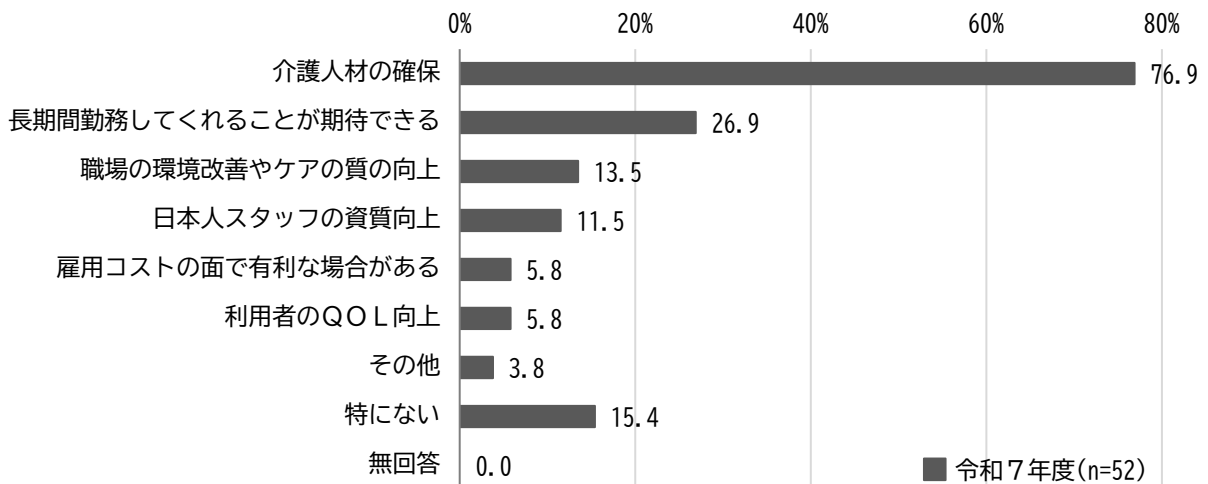


【問 11 で「雇用している」と回答した方】

問 11-1 実際に外国人を雇用した効果や成果等を教えてください。(複数回答)

「介護人材の確保」が76.9%で最も多く、次いで「長期間勤務してくれることが期待できる」が26.9%、「特にない」が15.4%となっている。

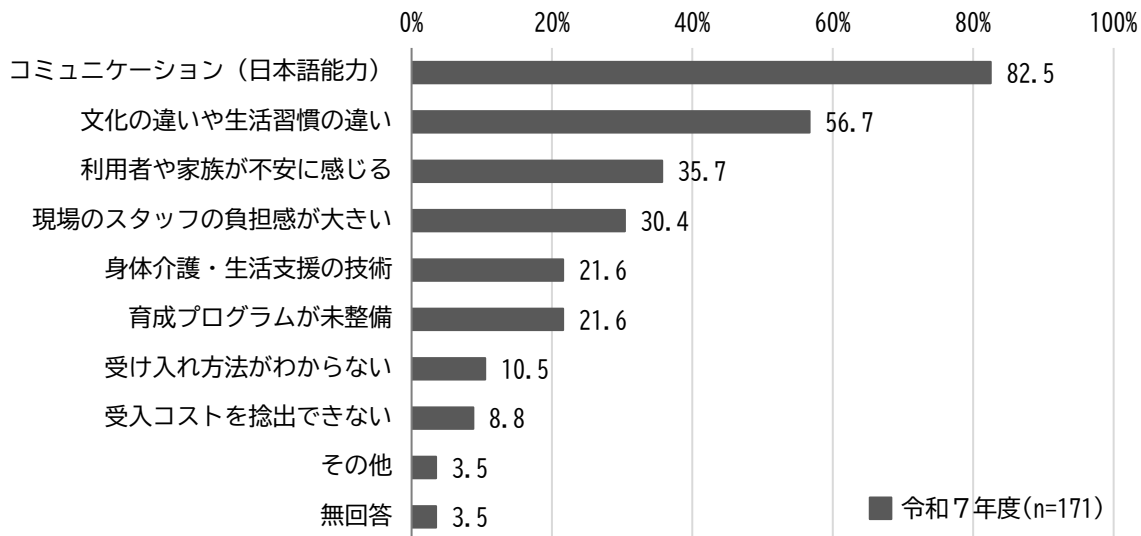
【図表 249】外国人労働者の雇用の効果や成果等



問 11-2 外国人を雇用する場合に、課題と考えられる項目を教えてください。(複数回答)

「コミュニケーション（日本語能力）」が 82.5%で最も多く、次いで「文化の違いや生活習慣の違い」が 56.7%、「利用者や家族が不安を感じる」が 35.7%となっている。

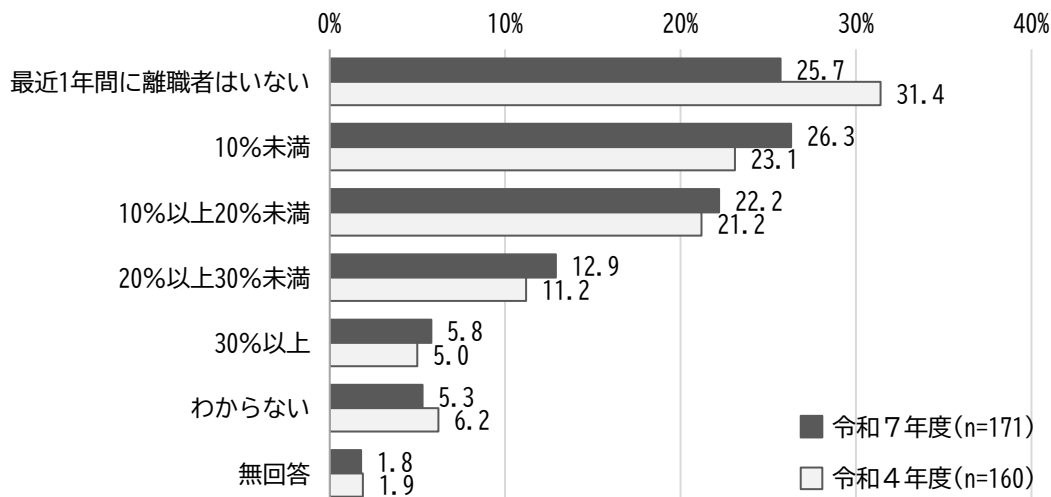
【図表 250】外国人労働者の雇用の課題



問 12 貴事業所のこの1年間の離職率はどのくらいですか。(単数回答)

「10%未満」が 26.3%で最も多く、次いで「最近1年間に離職者はいない」が 25.7%、「10%以上20%未満」が 22.2%となっている。

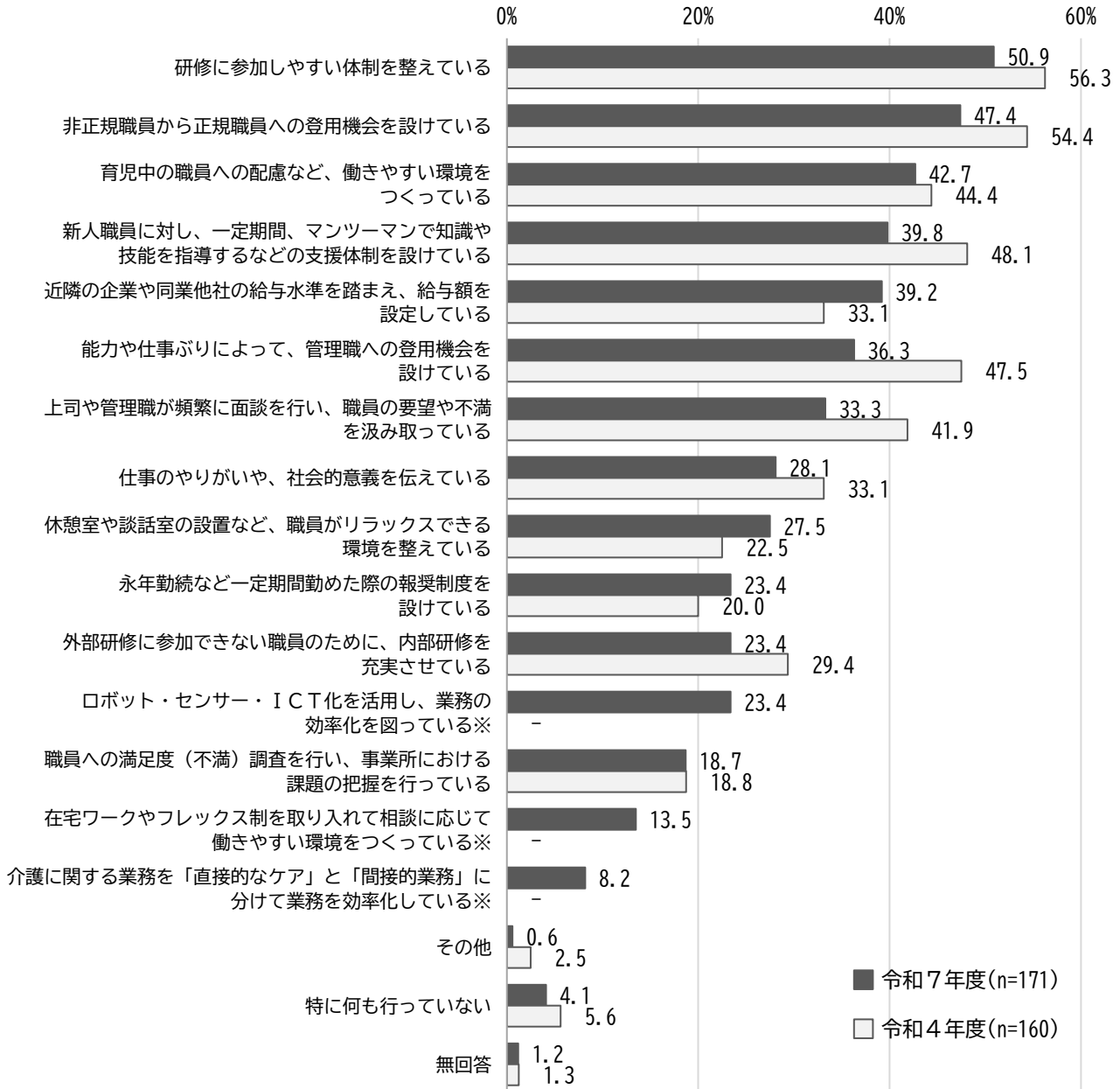
【図表 251】1年間の離職率〈前回比較〉



問13 貴事業所では、人材の定着・育成について、どのような取り組みを行っていますか。
(複数回答)

「研修に参加しやすい体制を整えている」が50.9%で最も多く、次いで「非正規職員から正規職員への登用機会を設けている」が47.4%、「育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている」が42.7%となっている。

【図表 252】人材の定着・育成の取り組み〈前回比較〉

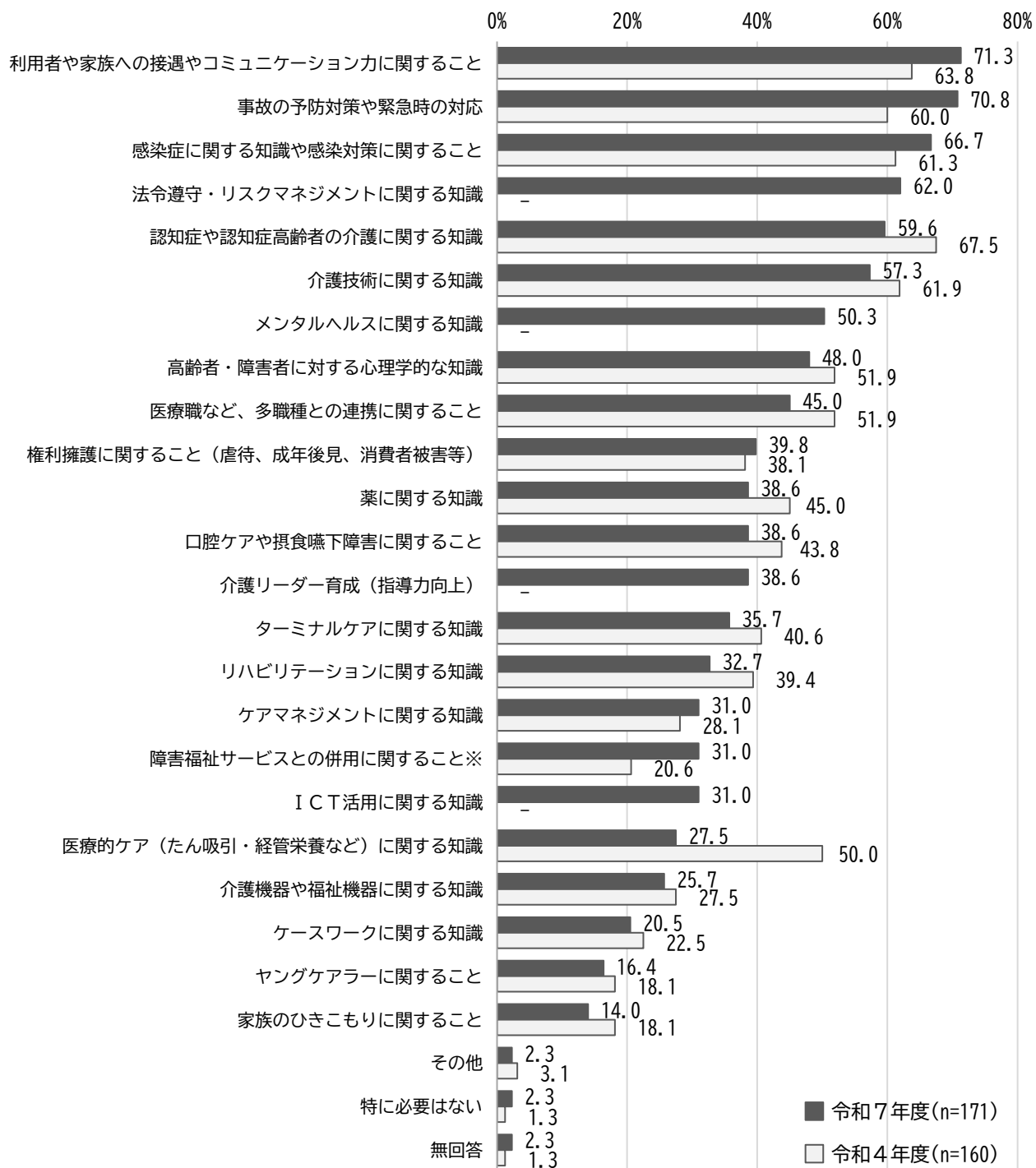


※令和4年度調査では、選択肢「ロボット・センサー・ICT化を活用し、業務の効率化を図っている」「在宅ワークやフレックス制を取り入れて相談に応じて働きやすい環境をつくっている」「介護に関する業務を『直接的なケア』と『間接的業務』に分けて業務を効率化している」はない。

問 14 貴事業所で、職員のスキルアップを図るには、どのような実習・研修が必要だと思いますか。
(複数回答)

「利用者や家族への接遇やコミュニケーション力に関すること」が 71.3%で最も多く、次いで、「事故の予防対策や緊急時の対応」が 70.8%、「感染症に関する知識や感染対策に関すること」が 66.7%となっている。

【図表 253】 職員のスキルアップに必要な実習・研修〈前回比較〉

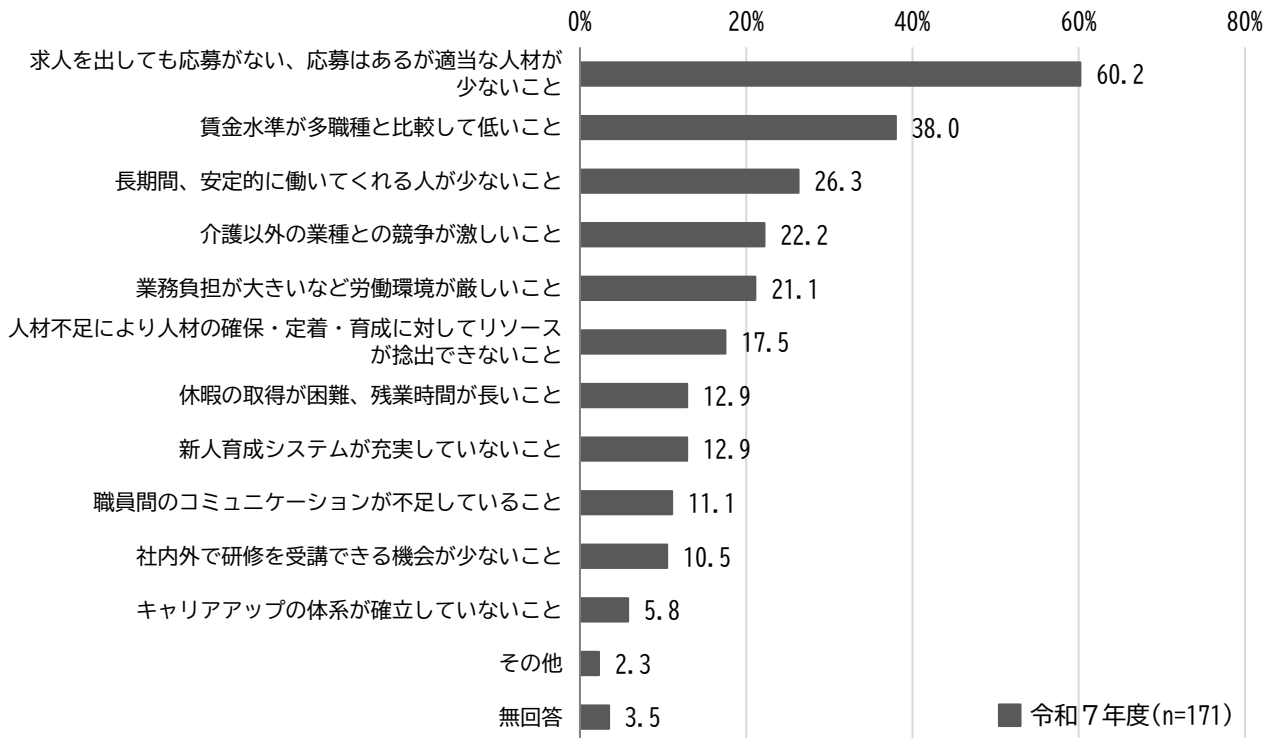


※令和4年度調査では、選択肢は「障害施策との併用に関すること」となっている。また、「法令遵守・リスクマネジメントに関する知識」「メンタルヘルスに関する知識」「介護リーダー育成(指導力向上)」「ICT活用に関する知識」はない。

問 15 貴事業所での人材の確保・定着・育成における課題は何だと思えますか。(複数回答)

「求人を出しても応募がない、応募はあるが適当な人材が少ないこと」が 60.2%で最も多く、次いで「賃金水準が多職種と比較して低いこと」が 38.0%、「長期間、安定的に働いてくれる人が少ないこと」が 26.3%となっている。

【図表 254】人材の確保・定着・育成の課題

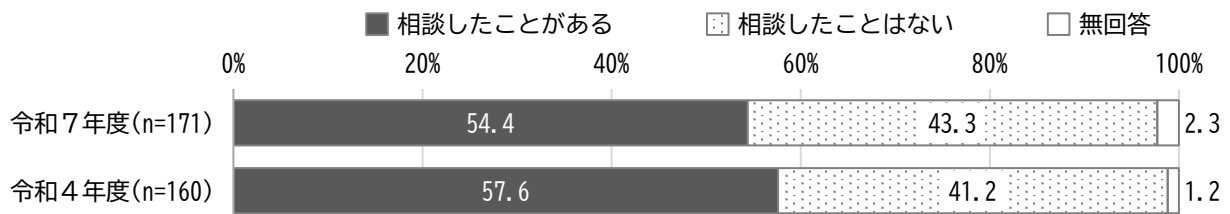


6. 高齢者総合相談センターの事業所への支援について

問 16 貴事業所は、利用者に関して高齢者総合相談センターへ相談したことがありますか。(単数回答)

「相談したことがある」が 54.4%、「相談したことはない」が 43.3%となっている。

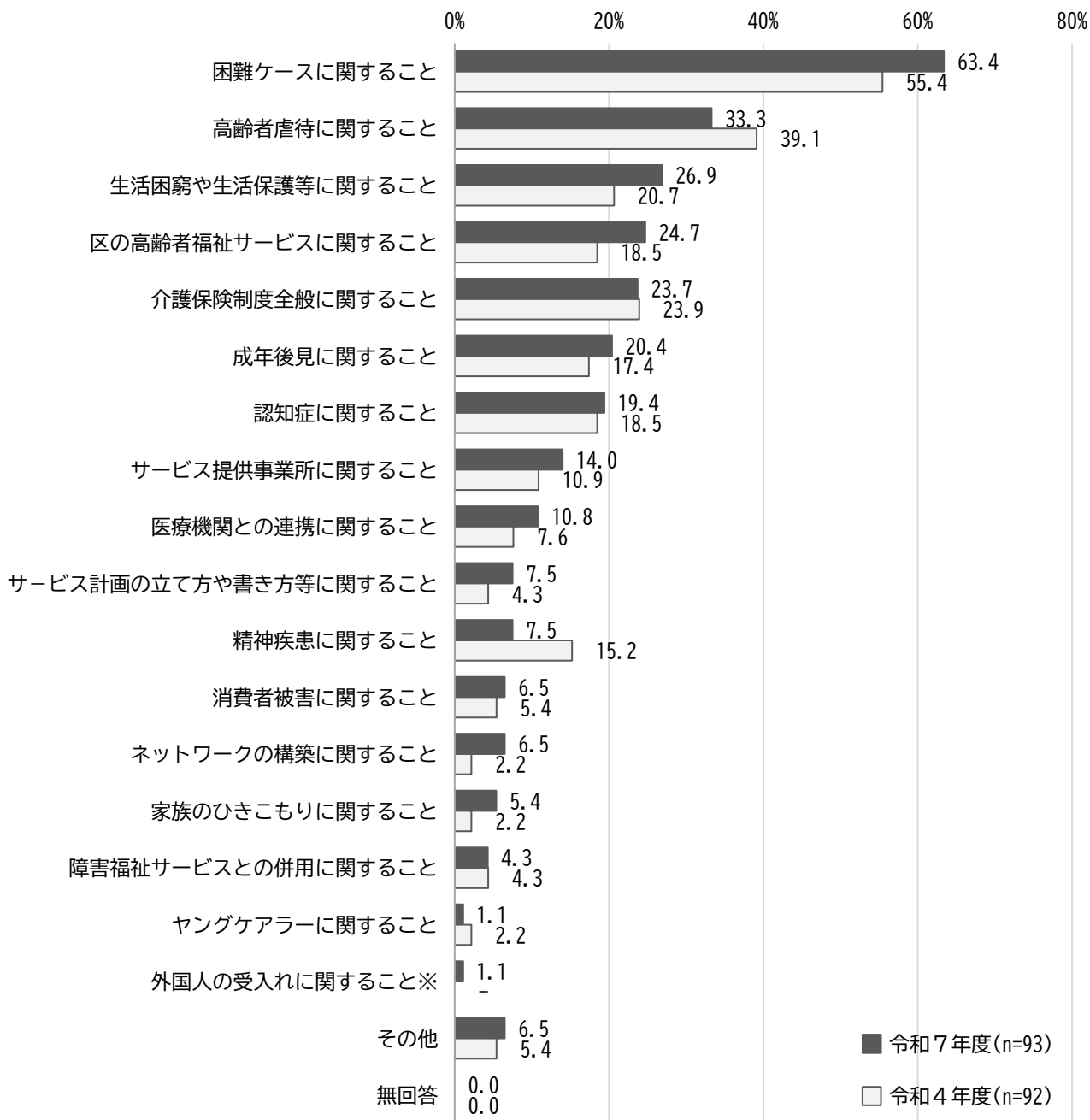
【図表 255】高齢者総合相談センターへの相談状況〈前回比較〉



【問 16 で「相談したことがある」と回答した方】
 問 16-1 相談した分野は、次のうちどれですか。（複数回答）

「困難ケースに関すること」が 63.4%で最も多く、次いで「高齢者虐待に関すること」が 33.3%、「生活困窮や生活保護等に関すること」が 26.9%となっている。

【図表 256】 高齢者総合相談センターに相談した分野〈前回比較〉



※令和4年度調査では、選択肢「外国人の受入れに関すること」はない。

【問 16 で「相談したことがある」と回答した方】

問 16-2 高齢者総合相談センターへ相談した際の全般的な評価は、次のうちどれですか。
(単数回答)

「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた“思う”は、『ア. すぐに対応してくれた』が 82.8%で最も多く、次いで『ウ. 利用者の支援や対応について確認できた』が 81.8%、『イ. 問題解決への方向性を確認できた』が 81.7%となっている。

【図表 257】 高齢者総合相談センターに対する評価

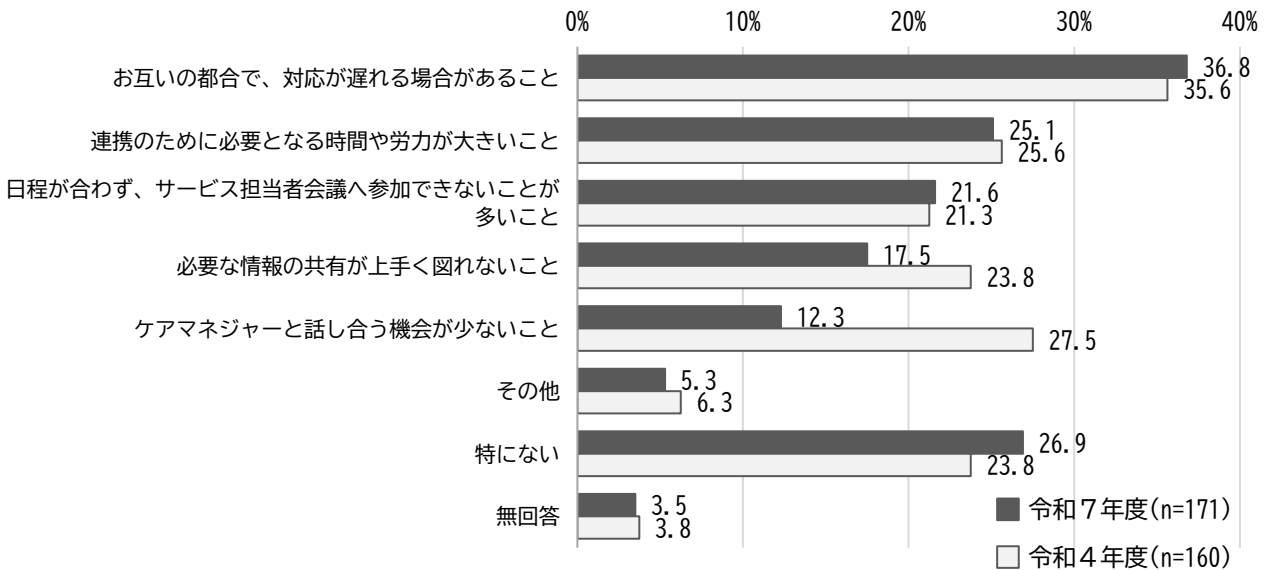
評価項目	n (回答数)	思う					無回答	(%)	
		そう思う	まあ そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	わから ない		(R7) 思う	(R4) 思う
ア. すぐに対応してくれた	93	44.1	38.7	11.8	4.3	0.0	1.1	82.8	90.3
イ. 問題解決への方向性を確認できた	93	34.4	47.3	11.8	5.4	0.0	1.1	81.7	76.1
ウ. 利用者の支援や対応について確認できた	93	32.3	49.5	11.8	5.4	0.0	1.1	81.8	78.2
エ. 新たな知識や情報を得ることができた	93	26.9	44.1	19.4	8.6	0.0	1.1	71.0	63.0
オ. 利用者本人や家族との調整がとれた	93	26.9	47.3	15.1	8.6	1.1	1.1	74.2	74.0
カ. 関係機関との連携がとれた	93	29.0	44.1	18.3	6.5	1.1	1.1	73.1	78.2
キ. 問題の解決に役立った	93	32.3	43.0	15.1	8.6	0.0	1.1	75.3	81.5

7. 各種連携の状況について

問 17 貴事業所において、ケアマネジャーとの連携における課題は何だと思いますか。
(複数回答)

「お互いの都合で、対応が遅れる場合があること」が 36.8%で最も多く、次いで「連携のために必要となる時間や労力が大きいこと」が 25.1%、「日程が合わず、サービス担当者会議へ参加できないことが多いこと」が 21.6%となっている。

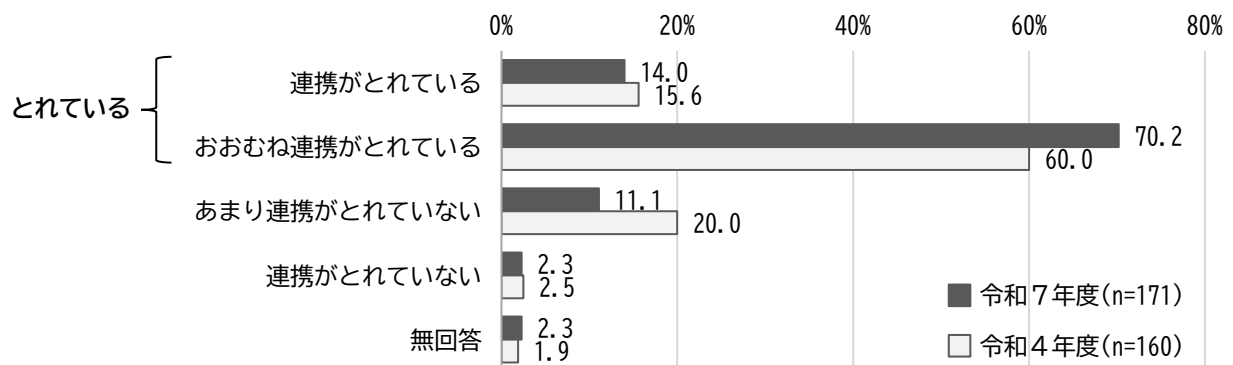
【図表 258】 ケアマネジャーとの連携における課題〈前回比較〉



問 18 貴事業所からみて、新宿区内の在宅医療・介護連携の状況について、どのように思いますか。
(単数回答)

「おおむね連携がとれている」が 70.2%で最も多く、「連携がとれている」(14.0%)と合わせた“とれている”は 84.2%となっている。

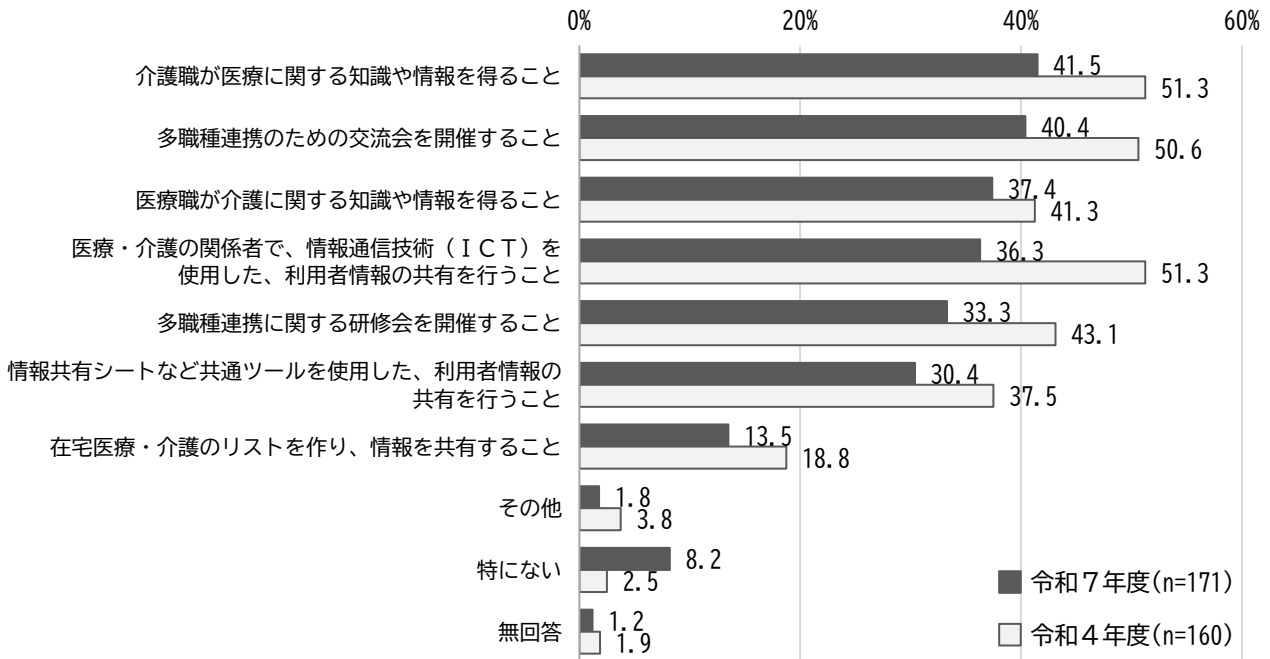
【図表 259】 新宿区内の在宅医療・介護連携の状況〈前回比較〉



問 19 貴事業所からみて、新宿区内の在宅医療・介護連携を推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

「介護職が医療に関する知識や情報を得ること」が 41.5%で最も多く、次いで「多職種連携のための交流会を開催すること」が 40.4%、「医療職が介護に関する知識や情報を得ること」が 37.4%となっている。

【図表 260】在宅医療・介護連携の推進のために必要なこと〈前回比較〉

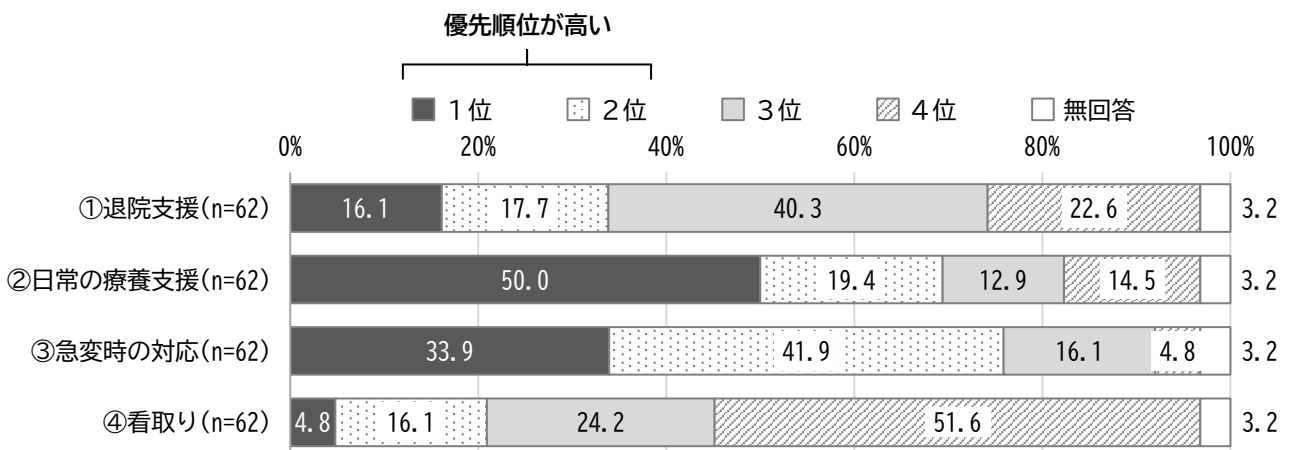


【問 19 で「医療・介護の関係者で、情報通信技術（ICT）を使用した、利用者情報の共有を行うこと」と回答した方】

問 19-1 利用者情報の共有を行いたいと思うのは、どのような場面ですか。(単数回答)

「1位」と「2位」を合わせた“優先順位が高い”は『③急変時の対応』が 75.8%と最も多く、次いで『②日常の療養支援』が 69.4%、『①退院支援』が 33.8%となっている。

【図表 261】利用者情報の共有を行いたい場面

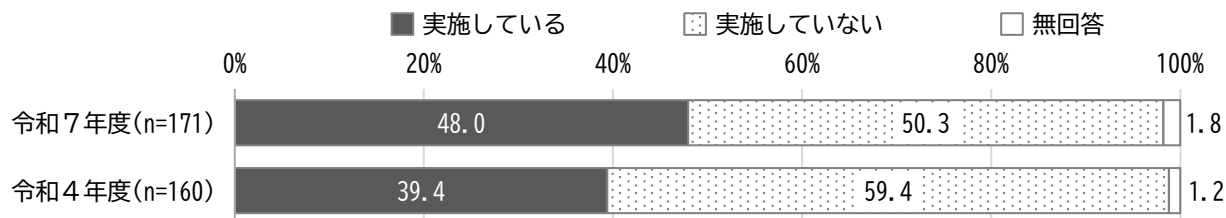


8. 地域貢献活動について

問 20 貴事業所では、地域と関わる活動を実施していますか。(単数回答)

「実施していない」が50.3%、「実施している」が48.0%となっている。

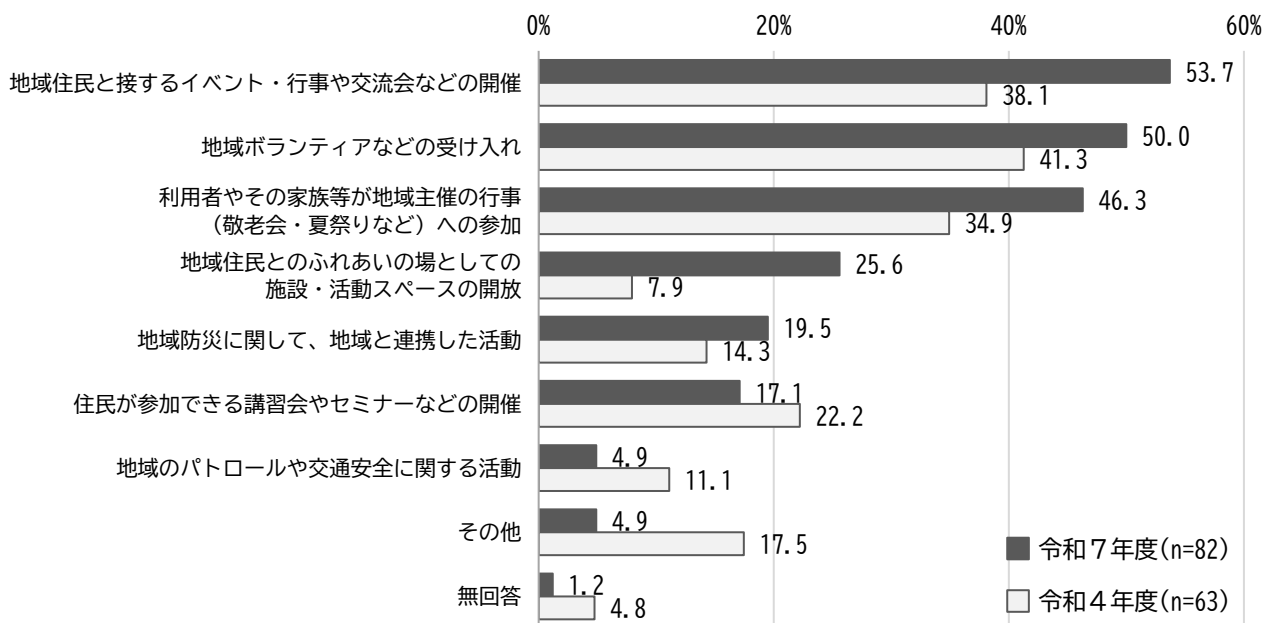
【図表 262】 地域と関わる活動の実施状況〈前回比較〉



【問 20 で「実施している」と回答した方】
問 20-1 どのような活動をしていますか。(複数回答)

「地域住民と接するイベント・行事や交流会などの開催」が53.7%で最も多く、次いで「地域ボランティアなどの受け入れ」が50.0%、「利用者やその家族等が地域主催の行事（敬老会・夏祭りなど）への参加」が46.3%となっている。

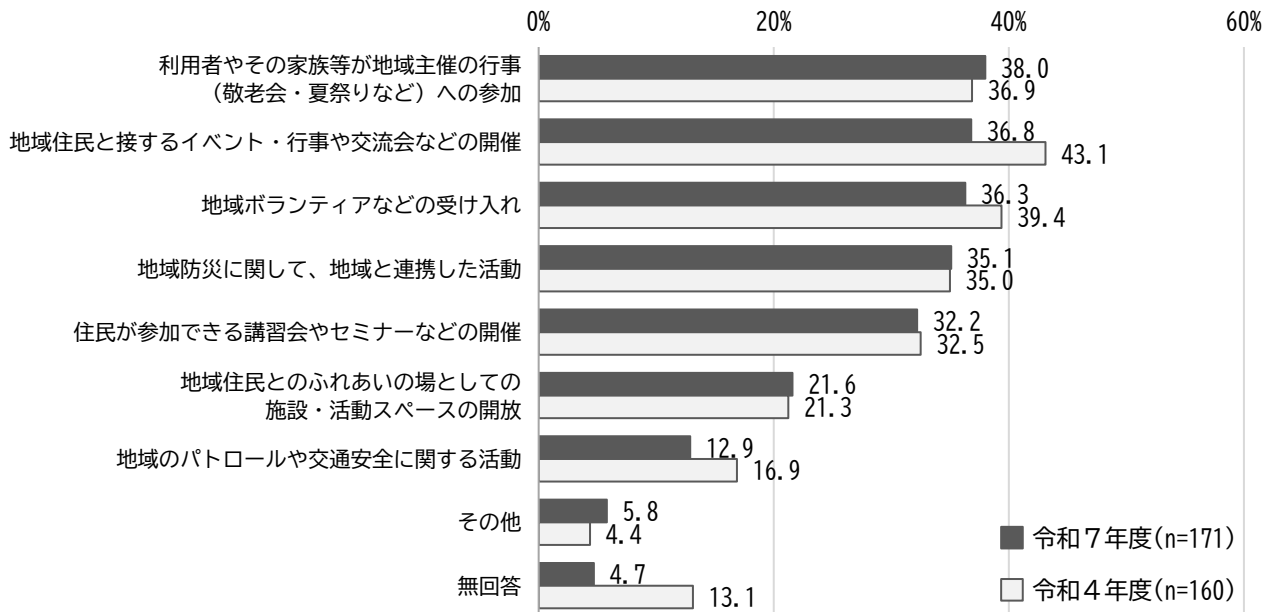
【図表 263】 地域と関わる活動の内容〈前回比較〉



問 21 貴事業所で、今後実施したい（続けたい）地域と関わる活動はありますか。（複数回答）

「利用者やその家族等が地域主催の行事（敬老会・夏祭りなど）への参加」が 38.0%で最も多く、次いで「地域住民と接するイベント・行事や交流会などの開催」が 36.8%、「地域ボランティアなどの受け入れ」が 36.3%となっている。

【図表 264】 今後実施したい（続けたい）地域と関わる活動（前回比較）

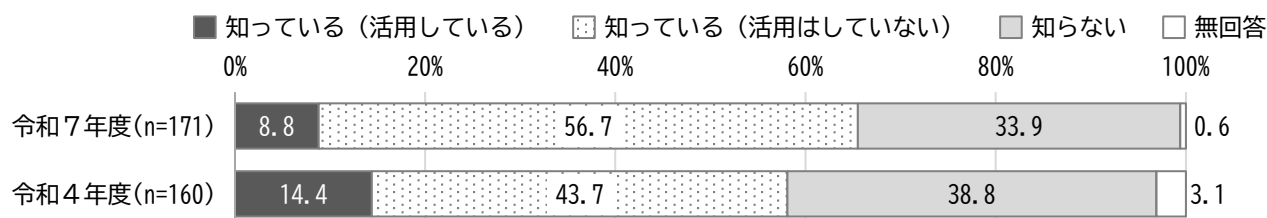


9. 在宅医療への対応について

問 22 (1) 区の「在宅医療相談窓口」で相談を受けられるということを知っていますか。
(単数回答)

「知っている（活用はしていない）」が 56.7%で最も多く、次いで「知らない」が 33.9%、「知っている（活用している）」が 8.8%となっている。

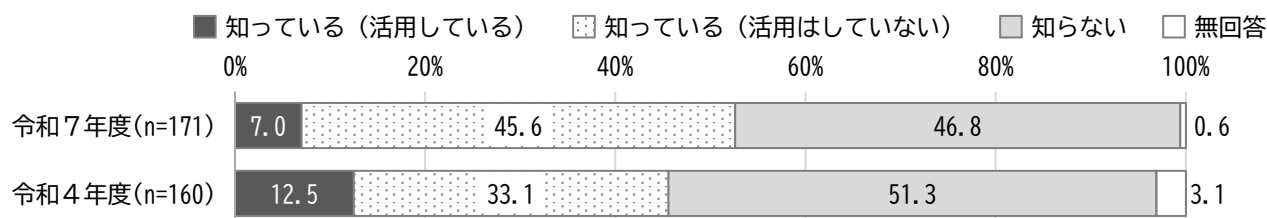
【図表 265】在宅医療相談窓口の活用状況〈前回比較〉



問 22 (2) 区の「がん療養相談窓口」で相談を受けられるということを知っていますか。
(単数回答)

「知らない」が 46.8%で最も多く、次いで「知っている（活用はしていない）」が 45.6%、「知っている（活用している）」が 7.0%となっている。

【図表 266】がん療養相談窓口の活用状況〈前回比較〉

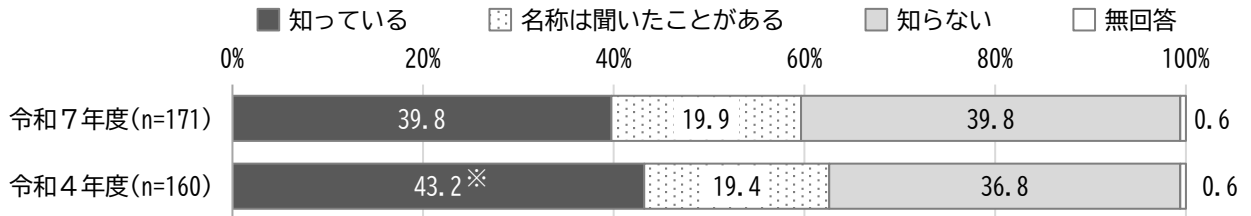


10. ACP（人生会議）について

問 23（1） ACP（人生会議）について知っていますか。（単数回答）

「知っている」及び「知らない」が同率で39.8%、「名称は聞いたことがある」が19.9%となっている。

【図表 267】 ACP（人生会議）の認知度〈前回比較〉

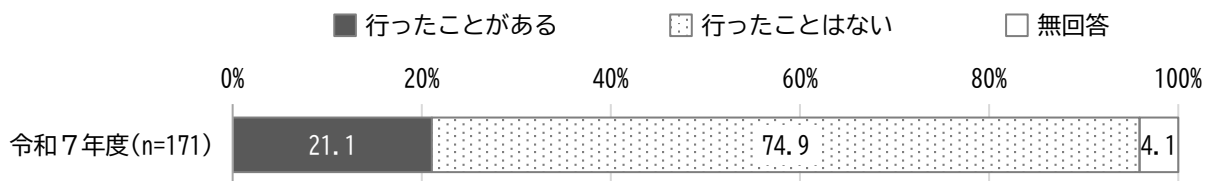


※令和4年度調査については、選択肢「知っている（話し合ったことがある）」と「知っている（話し合ったことはない）」を合わせて、「知っている」としている。

問 23（2） ACP（人生会議）を行ったことがありますか。（単数回答）

「行ったことがある」が21.1%、「行ったことはない」が74.9%となっている。

【図表 268】 ACP（人生会議）を行ったことの有無

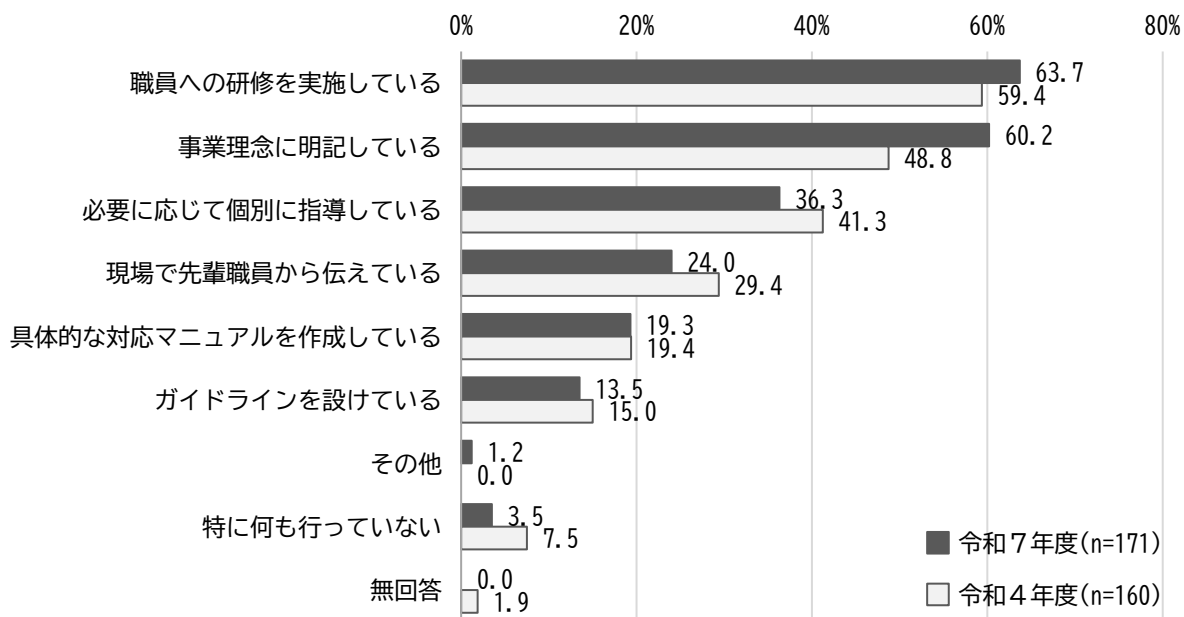


11. 尊厳の保持について

問 24 貴事業所では、利用者の尊厳の保持について、どのような取り組みを行っていますか。
(複数回答)

「職員への研修を実施している」が 63.7%で最も多く、次いで「事業理念に明記している」が 60.2%、「必要に応じて個別に指導している」が 36.3%となっている。

【図表 269】 利用者の尊厳の保持について行っている取り組み〈前回比較〉



12. 前年度（令和6年度）の報酬改定について

【下記の表に該当するサービスを提供している方】
 問 25 前年度（令和6年度）の報酬改定の経過措置についての対応状況を教えてください。
 （単数回答）
 【問 25 のア～ウで「対応予定だったが断念した」もしくは「対応する予定はない」と回答した方】
 問 25-1～3 問 25 のア～ウに対応していない理由は何ですか。（複数回答）

ア。「利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置」については、「対応済みである」が 65.6%、「未対応であるが対応する見込みである」が 12.5%となっている。

イ。「協力医療機関との連携」については、「対応済みである」が 33.3%、「未対応であるが対応する見込みである」が 11.1%となっている。

ウ。「口腔衛生の管理」については、「対応済みである」が 46.7%となっている。

【図表 270】報酬改定の対応状況

評価項目	n (回答数)	対応済みである	未対応であるが対応する見込みである	わからない	（%）		
					対応予定だったが断念した	対応する予定はない	無回答
ア. 利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置	32	65.6	12.5	12.5	3.1	3.1	3.1
イ. 協力医療機関との連携	9	33.3	11.1	0.0	0.0	0.0	55.6
ウ. 口腔衛生の管理	15	46.7	0.0	0.0	0.0	0.0	53.3

【図表 271】報酬改定に対応していない理由

評価項目	n (回答数)	（%）						
		実施方法がわからない	対応できる人員が不足している	実施する意義が感じられない	財政的に難しい	その他	わからない	無回答
ア. 利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置	2	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
イ. 協力医療機関との連携	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ウ. 口腔衛生の管理	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【図表 272】報酬改定の経過措置ア～ウの該当サービス種別

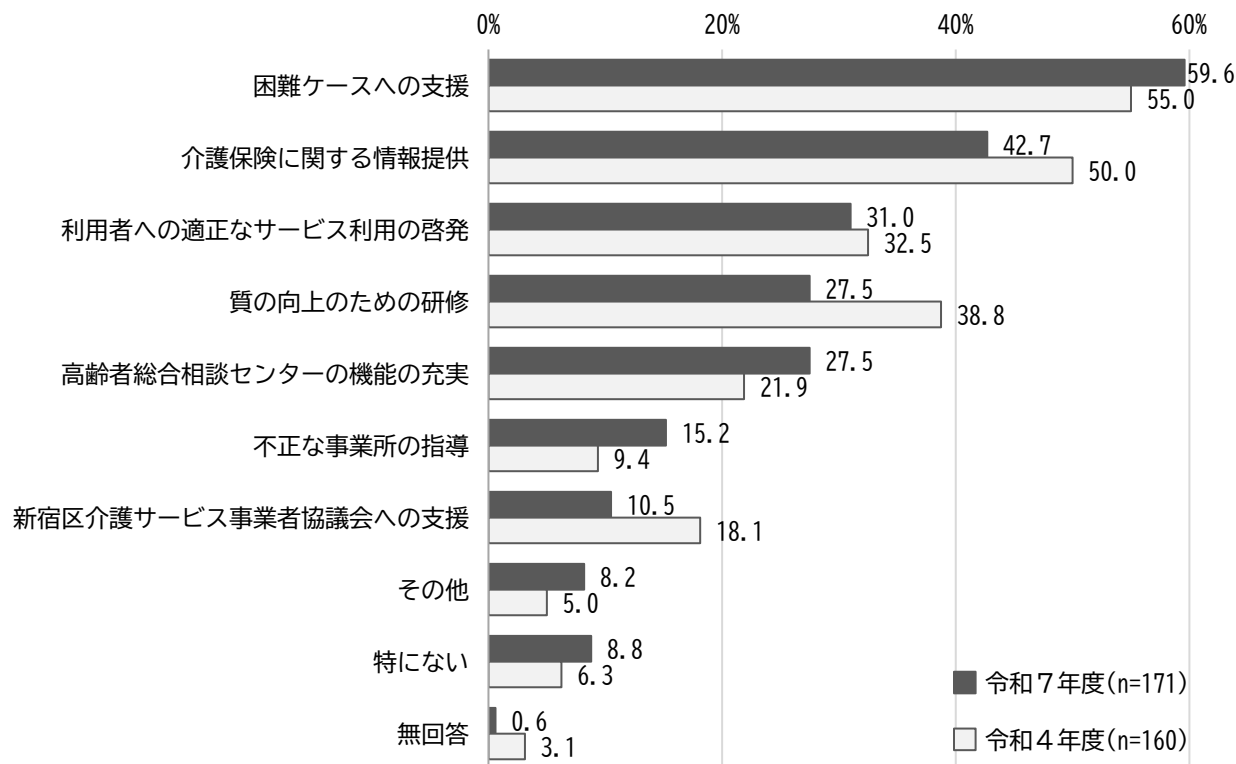
報酬改定の経過措置	該当サービス種別	
	短期入所生活介護(ショートステイ)	短期入所療養介護(ショートステイ)
ア. 利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置	小規模多機能型居宅介護	看護小規模多機能型居宅介護
	特定施設入居者生活介護	地域密着型特定施設入居者生活介護
	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	介護老人保健施設(老人保健施設)
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)
イ. 協力医療機関との連携	介護老人保健施設(老人保健施設)	
ウ. 口腔衛生の管理	特定施設入居者生活介護	

13. 新宿区への要望について

問 26 事業者の立場から、保険者である新宿区に対して、何を望みますか。(複数回答)

「困難ケースへの支援」が59.6%で最も多く、次いで、「介護保険に関する情報提供」が42.7%、「利用者への適正なサービス利用の啓発」が31.0%となっている。

【図表 273】事業者の立場から区に対して望むこと〈前回比較〉



問 27 事業者の立場からみて、新宿区の高齢者支援の状況をどうお考えですか。(単数回答)

「充実している」と「まあ充実している」を合わせた“充実している”は『キ. 高齢者総合相談センターの機能の充実』が 66.6%と最も多く、次いで『ク. 介護保険サービスの提供と基盤整備』が 65.5%、『ア. 健康づくりと介護予防・フレイル予防の推進による健康寿命の延伸』が 64.4%となっている。一方「やや不足している」と「不足している」を合わせた“不足している”は『カ. 認知症高齢者への支援体制の充実』が 24.6%と最も多く、次いで『ウ. 就業等の支援』が 24.5%、『オ. 介護者への支援』が 24.0%となっている。

【図表 274】事業者の立場からみた、区の高齢者支援の状況

区の高齢者支援	n (回答数)	充実している				不足している				(%)
		充実 している	まあ充実 している	やや不足 している	不足 している	わから ない	無回答	充実 している	不足 している	
ア. 健康づくりと介護予防・フレイル予防の推進による健康寿命の延伸	171	9.4	55.0	7.0	2.9	24.0	1.8	64.4	9.9	
イ. いきがいのある暮らしへの支援	171	8.2	47.4	14.6	1.8	26.3	1.8	55.6	16.4	
ウ. 就業等の支援	171	4.1	32.7	17.5	7.0	36.8	1.8	36.8	24.5	
エ. 地域で支え合うしくみづくりの推進	171	6.4	45.0	17.0	4.1	25.7	1.8	51.4	21.1	
オ. 介護者への支援	171	10.5	43.3	17.0	7.0	20.5	1.8	53.8	24.0	
カ. 認知症高齢者への支援体制の充実	171	7.6	43.3	19.9	4.7	22.8	1.8	50.9	24.6	
キ. 高齢者総合相談センターの機能の充実	171	10.5	56.1	14.0	4.7	12.9	1.8	66.6	18.7	
ク. 介護保険サービスの提供と基盤整備	171	11.1	54.4	15.2	4.7	12.9	1.8	65.5	19.9	
ケ. 自立生活への支援（介護保険外サービス）	171	8.8	40.4	13.5	9.4	26.9	1.2	49.2	22.9	
コ. 在宅療養支援体制の充実	171	7.6	43.3	12.3	2.3	33.3	1.2	50.9	14.6	
サ. 高齢者の権利擁護の推進（成年後見制度の利用促進を含む）	171	6.4	45.0	15.8	2.3	28.7	1.8	51.4	18.1	
シ. 安全で暮らしやすいまちづくりと住まいへの支援	171	7.0	44.4	16.4	4.7	26.3	1.2	51.4	21.1	

自由記述

問 28 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、ご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

在宅介護に関して気になっている点について、回答があった主な意見は以下のとおり。

- ・ 訪問事業は自転車を中心だが、自転車置き場が少ない。自転車置き場を整備してほしい。
- ・ 手続きを簡略化し、よりスムーズな制度運営ができるようにご協力をお願いしたい。
- ・ 総合事業、介護保険サービス共に、生活支援はなるべくなら自費で済ませてほしい。安易な保険サービスへの誘導ではなく、「自立支援の意識」の啓蒙をしてほしい。
- ・ 運動型デイサービスの不足を感じている。
- ・ 高齢者の生活に対するサポートの強化に向けて介護職の収入が上がることを期待する。
- ・ 利用者及び家族から介護保険がわかりにくいとの声が今でも聞かれることがある。
- ・ 介護保険を利用する際に記入する書類が多く、利用者、家族、事業者にとって負担感がある。

問 29 今後の事業展開について、貴事業所のお考え、ご意見等がありましたらご自由にお書きください。

今後の事業展開について、回答があった主な意見は以下のとおり。

- ・ オンラインサービスの基盤ができると、さらにきめ細かいサービスが可能となる。
- ・ 訪問看護事業は、事業所数が増えたことで、需要と供給のバランスが崩れている印象がある。
- ・ 人員不足の解消が一番の課題であり、当面は現状維持の方向。
- ・ 高齢者総合相談センターの機能強化と公平性の確保。
- ・ 小規模事務所だけに、各事務所が結託して連携を取って、介護福祉に携わりたい。
- ・ 区で共通ソフトを使用することで、データで情報共有できるので、紙の無駄を省けると考える。
- ・ 事業所の家賃が高騰しており、事業継続が困難な状況。新宿区内で地域に密着したサービスを展開したいが、より家賃の安い地域に移転するしかない。
- ・ 区内に複数事業所を増やしていきたい。

5-2 介護保険サービス事業所 聞き取り調査

1. 実施概要

実施日時	令和7年9月17日(水) 19:00~20:00
場 所	新宿区立産業会館 (B I Z新宿)
対 象	新宿区介護サービス事業者協議会に参加している区内介護保険サービス事業所の職員
参加人数	41人
目 的	質問紙調査の数値的な結果だけでは捉えにくい内容について、グループインタビューとして掘り下げて聞き取りを行うことで、現場の様々な声を区の施策に反映すること
テ ー マ	(1) 人材の確保・定着・育成の状況について (2) 課題や困りごとについて
内 容	上記2つのテーマについて、グループ形式での聞き取りと発表



2. 実施結果

(1) 人材の確保・定着・育成の状況について

人材が確保できている理由・できていない理由

職場環境の整備・待遇面の改善

- 職員間の人間関係が良好。有給などの休みが取りやすい職場環境にしている。
- 求人にお金がない。給与を高く提示しないと、人材は集まらず定着しない。
- 肉体労働が多いというイメージがある他、職員の年齢層が上がり、若手が入りにくい。

外国人材の活用

- 他自治体で就労経験のある海外からの人材を採用したが、とても良い人材だった。
- インドネシア・ネパールから日本に来て、働いてもらっている。海外に面談に行く場合もある。

人材紹介会社や人脈の活用

- 現場や採用側の要望に合った職員を採用するため、人材紹介会社を利用している。
- リーダーの人脈や友人・福祉系学校の先生の紹介により、人材を確保している。
- 大学の新卒者を資格がなくても積極的に採用して育て、定着させている。

運転手の不足

- 運転手の人材確保が困難。地域の事業所の協力と行政による後押しがあれば対策できるのではないか。

採用がうまくいった時の工夫・効果的な取り組み

- 職場見学に来て雰囲気を感じてもらっている。また、職場見学時に見られない業務を、写真や動画で補足し、全体像を理解してもらう工夫をしている。
- 面接の際に「良いこと」だけでなく「難しいこと」や「困難なケース」も伝えることで、信頼関係を作る。
- 全国の高校を回り、若い人材に入職してもらい、大事に育て定着につなげている。また、求人Instagram等 SNS を活用している。

辞めてしまう職員の共通点・離職を防ぐ取組

人間関係や職場環境への適応に課題

- 人間関係の悩みがある、見学の際と実際の事業所のイメージが違った等の理由で離職することがある。

職員とのコミュニケーション

- コミュニケーションが上手に取れない人が増えており、離職につながっている。
- 元気がない様子があれば声掛けする等、頻繁にコミュニケーションを取るよう心掛けている。

身体的負担

- 腰痛などの身体的負担が大きいことが離職につながっている。

その他

- キャリアアップできないと感じていることが離職につながっている。
- 重度の方を介護したい、看取りをしたい等の希望がある職員に対して、希望に沿った人事異動を行う等、その人に合った場所や仕事の内容を与えることでモチベーションを保ち、離職を防止する。

(2) 課題や困りごとについて

現場で繰り返し直面する課題や困りごと

ハラスメントへの対応

- 管理者と職員間（双方向）でのハラスメントに気をつけている。
- 訪問看護・訪問介護において、セクハラ・カスハラへの対応について困っている。
- 利用者やその家族からの暴言や要望が多すぎて、対応に困ることがある。

ICT化への対応

- 働いている年齢も幅広く、ICT化への対応が難しい。

新人職員の育成

- 職場環境に馴染めなかったり、業務への適応が難しかったりする新人職員への対応。
- 業務が忙しく、新人職員に対して育成ができない。また、新人に対しての研修が充実していない。

その他の業務上の対応

- 記録、送迎業務などの時間外業務への負担。

最近特に負担が増えていること

職員の配置に関する負担

- 訪問看護では、24時間の緊急体制を担える若い職員が少なく、管理者の負担が大きい。

その他

区への要望・意見

人材確保の対策について

- ・ 初任者研修の補助金を出してほしい。
- ・ 区が小中の規模の事業所をまとめて、人材確保の対策を打てるように支援してほしい。

情報を知る機会について

- ・ 各種助成や補助等に関する東京都や新宿区独自の支援について、情報を知る機会がほしい。

聞き取り調査について

- ・ 新宿区が聞き取り調査という機会を設けて、みんなの意見を吸い上げることは、良い取り組みだと思う。

3. まとめ

今回のインタビューで、人材確保・定着については各事業所において様々な取り組みが行われていることが分かった。働きやすい職場環境の整備や採用活動の工夫が人材確保につながっている他、外国人材も活用されていることが分かった。一方、コミュニケーションの不足やキャリアアップできないことが離職理由となっていること、通所系事業所を中心とした運転手の確保や若い世代の入職が難しい現状であることが分かった。

課題や困りごとについては、ICT化への対応やハラスメント対応などが課題として挙げられた。特に訪問系事業所においてカスハラ等が大きく課題になっている。また新人育成についても、業務が多忙で育成が困難であったり、研修が充実していないことが課題として挙げられた。

その他の行政への要望として、初任者研修への補助や都・区の支援に係る情報提供等が挙げられている。

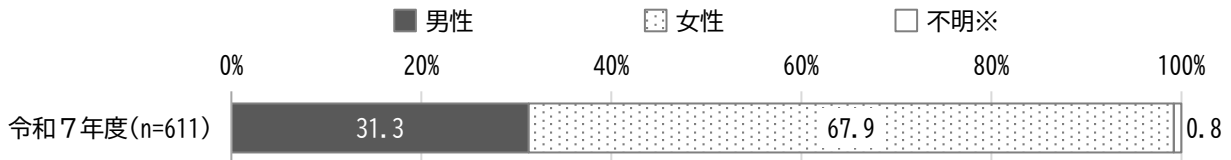
区として今後対応を検討の上、事業所に対する支援を実施していく。

6 在宅介護実態調査

1. 対象者の属性について

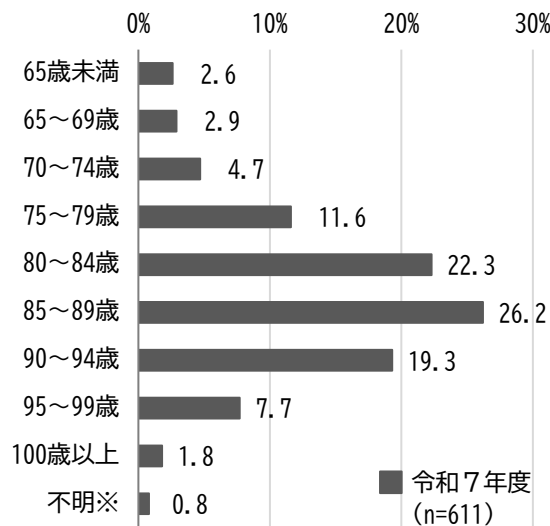
(1) 本人の性別（要介護認定データ）

【図表 275】 性別（要介護認定データ）



(2) 本人の年齢（要介護認定データ）

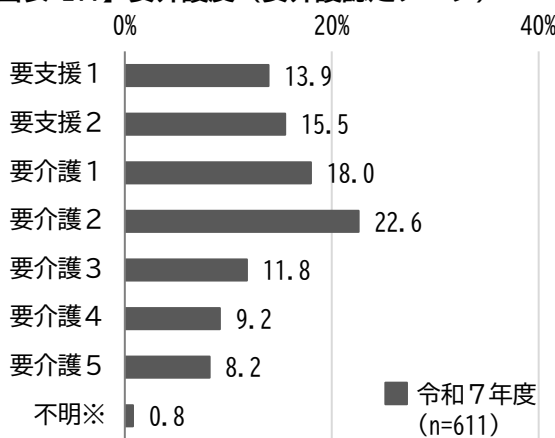
【図表 276】 年齢（要介護認定データ）



年齢	人数
65歳未満	16
65～69歳	18
70～74歳	29
75～79歳	71
80～84歳	136
85～89歳	160
90～94歳	118
95～99歳	47
100歳以上	11
不明※	5
合計	611

(3) 本人の要介護度（要介護認定データ）

【図表 277】 要介護度（要介護認定データ）

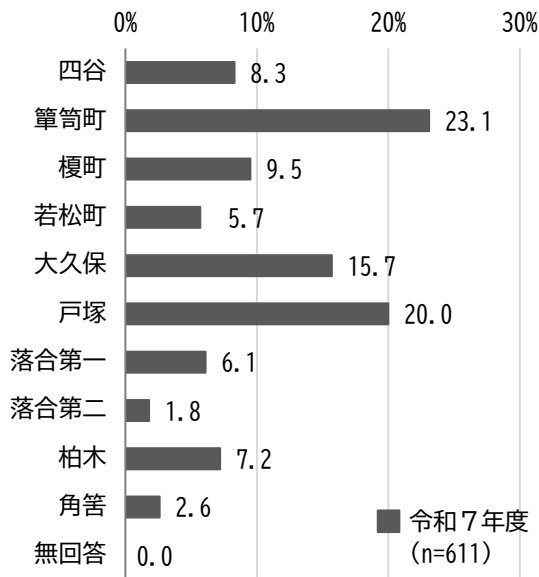


年齢	人数
要支援1	85
要支援2	95
要介護1	110
要介護2	138
要介護3	72
要介護4	56
要介護5	50
不明※	5
合計	611

※ (1)～(3)について、ご回答いただいた611人の中で、要介護認定データとの突合ができなかった5人を「不明」としている。

(4) 本人の生活圏域

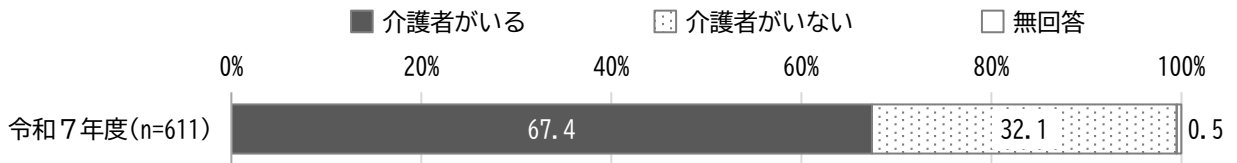
【図表 278】生活圏域



居住地域	人数
四谷	51
簞笥町	141
榎町	58
若松町	35
大久保	96
戸塚	122
落合第一	37
落合第二	11
柏木	44
角筈	16
無回答	0
合計	611

(5) 介護者の有無

【図表 279】介護者の有無

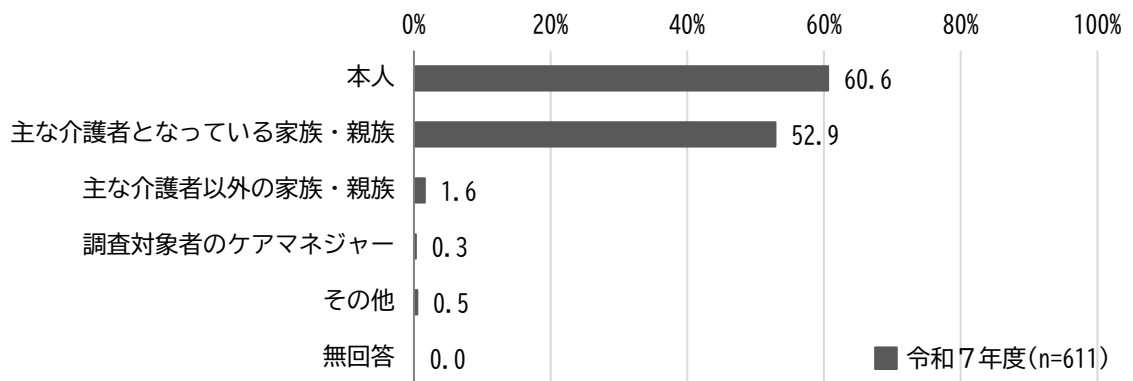


(6) 回答者の属性

聞き取りを行った相手は誰ですか。(複数回答)

「本人」が60.6%と最も多く、次いで「主な介護者となっている家族・親族」が52.9%、「主な介護者以外の家族・親族」が1.6%となっている。

【図表 280】聞き取りを行った相手

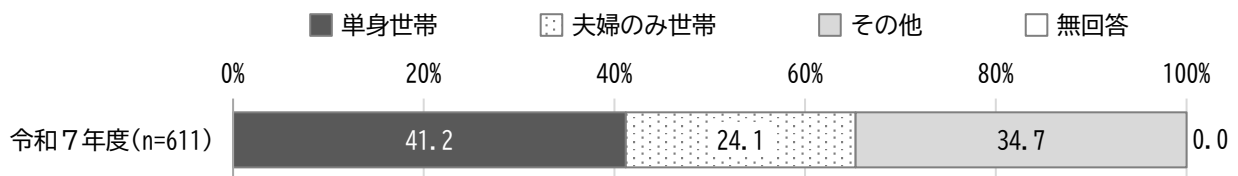


2. ご家族等介護者の状況について

問1 世帯類型はどれですか。(単数回答)

「単身世帯」が41.2%、「夫婦のみ世帯」が24.1%となっている。

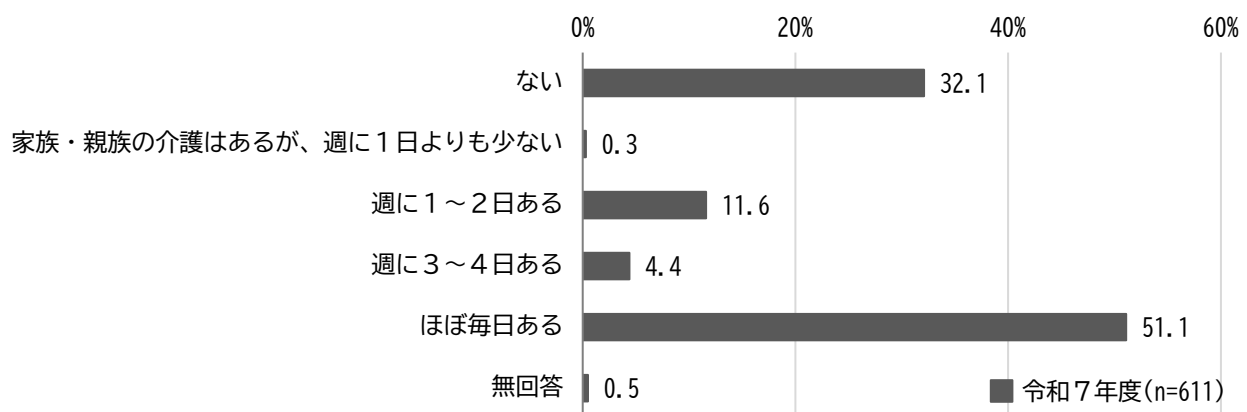
【図表 281】世帯類型



問2 家族や親族（別居含む）からの介護は、週にどのくらいありますか。(単数回答)

「ほぼ毎日ある」が51.1%と最も多く、次いで「ない」が32.1%、「週に1～2日ある」が11.6%となっている。

【図表 282】家族等による介護の頻度

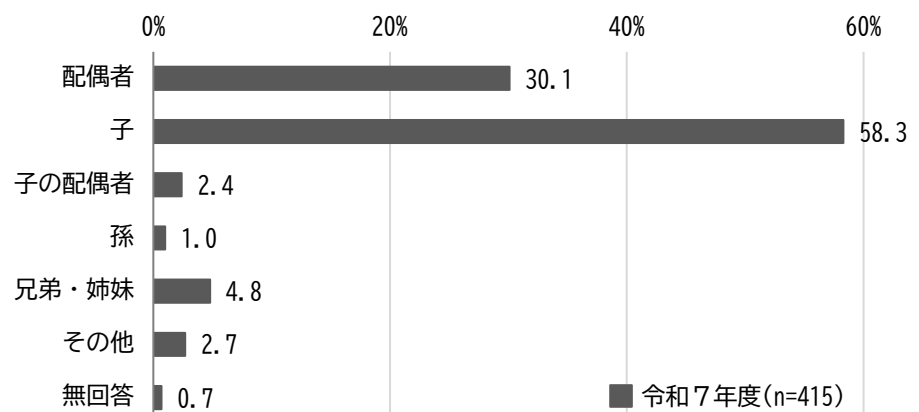


【問2で「ない」以外を回答した方】

問3 主な介護者は誰ですか。(単数回答)

「子」が58.3%と最も多く、次いで「配偶者」が30.1%、「兄弟・姉妹」が4.8%となっている。

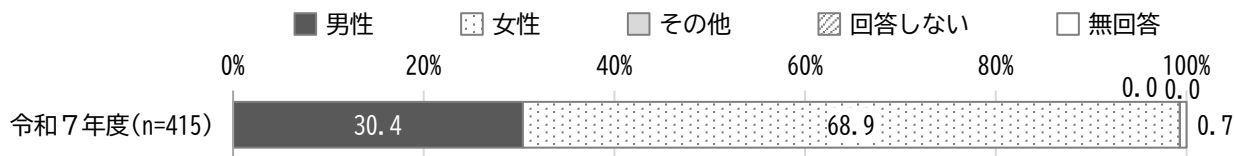
【図表 283】主な介護者の本人との関係



【問2で「ない」以外を回答した方】
 問4 主な介護者の性別について。(単数回答)

「男性」が30.4%、「女性」が68.9%となっている。

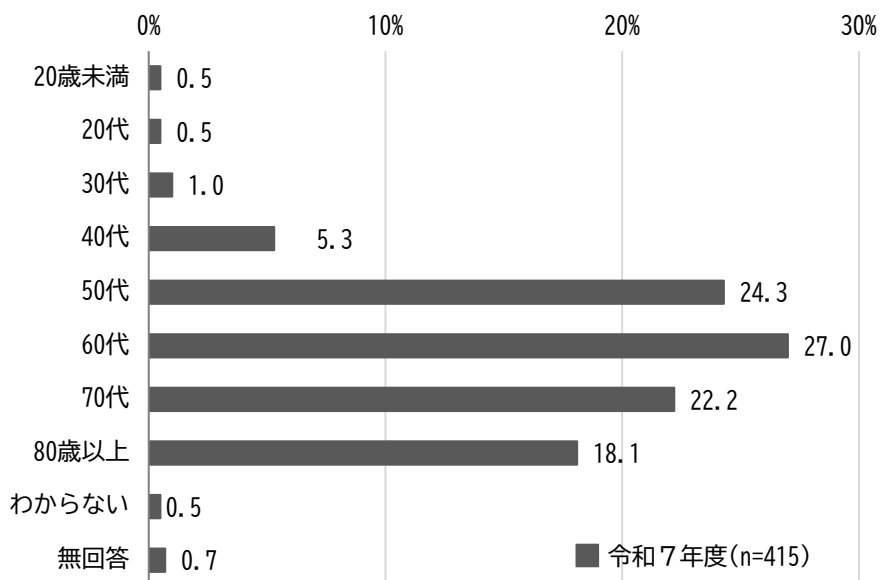
【図表 284】 主な介護者の性別



【問2で「ない」以外を回答した方】
 問5 主な介護者の年齢について。(単数回答)

「60代」が27.0%と最も多く、次いで「50代」が24.3%、「70代」が22.2%となっている。

【図表 285】 主な介護者の年齢

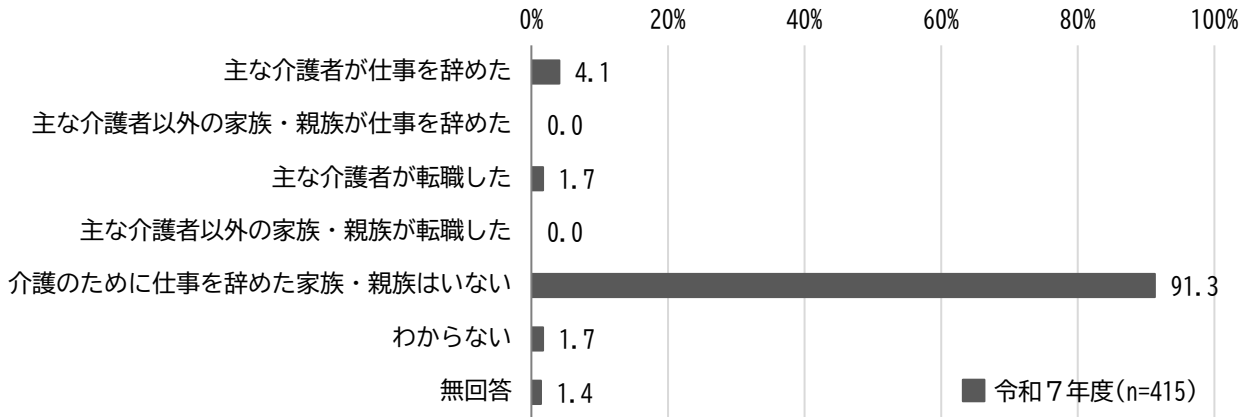


【問2で「ない」以外を回答した方】

問6 家族や親族の中で、本人の介護を理由として、過去1年間に仕事を辞めた方はいますか。
(複数回答)

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が91.3%と最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた」が4.1%、「主な介護者が転職した」が1.7%となっている。

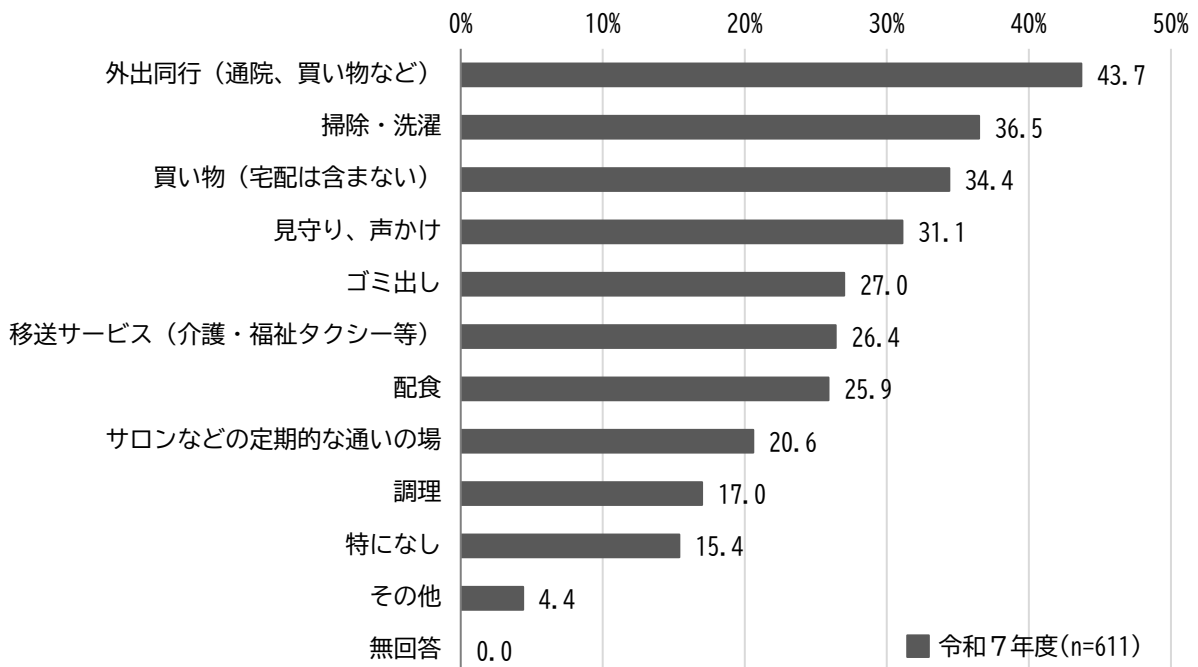
【図表 286】 介護のための離職の有無



問7 今後の在宅生活継続に必要なと思うサービスはどれですか。(複数回答)

「外出同行（通院、買い物など）」が43.7%と最も多く、次いで「掃除・洗濯」が36.5%、「買い物（宅配は含まない）」が34.4%となっている。

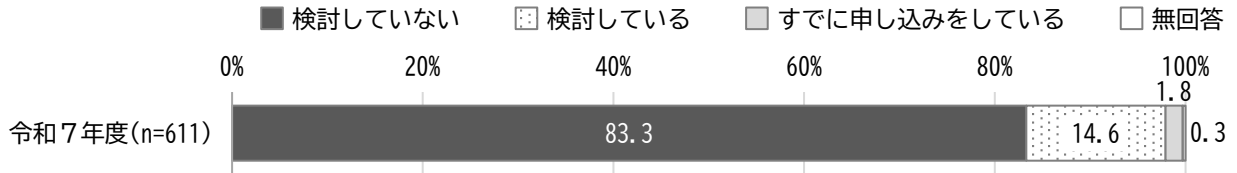
【図表 287】 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス



問8 現時点で、施設等への入所・入居は検討していますか。(単数回答)

「検討していない」が83.3%と最も多く、次いで「検討している」が14.6%、「すでに申し込みをしている」が1.8%となっている。

【図表 288】施設等検討の状況

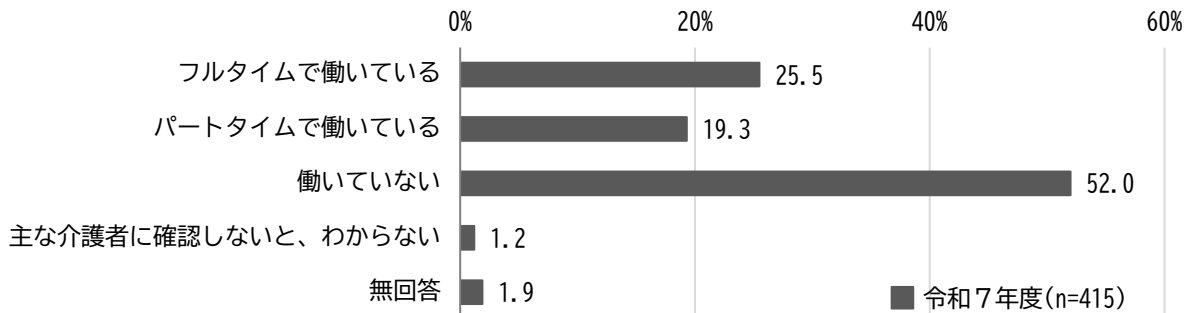


★問9～問18は主な介護者の方におたずねします。

問9 主な介護者の現在の勤務形態はどれですか。(単数回答)

「働いていない」が52.0%と最も多く、次いで「フルタイムで働いている」が25.5%、「パートタイムで働いている」が19.3%となっている。

【図表 289】主な介護者の勤務形態

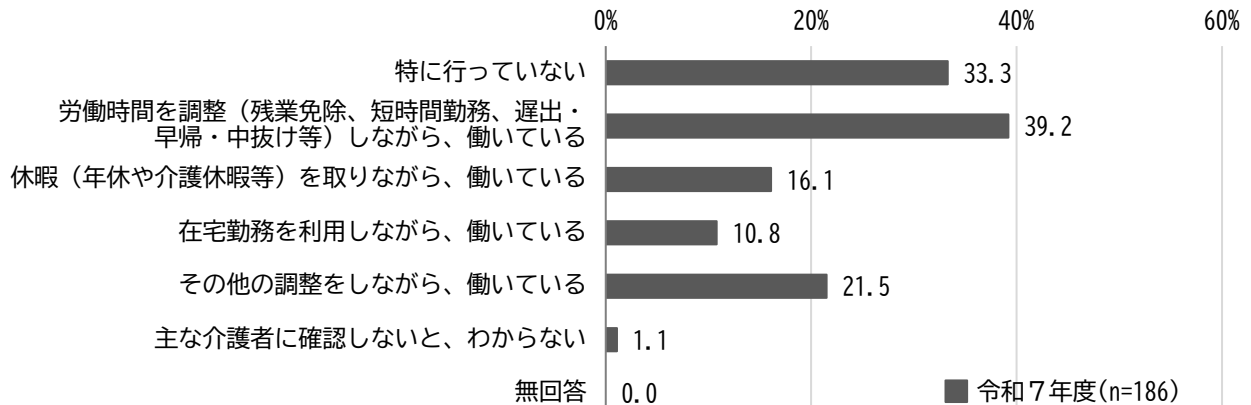


【問9で「働いている」と回答した方】

問10 介護をするにあたって、働き方の調整等をしていますか。(複数回答)

「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）しながら、働いている」が39.2%と最も多く、次いで「特に行っていない」が33.3%、「その他の調整をしながら、働いている」が21.5%となっている。

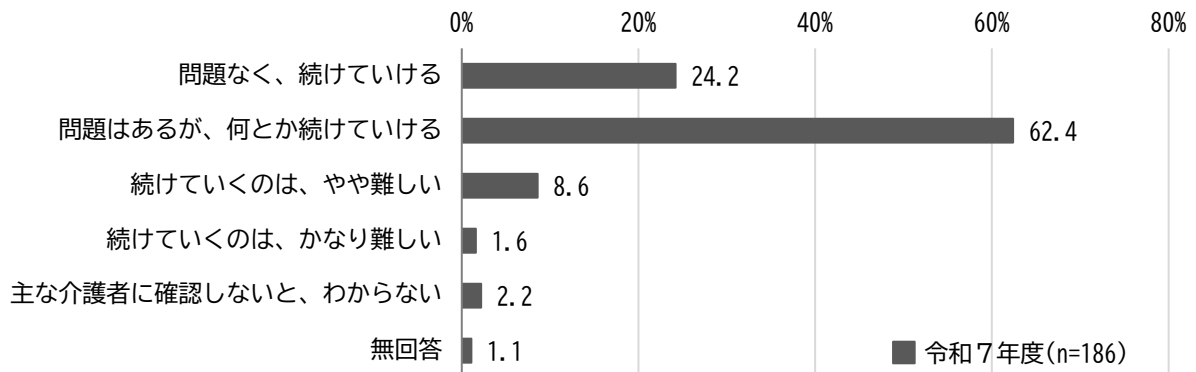
【図表 290】主な介護者の働き方の調整状況



問 11 今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(単数回答)

「問題はあるが、何とか続けていける」が62.4%と最も多く、次いで「問題なく、続けていける」が24.2%、「続けていくのは、やや難しい」が8.6%となっている。

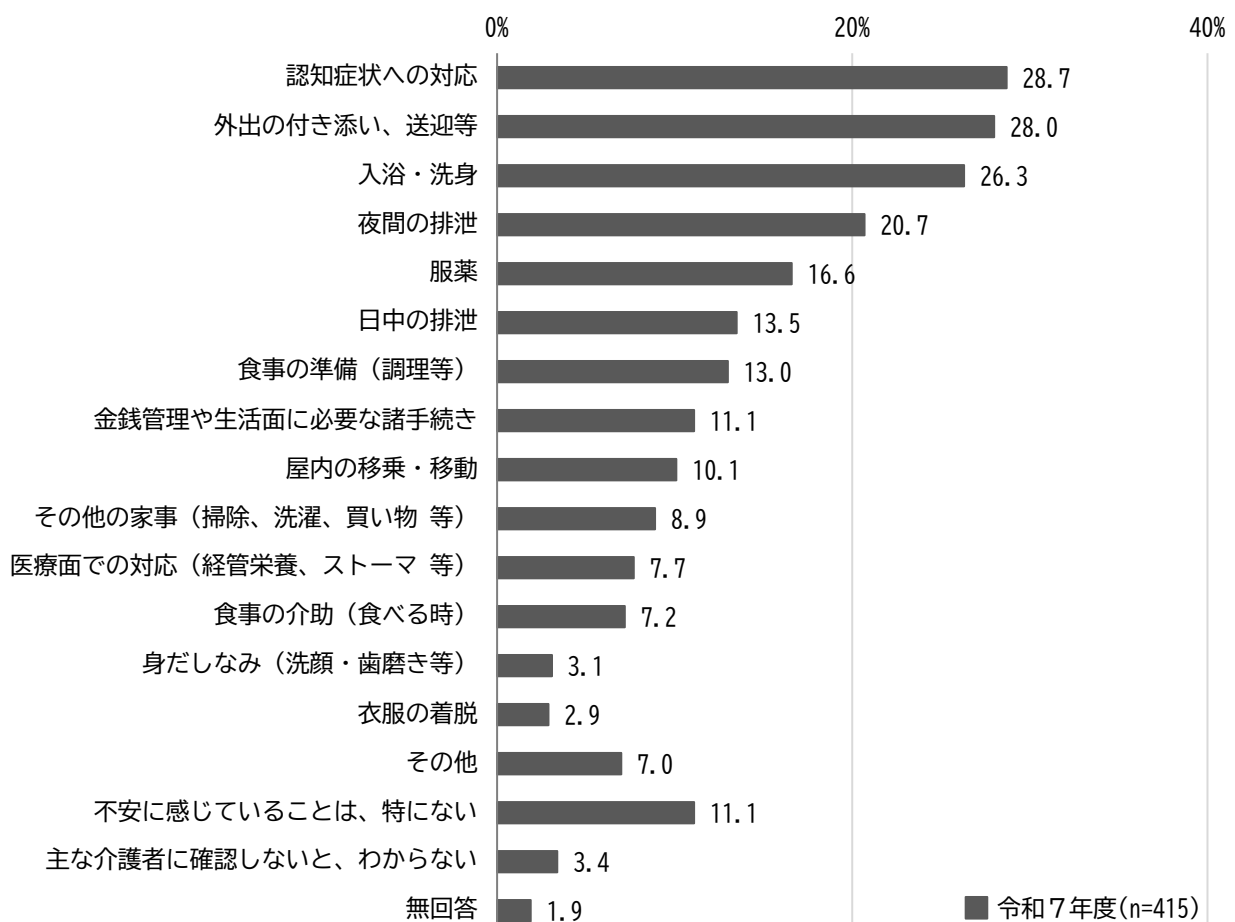
【図表 291】 主な介護者の就労継続の可否に係る意識



問 12 現在の生活を継続するにあたって、主な介護者が不安に感じることはどれですか。(3つまで回答可)

「認知症状への対応」が28.7%と最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が28.0%、「入浴・洗身」が26.3%となっている。

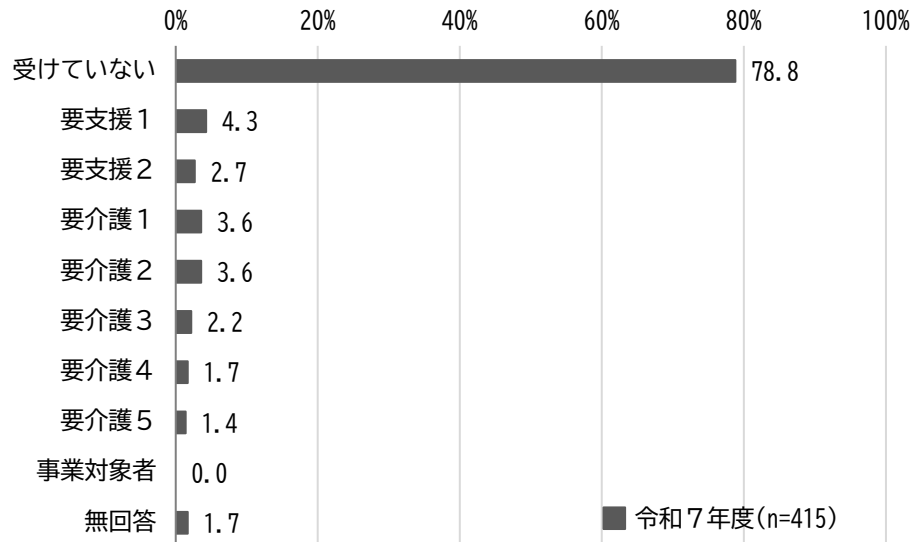
【図表 292】 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護



問 13 主な介護者は介護保険の認定を受けていますか。(単数回答)

「受けていない」が78.8%と最も多く、次いで「要支援1」が4.3%、「要介護1」及び「要介護2」が同率で3.6%となっている。

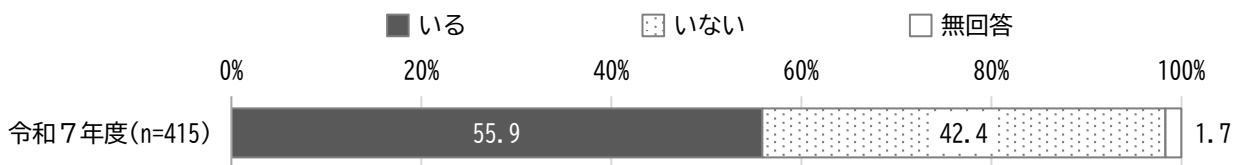
【図表 293】 主な介護者の介護保険認定



問 14 主な介護者を手助けするような方（副介護者）はいますか。(単数回答)

「いる」が55.9%、「いない」が42.4%となっている。

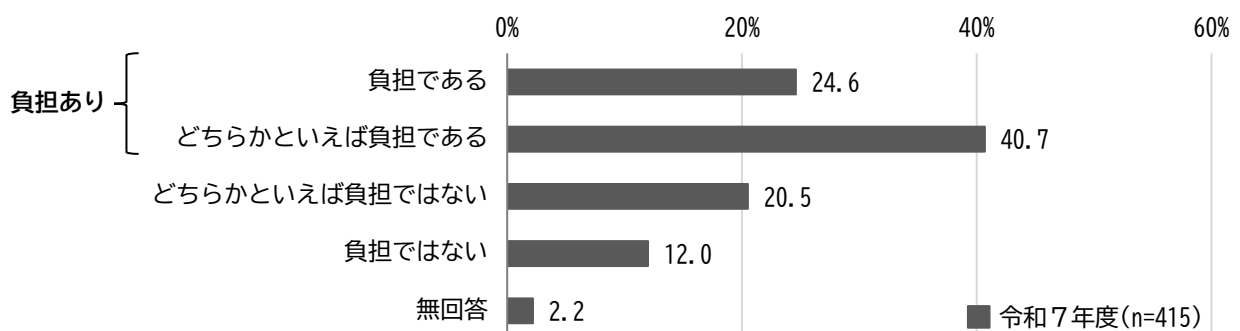
【図表 294】 副介護者の有無



問 15 主な介護者の介護負担感は、次のうちどれですか。(単数回答)

「どちらかといえば負担である」が40.7%と最も多く、「負担である」(24.6%)を合わせた“負担あり”は65.3%となっている。

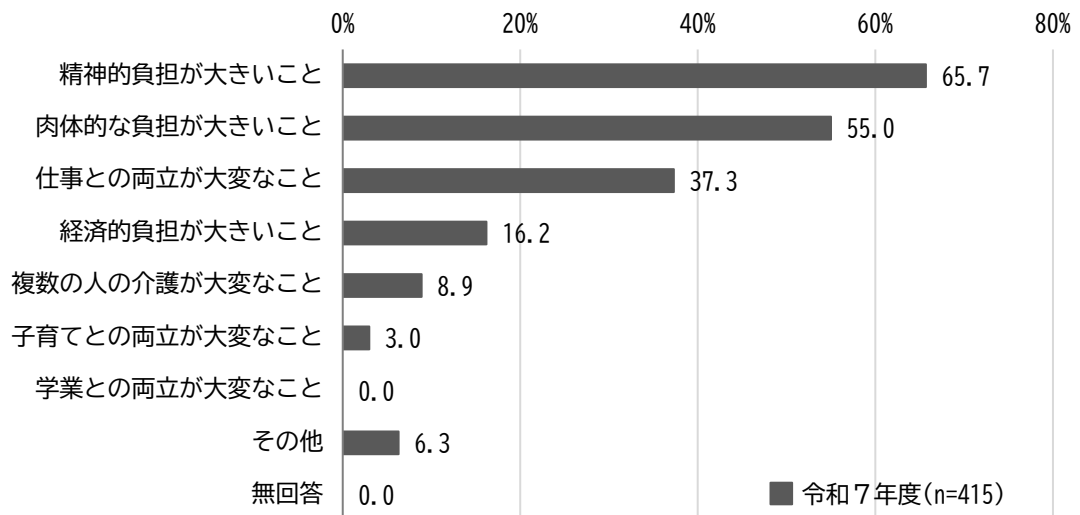
【図表 295】 介護負担感



【問 15 で「負担あり」と回答した方】
問 15-1 それほどのような理由ですか。(複数回答)

「精神的負担が大きいこと」が 65.7%と最も多く、次いで「肉体的な負担が大きいこと」が 55.0%、「仕事との両立が大変なこと」が 37.3%となっている。

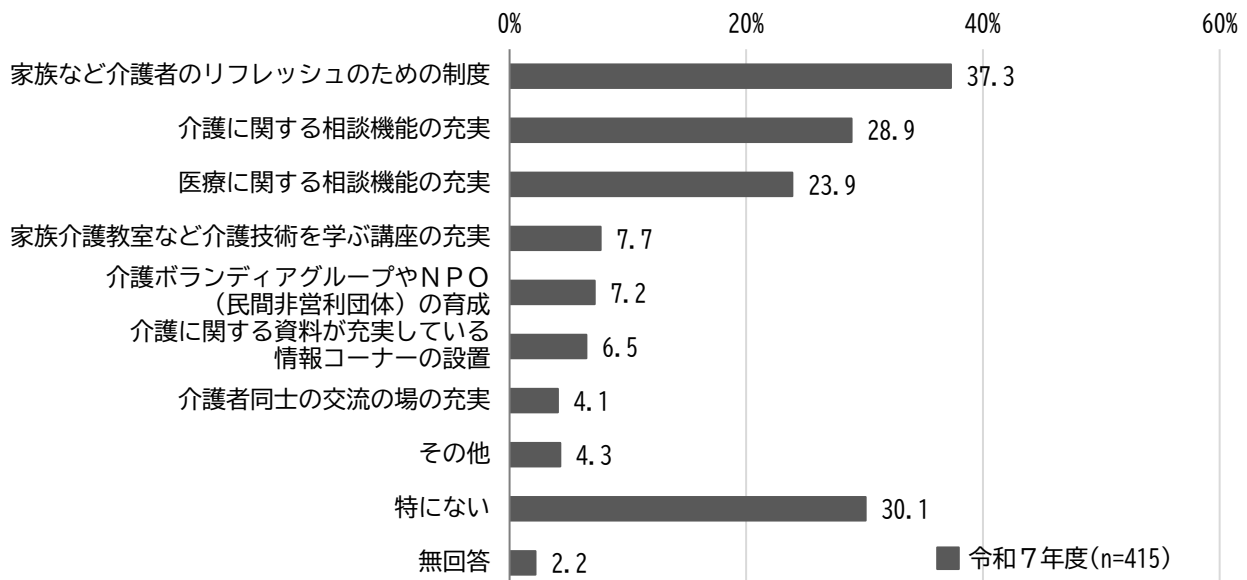
【図表 296】介護が負担である理由



問 16 介護者への支援として、区に力を入れてほしいことは、次のうちどれですか。(複数回答)

「家族など介護者のリフレッシュのための制度」が 37.3%と最も多く、次いで「介護に関する相談機能の充実」が 28.9%、「医療に関する相談機能の充実」が 23.9%となっている。

【図表 297】介護者への支援で区に力を入れてほしいこと

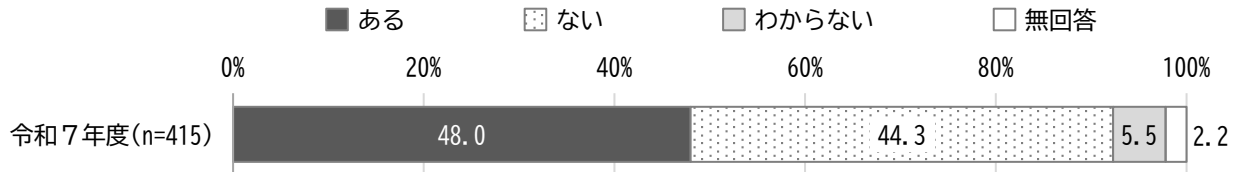


3. 認知症について

問 17 あなたが介護している方には、認知症の症状がありますか。(単数回答)

「ある」が48.0%、「ない」が44.3%となっている。

【図表 298】 認知症の症状の有無

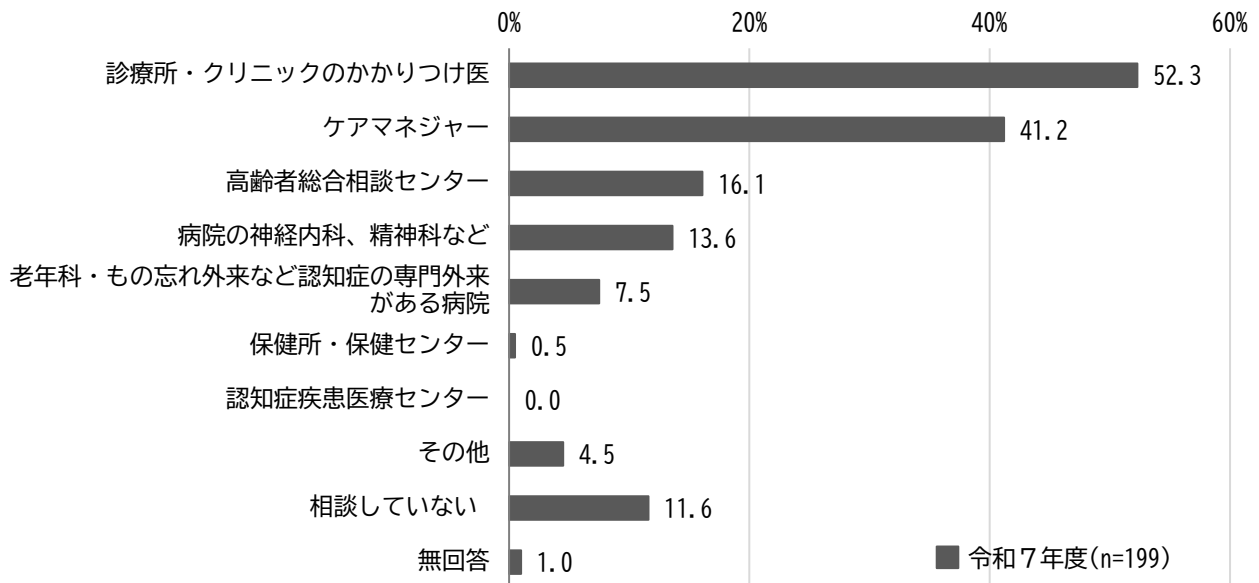


【問 17 で「ある」と回答した方】

問 17-1 介護している方が認知症ではないかと気づいた、あるいは不安になったときに、どこに相談しましたか。(複数回答)

認知症の症状が「ある」と回答した方に相談先を聞いたところ、「診療所・クリニックのかかりつけ医」が52.3%と最も多く、次いで「ケアマネジャー」が41.2%、「高齢者総合相談センター」が16.1%となっている。

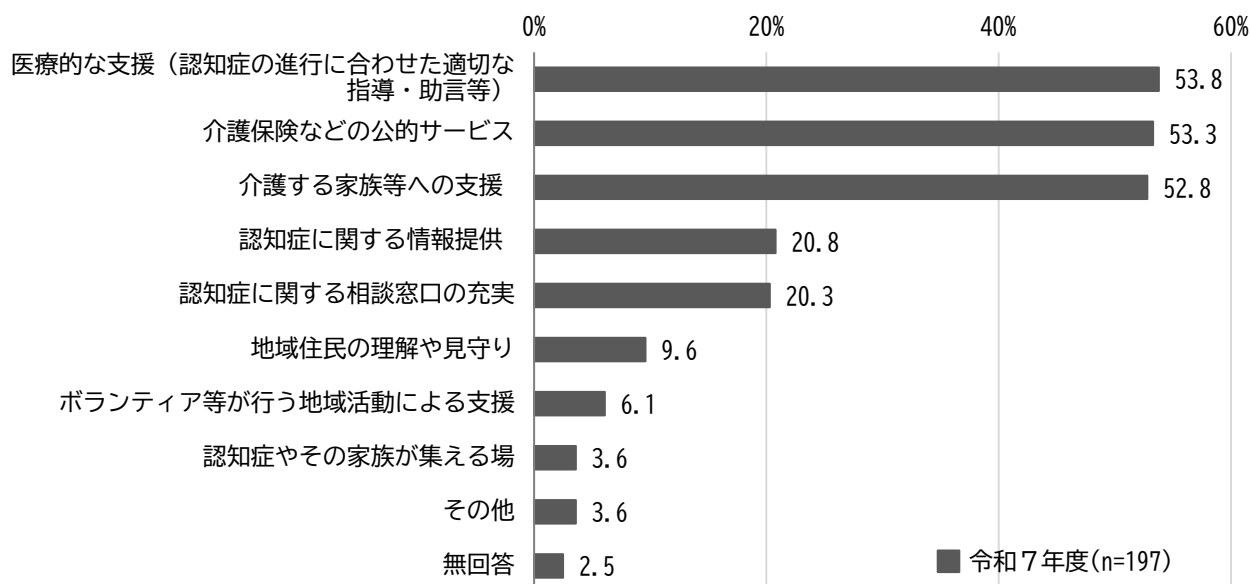
【図表 299】 認知症についての相談先



【問 17-1 で設問を回答した方】
 問 17-2 認知症のご本人の介護において、必要と思うことは何ですか。(複数回答)

認知症についての相談先を回答された方に認知症の介護で必要と思うことを聞いたところ、「医療的な支援（認知症の進行に合わせた適切な指導・助言等）」が 53.8%と最も多く、次いで「介護保険などの公的サービス」が 53.3%、「介護する家族等への支援」が 52.8%となっている。

【図表 300】 認知症の介護で必要と思うこと



自由回答

問 18 介護者の立場から、区へのご要望・ご意見があればお願いします（高齢者の保健と福祉に関する施策、介護保険、福祉・医療に関する新たな取り組みなど）

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、84 件の回答があった。意見を 8 項目にまとめた各項目の主な意見は以下のとおり。

在宅介護サービスについて	19 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ ヘルパーの人材確保と育成をお願いしたい。 ・ 介護サービスの利用開始に際して、その対応のスピード感が求められると感じる。 	
高齢者施策について	17 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ おむつの費用助成が助かっている。 ・ 介護者リフレッシュ支援事業を使用して助かっている。 	
行政への要望について	17 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 車椅子を利用している方、高齢者に優しい道路にして欲しい。 ・ コズミックセンターに通えるようなバスを運行して欲しい。 ・ アンケート結果を踏まえた具体的施策等、広報等で知らせてほしい。 	
介護保険について	4 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険料を安くして欲しい。 ・ 介護認定申請について、もう少しスムーズに進めて欲しい。 	
高齢者向け施設について	2 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ お金のない高齢者が入居できる特別養護老人ホーム以外の施設が少ないので、対応して欲しい。 	
独居高齢者について	2 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の独居に不安を感じている。 	
認知症高齢者について	1 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外出する際にGPSや名前・住所・電話番号を書いたカードも出る時に必ず持っていくとは限らないため、徘徊すると探すことが困難。命を最優先に対応策を検討して欲しい。 	
その他	22 件

【参考】在宅介護実態調査（厚生労働省 在宅介護実態調査自動集計分析ソフトによる集計分析結果）

調査結果の留意点

- 報告書作成にあたり「厚生労働省老健局介護保険計画課 在宅介護実態調査自動集計分析ソフト」を用いて介護保険認定データと突合できた606人を母数として集計・分析を行った。
- 本文中の「サービスの利用回数」は、認定調査を行った月のサービスの利用回数または、認定調査を行った月の利用状況が通常の場合と異なる場合は、直近の月のサービス利用回数である。
- サービスの利用回数・組み合わせ等に着眼した集計・分析に係る用語の定義は以下のとおりである。

<サービス利用の分析に用いた用語の定義>

用語	定義	
未利用	・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、「未利用」として集計している。	
訪問系	・（介護予防）訪問介護、（介護予防）訪問入浴介護、（介護予防）訪問看護、（介護予防）訪問リハビリテーション、（介護予防）居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計している。	
通所系	・（介護予防）通所介護、（介護予防）通所リハビリテーション、（介護予防）認知症対応型通所介護を「通所系」として集計している。	
短期系	・（介護予防）短期入所生活介護、（介護予防）短期入所療養介護を「短期系」として集計している。	
その他	小規模多機能	・（介護予防）小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計している。
	看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計している。
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計している。

<サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義>

用語	定義
未利用	・上表に同じ
訪問系のみ	・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計している。
訪問系を含む組み合わせ	・上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」＋「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計している。
通所系・短期系のみ	・上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」＋「短期系」の利用を集計している。

6 在宅介護実態調査

<障害高齢者の日常生活自立度>

用語	説明	
J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。	
	J 1	交通機関等を利用して外出する。
	J 2	隣近所へなら外出する。
A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。	
	A 1	介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。
	A 2	外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。
B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。	
	B 1	車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。
	B 2	介助により車いすに移乗する。
C	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。	
	C 1	自力で寝返りをうつ。
	C 2	自力では寝返りもうてない。

<認知症高齢者の日常生活自立度>

用語	説明	
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
	II a	家庭外で上記IIの状態が見られる。
	II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。
III	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	
	III a	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。
	III b	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	

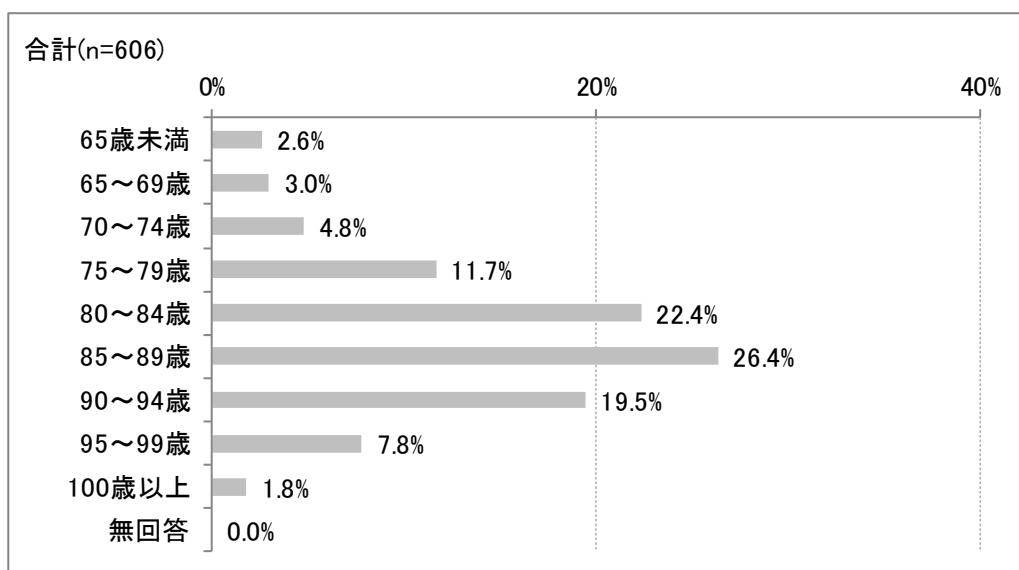
1 調査結果の詳細（単純集計結果）

要介護認定データ

（1）年齢

「85～89歳」の割合が最も高く26.4%となっている。次いで、「80～84歳（22.4%）」、「90～94歳（19.5%）」となっている。

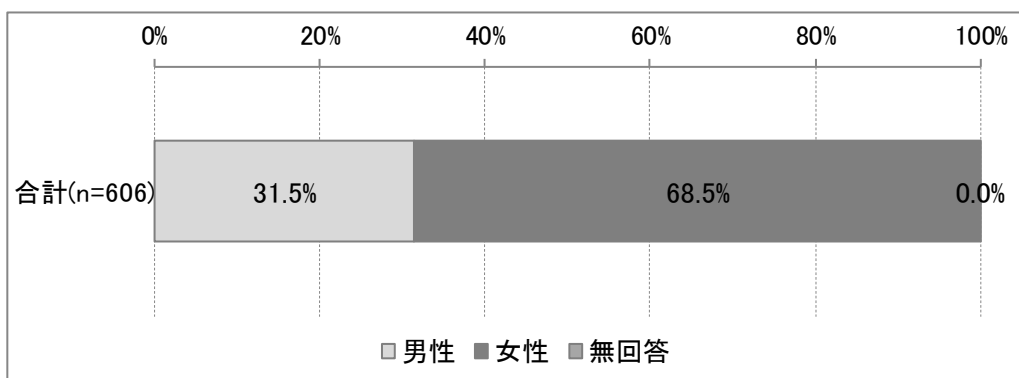
【図表 301】年齢



（2）性別

「男性」が31.5%、「女性」が68.5%となっている。

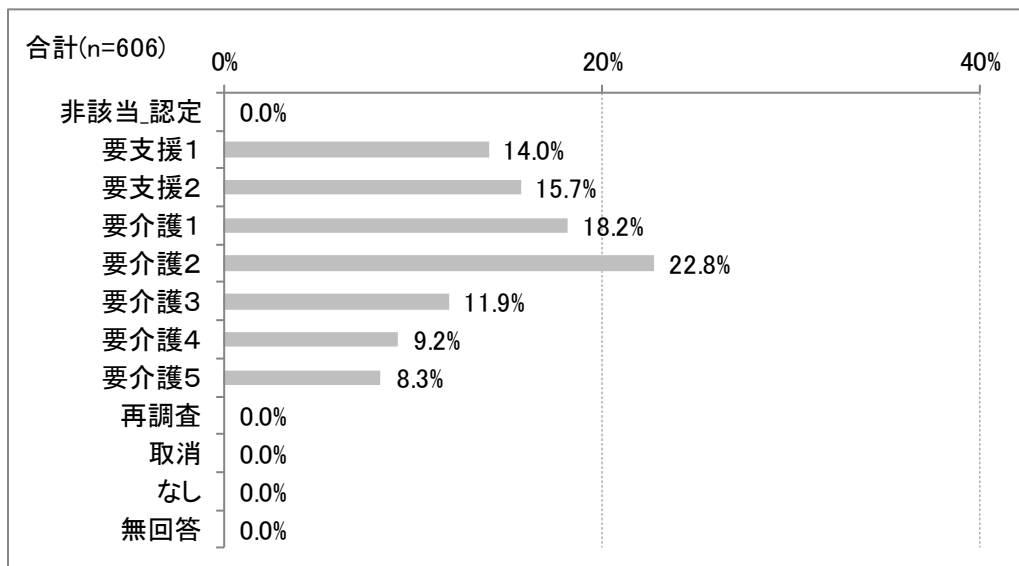
【図表 302】性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

「要介護2」の割合が最も高く 22.8%となっている。次いで、「要介護1（18.2%）」、「要支援2（15.7%）」となっている。

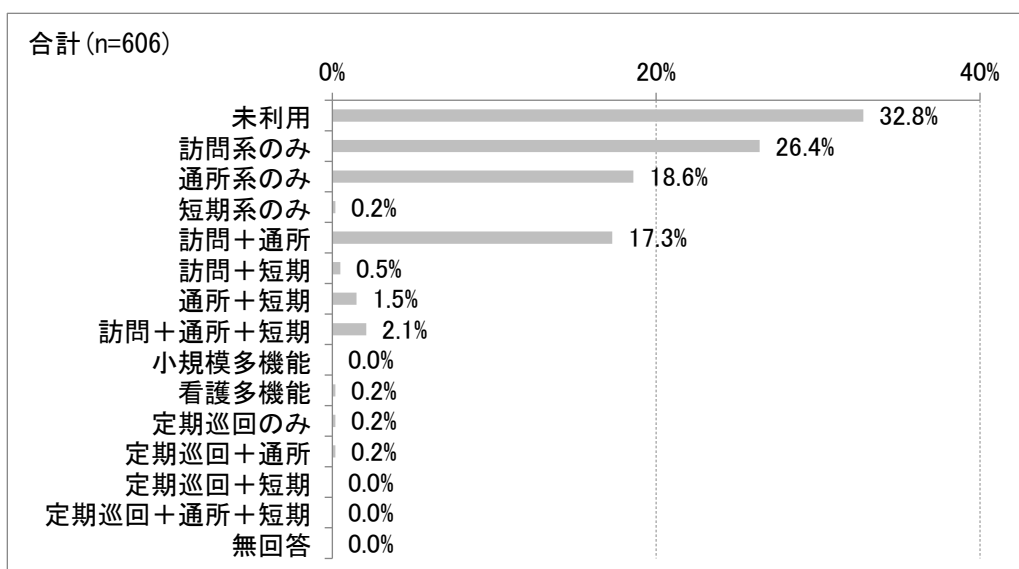
【図表 303】 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

「未利用」の割合が最も高く 32.8%となっている。次いで、「訪問系のみ（26.4%）」、「通所系のみ（18.6%）」となっている。

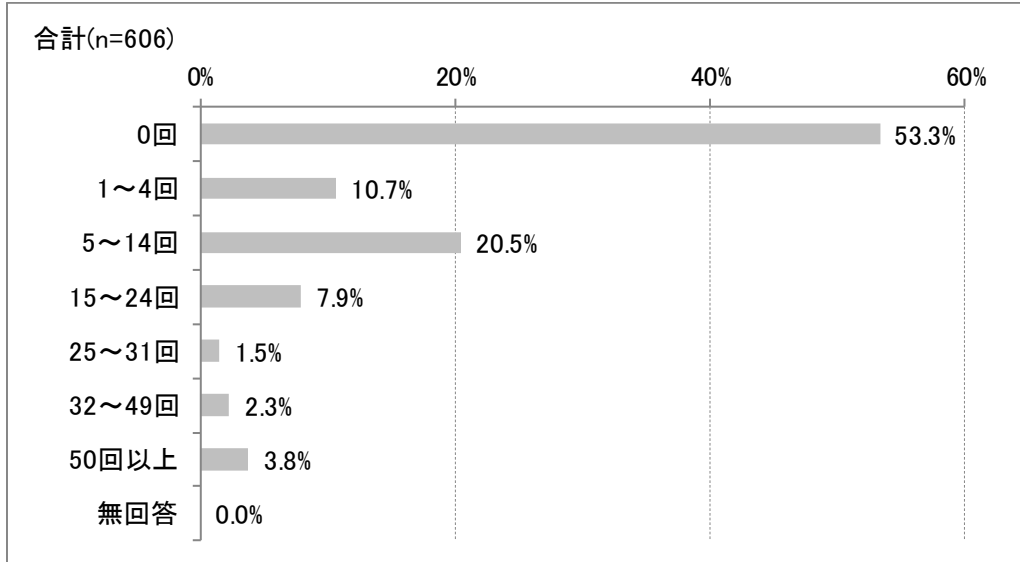
【図表 304】 サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 53.3%となっている。次いで、「5～14回 (20.5%)」、「1～4回 (10.7%)」となっている。

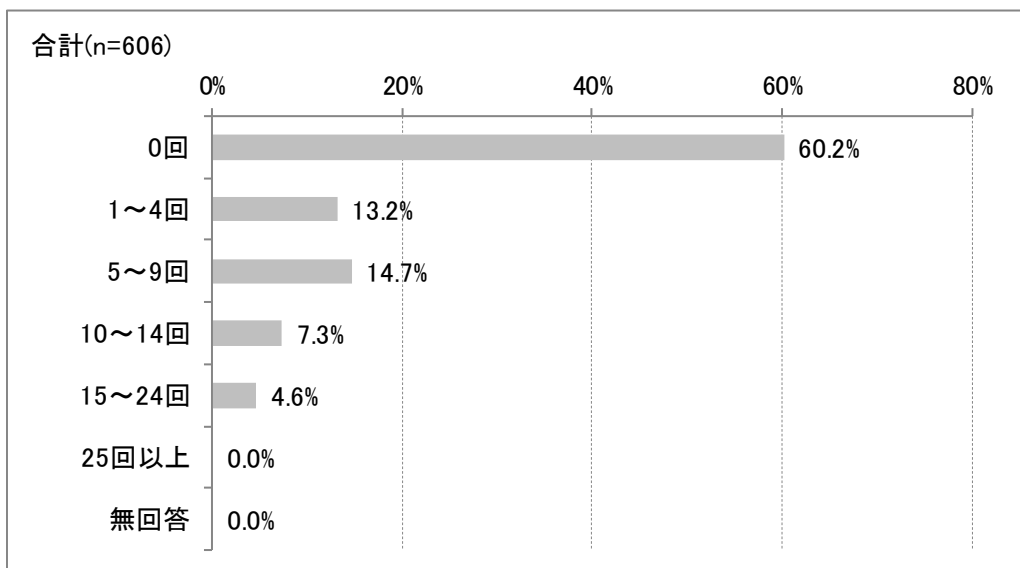
【図表 305】サービスの利用回数（訪問系）



(6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 60.2%となっている。次いで、「5～9回 (14.7%)」、「1～4回 (13.2%)」となっている。

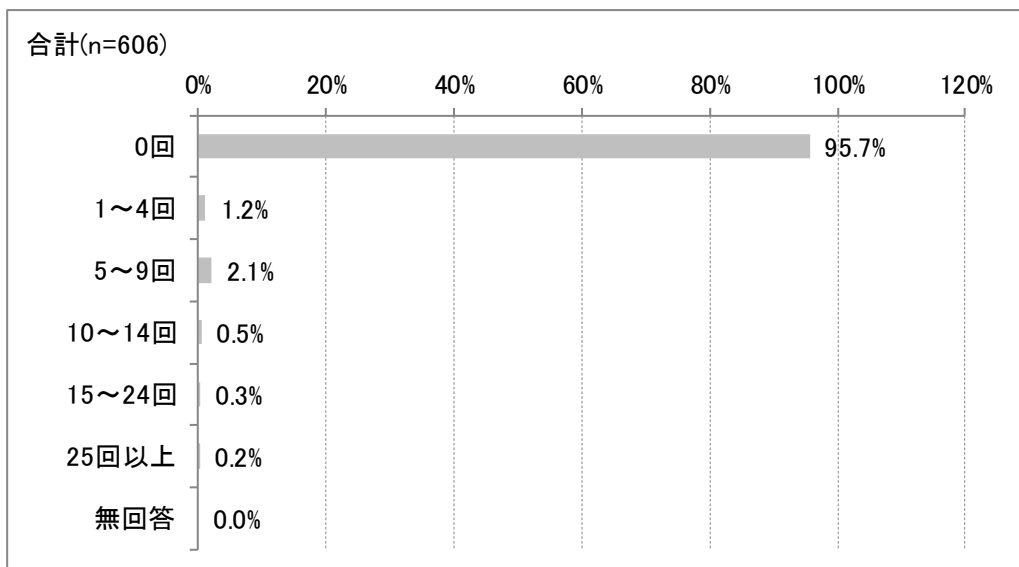
【図表 306】サービスの利用回数（通所系）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 95.7%となっている。次いで、「5～9回 (2.1%)」、「1～4回 (1.2%)」となっている。

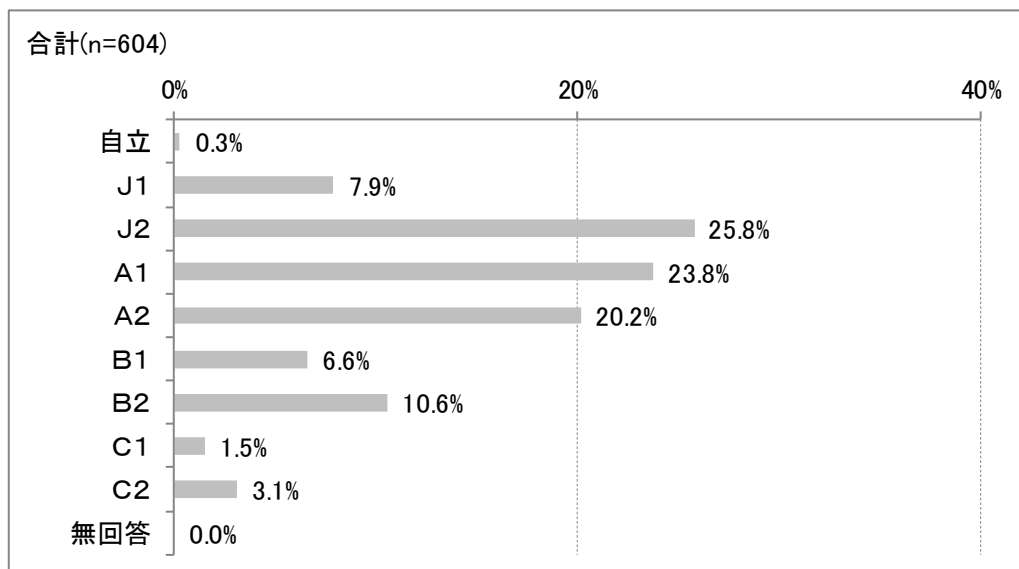
【図表 307】サービスの利用回数（短期系）



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「J2」の割合が最も高く 25.8%となっている。次いで、「A1 (23.8%)」、「A2 (20.2%)」となっている。

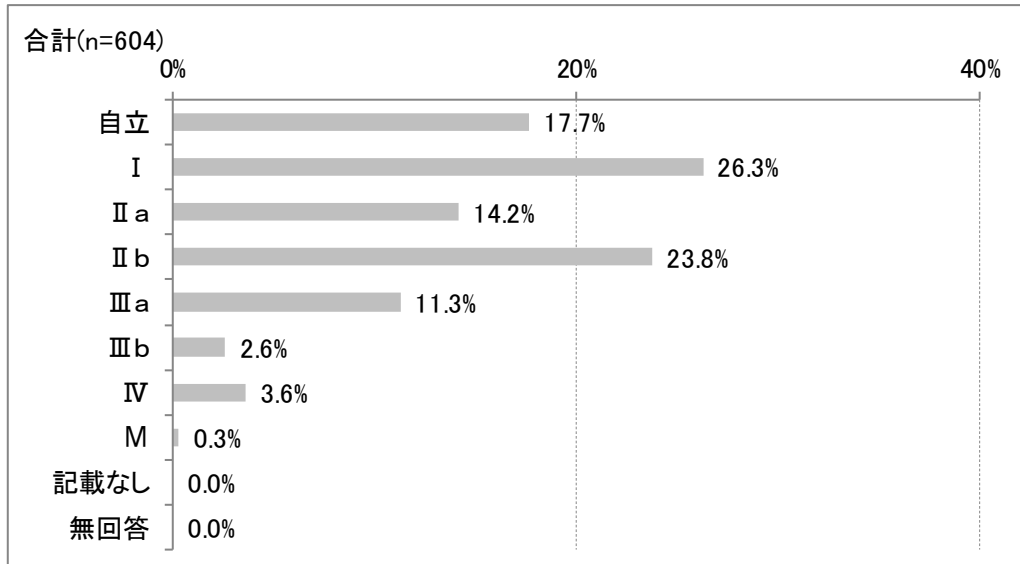
【図表 308】障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「I」の割合が最も高く 26.3%となっている。次いで、「II b (23.8%)」、「自立 (17.7%)」となっている。

【図表 309】 認知症高齢者の日常生活自立度

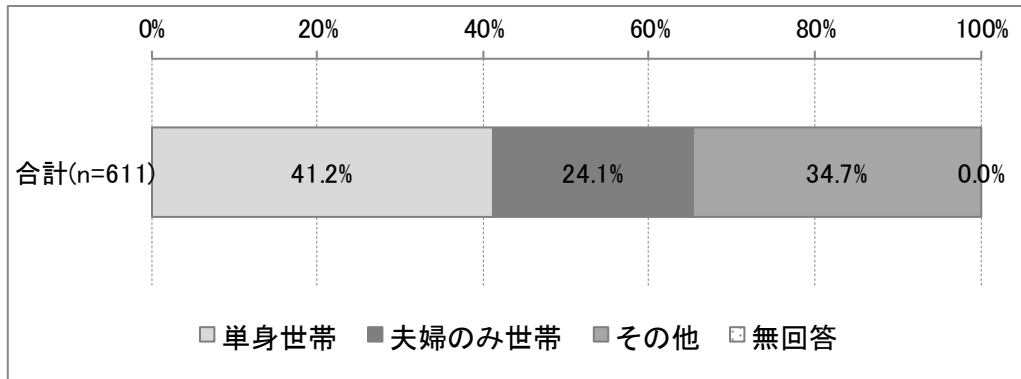


基本調査項目

(1) 世帯類型 (単数回答)

「単身世帯」の割合が最も高く 41.2%となっている。次いで、「その他 (34.7%)」、「夫婦のみ世帯 (24.1%)」となっている。

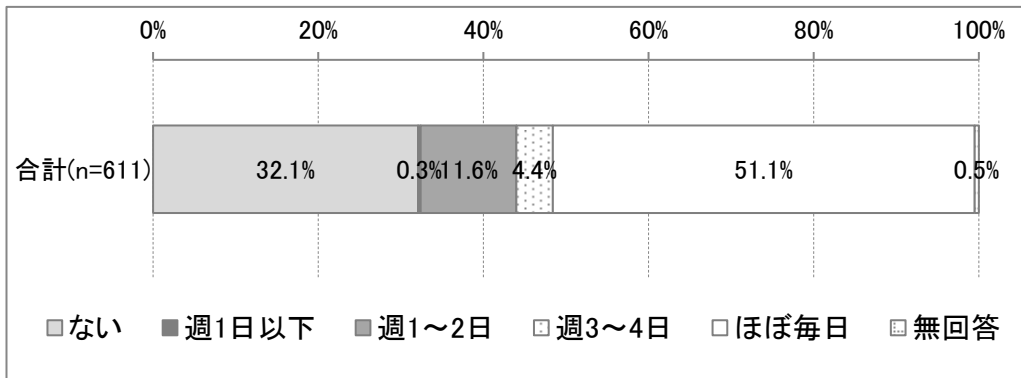
【図表 310】 世帯類型



(2) 家族等による介護の頻度 (単数回答)

「ほぼ毎日」の割合が最も高く 51.1%となっている。次いで、「ない (32.1%)」、「週 1~2 日 (11.6%)」となっている。

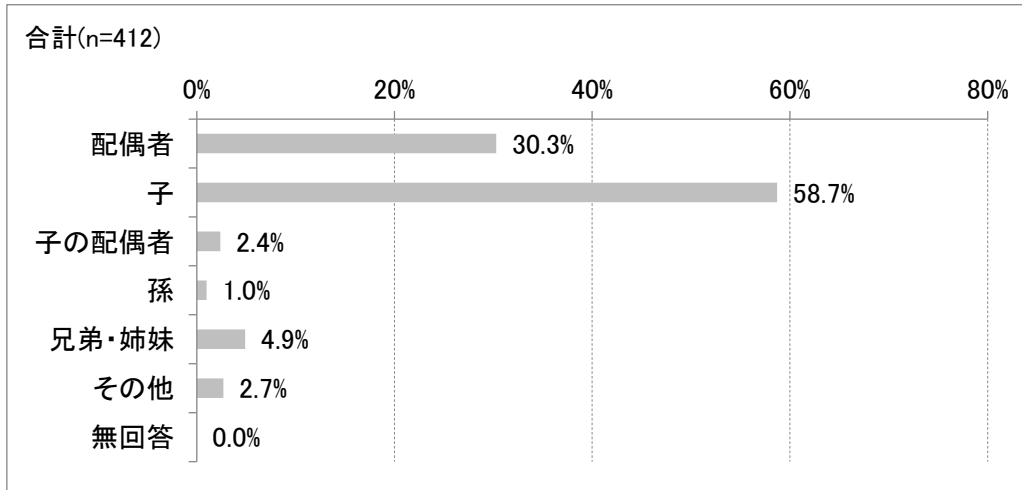
【図表 311】 家族等による介護の頻度



(3) 主な介護者の本人との関係（単数回答）

「子」の割合が最も高く 58.7%となっている。次いで、「配偶者（30.3%）」、「兄弟・姉妹（4.9%）」となっている。

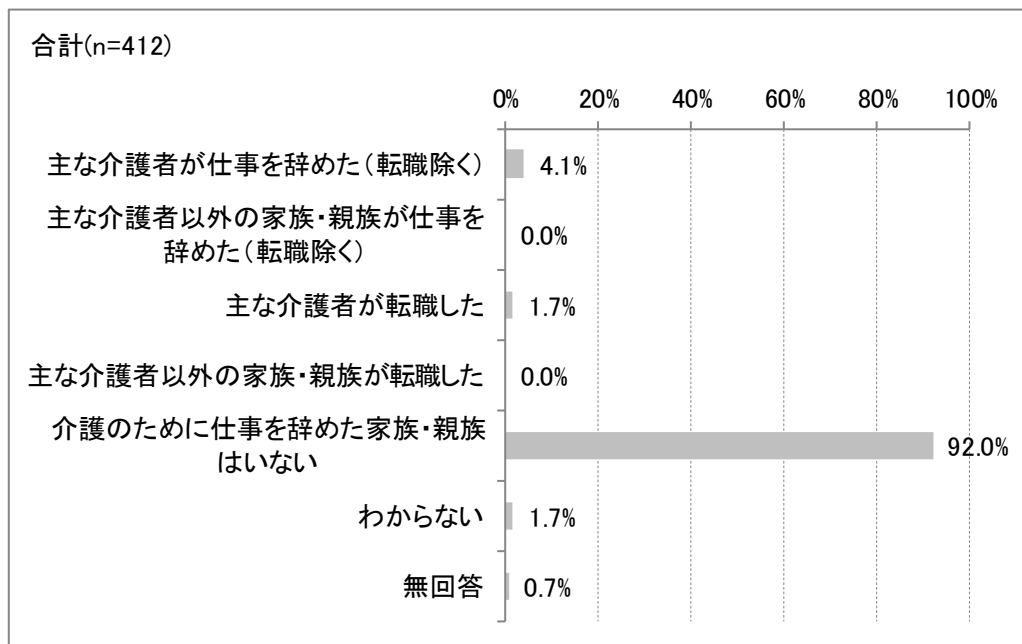
【図表 312】 主な介護者の本人との関係



(4) 介護のための離職の有無（複数回答）

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 92.0%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）（4.1%）」、「主な介護者が転職した（1.7%）」、「わからない（1.7%）」となっている。

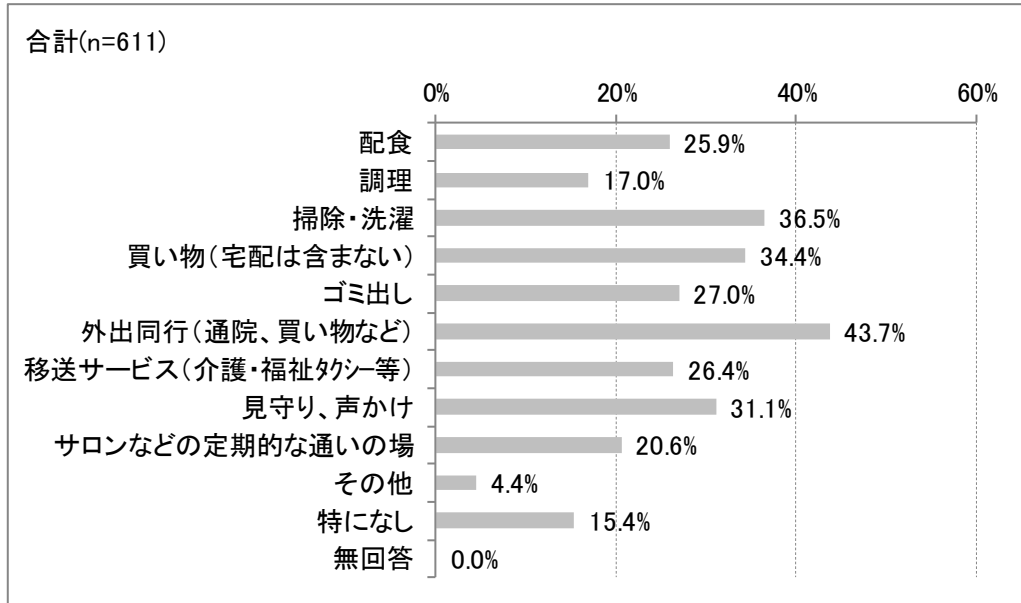
【図表 313】 介護のための離職の有無



(5) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）

「外出同行（通院、買い物など）」の割合が最も高く 43.7%となっている。次いで、「掃除・洗濯（36.5%）」、「買い物（宅配は含まない）（34.4%）」となっている。

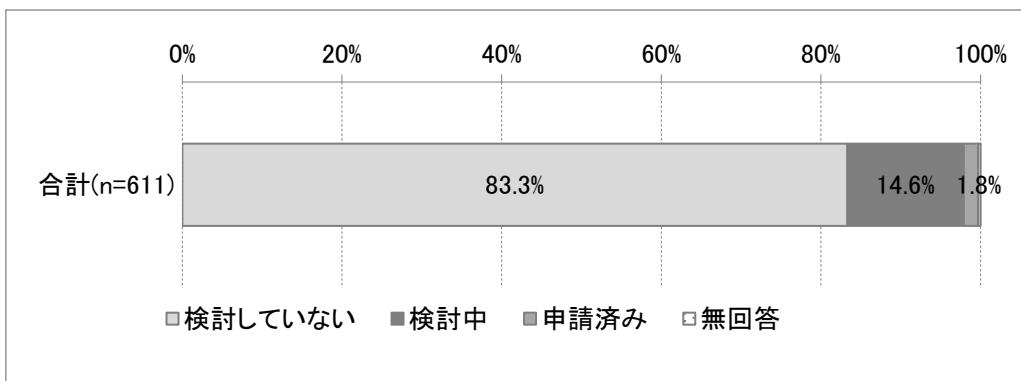
【図表 314】 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス



(6) 施設等検討の状況（単数回答）

「検討していない」の割合が最も高く 83.3%となっている。次いで、「検討中（14.6%）」、「申請済み（1.8%）」となっている。

【図表 315】 施設等検討の状況

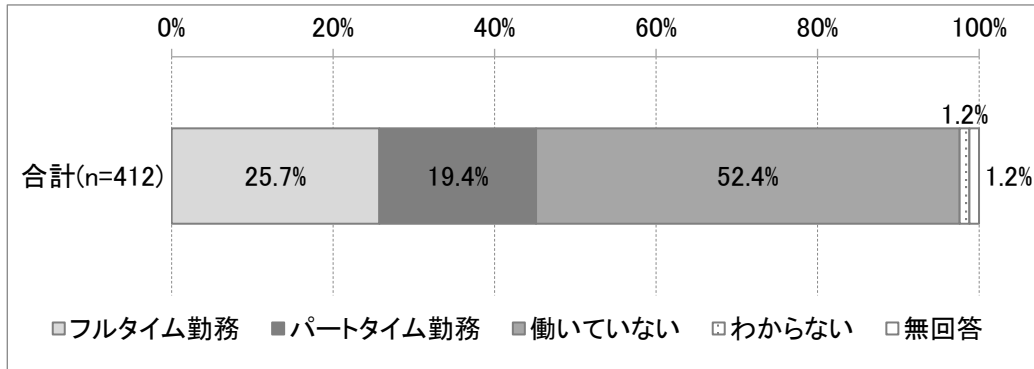


主な介護者の調査項目

(1) 主な介護者の勤務形態（単数回答）

「働いていない」の割合が最も高く 52.4%となっている。次いで、「フルタイム勤務（25.7%）」、「パートタイム勤務（19.4%）」となっている。

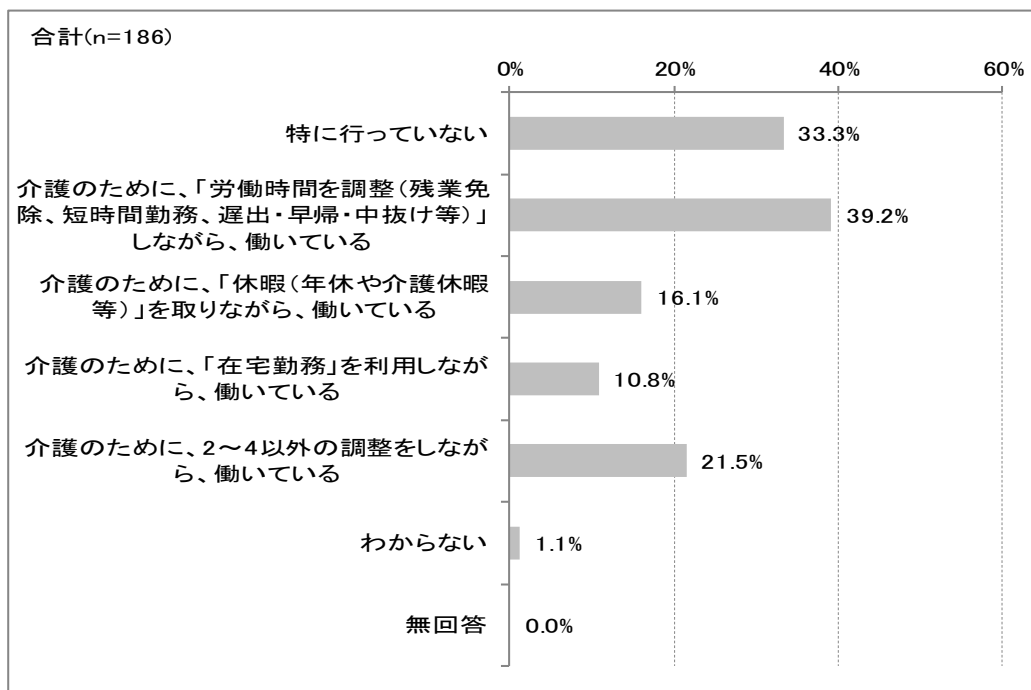
【図表 316】 主な介護者の勤務形態



(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況（複数回答）

「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が最も高く 39.2%となっている。次いで、「特に行っていない（33.3%）」、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている（21.5%）」となっている。

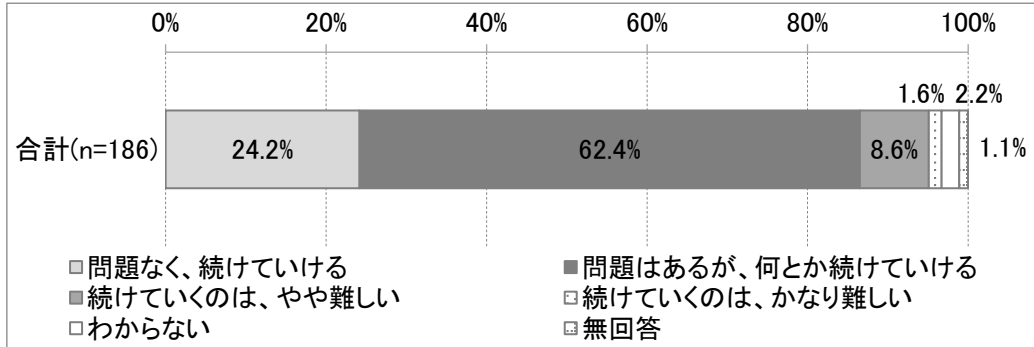
【図表 317】 主な介護者の働き方の調整状況



(3) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く 62.4%となっている。次いで、「問題なく、続けていける (24.2%)」、「続けていくのは、やや難しい (8.6%)」となっている。

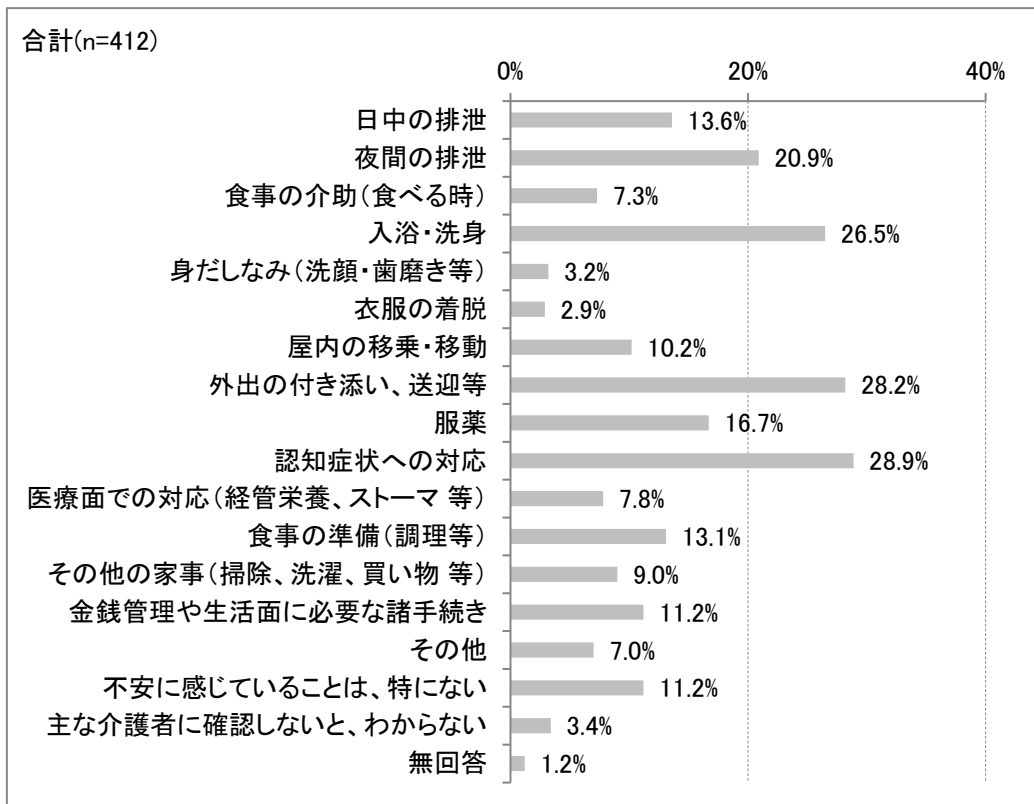
【図表 318】 主な介護者の就労継続の可否に係る意識



(4) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

「認知症状への対応」の割合が最も高く 28.9%となっている。次いで、「外出の付き添い、送迎等 (28.2%)」、「入浴・洗身 (26.5%)」となっている。

【図表 319】 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護



2 調査結果の詳細（クロス集計結果）

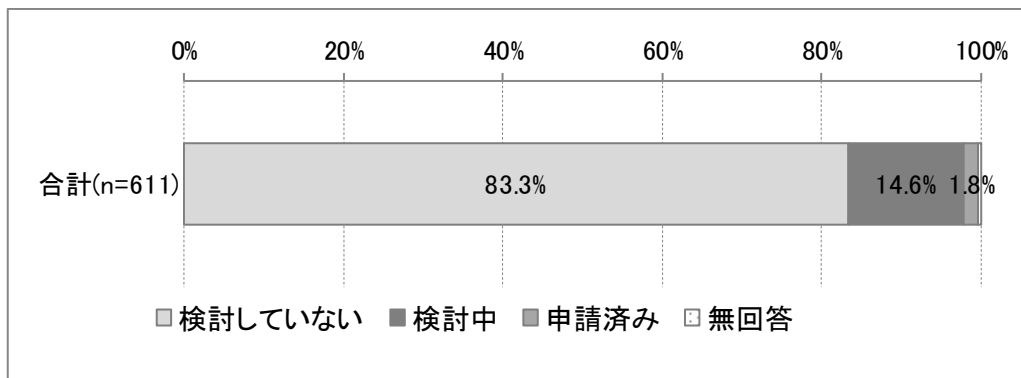
在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

(1) 基礎集計

【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が最も高く 83.3%となっている。次いで、「検討中（14.6%）」、「申請済み（1.8%）」となっている。

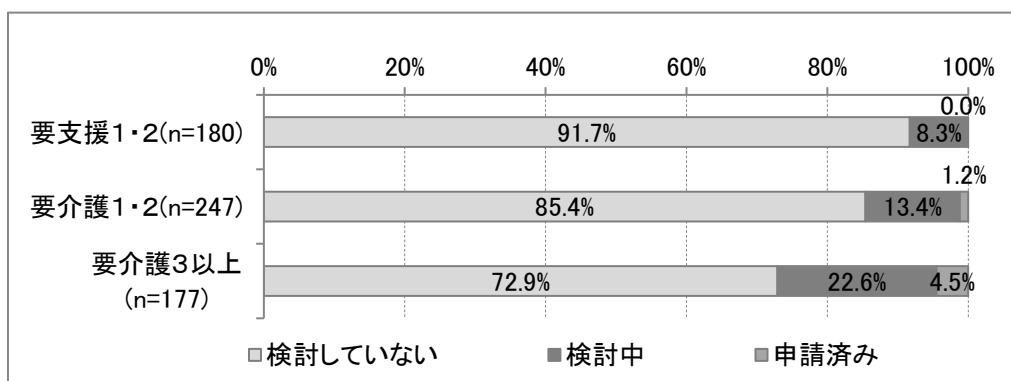
【図表 320】施設等検討の状況



【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が 91.7% ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 8.3%、「申請済み」が 0.0%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が 85.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 13.4%、「申請済み」が 1.2%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が 72.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 22.6%、「申請済み」が 4.5%となっている。

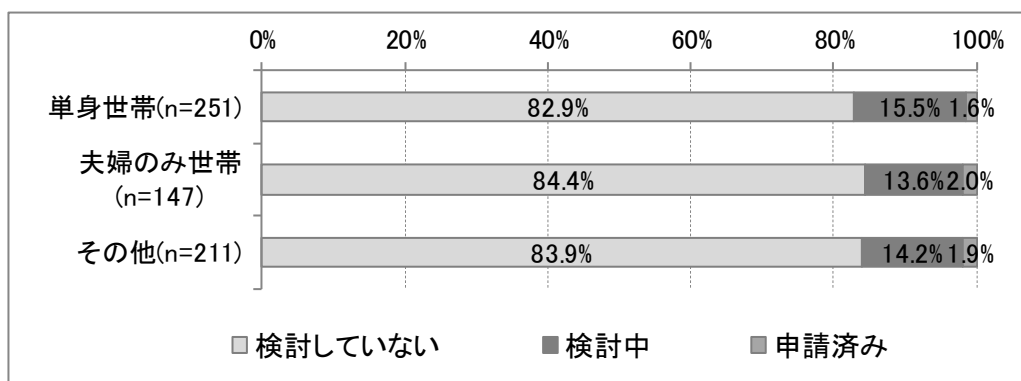
【図表 321】要介護度別・施設等検討の状況



【世帯類型別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が 82.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 15.5%、「申請済み」が 1.6%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が 84.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 13.6%、「申請済み」が 2.0%となっている。「その他」では「検討していない」が 83.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 14.2%、「申請済み」が 1.9%となっている。

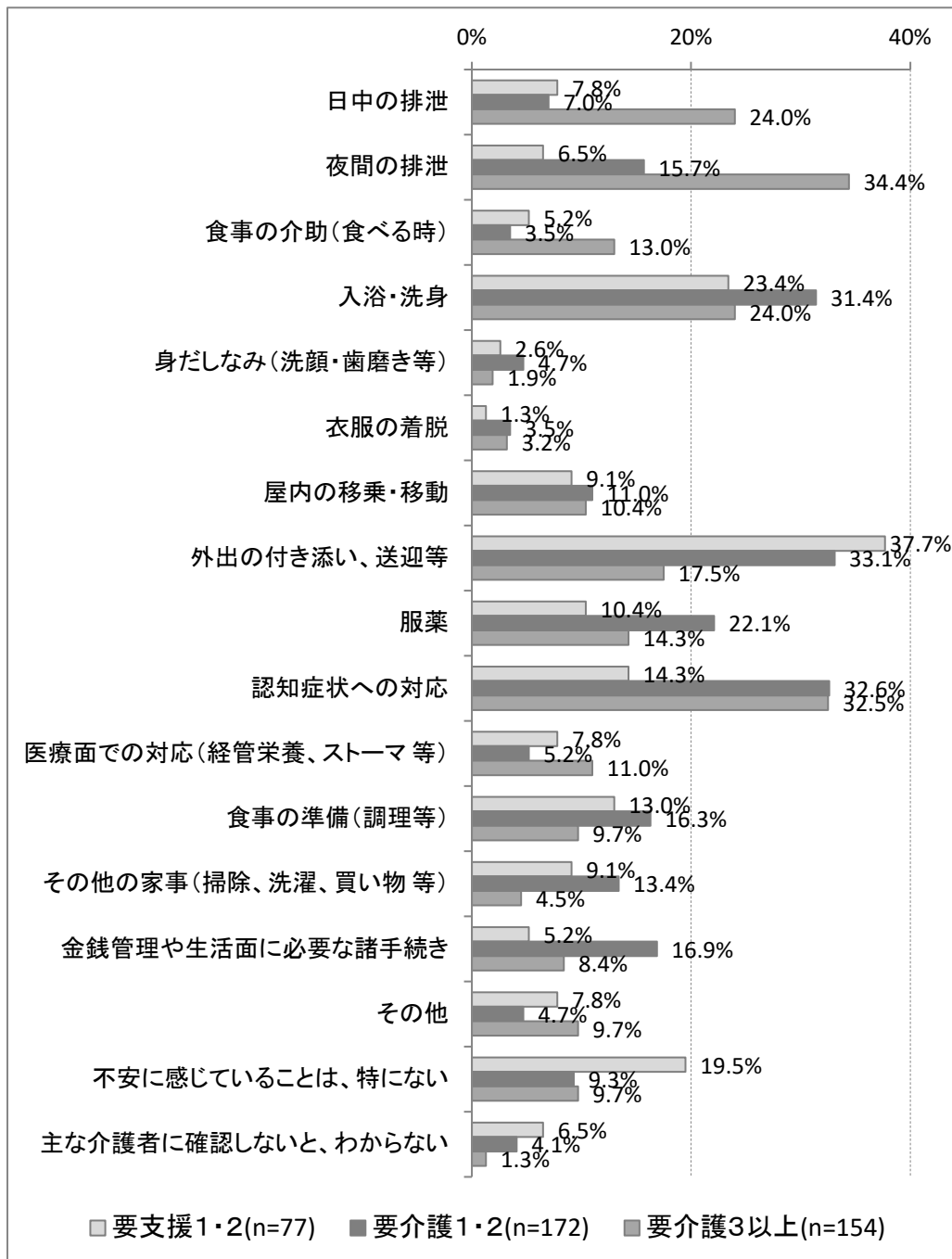
【図表 322】世帯類型別・施設等検討の状況



(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化 【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が37.7%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が23.4%、「不安に感じていることは、特にない」が19.5%となっている。「要介護1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が33.1%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が32.6%、「入浴・洗身」が31.4%となっている。「要介護3以上」では「夜間の排泄」が34.4%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が32.5%、「日中の排泄」が24.0%となっている。

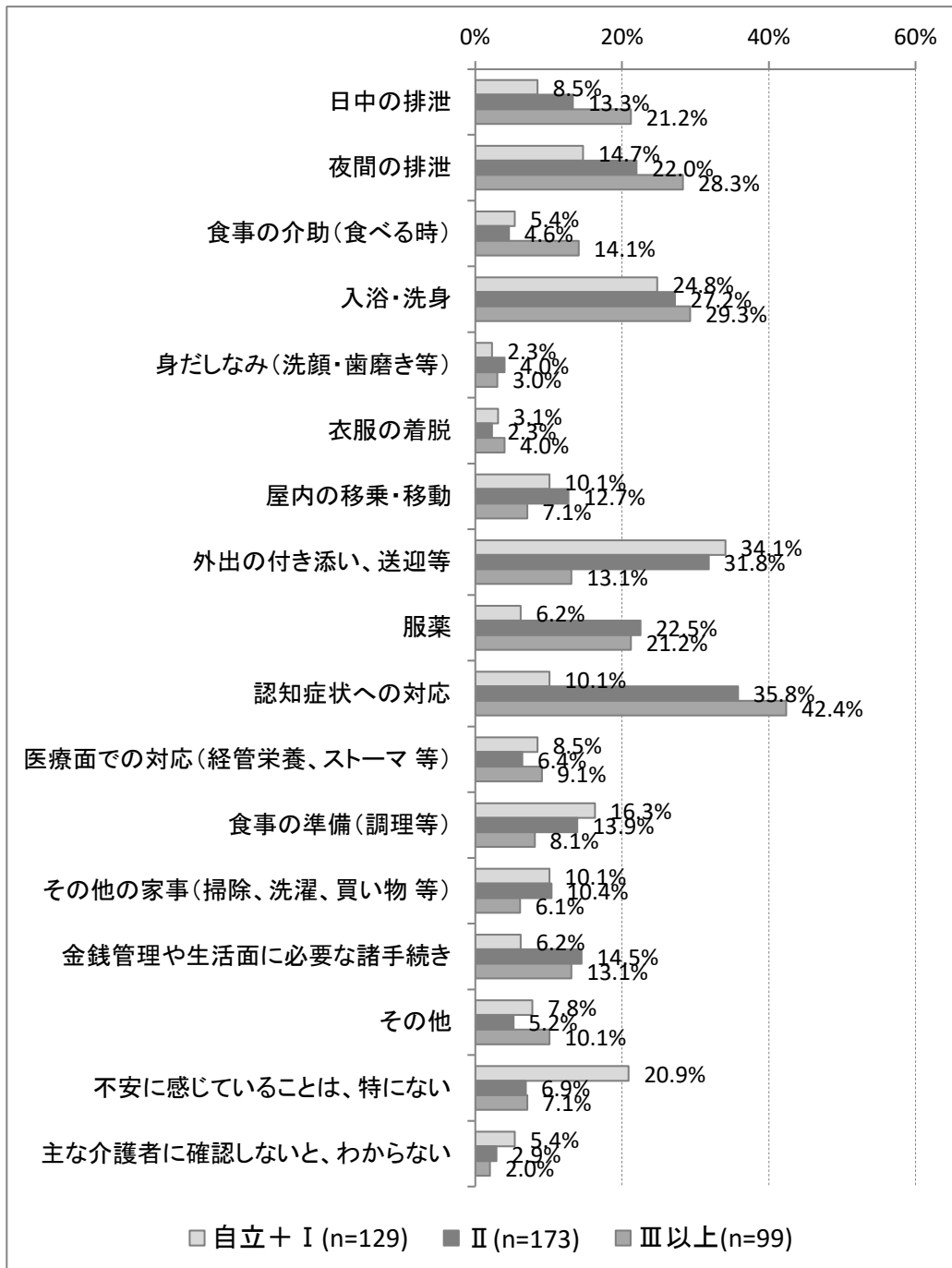
【図表 323】 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



【認知症自立度別・介護者が不安を感じる介護】

介護者が不安を感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「外出の付き添い、送迎等」が34.1%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が24.8%、「不安を感じていることは、特にない」が20.9%となっている。「Ⅱ」では「認知症状への対応」が35.8%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が31.8%、「入浴・洗身」が27.2%となっている。「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が42.4%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が29.3%、「夜間の排泄」が28.3%となっている。

【図表 324】 認知症自立度別・介護者が不安を感じる介護

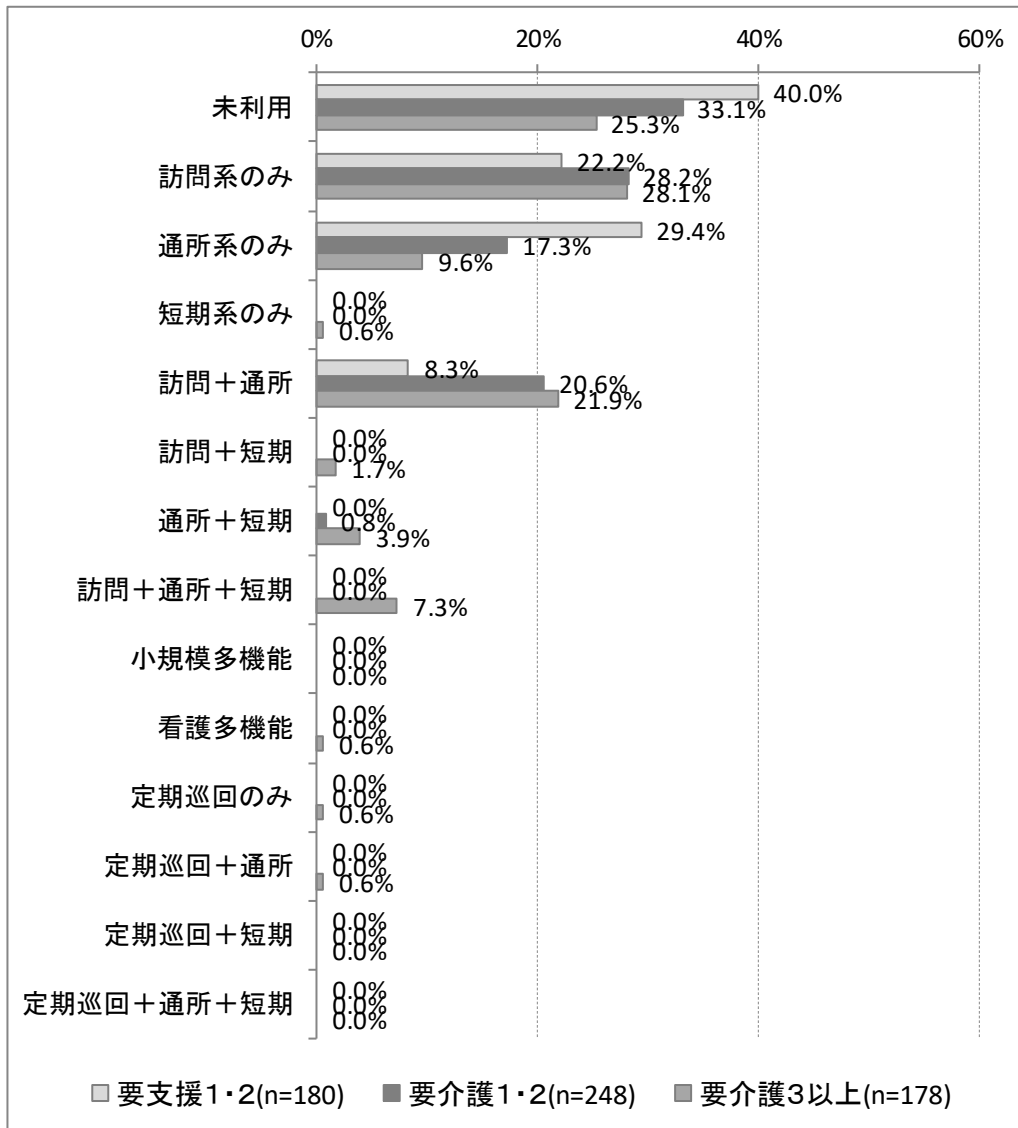


(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が40.0%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が29.4%、「訪問系のみ」が22.2%となっている。「要介護1・2」では「未利用」が33.1%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が28.2%、「訪問+通所」が20.6%となっている。「要介護3以上」では「訪問系のみ」が28.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が25.3%、「訪問+通所」が21.9%となっている。

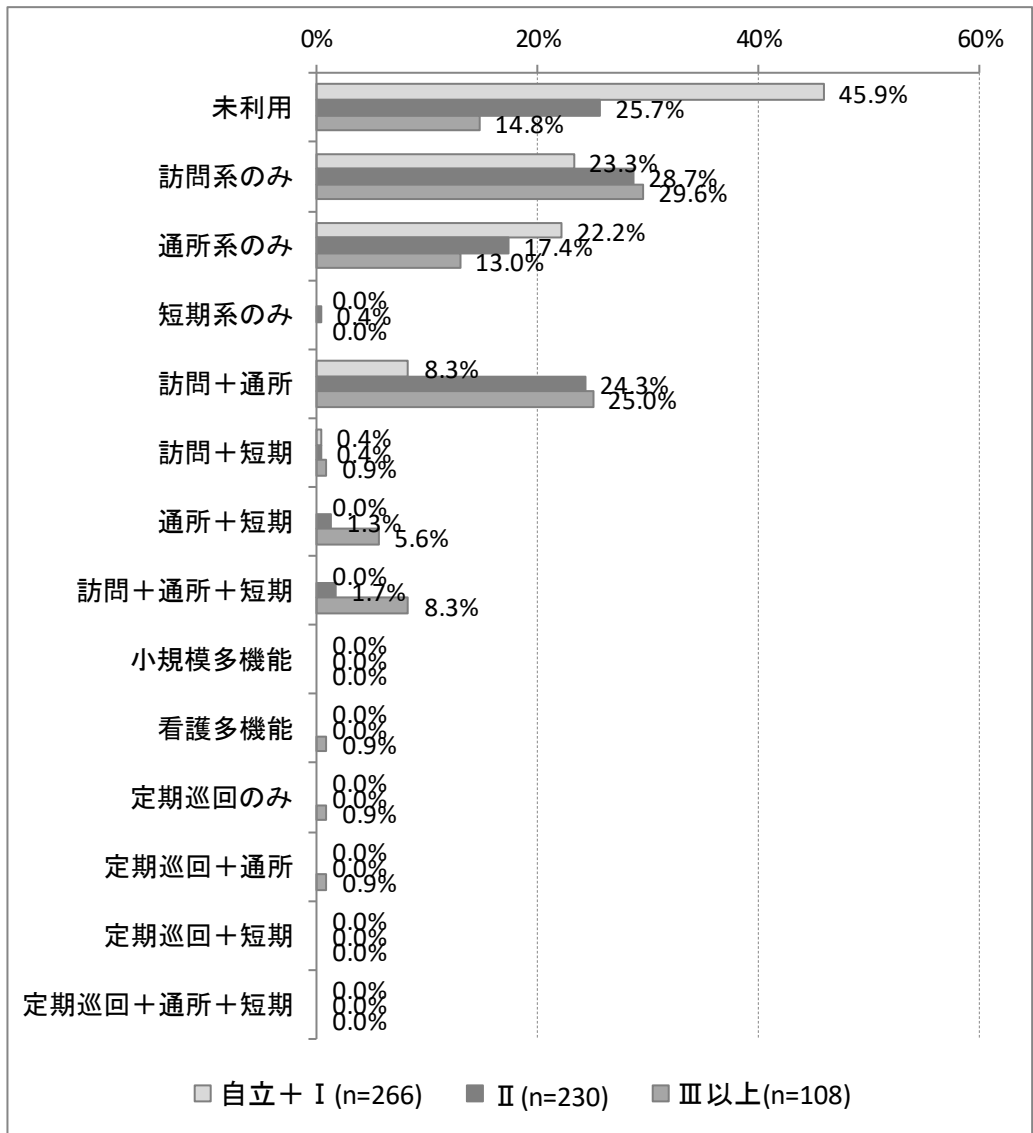
【図表 325】 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「未利用」が45.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が23.3%、「通所系のみ」が22.2%となっている。「II」では「訪問系のみ」が28.7%と最も割合が高く、次いで「未利用」が25.7%、「訪問+通所」が24.3%となっている。「III以上」では「訪問系のみ」が29.6%と最も割合が高く、次いで「訪問+通所」が25.0%、「未利用」が14.8%となっている。

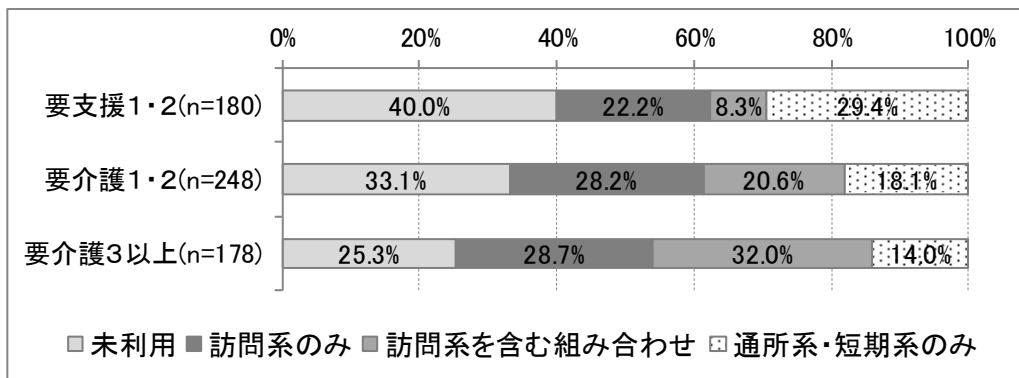
【図表 326】 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が29.4%、「訪問系のみ」が22.2%となっている。「要介護1・2」では「未利用」が33.1%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が28.2%、「訪問系を含む組み合わせ」が20.6%となっている。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が32.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が28.7%、「未利用」が25.3%となっている。

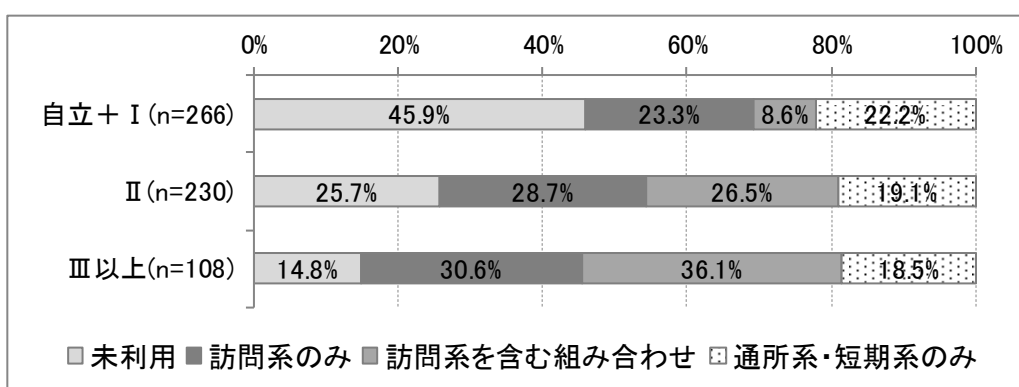
【図表 327】 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「未利用」が45.9%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が23.3%、「通所系・短期系のみ」が22.2%となっている。「Ⅱ」では「訪問系のみ」が28.7%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.5%、「未利用」が25.7%となっている。「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が36.1%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が30.6%、「通所系・短期系のみ」が18.5%となっている。

【図表 328】 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ

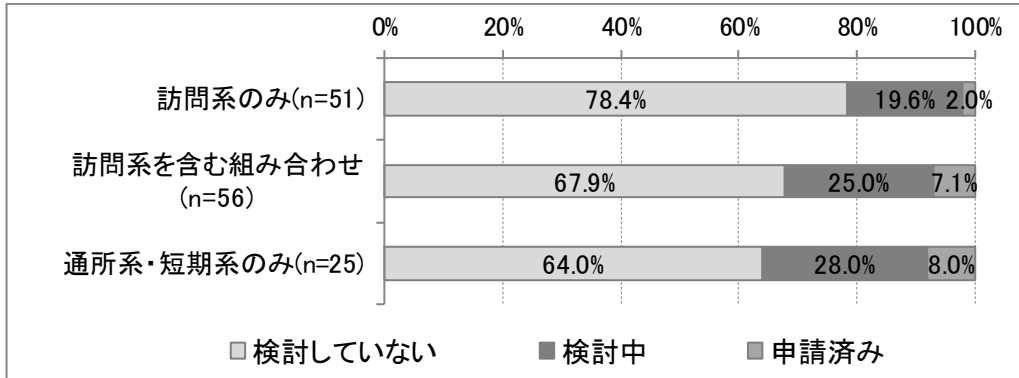


(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が78.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が19.6%、「申請済み」が2.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が67.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が7.1%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が64.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が28.0%、「申請済み」が8.0%となっている。

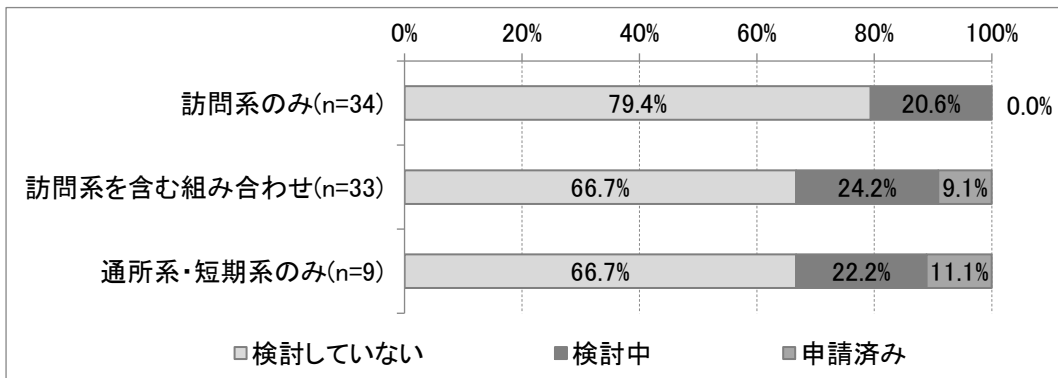
【図表 329】 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が79.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.6%、「申請済み」が0.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が24.2%、「申請済み」が9.1%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が22.2%、「申請済み」が11.1%となっている。

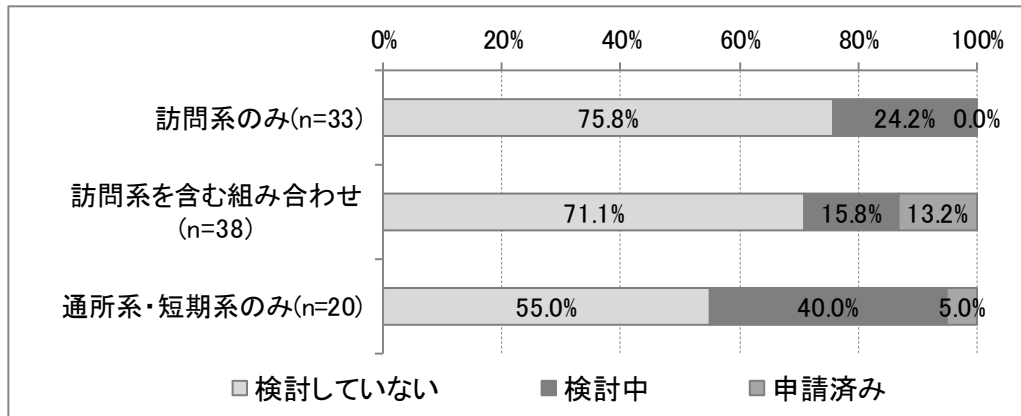
【図表 330】 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が75.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が24.2%、「申請済み」が0.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が71.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が15.8%、「申請済み」が13.2%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が55.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が40.0%、「申請済み」が5.0%となっている。

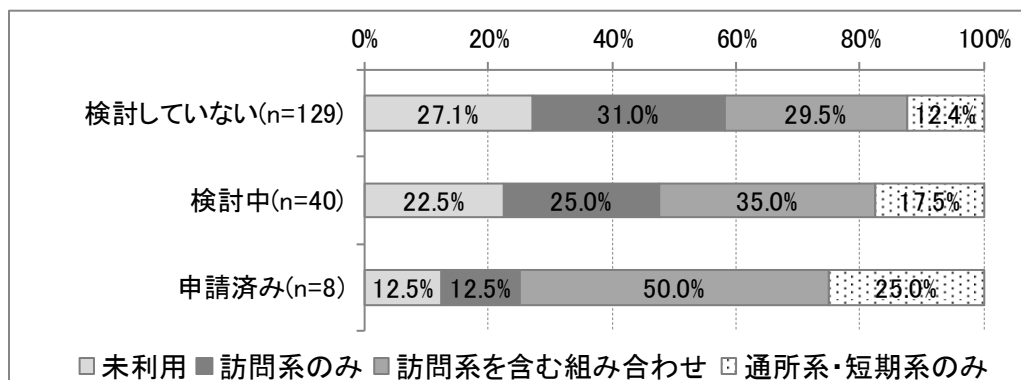
【図表 331】 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系のみ」が31.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が29.5%、「未利用」が27.1%となっている。「検討中」では「訪問系を含む組み合わせ」が35.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が25.0%、「未利用」が22.5%となっている。「申請済み」では「訪問系を含む組み合わせ」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が25.0%、「未利用」が12.5%となっている。

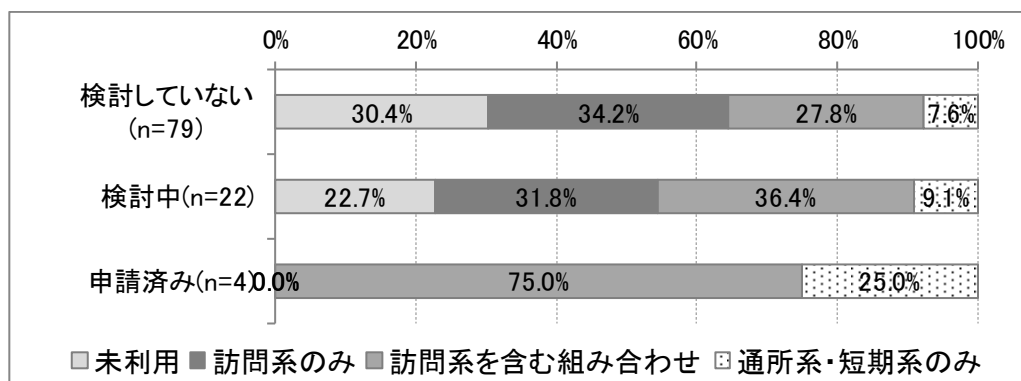
【図表 332】 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系のみ」が34.2%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が30.4%、「訪問系を含む組み合わせ」が27.8%となっている。「検討中」では「訪問系を含む組み合わせ」が36.4%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が31.8%、「未利用」が22.7%となっている。「申請済み」では「訪問系を含む組み合わせ」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が25.0%、「未利用」、「訪問系のみ」が0.0%となっている。

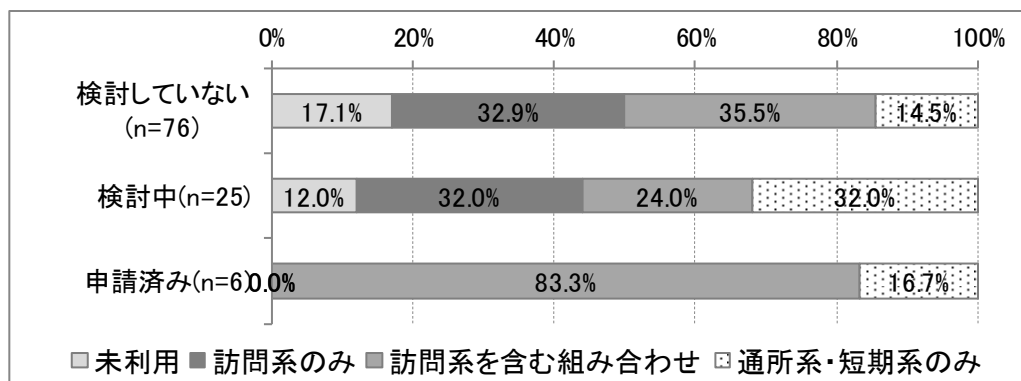
【図表 333】 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が35.5%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が32.9%、「未利用」が17.1%となっている。「検討中」では「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が32.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が24.0%、「未利用」が12.0%となっている。「申請済み」では「訪問系を含む組み合わせ」が83.3%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が16.7%、「未利用」、「訪問系のみ」が0.0%となっている。

【図表 334】 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）

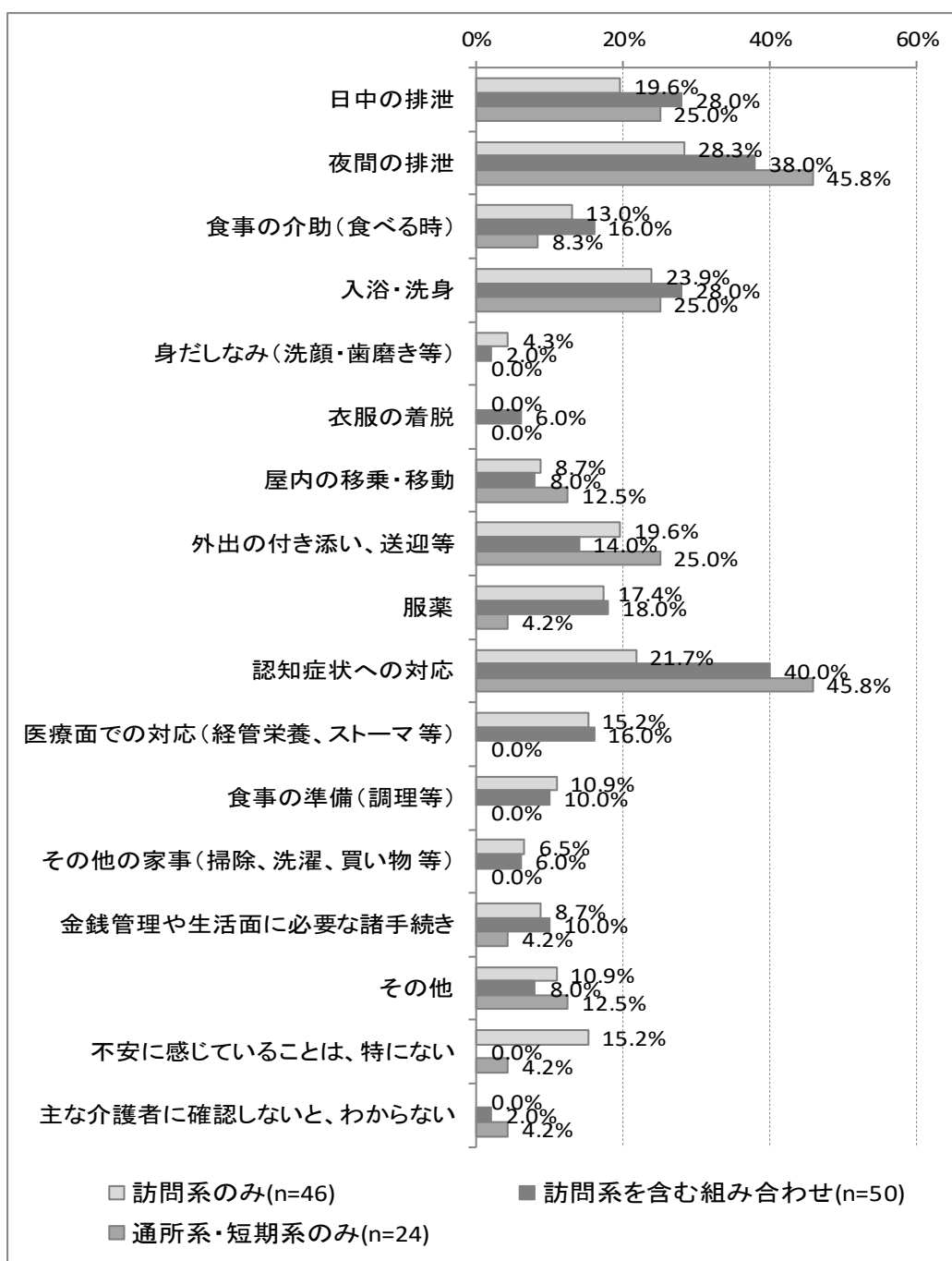


(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「夜間の排泄」が28.3%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」が23.9%、「認知症状への対応」が21.7%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症状への対応」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が38.0%、「日中の排泄」、「入浴・洗身」が28.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が45.8%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」が25.0%、「屋内の移乗・移動」、「その他」が12.5%となっている。

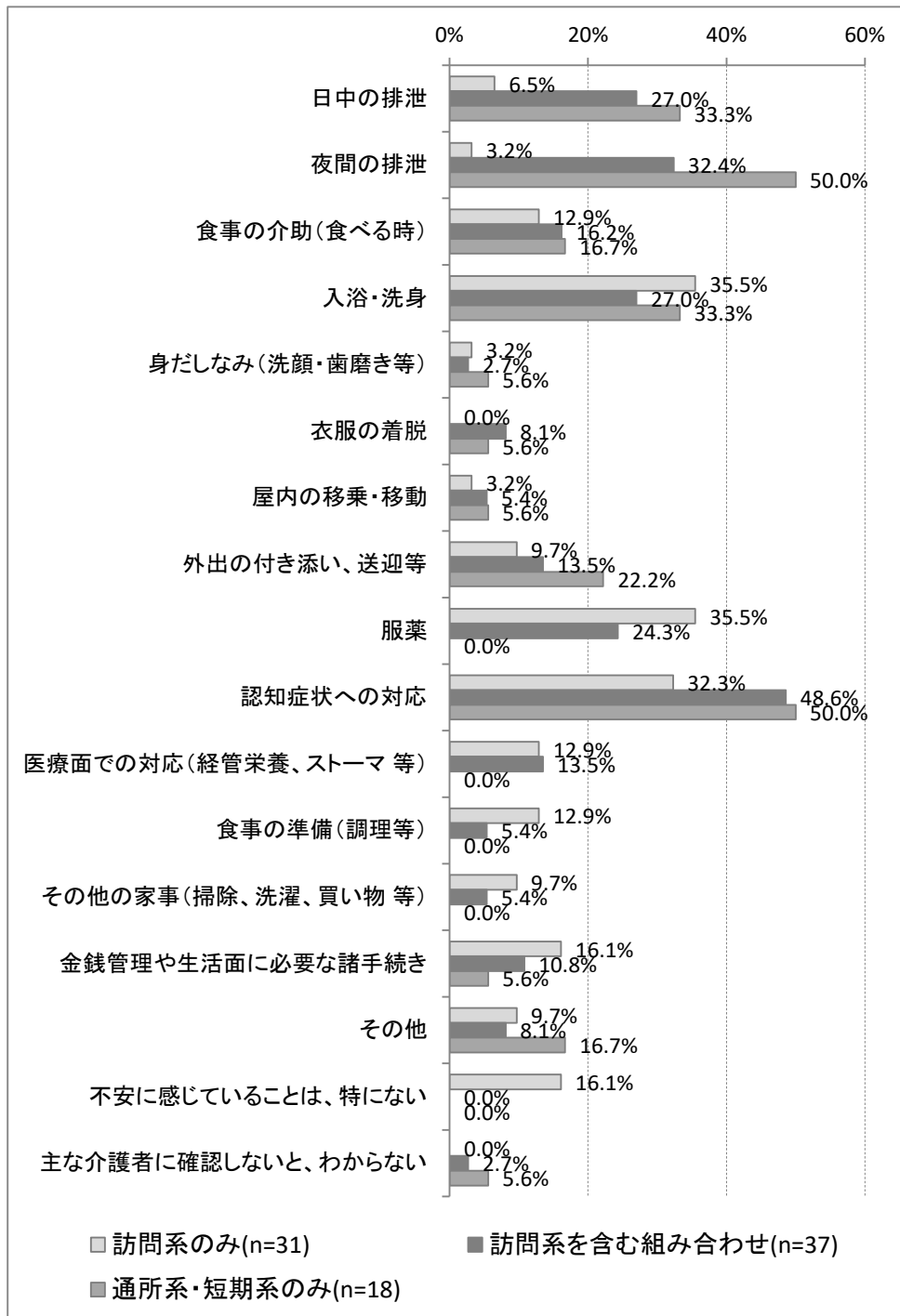
【図表 335】 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「入浴・洗身」、「服薬」が35.5%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が32.3%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「不安に感じていることは、特にない」が16.1%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症状への対応」が48.6%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が32.4%、「日中の排泄」、「入浴・洗身」が27.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「入浴・洗身」が33.3%、「外出の付き添い、送迎等」が22.2%となっている。

【図表 336】 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）

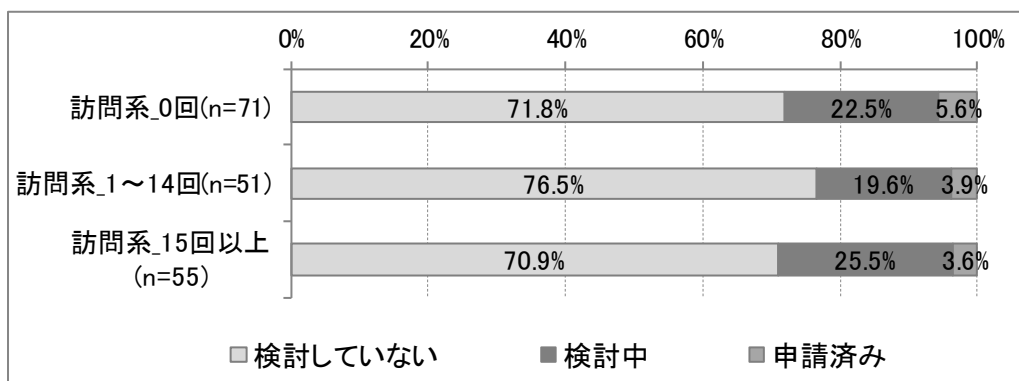


(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討していない」が71.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が22.5%、「申請済み」が5.6%となっている。「訪問系_1～14回」では「検討していない」が76.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が19.6%、「申請済み」が3.9%となっている。「訪問系_15回以上」では「検討していない」が70.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が25.5%、「申請済み」が3.6%となっている。

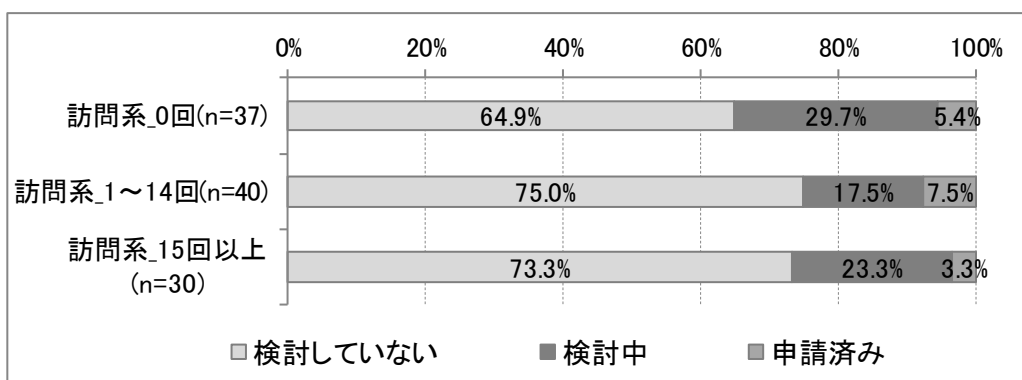
【図表 337】 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討していない」が64.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が29.7%、「申請済み」が5.4%となっている。「訪問系_1～14回」では「検討していない」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が17.5%、「申請済み」が7.5%となっている。「訪問系_15回以上」では「検討していない」が73.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が23.3%、「申請済み」が3.3%となっている。

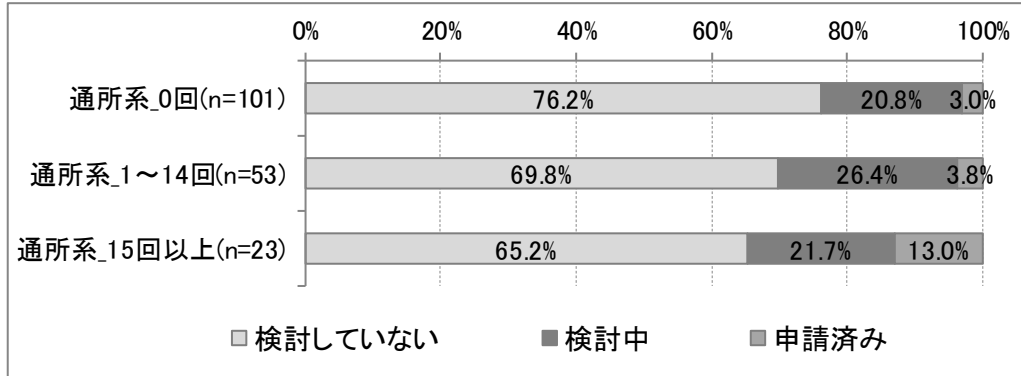
【図表 338】 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が76.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.8%、「申請済み」が3.0%となっている。「通所系_1~14回」では「検討していない」が69.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が26.4%、「申請済み」が3.8%となっている。「通所系_15回以上」では「検討していない」が65.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が21.7%、「申請済み」が13.0%となっている。

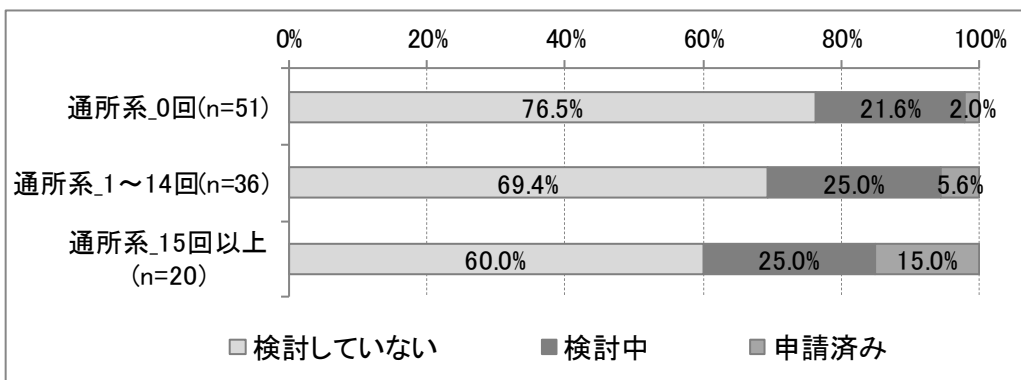
【図表 339】 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が76.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が21.6%、「申請済み」が2.0%となっている。「通所系_1~14回」では「検討していない」が69.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が5.6%となっている。「通所系_15回以上」では「検討していない」が60.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が15.0%となっている。

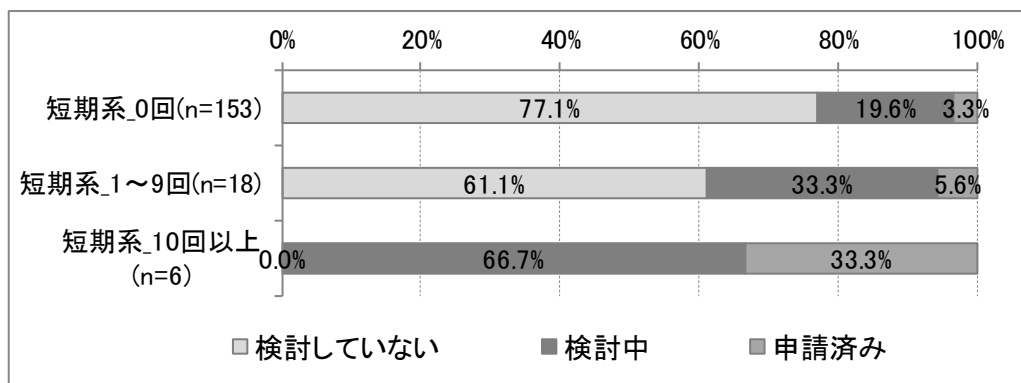
【図表 340】 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討していない」が77.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が19.6%、「申請済み」が3.3%となっている。「短期系_1～9回」では「検討していない」が61.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が5.6%となっている。「短期系_10回以上」では「検討中」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が33.3%、「検討していない」が0.0%となっている。

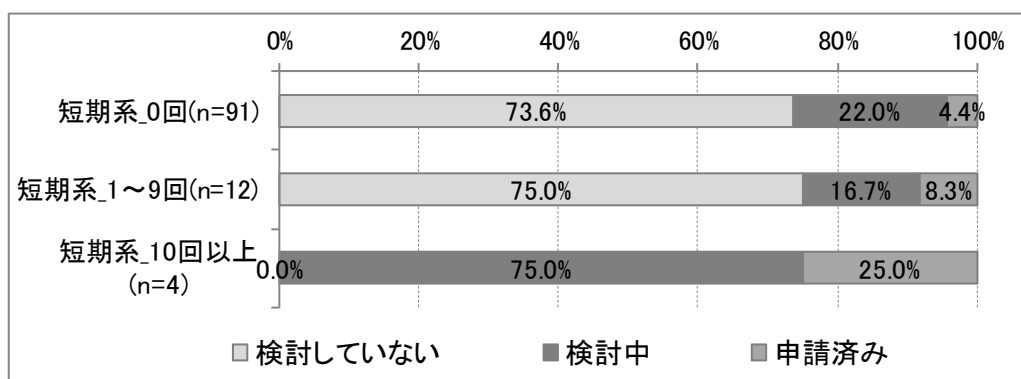
【図表 341】 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討していない」が73.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が22.0%、「申請済み」が4.4%となっている。「短期系_1～9回」では「検討していない」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が16.7%、「申請済み」が8.3%となっている。「短期系_10回以上」では「検討中」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が25.0%、「検討していない」が0.0%となっている。

【図表 342】 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）

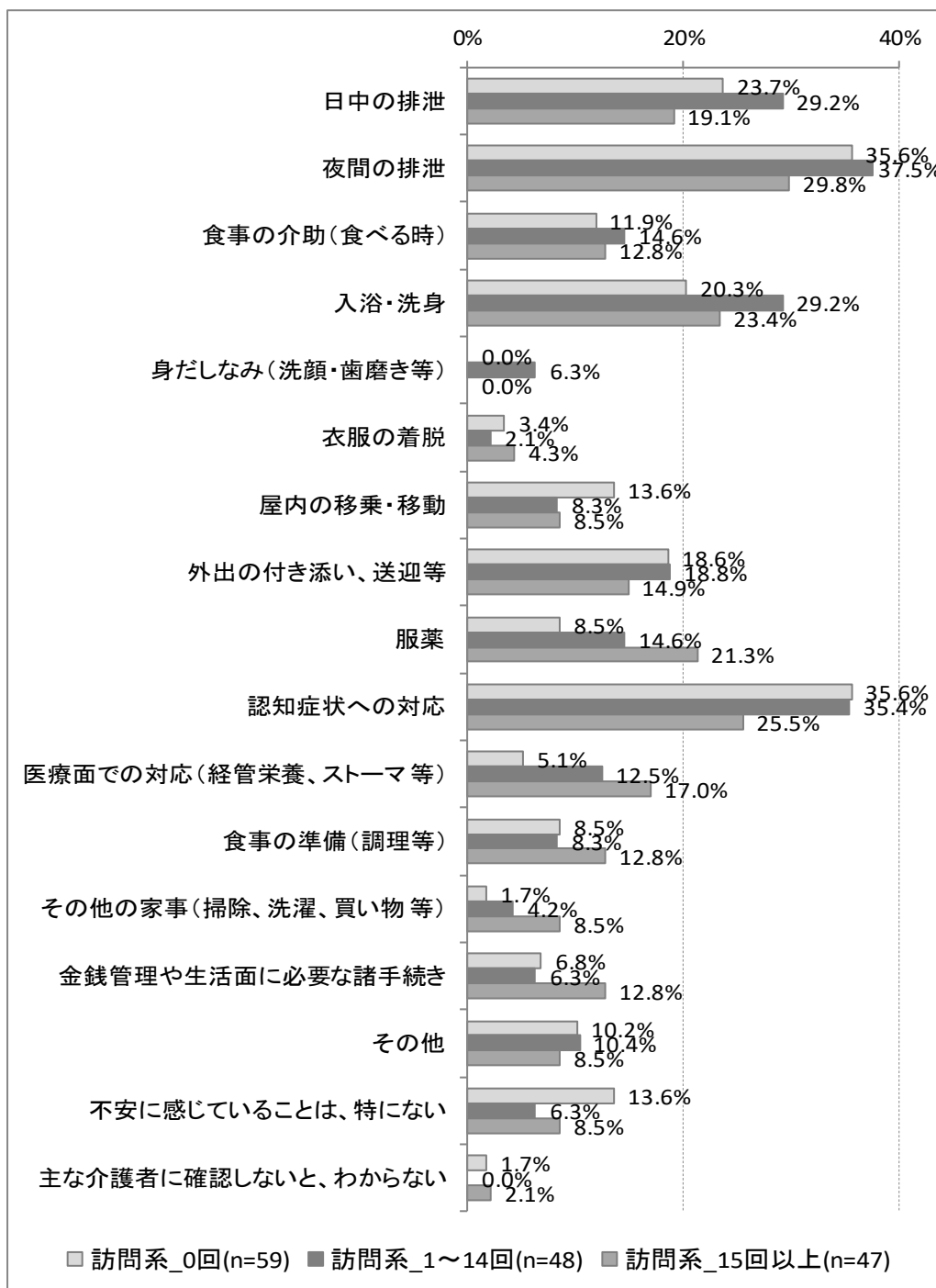


(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が35.6%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」が23.7%、「入浴・洗身」が20.3%となっている。「訪問系_1~14回」では「夜間の排泄」が37.5%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が35.4%、「日中の排泄」、「入浴・洗身」が29.2%となっている。「訪問系_15回以上」では「夜間の排泄」が29.8%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が25.5%、「入浴・洗身」が23.4%となっている。

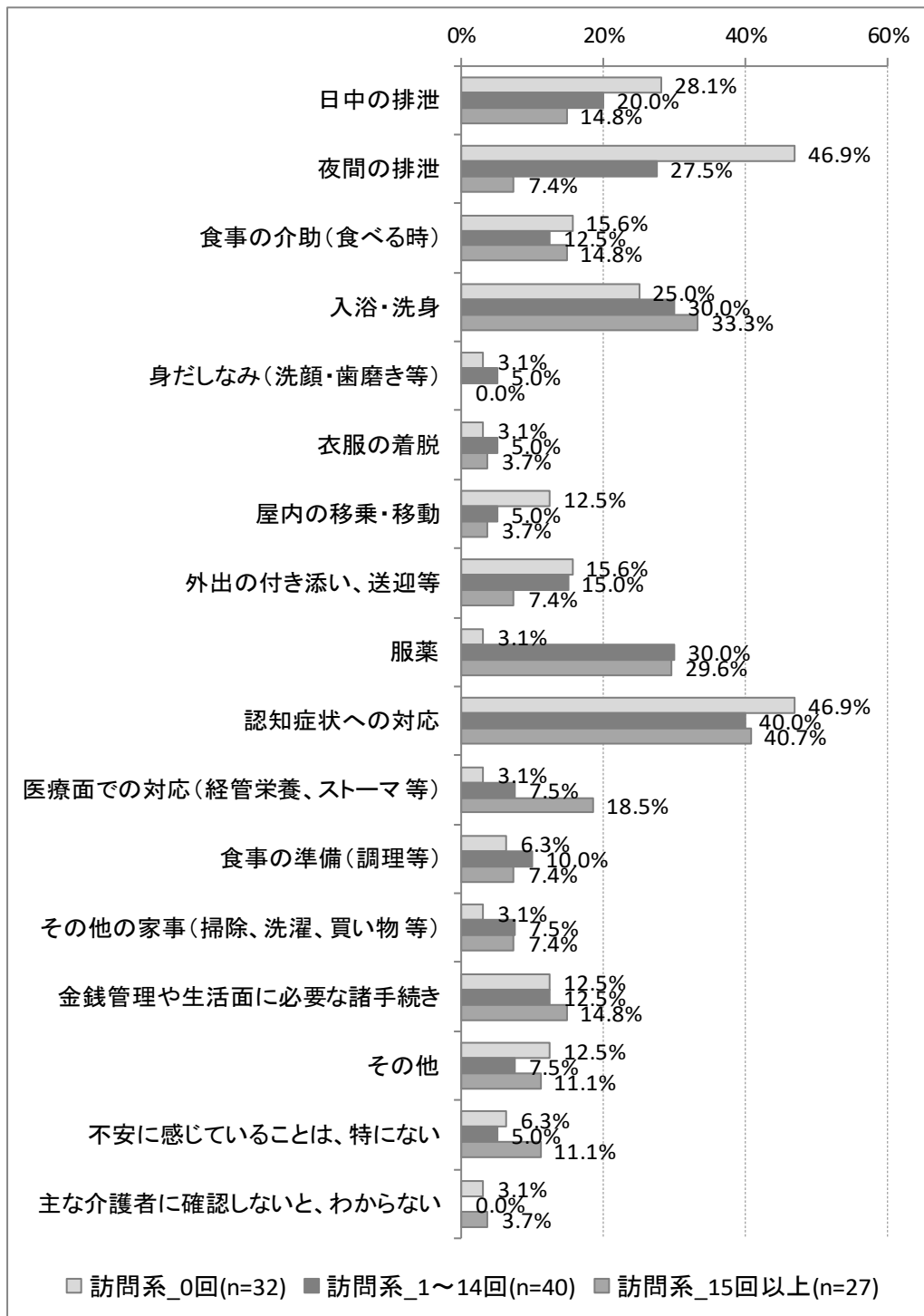
【図表 343】 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が46.9%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が28.1%、「入浴・洗身」が25.0%となっている。「訪問系_1～14回」では「認知症状への対応」が40.0%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」、「服薬」が30.0%、「夜間の排泄」が27.5%となっている。「訪問系_15回以上」では「認知症状への対応」が40.7%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が33.3%、「服薬」が29.6%となっている。

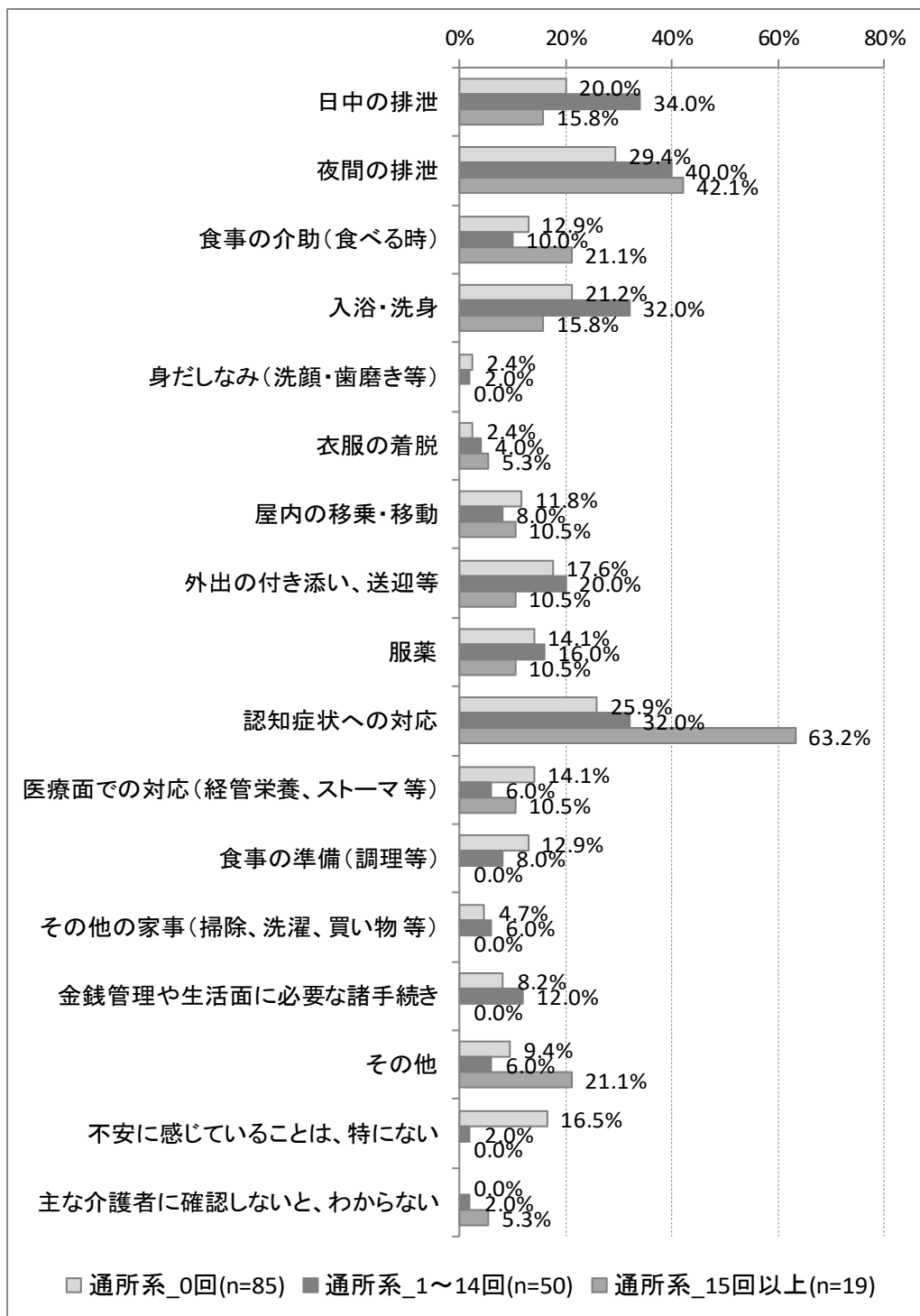
【図表 344】 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「夜間の排泄」が29.4%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が25.9%、「入浴・洗身」が21.2%となっている。「通所系_1~14回」では「夜間の排泄」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」が34.0%、「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が32.0%となっている。「通所系_15回以上」では「認知症状への対応」が63.2%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が42.1%、「食事の介助（食べる時）」、「その他」が21.1%となっている。

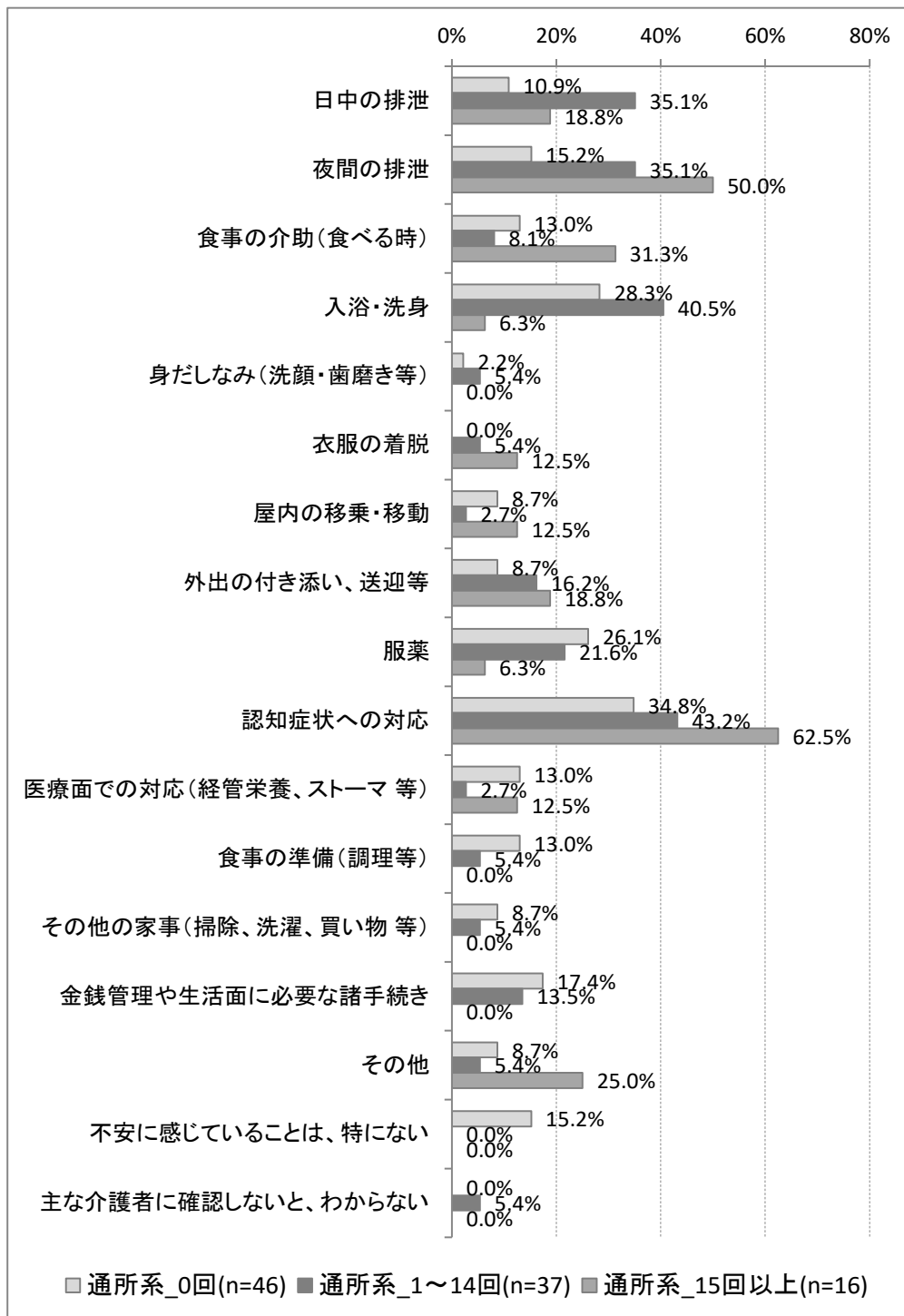
【図表 345】 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「認知症状への対応」が34.8%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」が28.3%、「服薬」が26.1%となっている。「通所系_1~14回」では「認知症状への対応」が43.2%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」が40.5%、「日中の排泄」、「夜間の排泄」が35.1%となっている。「通所系_15回以上」では「認知症状への対応」が62.5%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が50.0%、「食事の介助（食べる時）」が31.3%となっている。

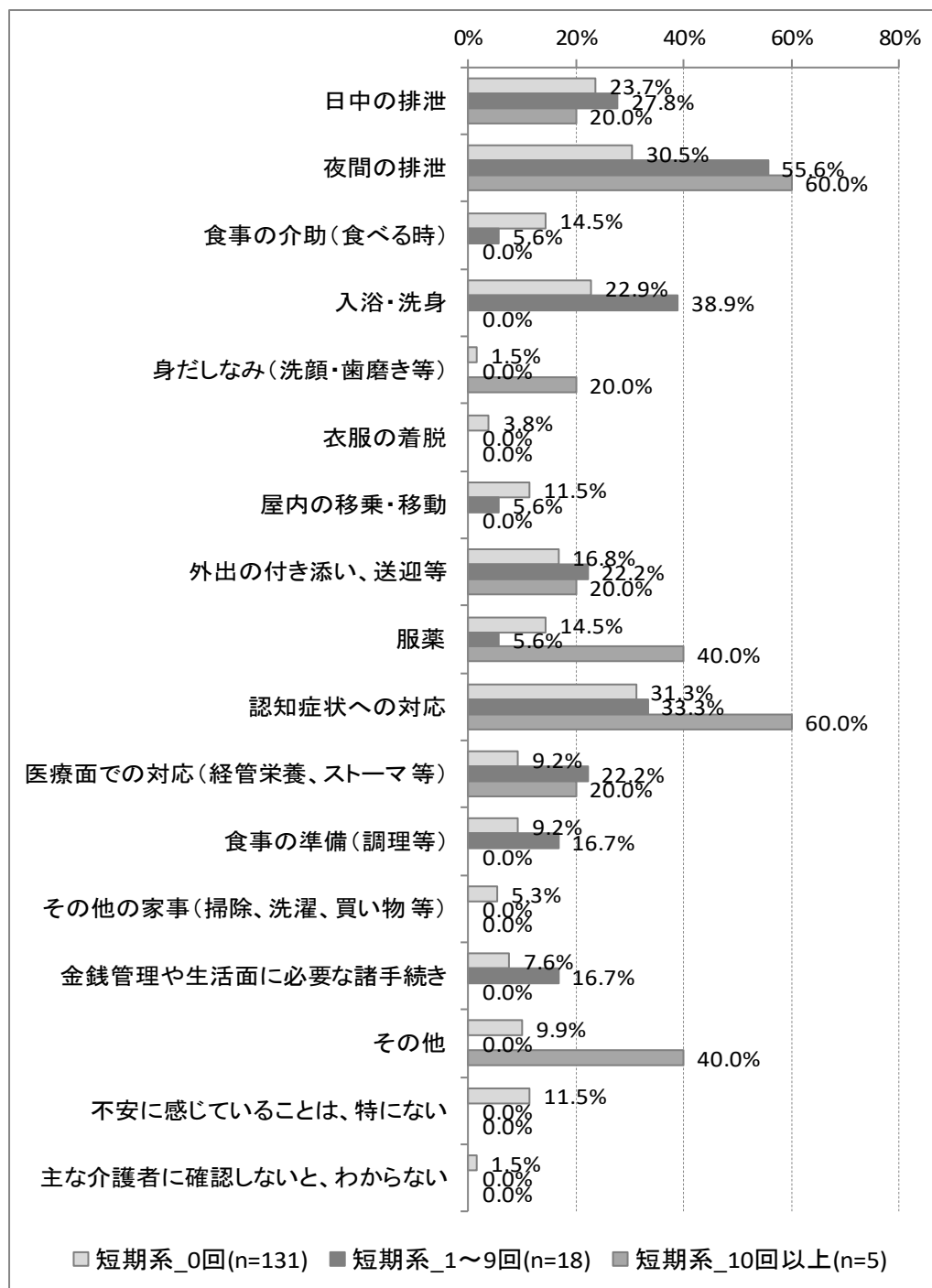
【図表 346】 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「認知症状への対応」が31.3%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が30.5%、「日中の排泄」が23.7%となっている。「短期系_1～9回」では「夜間の排泄」が55.6%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が38.9%、「認知症状への対応」が33.3%となっている。「短期系_10回以上」では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が60.0%と最も割合が高く、次いで「服薬」、「その他」が40.0%、「日中の排泄」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「外出の付き添い、送迎等」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」が20.0%となっている。

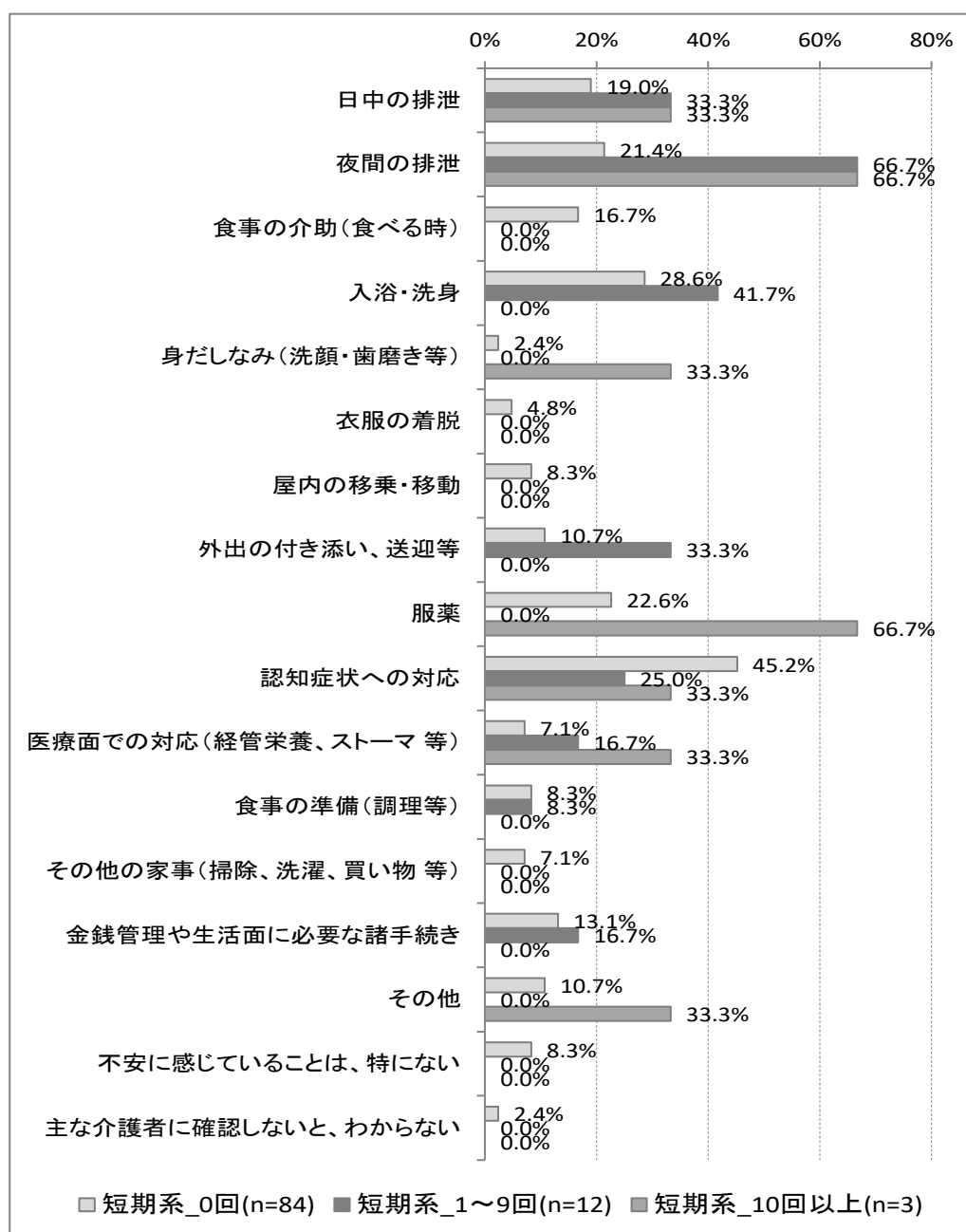
【図表 347】 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「認知症状への対応」が45.2%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が28.6%、「服薬」が22.6%となっている。「短期系_1～9回」では「夜間の排泄」が66.7%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が41.7%、「日中の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が33.3%となっている。「短期系_10回以上」では「夜間の排泄」、「服薬」が66.7%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「認知症状への対応」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」、「その他」が33.3%、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「不安に感じていることは、特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が0.0%となっている。

【図表 348】 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）



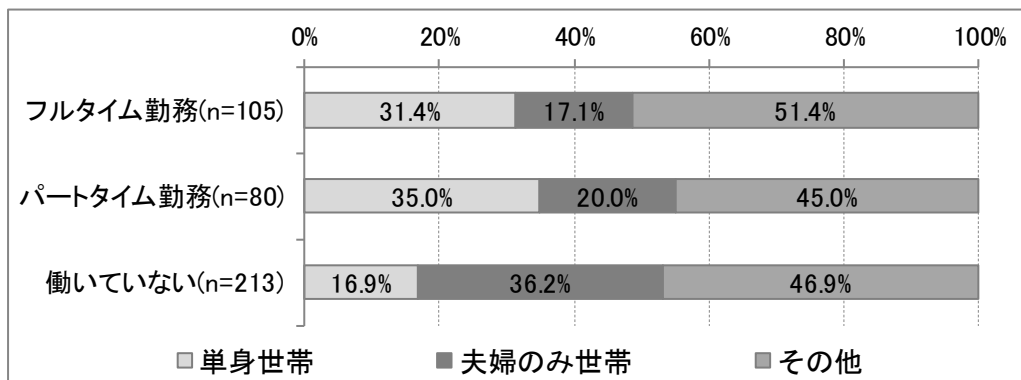
仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

(1) 基本集計

【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他」が 51.4%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が 31.4%、「夫婦のみ世帯」が 17.1%となっている。「パートタイム勤務」では「その他」が 45.0%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が 35.0%、「夫婦のみ世帯」が 20.0%となっている。「働いていない」では「その他」が 46.9%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が 36.2%、「単身世帯」が 16.9%となっている。

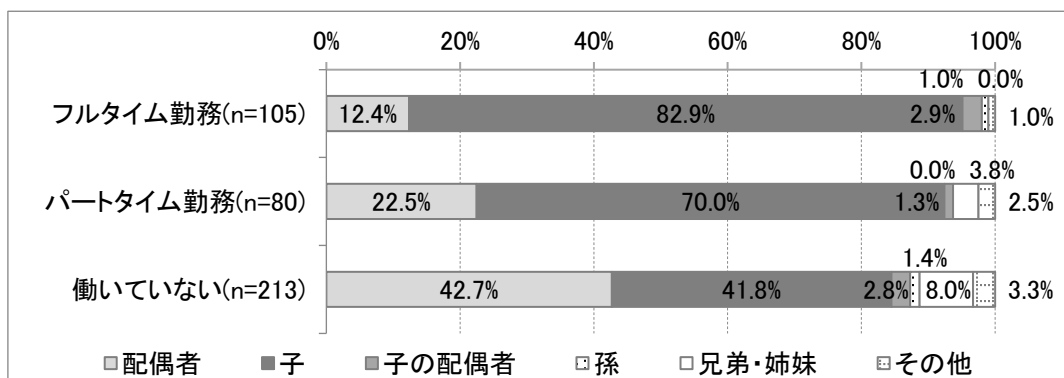
【図表 349】 就労状況別・世帯類型



【就労状況別・主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が 82.9%と最も割合が高く、次いで「配偶者」が 12.4%、「子の配偶者」が 2.9%となっている。「パートタイム勤務」では「子」が 70.0%と最も割合が高く、次いで「配偶者」が 22.5%、「兄弟・姉妹」が 3.8%となっている。「働いていない」では「配偶者」が 42.7%と最も割合が高く、次いで「子」が 41.8%、「兄弟・姉妹」が 8.0%となっている。

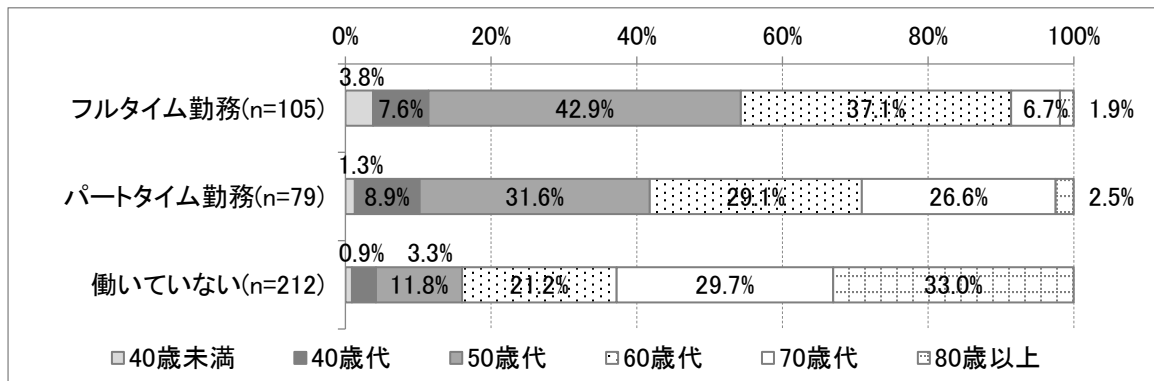
【図表 350】 就労状況別・主な介護者の本人との関係



【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50歳代」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「60歳代」が37.1%、「40歳代」が7.6%となっている。「パートタイム勤務」では「50歳代」が31.6%ともっとも割合が高く、次いで「60歳代」が29.1%、「70歳代」が26.6%となっている。「働いていない」では「80歳以上」が33.0%ともっとも割合が高く、次いで「70歳代」が29.7%、「60歳代」が21.2%となっている。

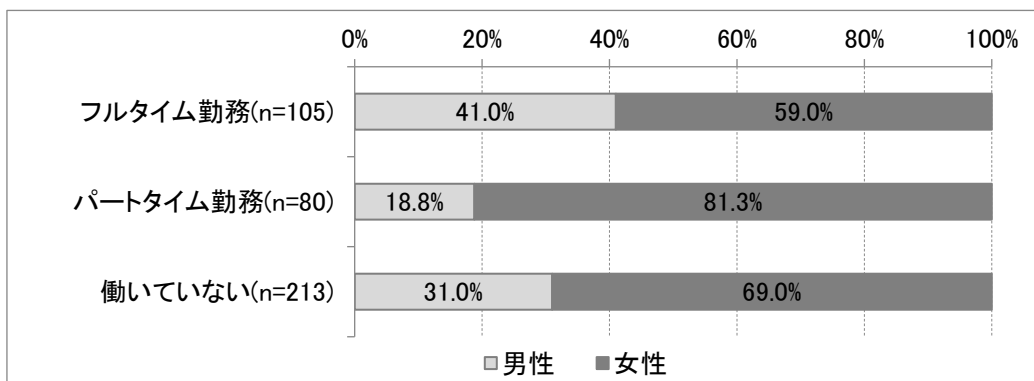
【図表 351】 就労状況別・主な介護者の年齢



【就労状況別・主な介護者の性別】

介護者の性別を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「女性」が59.0%ともっとも割合が高く、次いで「男性」が41.0%となっている。「パートタイム勤務」では「女性」が81.3%ともっとも割合が高く、次いで「男性」が18.8%となっている。「働いていない」では「女性」が69.0%ともっとも割合が高く、次いで「男性」が31.0%となっている。

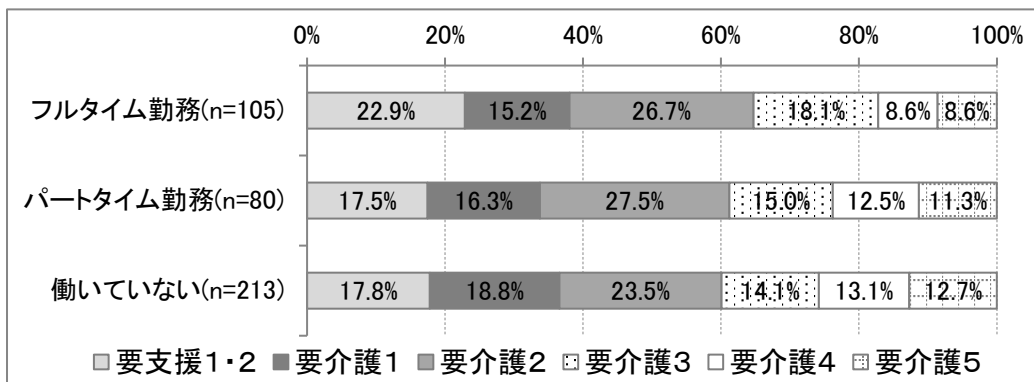
【図表 352】 就労状況別・主な介護者の性別



【就労状況別・要介護度】

二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要介護2」が26.7%と最も割合が高く、次いで「要支援1・2」が22.9%、「要介護3」が18.1%となっている。「パートタイム勤務」では「要介護2」が27.5%と最も割合が高く、次いで「要支援1・2」が17.5%、「要介護1」が16.3%となっている。「働いていない」では「要介護2」が23.5%と最も割合が高く、次いで「要介護1」が18.8%、「要支援1・2」が17.8%となっている。

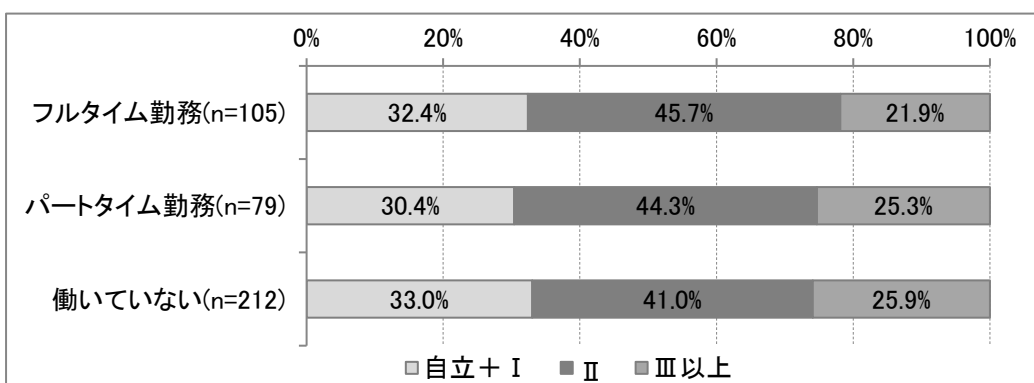
【図表 353】 就労状況別・要介護度



【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「Ⅱ」が45.7%と最も割合が高く、次いで「自立+Ⅰ」が32.4%、「Ⅲ以上」が21.9%となっている。「パートタイム勤務」では「Ⅱ」が44.3%と最も割合が高く、次いで「自立+Ⅰ」が30.4%、「Ⅲ以上」が25.3%となっている。「働いていない」では「Ⅱ」が41.0%と最も割合が高く、次いで「自立+Ⅰ」が33.0%、「Ⅲ以上」が25.9%となっている。

【図表 354】 就労状況別・認知症自立度

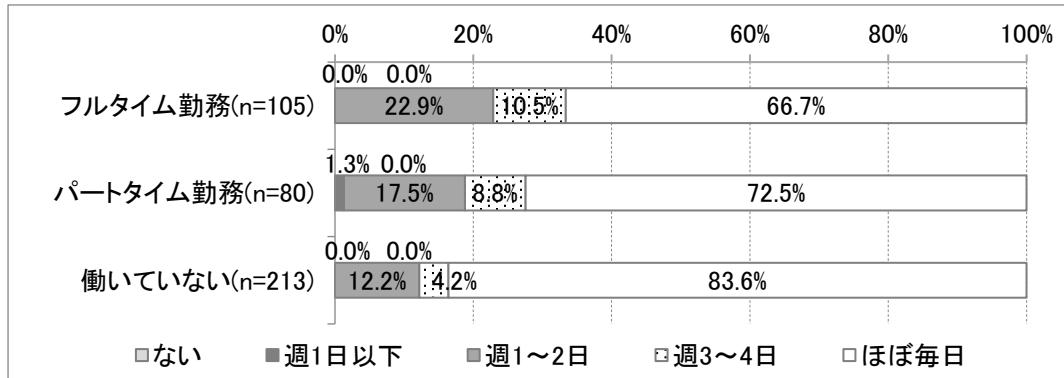


(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が66.7%と最も割合が高く、次いで「週1~2日」が22.9%、「週3~4日」が10.5%となっている。「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が72.5%と最も割合が高く、次いで「週1~2日」が17.5%、「週3~4日」が8.8%となっている。「働いていない」では「ほぼ毎日」が83.6%と最も割合が高く、次いで「週1~2日」が12.2%、「週3~4日」が4.2%となっている。

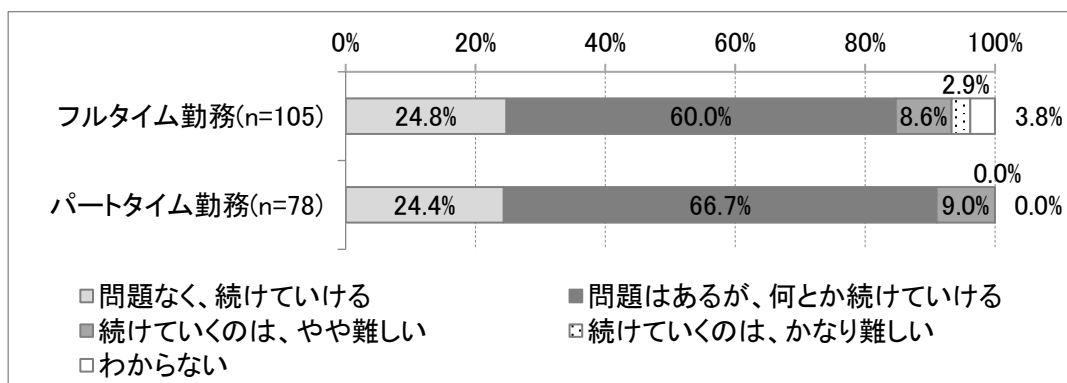
【図表 355】 就労状況別・家族等による介護の頻度



【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が60.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が24.8%、「続けていくのは、やや難しい」が8.6%となっている。「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が66.7%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が24.4%、「続けていくのは、やや難しい」が9.0%となっている。

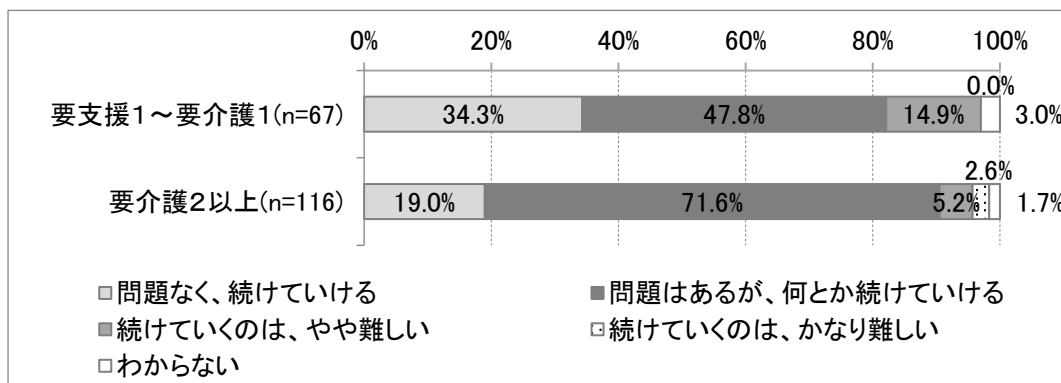
【図表 356】 就労状況別・就労継続見込み



【要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 47.8%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が 34.3%、「続けていくのは、やや難しい」が 14.9%となっている。「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 71.6%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が 19.0%、「続けていくのは、やや難しい」が 5.2%となっている。

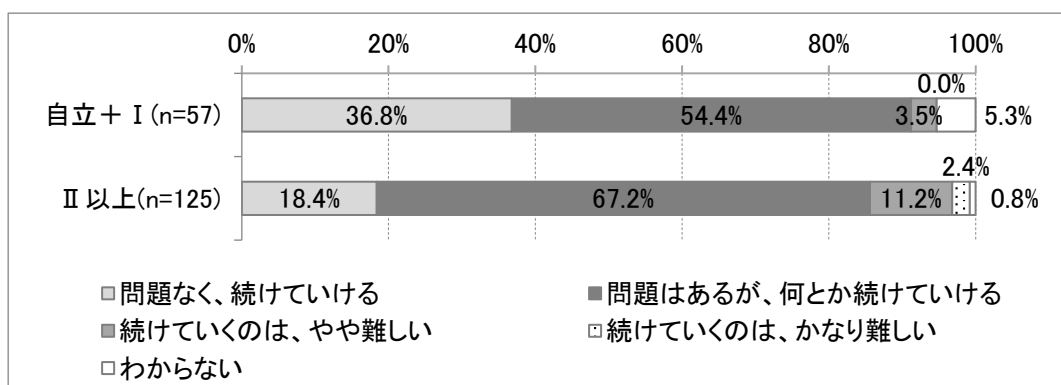
【図表 357】 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



【認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+I」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 54.4%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が 36.8%、「わからない」が 5.3%となっている。「II以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 67.2%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が 18.4%、「続けていくのは、やや難しい」が 11.2%となっている。

【図表 358】 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

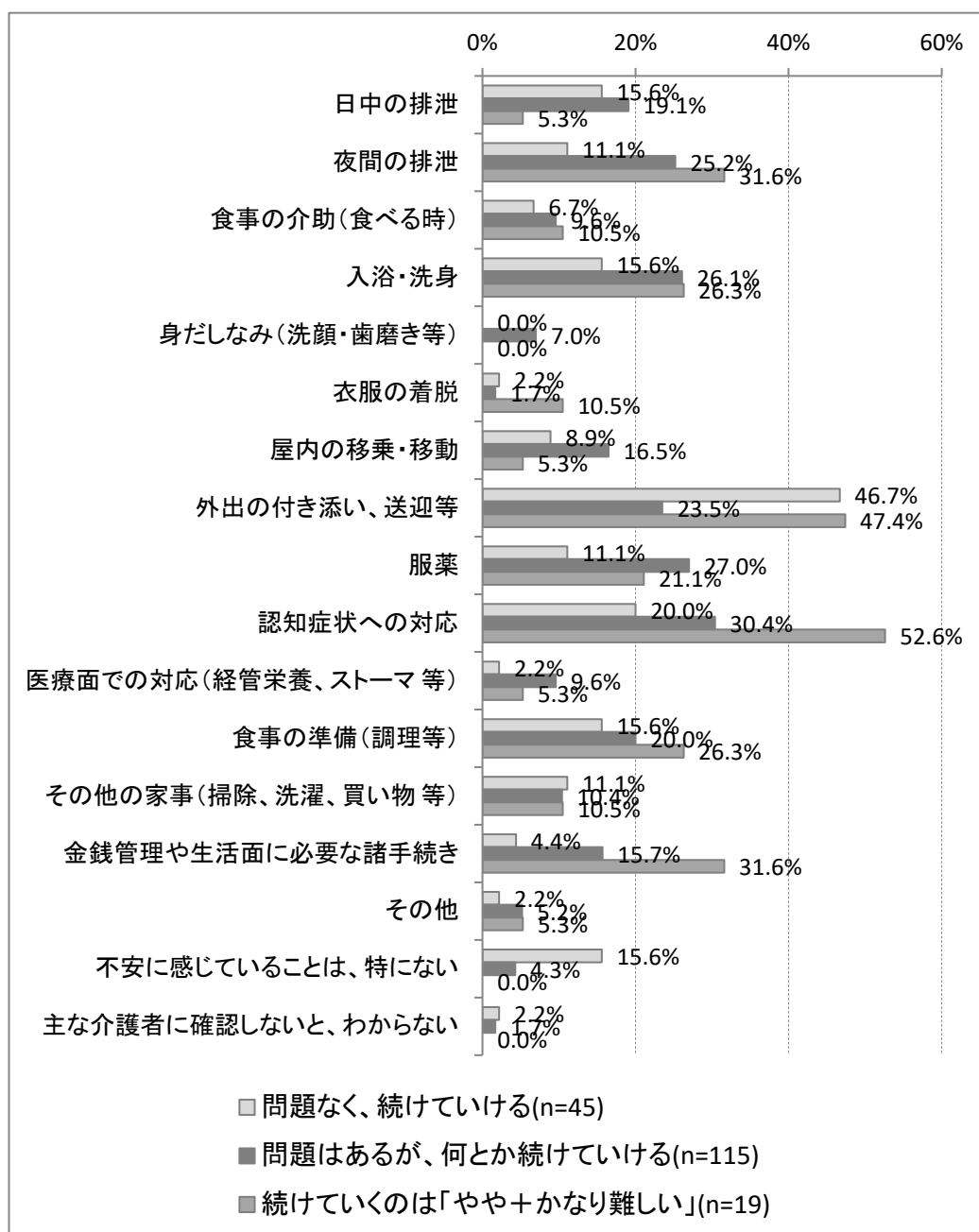


(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「外出の付き添い、送迎等」が46.7%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が20.0%、「日中の排泄」、「入浴・洗身」、「食事の準備（調理等）」、「不安に感じていることは、特にない」が15.6%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「認知症状への対応」が30.4%と最も割合が高く、次いで「服薬」が27.0%、「入浴・洗身」が26.1%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「認知症状への対応」が52.6%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が47.4%、「夜間の排泄」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が31.6%となっている。

【図表 359】 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

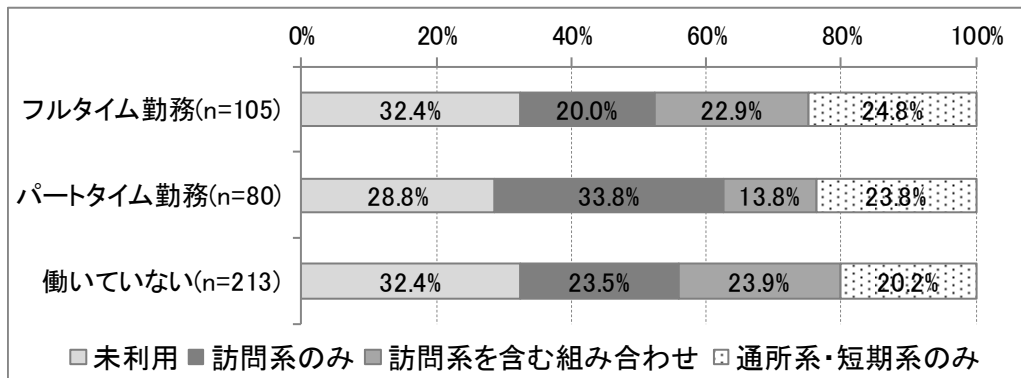


(4)「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「未利用」が32.4%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が24.8%、「訪問系を含む組み合わせ」が22.9%、「訪問系のみ」が20.0%となっている。「パートタイム勤務」では「訪問系のみ」が33.8%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が28.8%、「通所系・短期系のみ」が23.8%となっている。「働いていない」では「未利用」が32.4%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が23.9%、「訪問系のみ」が23.5%となっている。

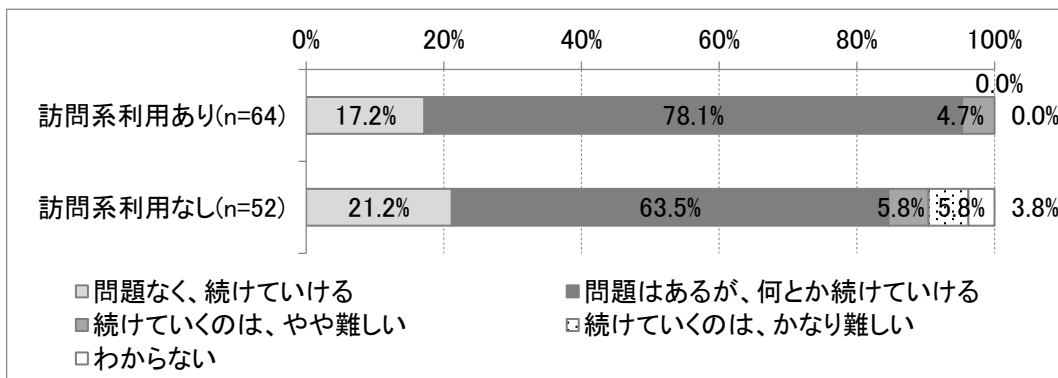
【図表 360】 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が78.1%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が17.2%、「続けていくのは、やや難しい」が4.7%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が63.5%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が21.2%、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」が5.8%となっている。

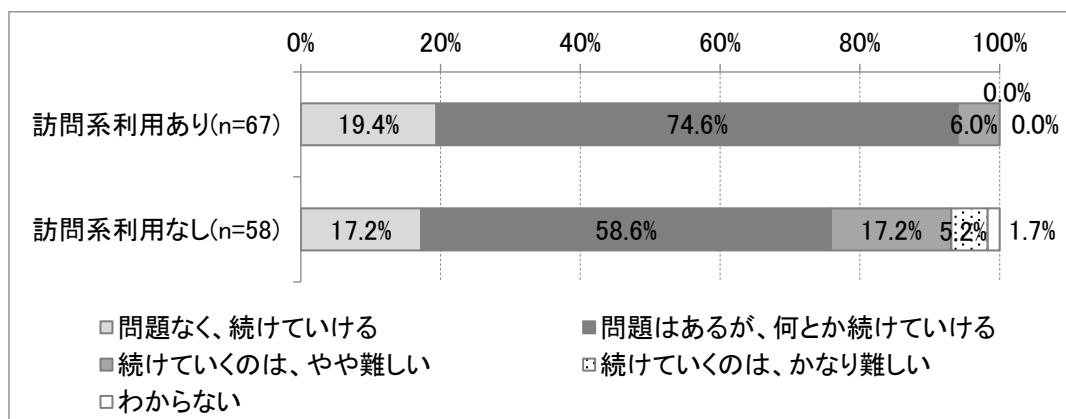
【図表 361】 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が74.6%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が19.4%、「続けていくのは、やや難しい」が6.0%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が58.6%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」が17.2%、「続けていくのは、かなり難しい」が5.2%となっている。

【図表 362】 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

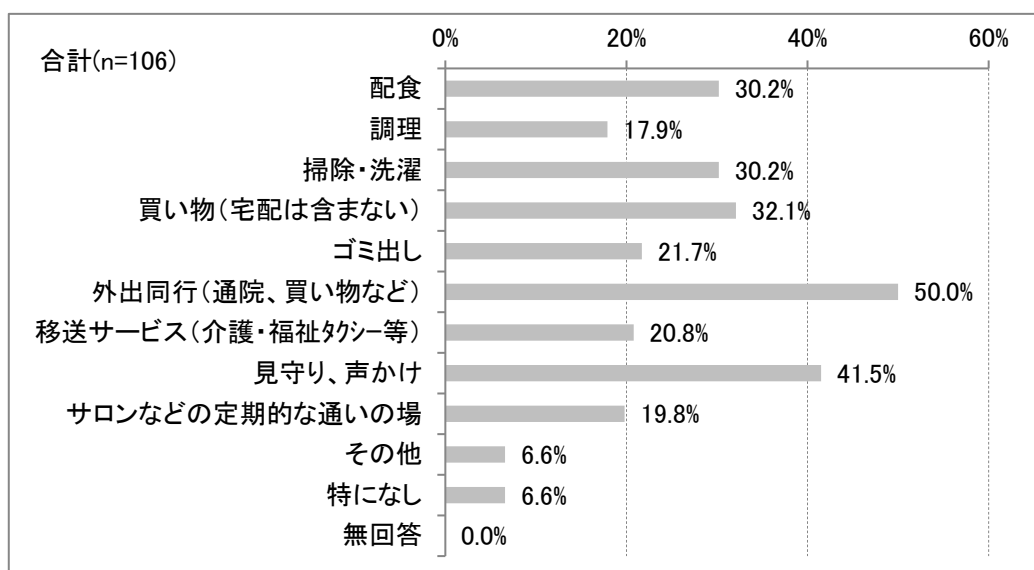


(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）】

「外出同行（通院、買い物など）」の割合が最も高く50.0%となっている。次いで、「見守り、声かけ（41.5%）」、「買い物（宅配は含まない）（32.1%）」となっている。

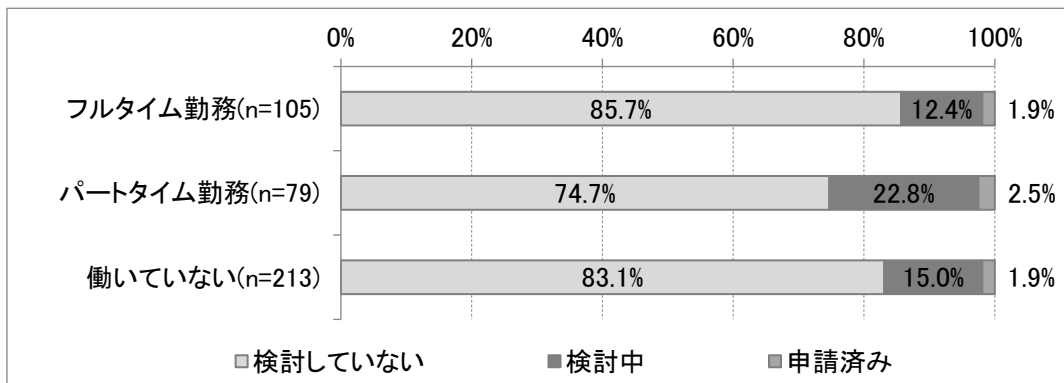
【図表 363】 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が85.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が12.4%、「申請済み」が1.9%となっている。「パートタイム勤務」では「検討していない」が74.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が22.8%、「申請済み」が2.5%となっている。「働いていない」では「検討していない」が83.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が15.0%、「申請済み」が1.9%となっている。

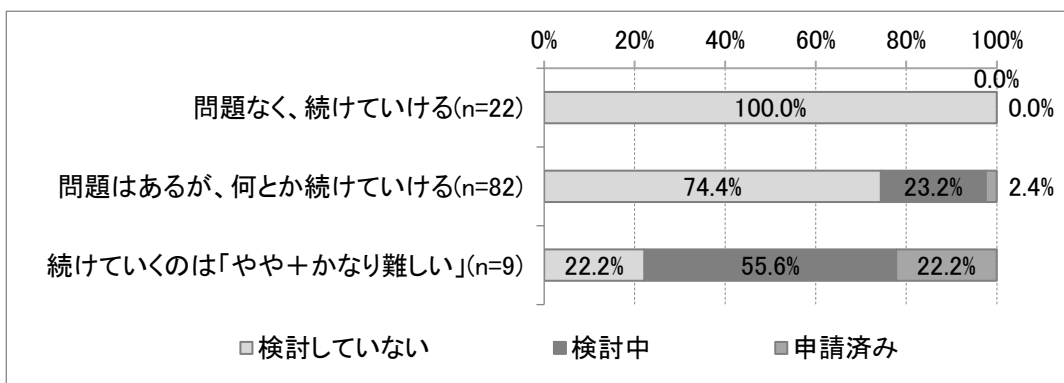
【図表 364】 就労状況別・施設等検討の状況



【就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

施設等の検討状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「検討していない」が100.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が0.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「検討していない」が74.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が23.2%、「申請済み」が2.4%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「検討中」が55.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」、「申請済み」が22.2%となっている。

【図表 365】 就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）

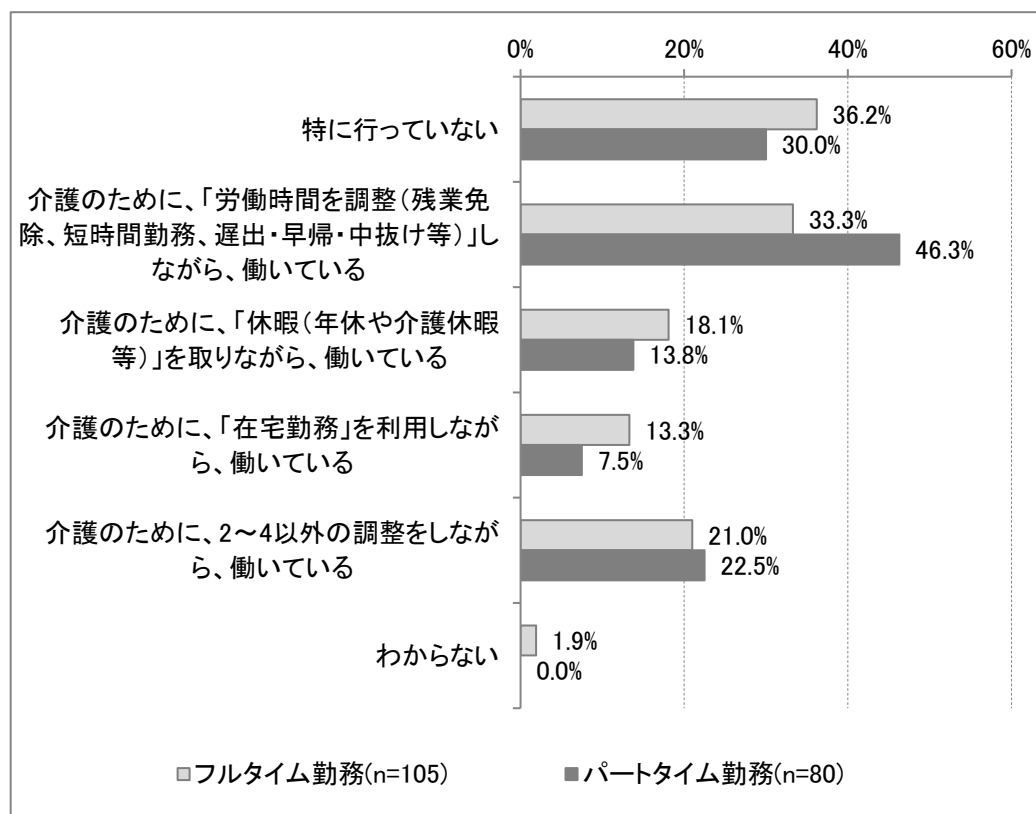


(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「特に行っていない」が 36.2%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 33.3%、「介護のために、2～4 以外の調整をしながら、働いている」が 21.0%となっている。「パートタイム勤務」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 46.3%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」が 30.0%、「介護のために、2～4 以外の調整をしながら、働いている」が 22.5%となっている。

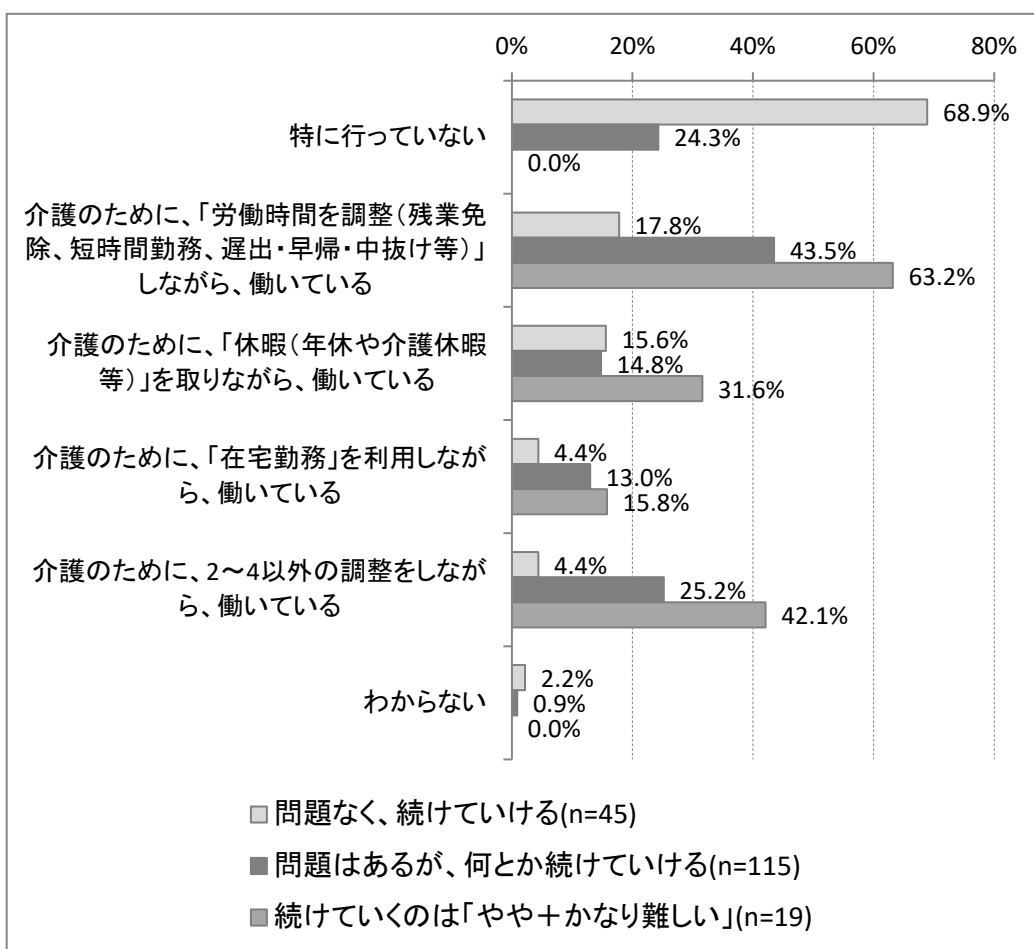
【図表 366】 就労状況別・介護のための働き方の調整



【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が 68.9%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 17.8%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が 15.6%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 43.5%と最も割合が高く、次いで「介護のために、2~4 以外の調整をしながら、働いている」が 25.2%、「特に行っていない」が 24.3%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 63.2%と最も割合が高く、次いで「介護のために、2~4 以外の調整をしながら、働いている」が 42.1%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が 31.6%となっている。

【図表 367】 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



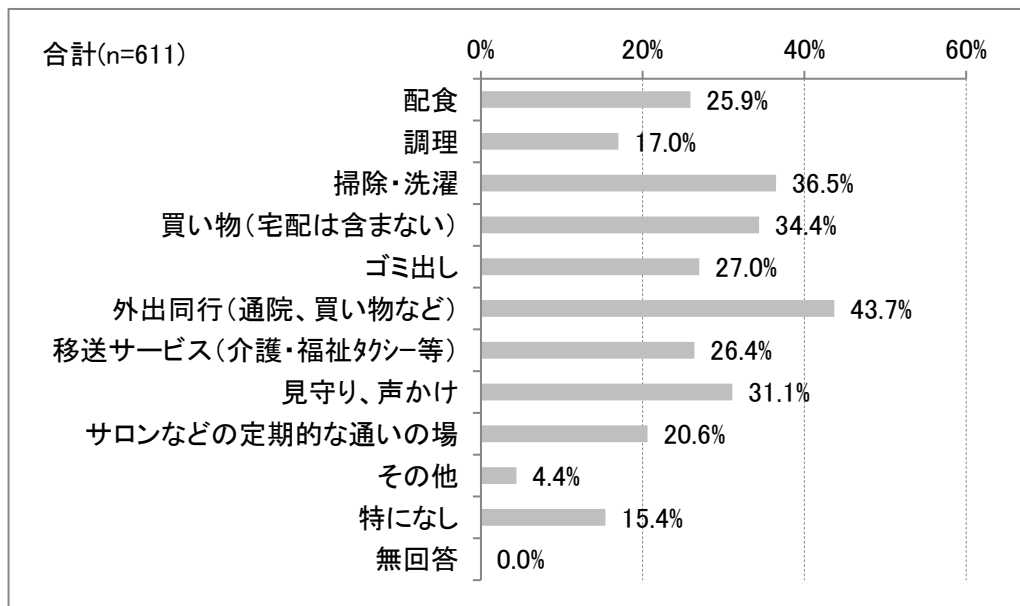
保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

(1) 基礎集計

【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

「外出同行（通院、買い物など）」の割合が最も高く 43.7%となっている。次いで、「掃除・洗濯（36.5%）」、「買い物（宅配は含まない）（34.4%）」となっている。

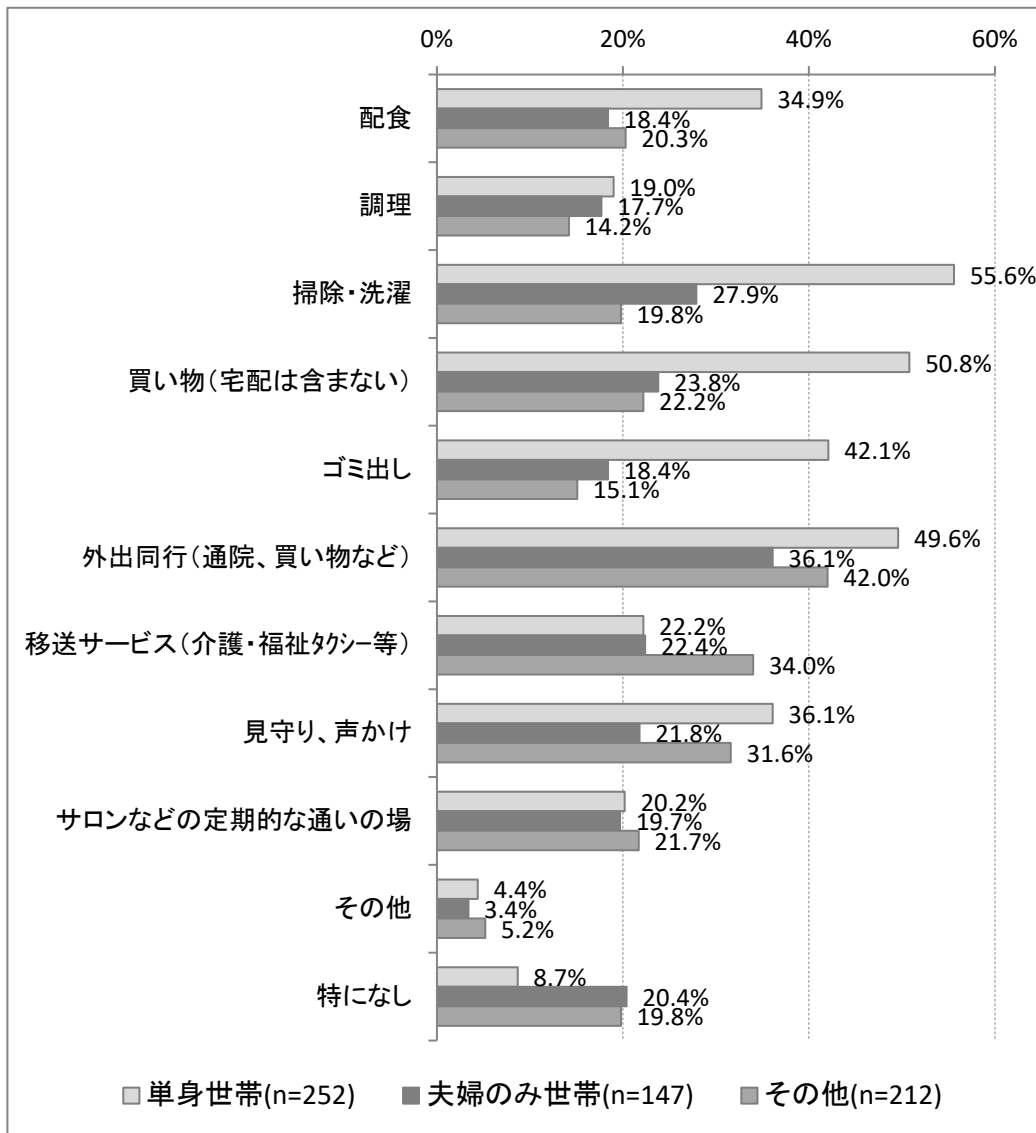
【図表 368】在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス
 【世帯類型別・在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「掃除・洗濯」が55.6%ともっとも割合が高く、次いで「買い物(宅配は含まない)」が50.8%、「外出同行(通院、買い物など)」が49.6%となっている。「夫婦のみ世帯」では「外出同行(通院、買い物など)」が36.1%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が27.9%、「買い物(宅配は含まない)」が23.8%となっている。「その他」では「外出同行(通院、買い物など)」が42.0%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が34.0%、「見守り、声かけ」が31.6%となっている。

【図表 369】 世帯類型別・在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス

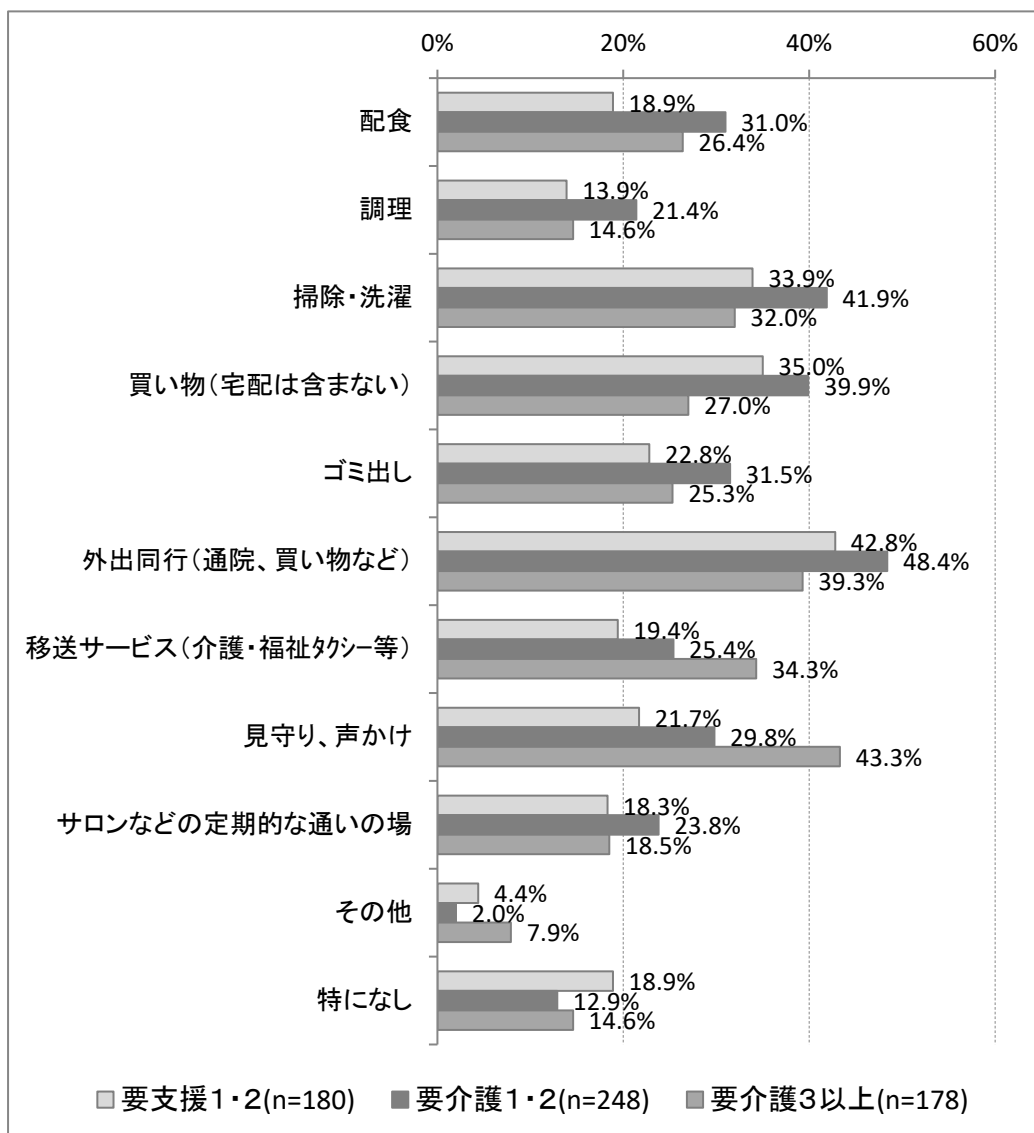


(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「外出同行（通院、買い物など）」が42.8%と最も割合が高く、次いで「買い物（宅配は含まない）」が35.0%、「掃除・洗濯」が33.9%となっている。「要介護1・2」では「外出同行（通院、買い物など）」が48.4%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が41.9%、「買い物（宅配は含まない）」が39.9%となっている。「要介護3以上」では「見守り、声かけ」が43.3%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が39.3%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が34.3%となっている。

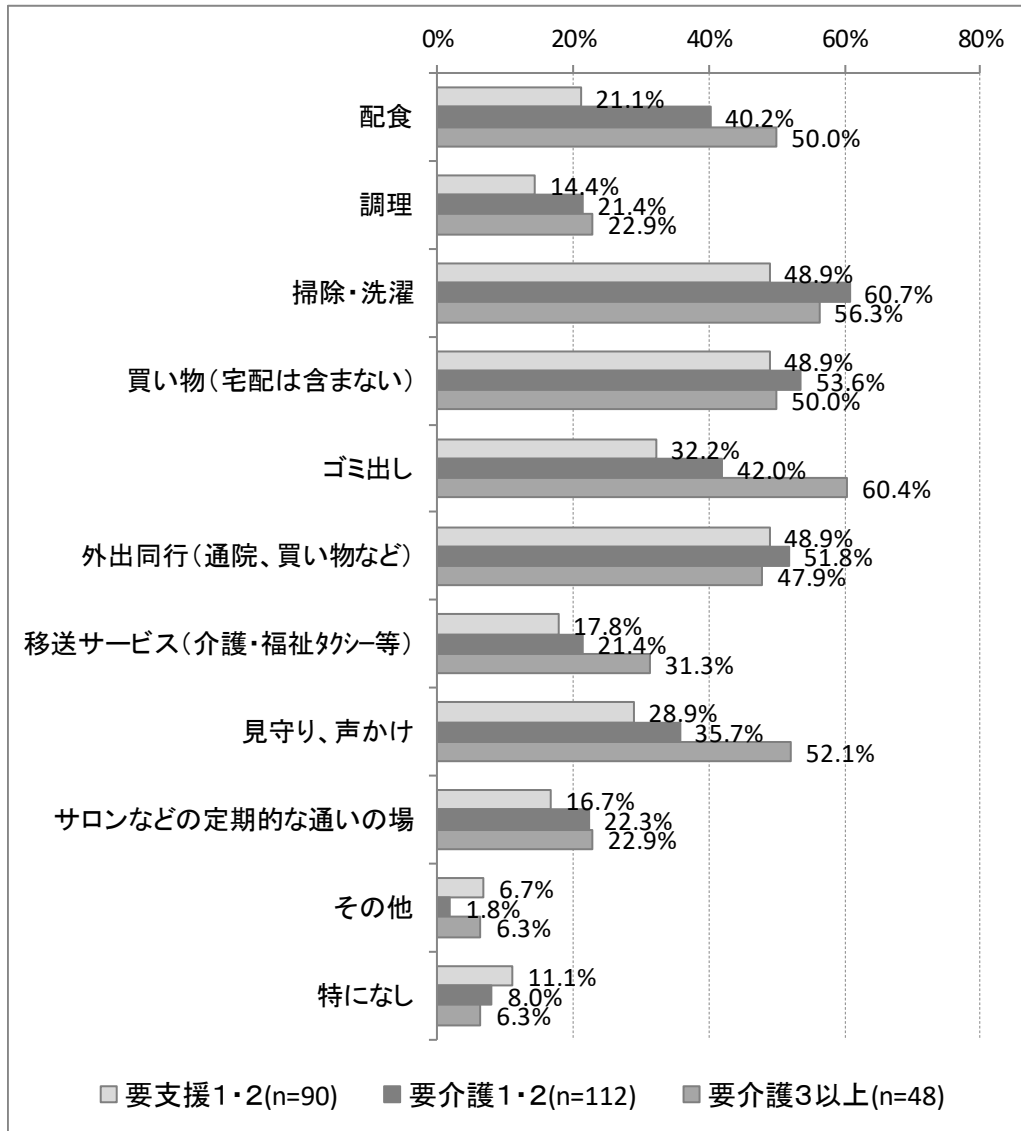
【図表 370】 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「外出同行（通院、買い物など）」が48.9%ともっとも割合が高く、次いで「ゴミ出し」が32.2%、「見守り、声かけ」が28.9%となっている。「要介護1・2」では「掃除・洗濯」が60.7%ともっとも割合が高く、次いで「買い物（宅配は含まない）」が53.6%、「外出同行（通院、買い物など）」が51.8%となっている。「要介護3以上」では「ゴミ出し」が60.4%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が56.3%、「見守り、声かけ」が52.1%となっている。

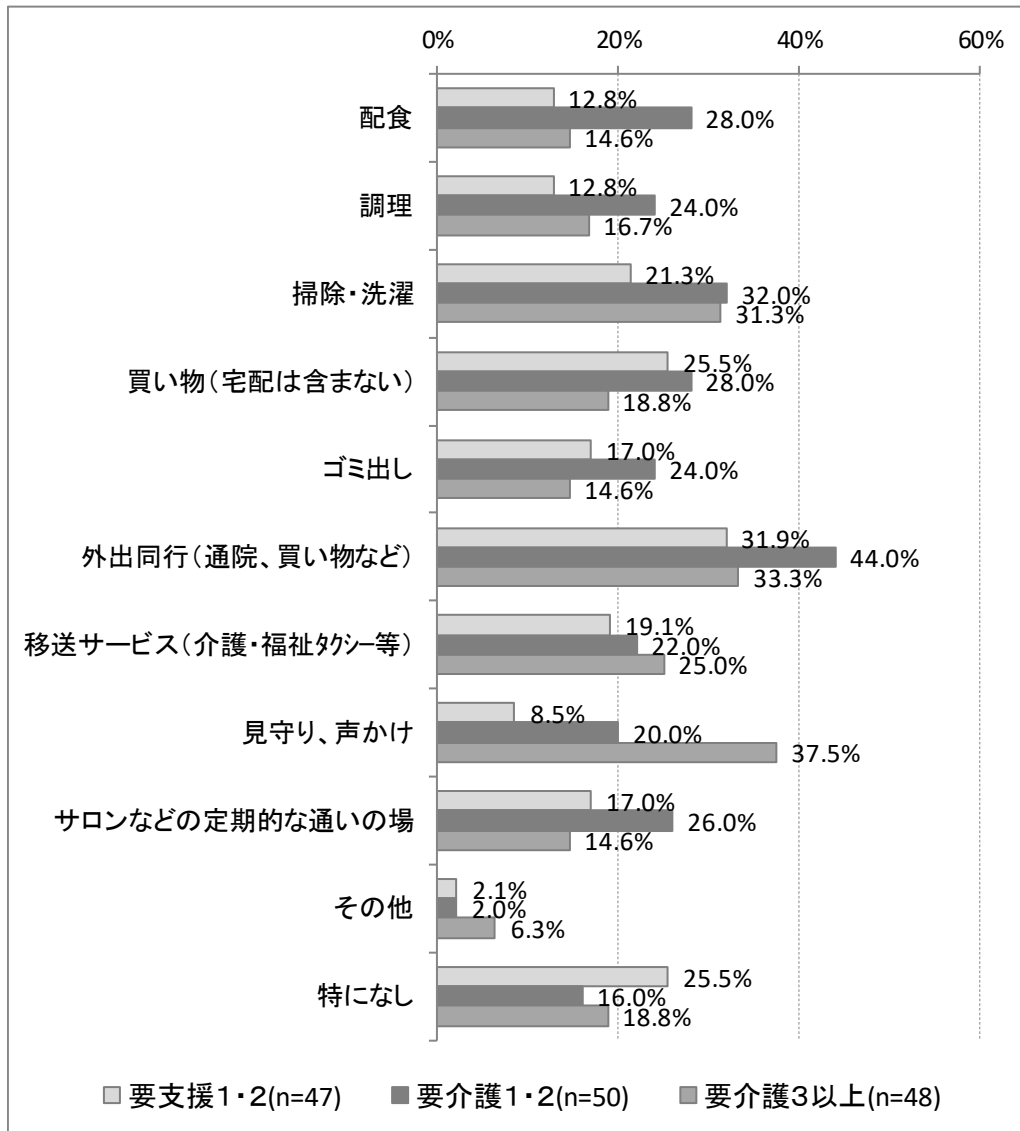
【図表 371】 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「外出同行（通院、買い物など）」が31.9%ともっとも割合が高く、次いで「買い物（宅配は含まない）」、「特になし」が25.5%、「掃除・洗濯」が21.3%となっている。「要介護1・2」では「外出同行（通院、買い物など）」が44.0%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が32.0%、「配食」、「買い物（宅配は含まない）」が28.0%となっている。「要介護3以上」では「見守り、声かけ」が37.5%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が33.3%、「掃除・洗濯」が31.3%となっている。

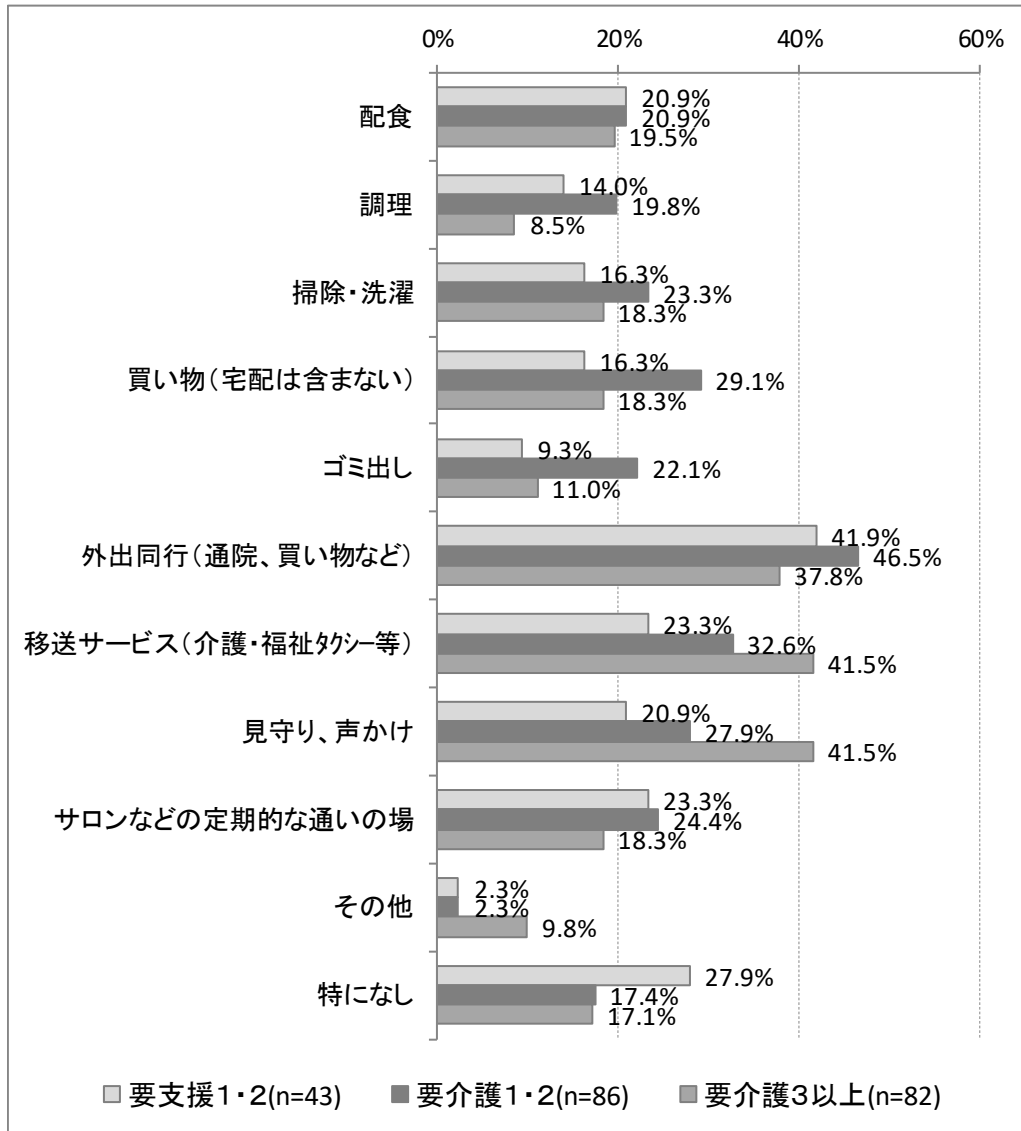
【図表 372】 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「外出同行（通院、買い物など）」が41.9%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が27.9%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「サロンなどの定期的な通いの場」が23.3%となっている。「要介護1・2」では「外出同行（通院、買い物など）」が46.5%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が32.6%、「買い物（宅配は含まない）」が29.1%となっている。「要介護3以上」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」が41.5%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が37.8%、「配食」が19.5%となっている。

【図表 373】 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



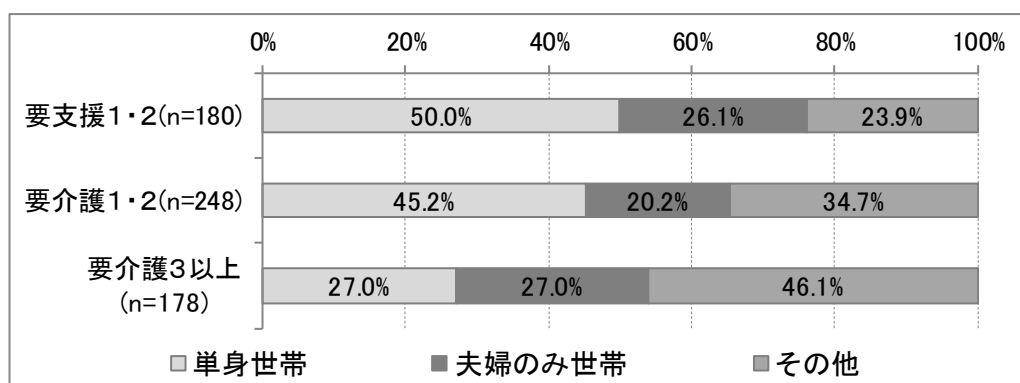
将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

(1) 基礎集計

【要介護度別・世帯類型】

世帯類型を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「単身世帯」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が26.1%、「その他」が23.9%となっている。「要介護1・2」では「単身世帯」が45.2%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が34.7%、「夫婦のみ世帯」が20.2%となっている。「要介護3以上」では「その他」が46.1%ともっとも割合が高く、次いで「単身世帯」、「夫婦のみ世帯」が27.0%となっている。

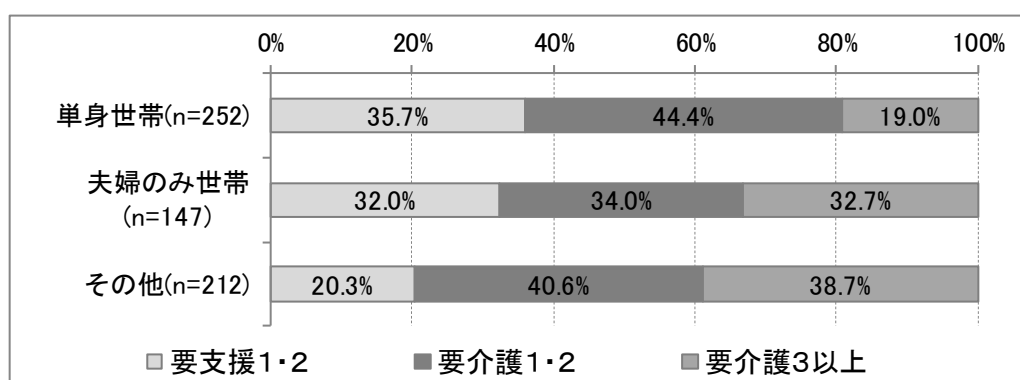
【図表 374】 要介護度別・世帯類型



【世帯類型別・要介護度】

二次判定結果を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要介護1・2」が44.4%ともっとも割合が高く、次いで「要支援1・2」が35.7%、「要介護3以上」が19.0%となっている。「夫婦のみ世帯」では「要介護1・2」が34.0%ともっとも割合が高く、次いで「要介護3以上」が32.7%、「要支援1・2」が32.0%となっている。「その他」では「要介護1・2」が40.6%ともっとも割合が高く、次いで「要介護3以上」が38.7%、「要支援1・2」が20.3%となっている。

【図表 375】 世帯類型別・要介護度

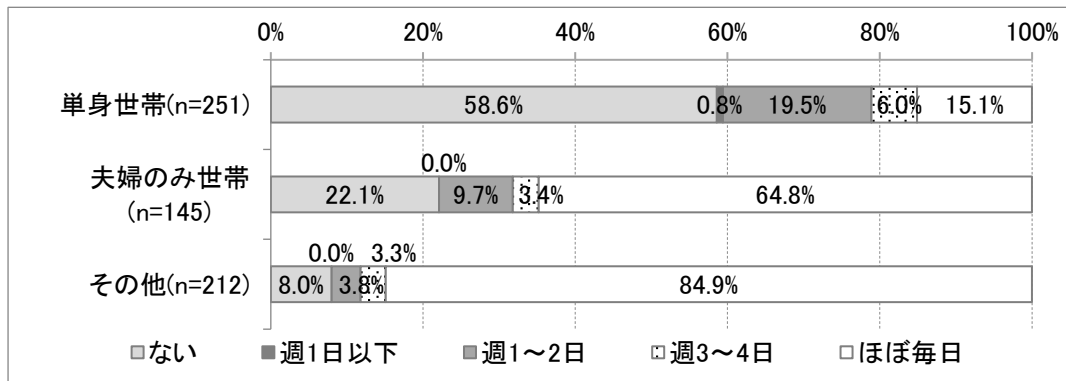


(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「ない」が 58.6%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が19.5%、「ほぼ毎日」が15.1%となっている。「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が64.8%と最も割合が高く、次いで「ない」が22.1%、「週1～2日」が9.7%となっている。「その他」では「ほぼ毎日」が84.9%と最も割合が高く、次いで「ない」が8.0%、「週1～2日」が3.8%となっている。

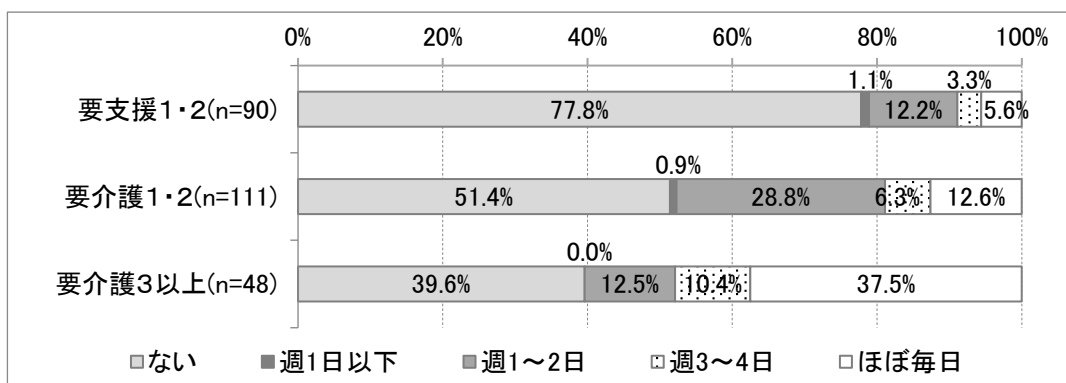
【図表 376】世帯類型別・家族等による介護の頻度



【要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」が77.8%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が12.2%、「ほぼ毎日」が5.6%となっている。「要介護1・2」では「ない」が51.4%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が28.8%、「ほぼ毎日」が12.6%となっている。「要介護3以上」では「ない」が39.6%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が37.5%、「週1～2日」が12.5%となっている。

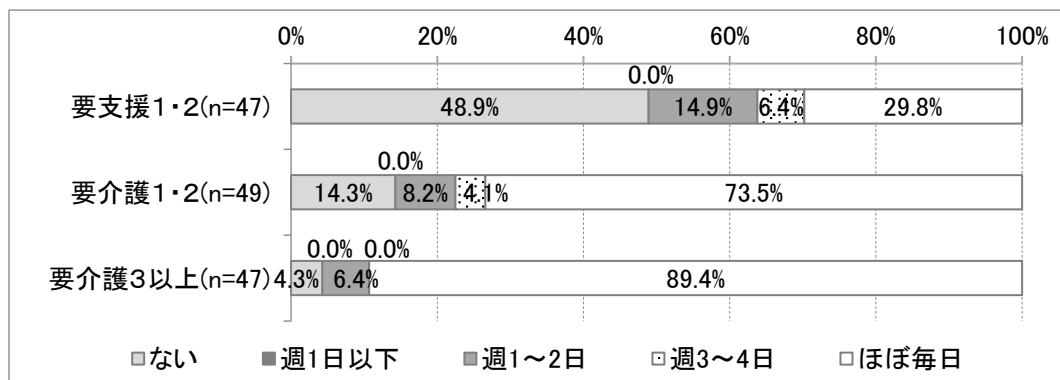
【図表 377】要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）



【要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」が48.9%ともっとも割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が29.8%、「週1～2日」が14.9%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が73.5%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が14.3%、「週1～2日」が8.2%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が89.4%ともっとも割合が高く、次いで「週1～2日」が6.4%、「ない」が4.3%となっている。

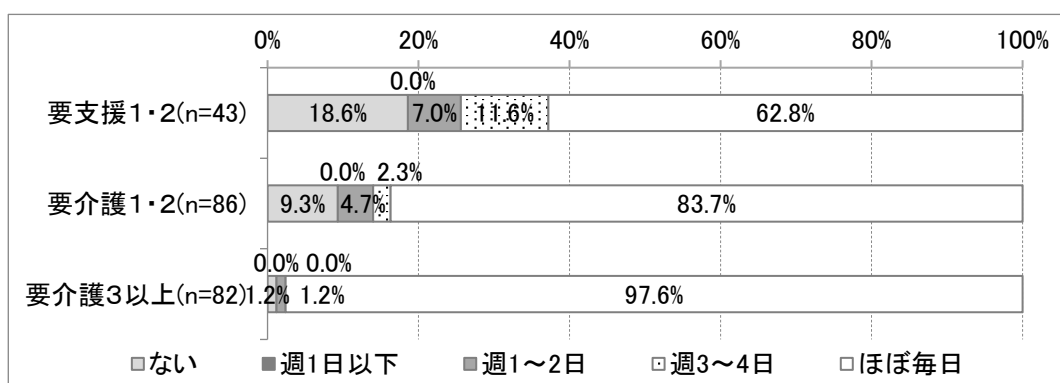
【図表 378】 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ほぼ毎日」が62.8%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が18.6%、「週3～4日」が11.6%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が83.7%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が9.3%、「週1～2日」が4.7%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が97.6%ともっとも割合が高く、次いで「ない」、「週1～2日」が1.2%、「週1日以下」、「週3～4日」が0.0%となっている。

【図表 379】 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）

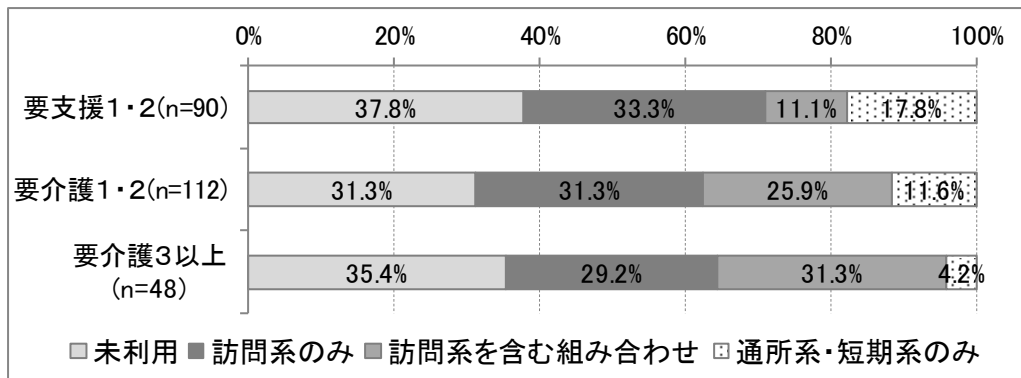


(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が37.8%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が33.3%、「通所系・短期系のみ」が17.8%となっている。「要介護1・2」では「未利用」、「訪問系のみ」が31.3%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が25.9%、「通所系・短期系のみ」が11.6%となっている。「要介護3以上」では「未利用」が35.4%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が31.3%、「訪問系のみ」が29.2%となっている。

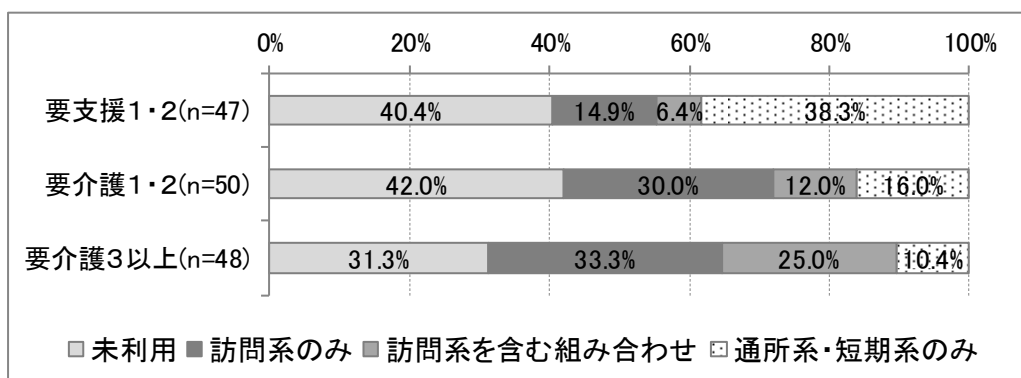
【図表 380】 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が40.4%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が38.3%、「訪問系のみ」が14.9%となっている。「要介護1・2」では「未利用」が42.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が30.0%、「通所系・短期系のみ」が16.0%となっている。「要介護3以上」では「訪問系のみ」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が31.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が25.0%となっている。

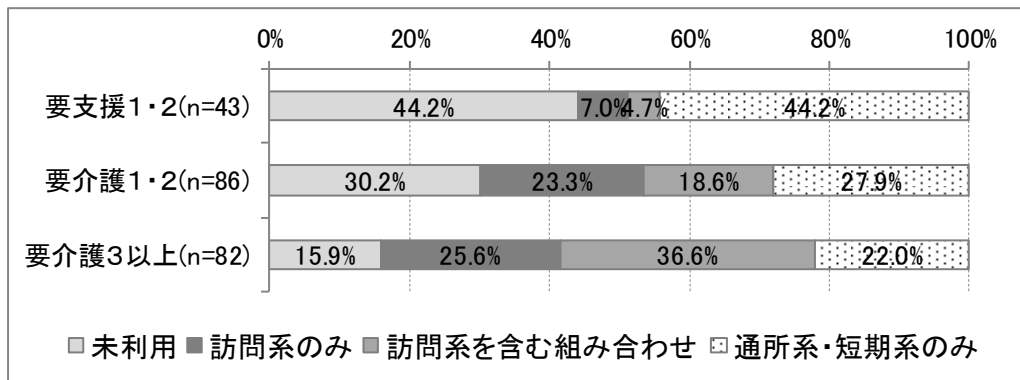
【図表 381】 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が44.2%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が7.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が4.7%となっている。「要介護1・2」では「未利用」が30.2%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が27.9%、「訪問系のみ」が23.3%となっている。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が36.6%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が25.6%、「通所系・短期系のみ」が22.0%となっている。

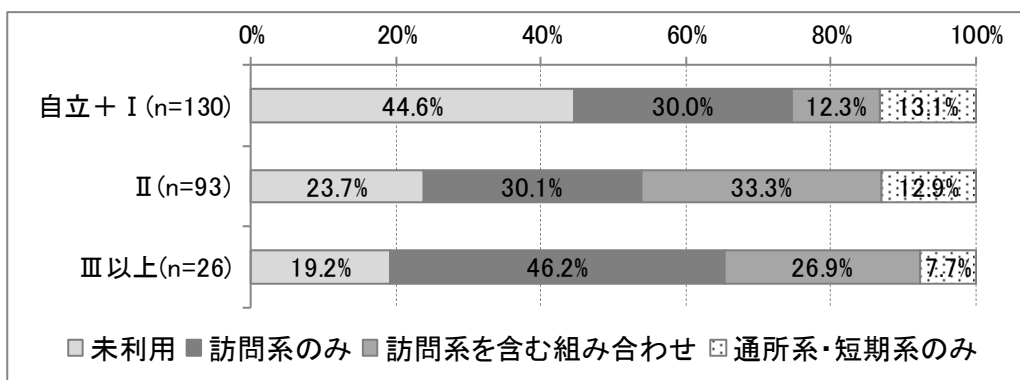
【図表 382】 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「未利用」が44.6%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が30.0%、「通所系・短期系のみ」が13.1%となっている。「Ⅱ」では「訪問系を含む組み合わせ」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が30.1%、「未利用」が23.7%となっている。「Ⅲ以上」では「訪問系のみ」が46.2%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.9%、「未利用」が19.2%となっている。

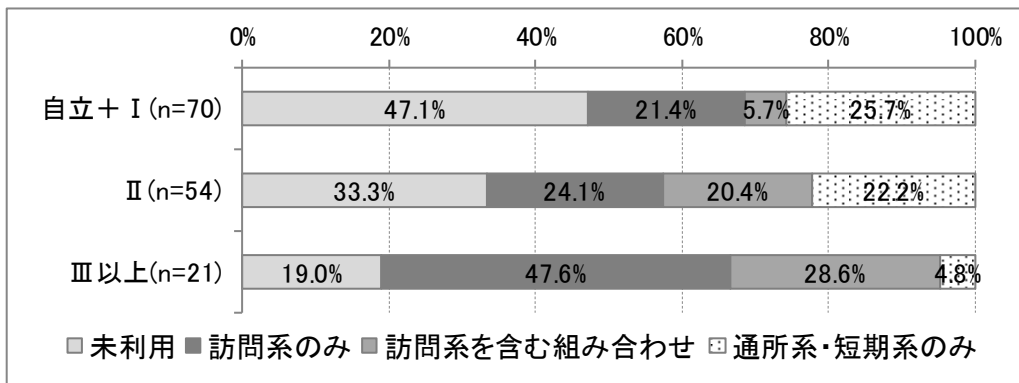
【図表 383】 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「未利用」が47.1%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が25.7%、「訪問系のみ」が21.4%となっている。「Ⅱ」では「未利用」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が24.1%、「通所系・短期系のみ」が22.2%となっている。「Ⅲ以上」では「訪問系のみ」が47.6%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が28.6%、「未利用」が19.0%となっている。

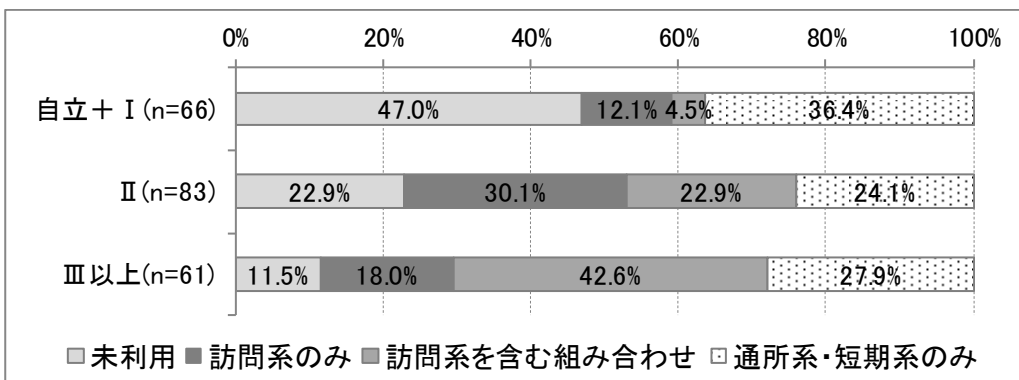
【図表 384】 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「未利用」が47.0%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が36.4%、「訪問系のみ」が12.1%となっている。「Ⅱ」では「訪問系のみ」が30.1%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が24.1%、「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が22.9%となっている。「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が42.6%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が27.9%、「訪問系のみ」が18.0%となっている。

【図表 385】 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）

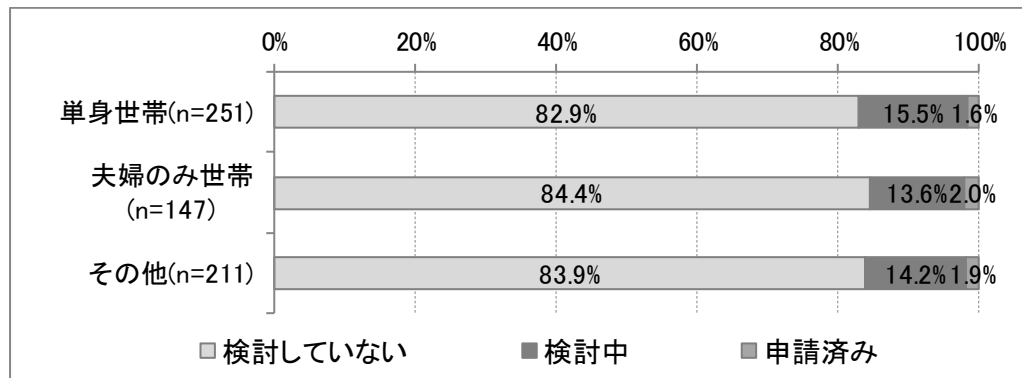


(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

【世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が 82.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 15.5%、「申請済み」が 1.6%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が 84.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 13.6%、「申請済み」が 2.0%となっている。「その他」では「検討していない」が 83.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 14.2%、「申請済み」が 1.9%となっている。

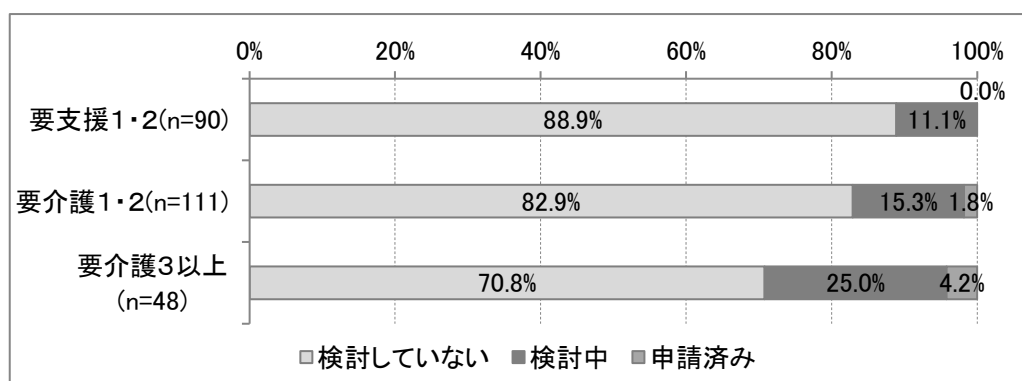
【図表 386】世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）



【要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が 88.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 11.1%、「申請済み」が 0.0%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が 82.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 15.3%、「申請済み」が 1.8%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が 70.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 25.0%、「申請済み」が 4.2%となっている。

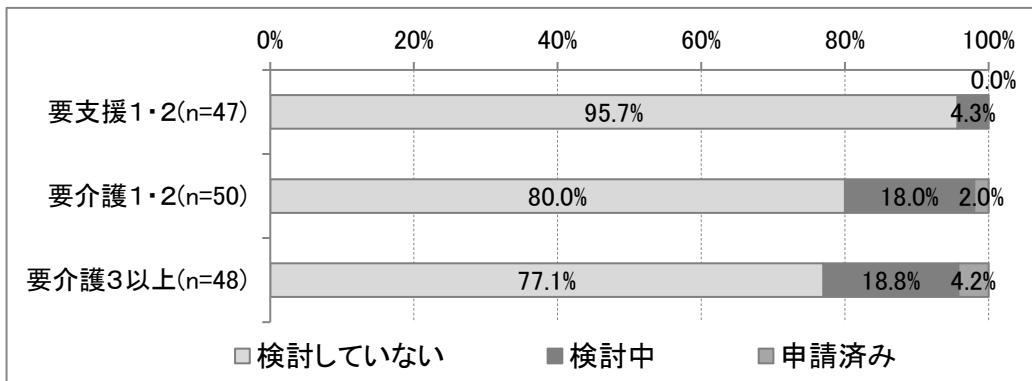
【図表 387】要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



【要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が95.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が4.3%、「申請済み」が0.0%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が80.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が18.0%、「申請済み」が2.0%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が77.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が18.8%、「申請済み」が4.2%となっている。

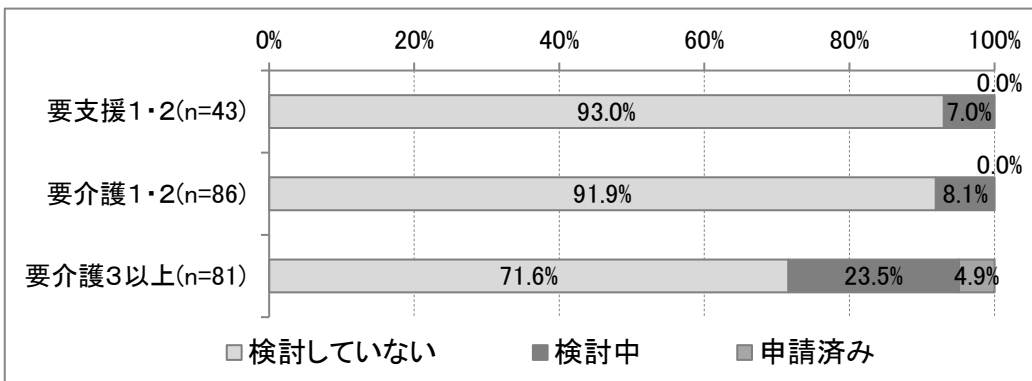
【図表 388】 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が93.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が7.0%、「申請済み」が0.0%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が91.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が8.1%、「申請済み」が0.0%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が71.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が23.5%、「申請済み」が4.9%となっている。

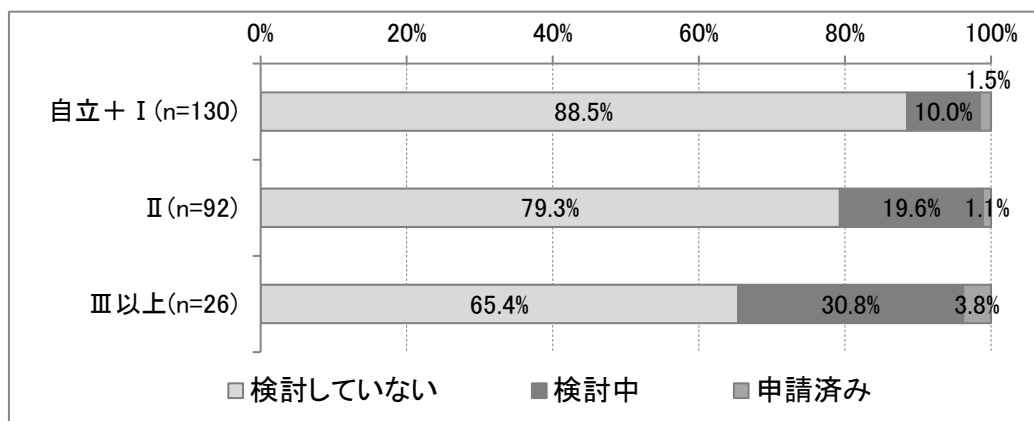
【図表 389】 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



【認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「検討していない」が88.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が10.0%、「申請済み」が1.5%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が79.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が19.6%、「申請済み」が1.1%となっている。「Ⅲ以上」では「検討していない」が65.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が30.8%、「申請済み」が3.8%となっている。

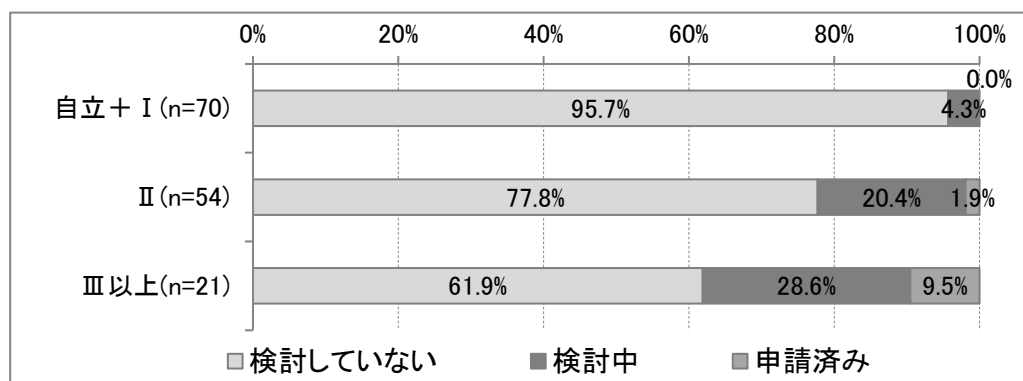
【図表 390】 認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）



【認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「検討していない」が95.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が4.3%、「申請済み」が0.0%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が77.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.4%、「申請済み」が1.9%となっている。「Ⅲ以上」では「検討していない」が61.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が28.6%、「申請済み」が9.5%となっている。

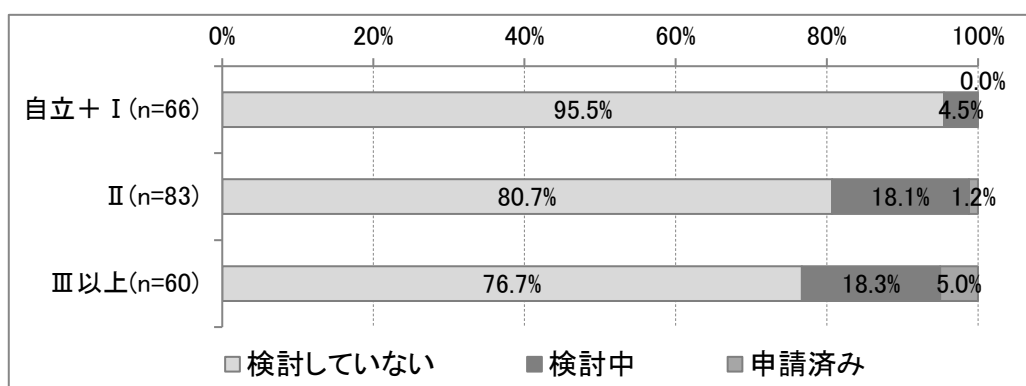
【図表 391】 認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「検討していない」が95.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が4.5%、「申請済み」が0.0%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が80.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が18.1%、「申請済み」が1.2%となっている。「Ⅲ以上」では「検討していない」が76.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が18.3%、「申請済み」が5.0%となっている。

【図表 392】 認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）



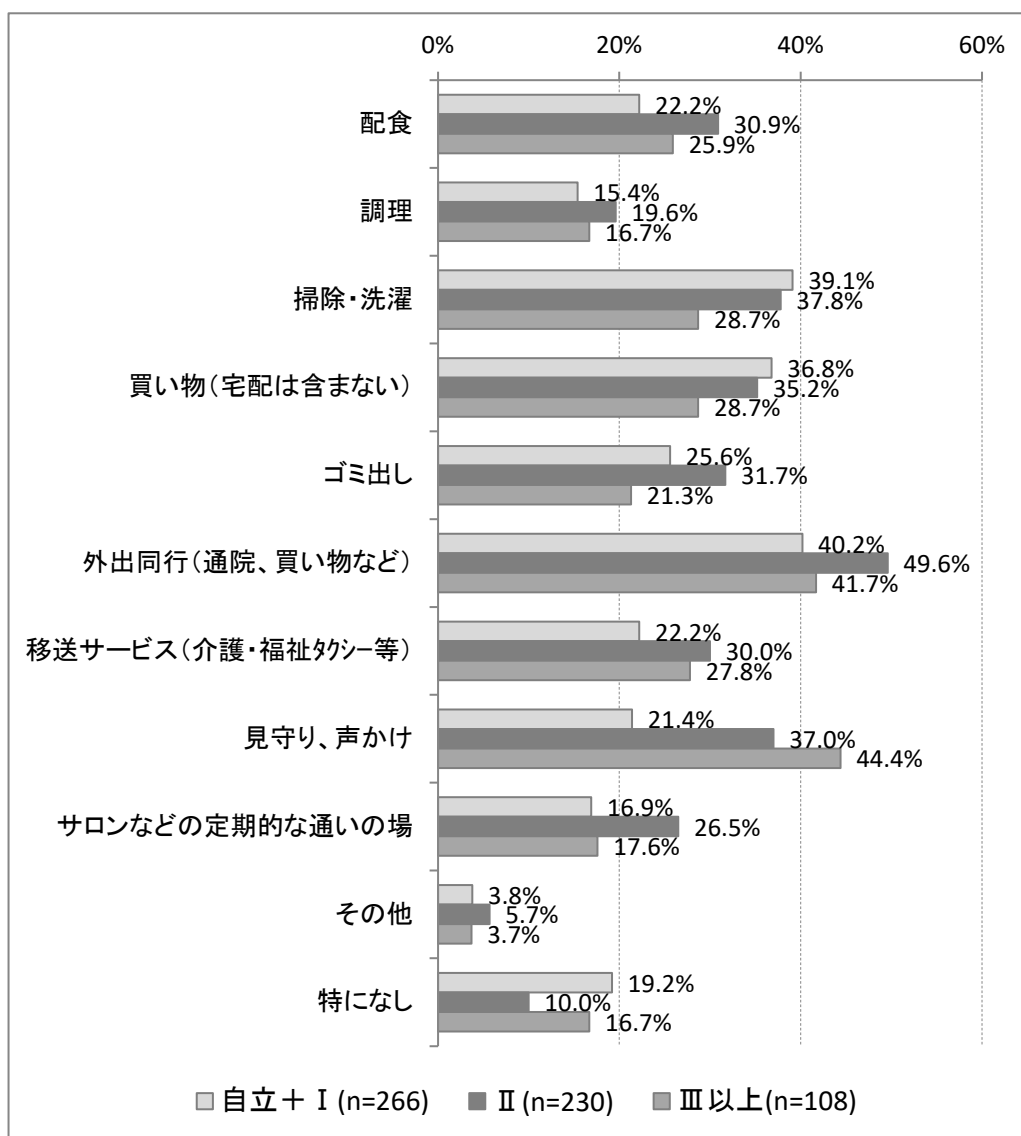
サービス未利用の理由など

(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「外出同行（通院、買い物など）」が40.2%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が39.1%、「買い物（宅配は含まない）」が36.8%となっている。「Ⅱ」では「外出同行（通院、買い物など）」が49.6%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が37.8%、「見守り、声かけ」が37.0%となっている。「Ⅲ以上」では「見守り、声かけ」が44.4%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が41.7%、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」が28.7%となっている。

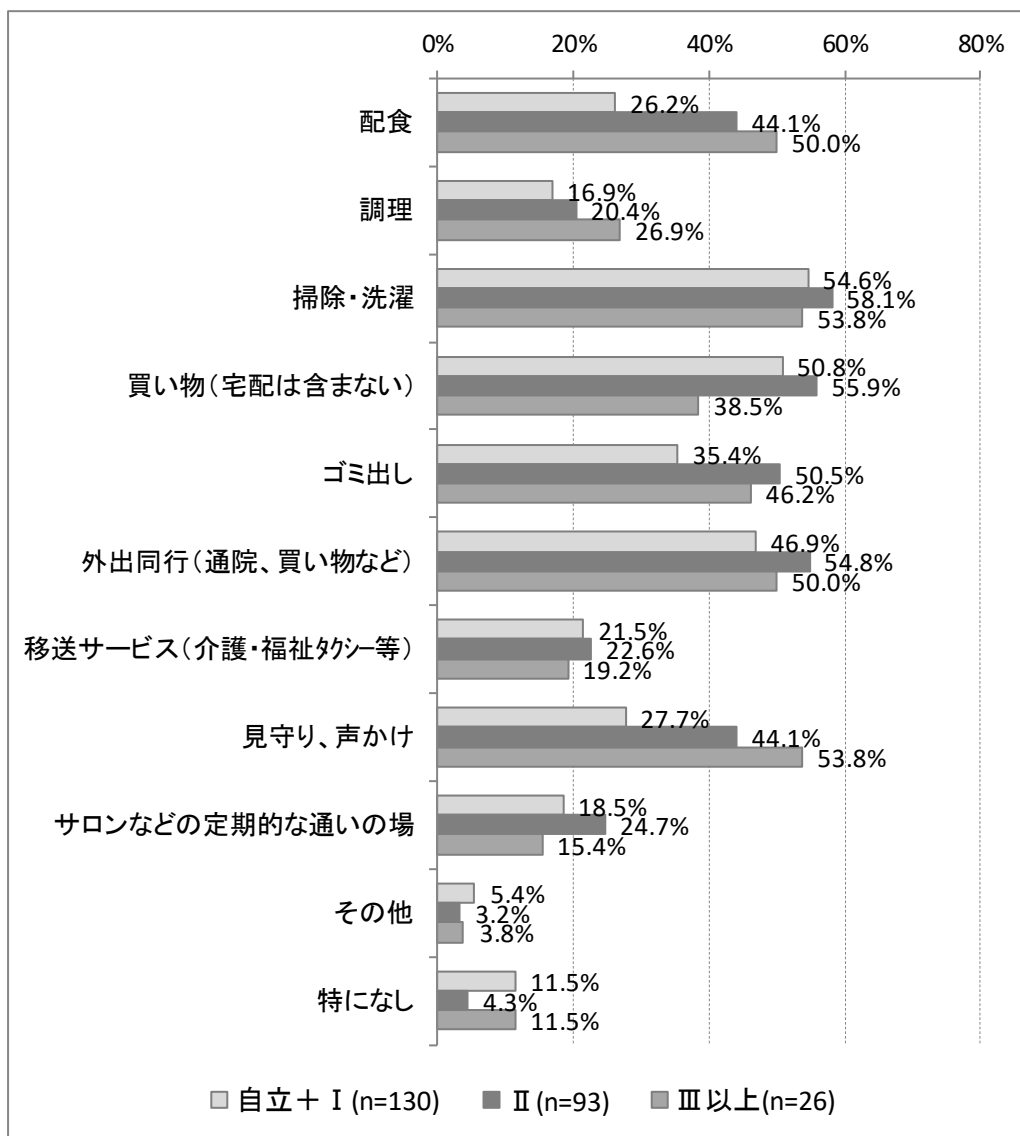
【図表 393】 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「掃除・洗濯」が 54.6%ともっとも割合が高く、次いで「買い物（宅配は含まない）」が 50.8%、「外出同行（通院、買い物など）」が 46.9%となっている。「Ⅱ」では「掃除・洗濯」が 58.1%ともっとも割合が高く、次いで「買い物（宅配は含まない）」が 55.9%、「外出同行（通院、買い物など）」が 54.8%となっている。「Ⅲ以上」では「掃除・洗濯」、「見守り、声かけ」が 53.8%ともっとも割合が高く、次いで「配食」、「外出同行（通院、買い物など）」が 50.0%、「ゴミ出し」が 46.2%となっている。

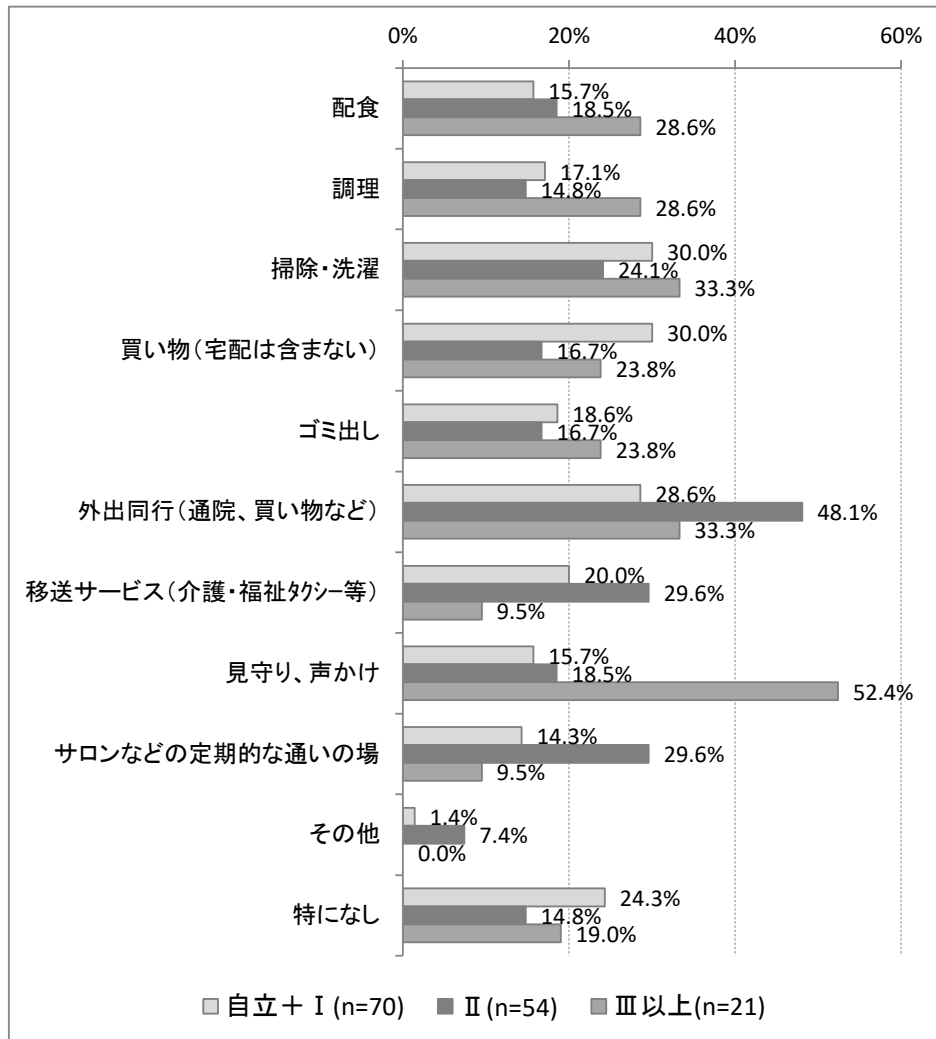
【図表 394】 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+I」では「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」が 30.0%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 28.6%、「特になし」が 24.3%となっている。「II」では「外出同行（通院、買い物など）」が 48.1%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「サロンなどの定期的な通いの場」が 29.6%、「掃除・洗濯」が 24.1%となっている。「III以上」では「見守り、声かけ」が 52.4%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」が 33.3%、「配食」、「調理」が 28.6%となっている。

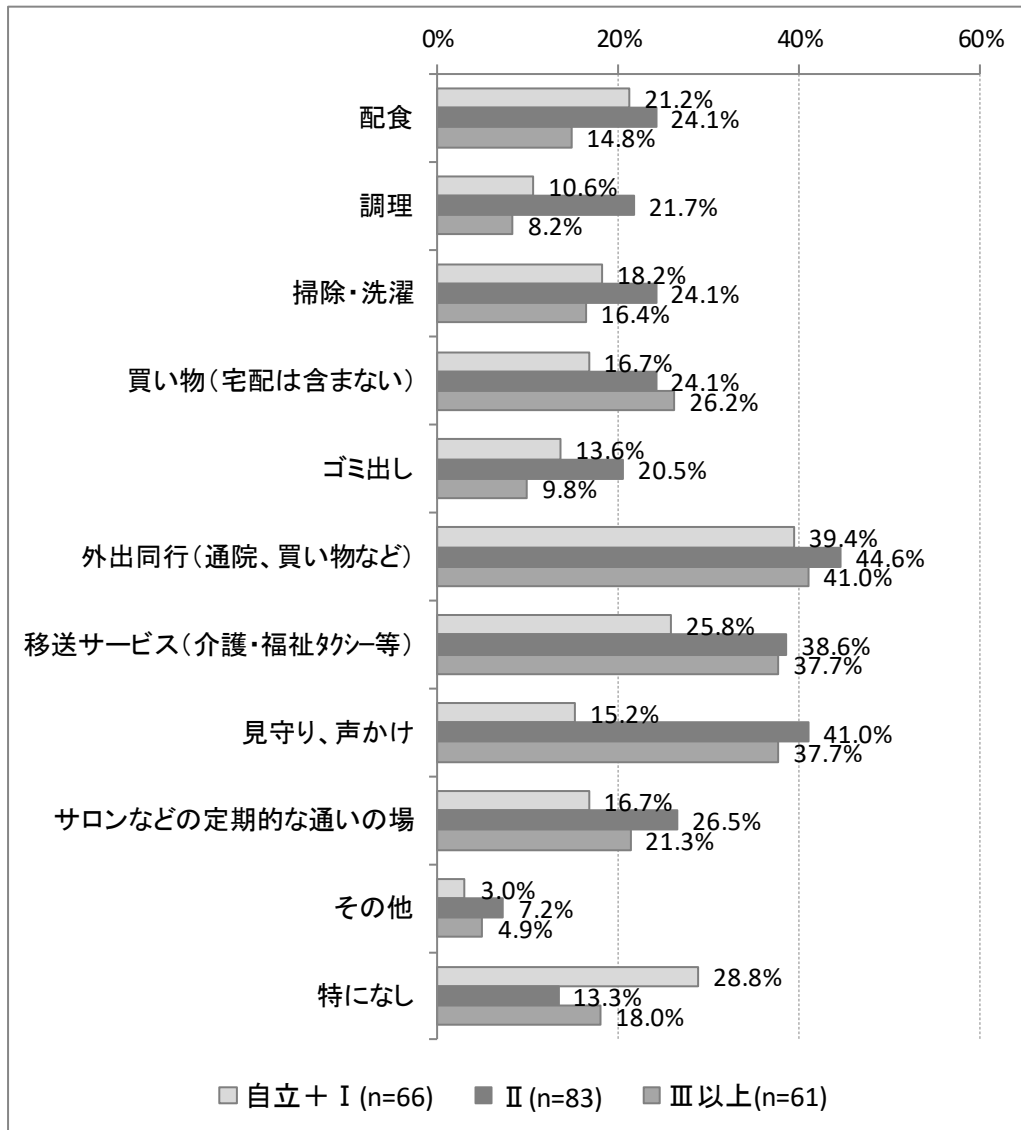
【図表 395】 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「外出同行（通院、買い物など）」が 39.4%と最も割合が高く、次いで「特になし」が 28.8%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 25.8%となっている。「Ⅱ」では「外出同行（通院、買い物など）」が 44.6%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が 41.0%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 38.6%となっている。「Ⅲ以上」では「外出同行（通院、買い物など）」が 41.0%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」が 37.7%、「買い物（宅配は含まない）」が 26.2%となっている。

【図表 396】 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



參考資料

調査票

1 一般高齢者調査 調査票

【個人情報の保護および活用目的について】
 ○調査で得た情報は、区の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定や施策の評価のために利用し、目的以外での使用はいたしません。情報は、区および区指定の委託先にて適切に管理します。
 ○本調査の集計・分析結果は、令和8年3月頃に報告書として発行するとともに、新宿区公式ホームページ等でもお知らせします。
 ○本調査で得られた情報を使用するにあたり、厚生労働省の管理するデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析するなど、個人が識別されない形で利用することがあります。

下の枠の中から調査票を記入した人に○をつけてください。
 この調査は宛名のご本人にお願いしていますが、ご本人が回答できない場合、代理記入でも結構です。その場合はご家族等がご本人の意思を尊重して回答してください。

1. ご本人 2. ご家族 3. その他()

ご本人が何らかの事情によりご不在の場合

この調査は、令和7年9月1日現在の情報でお送りしています。ご本人が何らかの事情によりご不在で、ご家族等が代わりに記入することが難しい場合には、下の枠のいずれかに○をつけ、同封の返信用封筒で調査票を返送してください。

1. 医療機関に入院中 2. 福祉施設に入所中 3. 転居 4. 死亡
 5. その他()

1 あなたご自身のことをおたずねします

問1 性別を教えてください。(1つに○)

1. 男性 2. 女性
 3. その他 4. 回答しない

問2 年齢をご記入ください。
 令和7年9月1日現在の年齢でお答えください。

満()歳 ※数字を記入してください。

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか。(1つに○)
 お開けした封筒の宛名ラベルの右下に記載されています。

1. 四谷 2. 雑司が丘 3. 櫻町 4. 若松町
 5. 大久保 6. 戸塚 7. 落合第一 8. 落合第二
 9. 柏木 10. 角筈

区内にお住まいで要介護認定を受けていない65歳以上(令和7年9月1日現在の年齢)の皆さんへ
新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査

アンケート調査へのご協力をお願いします

新宿区では、高齢者の皆さんが、地域で自分らしくいきいき暮らしていただけるよう、だれもが人として尊重され、ともに築き上げる地域社会をめざした取組を続けています。今後の取組を検討するにあたり、区民の皆さんのご意見を参考にしたいため、調査のご協力をお願いすることになりました。

お忙しいところとは存じますが、より多くの皆さんのご意見を参考にしたいため、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

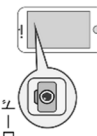
はじめにお読みください

令和7年10月 新宿区

- 質問には、令和7年9月1日現在の状況でお答えください。
- 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。○をつける数はそれぞれの質問の指示に従ってください。「その他」に○をつけた場合など、一部に文字や数字を記入する質問もあります。
- ご記入いただいた調査票は、10月22日(水)までに、同封の返信用封筒でポストに投かんしてください。切手は必要ありません。
- かりがなつきのアンケート用紙が必要な方は、下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

インターネットでアンケートに答えることもできます


① スマートフォンで二次元コードを読み取ってアンケートを回答する。



読み取り用二次元コード
見本

○ご使用のスマートフォンカメラ機能で二次元コードを読み取ります。
 ○URLのポップアップを押しします。
 ○下記の確認番号を入力して進みます。

② パソコンで新宿区の調査専用ページからアンケートを回答する。



○ご使用のパソコンで新宿区の調査専用ページのアドレスを入力します。
 アドレスはこちらです
<https://www14.webcas.net/form/pub/>
 見本
 ○下記の確認番号を入力して進みます。

確認番号 〇〇〇〇〇〇〇〇 ※確認番号は、個人を特定するものではありません。
 調査内容についてご不明な点は、下記までお問い合わせください。
 お問い合わせ先 新宿区(Shinjuku City) 福祉部地域包括ケア推進課 担当:小池・須山
 Tel:03-5273-4193(直通) Fax:03-6205-5083

問4 あなたの現在の状態は、次のうちどれですか。(1つに○)
おわかりにならない場合は、ご家族やケアマネジャーにおたずねになり、必ず記入してください。

1. 要介護認定を受けていない(非認定) 2. 要支援1
3. 要支援2 4. 事業対象者(※)

※事業対象者
基本チェックリストにより、介護予防・生活支援サービス事業(総合事業)の対象となつた方。

2 あなたのご家族や生活状況についておたずねします

問5 家族構成を教えてください。(1つに○)
ご夫婦と未婚のお子さんでお住まいの場合は、「4. 息子・娘との2世帯」に○をつけ、()内に(孫を含む3世帯)と記入してください。
孫を含む3世帯でお住まいの場合は「5. その他」に○をつけ、()内に(孫を含む3世帯)と記入してください。

1. 1人暮らし 2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下) 4. 息子・娘との2世帯
5. その他()

問6 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(1つに○)

1. 介護・介助は必要ない
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護を受けている
(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

問7 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つに○)

1. 大変苦しい 2. やや苦しい 3. ふつう
4. ややゆとりがある 5. 大変ゆとりがある

問8 お住まいは1戸建て、または集合住宅のどちらですか。(1つに○)

- [6. 借家]とは3～5以外の借家(UR・公社の借家、給与住宅等)を指します。
1. 持家(1戸建て) 2. 持家(集合住宅)
3. 公営賃貸住宅 4. 民間賃貸住宅(1戸建て)
5. 民間賃貸住宅(集合住宅) 6. 借家
7. その他()

3 からだを動かすことについておたずねします

問9 階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか。(1つに○)
手すりにつかまったり、壁を支えにせずに階段を昇っていますかということです。

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

問10 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(1つに○)
ひし掛けやテーパーなどを支えにせずに椅子から立ち上がっていますかということです。

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

問11 15分位続けて歩いていきますか。(1つに○)

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

問12 過去1年間に転んだ経験がありますか。(1つに○)

1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

問13 転倒に対する不安は大きいですか。(1つに○)

1. とても不安である 2. やや不安である
3. あまり不安でない 4. 不安でない

問14 週に1回以上は外出していますか。(1つに○)

1. ほとんど外出しない 2. 週1回
3. 週2～4回 4. 週5回以上

問15 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(1つに○)

1. とても減っている 2. 減っている
3. あまり減っていない 4. 減っていない

問 16 あなたは以下の運動（ウォーキング、体操、筋力トレーニング（※））を、それぞれどれくらいの頻度でしていますか。（ア～ウそれぞれ1つに○）

	週2回以上	週1回程度	2週に1回程度	月1回以下	全くしない
ア. ウォーキング	1	2	3	4	5
イ. 体操	1	2	3	4	5
ウ. 筋力トレーニング	1	2	3	4	5

※筋力トレーニング

筋力トレーニングとは、筋肉に「ややきつい」と感じる程度の負荷を繰り返しかける運動のことをいいます。足腰を鍛えるためには、歩くなどの有酸素運動だけでなく、週1、2回の筋力トレーニングが効果的です。

4 食べることにしておたずねします

問 17 身長・体重を教えてください。（数字を記入 小数点以下は不要です）

身長 _____ cm 体重 _____ kg

問 18 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。（1つに○）

1. はい 2. いいえ

問 19 お茶や汁物等でむせることがありますか。（1つに○）

1. はい 2. いいえ

問 20 口の渇きが気になりますか。（1つに○）

1. はい 2. いいえ

問 21 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。（1つに○）

（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です。）

1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用
 2. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯の利用なし
 3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用
 4. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯の利用なし



問 22 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。（1つに○）

1. はい 2. いいえ

問 23 どなたかと食事をとにもする機会はありますか。（1つに○）

1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある
 4. 年に何度かある 5. ほとんどない

問 24 最近一週間のうち、ほぼ毎日食べている食品に○をしてください。

（あてはまるものすべてに○）

1. 肉 2. 魚介類
 3. 卵 4. 大豆・大豆製品（納豆、豆腐など）
 5. 牛乳・乳製品（チーズ、ヨーグルトなど） 6. 緑黄色野菜（主に色の濃い野菜）
 7. 海藻類 8. いも類
 9. 果物 10. 油脂類（油を使った料理）

5 日ごろの生活についておたずねします

問 25 もの忘れが多いと感じますか。（1つに○）

1. はい 2. いいえ

問 26 バスや電車を使って1人で外出していますか。（自家用車でも可）（1つに○）

公共交通機関や自家用車を使って一人で外出していますかという事です。

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

問 27 自分で食品・日用品の買物をしていますか。（1つに○）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

問 28 自分で食事の用意をしていますか。（1つに○）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

問 29 自分で請求書の支払いをしていますか。（1つに○）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

問30 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(1つに○)
 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

問31 過去1年間に利用した通信機器(スマートフォンやパソコンなど)を使った機能・サービスはどれですか。(あてはまるものすべてに○)
 1. 家族、友人等との電話連絡 2. 家族、友人等とのメール連絡
 3. カメラの利用(写真・動画撮影等) 4. インターネットでの情報検索
 5. LINE 等の SNS での連絡 6. キャッシュレス決済
 7. ネットショッピング 8. ネットによる行政手続き
 9. ネットバンキング等の金融取引 10. Zoom 等のオンライン会議
 11. 健康管理(歩数、運動量など) 12. その他()
 13. 通信機器を持っていない

6 日ごろの活動についておたずねします

問32 以下のような会・グループ等にとどのくらいの頻度で参加していますか。
 ※①-⑧-それぞれに回答してください。(それぞれ1つに○)

	週4回 以上	週2 ~3回	週1回 ~3回	月1 ~3回	年に 数回	参加して いない
①ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
②スポーツ関係のグループ	1	2	3	4	5	6
③趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤介護予防のための通いの場※	1	2	3	4	5	6
⑥高齢者クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦町会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

※通いの場
 身近な場所で行われる趣味活動など介護予防のための活動をする「新規いきいき体操」、「しんじゅく100トリ」
 取組むグループ」、「地域安心カフェ」、「ふれあいいきいきサロン」などを指します。

問33 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つに○)

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい
 3. 参加したくない 4. 既に参加している

問34 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。(1つに○)

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい
 3. 参加したくない 4. 既に参加している

7 たずねあいについておたずねします

問35 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人。(あてはまるものすべてに○)
 心配事や愚痴を聞いてくれる人が、子の配偶者(お婿さん、お嫁さん)の場合は、「2. 同居の子ども」または「3. 別居の子ども」に○をつけてください。

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども
 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣 6. 友人
 7. その他() 8. そのような人はいない

問36 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人。(あてはまるものすべてに○)
 心配事や愚痴を聞いてあげる人が、子の配偶者(お婿さん、お嫁さん)の場合は、「2. 同居の子ども」または「3. 別居の子ども」に○をつけてください。

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども
 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣 6. 友人
 7. その他() 8. そのような人はいない

問37 あなたが病気で数日間入院込んだときに、看護や世話をしてくれる人。
 (あてはまるものすべてに○)

看護や世話をしてくれる人が、子の配偶者(お婿さん、お嫁さん)の場合は、「2. 同居の子ども」または「3. 別居の子ども」に○をつけてください。

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども
 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣 6. 友人
 7. その他() 8. そのような人はいない

問 38 反対に、看病や世話をしあける人。(あてはまるものすべてに○)
 看病や世話をしあける人が、子の配偶者(お婿さん、お嫁さん)の場合は、「2. 同居の子ども」または「3. 別居の子ども」に○をつけてください。

- | | | |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他() | 8. そのような人はいない | |

問 39 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり(住民同士の助け合い・支え合いなど)についておたずねします。

(1) 地域のつながりの必要性 (1つに○)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 必要だと思う | 2. どちらかといえば必要だと思う |
| 3. どちらかといえば必要ないと思う | 4. 必要ないと思う |

(2) 地域のつながりの実感 (1つに○)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. 感じる | 2. どちらかといえば感じる |
| 3. どちらかといえば感じない | 4. 感じない |

問 40 あなたは、お住まいの地域の人から何らかの役割を期待されたり、頼りにされていると思いますか。(1つに○)

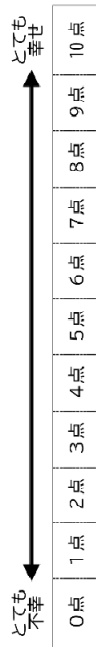
- | | |
|-------------|--------------|
| 1. とてもそう思う | 2. そう思う |
| 3. ややそう思う | 4. あまりそう思わない |
| 5. 全くそう思わない | |

8 健康状態についておたずねします

問 41 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つに○)

- | | | | |
|----------|---------|------------|---------|
| 1. とてもよい | 2. まあよい | 3. あまりよくない | 4. よくない |
|----------|---------|------------|---------|

問 42 あなたは、現在のどの程度幸せですか。(1つに○)
 (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、該当すると感じる点数に○をつけてください。)



問 43 生きがいがありますか。(1つに○)

- | | |
|-------------|-----------|
| 1. ある(具体的に) | 2. 思いつかない |
|-------------|-----------|

問 44 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問 45 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問 46 タバコは吸っていますか。(1つに○)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. ほぼ毎日吸っている | 2. 時々吸っている |
| 3. 吸っていたがやめた | 4. もともと吸っていない |

問 47 現在治療中、または後遺症のある病気がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1. ない | 3. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等) |
| 2. 高血圧 | 5. 糖尿病 |
| 4. 心臓病 | 7. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等) |
| 6. 脂質異常症(高脂血症) | 9. 腎臓・前立腺の病気 |
| 8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気 | 11. 外傷(転倒・骨折等) |
| 10. 筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等) | 13. 血液・免疫の病気 |
| 12. がん(悪性新生物) | 15. 認知症(アルツハイマー病等) |
| 14. うつ病 | 17. 目の病気 |
| 16. パーキンソン病 | 19. その他() |
| 18. 耳の病気 | |

9 介護予防(*)についておたずねします

問 48 あなたは、「介護予防」について関心がありますか。(1つに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 関心がある | 2. どちらかといえば関心がある |
| 3. どちらかといえば関心がない | 4. 関心がない |

※介護予防

介護予防とは、高齢者が介護の必要な状態になることをできる限り予防し、また介護の必要な方でもできるだけ悪化しないようにすることです。
 住み慣れた地域で、いつでも自分らしく、元気でいきいきと暮らし続けるために、早めにフレイル(加齢に伴い心身の活力が低下した状態)に気づき、介護予防に取り組むことが大切です。

13 認知症についておたずねします

問 56 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

問 57 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

問 58 あなたは今までに、自身や家族等が認知症になったときのことについて、考えたことがありますか。(1つに○)

- 1. ある
- 2. ない

問 59 もの忘れや認知症に関して、どちらに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 診療所・クリニックのかかりつけ医
- 2. 病院の神経内科、精神科など
- 3. 老年科・もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院
- 4. 認知症疾患医療センター(※)
- 5. 保健所・保健センター
- 6. 高齢者総合相談センター
- 7. その他()
- 8. 相談したことがない

※認知症疾患医療センター
認知症の専門相談、診断、身体合併症や行動・心理症状への対応、地域連携の推進、人材育成等を実施している医療機関です。(東京都指定)

問 60 もしあなたが認知症になったら、大切にしたいことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. いつまでも住み慣れた自宅で生活できること
- 2. 家族とよい関係を保つこと
- 3. 自分のことを自分で決めること
- 4. 友人や知人とのつながりを大切にすること
- 5. 趣味活動など自分の好きなことを続けること
- 6. 社会とのつながりをもち続けること
- 7. 自分を支えてくれる専門職とよい関係を保つこと
- 8. 同じような立場の人と交流すること
- 9. その他()
- 10. わからない

14 権利擁護についておたずねします

問 61 あなたは、成年後見制度(※)を知っていますか。(1つに○)

- 1. 詳しく知っている
- 2. 概要については、知っている
- 3. 聞いたことはあるが、内容は知らない
- 4. 聞いたことがない

※成年後見制度
認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る制度です。成年後見人などがご本人の意思を尊重し、法律面や生活面でその人らしい生活を守るため、お手伝いします。
制度には次の2種類があります。
○「法定後見」<すぐで判断能力が十分でない方に>
家庭裁判所によって選ばれた成年後見人(保佐人・補助人)が、本人の利益を考えながら、代理権や同意権・取消権を活用することによって、本人を保護・支援する制度です。
○「任意後見」<将来の不安に備えたい方に>
判断能力が十分でなくなった場合に備えて、本人があらかじめ選んだ方(将来の任意後見人)と将来お願いする内容を決め、公正証書で契約します。

15 災害時要援護者対策についておたずねします

問 62 あなたは、「災害時要援護者名簿(※)」について知っていますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

※災害時要援護者名簿
災害時の避難等に支援を必要とする方を事前に把握するため、ご本人からの申し出により災害時要援護者名簿を作成しています。この名簿は、区内消防署、区内警察署、地域の民生委員、児童委員、防災役員組織及び区の関係部署に交付し、災害時における安全確認など必要な支援を行うために活用いたします。
なお、この名簿は、登録者から優先的に抽出するものではありません。

2 要支援・要介護認定者調査 調査票

【個人情報保護および活用目的について】
 ○調査で得た情報は、区の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定や施策の評価のために利用し、目的以外の使用いたしません。情報は、区および区指定の委託先にて適切に管理します。
 ○本調査の集計・分析結果は、令和8年3月頃に報告書として発行するとともに、新宿区公式ホームページ等でお知らせします。

下の枠の中から調査票を記入した人に○をつけてください。
 この調査は宛名のご本人にお願いしていますが、ご本人が回答できない場合、代理記入でも結構です。その場合はご家族等がご本人の意思を尊重して回答してください。

1. ご本人 2. ご家族 3. その他()

ご本人が何らかの事情によりご不在の場合
 この調査は、令和7年9月1日現在の情報でお送りしています。ご本人が何らかの事情によりご不在で、ご家族等が代わりに記入することが難しい場合には、下の枠のいずれかに○をつけ、同封の返信用封筒で調査票を返送してください。

1. 医療機関に入院中 2. 福祉施設に入院中 3. 転居 4. 死亡
 5. その他()

1 あなたご自身のことをおたずねします

問1 性別を教えてください。(1つに○)
 1. 男性 2. 女性
 3. その他 4. 回答しない

問2 年齢をご記入ください。
 令和7年9月1日現在の年齢をお答えください。
 満()歳 ※数字を記入してください。

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか。(1つに○)
 お届けした封筒の宛名ラベルの右下に記載されています。

1. 四谷 2. 算笥町 3. 櫻町 4. 若松町
 5. 大久保 6. 戸塚 7. 落合第一 8. 落合第二
 9. 柏木 10. 角筈

問4 あなたの現在の要介護度は、次のうちどれですか。(1つに○)
 おわかりにならない場合は、ご家族やケアマネジャーにおたずねください。

1. 要支援1 2. 要支援2 3. 要介護1 4. 要介護2
 5. 要介護3 6. 要介護4 7. 要介護5

区内にお住まいの要支援・要介護認定を受けている65歳以上(令和7年9月1日現在の皆さん)の新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査

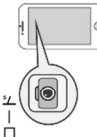
新宿区では、高齢者の皆さんが、地域で自分らしくいきいきと暮らしていただけるよう、だれもが安心して暮らせるよう、ともに支え合う地域社会をめざした取組を続けています。今後の取組を検討するにあたり、区民の皆さんのご意見をうかがいたく、このたびあなた様へ調査への協力をお願いすることになりました。
 お忙しいところとは存じますが、より多くの皆さんのご意見を参考にしたいため、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

アンケート調査へのご協力をお願い
 令和7年10月 新宿区

- はじめにお読みください
- 質問には、令和7年9月1日現在の状況でお答えください。
 - 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。○をつける数はそれぞれの質問の指示に従ってください。「その他」に○をつけた場合など、一部に、文字や数字を記入する質問もあります。
 - ご記入いただいた調査票は、10月22日(水)までに、同封の返信用封筒でポストに投かんしてください。切手は必要ありません。
 - ふりがなつきのアンケート用紙が必要な方は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

インターネットでアンケートに答えることもできます


① スマートフォンで二次元コードを読み取ってアンケートを回答する。

読み取り用二次元コード
 **見本**

○ご使用のスマートフォンのカメラ機能で二次元コードを読み取ります。
 ○URLのポップアップを押しします。
 ○下記の確認番号を入力して進みます。

確認番号 000000
 ※確認番号は、個人を特定するものではありません。
 調査内容についてご不明な点は、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先 新宿区(Shinjuku City) 福祉部地域包括ケア推進課 担当:小池・須山
 Tel:03-52773-4193(直通) Fax:03-6205-5083

② パソコンで新宿区の調査票専用ページからアンケートを回答する。
 ○ご使用のパソコンで新宿区の調査票専用ページのアドレスを入力します。
 **見本**
 アドレスはこちらです
<https://www14.webcas.net/form/pub/>
 ○下記の確認番号を入力して進みます。

問5 あなたが、介護を必要とするようになった主な原因は、次のうちどれですか。(1つに○)

- 1. 脳血管疾患(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等)
- 2. 骨折・転倒
- 3. 高齢による衰弱
- 4. 心臓病
- 5. 関節の病気(リウマチ・変形性膝関節症等)
- 6. 認知症
- 7. 難病(パーキンソン病等)
- 8. がん(悪性新生物)
- 9. 呼吸器疾患
- 10. 糖尿病
- 11. 脊髄損傷
- 12. 視覚・聴覚障害
- 13. その他()
- 14. わからない

2 あなたのご家族や生活状況についておたずねします

問6 家族構成を教えてください。(1つに○)
ご夫婦と未婚のお子さんでお住まいの場合は、「4. 息子・娘との2世帯」に○をつけてください。孫を含む3世帯でお住まいの場合は「5. その他」に○をつけ、()内に(孫を含む)3世帯と記入してください。

- 1. 1人暮らし
- 2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
- 3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)
- 4. 息子・娘との2世帯
- 5. その他()

問7 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つに○)

- 1. 大変苦しい
- 2. やや苦しい
- 3. がつう
- 4. ややゆとりがある
- 5. 大変ゆとりがある

問8 生きがいがありますか。(1つに○)

- 1. ある(具体的に:)
- 2. 思いつかない

3 食べることにについておたずねします

問9 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

問10 お茶や汁物等でもせることがありますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

問11 口の渇きが気になりますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

4 日ごろの活動についておたずねします

問12 以下のような会・グループ等にとどのくらいの頻度で参加していますか。
※①-⑧それぞれに回答してください。(それぞれ1つに○)

	週4回以上	週2回~3回	週1回	月1回~3回	年に数回	年に参加していない
①ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
②スポーツ関係のグループ	1	2	3	4	5	6
③趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤介護予防のための通いの場※	1	2	3	4	5	6
⑥高齢者クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦町会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

※通いの場
身近な場所(作業や趣味活動など)介護予防のための活動をする「新居いきいき体験」, 「しんく100」に取組む「グループ」, 「地域安心カフェ」, 「ふれあいいきいきサロン」などを指します。

問13 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つに○)

- 1. 是非参加したい
- 2. 参加してもよい
- 3. 参加したくない
- 4. 既に参加している

問14 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に「企画・運営」(お世話役)として参加してみたいと思いますか。(1つに○)

- 1. 是非参加したい
- 2. 参加してもよい
- 3. 参加したくない
- 4. 既に参加している

5 たすけあいについておたずねします

問15 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり(住民同士の助け合い・支え合いなど)についておたずねします。

- (1) 地域のつながりの必要性(1つに○)
 - 1. 必要だと思う
 - 2. どちらかといえば必要だと思う
 - 3. どちらかといえば必要ないと思う
 - 4. 必要ないと思う

7 かかりつけの医療機関についておたずねします

問 19 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。(1つに○)

- 1. いる
- 2. いない

問19で「2. いない」を選んだ方のみお答えください

問 19-1 かかりつけ医がいない理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 今まで病気になるたつたらその都度、受診先を決めているから
- 2. 病院に通院しているため、診療所・クリニックにはほとんど行かないから
- 3. 健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから
- 4. どのような診療所・クリニックを選べばよいかわからないから
- 5. 医療機関の情報がないためにわからないから
- 6. 近くに適当な診療所・クリニックがないから
- 7. その他()
- 8. 特になし

(全員におたずねします。)
問 20 あなたは、治療や予防のために定期的に受診している「かかりつけ歯科医」がいますか。(1つに○)

- 1. いる
- 2. いない

問 21 あなたは、病院・診療所から処方された薬について相談できる「かかりつけ薬局」がありますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

8 在宅療養等についておたずねします

問 22 あなたは、これからも今のお住まい(自宅等)で生活を続けたいと思えますか。(1つに○)

- 1. 可能な限り自宅で生活を続けたい
- 2. 施設(特別養護老人ホームなど)へ入居したい
- 3. 有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅(※)などに入居したい
- 4. その他()

※有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅
介護、見守り等の提供などについて、高齢者専用の住居のことをいいます。

(2) 地域のつながりの実感 (1つに○)

- 1. 感じる
- 2. どちらかといえば感じる
- 3. どちらかといえば感じない
- 4. 感じない

問 16 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人。(あてはまるものすべてに○)
心配事や愚痴を聞いてくれる人が、子の配偶者(お嬢さん、お嫁さん)の場合は、「2. 同居の子ども」または「3. 別居の子ども」に○をつけてください。

- 1. 配偶者
- 2. 同居の子ども
- 3. 別居の子ども
- 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
- 5. 近隣
- 6. 友人
- 7. その他()
- 8. そのような人はいない

問 17 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人。(あてはまるものすべてに○)
心配事や愚痴を聞いてあげる人が、子の配偶者(お嬢さん、お嫁さん)の場合は、「2. 同居の子ども」または「3. 別居の子ども」に○をつけてください。

- 1. 配偶者
- 2. 同居の子ども
- 3. 別居の子ども
- 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
- 5. 近隣
- 6. 友人
- 7. その他()
- 8. そのような人はいない

6 健康状態についておたずねします

問 18 現在治療中、または後遺症のある病気がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. ない
- 2. 高血圧
- 3. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)
- 4. 心臓病
- 5. 糖尿病
- 6. 脂質異常症(高脂血症)
- 7. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)
- 8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気
- 9. 腎臓・前立腺の病気
- 10. 筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)
- 11. 外傷(転倒・骨折等)
- 12. がん(悪性新生物)
- 13. 血液・免疫の病気
- 14. うつ病
- 15. 認知症(アルツハイマー病等)
- 16. パーキンソン病
- 17. 目の病気
- 18. 耳の病気
- 19. その他()

9 ACP（人生会議）（※）についておたずねします

問 23 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。（1つに○）

1. 自宅
2. 特別介護老人ホームなどの福祉施設
3. 有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など
4. 病院などの医療機関
5. その他()
6. わからない

問 24 ACP（人生会議）についておたずねします。

(1) あなたは、ACP（人生会議）について知っていますか。（1つに○）

1. 知っている 2. 名称は聞いたことがある 3. 知らない

(2) あなたは、ACP（人生会議）を行ったことがありますか。（1つに○）

(1)で2、3と答えた方も、下記説明に該当することをやっている場合を含みます。

1. 行ったことがある 2. 行ったことはない

※ACP（人生会議）
生涯にわたって自分らしく生きていくために、自分が望む人生の最終段階における医療やケアについて、前もって考え、家族や友人、医療や介護の関係者などと話し合い、共有する取組を「ACP（アドバンス・ケア・プランニング（人生会議））」と呼びます。より馴染みやすい言葉となるよう、「人生会議」と愛称がつきました。

10 権利擁護についておたずねします

問 25 あなたは、成年後見制度（※）を知っていますか。（1つに○）

1. 詳しく知っている
2. 概要については、知っている
3. 聞いたことはあるが、内容は知らない
4. 聞いたことがない

※成年後見制度
認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る制度です。成年後見人などが行った本人の意思を尊重し、法律面や生活面でその人らしい生活を守るため、お手伝いします。
制度は本県の2種類があります。
○「法定後見」<すぐで判断能力が十分でない方へ>
家庭裁判所によって選ばれた成年後見人・保佐人・補助人が、本人の利益を考えながら、代理権や同意権・取消権を有することによって、本人を保護・支援する制度です。
○「任意後見」<将来の不安を解消したい方へ>
判断能力が十分でなくなった場合に備えて、本人があらかじめ選んだ方（将来の任意後見人）と将来を願っている内容を定め、公正証書で契約します。

11 災害時要介護者対策についておたずねします

問 26 あなたは、「災害時要介護者名簿（※）」について知っていますか。（1つに○）

1. はい 2. いいえ

※災害時要介護者名簿
災害時の要介護者へ支援を必要とする方を事前に把握するため、ご本人からの申し出により災害時要介護者名簿を作成しています。この名簿は、区内消防署、区内警察署、地域の民生委員・児童委員、防災区民組織及び区の関係部署と連携し、災害時における災害種別など必要な支援を行うために活用いたします。
なお、この名簿は、登録者から優先的に抽出するものではありません。

12 健康・福祉サービスの情報や相談窓口についておたずねします

問 27 あなたは、「高齢者総合相談センター（※）」の名称を知っていますか。（1つに○）

1. はい 2. いいえ

問 28 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関か知っていますか。（1つに○）

1. はい 2. いいえ

問 29 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるか知っていますか。（1つに○）

1. はい 2. いいえ

※高齢者総合相談センター
介護保険法における「地域包括支援センター」で、高齢者の介護、福祉、健康、医療などに関して総合的な支援を行うために、区内11か所に設置している相談機関です。保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー等の資格を持った職員が、連携しながらチームとなって相談支援にあたっています。

問31で「1. 利用している」を選んでいる「介護保険サービスと利用満足度」についておたずねします。

介護保険サービス名 ※下記①および⑧のサービスは介護予防・生活支援サービス（あてはまるものすべてに○） 事業（総合事業）も含む。	(1)現在利用しているサービス（あてはまるものすべてに○）	(2)現在利用しているサービスの満足度（それぞれ1つに○）
①訪問介護（ホームヘルプサービス）	ホームヘルパーに自宅を訪問してもらい、身体介護や生活援助を利用できる	1.満足 2.おおむね満足 3.やや不満 4.不満
②定期巡回・随時対応型訪問介護看護	日中・夜間を通じて、定期巡回や緊急時など必要に応じて随時訪問を行う。介護と看護が連携をとり、入浴、排せつの介護や褥瘡上の世話や診療の補助などのサービスを利用できる	1.満足 2.おおむね満足 3.やや不満 4.不満
③夜間対応型訪問介護	24時間安心して在宅生活が送れるよう、定期巡回や通報システムを合わせた夜間専用の訪問介護を利用できる	1.満足 2.おおむね満足 3.やや不満 4.不満
④訪問入浴介護	自宅に浴槽を持ち込んでもらい、入浴の介助を受ける	1.満足 2.おおむね満足 3.やや不満 4.不満
⑤訪問看護	看護師に訪問してもらい、病状の観察、療養の指導、医療的な処置等（医師の指示による）をしてもらう	1.満足 2.おおむね満足 3.やや不満 4.不満
⑥訪問リハビリテーション	リハビリの専門家に訪問してもらい、自宅でリハビリを利用できる	1.満足 2.おおむね満足 3.やや不満 4.不満
⑦居宅介護管理指導	医師、歯科医師、薬剤師、歯科衛生士などに訪問してもらい、薬の飲み方、食事など療養上の管理・指導を利用できる	1.満足 2.おおむね満足 3.やや不満 4.不満
⑧通所介護（デイサービス）	デイサービスセンターなどで、食事・入浴などの介護や機能訓練を日曜りで利用できる	1.満足 2.おおむね満足 3.やや不満 4.不満
⑨認知症対応型通所介護（認知症デイサービス）	認知症の方が食事・入浴などの介護や支援、機能訓練を日曜りで利用できる	1.満足 2.おおむね満足 3.やや不満 4.不満
⑩地域密着型通所介護（小規模デイサービス）	定員18人以下の小規模な通所介護	1.満足 2.おおむね満足 3.やや不満 4.不満
⑪通所リハビリテーション（デイケア）	介護老人保健施設や病院・診療所など、リハビリの専門家による機能訓練などを日曜りで利用できる	1.満足 2.おおむね満足 3.やや不満 4.不満
⑫短期入所生活介護（ショートステイ）	介護老人福祉施設などに短期間入所し、食事・入浴などの介護や機能訓練を利用できる	1.満足 2.おおむね満足 3.やや不満 4.不満
⑬短期入所介護（ショートステイ）	介護老人保健施設などに短期間入所し、医学的な管理のもとでの介護や看護、機能訓練などを利用できる	1.満足 2.おおむね満足 3.やや不満 4.不満

9

問30 健康や福祉サービスに関する情報についてうかがいます。

(1) あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 家族や親戚
2. 友人・知人、近所の人
3. 民生委員・児童委員
4. 区役所、特別出張所
5. 保健所・保健センター
6. 診療所・病院
7. ケアマネジャー
8. 高齢者総合相談センター
9. 区の広報紙
10. インターネット（区のホームページなど）
11. その他()
12. 特に入手していない

(2) あなたの入手している健康や福祉サービスに関する情報は足りていると思いますか。（1つに○）

1. 足りている
2. おおむね足りている
3. やや不足している
4. 不足している

13 介護保険サービスの利用状況と利用意向についておたずねします

問31 あなたは、現在介護保険サービスを利用していますか。（1つに○）

1. 利用している
2. 利用していない

問31で「2. 利用していない」を選んだ方のみお答えください

問31-1 介護保険サービスを利用していない理由は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

1. できるだけ他人の世話にはなりたくないから
2. 家族等の介護で十分だから
3. 利用料金が高いから
4. 介護保険サービス事業者の対応がよくないから
5. 介護保険サービスの利用の仕方がよくわからないから
6. 現在は介護保険サービスを受ける必要がないから
7. その他()

8

3 第2号被保険者調査 調査票

区内にお住まいで要支援・要介護認定を受けていない40歳～64歳(令和7年9月1日現在の皆さん)

新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査

アンケート調査へのご協力をお願い

新宿区では、高齢者の皆さんが、地域で自分らしくいきいきと暮らしていただけるよう、だれもが人として尊重され、ともに支え合う地域社会をめざした取組を続けています。今後の取組を検討するにあたり、区民の皆さんのご意見をうかがいたく、このたびあなた様へ調査へのご協力をお願いすることになりました。

お忙しいところとは存じますが、より多くの皆さんのご意見を参考にしたいため、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和7年10月
新宿区

はじめにお読みください

- 質問には、令和7年9月1日現在の状況でお答えください。
- 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。○をつける数はそれぞれの質問の指示に従ってください。(その他に○をつけた場合など、一部に、支字や数字を記入する質問もあります。)
- ご記入いただいた調査票は、10月22日(水)までに、同封の返信用封筒でポストに投かんしてください。切手は必要ありません。
- ふりがなつきのアンケート用紙が必要な方は、下記「お問い合わせ先」までご連絡ください。

インターネットでアンケートに答えることもできます

① スマートフォンで二次元コードを読み取ってアンケートを回答する。

読み取り用二次元コード

見本

○ご使用のスマートフォンのカメラ機能で二次元コードを読み取ります。

○URLのポップアップを押しします。

○下記の確認番号を入力して進みます。

確認番号 〇〇〇〇〇〇 ※確認番号は、個人を特定するものではありません。

お問い合わせ先 新宿区(Shinjuku City) 福祉部地域包括ケア推進課 担当:小池・須山
Tel:03-5273-4193(直通) Fax:03-6205-5083

② パソコンで新宿区の調査票専用ページからアンケートを回答する。

○ご使用のパソコンで新宿区の調査票専用ページのアドレスを入力します。

アドレスはこちらです

<https://www14.webcas.net/form/pub/k> **見本**

○下記の確認番号を入力して進みます。

【個人情報保護および活用目的について】

- 調査で得た情報は、区の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定や施策の評価のために利用し、目的以外の使用はいたしません。情報は、区および区指定の委託先にて適切に管理します。
- 本調査の集計・分析結果は、令和8年5月頃に報告書として発行するとともに、新宿区公式ホームページ等でお知らせします。

下の枠の中から調査票を記入した人に○をつけてください。

この調査は宛名のご本人をお願いしていますが、ご本人が回答できない場合、代理記入でも結構です。その場合はご家族等がご本人の意思を尊重して回答してください。

- 1. ご本人
- 2. ご家族
- 3. その他()

ご本人が何らかの事情によりご不在の場合

この調査は、令和7年9月1日現在の情報でお送りしています。ご本人が何らかの事情によりご不在で、ご家族等が代わりに記入することが難しい場合には、下の枠のいずれかに○をつけ、同封の返信用封筒で調査票を返送してください。

- 1. 医療機関に入院中
- 2. 福祉施設に入所中
- 3. 転居
- 4. 死亡
- 5. その他()

1 あなたご自身のことをおたずねします

問1 性別を教えてください。(1つに○)

- 1. 男性
- 2. 女性
- 3. その他
- 4. 回答しない

問2 年齢をご記入ください。

令和7年9月1日現在の年齢でお答えください。

満()歳 ※数字を記入してください。

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか。(1つに○)

お届けた封筒の宛名ラベルの右下に記載されています。

- 1. 四谷
- 2. 笹管町
- 3. 榎町
- 4. 若松町
- 5. 大久保
- 6. 戸塚
- 7. 落合第一
- 8. 落合第二
- 9. 柏木
- 10. 角筈

2 あなたのご家族や生活状況についておたずねします

問4 家族構成を教えてください。(1つに○)
ご夫婦と未婚のお子さんでお住まいの場合は「4. 息子・娘との2世帯」に○をつけてください。
 孫を含む3世帯でお住まいの場合は「5. その他」に○をつけ、()内に「孫を含む3世帯」と記入してください。

- 1. 1人暮らし
- 2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
- 3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)
- 4. 息子・娘との2世帯
- 5. その他()

問5 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つに○)

- 1. 大変苦しい
- 2. やや苦しい
- 3. がつう
- 4. ややゆとりがある
- 5. 大変ゆとりがある

3 日ごろの活動についておたずねします

問6 以下のような会・グループ等にとどのくらいの頻度で参加していますか。
※①-⑥それぞれに回答してください。(それぞれ1つに○)

	週4回 以上	週2 ~3回	週1回	月1 回	年に 数回	参加して いない
①ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
②スポーツ関係のグループ	1	2	3	4	5	6
③趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤町会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑥収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

問7 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思えますか。(1つに○)

- 1. 是非参加したい
- 2. 参加してもよい
- 3. 参加したくない
- 4. 既に参加している

問8 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思えますか。(1つに○)

- 1. 是非参加したい
- 2. 参加してもよい
- 3. 参加したくない
- 4. 既に参加している

4 たすけあいについておたずねします

問9 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり(住民同士の助け合い・支え合いなど)についておたずねします。

(1) 地域のつながりの必要性(1つに○)

- 1. 必要だと思う
- 2. どちらかといえば必要だと思う
- 3. どちらかといえば必要ないと思う
- 4. 必要ないと思う

(2) 地域のつながりの実感(1つに○)

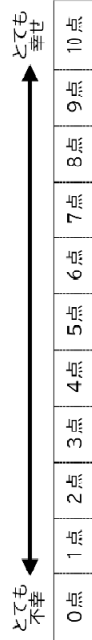
- 1. 感じる
- 2. どちらかといえば感じる
- 3. どちらかといえば感じない
- 4. 感じない

5 健康状態や健康づくり等についておたずねします

問10 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つに○)

- 1. とてもよい
- 2. まあよい
- 3. あまりよくない
- 4. よくない

問11 あなたは、現在の健康状態はどの程度幸せですか。(1つに○)
(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、該当すると感じる点数に○をつけてください。)



問12 生きがいがありますか。(1つに○)

- 1. ある(具体的に)
- 2. 思いつかない

(全員におたずねします。)
 問15 いまいきと充実した活動的な高齢期を実現するために、40代から取り組んだほうがよいことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 足腰の筋力を鍛えること
2. バランス能力を高めるような運動を行うこと
3. 骨を丈夫にすること
4. 適正な体重(※)を維持すること
5. バランスのよい食生活をすること
6. タバコの煙を吸わないこと(禁煙・減煙・分煙)
7. お酒の飲み方に気を付けること(お酒を飲みすぎない、週に2日程度休肝日を設けるなど)
8. 定期的に健康診断を受けること
9. 区報や掲示板など、地域に発信されている情報に関心を持つ習慣をつけること
10. 近所づきあいをすること
11. 趣味を持つこと
12. 困った時に助け合う仲間を作ること
13. その他()
14. 持にない

問13 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

1. ない
2. 高血圧
3. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)
4. 心臓病
5. 糖尿病
6. 脂質異常症(高脂血症)
7. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)
8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気
9. 腎臓・前立腺の病気
10. 筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)
11. 外傷(転倒・骨折等)
12. がん(悪性新生物)
13. 血液・免疫の病気
14. うつ病
15. 認知症(アルツハイマー病等)
16. パーキンソン病
17. 目の病気
18. 耳の病気
19. その他()

問14 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。(1つに○)

1. いる
2. いない

問14で「2. いない」を選んだ方のみお答えください

→問14-1 かかりつけ医がいない理由は、次のうちどれですか。
 (あてはまるものすべてに○)

1. 今まで病気になるまでその都度、受診先を決めているから
2. 病院に連院しているため、診療所・クリニックにはほとんど行かないから
3. 健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから
4. どのような診療所・クリニックを選べばよいかわからないから
5. 医療機関の情報がないためにわからないから
6. 近くに適当な診療所・クリニックがないから
7. その他()
8. 持にない

7 在宅療養等についておたずねします

問19 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。(1つに○)

- 1. 可能な限り自宅で生活を続けたい
- 2. 施設(特別介護老人ホームなど)へ入居したい
- 3. 有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅(※)などに入居したい
- 4. その他()

※有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅
介護、見守りや食事の提供などについて、高齢者専用の住居のことと捉えます。

問20 ご自宅での療養は実現可能だと思いますか。(1つに○)

- 1. 実現可能だと思う
- 2. 実現は難しいと思う
- 3. わからない

8 ACP(人生会議)(※)についておたずねします

問21 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。(1つに○)

- 1. 自宅
- 2. 特別介護老人ホームなどの福祉施設
- 3. 有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など
- 4. 病院などの医療機関
- 5. その他()
- 6. わからない

問22 ACP(人生会議)についておたずねします。

(1) あなたは、ACP(人生会議)について知っていますか。(1つに○)

- 1. 知っている
- 2. 名称は聞いたことがある
- 3. 知らない

(2) あなたは、ACP(人生会議)を行ったことがありますか。(1つに○)

(1)で2,3と答えた方でも、下記説明に該当することをやっている場合を含みます。

- 1. 行ったことがある
- 2. 行ったことはない

※ ACP(人生会議)

生涯にわたって自分らしく生きていくために、自らが望む人生の最終段階における医療やケアについて、前もって考え、家族や友人、医療や介護の関係者などと繰り返し話し合い共有する取組を「ACP:アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)」と呼びます。より馴染みやすい言葉となるよう、「人生会議」と更新がなされました。

9 権利擁護についておたずねします

問23 あなたは、成年後見制度(※)を知っていますか。(1つに○)

- 1. 詳しく知っている
- 2. 概要については、知っている
- 3. 聞いたことはあるが、内容は知らない
- 4. 聞いたことがない

※成年後見制度

認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る制度です。成年後見人などがこのようにした人の意思を尊重し、法律面や生活面でその人らしい生活を守るため、お手伝いします。

制度には次の2種類があります。

○「法定後見」<すぐれた判断能力が十分でない方へ>

家庭裁判所によって選ばれた成年後見人・保佐人・補助人が、本人の利益を考えたながら、代理権や同意権、取消権を活用することによって、本人を保護・支援する制度です。

○「任意後見」<将来の不安に備えたい方へ>

判断能力が十分でなくなった場合に備えて、本人があらかじめ選んだ方(将来の任意後見人)と将来お願いする内容を定め、公正証書で契約します。

10 災害時要援護者対策についておたずねします

問24 あなたは、「災害時要援護者名簿(※)」について知っていますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

※災害時要援護者名簿

災害時の避難等に支援を必要とする方を事前に把握するため、ご本人からの申し出により災害時要援護者名簿を作成しています。この名簿は、区内消防署、区内警察署、地域の民生委員・児童委員、防災地区組織及び区の関係部署に配付し、災害時における安否確認など必要な支援を行うために活用いたします。

なお、この名簿は、登録者から優先的に撤出するというものではありません。

11 健康・福祉サービス(※)の相談窓口についておたずねします

問25 あなたは、「高齢者総合相談センター(※)」の名称を知っていますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

問26 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関か知っていますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

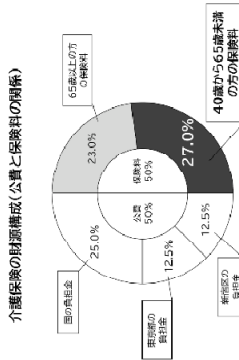
問 27 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるか知っていますか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

※高齢者総合相談センター
介護保険法における「地域包括支援センター」で、高齢者の介護、福祉、健康、医療などに関して総合的な支援を行うために、区内 11 か所に設置している相談窓口です。保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー等の資格を持った職員が、連携しながらチームとなって相談支援にあたっています。

12 介護保険制度(※)についておたずねします

※介護保険制度
介護保険制度は、40歳以上の方が加入者となり保険料を納め、介護が必要となった時に1割、2割または3割の利用者負担を支払い、サービスを利用できる制度です。
介護保険サービス費用に対する保険料、公費(物)の負担割合が決まっていますので、サービス利用が多くなり費用が増加すれば、保険料もそれに応じて上昇する仕組みです。



問 28 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(1つに○)

1. 介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである
2. 介護保険サービスの利用時に支払う利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである
3. 介護保険料の上昇を抑えるために、介護保険サービスの水準を抑えるべきである
4. 介護保険サービスの利用時に支払う利用者負担割合を抑えるために、介護保険サービスの水準を抑えるべきである
5. その他()
6. わからない

問 29 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

以上で質問は終了です。ご協力ありがとうございました。
記入が済みましたら調査票を同封の返信用封筒に入れて、
切手は貼らずに令和7年10月22日(水)までに
ポストに投かんしてください。

4-1 ケアマネジャー調査 調査票

区内の事業所で活動されている介護支援専門員（ケアマネジャー）の皆さまへ

新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査

アンケート調査へのご協力をお願い

皆さまには日頃より新宿区の高齢者福祉・介護保険事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。新宿区では、高齢者が住み慣れた地域の中で安心して暮らしていただくことができるよう、令和6～8年度を計画期間とする「高齢者保健福祉計画」および「第9期介護保険事業計画」を策定し、区のみならず基本的な目標と施策の方向性を明らかにしています。

このたび、次期計画の策定にあたり、区内の事業所で活動されている介護支援専門員（ケアマネジャー）の皆さまを対象に、サービスの現状やこれからの課題などについて伺いたく、本調査を実施することとなりました。お忙しいところとは存じますが、何とぞ本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

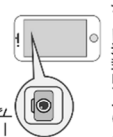
令和7年9月
新宿区

はじめにお読みください

- 本調査は無記名調査です。調査票にお名前を書いていただく必要はありません。
- お答えいただいた内容はすべて統計的に処理し、個々の回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。
- 質問には、令和7年9月1日現在の状況でお答えください。
- 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。○をつける数はそれぞれの質問の指示に従ってください。「その他」に○をつけた場合など、一部に、文字や数字を記入する質問もあります。
- ご記入いただいた調査票は、**10月8日(水)までに**、同封の返信用封筒でポストに投かんしてください。切手は必要ありません。
- 本調査の集計・分析結果は、令和8年3月頃に報告書として発行するとともに、新宿区公式ホームページでもお知らせします。
- 調査についてご不明な点がありましたら、下記の「お問い合わせ先」までお問い合わせください。また、在籍するケアマネジャーの人数と調査票の数が一致しない場合についても下記までご連絡ください。

インターネットでアンケートに答えることもできます

① スマートフォンで二次元コードを読み取ってアンケートを回答する。




読み取り用二次元コード
見本

○ご使用のスマートフォンのカメラ機能で二次元コードを読み取ります。
QRコードを読み取ります。

○下記の確認番号を入力して進みます。

確認番号 〇〇〇〇〇〇 ※確認番号は、個人を特定するものではありません。

② パソコンで新宿区の認証専用ページからアンケートを回答する。



○ご使用のパソコンで新宿区の調査票専用ページのアドレスを入力します。

アドレスはこちらです
見本

<https://www14.webcas.net/form/pub/ku>

○下記の確認番号を入力して進みます。

調査内容についてご不明な点は、下記までお問い合わせください。
お問い合わせ先 新宿区 福祉部地域包括ケア推進課 担当:小笹・須山
Tel:03-5273-4193(直通) Fax:03-6205-5083

1.勤務先の事業所の概要についておたずねします

問1 あなたの所属する事業所の組織（法人格）は、次のうちどれですか。（1つに○）

1. 株式会社（特別有限会社を含む）	2. 合名・合資会社
3. 社団法人	4. 社会福祉法人
5. 財団法人	6. 医療法人
7. 特定非営利活動法人（NPO法人）	8. その他（ ）

問2 あなたの介護支援事業所のケアマネジャーは、あなたも含めて何人ですか。そのうち、主任ケアマネジャーは何人ですか。 ※数字を記入してください。

ケアマネジャー数 () 人
うち主任ケアマネジャー () 人

問3 あなたの所属する事業所が、居宅介護支援事業の他に提供しているサービスはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 訪問介護（ホームヘルプサービス）	2. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
3. 夜間対応型訪問介護	4. 訪問入浴介護
5. 訪問看護	6. 訪問リハビリテーション
7. 居宅療養管理指導	8. 通所介護（デイサービス）
9. 認知症対応型通所介護（認知症デイ）	10. 地域密着型通所介護（小規模デイ）
11. 通所リハビリテーション（デイケア）	12. 短期入所生活介護（ショートステイ）
13. 短期入所療養介護（ショートステイ）	14. 小規模多機能型居宅介護
15. 看護小規模多機能型居宅介護	16. 特定施設入居者生活介護
17. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	18. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
19. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	20. 介護老人保健施設（老人保健施設）
【介護予防・生活支援サービス事業（総合事業）】	
21. 訪問型サービス	22. 通所型サービス
【福祉用具】	
23. 福祉用具貸与	24. 特定福祉用具購入
25. 他に提供しているサービスはない（居宅介護支援事業のみ）	

問10 過去1年間で、あなたが支援困難と感じたケースは、次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 介護保険制度を理解できていないケース	2. 認知症の症状があるケース
3. 精神疾患のあるケース(本人やその家族)	4. 医療依存度の高いケース
5. サービスの受け入れを拒否されるケース	6. 家族に介護力のないケース
7. 高齢者虐待のあるケース	8. 家族全体に生活課題を抱えるケース
9. 障害福祉サービスとの併用で複雑な対応が必要なケース	10. その他()
11. 特になし	

問11 あなたは、過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当したことがありますか。(1つに○)

1. 担当したことがある
2. ない

4. 高齢者総合相談センターのケアマネジャーへの支援についておたずねします

問12 過去1年間で、あなたは、利用者に関して高齢者総合相談センターへ相談したことがありますか。(1つに○)

1. 相談したことがある	2. 相談したことはない
--------------	--------------

問12-1 相談した分野は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

※1 ひきこもり
※2 ヤングケアラー
※3 家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると思われる子ども、若者のことです。

1. ケアプランの立て方や書き方等に関すること	2. 介護保険制度全般に関すること
3. 区の高齢者福祉サービスに関すること	4. 医療機関との連携に関すること
5. 高齢者虐待に関すること	6. 成年後見に関すること
7. 消費者被害に関すること	8. 生活困窮や生活保護等に関すること
9. 認知症に関すること	10. 精神疾患に関すること
11. 困難ケースに関すること	12. サービス提供事業所に関すること
13. ネットワークの構築に関すること	14. 家族のひきこもり(※1)に関すること
15. ヤングケアラー(※2)に関すること	16. 障害福祉サービスとの併用に関すること
17. 外国人の受け入れに関すること	18. その他()

2. あなたの自身のことについておたずねします

問4 あなたの性別をお選びください。(1つに○)

1. 男性	2. 女性
3. その他	4. 回答しない

問5 あなたの年齢をお選びください。(1つに○)

1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代
4. 50歳代	5. 60歳代	6. 70歳以上

問6 あなたの勤務形態をお選びください。(1つに○)

1. 常勤	2. 非常勤
-------	--------

問7 あなたのケアマネジャーの経験年数をお選びください。
※他事業所での年数も含む(1つに○)

1. 1年未満	2. 1年以上3年未満
3. 3年以上5年未満	4. 5年以上

問8 あなたは、介護支援専門員以外にどのような資格をお持ちですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 社会福祉士	2. 介護福祉士
3. 看護師	4. 歯科衛生士
5. はり師、きゅう師	6. 柔道整復師
7. ホームヘルパー1級	8. 介護職員実務者研修修了
9. ホームヘルパー2級	10. 介護職員初任者研修修了
11. その他()	12. 特になし

3. ケアマネジメントの状況についておたずねします

問9 あなたが令和7年9月1日現在、担当している人数を教えてください。
※数字を記入してください。(いない場合は「0」と記入)

担当している人数	予防支援者	介護支援者
	人	人

※ 問 12 で「1. 相談したことがある」を選んだ方のみお答えください※

問 12-2 高齢者総合相談センターへ相談した際の全般的な評価を、次のうちどれですか。
(それぞれ1つに○)

	とても感 じ	まあ感 じ	あまり感 じ	そう感 じ	わ か ら な い
ア. すぐに対応してくれた	1	2	3	4	5
イ. 問題解決への方向性を確認できた	1	2	3	4	5
ウ. 利用者の支障や対応について確認できた	1	2	3	4	5
エ. 新たな知識や情報を得ることができた	1	2	3	4	5
オ. 利用者本人や家族との調整がとれた	1	2	3	4	5
カ. 関係機関との連携がとれた	1	2	3	4	5
キ. 問題の解決に役立った	1	2	3	4	5

5. 各種連携の状況についておたずねします

問 13 あなたはケアマネジャーとして、主治医（かかりつけ診療所・クリニック）との連
携はとれていますか。(1つに○)

1. 連携がとれている	2. おおむね連携がとれている
3. あまり連携がとれていない	4. 連携がとれていない

問 14 あなた自身の、主治医（かかりつけ診療所・クリニック）との連携における課題は
何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 連携のために必要となる時間や労力が大きいこと
2. 医療に際する表現や用語の難解な部分についてわかりやすい説明が得られないこと
3. 主治医とコミュニケーションすることに苦手意識を感じる
4. 主治医側から協力的な姿勢や対応が得にくいなど、障壁(上下関係)を感じる
5. 主治医に情報提供しても活用されない(活用されているか不明である)ことが多いこと
6. 主治医と話し合う機会が少ないこと
7. 主治医に利用者の自宅での生活への理解や関心が不足しており、コミュニケーションが困難な場合があること
8. その他()
9. 特になし

問 15 あなたはケアマネジャーとして、病院（医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）
との連携はとれていますか。(1つに○)

1. 連携がとれている	2. おおむね連携がとれている
3. あまり連携がとれていない	4. 連携がとれていない

問 16 あなた自身の、病院（医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）との連携におけ
る課題は何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 連携のために必要となる時間や労力が大きいこと
2. 医療に際する表現や用語の難解な部分についてわかりやすい説明が得られないこと
3. 医師や看護師など病院職員とコミュニケーションすることに苦手意識を感じる
4. 医師や看護師など病院側から協力的な姿勢や対応が得にくいなど、障壁(上下関係)を感じる
5. 情報提供しても活用されない(活用されているか不明である)ことが多いこと
6. 医師や看護師など病院職員と話し合う機会が少ないこと
7. 医師や看護師など病院職員に利用者の自宅での生活への理解や関心が不足しており、コミュニケーションが困難な場合があること
8. その他()
9. 特になし

問 17 あなた自身の、介護保険サービス事業所との連携における課題は何だと思えますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. サービス提供票を作成・送付する業務に手間がかかること
2. 事業所・担当者からの情報提供が少ないこと
3. 事業所・担当者に照会しても、回答がなかなか得られないこと
4. 事業所・担当者とは日程が合わず、サービス担当者会議が開催できないこと
5. その他()
6. 特になし

問 18 あなたからみて、新居区内の在宅医療・介護連携の状況について、どのように思いますか。
(1つに○)

1. 連携がとれている	2. おおむね連携がとれている
3. あまり連携がとれていない	4. 連携がとれていない

問19 あなたからみて、新宿区内の在宅医療・介護連携を推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 多職種連携のための交流会を開催すること
- 2. 多職種連携に関する研修会を開催すること
- 3. 医療職が介護に関する知識や情報を得ること
- 4. 介護職が医療に関する知識や情報を得ること
- 5. 在宅医療・介護のリストを作り、情報を共有すること
- 6. 情報共有シートなど共通ツールを使用した、利用者情報の共有を行うこと
- 7. 医療・介護の関係者で、情報通信技術(ICT※)を使用した、利用者情報の共有を行うこと
- 8. その他()
- 9. 等がない

※情報通信技術(ICT)
利用者の日常の様子や状態の変化を速やかに把握し、関係者間で共有するために、タブレット端末等、インターネット通信を活用して利用者情報の共有(画像等も含める)を行うことです。

「問19で「7.」を選んだ方のみお答えください」

問19-1 利用者情報の共有を行いたいと思うのは、どのような場面ですか。

(優先順位の高い順に【 】内に1～4の数字を記入)

- 1. 退院支援【 】 2. 日中の療養支援【 】 3. 急変時の対応【 】 4. 看取り【 】

6. 在宅医療への対応についておたずねします

問20 あなたは、区の「在宅医療相談窓口」や「がん療養相談窓口」で相談を受けられるということを知っていますか。

(1)在宅医療相談窓口について(1つに○)

- 1. 知っている(活用している) 2. 知っている(活用していない) 3. 知らない

(2)がん療養相談窓口について(1つに○)

- 1. 知っている(活用している) 2. 知っている(活用していない) 3. 知らない

7. ケアプランへの組み込みについておたずねします

問21 あなたは、ケアプランの作成にあたって、(ア)組み込みにくいと思う介護保険のサービスはありますか。ある場合は、(イ)その理由をお答えください。

	ア)組み込みにくいサービス(あてはまるものすべてに○)	イ)その理由(あてはまるものすべてに○)		費用面	その他		
		サービス不足としている	サービス不足としている 利用者のニーズが満たされない				
①訪問介護(ホームヘルプサービス)	1	1	2	3	4	5	6
②定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	1	2	3	4	5	6
③夜間対応型訪問介護	3	1	2	3	4	5	6
④訪問入浴介護	4	1	2	3	4	5	6
⑤訪問看護	5	1	2	3	4	5	6
⑥訪問リハビリテーション	6	1	2	3	4	5	6
⑦居宅療養管理指導	7	1	2	3	4	5	6
⑧通所介護(デイサービス)	8	1	2	3	4	5	6
⑨地域密着型通所介護(小規模デイサービス)	9	1	2	3	4	5	6
⑩認知症対応型通所介護(認知症デイサービス)	10	1	2	3	4	5	6
⑪通所リハビリテーション(デイケア)	11	1	2	3	4	5	6
⑫短期入所生活介護(ショートステイ)	12	1	2	3	4	5	6
⑬短期入所療養介護(ショートステイ)	13	1	2	3	4	5	6
⑭小規模多機能型居宅介護	14	1	2	3	4	5	6
⑮看護小規模多機能型居宅介護	15	1	2	3	4	5	6
⑯認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	16	1	2	3	4	5	6
⑰福祉用具貸与	17	1	2	3	4	5	6
⑱特定福祉用具購入	18	1	2	3	4	5	6
⑲居宅介護住宅改修	19	1	2	3	4	5	6
⑳総合事業(介護予防・生活支援サービス)訪問型サービス	20	1	2	3	4	5	6
㉑総合事業(介護予防・生活支援サービス)通所型サービス	21	1	2	3	4	5	6

問 22 区などが提供している介護保険外の高齢者福祉サービス等で、あなたがケアプランの作成にあたり、検討するものは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自立支援住宅改修、日常生活用具給付、設備改修
2. 寝具乾燥消毒サービス
3. 理美容サービス
4. おむつ費用助成
5. おむつあっせん制度
6. 配食サービス
7. 敬老杖支給
8. 補聴器支給
9. 介護者リフレッシュ支援事業
10. 一人暮らし認知症高齢者への生活支援サービス
11. 徘徊高齢者探索サービス
12. 緊急通報システム
13. 火災安全システム
14. 高齢者見守りキーホルダー
15. 地域見守り協力員事業
16. 高齢者緊急シヨートステイ
17. 障害者総合支援法に基づくサービス(重症訪問介護、同行監護 等)
18. 持にない

8

8. 在宅高齢者に必要な支援についておたずねします

問 23 介護や医療が必要になって、高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと
思うものは何ですか。(あてはまるもの3つに○)

1. 訪問診療や往診をしてくれる診療所
2. 訪問看護(訪問看護ステーション)
3. 訪問・通所リハビリテーションなどのリハビリテーションサービス
4. 医療的ケアの必要な方がレスパイトできる病院・施設
5. 状況変化時に受け入れ可能な入院施設
6. 気軽に立ち寄って話や相談ができる場所
7. 介護してくれる家族等
8. 安心して住み続けられる住まい
9. 見守りや手助けをしてくれる人
10. 食事や日用品などの宅配サービス
11. 安否状態を誰かに知らせてくれるしくみ
12. 介護者の負担を軽減するしくみ
13. その他()
14. 持にない

問 24 要介護者等(特に、一人暮らしの高齢者)が、在宅で暮らし続けるために、今後必要
なサービスとして、どのようなものか考えられますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 日常的な掃除、洗濯、炊事等の家事
2. ごみ出し
3. 食材や日用品等の買い物代行
4. 声かけ、見守り等による安否確認
5. 移送サービス、通院、区役所等への外出支援
6. 金銭管理や手続きの代行
7. 健康体操や筋力維持のための運動指導
8. サロンや地域カフェなど交流の場
9. 弁当や食材配達等の配食
10. 生活に関する相談・話し相手
11. 利用者家族等への助言、支援
12. その他()

9

9. 認知症についておたずねします

問 25 あなたには、認知症に関して相談のできる機関がありますか。(1つに○)

1. はい
2. いいえ

「問 25 で「1. はい」を選んだ方のみお答えください」

問 25-1 どちらに相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 診療所・クリニックのかかりつけ医(認知症・もの忘れ相談医※¹含む)
2. 病院の神経内科、精神科など
3. 老年科・もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院
4. 認知症疾患医療センター※²
5. 保健所・保健センター
6. 高齢者総合相談センター
7. その他()

※¹ 認知症・もの忘れ相談医
東京都医師会および新宿区医師会所定の研修を修了した医師です。
※² 認知症疾患医療センター
認知症の専門相談、診断、身体合併症や行動・心理症状への対応、地域連携の推進、人材育成等を実施している医療機関です。(東京都指定)

10. ACP(人生会議)※¹についておたずねします

問 26 ACP(人生会議)についておたずねします。

(1) あなたは、ACP(人生会議)について知っていますか。(1つに○)

1. 知っている 2. 名称は聞いたことがある 3. 知らない

(2) あなたは、ACP(人生会議)を行ったことがありますか。(1つに○)

(1)で2、3と答えた方でも、下記説明に該当するを行っている場合を含みます。

1. 行ったことがある 2. 行ったことはない

※ACP(人生会議)
生涯をかけて自分らしく生きていくために、自らが望む人生の最終段階における医療やケアについて、前もって考え、家族や友人、医療や介護の関係者などと繰り返し話し合い共有する取組を「ACP:アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)」と呼びます。より馴染みやすい言葉となるよう、「人生会議」と愛称がつけました。

11. ケアマネジャーの仕事についておたずねします

問 27 あなたは、ケアマネジャーの仕事について、どのようにお考えですか。

(それぞれ1つに○)

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
① やりがいがあると思いますか。	1	2	3	4
② 人の役に立っている仕事だと思いますか。	1	2	3	4
③ 専門知識・技能の必要な仕事だと思いますか。	1	2	3	4
④ 業務量が過大な仕事だと思いますか。	1	2	3	4
⑤ 精神的ストレスの大きい仕事だと思いますか。	1	2	3	4
⑥ 社会的評価は高いと思いますか。	1	2	3	4
⑦ 報酬は業務に見合っていると思いますか。	1	2	3	4
⑧ 介護福祉士や社会福祉士のような国家資格は必要だと思いますか。	1	2	3	4
⑨ ケアマネジャーの独立性・中立性・公平性は保たれていると思いますか。	1	2	3	4

5-1 介護保険サービス事業所調査 調査票

区内で介護保険サービスを実施している事業所の皆さまへ

新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査

アンケート調査へのご協力のお願い

皆さまには日頃より新宿区の高齢者福祉・介護保険事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。新宿区では、高齢者が住み慣れた地域の中でその人らしく安心して心豊かに暮らし続けることのできるよう、令和6～8年度を計画期間とする「高齢者保健福祉計画」および「第9期介護保険事業計画」を策定し、区のみならず基本的な目標と施策の方向性を明らかにしています。このたびは、次期計画の策定にあたり、区内で介護保険サービスを実施している事業所の皆さまを対象に、サービスの現状やごからの課題などについて伺いたく、本調査を実施することとなりました。お忙しいところとは存じますが、何とぞ本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和7年9月
新宿区

はじめにお読みください

- 調査票に事業所名を記入いただく必要はありません。
- お答えいただいた内容は計画策定のための基礎資料としてのみ使用いたします。すべて統計的に処理し、貴事業所の回答やお考えが特定・公表されることは一切ありません。
- 質問には、令和7年9月1日現在の状況でお答えください。
- 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。○をつける数はそれぞれの質問の指示に従ってください。「その他」に○をつけた場合など、一部に、文字や数字を記入する質問もあります。
- ご記入いただいた調査票は、**10月8日(水)までに**、同封の返信用封筒でポストに投函してください。切手は必要ありません。
- 本調査の集計・分析結果は、令和8年3月頃に報告書として発行するとともに、新宿区公式ホームページでもお知らせします。
- 調査についてご不明な点がありましたら、下記の「お問い合わせ先」までお問い合わせください。

インターネットでアンケートに答えることもできます

① スマートフォンで二次元コードを読み取ってアンケートを回答する。

読み取り用二次元コード



見本

○ご使用のスマートフォンのカメラ機能で二次元コードを読み取ります。
○URLのポップアップを押します。
○下記の確認番号を入力して進みます。

確認番号 **000000** ※確認番号は、事業所を特定するものではありません。

お問い合わせ先 新宿区 福祉部地域ケア推進課 担当:小笹・須山
Tel:03-5273-4193(直通) Fax:03-6205-5083

② パソコンで新宿区の調査票専用ページからアンケートを回答する。

○ご使用のパソコンで新宿区の調査票専用ページのアドレスを入力します。

<https://www14.webcas.net/form/pub/ld>

見本

アドレスはこちらです

○下記の確認番号を入力して進みます。

1. 貴事業所の概要についておたずねします

問1 (1) 貴事業所の組織(法人格)は、次のうちどれですか。(1つに○)

- | | |
|----------------------|------------|
| 1. 株式会社(特例有限会社を含む) | 2. 合名・合資会社 |
| 3. 社団法人 | 4. 社会福祉法人 |
| 5. 財団法人 | 6. 医療法人 |
| 7. 特定非営利活動法人(NPO 法人) | 8. その他() |

問1 (2) 貴事業所が提供しているサービスはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 居宅介護支援 | 2. 訪問介護(ホームヘルプサービス) |
| 3. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 | 4. 夜間対応型訪問介護 |
| 5. 訪問入浴介護 | 6. 訪問看護 |
| 7. 訪問リハビリテーション | 8. 居宅療養管理指導 |
| 9. 通所介護(デイサービス) | 10. 認知症対応型通所介護(認知症デイ) |
| 11. 地域密着型通所介護(小規模デイ) | 12. 通所リハビリテーション(デイケア) |
| 13. 短期入所生活介護(ショートステイ) | 14. 短期入所療養介護(ショートステイ) |
| 15. 小規模多機能型居宅介護 | 16. 看護小規模多機能型居宅介護 |
| 17. 特定施設入居者生活介護 | 18. 認知症対応型共同生活介護(グループホーム) |
| 19. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 | 20. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) |
| 21. 介護老人保健施設(老人保健施設) | |
| 【介護予防・生活支援サービス事業(総合事業)】 | |
| 22. 訪問型サービス | 23. 通所型サービス |
| 【福祉用具】 | |
| 24. 福祉用具貸与 | 25. 特定福祉用具販売 |

2. 収支状況・処遇改善の状況についておたずねします

問2 貴事業所の、前年度(令和6年度)の収支状況はどうでしたか。(1つに○)

- | | | | |
|-------|---------|-------|----------|
| 1. 黒字 | 2. 収支均衡 | 3. 赤字 | 4. わからない |
|-------|---------|-------|----------|

問3 貴事業所の、前年度（令和6年度）と前々年度（令和5年度）を比較した収支状況はどうでしたか。（1つに○）

1. 前々年度（令和5年度）よりは良くなった 2. 前々年度（令和5年度）と比較して横ばい
3. 前々年度（令和5年度）よりは悪くなった 4. わからない
5. 前々年度（令和5年度）は事業を実施していない

問4 貴事業所では処遇改善加算を取得していますか。（1つに○）

1. 取得している 2. 取得していない 3. 該当しない（加算制度がない）

問4-1 処遇改善加算のI～IVのどれを取得していますか。（1つに○）

1. 加算Ⅰ 2. 加算Ⅱ 3. 加算Ⅲ 4. 加算Ⅳ

問5 貴事業所では前年度（令和6年度）、処遇改善（給与や時給単価のアップなど）を行いましたか。（1つに○）

1. 処遇改善を行った
2. 今後処遇改善を行うつもりである
3. 従前より処遇が充実しているため、改善する必要はない
4. 処遇改善を図りたいが、経営状況から実施できない
5. 処遇改善を行う考えはない
6. その他（ ）

問5-1 処遇改善を行ったことにより貴事業所の従業員にどのような効果があったと
思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 離職率が下がった 2. 職場の雰囲気が活性化した
3. 介護職員の採用がしやすくなった 4. 介護職員の増員ができた
5. その他（ ） 6. あまり効果はみられなかった

問5-2 今回の報酬改定では介護報酬の引き上げや処遇改善加算の一本化による効果等を活用して、介護職員等の給与を前年度（令和6年度）に2.5%、今年度（令和7年度）に2%のペースアップへ繋げるよう示されています。前年度（令和6年度）において、貴事業所は2.5%のペースアップを達成していますか。（1つに○）

1. 達成した 2. 達成していない 3. わからない

問5-2で「1.達成した」を選んだ方のお答えください

問5-3 今年度（令和7年度）分を前倒ししてペースアップしていますか。（1つに○）

1. 前倒ししている 2. 前倒していない 3. わからない

（全員におたずねします）

問6 貴事業所では、収支の向上や改善に向けて、どのような取り組みを行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 事業所の特徴的なサービス（自社の売り）をPRし、利用者確保を図っている
2. ホームページの開設やサービス提供以外の工夫により、利用者確保を図っている
3. 事業者（ケアマネジャーなど）への営業を行い、利用者確保を図っている
4. 外部経営コンサルタントを導入している
5. 東京都第三者評価を受審している
6. 介護報酬の加算を算定できるよう人員やサービスの充実を図っている
7. 給与の抑制（賞与・請手当等含む）による人件費削減を図っている
8. 人員削減（非正規職員化含む）による人件費削減を図っている
9. 人件費以外の経費（光熱水費、事務用品費等）の削減を図っている
10. ICT化を推進し、業務の効率化を図っている
11. 組織編成（介護チーム編成など）を見直し、業務の効率化を図っている
12. 利用者の満足度向上のため事業内容の見直しを行っている
13. インフォーマルサービスを積極的に取り入れている
14. その他（ ）
15. 特に何も行ってない

3. 今後の参入意向についておたずねします
 問7 貴事業所では、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）への参入についてどのようにお考えですか。（1つに○）

- 1. 関心があり、参入したい
- 2. 関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい
- 3. 関心がない
- 4. その他()

《問7で「2」～「4」を選んだ方のみお答えください》
 ▶問7-1 貴事業所では、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）への参入課題をどのようにお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1. サービスに係る経費が多く、採算がとれない
- 2. サービスを行う人材を確保することが困難である
- 3. 指定運営基準が厳しすぎる
- 4. 公的資金援助が少ない
- 5. 定員の確保が難しい
- 6. その他()

4. 総合事業（介護予防・生活支援サービス事業）についておたずねします
 問8 貴事業所が、今後、継続して総合事業に取り組むために必要なことは、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1. 職員の確保
- 2. 事業採算性の検証
- 3. 事務のフォロー（マニュアル作成等）
- 4. 職員のスキルアップ支援（研修等）
- 5. クアマネジャーに対する事業の周知
- 6. 区民に対する事業の周知
- 7. その他()
- 8. 特になし

5. 人材の確保・定着・育成についておたずねします
 問9 この1年間、貴事業所の人材の確保の状況はどうですか。（1つに○）

- 1. 確保できている
- 2. おおむね確保できている
- 3. あまり確保できていない
- 4. 確保できていない

問10 貴事業所では、人材の確保について、どのような取り組みを行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1. 定期的に求人誌への掲載などを行っている
- 2. 就職説明会への参加を行っている
- 3. 福祉専門学校等教育機関との連携を図っている
- 4. ハローワークとの連携を図っている
- 5. 新宿区勤労者・仕事支援センターとの連携を図っている（新宿わくわくネットワークによる求人など）
- 6. 人材派遣会社を活用している
- 7. 無資格者でも採用を行い、採用後に資格取得講座を受講させている
- 8. 採用時に給与（賞与、諸手当等含む）を他社より好条件に設定している
- 9. 採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている
- 10. 育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている
- 11. 採用時に仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている
- 12. インターネット採用制度を導入している
- 13. オンラインのマッチングサービスを使って多くの求職者に会っている
- 14. その他()
- 15. 特に何も行ってはいない

問11 貴事業所では、外国人労働者を雇用していますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1. 常勤職員として雇用している
- 2. 非常勤職員として雇用している
- 3. 派遣職員として雇用している
- 4. 現在検討している
- 5. 将来的に検討したい
- 6. 将来的に受け入れる予定はない
- 7. 将来的に受け入れたいが、現時点では検討していない

《問11で「1」～「3」を選んだ方のみお答えください》
 →問11-1 実際に外国人を雇用した効果や成果等を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

- 1. 介護人材の確保
- 2. 日本人スタッフの資質向上
- 3. 職場の環境改善やケアの質の向上
- 4. 長期間勤務してくれることが期待できる
- 5. 雇用コストの面で有利な場合がある
- 6. 利用者のQOL向上
- 7. その他()
- 8. 特になし

問14 貴事業所で、職員のスキルアップを図るには、どのような実習・研修が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

<介護技術に関するもの> 1. 医療的ケア(たん吸引・経管栄養など)に関する知識 2. 介護技術に関する知識 3. リハビリテーションに関する知識 4. 薬に関する知識 5. 認知症や認知症高齢者の介護に関する知識 6. 高齢者・障害者に対する心理学的知識 7. ケアマネジメントに関する知識 8. ターミナルケアに関する知識 9. ケースワークに関する知識 10. 介護機器や福祉機器に関する知識 11. 医師職など、多職種との連携に関する知識 12. 口腔ケアや摂食嚥下障害に関する知識	
<事故・緊急時などの対応に関するもの> 13. 事故の予防対策や緊急時の対応 14. 感染症に関する知識や感染対策に関する知識 15. 法令遵守・リスクマネジメントに関する知識	
<家族・家庭等に関するもの> 16. 利用者や家族への接遇やコミュニケーション力に関する知識 17. 家族のひきこもり(※)に関する知識 18. ヤングケアラー(※)に関する知識 19. 障害福祉サービスとの併用に関する知識 20. 権利擁護に関する知識(虐待、成年後見、消費者被害等)	
<職場環境などに関するもの> 21. メンタルヘルスに関する知識 22. 介護リーダー育成(指導力向上) 23. ICT活用に関する知識	
<上記に該当しないもの> 24. その他() 25. 特に必要はない	

※1 ひきこもり
 様々な要因の結果として、就学や働き、交遊などの社会的参加を避けて、原則的には6ヶ月以上にならなくなった単独家庭にとまり続けている状態のことです。(他者と交わらない形での外出をしている場合も含む。)
 ※2 ヤングケアラー
 家族の介護その他の日常生活上の世話などを行っていていると認められる子ども、若者のことです。

(全員におたずねします)
 問11-2 外国人を雇用する場合に、課題と考えられる項目を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. コミュニケーション(日本語能力)	2. 身体介護・生活支援の技術
3. 受け入れ方法がわからない	4. 育成プログラムが未整備
5. 受入コストを捻出できない	6. 文化の違いや生活習慣の違い
7. 利用者や家族が不安に感じる	8. 現場のスタッフの負担感が大きい
9. その他()	

問12 貴事業所のこの1年間の離職率(※)はどのくらいですか。(1つに○)

1. 最近1年間に離職者がいない	2. 10%未満	3. 10%以上 20%未満
4. 20%以上 30%未満	5. 30%以上	6. わからない

※離職率
 この1年間の退職者数÷1年前の在職者数×100 とします。

問13 貴事業所では、人材の定着・育成について、どのような取り組みを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 近隣の企業や同業他社の給与水準を踏まえ、給与額を設定している
2. 永年勤続など一定期間勤めた際の報奨制度を設けている
3. 能力や仕事ぶりによって、管理職への登用機会を設けている
4. 非正規職員から正規職員への登用機会を設けている
5. 研修に参加しやすい体制を整えている
6. 外部研修に参加できない職員のために、内部研修を充実させている
7. 新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている
8. 育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている
9. 休憩室や談話室の設置など、職員がリラックスできる環境を整えている
10. 上司や管理職が頻りに面談を行い、職員の要望や不満を汲み取っている
11. 仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている
12. 職員への満足度(不満)調査を行い、事業所における課題の把握を行っている
13. 介護に関する業務を「直接的なケア」と「間接的業務」に分けて業務を効率化している
14. ロボット・センサー・ICTなどを活用し、業務の効率化を図っている
15. 在宅ワークやフレックス制を取り入れて相談に応じて働きやすい環境をつくっている
16. その他()
17. 特に何も行ってない

問15 貴事業所での人材の確保・定着・育成における課題は何だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 求人を出しても応募がない、応募はあるが適当な人材が少ないこと
2. 長期間、安定的に働いてくれる人が少ないこと
3. 介護以外の業種との競争が激しいこと
4. 休暇の取得が困難、残業時間が長いこと
5. 業務負担が大きいなど労働環境が厳しいこと
6. 賃金水準が多職種と比較して低いこと
7. キャリアアップの体系が確立していないこと
8. 職員間のコミュニケーションが不足していること
9. 新人育成システムが充実していないこと
10. 社内外で研修を受講できる機会が少ないこと
11. 人材不足により人材の確保・定着・育成に対してリソースが捻出できないこと
12. その他()

6. 高齢者総合相談センターの事業所への支援についておたずねします

問16 貴事業所は、利用者に関して高齢者総合相談センターへ相談したことがありますか。
(1つに○)

1. 相談したことがある
2. 相談したことはない

問16で1. 相談したことがある」を選んだ方のみお答えください

→ 問16-1 相談した分野は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. サービス計画の立て方や書き方等に関すること
2. 介護保険制度全般に関すること
3. 区の高齢者福祉サービスに関すること
4. 医療機関との連携に関すること
5. 高齢者虐待に関すること
6. 成年後見に関すること
7. 消費者被害に関すること
8. 生活困窮や生活保護等に関すること
9. 認知症に関すること
10. 精神疾患に関すること
11. 困難ケースに関すること
12. サービス提供事業所に関すること
13. ネットワークの構築に関すること
14. 家族のひきこもりに関すること
15. ヤングケアラーに関すること
16. 障害福祉サービスとの併用に関すること
17. 外国人の受入れに関すること
18. その他()

問16で1. 相談したことがある」を選んだ方のみお答えください

→ 問16-2 高齢者総合相談センターへ相談した際の全般的な評価は、次のうちどれですか。
(それぞれ1つに○)

	とても悪い	まあまあ悪い	まあまあいい	とてもいい
ア. すぐに対応してくれた	1	2	3	4
イ. 問題解決への方向性を確認できた	1	2	3	4
ウ. 利用者の支障や対応について確認できた	1	2	3	4
エ. 新たな知識や情報を得ることができた	1	2	3	4
オ. 利用者本人や家族との調整がとれた	1	2	3	4
カ. 関係機関との連携がとれた	1	2	3	4
キ. 問題の解決に役立った	1	2	3	4

7. 各種連携の状況についておたずねします

問17 貴事業所において、ケアマネジャーとの連携における課題は何だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 日程が合わず、サービス担当者会議へ参加できないことが多いこと
2. 必要な情報の共有が上手く回れないこと
3. 連携のために必要となる時間や労力が大きいこと
4. お互いの都合で、対応が遅れる場合があること
5. ケアマネジャーと話し合う機会が少ないこと
6. その他()
7. 特になし

問18 貴事業所からみて、新宿区内の在宅医療・介護連携の状況について、どのように思っていますか。(1つに○)

1. 連携がとれている
2. おおむね連携がとれている
3. あまり連携がとれていない
4. 連携がとれていない

問19 貴事業所からみて、新街区内の在宅医療・介護連携を推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 多職種連携のための交流会を開催すること
2. 多職種連携に関する研修会を開催すること
3. 医療職が介護に関する知識や情報を得ること
4. 介護職が医療に関する知識や情報を得ること
5. 在宅医療・介護のリストを作り、情報を共有すること
6. 情報共有シートなど共通ツールを使用した、利用者情報の共有を行うこと
7. 医療・介護の関係者で、情報通信技術(ICT)(※)を使用した、利用者情報の共有を行うこと
8. その他()
9. 特になし

※情報通信技術(ICT)
ここで言う情報通信技術(ICT)とは、利用者の日常の様子や状態の變化を速やかに把握、関係者間で共有するために、タブレット端末等、インターネットを通信を活用して利用者情報の共有(画像等も含める)を行うことです。

《問19で「7」を選んだ方のみお答えください》

→問19-1 利用者情報の共有を行いたいと思うのは、どのような場面ですか。
(優先順位の高い順に【 】内に数字を記入)

1. 退院支援【 】 2. 日常の療養支援【 】 3. 急変時の対応【 】 4. 看取り【 】

8. 地域貢献活動についておたずねします

問20 貴事業所では、地域と関わる活動を実施していますか。(1つに○)

1. 実施している 2. 実施していない

《問20で「1」を選んだ方のみお答えください》

→問20-1 どのような活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 利用者やその家族等が地域主催の行事(敬老会・夏祭りなど)への参加
2. 地域住民と接するイベント・行事や交流会などの開催
3. 住民が参加できる講習会やセミナーなどの開催
4. 地域ボランティアなどの受け入れ
5. 地域住民とのふれあいの場としての施設・活動スペースの開放
6. 地域防災に関して、地域と連携した活動
7. 地域のバトロールや交通安全に関する活動
8. その他()

(全員におたずねします)
問21 貴事業所で、今後実施したい(続けたい)地域と関わる活動はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 利用者やその家族等が地域主催の行事(敬老会・夏祭りなど)への参加
2. 地域住民と接するイベント・行事や交流会などの開催
3. 住民が参加できる講習会やセミナーなどの開催
4. 地域ボランティアなどの受け入れ
5. 地域住民とのふれあいの場としての施設・活動スペースの開放
6. 地域防災に関して、地域と連携した活動
7. 地域のバトロールや交通安全に関する活動
8. その他()

9. 在宅医療への対応についておたずねします

問22 (1) 区の「在宅医療相談窓口」で相談を受けられると知っていますか。
(1つに○)

1. 知っている(活用している) 2. 知っている(活用していない) 3. 知らない

問22 (2) 区の「から療養相談窓口」で相談を受けられると知っていますか。
(1つに○)

1. 知っている(活用している) 2. 知っている(活用していない) 3. 知らない

10. ACP(人生会議)(※)についておたずねします

問23 (1) ACP(人生会議)について知っていますか。(1つに○)

1. 知っている 2. 名称は聞いたことがある 3. 知らない

問23 (2) ACP(人生会議)を行ったことがありますか。(1つに○)
(1)で2,3と答えた方でも、下記説明に該当することを行っている場合を含みます。

1. 行ったことがある 2. 行ったことはない

※ACP(人生会議)
生涯において自分らしく生きていくために、自分が望む人生の最終段階における医療やケアについて、前もって考え、家族や友人、医療や介護の関係者などと繰り返し話し合い共有する取組みを「ACP:アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)」と呼びます。お馴染みや新しい言葉となるよう、「人生会議」と表記がつけました。

11. 専従の保持についておたずねします
 問24 貴事業所では、利用者の専従の保持について、どのような取り組みを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)
 (あてはまるものすべてに○)

- 1. 事業理念に明記している
- 2. 職員への研修を実施している
- 3. 現場で先輩職員から伝えている
- 4. ガイドラインを設けている
- 5. 具体的な対応マニュアルを作成している
- 6. 必要に応じて個別に指導している
- 7. その他()
- 8. 特に何も行っていません

12. 前年度(令和6年度)の報酬改定についておたずねします
 問25 (以下のサービスを提供している事業所のみお答えください) 前年度(令和6年度)の報酬改定の経過措置についての対応状況を教えてください。(それぞれ1つに○)

対応状況	未対応である見込みがある	わからない	対応した	対応しなかった	対応しない	種別サービス
ア. 利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置	1	2	3	4	5	短期入所生活介護(ショートステイ) 短期入所療養介護(ショートステイ) 小規模多機能型居宅介護 看護小規模多機能型居宅介護 特定施設入居者生活介護 地域密着型特定施設入居者生活介護 認知症対応型共同生活介護(グループホーム) 地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護 介護老人福祉施設(特別介護老人ホーム) 介護老人保健施設(老人保健施設) 地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護 介護老人福祉施設(特別介護老人ホーム) 介護老人保健施設(老人保健施設)
イ. 協力医療機関との連携 ※1	1	2	3	4	5	
ウ. 口腔衛生の管理 ※2	1	2	3	4	5	特定施設入居者生活介護

《問25のアイウの項目にて「4」または「5」を選んだ方のみお答えください》
 問25-1 問25のアイウの項目に何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 実施方法がわからない
- 2. 対応できる人員が不足している
- 3. 実施する意義が感じられない
- 4. 財政的に難しい
- 5. その他()
- 6. わからない

問25-2 問25のイに対応していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 実施方法がわからない
- 2. 対応できる人員が不足している
- 3. 実施する意義が感じられない
- 4. 財政的に難しい
- 5. その他()
- 6. わからない

問25-3 問25のウに対応していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 実施方法がわからない
- 2. 対応できる人員が不足している
- 3. 実施する意義が感じられない
- 4. 財政的に難しい
- 5. その他()
- 6. わからない

※1 介護施設は、協力医療機関と連携し、以下の要件を満たすことが義務付けられます。
 (1) 常時対応体制の確保: 入所者の病状が急変した場合、医師又は看護師が相談対応を行う体制を常時確保すること。
 (2) 診療体制の確保: 診療の求めがある場合、診療を行う体制を常時確保すること。
 (3) 入院受け入れ態勢の確保: 入所者の病状の急変が生じた場合、施設の医師又は協力医療機関等の医師が診療を行い、必要に応じ入所者の入院を原則受け入れる体制を確保すること。
 ※2 歯科医師又は歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が、介護職員に対する口腔衛生に係る技術的助言及び指導を年2回以上実施し、施設は当該助言及び指導に基づき、入居者の口腔衛生の管理体制に係る計画を作成することが義務付けられます。

13. 新宿区への要望についておたずねします
 問 26 事業者の立場から、保険者である新宿区に対して、何を望みますか。
 (あてはまるものすべてに○)

- 1. 介護保険に関する情報提供
- 2. 質の向上のための研修
- 3. 不正な事業所の指導
- 4. 利用者への適正なサービス利用の啓発
- 5. 困難ケースへの支援
- 6. 高齢者総合相談センターの機能の充実
- 7. 新宿区介護サービス事業者協議会への支援
- 8. その他()
- 9. 特になし

問 27 事業者の立場からみて、新宿区の高齢者支援の状況をどうお考えですか。
 (それぞれ1つに○)

	充実している	まあ充実している	やや不足している	不足している	わからない
ア. 健康づくりと介護予防・フレイル予防の推進による健康寿命の延伸	1	2	3	4	5
イ. いきがいのある暮らしへの支援	1	2	3	4	5
ウ. 就業等の支援	1	2	3	4	5
エ. 地域で支え合うしくみづくりの推進	1	2	3	4	5
オ. 介護者への支援	1	2	3	4	5
カ. 認知症高齢者への支援体制の充実	1	2	3	4	5
キ. 高齢者総合相談センターの機能の充実	1	2	3	4	5
ク. 介護保険サービスの提供と基盤整備	1	2	3	4	5
ケ. 自立生活への支援(介護保険外サービス)	1	2	3	4	5
コ. 在宅療養支援体制の充実	1	2	3	4	5
サ. 高齢者の権利擁護の推進(成年後見制度の利用促進を含む)	1	2	3	4	5
シ. 安全で暮らしやすいまちづくりと住まいへの支援	1	2	3	4	5

問 28 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、ご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

問 29 今後の事業展開について、貴事業所のお考え、ご意見等がありましたらご自由にお書きください。

以上で質問は終了です。ご協力ありがとうございました。

記入が済みましたら調査票を同封の返信用封筒に入れて、
 切手は貼らずに**令和7年10月8日(水)**までに
 ポストに投かんしてください。

6 在宅介護実態調査 調査票

在宅介護実態調査 調査票

事業所名 { _____ } 被保険者番号 { _____ }

「在宅介護実態調査」についての同意書 (チェック欄にご記入ください。)

この調査で得られた情報及び要介護認定や介護サービスの利用状況のデータにつきましては、当区における「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就業継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討する際の基礎資料とすることを目的に使用し、本目的以外の使用はいたしません。

また、本調査でご回答いただいた内容（被保険者番号を含む）は、集計・分析を委託する株式会社ナレッジ・マネジメント・ケア研究所に預託しますが、情報は適切に管理いたします。

- 上記調査について、
 同意します。 同意しません。

【聞き取りを行った相手は誰ですか】 (複数選択可)

1. 本人
 2. 主な介護者となっている家族・親族
 3. 主な介護者以外の家族・親族
 4. 調査対象者のケアマネジャー
 5. その他

問1 世帯類型はどれですか (1つを選択)

1. 単身世帯 2. 夫婦のみ世帯 3. その他

問2 家族や親族 (別居含む) からの介護は、週にどのくらいありますか (1つを選択)

1. ない →問7 (次頁)へ
 2. 週に () 日 →問3へ

→問3 主な介護者は誰ですか (1つを選択)

1. 配偶者 2. 子
 3. 子の配偶者 4. 孫
 5. 兄弟・姉妹 6. その他

→問4 主な介護者の性別について (1つを選択)

1. 男性 2. 女性
 3. その他

→問5 主な介護者の年齢について (1つを選択)

1. 20歳未満 2. 20代
 3. 30代 4. 40代
 5. 50代 6. 60代
 7. 70代 8. 80歳以上
 9. わからない

次ページへ

→問6 家族や親族の中で、本人の介護を理由として、過去1年間に仕事を辞めた方はいますか (複数選択可)

1. 主な介護者が仕事を辞めた 2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた
 3. 主な介護者が転職した 4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
 5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない 6. わからない

問7 今後の在宅生活継続に必要なと思うサービスはどれですか (複数選択可)

1. 配食 2. 調理
 3. 配食 4. 買い物 (宅配は含まない)
 5. 掃除・洗濯 6. 外出同行 (通院、買い物など)
 7. 移送サービス (介護・福祉タクシー等) 8. 見守り、声かけ
 9. サロンなどの定期的な通いの場 10. その他
 11. 特になし

問8 現時点で、施設等への入所・入居を検討していますか (1つを選択)

1. 検討していない 2. 検討している
 3. すでに申し込みをしている

_____ 介護者がいない方はここで終了です。

ここからは主な介護者についておたずねします。

問9 主な介護者の現在の勤務形態はどれですか (1つを選択)

1. フルタイムで働いている →問10へ
 2. パートタイムで働いている →問10へ
 3. 働いていない →問12 (次頁)へ
 4. 主な介護者に確認しないと、わからない →問12 (次頁)へ

→問10 介護をするにあたって、働き方の調整等をしていますか (複数選択可)

1. 特に行っていない
 2. 労働時間を調整 (残業免除、短時間勤務、運出・早帰・中抜け等)しながら、働いている
 3. 休暇 (年休や介護休暇等)を取りながら、働いている
 4. 在宅勤務を利用しながら、働いている
 5. その他の調整をしながら、働いている
 6. 主な介護者に確認しないと、わからない

→問11 今後も働きながら介護を続けていけそうですか (1つを選択)

1. 問題なく、続けていける 2. 問題はあるが、何とか続けていける
 3. 続けていくのは、やや難しい 4. 続けていくのは、かなり難しい
 5. 主な介護者に確認しないと、わからない

次ページへ

問12 現在の生活を継続するにあたって、主な介護者が不安に感じることとはどれですか (3つまで選択可)

- (身体介護)
- 1. 日中の排泄
- 2. 夜間の排泄
- 3. 食事の介助 (食べる時)
- 4. 入浴・洗身
- 5. 身だしなみ (洗顔・歯磨き等)
- 6. 衣服の着脱
- 7. 屋内の移乗・移動
- 8. 外出の付き添い、送迎等
- 9. 服薬
- 10. 認知症状への対応
- 11. 医療面での対応 (経営栄養、ストーマ等)
- (生活援助)
- 12. 食事の準備 (調理等)
- 13. その他の家事 (掃除、洗濯、買い物等)
- 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き
- (その他)
- 15. その他
- 16. 不安に感じていることは、特になし
- 17. 主な介護者に確認しないと、わからない

問13 主な介護者は介護保険の認定を受けていますか (1つを選択)

- 1. 受けていない
- 2. 要支援1
- 3. 要支援2
- 4. 要介護1
- 5. 要介護3
- 6. 要介護4
- 7. 要介護5
- 8. 要介護6
- 9. 事業対象者

問14 主な介護者を手助けするような方 (副介護者) はいますか (1つを選択)

- 1. いる
- 2. いない

問15 主な介護者の介護負担感、次のうちどれですか (1つを選択)

- 1. 負担である
- 2. どちらかといえば負担である
- 3. どちらかといえば負担ではない
- 4. 負担ではない

→問15-1 《上記設問で「1」・「2」を選んだ方》それはどのような理由ですか (複数選択可)

- 1. 仕事との両立が大変なこと
- 2. 子育てとの両立が大変なこと
- 3. 学業との両立が大変なこと
- 4. 複数の人の介護が大変なこと
- 5. 経済的負担が大きいか
- 6. 精神的負担が大きいか
- 7. 肉体的な負担が大きいか
- 8. その他 ()

問16 介護者への支援として、区に力を入れてほしいことは、次のうちどれですか (複数選択可)

- 1. 介護に関する相談機能の充実
- 2. 医療に関する相談機能の充実
- 3. 家族など介護者のリフレッシュのための制度
- 4. 家族介護教室など介護技術を学ぶ講座の充実
- 5. 介護者同士の交流の場の充実
- 6. 介護に関する資料が充実している情報コーナーの設置
- 7. 介護ボランティアグループやNPO (民間非営利団体) の育成
- 8. その他 ()
- 9. 特にない

次ページへ

問17 あなたが介護している方には、認知症の症状がありますか (1つを選択)

- 1. ある
- 2. ない
- 3. わからない

→問17-1 《上記設問で「1」を選んだ方のみ》介護している方が認知症ではないかと気づいた、あるいは不安になったときに、どこに相談しましたか (複数選択可)

- 1. 診療所・クリニックのかかりつけ医
- 2. 病院の神経内科、精神科など
- 3. 老年科・もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院
- 4. 認知症疾患医療センター
- 5. 保健所・保健センター
- 6. 高齢者総合相談センター
- 7. ケアマネジャー
- 8. その他 ()
- 9. 相談していない

→問17-2 《上記設問に回答した方のみ》認知症のご本人の介護において、必要と思うことは何ですか (複数選択可)

- 1. 医療的な支援 (認知症の進行に合わせた適切な指導・助言等)
- 2. 介護保険などの公的サービス
- 3. 介護する家族等への支援
- 4. 認知症に関する情報提供
- 5. 認知症に関する相談窓口の充実
- 6. 地域住民の理解や見守り
- 7. ボランティア等が行う地域活動による支援
- 8. 認知症やその家族が集える場
- 9. その他 ()

問18 介護者の立場から、区へのご要望・ご意見があればお願ひします (高齢者の保健と福祉に関する施策、介護保険、福祉・医療に関する新たな取り組みなど)

質問は以上です。
ご協力ありがとうございました。



新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査報告書

印刷物作成番号 2025-18-2912

発行年月:令和8年(2026年)3月

発行:新宿区 福祉部 地域包括ケア推進課

〒160-8484 新宿区歌舞伎町一丁目4番1号

電話:03-5273-4193(直通)

F A X:03-6205-5083

※この刊行物は、業者委託により100部印刷製本しています。その経費として、1部あたり3,000円(税込)がかかっています。ただし、編集時の職員人件費や配送経費などは含んでいません。